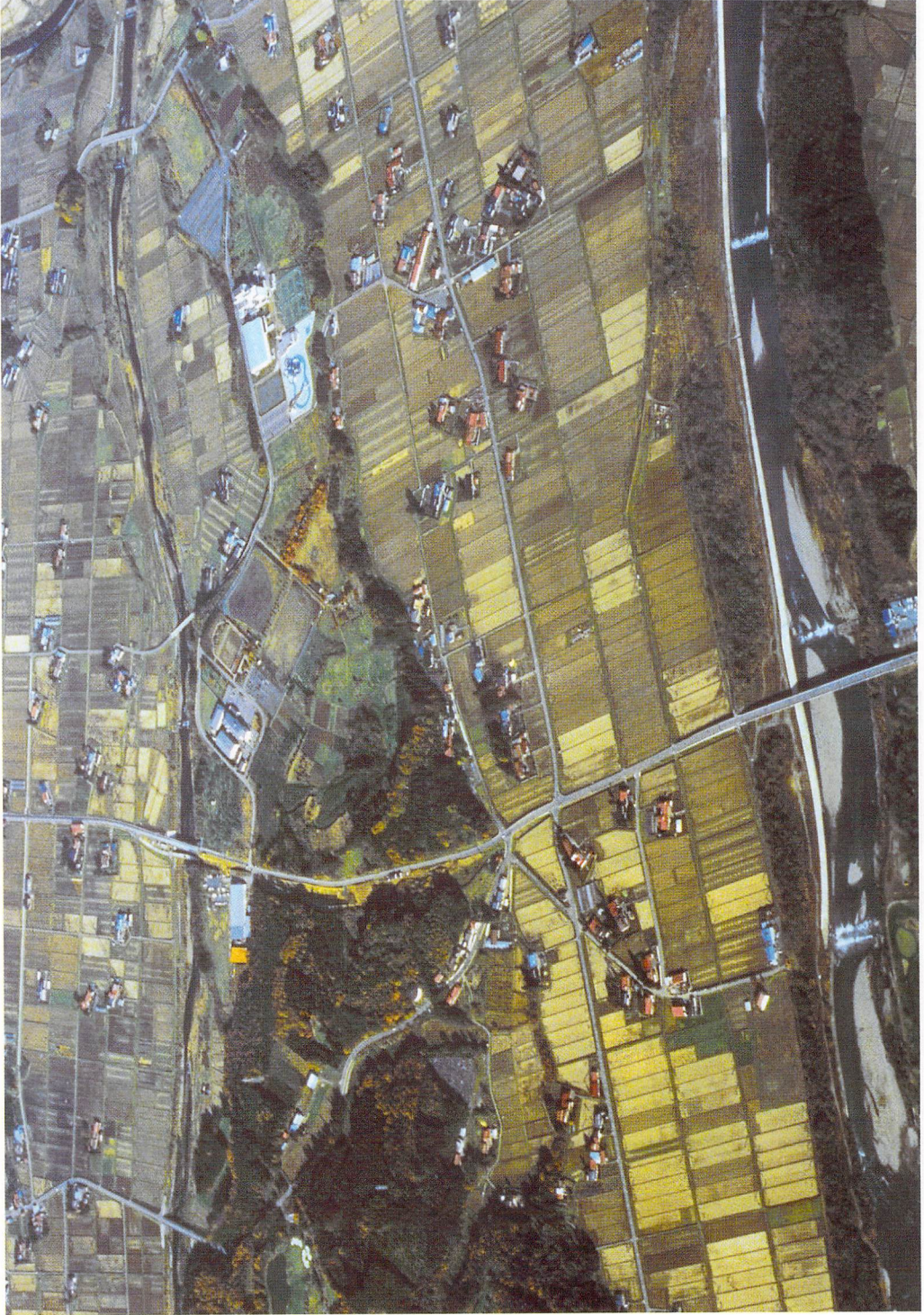


松本館跡発掘調査報告書

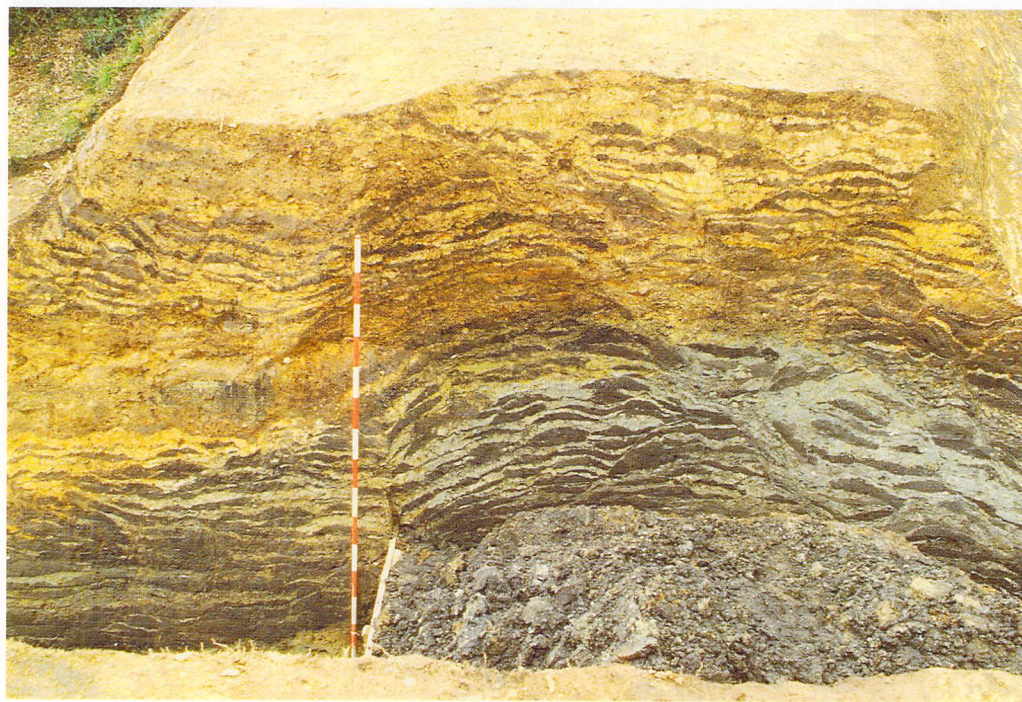
—一般県道永沢水沢線改良事業に係る発掘調査—



大林城全景（南から）



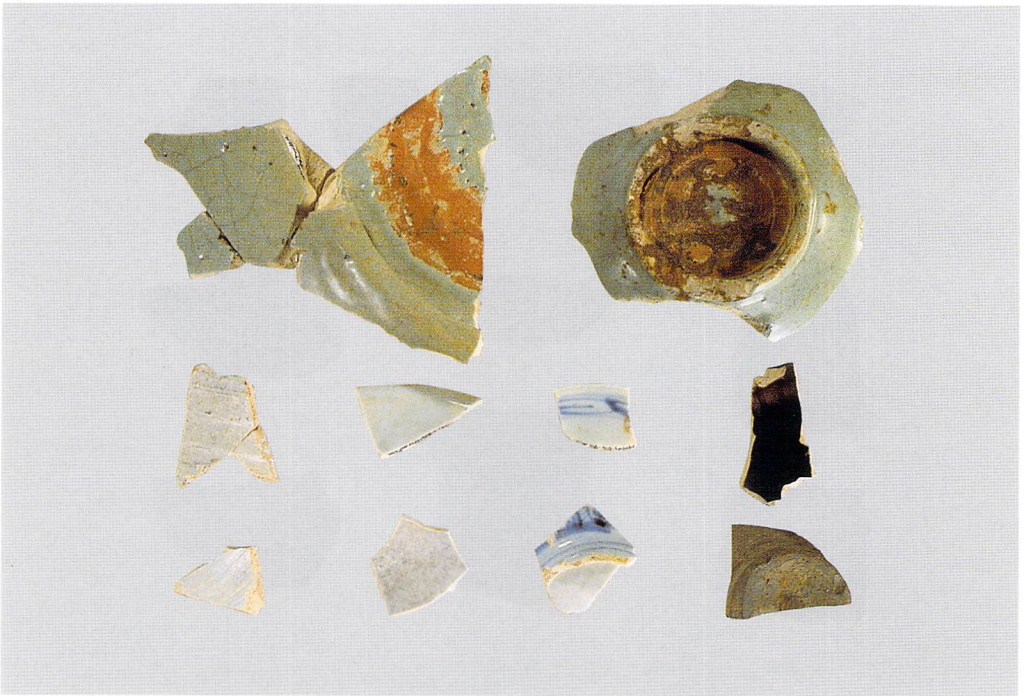
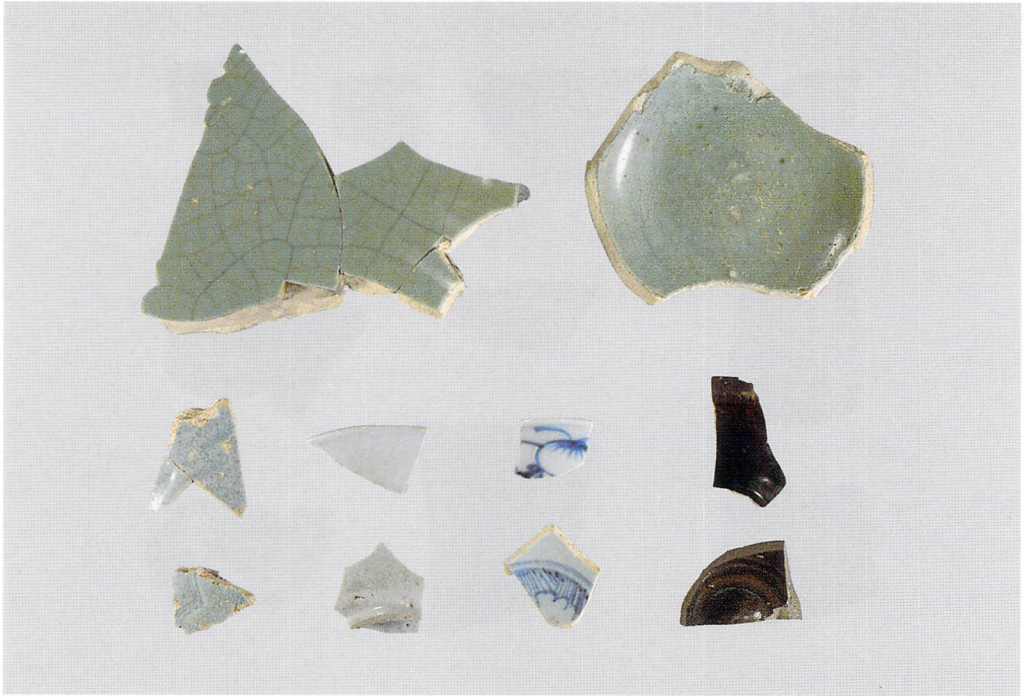
大林城 内郭（南から）



E1号土壘 断面（東から）



国産陶器



船載磁器

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました一般県道改良事業を例に上げるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相いれない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、一般県道改良事業（永沢水沢線）に関連して平成5年度から平成7年度にかけて発掘調査を実施した松本館跡の調査結果をまとめたものであります。遺跡は中世城館跡として周知されていましたが、縄文時代の狩猟場と古代の集落跡の複合遺跡であることが明らかになりました。特に中世では曲輪・切岸・堀・土塁・道路状遺構・土橋など大掛かりな普請と掘立柱建物跡・門跡・柵列・柱穴群などの作事の痕跡が多数確認され、それらに伴う遺物が発見されました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望致します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました水沢土木事務所や金ヶ崎町教育委員会をはじめとする多くの関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成9年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 船越昭治

例 言

1. 本書は、一般県道永沢水沢線道路特殊改良工事に伴う胆沢郡金ヶ崎町永沢松本館に所在する松本館跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は大林城の一區画を占めるものであり、外郭部分については県教育委員会文化課・当センター・金ヶ崎町教育委員会により、県南青少年の家とサンピア金ヶ崎関連の施設建設に伴う発掘調査が実施され、その成果は3種の実績報告書に示されている。
 - ①昭和58年3月 岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集 館山遺跡第2次発掘調査報告書—岩手県立県南青少年の家— (財) 岩手県埋蔵文化財センター 岩手県教育委員会
 - ②平成7年3月 岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第一八集 柏山館跡遺跡 岩手県生活福祉部・金ヶ崎町教育委員会
 - ③平成8年3月 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第242集 柏山館跡発掘調査報告書—サンピア金ヶ崎関連— (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
3. 本遺跡の岩手県遺跡番号はNE-05-2118。遺跡略号はMM-93、MM-94、MM-95である。
4. 発掘調査期間及び調査面積と調査担当者は以下のとおりである。

平成5年度 9月16日～10月29日 620㎡ 笹平克子・高橋正之・川村均・佐々木務村上拓・稲垣雅宏

平成6年度 4月18日～11月11日 5,720㎡ 中村英俊・酒井宗孝・高橋一浩・元吉弘明

平成7年度 4月13日～11月16日 7,880㎡ 小山内透・元吉弘明
5. 整理は平成5年度分を笹平、平成6年度分を中村、平成7年度分を小山内が担当し、執筆は高橋(興)・中村・小山内が以下のとおり分担した。

I 発掘調査に至る経過を高橋興右衛門、IV・3中世の遺構・A～C区、V中世の遺物、VIIまとめ2出土遺物を中村英俊、残りを小山内が担当し、全体の構成と編集は主として小山内が行った。また、平成6・7年度に現地指導を頂いた本堂氏から大林城を中心とした歴史的概要について玉稿を賜った。
6. 分析・鑑定・委託業務は次の方々に依頼した。(敬称略)

獣骨同定 兼松重任(岩手大学名誉教授)・C¹⁴年代測定 古環境研究所
樹種同定 木工舎「ゆい」・石質鑑定 佐藤二郎(長内水源工業)
遺跡出土獣骨の青色化現象の分析 小山陽造(八戸工業高等専門学校)
基準点・写真測量 (株)ハイマーテック・航空写真(株)東邦航空
7. 発掘調査及び遺物整理にあたっては下記の機関・方々からご指導・ご助言を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(順不同、敬称略)

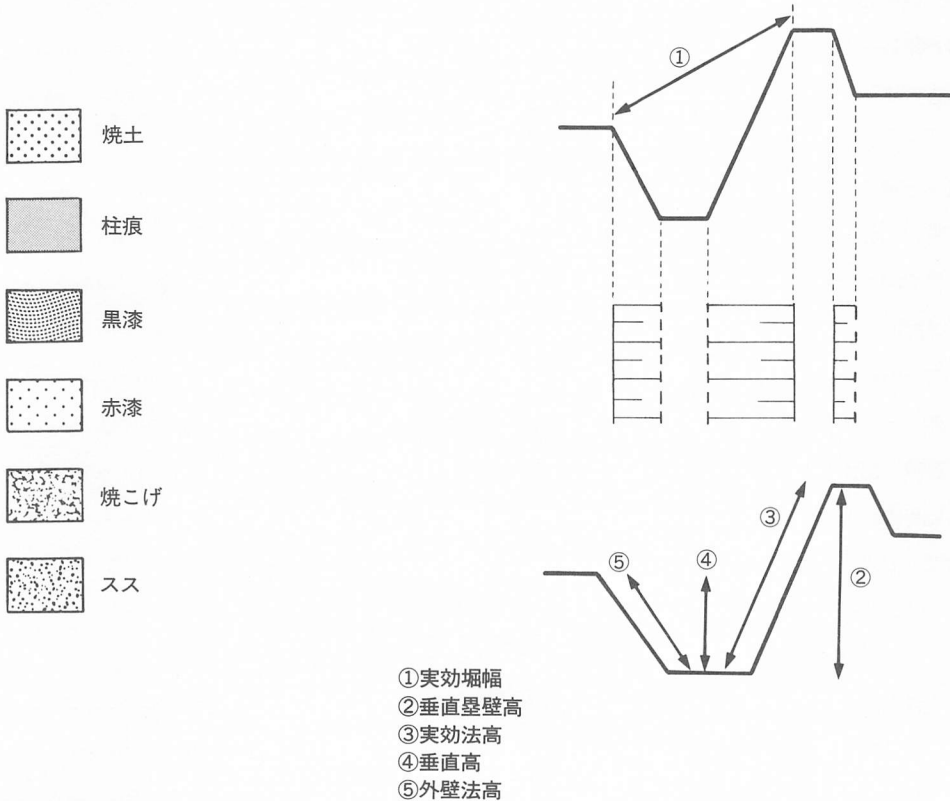
金ヶ崎町教育委員会 本堂寿一(北上市立博物館) 昆野靖(伊保内高校) 千葉周秋(金ヶ崎町教育委員会) 井上喜久夫(愛知県陶磁資料館) 中野晴久(常滑市民族資料館)

八重樫忠郎(平泉町教育委員会) 菅原修(岩手町教育委員会) 和泉昭一(二ツ井町教育委員会) 櫻田隆・高橋学・谷地薫(秋田県埋蔵文化財センター)

8. 本書に使用した地図は、建設省国土地理院発行の50,000分の1と25,000分の1(北上)・(水沢)、それと金ヶ崎町都市計画図を編纂した2,500分の1である。
9. 発掘調査による出土品および記録資料は岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

凡 例

1. 本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は、国家座標第X系による座標北を示す。
2. 表中の法量の推定値は ()、残存値は < > で表示した。
3. 挿図中に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。
4. 堀跡・塁壁の計測位置と呼称は以下のとおりとした。



目次

序
例言
凡例

本文

I 発掘調査に至る経過	2	3 中世の遺構	39
II 立地と環境	3	A区	39
1 遺跡の位置	3	B区	45
2 自然的環境	3	C区	51
3 歴史的環境	6	D区	90
4 遺跡の概観と基本層序	12	E区	106
III 調査の概要と整理方法	14	F区	125
1 調査経過	14	4 時期不明の遺構	128
2 調査方法	20	V 中世の出土遺物	132
グリッドの設定	20	VI 自然科学的分析	172
粗掘と精査	20	1 樹種同定	172
遺構の記録	20	2 獣骨同定	179
3 整理方法	25	3 出土獣骨の青色化現象の分析	180
遺構図面	25	4 C ¹⁴ 年代測定	183
遺物	25	VII まとめ	184
写真	25	1 大林城の構造（縄張り）について	184
IV 検出遺構と出土遺物	26	2 出土遺物	190
1 縄文時代の遺構と遺物	26	VIII 付章 大林城と柏山氏の歴史	194
2 古代・古代～中世の遺構と遺物	34	報告書抄録	

挿図目次

第1図 岩手県全体図	1	第5図 金ヶ崎町小字分布図	13
第2図 遺跡位置図	4	第6図 周辺地形と調査範囲	15・16
第3図 地形分類図	5	第7図 ブロック・グリッド設定図	21・22
第4図 周辺の遺跡分布図	7・8	第8図 調査区現況地形図	23・24

第9図	縄文時代の遺構(陥し穴の1)……………28
第10図	縄文時代の遺構(陥し穴の2)……………29
第11図	縄文時代の遺構(陥し穴の3)……………31
第12図	縄文時代の遺構(陥し穴の4)……………32
第13図	縄文時代の遺物(石器)……………33
第14図	E5号竪穴住居跡……………35
第15図	E5号竪穴住居跡カマド……………36
第16図	C2号竪穴住居跡、E1・2号竪穴状遺構 ……………38
第17図	E3・4号竪穴状遺構、D5・8号土坑…40
第18図	古代の遺物(1)……………41
第19図	古代の遺物(2)……………42
第20図	A区遺構配置図……………43・44
第21図	A区中世の遺構(A1・2号堀跡)……………46
第22図	B区中世の遺構(B1号掘立柱建物跡) 47
第23図	B区中世の遺構(B1・2号柱穴列)……………49
第24図	B区中世の遺構(B1号堀・井戸跡) ……50
第25図	C区中世の遺構(C1号切岸・堀跡・土塁) ……………53・54
第26図	C区中世の遺構(C2・3号堀跡)……………56
第27図	C区中世の遺構(地形断面・C1・3・5・ 6・8号溝跡)……………59・60
第28図	C区中世の遺構(C1号虎口)……………61
第29図	C区中世の遺構(C1号掘立柱建物跡) 62
第30図	C区中世の遺構(C2号掘立柱建物跡) 63
第31図	C区中世の遺構(C3～5号掘立柱建物跡) ……………65
第32図	C区中世の遺構(C6～8号掘立柱建物跡) ……………66
第33図	C区中世の遺構(C1号竪穴状遺構) ……67
第34図	C区中世の遺構(C1～5号柱穴列)……………69
第35図	C区中世の遺構(C6～8号柱穴列)……………70

第36図	D区中世の遺構(D1・5号堀・D1号階段 状遺構)……………93・94
第37図	D区中世の遺構(D区溝跡1)……………95
第38図	D区中世の遺構(D区溝跡2)……………96
第39図	D区中世の遺構(D2号井戸跡)……………97
第40図	D区中世の遺構(D1号井戸状遺構・D4号 土坑)……………98
第41図	E区中世の遺構(地形断面・E2・3号平坦 地)……………107・108
第42図	E区中世の遺構(E2号堀跡) ……113・114
第43図	E区中世の遺構(E6号堀跡) ……117・118
第44図	E区中世の遺構(E1号土塁) ……119・120
第45図	E区中世の遺構(E1・2号溝跡・E1・2号 柱穴列・E12号土坑)……………121
第46図	F区中世の遺構(F4号堀跡・F1号道路状 遺構・F3号土塁)……………127
第47図	時期不明の遺構(1)……………129
第48図	時期不明の遺構(2)……………130
第49図	時期不明の遺構(3)……………131
第50図	中世の遺物1(国産陶器—瀬戸・美濃灰 釉—)……………136
第51図	中世の遺物2(国産陶器—瀬戸・美濃鉄 釉—)……………137
第52図	中世の遺物3(国産陶器—常滑系・瓦質—) ……………138
第53図	中世の遺物4(国産陶器—かわらけ—)139
第54図	中世の遺物5(中国産磁器—青磁—)…150
第55図	中世の遺物6(中国産磁器—青磁—)…151
第56図	中世の遺物7(中国産磁器—白磁・青白 磁—)……………152
第57図	中世の遺物8(中国産磁器—染付—)…153
第58図	中世の遺物9(中国産磁器—染付・鉄釉—)

.....154	第65図 中世の遺物16(木製品)167
第59図 中世の遺物10(石製品-砥石-)161	第66図 中世の遺物17(木製品)168
第60図 中世の遺物11(石製品-石臼-)162	第67図 中世の遺物18(金属製品)169
第61図 中世の遺物12(石製品-石臼-)163	第68図 中世の遺物19(金属製品)170
第62図 中世の遺物13(石製品-石臼-)164	第69図 中世の遺物20(金属製品)171
第63図 中世の遺物14(石製品-石鉢-)165	第70図 大林城区画模式図189
第64図 中世の遺物15(木製品)166	第71図 中世陶磁器出土分布図193

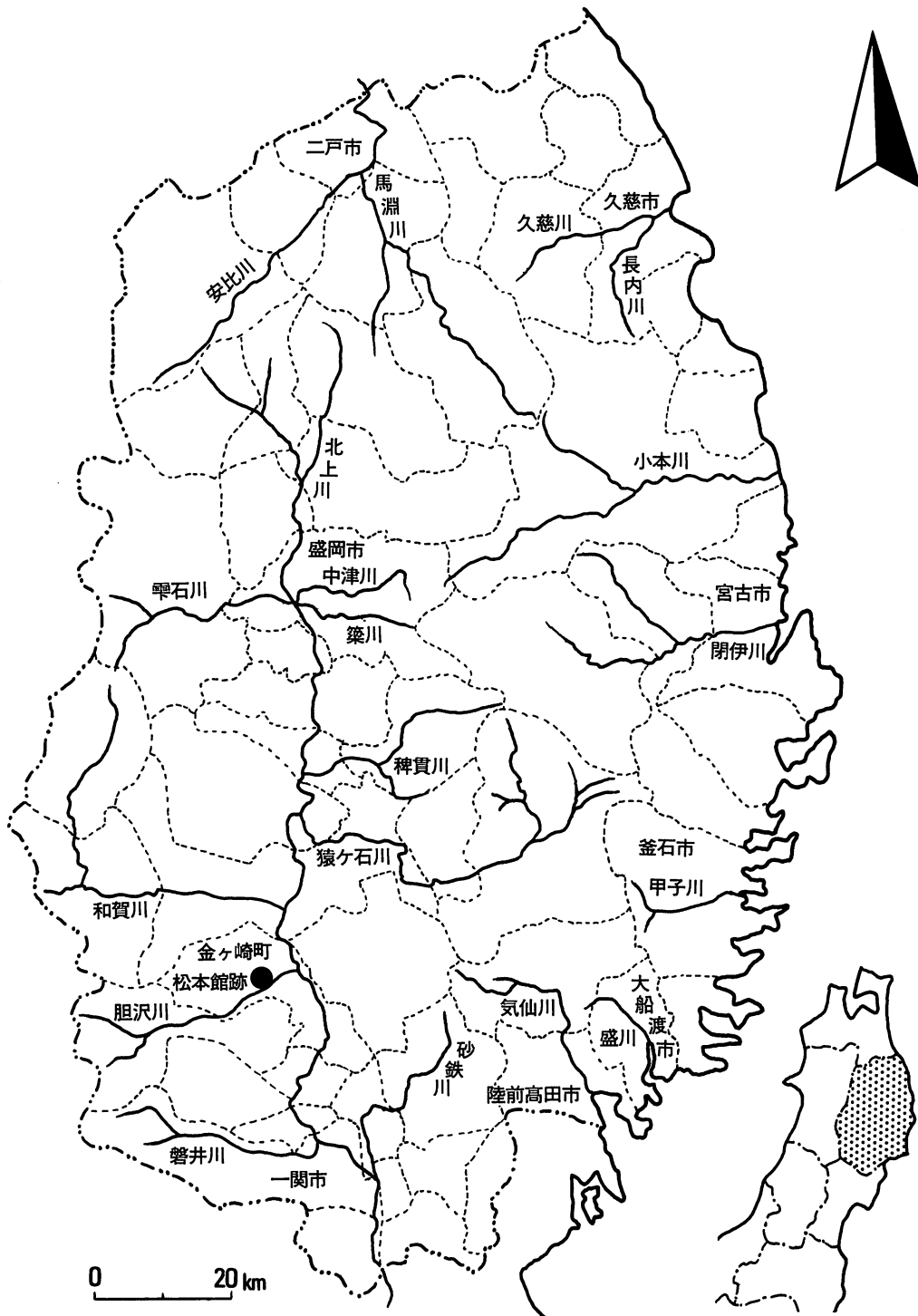
付図目次

付図 1 B・C区遺構配置図	付図 5 E区遺構配置図
付図 2 C区遺構配置図	付図 6 大林城縄張図1(内郭)
付図 3 D・E・F区遺構配置図	付図 7 大林城縄張図2(全域)
付図 4 D区遺構配置図	

写真図版目次

写真図版 1 縄文時代の遺構211	写真図版 16 中世の遺物 3 (青磁)226
写真図版 2 古代・古代～中世の遺構212	写真図版 17 中世の遺物 4 (青磁・白磁・青白磁)227
写真図版 3 縄文時代・古代の遺物213	写真図版 18 中世の遺物 5 (青白磁・染付・鉄釉)228
写真図版 4 航空写真 1 (遺跡全景)214	写真図版 19 中世の遺物 6 (石製品1).....229
写真図版 5 航空写真 2 (調査区全景)215	写真図版 20 中世の遺物 7 (石製品2).....230
写真図版 6 中世の遺構 A・B区216	写真図版 21 中世の遺物 8 (木製品)231
写真図版 7 中世の遺構 C区(1).....217	写真図版 22 中世の遺物 9 (金属製品1).....232
写真図版 8 中世の遺構 C区(2).....218	写真図版 23 中世の遺物10(金属製品2).....233
写真図版 9 中世の遺構 C区(3).....219	写真図版 24 中世の遺物11(青磁)234
写真図版 10 中世の遺構 D区(1).....220	写真図版 25 中世の遺物12(青・白磁)235
写真図版 11 中世の遺構 D区(2).....221	写真図版 26 中世の遺物13(白・青白磁・染付)236
写真図版 12 中世の遺構 E区222	写真図版 27 中世の遺物14(染付・鉄釉磁器)237
写真図版 13 中世の遺構 E・F区223	写真図版 28 中世の遺物15(瀬戸・美濃系陶器)
写真図版 14 中世の遺物 1 (瀬戸・美濃灰釉・鉄釉)224	
写真図版 15 中世の遺物 2 (常滑・瓦質・かわらけ)225	

.....238	写真図版32	中世の遺物19 (常滑系)242
写真図版29	中世の遺物16 (常滑系)239	写真図版33
写真図版30	中世の遺物17 (常滑系)240	中世の遺物20 (国産陶器・瓦質陶器・
写真図版31	中世の遺物18 (常滑系)241	かわらけ)
		243
	写真図版34	中世の遺物21 (かわらけ)244



第1図 岩手県全体図

I 発掘調査に至る経過

松本館跡は「一般県道永沢・水沢線緊急地方道整備工事」の施行に伴って、その事業区域内に位置することから発掘調査することとなったものである。

本路線は一級河川の胆沢川と永沢川の丘陵地を通るため、現況道縦断勾配が8%ときつく、特に冬期間の交通に支障を来している現状にあり、さらに岩手県中部金ヶ崎工業団地に新工場の立地や岩手厚生年金健康福祉センターと県立県南青少年の家などの施設利用増加による交通量の増加が見込まれるため、道路（2次）改築事業として実施するものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県土木部水沢土木事務所から平成4年7月6日付け水土第364号「道路改良工事に伴う埋蔵文化財の分布調査について（依頼）」の文書によって岩手県教育委員会に対して分布調査の依頼をしたのが最初である。依頼を受けた岩手県教育委員会では平成4年8月7日に分布調査を実施し、その結果は平成4年8月13日付け教文第565号「道路改良工事に伴う埋蔵文化財の分布調査について（回答）」で水沢土木事務所へ回答し、その際工事施行範囲が松本館跡の範囲内であることが付記された。回答を受けた水沢土木事務所では、平成5年4月18日付け水土第126号「道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査依頼について」の文書で岩手県教育委員会に発掘調査の依頼をしたが、依頼を受けた岩手県教育委員会では（財）岩手県文化振興事業団の平成5年度に係る受託事業は既に確定し、即対応は無理なため（財）岩手県文化振興事業団受託業務の進捗をみて応ずることとした。については岩手県教育委員会から内々の打診を受けていた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは早期に終了する遺跡がある場合、極力対応することで検討を重ねた。

早期終了の遺跡が生じた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターでは、平成5年9月16日から当遺跡の調査に着手することで岩手県教育委員会と協議を重ねたが、調査期間が短期間であり、事業者が希望する4,000㎡の調査は不可能であることから、本年度は2,000㎡について実施することとした。これを受けた岩手県教育委員会は水沢土木事務所長に対し、平成5年9月2日付け教文第126号「平成5年埋蔵文化財発掘調査事業の変更について（通知）」によって、調査期間と面積の変更について通知し、併せて事業団にも通知した。

通知を受けた両者は（財）岩手県文化振興事業団理事長と水沢土木事務所長との間で平成5年9月13日に契約を締結し、平成5年9月16日から発掘調査を開始した。平成6年度は、前年度未了範囲と併せた11,960㎡について平成6年4月1日に契約を締結して調査を開始した。平成7年度は、前年度未了分に新規分を含めた7,880㎡について平成7年4月3日に契約を締結し、平成7年4月13日から11月16日をもって全てを終了した。

報告書作成に係る整理は各年度冬期間を利用して進め、平成8年度に報告書を刊行した。

II 立地と環境

1. 遺跡の位置

松本館跡は岩手県胆沢郡金ヶ崎町大字永沢字松本館外に所在するが、本遺跡は大林城（別称として百岡城・舞鶴城・柏山館・生城寺館）の一区画である西郭を構成するものであり、城域全体として確認できる範囲は、字名では永沢字柏山館・同字下館・永栄字西柏山館・同字東柏山館・同字上宿・同字柳林までを含む。

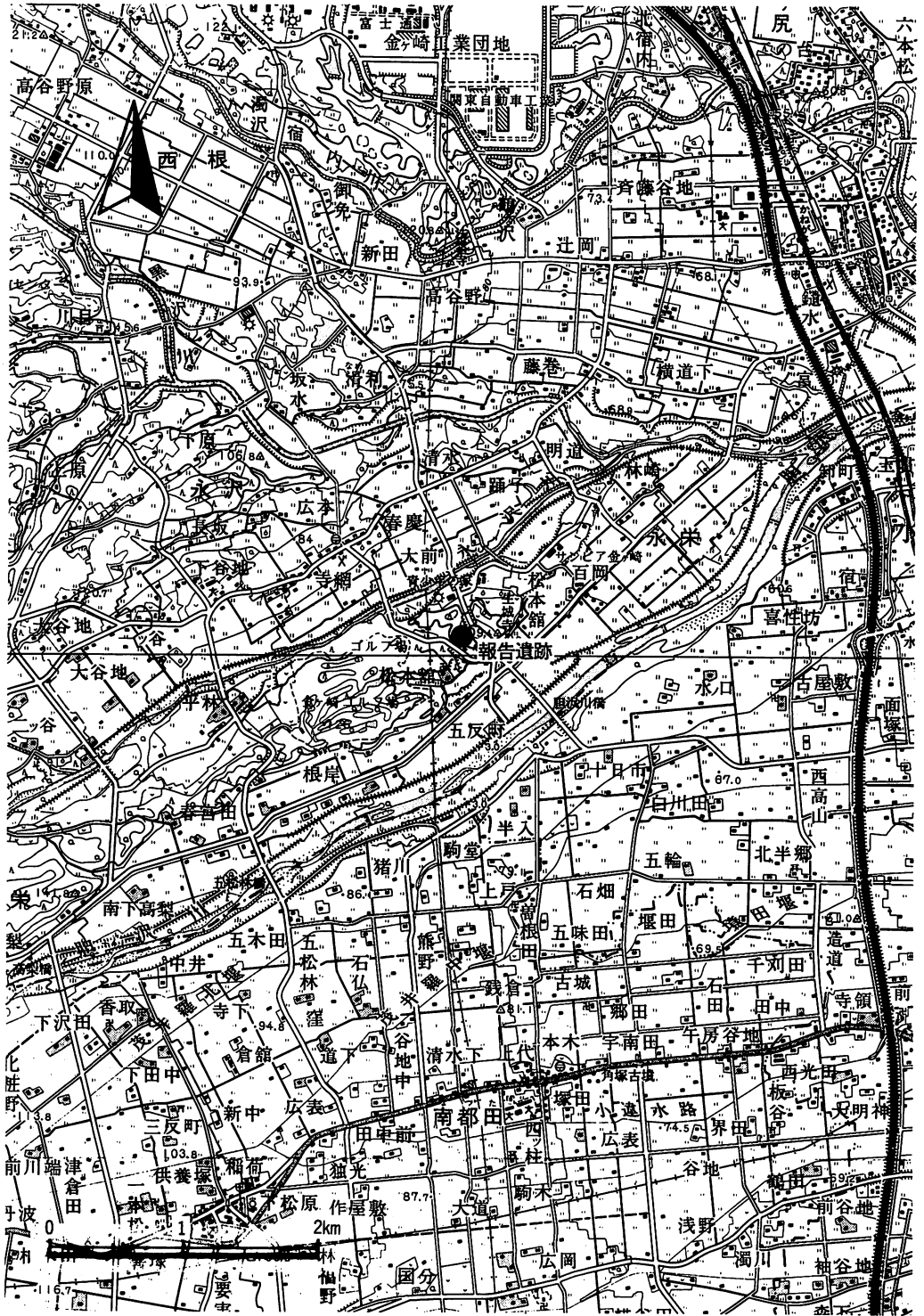
遺跡の所在する金ヶ崎町は、岩手県南の西側内陸部に位置し、西側の奥羽山脈と東側の北上山地に挟まれた南北に長い北上盆地にある。この盆地はこれを南に流下する北上川によって盛岡以北を上流域、盛岡～前沢間を中流域、前沢以南を下流域と3区域に区分されている。金ヶ崎町はこの中流域に含まれ、北は北上市、東は江刺市、南は水沢市、西は胆沢町と境を接している。同町の面積は179.61 km²、人口は16,000人余であるが、近世以降百岡村、永徳寺村、永沢村、三ヶ尻村、西根村、相去村の6ヶ村が合併して現在の金ヶ崎町を構成している。

本遺跡は金ヶ崎町の南部で東日本旅客鉄道東北本線金ヶ崎駅の南西約3.5 km、東北自動車道水沢インターチェンジの西約2 kmに位置し、東流する胆沢川と永沢川に挟まれた永栄丘陵上の東端部に立地する。遺跡の標高はおよそ80～108 mを測り、国土地理院発行の5万分の1地形図では「北上」・「水沢」の図幅に含まれる。遺跡の位置する経緯度は北緯39°10'59"・東経141°5'53"である。

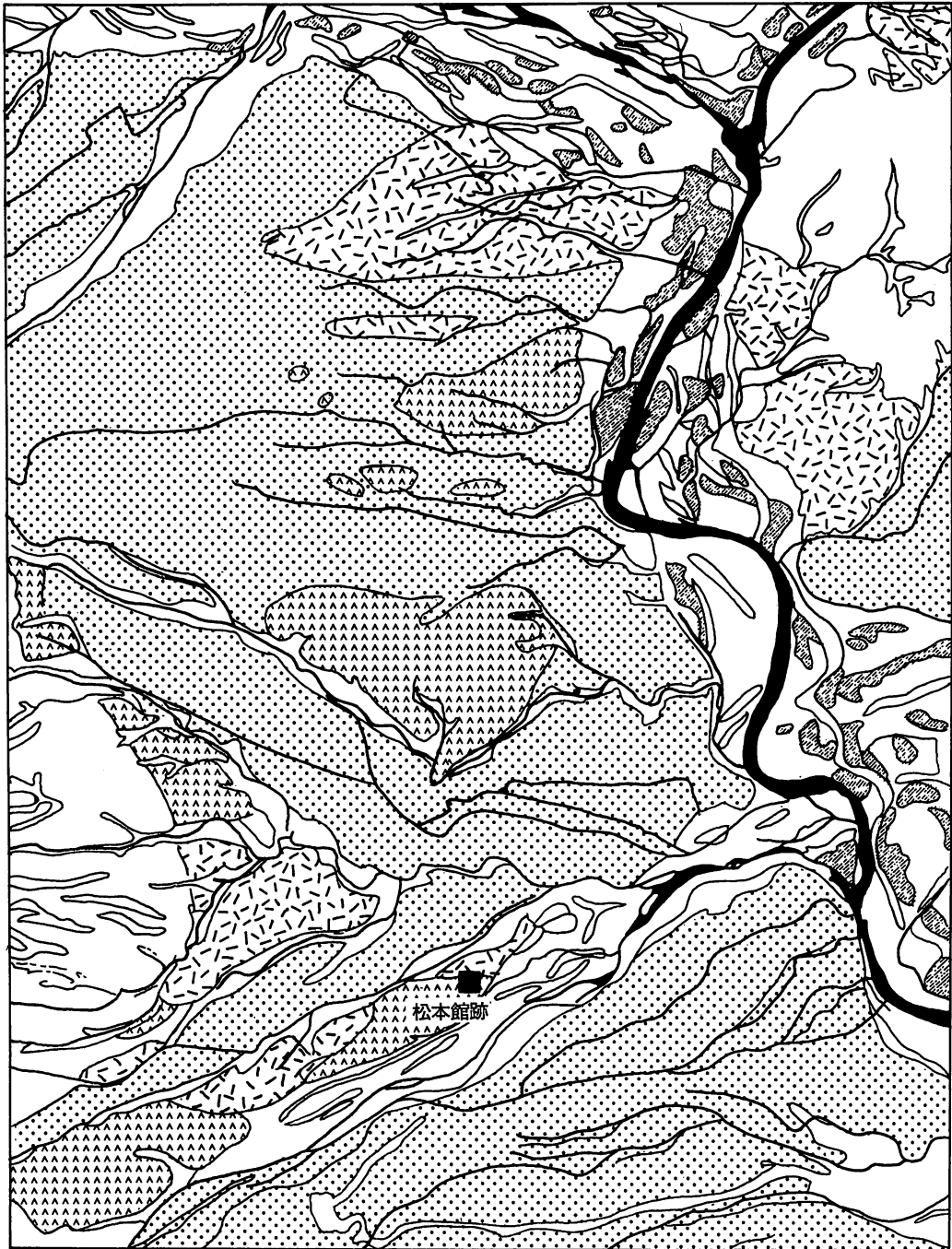
2. 自然的環境

奥羽山脈は東北地方の脊梁をなし、北上川は岩手県の動脈と言われている。北上川は岩手県内を南北にのびる北上低地帯を南流し、宮城県石巻市で太平洋にそそぐ、全長249 km、流域面積10,150 km²の東北地方有数の河川である。流路は低地帯の東側に偏るために、扇状地や段丘の発達には奥羽山脈側に接する西側が良好である。これらの扇状地は北上川の支流で開析され、良く発達した河岸段丘となっている。

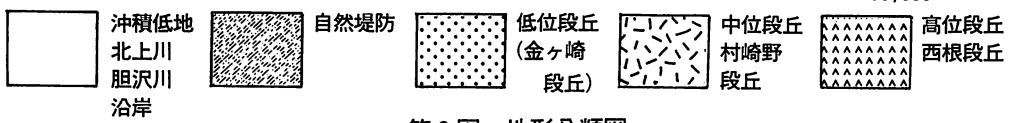
本遺跡の所在する金ヶ崎町は、北上低地帯のほぼ中央に位置するもので、北上川全流域中で段丘の発達が最も幅広くなる中流域（盛岡～前沢）の西岸に属し、東に北上高地、西に奥羽山脈と南北に並列する大地形区の中にある。地形は大別して、奥羽山脈山麓丘陵地区・河岸段丘地区・沖積平野地区の三つに区分される。これらの境界はいずれも南北性の逆断層で境される。奥羽山脈は雁行配列を示す小単位の背斜構造ブロックに区画され、その主な山麓は、西列に北から女神山(956 m)、割倉山(770 m)、白木峠(601 m)、東列の三森山(1,102 m)、蟻巣山(1,155 m)、三界山(1,381 m)、南本内岳(1,486 m)、経塚山(1,372 m)、焼石岳(1,548 m)、牛形岳(1,389 m)、鷲ヶ森焼け石(1,207 m)等である。金ヶ崎町は焼石岳から東へ高度を下げ、第三



第2図 遺跡位置図



0 2km
1 : 100,000



第3図 地形分類図

紀山地と丘陵域から北上低地帯への移行部に分布し、東麓で胆沢川と支流の形成した複合成扇状地上に位置する。扇状地の多くは更新世中期以降の各期段丘面によって構成された開析扇状地群として発達する。

焼石岳と経塚山の間には源流をもつ北上川支流の夏油川は、東麓に六原扇状地を形成する。六原扇状地は新期の扇状地が、開析された中期・古期の扇状地を半ば埋める形で発達している。段丘区分では上位から下位へ、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と3大別され、それぞれ胆沢扇状地の一首坂段丘・胆沢段丘・水沢段丘に対比されている。高位の西根段丘と中位の村崎野段丘は下位段丘上に残丘状に点々と残っているものである。

本遺跡は、鍋割山から続く永栄丘陵の東端部に位置し、段丘区分では遺跡南西部の丘陵が西根段丘、遺跡北部及び東部は村崎野段丘・金ヶ崎段丘に属する。そして遺跡の南縁と北縁は、それぞれ胆沢川と永沢川に臨む段丘崖であり、数カ所で開析されている。丘陵の南と北で東流する胆沢川と永沢川は丘陵東端の突端部で合流し、岩手県中央部を南流する北上川に注ぐ。

3. 歴史的環境

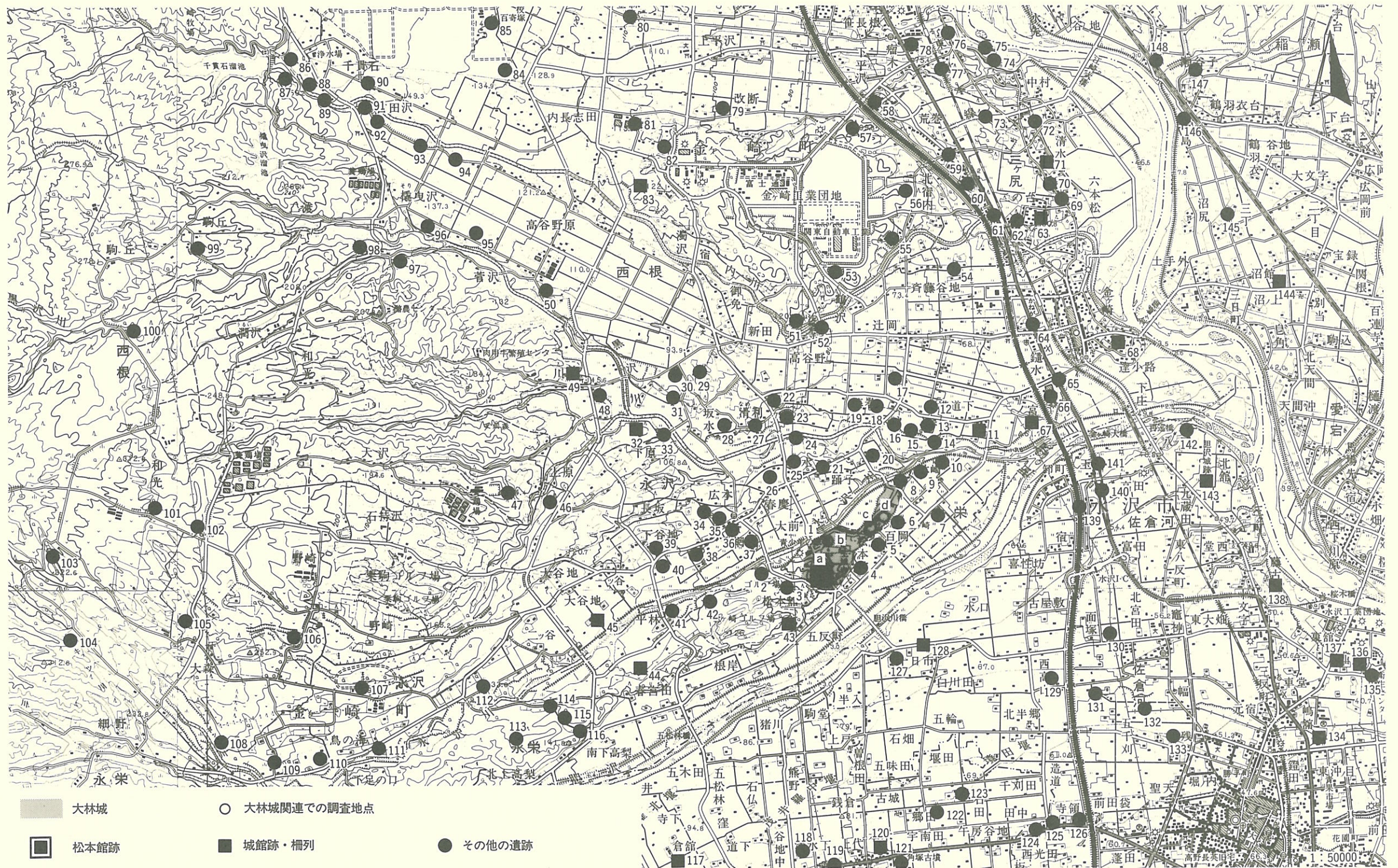
第4図に示した金ヶ崎町を中心として一部水沢市を含む図幅中には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が約150カ所周知されている。今次の調査を含み過去5次にわたって行われた大林城に係わる発掘調査では中世以外の時代として、旧石器時代(4次調査)・縄文時代(2次～5次調査)・平安時代(2次～5次調査)の遺構・遺物が確認され、それぞれ石器製作跡・陥し穴・竪穴住居跡などが検出されている。本遺跡の主体時期となる中世大林城を中心とした歴史的環境については本堂氏に記述していただいている(VIII章)。ここでは本遺跡と同時代・時期の調査された遺跡を中心に列記する。

旧石器時代の遺跡は近年湯田町で調査例が増加しているが、全体的に見ても調査例はまだ少なく、近くでは胆沢町の上萩森遺跡が調査された他は金ヶ崎町では細野北遺跡が確認されているに止まる。

縄文時代の主な調査例としては早期から中期の千貫石遺跡群・高谷野原遺跡群、前～中期の和光六区遺跡などがある。

平安時代では掘立柱建物跡が検出された揚場古墳・妻根遺跡、上餅田遺跡、西根遺跡、白糸遺跡、そして安倍氏の遺跡とされる鳥海柵、観音寺廃寺跡、城柵官衙遺跡の胆沢城などが調査されている。

中世の遺跡としては五葉館、本遺跡出土のかわらけと類似するものが出土した仙人西遺跡と白井坂I・II遺跡などの城館跡と十三本塚が調査されている。この他の城館跡としては大林城の他に柏山氏の居城と考えられる細越城、葛西三郎詮義の三男清義の居城とされる丸子館、城主不明の安倍館・三居寺館・頭防館・新井田館・花館などがある。



第4図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	時代	遺構・遺物	文献
1-a	大林城(松本館)	金ヶ崎町永沢松本館	縄・古・中	陥し穴、古・中世堅穴住居、掘立柱建物跡、溝、井戸、堀、土塁、道路	29・30
-b	(館山)	金ヶ崎町永栄館山	縄・古・中	陥し穴、古・中世堅穴住居、掘立柱建物跡、堀、井戸、墓壇	1
-c	(柏山館)	金ヶ崎町永栄上宿	縄・古・中	陥し穴、古堅穴住居、階段、掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸	2
-d	(柏山館)	金ヶ崎町永栄上宿	旧・縄・古・中	陥し穴、平安堅穴住居・土坑、掘立柱建物跡、階段、井戸、柵列、堀、溝	4・5
2	不動沢	金ヶ崎町永沢不動沢	縄文	縄文土器(前期)	
3	観音庵寺	金ヶ崎町永栄大林	中世	礎石、平場、塚	24
4	斉林寺	金ヶ崎町永栄斉林寺	縄・奈・平	土師器・須恵器・石斧	
5	下田谷	金ヶ崎町永沢下田谷	奈・平	土師器・須恵器	
6	百丘	金ヶ崎町永栄飛鳥田	縄・平	土師器、石鏃、硯、石臼、明鏡	
7	寒入田古墳	金ヶ崎町永栄寒入田	奈・平	土師壺	
8	飛鳥田	金ヶ崎町永栄飛鳥田	奈良	土師器	
9	飛鳥田古墳	金ヶ崎町永栄飛鳥田	奈良	古墳(円)、土師器	
10	林崎	金ヶ崎町永栄飛鳥田	奈・平	土師器、須恵器	
11	馬場古墳五葉館	金ヶ崎町西根飛鳥田	縄・古・中	陥し穴、古墳(円)、勾玉、刀、溝、土坑、掘立柱建物跡	14・16
12	五郎屋敷古墳	金ヶ崎町西根荒屋敷	奈良	古墳、須恵器、管玉、直刀、五鈿鏡、管金口	28・29
13	荒屋敷	金ヶ崎町西根荒屋敷	奈・平	土師器、須恵器	
14	三反田古墳	金ヶ崎町西根三反田	奈良	古墳(円)	
15	前谷地	金ヶ崎町西根前谷地	奈・平	土師器、須恵器	
16	勾玉社下	金ヶ崎町西根前谷地	奈・平	土師器、須恵器	
17	寄添田	金ヶ崎町西根寄添田	近世	土坑、溝、掘立柱建物跡	20
18	畑田	金ヶ崎町西根下畑田	奈・平	土師器、須恵器、直刀、刀子、ガラス小玉	
19	道場古墳	金ヶ崎町西根道場	縄・奈	縄文土器(前・中期)、土師器	
20	名道	金ヶ崎町西根名道	奈・平	土師器	
21	関谷	金ヶ崎町永沢関谷	縄文	縄文土器(晩期)	
22	取場石	金ヶ崎町西根取場石	奈・平	縄文土器	
23	藤巻	金ヶ崎町西根藤巻	縄文	縄文土器	
24	清水畑	金ヶ崎町永沢清水	縄文	縄文土器(晩期)、石鏃、磨製石斧	
25	清水	金ヶ崎町永沢清水	弥生	弥生土器	
26	春慶	金ヶ崎町永沢春慶	縄文	石器	
27	滑利	金ヶ崎町西根滑利	縄~中	縄文土器(中期)、土師器、須恵器、石棒	
28	坂水	金ヶ崎町西根和田	縄文	縄文土器(中期)	
29	頭無	金ヶ崎町西根頭無	縄文	縄文土器	
30	草刈場	金ヶ崎町西根草刈場	縄文	縄文土器(中・後・晩期)	
31	萱刈場	金ヶ崎町西根萱刈場	縄文	縄文土器(中・後・晩期)、石鏃、小玉	
32	三居寺館	金ヶ崎町西根雛子沢	中世	城館跡(堀、土塁、平場)	29・30
33	雛子沢	金ヶ崎町西根雛子沢	奈・近	遺物包含層、墓壇	15
34	長坂前	金ヶ崎町永沢長坂前	縄文	縄文土器(晩期)	
35	長坂裏	金ヶ崎町永沢長坂裏	弥~平	弥生土器、土師器	
36	関田	金ヶ崎町永沢長坂裏	中世	経塚	
37	米ほきつ供養塚	金ヶ崎町永沢橋本	近世	塚、石碑	
38	横沢	金ヶ崎町永沢横沢	縄文	縄文土器(中期)	
39	堀切後	金ヶ崎町永沢堀切後	奈・平	土師器	
40	堀切	金ヶ崎町永沢堀切	縄文	縄文土器	
41	平林後	金ヶ崎町永沢平林後	縄~平	縄文土器(中期)、土師器、石棒、石鏃	
42	笹森	金ヶ崎町永沢笹森	縄文	縄文土器(晩期)	
43	八幡館	金ヶ崎町永栄九石	平・中	城館跡(堀・土塁・平場)	29・30
44	細越城(参居館)	金ヶ崎町永栄茶畑	中世	城館跡(堀・土塁・平場)	29・30
45	頭防館	金ヶ崎町永栄大谷地	中世	城館跡(堀・土塁・平場)	29・30
46	上原	金ヶ崎町永沢上原	縄文	土坑	21
47	石持沢東	金ヶ崎町西根石持沢	奈・平	土師器、須恵器	
48	川目	金ヶ崎町西根新井田	奈・平	土師器、須恵器	
49	新井田館	金ヶ崎町西根新井田	中世	城館跡	29・30
50	稻沢	金ヶ崎町西根稻沢	縄文	縄文土器(中期)	
51	鶴ヶ沢	金ヶ崎町西根鶴ヶ沢	縄文	土師器	
52	妻根	金ヶ崎町西根妻根	縄・古	縄文土器、土坑、溝、掘立柱建物跡、井戸	19
53	熊野神社	金ヶ崎町西根鶴ヶ沢	縄・奈	神社跡	
54	上餅田	金ヶ崎町西根上餅田	古墳・古	土師器	10
55	菖蒲沢	金ヶ崎町西根菖蒲沢	縄文	縄文土器(前期)、土師器、須恵器	
56	菖蒲沢	金ヶ崎町西根菖蒲沢	縄文	縄文土器、石器	
57	岩手中部工業	金ヶ崎町西根森山		炭焼き窯	18
58	北荒巻	金ヶ崎町西根荒巻北	縄文	縄文土器	
59	荒巻南	金ヶ崎町西根荒巻北	縄文	縄文土器	
60	中荒巻	金ヶ崎町西根中荒巻	縄文	縄文土器(中期)、石器	10
61	荒巻	金ヶ崎町西根下荒巻	縄文	縄文土器(前・中期)、石器	
62	この台	金ヶ崎町西根この台	縄~平	石鏃	
63	花館	金ヶ崎町西根一の台	中世	城館跡(堀)	
64	本宮	金ヶ崎町西根東地藏野	奈・平	土師器、須恵器	
65	西根縦街道古墳群	金ヶ崎町西根原添下	奈良	円墳	23
66	西根	金ヶ崎町西根原添下	奈・平	土師器	9・10

番号	遺跡名	所在地	時代	遺構・遺物	文献
67	鳥海柵	金ヶ崎町西根原添下	平安	土師器、須惠器、掘立柱建物跡、堀	10・29
68	白糸(金ヶ崎城)	金ヶ崎町西根白糸	縄～近	堀、郭、土師器、須惠器、陶磁器	29・30
69	川口田	金ヶ崎町三ヶ尻川口田	縄文	縄文土器(前・中期)、石器、石鏃	
70	七里	金ヶ崎町三ヶ尻清水端	近世	一里塚	
71	丸子館	金ヶ崎町三ヶ尻清水端	中世	城館跡(堀、土塁、平場)	29・30
72	十三本塚	金ヶ崎町三ヶ尻十三塚	中世	塚、古銭	35
73	水口沢古墳	金ヶ崎町三ヶ尻水口沢	奈良	古墳、横穴類似横石式主体部	22
74	後生平	金ヶ崎町三ヶ尻後生平	縄文	縄文土器	
75	東裏洞窟	金ヶ崎町三ヶ尻東裏		洞窟	
76	瘤既	金ヶ崎町三ヶ尻瘤木	縄文	縄文土器	
77	花沢	金ヶ崎町三ヶ尻花沢	縄文	縄文土器	
78	西裏	金ヶ崎町三ヶ尻西裏	縄文	縄文土器	
79	改断	金ヶ崎町三ヶ尻改断	奈・平	土師器	
80	狐森	金ヶ崎町六原狐森	近世	墓塚、古銭、煙管	17
81	上平沢	金ヶ崎町西根上平沢	縄文	縄文土器(中期)	
82	大森	金ヶ崎町西根大森	奈・平	土師器	
83	花館	金ヶ崎町西根花館	中世		29・30
84	長志田	金ヶ崎町西根建野	平安	土師器	
85	百寄塚	金ヶ崎町六原	近世	塚	
86	千貫石 I	金ヶ崎町西根千貫石	縄文	縄文土器(前・中期)	25
87	千貫石 II	金ヶ崎町西根千貫石	縄・弥・古	縄文土器(前・中期)、弥生土器、土師器	25
88	千貫石 III	金ヶ崎町西根千貫石	縄文	縄文土器(早・前・中期)	25
89	千貫石 IV	金ヶ崎町西根千貫石	縄文	縄文土器(晩期)	25
90	吉田沢	金ヶ崎町西根吉田沢	縄文	縄文土器(中期)、土偶	
91	高谷野原 I	金ヶ崎町西根高谷野原	縄文	縄文土器(中期)	26
92	高谷野原 II	金ヶ崎町西根高谷野原	縄・奈	縄文土器(早期)、土師器、須惠器	26
93	高谷野原 III	金ヶ崎町西根高谷野原	縄文	縄文土器(早期)	26
94	高谷野原 IV	金ヶ崎町西根高谷野原	縄・弥・古	縄文土器(前期)、弥生土器、土師器	26
95	櫛引沢東	金ヶ崎町西根櫛引沢	縄・奈・平	縄文土器(中期)、土師器	
96	櫛引沢西	金ヶ崎町西根櫛引沢	縄・奈・平	縄文土器(早・前・中期)、土師器	
97	天ヶ森	金ヶ崎町西根天ヶ森	縄文	縄文土器	
98	和光 6 区	金ヶ崎町西根和光	縄文	縄文土器(前・中期)	6
99	和光 4 区 A	金ヶ崎町西根胸丘	奈・平	土師器	
100	潤沢奥	金ヶ崎町西根潤沢	縄文	縄文土器(中期)	
101	旧酪農 4 区 A	金ヶ崎町西根胸ヶ岳	縄文	縄文土器(中期)	
102	旧酪農 3 区 A	金ヶ崎町西根胸ヶ岳	奈・平	土師器	
103	旧酪農 5 区 A	金ヶ崎町西根胸ヶ岳	縄・弥	縄文土器(早・前・後・晩期)	
104	細野北	金ヶ崎町西根胸ヶ岳 パイロット事業所内	旧・縄文	縄文土器(旧石器)	
105	大森	金ヶ崎町永沢大森	奈・平	土師器・須惠器	
106	野崎堤西	金ヶ崎町西根胸ヶ岳 パイロット事業所内	弥生	弥生土器	
107	野崎堤南	金ヶ崎町西根胸ヶ岳 パイロット事業所内	弥生	弥生土器	
108	三蔵塚	金ヶ崎町永沢三蔵塚	縄文	縄文土器	
109	鳥ノ海西	金ヶ崎町永沢鳥ノ海	縄文	縄文土器(前・中期)	
110	鳥ノ海	金ヶ崎町永沢鳥ノ海	縄文	縄文土器(前・中期)	
111	鳥ノ海東	金ヶ崎町永沢鳥ノ海	縄文	縄文土器(早・前・中期)	
112	野崎	金ヶ崎町永沢野崎	縄文	縄文土器(晩期)	
113	銭平	金ヶ崎町永栄銭干	縄文	縄文土器	
114	一ノ越戸	金ヶ崎町永沢一ノ越戸	縄文	縄文土器(中期)	
115	約丘	金ヶ崎町永栄の岡	奈・平	土師器	
116	ヌカ塚古墳	金ヶ崎町永栄の岡沢	奈・平	古墳(円)、土師器	
117	若柳方八丁	胆沢町若柳字鳥塚	平安	城館跡、土師器、須惠器	
118	滑水下	胆沢町南都田字滑水下	弥・平	弥生土器、土師器	
119	二本木	胆沢町南都田字滑水下	奈・平	土師器、須惠器	
120	要害	胆沢町南都田字本木	平・近	城館跡、土師器、須惠器	
121	角塚古墳	胆沢町南都田字塚田	古墳	古墳、埴輪	34
122	沢田	胆沢町南都田字沢田	奈・平	土師器	
123	机地	胆沢町南都田字机地	奈・平	土師器	
124	西光田	水沢市佐倉河字西光田	平安	土師器、須惠器	7
125	寺領	水沢市佐倉河字寺寮	奈・平	土師器、須惠器	7
126	石田	水沢市佐倉河字西光田	奈・平	土師器	7・12
127	半入	水沢市佐倉河字半入	縄・平	土師器、須惠器、石組炉	
128	佐倉河半入屋敷 (千田家)	水沢市佐倉河字半入	中・近	環濠屋敷	
129	高山	水沢市佐倉河字高山	古墳	堅穴住居跡、土師器	31
130	面塚	水沢市佐倉河字面塚	古墳・奈	土師器、須惠器	36
131	西館	水沢市佐倉河字西館	平安	土師器	
132	幅下	水沢市佐倉河字幅下	縄文	縄文土器(中期)	
133	里館	水沢市佐倉河字里館	縄文	縄文土器(晩期)、石器、土偶	
134	鳴館	水沢市佐倉河字鳴館	中・近	城館跡(堀・土塁)	

番号	遺跡名	所在地	時代	遺構・遺物	文献
135	沢田	水沢市佐倉河字沢田	縄・平	土器埋設炉、溝、竪穴住居、柱穴	4・5
136	仙人東	水沢市佐倉河字仙人	縄～近	方形・円形周溝、溝、竪穴住居跡、土坑、井戸、掘立柱建物、道路状	4・5
137	仙人西	水沢市佐倉河字仙人	平・中	館跡、土坑、溝、堀	38
138	白井坂Ⅰ・Ⅱ	水沢市佐倉河字白井坂	縄・平・中	土坑、平安竪穴住居跡、堀、掘立柱建物、溝、土塁、柵列、井戸、道路状	3・4・5
139	今泉	水沢市佐倉河字今泉	古墳～平	土師器、須恵器、竪穴住居群	11
140	膳性	水沢市佐倉河字膳性	古墳～奈	土師器、須恵器、フレーク	8・9
141	玉貫	水沢市佐倉河字玉貫	奈良	土師器、須恵器	9
142	八ツ口	水沢市佐倉河字八ツ口	奈・平	土師器、須恵器	
143	胆沢城	水沢市佐倉河字八幡	平安	土師器、須恵器	37
144	沼館	江刺市稲瀬字沼館	中世	館跡、井戸丸太	
145	沼尻	江刺市稲瀬字沼尻	古代	須恵器、布目瓦	
146	五十瀬神社前	江刺市稲瀬字瀬谷子	縄文	縄文土器	13
147	瀬谷子窯跡	江刺市稲瀬字瀬谷子	古代	須恵器、土師器、風字形硯鬼瓦片、布目瓦	13・32
148	谷地	江刺市稲瀬字谷地	古代	須恵器	

〈文献〉

- 1 岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集「館山遺跡第2次発掘調査報告書」1993年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 2 岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第18集「柏山館跡遺跡」1990年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 3 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第195集「岩手県埋蔵文化財調査略報」1992年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 4 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第209集「岩手県埋蔵文化財調査略報」1993年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 5 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第229集「岩手県埋蔵文化財調査略報」1994年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 6 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第114集「和光6区遺跡発掘調査報告書」1987年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 7 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第130集「石田・寺領・西光田遺跡発掘調査報告書」1988年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 8 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第24集「水沢市膳性遺跡」1982年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 9 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第18集「金ヶ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書」1981年（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 10 岩手県文化財調査報告書第59集「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書（金ヶ崎地区）」1981年 岩手県教育委員会
- 11 岩手県文化財調査報告書第60集「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書（水沢地区）」1981年 岩手県教育委員会
- 12 岩手県文化財調査報告書第61集「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書（石田遺跡）」1981年 岩手県教育委員会
- 13 岩手県文化財調査報告書第33集「東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書」1979年 岩手県教育委員会
- 14 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第6集「揚場後遺跡」1983年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 15 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第19集「雛子沢遺跡」1990年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 16 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第21集「揚場古墳・五葉館跡遺跡」1991年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 17 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第24集「狐森遺跡」1991年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 18 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第25集「岩手中部工業団地A-2地区遺跡」1991年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 19 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第27集「妻根遺跡」1993年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 20 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第28集「寄添田遺跡」1993年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 21 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第31集「上原遺跡」1994年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 22 岩手県金ヶ崎町文化財報告書第7・10集「水口沢古墳」1984・1986年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 23 岩手県金ヶ崎町「西根古墳と住居址」1968年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 24 岩手県金ヶ崎町「観音寺遺跡調査報告書」1981年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 25 岩手県金ヶ崎町「千貫石、長根前遺跡」1973年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 26 岩手県金ヶ崎町「高谷野原遺跡」1973年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 27 岩手県金ヶ崎町「西根遺跡」1959年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 28 岩手県金ヶ崎町「揚場遺跡」1983年 岩手県胆沢郡金ヶ崎町教育委員会
- 29 岩手県文化財調査報告書第82集「岩手県中世城館跡 分布調査報告書」1986年 岩手県教育委員会
- 30 岩手県胆沢郡金ヶ崎町平成5年度企画展図録「金ヶ崎の城・館・柵」1994年 岩手県金ヶ崎町中央生涯教育センター
- 31 岩手県水沢市文化財報告書第1集「高山遺跡」1978年 岩手県水沢市教育委員会
- 32 岩手県江刺市「瀬谷子窯跡群」緊急調査概報1969年 窯業史研究所
- 33 岩手県江刺市「瀬谷子窯跡群」第2次緊急調査概報1970年 窯業史研究所
- 34 岩手県胆沢町「角塚古墳」1976年 岩手県胆沢郡胆沢町教育委員会
- 35 奥羽史談第39号「金ヶ崎町三ヶ尻十三本塚調査報告」1964年 奥羽史談会
- 36 みずさわ散歩24号「面塚遺跡発掘調査の成果」1980年
- 37 岩手県水沢市「胆沢城跡発掘調査概報」1984年 岩手県水沢市教育委員会
- 38 岩手県水沢市佐倉河仙人「仙人西遺跡」現地説明会資料1995年（財）水沢市埋蔵文化財調査センター
文献番号以外は岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧（1995年）岩手県教育委員会による。

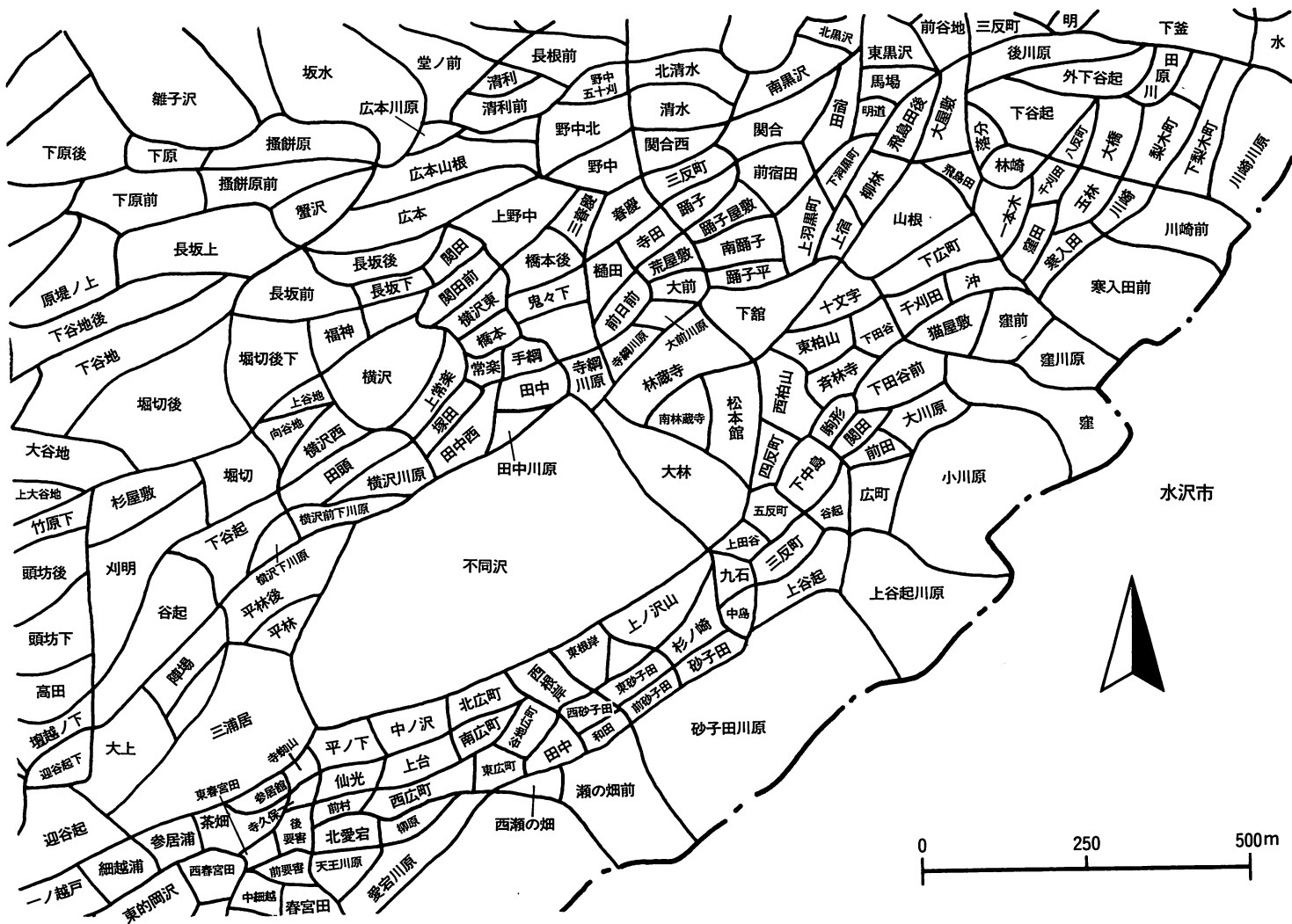
4. 遺跡の概観

松本館跡は胆沢郡金ヶ崎町永沢字松本館に所在するが、本遺跡は大林城（別称百岡城・舞鶴城・柏山館・生城寺館）の一区画である西郭を構成するものであり、現況から確認できる全体的な縄張り構造からも単独の館跡ではなく、一連の遺跡であることは明らかであり、柏山氏の居城大林城として周知されているものである。城域全体として確認できる範囲は字名で永沢字柏山館・下館、永栄字西柏山館・東柏山館・上宿・柳林までを含む。現況は山林と果樹園および草地で、今次の調査区は主として山林である。

松本館跡の名称については、館内に現存する石碑が松本日向守の供養碑であることからきているが、松本氏は近世に永沢に入った一族であり、近世以降の本遺跡との関わりによるものと思われる。伝承によると松本館は半入館（石川館）とも別称され、柏山氏の家老石川氏の城内居館と伝えられている。

大林城は南の胆沢川、北の永沢川と東流する両河川に挟まれた永栄丘陵上の東端部に立地している。両河川は丘陵東側で合流し、さらに北上川に続く。遺跡の南東方向には胆沢扇状地及び北上川左岸に広がる江刺沖積平野が一望できる景観である。平面形は南西から北東にクサビ状をなし、東西最長部約1,300 m、南北最大幅約500 m、総面積約390,000 m²という胆沢地方最大の城郭である。遺跡の南西高位部（標高108 m前後）に占地する城域（約135,000 m²）は堀で囲まれ、さらに北東低位部（標高80 m前後）の城下を含め、全体が段丘崖や切岸で囲まれた総構えの城館である。総構えの城下部分については過去4次にわたって発掘調査が行われており、永栄字上宿・柳林地内のサンピア金ヶ崎施設関連で3カ所と永沢字下館の県南青少年の家建設に伴う1カ所である。第5次調査となる今次の調査区は城域西側松本館の東部にあたり、沢を抱き込むように南東側がコの字状に開く最高位部の曲輪を東西に分断する南北に長い範囲である。現況地形では、調査区中央に位置する主郭（柏山館）と副郭（松本館）を結ぶ最高位の曲輪から、南北両側に傾斜し、南側には数段の狭小な平坦面が認められたが、全体的には斜面が多い。

層序は調査区が起伏にとみ遺跡の性格と現道工事等によるため、基本的には表土あるいは耕作土（I層黒ボク土）下は地山（II層黄褐色土、黒沢尻火山灰層）となっていた。削平整地された曲輪等の平坦地は表土の層厚約20 cm、その谷頭では一部盛土整地され旧表土や漸移層（Ib層褐色土）が残るところもあった。調査区北半の斜面部では表土は厚く層厚20～80 cm、一部人工改変されていないところでは部分的に漸移層が存在した。南半の中央では現況で緩斜面となっていたところが現道工事の掘削排土で埋められており、沢および堀には自然堆積土上に1～8 mの盛土が確認された。



第 5 図 金ヶ崎町小字分布図

III 調査の概要と整理方法

1. 調査経過

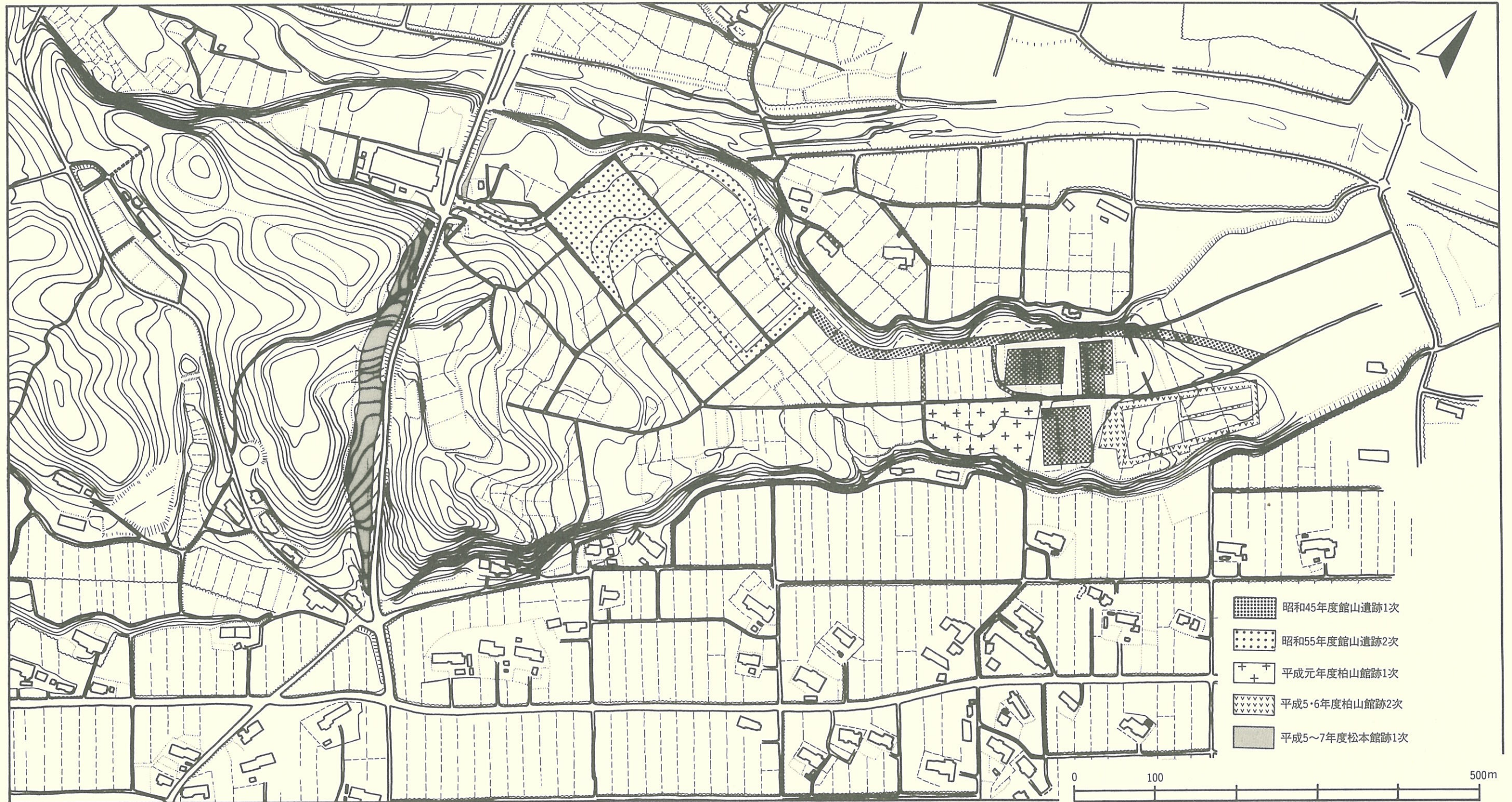
本遺跡は現況から遺跡範囲が明確な中世城館として周知されているため県文化課による詳細な試掘調査は行われておらず、各年度ごとに調査開始当初試掘を行い、層序等の確認を行った。

〈平成5年度〉

初年度の発掘調査は、平成5年9月16日から10月29日まで実施した。9月16日午前発掘機材を搬入し、プレハブ事務所設置等の準備作業および雑物撤去を行った。9月末まではトレンチ掘りを行い層序・土厚等の状況確認をしたところ、調査区北側では20cm前後の表土下は地山（遺構検出面）であったが、南側は広範囲にわたって盛土されていることが確認された。調査区中央では人為的に埋められた堀跡2条（D1・5号堀）を検出し、さらに堀の南側の盛土は厚さ3m以上であることが判明した。これらの盛土は昭和30年代に行われた現県道工事の際の掘削排土とのことであった。10月上旬は調査区北側の粗掘と遺構検出を行い、多数の柱穴と溝跡を確認している。10月19日には今年度の調査範囲・調査の進め方・盛土の処理等について県文化課と協議を行った結果、盛土の厚い調査区南側は次年度以降に持ち越されることとなった。25日までに調査区北側で検出した遺構の精査・実測・写真撮影をほぼ終え、危険防止のため堀跡と南側の試掘トレンチを埋め戻し、29日に機材を撤収して平成5年度の調査を終了した。

〈平成6年度〉

平成6年度の調査は、4月18日から11月11日まで実施した。4月18日午後発掘機材を搬入し、プレハブ事務所設置等の準備作業を行った。調査を開始するにあたって、調査区内では立ち木の伐採はすんでいるものの、粗大ゴミを含め搬出されておらず、人力による撤去は困難な状況であった。このため雑物の撤去は業者委託することとし、比較的雑物の少ない調査区北側の現道東側の地域（A区）から調査を始めた。なお遺跡の性格上調査範囲が起伏に富むため、作業を進めるうえで便宜的に北側から地形面でA～C区と分けした。A区は調査区北側現道の東側のブロック、B区は現道西側の北側低位部の緩斜面、C区は同じく中央高位部の平地地とこれに続く南側緩斜面である。4月20日からA区の試掘と粗掘を開始。表土を20～30cm除去すると地山に達する。堀、溝跡や土坑が検出されるも、西側は現道工事の掘削で消失し、堀には工事時の排土が埋められており、幅約5m前後と狭い調査範囲の外には堀割りは確認できなかった。業者による雑物撤去はB・C区と4月下旬から5月中旬で終了。細かな雑物を人力で除去後、5月31日に現況地形測量のための空撮を行う。A区の調査は5月末で終了、長大なA2堀跡の平面図については平板測量にて作図した。6月からB・C区の試掘を行ったところ、B区では表土が50～80cmと厚く、整地層や遺物も確認されなかったため、重機により北側から



第6図 周辺地形と調査範囲

表土除去を行った。これと平行して表土が20 cm前後と薄いC区の粗掘は人力で行い、排土はB区に捨てている。粗掘が進むにつれ土量が増加し、調査区域内では対応仕切れなくなったため、6月下旬から10 tダンプを随時使用して排土搬出を行う。6月下旬にはC区高位部平坦地の粗掘をほぼ終え、B区の遺構検出を開始。B区北半では溝状陥し穴を2基検出するも、中世に関する遺構は確認されなかった。7月4日、C区北側の法面に試掘トレンチをいれたところ人工斜面の切岸(C1号切岸)であることが判明。7月中旬にはB区南半で溝跡2条(B8・9号溝)と掘立柱建物跡1棟(B1号掘立柱建物跡)、柱穴列、土坑を検出。城域を囲む横堀の存在が推定されていたC区高位部北側の裾野では、盛土構築された現町道下に堀跡(C1号堀)を検出。一部これに伴う土塁(C1号土塁)も遺存することを確認。7月20日、B区の土坑1基は井戸跡であることが判明。7月下旬、B8・9号溝跡は沢の起点であり、周囲の地形状況から排水機能をもつ堀跡(B1号堀跡)と判断する。7月末にはB区の調査を終え、主体となるC区の調査を開始。作業員が平均約20名と慢性的に不足していたが、柏山館跡4次調査の調査終了により8月から10名ほど増員。8月上旬にはC区高位部平坦地の検出を行った。予想に違わず多数の柱穴群(1,000基以上)と竪穴住居跡、そして溝状陥し穴が確認され、多数の掘立柱建物跡の存在が想定された。また削平整地による造成とされていた平坦地は谷頭に盛土することで平場を広くし、かつ切岸を鋭角的にする普請であることが判明。平行して調査していたC1号堀跡は土塁を伴い深く狭いため作業は難渋し、精査は8月いっぱいを要した。中旬からは平坦地の遺構精査と平行してC区南側緩斜面の粗掘と検出を開始。緩斜面の山側には腰曲輪状の平場が確認され、上位の平坦地を区切るように堀跡(4号堀)を検出した。9月6日から4号堀と腰曲輪上の遺構精査を始める。中旬には4号堀としていたものは2条(C2・3号堀跡)の重複であり、古いC2号堀跡には土橋が伴うことが判明。腰曲輪上では東側に幅広い溝状遺構(C2号道路状遺構)と、土橋正面で屈曲するL字状の溝跡(C1号溝跡)を検出する。また、土橋正面のC区高位部平坦地にはいる位置でも幅広い溝状遺構(C1号道路状遺構)を確認。10月にはいるも、未精査の柱穴群等が多く、実測要員が確保できなかったこともあって、C区の遺構群については写真測量を行うこととした。なお、成果品との確認をとるため平板測量で1/100の配置図を作成している。10月3日、北上市立博物館館長本堂寿一氏と伊保内高校教頭昆野靖氏の両氏を招聘し、現場指導をたまわう。10月上旬には腰曲輪上の精査の結果、周辺の遺構の位置関係から、幅広い溝状遺構は道路状遺構と推定され、喰い違い虎口と判断する。中旬にはC1号道路状遺構には門跡が伴い、さらに門跡西側には柵列が付属することが判明。しかしながら東側では同様の施設痕跡は確認できなかった。22日には現地説明会を開催、参加者66名。25日には終了全景とC区平坦地の写真測量の空撮を行う。撮影終了後腰曲輪の下段の粗掘を行い、31日で工事用No54杭までの粗掘と検出を終了。溝状遺構が数条検出されたが、道路状遺構の

つながりは不明。11月9日、C区緩斜面部の写真測量撮影を行う。11日、調査終了範囲(No 54 杭ライン)に境界ロープを張り、機材を搬出して平成6年度の調査を終了する。

〈平成7年度〉

平成7年度の調査は、4月13日から11月16日まで実施した。調査に先立ち平成7年3月28日には、人事移動のため調査担当者の交替があったことによる引き継ぎのため、前年度担当者と現場の状況確認を行う。すでに平成6年度終了範囲のNo 54 杭ラインまで掘削が行われているのを確認。4月13日午後発掘機材を搬入し、プレハブ事務所設置等の準備作業を行う。当日現場の状況確認をしたところ、No 55 杭ラインまで掘削が行われていることが判明、センターに連絡を入れる。この件について4月27日に現場にて県文化課、水沢土木事務所、当センターの三者による協議を行い、事後処理については県文化課に委ねることとなった。掘削された範囲では現況地形で腰曲輪とおぼしき平坦地が二段確認されていたが、初年度調査区の平坦地の残りとおわせ面積にして約500㎡が消失した。4月14日から試掘を開始する。なお、調査を始めると当たって、前年度に引き続き地形面により便宜的に北側からD～F区と調査区を区分けしている。D区は初年度調査区の中央で確認された掘跡(D 1・5号掘跡)以北の範囲、現況から柵形虎口と推定されていた土塁(E 1号土塁)以北をE区、以南をF区とした。トレンチは、初年度の試掘結果のあるD区とE区北側を除き、地形面にそって設定した。E区西半の斜面とE 1号土塁、そしてF区平坦地は20～30 cmで地山あるいは中世の整地面に達する。E区東半では、初年度に確認されていた盛土の広がりやE 1号土塁際までで、西から東へ深く、土厚は2 m以上となることが確認された。人力によるこれ以上の試掘は危険であり、さらに相当量の盛土が見込まれるため、盛土の除去には重機を使用することとし、前年度同様に随時10 tダンプで排土の搬出を行った。4月19日、雨天のため現場作業を中止し、調査員は館跡全域の地表面観察を行う。25日から重機を投入し、始めにE区北半に盛られた前年度の排土搬出を行う。その間、表土の薄いF区の粗掘を人力で行った。27日からE 1号土塁の南側法面の粗掘を行ったところ、赤土と黒土を交互に積み上げた叩き土塁であることを確認。5月8日には中途であったE区南半の試掘を重機により継続する。また排土の処理を考え、F区の粗掘を一時中断し、E区西半の北側平坦地と南側斜面部の粗掘を優先して行うこととした。重機による試掘の結果、E区東半は沢地形で盛土は最大8 mの厚さがあることが判明した。盛土の土量はおよそ3,000 ㎡と推定され、その除去にはかなりの期間が費やされることが想像された。実際、沢地形ということもあって雨が降るたびに水が集まり、排水しても泥沼状態で2～3日は作業ができず、さらに掘り下げるに従いプールとなる範囲が広がることで、より状況が悪化することもあって調査は難航し、E区の盛土除去は8月いっぱいを経験した。E区西半の粗掘は5月中旬にてほぼ終了。北部平坦地は腰曲輪(E 2・3号曲輪)の一部で谷頭に盛土造成されていたが、E 3・9号

曲輪は大半が畑地として削平され、現況では緩斜面となっていた。南部の斜面は掘削された人工傾斜の切岸（E 1号切岸）であった。5月下旬はD区の初年度未了緩斜面部分の粗掘と検出を行う。6月からF区の粗掘を再開。平行してE 2号堀跡の精査も行ったところ堀底には不規則な落ち込みが確認された。6月下旬、F区の検出と精査を開始。現況で確認されていた堀跡（F 3号堀跡）のほかF 4号堀跡を検出するも、平坦地では（F 6・7・8号曲輪）遺構は認められない。F 3号堀跡は土塁を伴うものの掘り込みは浅く、底面は幅広い緩斜面を呈し、堀の防衛機能としては脆弱と思われる。E区では盛土が除去され、精査が進むに従って沢底まで連続する斜面には、現況では推測できなかった帯曲輪（E 5号帯曲輪）、切岸（E 2号切岸）、犬走り状平場（E 1号犬走り）と城普請の造成が徐々に現れてきた。いずれも地形に従った切り盛りにより造成されているが、斜面下半は自然の沢地形をそのまま利用していた。E 1号土塁はこの沢をダムのようにせき止めて構築されており、沢は水堀（E 6号堀）として機能させていたものと判明。さらにE 2号堀跡とは高低差があり、雨季などの増水時には余分量を排水するようにしていたもので、E 2号堀底で確認されていた落ち込みはポットホール（おう穴）と判明。8月下旬にはE・F区の様相がおおよそ把握され、作事的遺構の存在は認められない。また桁形虎口と推定されていた空間は虎口機能は有せず、位置・状況からF 3号堀跡としていたものを道路状遺構と判断する。8月18日、F 6号堀跡の南端最深部で馬と思われる獣骨出土。9月からD区平坦地（D 1号曲輪）の精査を行う。掘削された範囲で土坑を1基検出、精査の結果井戸跡と判明。茶臼、石鉢、漆椀、そして底からは鼻付き鉈など比較的多くの遺物が出土した。10月からはE区西北部平坦地（E 2・3号曲輪）の検出、精査とD区南側の盛土除去を行う。その大半が畑地として掘削されていたE 3号曲輪では、遺存状況の悪い竪穴状遺構4棟（E 1～4号竪穴状遺構）を検出。E 2・3号曲輪では柱穴を検出したが、曲輪は調査区外に広く建物跡を想定するには至らなかった。10月中旬には、E 2・3号曲輪の整地状態を確認するため試掘トレンチを入れたところ、E 2号曲輪は急斜面の谷頭に厚く盛土がなされており、中世以前の遺構は存在しなかった。E 3号曲輪では開墾掘削の影響が少なかった範囲は緩斜面で、盛土下に廃棄焼土の広がりを確認したため、中世整地盛土を除去したところ、不整な2m前後の遺構とおぼしきプランを検出する。10月下旬には古代の竪穴住居跡（E 5号竪穴住居跡）であることが判明。11月2日、堀・土塁・平坦地などの中世の普請工事に関する遺構、及び地形測量のための空撮を実施。空撮終了後の6日からE 1号土塁の断ち割りを行う。法面から表面的には叩き土塁と判明していたが、部分的に柴が混じる柴土塁と判明。10日には現地説明会を開催、参加者約60名。15日午後には発掘機材の撤収を行ったが、未了のE 5号竪穴住居跡については一部作業員を残し、精査を引き続き行う。11月16日、E 5号竪穴住居跡の実測を終え、平成7年度の調査をすべて終了した。

2. 調査方法

a グリッドの設定

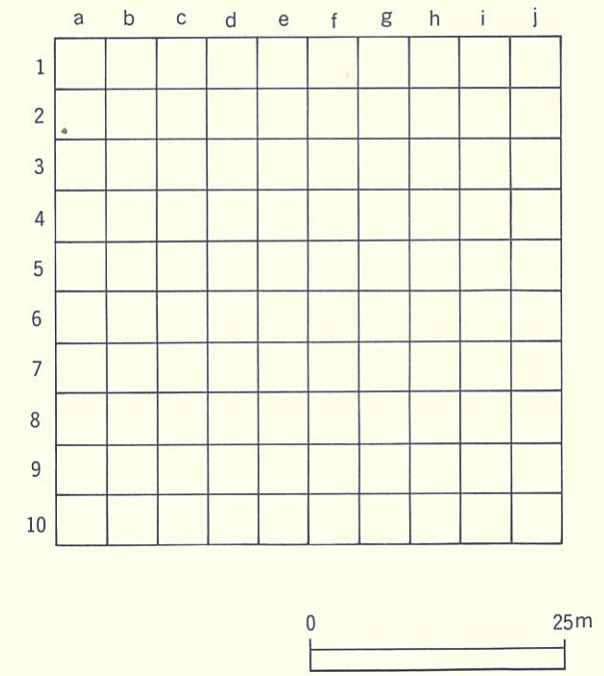
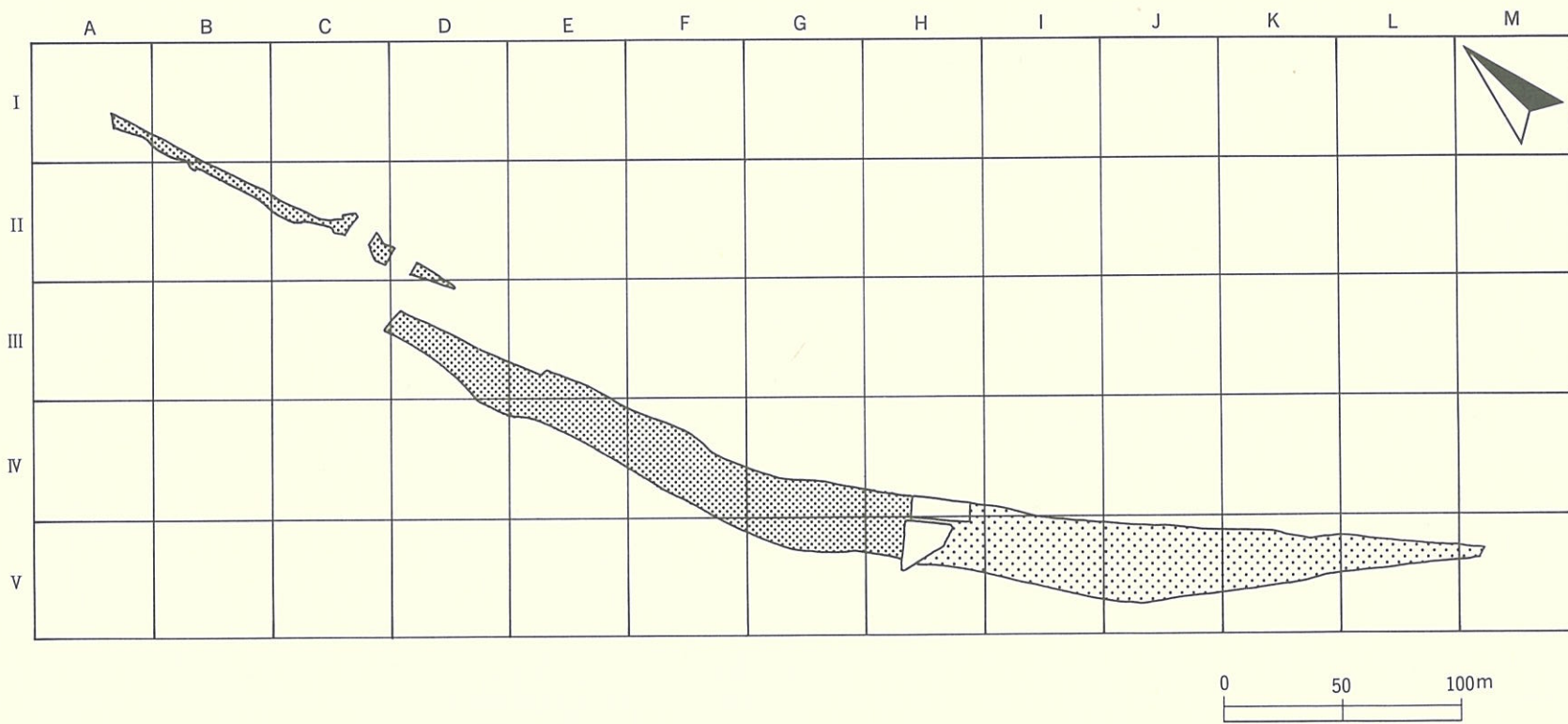
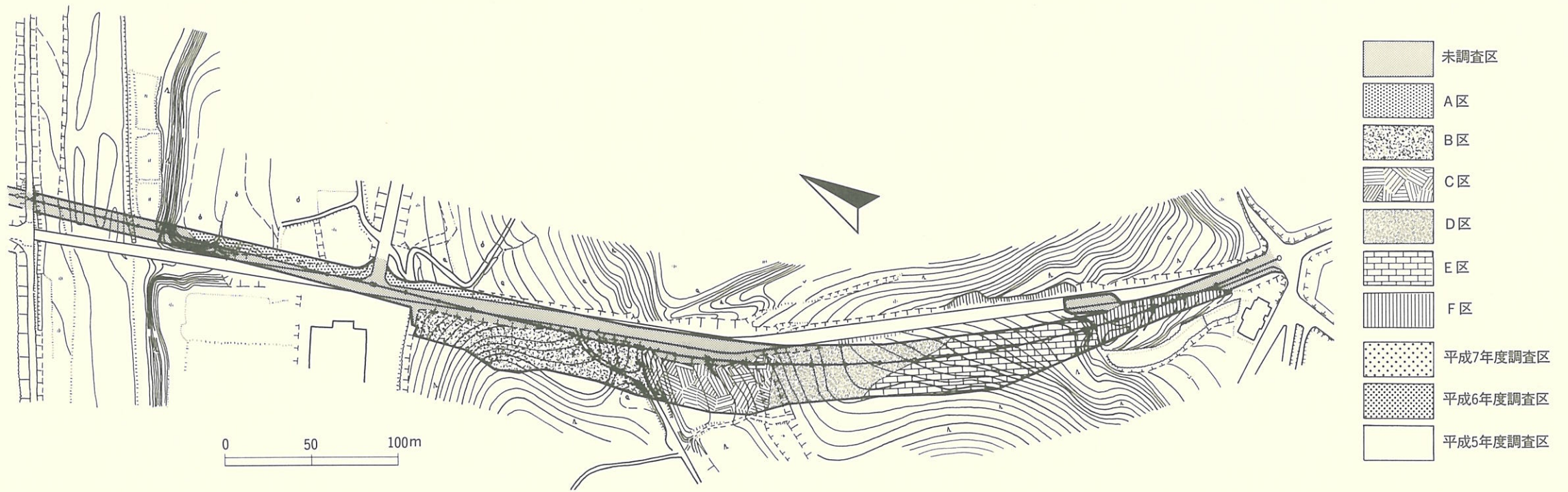
グリッドの設定は、調査区が北西－南東に長い道路幅となることから、調査を進めるうえで便宜的に国家座標第X系上の軸線から東側に45°振ることとし、調査区内に基点を設けて基準線を決め、これと平行および直行するラインを5m間隔で引き、5×5mの方眼とした。実際にはラインの交点に杭を打設して区割りを行った。グリッドの呼称は、調査区全域をカバーできるように方眼を組んだうえで北西隅を原点とし、50m単位で東に向かいABC・・・とアルファベットの大文字、南に向かいI II III・・・と昇順するローマ数字を当てて大グリッドを設定し、さらに各グリッドを5m間隔で10等分して同様に東に向かいabc・・・とアルファベットの小文字、南に向かい123・・・と昇順するアラビア数字を当て、それらの組み合わせで小グリッドを表すこととした。また、調査を進めるうえで起伏の激しい現況地形と飛び地の調査区が存在したため、便宜的に北側からA～F区と区割りを行っている。調査区の関係で便宜上組んだグリッドであるが、広大な未調査範囲を今後調査する場合を考えるならば、遺跡全体を考慮に入れてグリッドを設定すべきであったと思われ、調査担当者として反省するところである。なお基点とした国家座標第X系の座標値は(X=-92,250.000 Y=21,900.000)である。

b 粗掘と精査

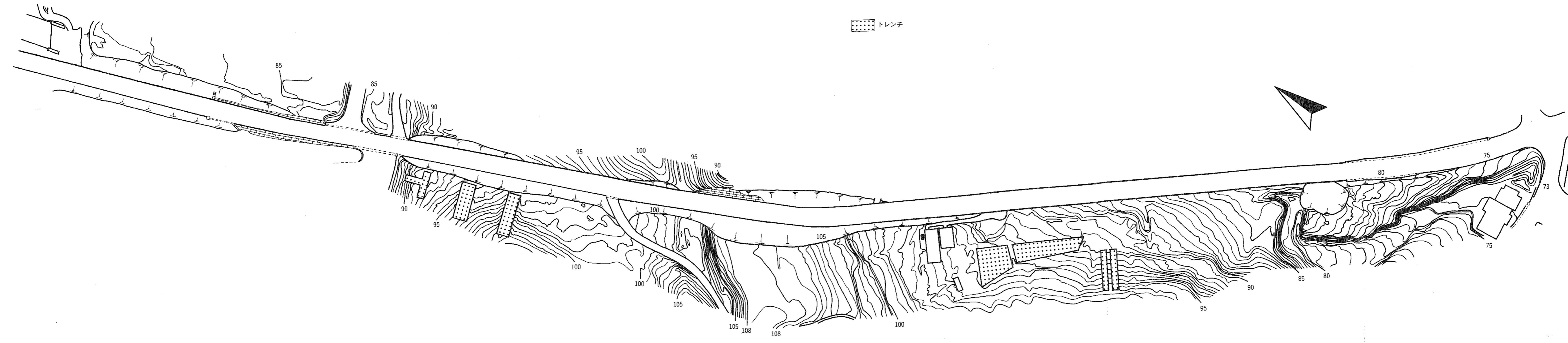
館跡として周知されていた本遺跡は、県教育委員会文化課による事前の試掘調査が行われなかったため、各年度の本調査時に調査区に試掘トレンチを入れて層序等の確認を行った。その結果を得て、平成6年度のB区と平成7年度のD・E区では重機を使用して盛土及び表土の除去を行った。なお、調査区域内に排土場所を確保できず、またE区には現道の工事(昭和30年代)による厚さ1～8m程の盛土(約3,000㎡の範囲)が存在したため、平成6・7年度では排土を搬出することとし、必要に応じて随時10tダンプを使用した。精査は、基本的には堅穴住居跡は4分法、土坑類・井戸・柱穴状ピット・陥し穴等は2分法、曲輪等の各平場遺構・堀・土塁・溝跡などは適宜ベルトを設定して覆土の観察を行った。遺物の取り上げは、遺構外出土のものはグリッド単位で層位を記入し、遺構内では遺構名と埋土層位を記入して取り上げている。出土地点を計測した遺物については遺構内外とも取り上げ番号も併せて記入した。

c 遺構の記録

遺構の記録は主に実測図作成と写真撮影により、作図に表現できないことはフィールドカードに記録している。図面は、遺構の平面形・焼土等の範囲・遺物出土状況等を記録した平面図、及び断面形・覆土の堆積状態・土塁の盛土構築状況等を記録した断面図を作成し、適宜エレベーション図も作成した。なお、柱穴状ピットについては、検出面でのプラン・土性により分類して、その基準としたもののみ断面図を作成し、他は特記事項等を含め一覧表として台帳に記



第7図 ブロック・グリッド設定図



第 8 図 調査区現況地形図

録した。作図は、各年度とも簡易遣り方測量を準用し、精査途中で必要に応じて複数回行ったが、平成6年度C区では写真測量によって、また調査前・後の地形測量も写真測量により行った。その縮尺は原則的には1/20とし、微細図は1/10、地形測量は1/80とした。なお、確認のために平成6・7年度には平板測量による1/100もしくは1/40の遺構配置図を作成している。写真は、遺構検出時の確認状況、埋土堆積状態、遺物出土状況、完掘状態というように精査の段階毎に撮影を行っている。フィルムは35mmのモノクロトリバーサル、さらにモノクロは6×7判のものも使用した。また、遺跡遠景、調査終了全景は航空写真撮影を行った。

3. 整理方法

図面の点検・遺物の洗浄・写真の整理は、原則的に現場で野外調査と平行して行うこととしたが、後半は煩雑な調査に追われ、一部は野外調査終了後に行った。

a 遺構図面

遺構図面は、点検後必要に応じて第2原図を作成した。写真測量を行ったC区遺構群は縮尺1/20として委託業者と粗図段階で数度打ち合わせを行い、点検指示を与えトレースまで行ったが、単独の遺構として必要と思われるものについては随時第2原図を作成した。挿図中の縮尺は、陥し穴は1/60、掘立柱建物跡は1/100、門跡は1/80、竪穴住居跡・竪穴状遺構は1/60、土坑類・井戸は1/40とした。曲輪・切岸・堀・土塁等の中世の普請（土木工事）に関する長大な遺構の平面図については1/250の付図、溝跡・柱穴状ピット群の平面図は1/80の付図とし、これらの断面図は1/40もしくは1/60を原則とした。なお任意の縮尺についてはスケールに付している。また使用したスクリーン・トーンの種類は凡例のとおりである。

b 遺物

遺物は洗浄後全出土遺物を点検し、実測や拓本の必要なものを選択した後登録して注記・接合・復元を行った。報告書に掲載した遺物は、登録した中からさらに選択して実測・トレース・写真撮影・図版作成と作業を進めた。作業は調査員が仕事の計画と指示・点検、作業員が実際の仕事と分担している。報告書に記載した遺物の選択基準としては、摩滅が著しく判然としない縄文土器は省き、古代の遺物は完形品のすべてと遺構内出土の須恵器破片、陶磁器類については口縁部と底部破片のほとんどと模様のある体部破片、石器および石製品・鉄製品・木製品は出土したすべてを記載した。挿図中の縮尺は土器は1/3、中世陶磁器・石器は1/2、石製品・木製品・鉄製品は1/4を原則としているが、任意の縮尺についてはスケールを付している。

c 写真

野外調査中に撮影した写真は、フィルムの規格ごとにモノクロはネガアルバムにリバーサルフィルムはスライドファイルに整理した。いずれも撮影順に整理して台帳に記載した。遺物は登録したものを撮影し同様に整理を行った。なお遺物撮影は当センターの写真技師が当たった。

IV 検出遺構と出土遺物

3カ年にわたる発掘調査では、縄文時代・古代・古代～中世・中世・時期不明の5時期の遺構・遺物を検出・出土した。この5時期は出土遺物から時期の明確な遺構、遺物の出土はないが形態から時期の判断された遺構、単独で検出され時期が明確でない遺構などがあり、統一された明確な根拠に基づくものではない。古代～中世とした遺構は主に竪穴状遺構であり、後世の破壊により遺存状況が悪く、特定時期を判断できなかったものである。各時期の遺構の種別と数量は以下の通りである。

縄文時代	陥し穴	12基(B1・2、C1～10号)	古代	竪穴状住居跡	2棟(C2、E5号)
古代～中世	竪穴状遺構	4棟(E1～4号)	土坑	2基(D5・8号)	
中世	平坦地(曲輪・腰・帯曲輪・横矢桁形)	15カ所(C1～3、D1・2、E2～5・9～11、F6～8号)			
	犬走り状遺構	5カ所(E1～5号)	テラス状平場	14カ所(E1～14号)	
	切岸状遺構	5カ所(C1、E1～4号)	土塁	5基(C1、D1、E1・2、F3号)	
	堀跡	11条(A1・2、B1、C1～3、D1・5、E2・6、F4号)	虎口	1カ所(C1号)	
	道路状遺構	3カ所(C1・2、F1号)	階段状遺構	1カ所(D1号)	
	土橋	1カ所(C1号)	掘立柱建物跡	9棟(B1、C1～8号)	
	竪穴状遺構	1棟(C1号)	柱穴列	12条(B1・2、C1～8、E1・2号)	
	列木柵跡	4条(C1～4号)	土坑	1基(E12号)	
	溝跡	48条(A1～5、C1～8、D1～32、E1～3号)	井戸跡	3基(B1、D1・2号)	
	柱穴	1,615基(C区1,092基、D区390基、E区133基)			
時期不明	土坑	12基(A1～5、B1、D1～5、E13号)	溝跡	6条(A1～6号)	

以下各時期毎に検出した遺構と遺物について述べる。

1. 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、小判型1基と溝状11基の計12基の陥し穴が検出された。占地状況としては調査区北側の低位部(B区)に2基、中央の最高位部(C区)には小判型の1基を含む残り10基であるが、C区に位置するものは中世の削平整地と柱穴に切られ遺構の遺存状態はあまり良好ではない。遺物は中世時の掘削によるためと所謂狩猟場遺跡においては普遍的状況であるように出土量は極めて少ない。土器は小破片で摩滅が著しく判然とせず、石器は礫・剝片石器ともわずかである。

B1号陥し穴(第9図、写真図版1)

III D-7 c・d グリッドに位置し、地山面で検出したものである。平面形は開口部で長さ約3m、

幅約0.3mの溝状を呈する。長軸両端下部は末広がりになり、底面での長軸長は3.4m、幅は0.15mを測る。長軸方向は東-西にあり、等高線に平行する。検出面からの深さは0.5~1.1mを測り、底面は東側から西側に傾斜している。埋土は6層からなる自然堆積で最下層は壁崩落土と思われる地山土が厚く堆積する。遺物は出土しなかった。

B 2号陥し穴（第9図、写真図版1）

III D-8gグリッドに位置し、地山面で検出したものである。平面形は開口部で長さ約3.2m、幅0.5mの溝状を呈する。底面での長軸長は2.9m、幅は0.15~0.25mを測り、北側1/3ほどが一段低くなる。長軸方向は北西-南東にあり、等高線にほぼ平行する。検出面からの深さは約0.9m、底面の段差は約10cmを測る。埋土は黒ボク流入土と壁崩落の地山土の繰り返しによる自然堆積である。遺物は出土しなかった。

C 1号陥し穴（第9図、写真図版1）

IV F-8jグリッドに位置し、地山面で検出したものだが、中世の削平整地により遺構上部はかなり消失していた。平面形は溝状を呈するが、P878~880・882・917柱穴に切られ、南端は不明である。開口部の長さは推定3m前後、幅は0.2~0.25m、底面では幅0.14mを測る。長軸方向は北-南にある。検出面からの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。埋土は壁崩落土と思われる褐色系の単層である。遺物は出土しなかった。

C 2号陥し穴（第10図、写真図版1）

IV G-9a・bグリッドに位置し、地山面で検出したものであるが、C 1号陥し穴と同様に遺存状態はあまり良好ではない。平面形は溝状を呈するが、P522・523柱穴に切られ、北端は不明である。開口部の長さは推定3.8m前後、幅は0.3~0.4m、底面では幅0.2mを測る。長軸方向は北西-南東にある。検出面からの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。埋土は壁崩落の褐色土と黄褐色土が交互に堆積する。遺物は出土しなかった。

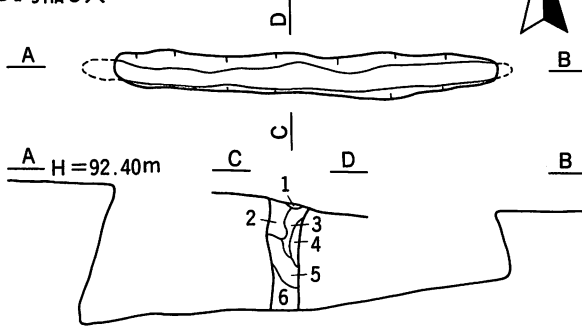
C 3号陥し穴（第10図、写真図版1）

IV G-10bグリッドに位置し、地山面で検出した。これも遺存状況は悪く、P470柱穴に切られる。平面形は開口部で長さ約4m、幅0.4mの溝状を呈し、底面長軸長は3.7m、幅は0.2~0.3mを測る。長軸方向は北西-南東にある。検出面からの深さ0.2~0.3mを測り、底面は南東側に傾斜している。埋土は褐色土と黒ボク土が交互に堆積する。遺物は出土しなかった。

C 4号陥し穴（第10図、写真図版1）

V G-1aグリッドに位置し、地山面で検出したものであるが、これも遺存状況は悪い。平面形は溝状を呈するが、P243~247柱穴に切られ、南端は不明である。開口部の長さは推定2.7m前後、幅は約0.3m、底面では幅約0.2mを測る。長軸方向は北々東-南々西にある。検出面

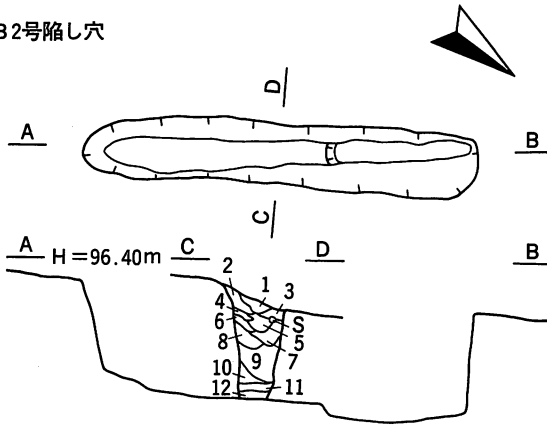
B1号陥し穴



B1号陥し穴

1. 10YR1.7/1(黒色) しまり・粘性ややあり、地山土微量
2. 10YR2/2(黒褐色) しまりあり、粘性ややあり、地山土ブロック状に混入
3. 10YR2/2(黒褐色) しまり・粘性ややあり、地山土少量
4. 10YR3/3(暗褐色) しまりややあり、粘性あり、地山土混入
5. 10YR2/2(黒褐色) しまり・粘性ややあり、地山土少量
6. 10YR6/8(明黄褐色) しまりややあり、粘性あり、地山土多量

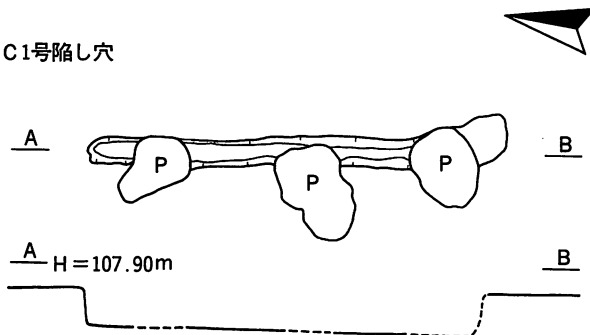
B2号陥し穴



B2号陥し穴

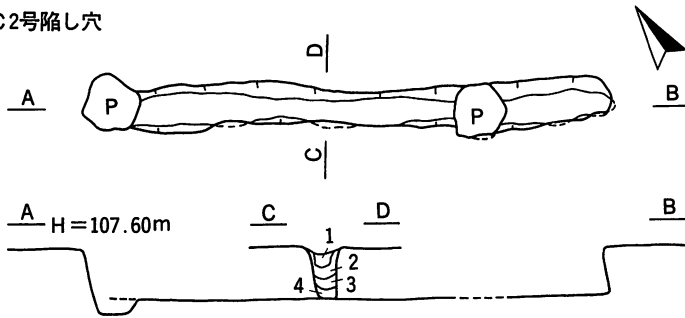
1. 10YR1.7/1(黒色) しまり・粘性ややあり、地山土微量
2. 10YR3/4(暗褐色) しまりややあり、粘性あり、地山土混入
3. 10YR2/2(黒褐色) しまり・粘性ややあり、褐色土・小礫全体的に少量
4. 10YR3/3(暗褐色) しまり・粘性ややあり
5. 10YR2/1(黒色) しまり・粘性ややあり、褐色土がブロック状に微量
6. 10YR4/3(にぶい黄褐色) しまり・粘性ややあり、小礫混入
7. 10YR3/4(暗褐色) しまり・粘性ややあり、小礫混入
8. 10YR1.7/1(黒色) しまり・粘性ややあり、地山土混入
9. 10YR4/4(褐色) しまり・粘性ややあり
10. 7.5YR5/6(明褐色) しまり・粘性ややあり、小礫混入
11. 10YR4/5(にぶい黄褐色) しまり・粘性ややあり、褐色土・小礫混入
12. 10YR2/3(黒褐色) しまり・粘性ややあり、褐色土が全体的に混じる

C1号陥し穴



第9図 縄文時代の遺構(陥し穴の1)

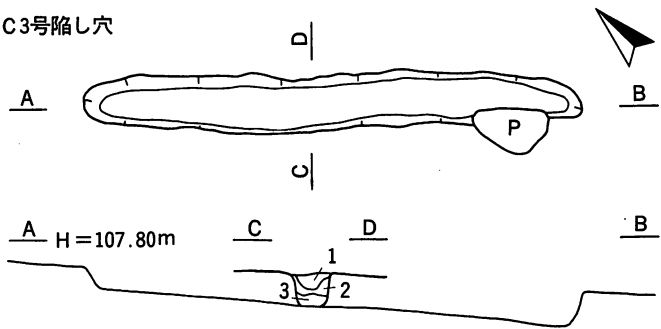
C2号陥し穴



C2号陥し穴

1. 10YR4/6(褐色)しまりあり、粘性ややあり、地山土ブロック状に混入
2. 10YR5/6(黄褐色)しまり・粘性あり、黒ボク土少量混入
3. 10YR4/6(褐色)しまり・粘性あり、黒ボク土全体的に混入
4. 10YR5/6(黄褐色)しまり・粘性あり、黒ボク土微量

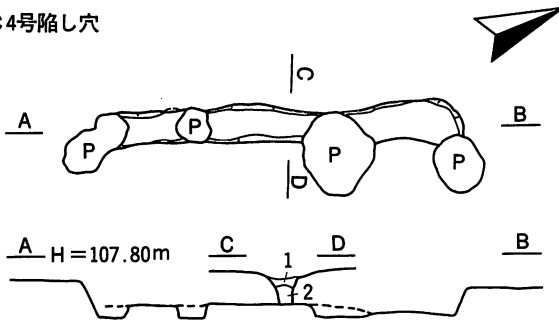
C3号陥し穴



C3号陥し穴

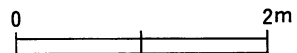
1. 10YR4/3(にぶい黄褐色)しまりあり、粘性ややあり、地山土ブロック状混入
2. 10YR3/4(暗褐色)しまりあり、粘性ややあり
3. 10YR4/6(褐色)しまりあり、粘性ややあり、黒ボク土全体的に混入

C4号陥し穴



C4号陥し穴

1. 10YR4/6(褐色)しまりあり、粘性なし、地山土全体的に混入
2. 10YR5/8(黄褐色)しまりあり、粘性ややあり、黒ボク土を全体的に混入



第10図 縄文時代の遺構(陥し穴の2)

からの深さは約0.2mを測る。底面は平坦であるが、北側が一段低くなり、段差は約10cmを測る。埋土は褐色系の壁崩落土が堆積する。遺物は出土しなかった。

C 5号陥し穴 (第11図、写真図版1)

VG-1a・bグリッドに位置し、地山面で検出したものである。本遺構はP257～259・265・266柱穴に切られる。平面形は開口部で長さ4.5m、幅0.2～0.3mの溝状を呈し、底面での長軸長は4.3m、幅は約0.2mを測る。長軸方向は北西－南東にある。検出面からの深さは0.6mを測り、底面は平坦である。埋土は褐色系の壁崩落土が堆積する。遺物は出土しなかった。

C 6号陥し穴 (第11図、写真図版1)

VG-2bグリッドに位置し、地山面で検出したものである。本遺構はP251・252柱穴に切られる。平面形は開口部で長さ4.6m、幅は0.35mの溝状を呈し、底面での長軸長は4.5m、幅は約0.3mを測る。長軸方向は北西－南東にある。検出面からの深さは0.4～0.6mを測り、底面は平坦である。埋土は褐色系の壁崩落土が堆積する。遺物は出土しなかった。

C 7号陥し穴 (第11図、写真図版1)

VG-3bグリッドに位置し、地山面で検出した。本遺構はP249・250柱穴に切られる。平面形は開口部で長さ4.15m、幅は約0.4mの溝状を呈し、底面での長軸長は4m、幅0.25～0.3mを測る。長軸方向は北西－南東にある。検出面からの深さは0.9～1.0mを測り、底面は平坦である。埋土は上半が褐色系、下半が黄褐色系の自然堆積である。遺物は出土しなかった。

C 8号陥し穴 (第12図、写真図版1)

VF-2jグリッドに位置し、地山面で検出したものであるが、削平により遺存状況は悪い。本遺構はP421・422柱穴に切られる。平面形は開口部で長さ3.5m、幅0.35mの溝状を呈する。底面での長軸長は3.4m、幅0.2～0.25mを測る。長軸方向は北東－南西にある。検出面からの深さ約0.3mを測り、底面は平坦である。埋土は黄褐色土の単層、遺物は出土しなかった。

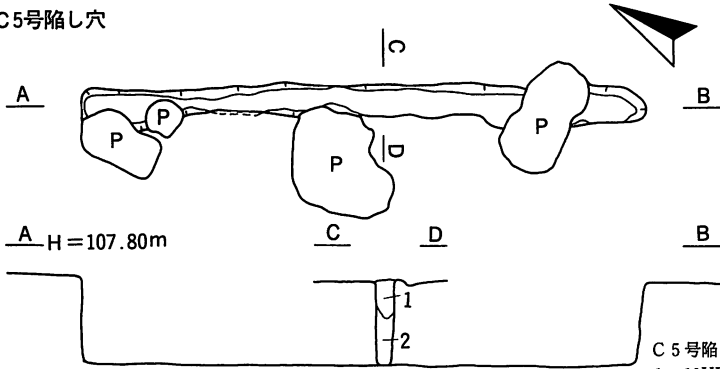
C 9号陥し穴 (第12図)

VF-2jグリッドに位置し、地山面で検出したものであるが、削平により遺存状況は悪い。平面形は溝状を呈するが、東端はP419柱穴に切られ、西側が調査区外にかかるため全容は不明である。確認された長軸長は開口部で約2.2m、幅約0.3m、底面での幅は約0.2mを測る。長軸方向は北西－南東にある。検出面からの深さは0.2～0.3mを測り、底面は平坦である。埋土は壁崩落の褐色土の単層である。遺物は出土しなかった。

C 10号陥し穴 (第12図、写真図版1)

VG-2dグリッドに位置し、地山面で検出したものである。平面形は小判型の楕円形を呈し、規模は開口部で1.8×1.3m、底面で1.3×0.7mを測る。長軸方向は概ね東－西にある。検出面からの深さは1.4mを測り、底面は平坦である。横断面形はおよそV字状を呈し、下部で内

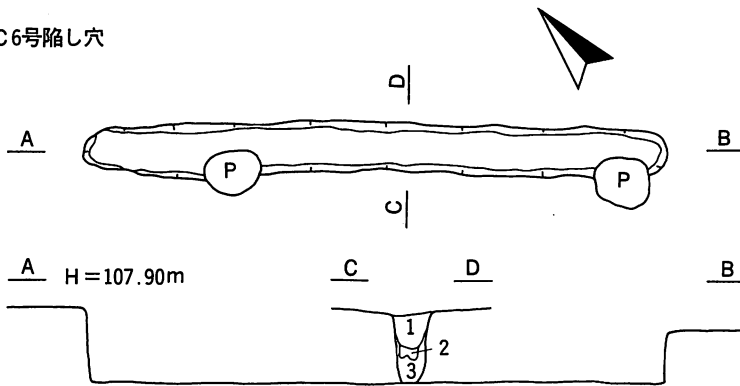
C5号陥し穴



C5号陥し穴

1. 10YR4/6(褐色)しまりあり、粘性ややあり、黒ボク土全体的に混入
2. 10YR4/6(褐色)しまりあり、粘性ややあり、黒ボク土微量

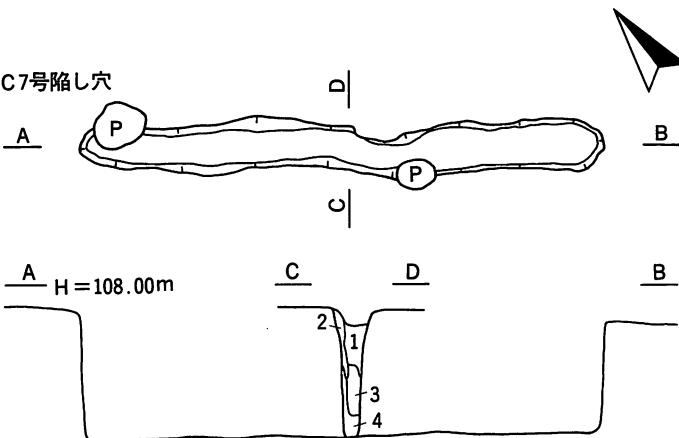
C6号陥し穴



C6号陥し穴

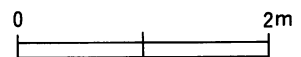
1. 10YR4/6(褐色)しまりややあり、粘性あり、黒ボク土全体的に混入
2. 10YR4/4(褐色)しまりややあり、粘性あり、黒ボク土1より多い
3. 10YR4/6(褐色)しまりあり、粘性ややあり、黒ボク土1・2より多い

C7号陥し穴



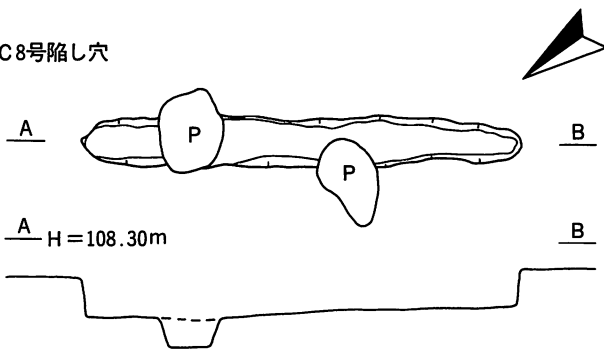
C7号陥し穴

1. 10YR4/6(褐色)しまり・粘性あり、黒ボク全体的に混入
2. 10YR5/8(黄褐色)しまり・粘性あり、黒ボク土極めて微量
3. 7.5YR5/8(明黄褐色)しまりややあり、粘性あり、黒ボク土微量
4. 7.5YR5/6(明褐色)しまりややあり、粘性あり、黒ボク土微量

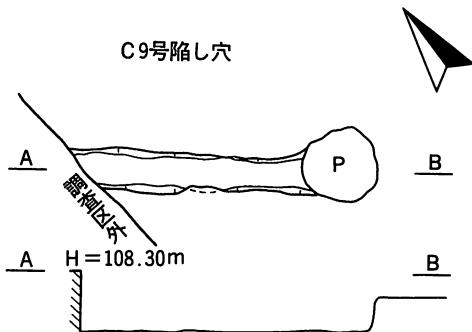


第11図 縄文時代の遺構(陥し穴の3)

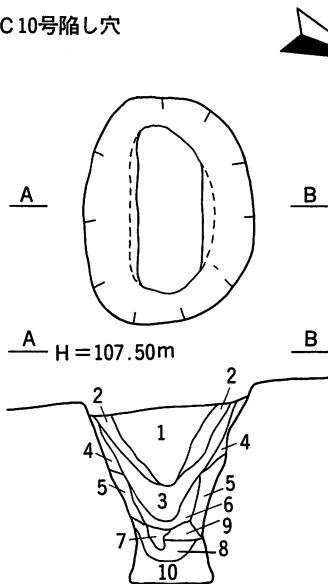
C8号陥し穴



C9号陥し穴

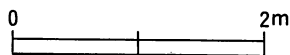


C10号陥し穴



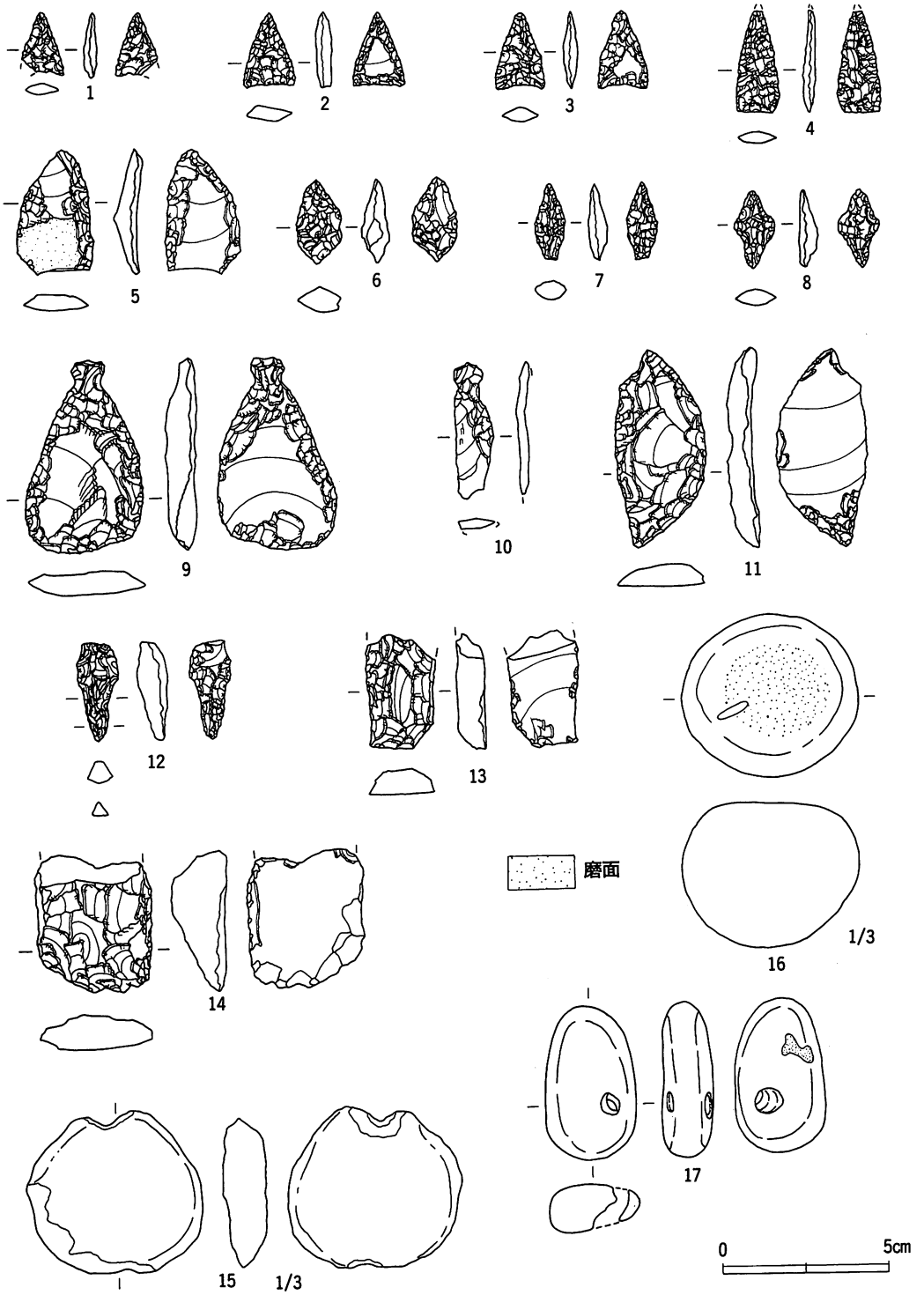
C10号陥し穴

1. 10YR3/4(暗褐色)しまりあり、地山土多量
2. 10YR3/4(暗褐色)しまりあり、地山土少量
3. 10YR3/4(暗褐色)しまりややあり、地山土ブロック状に少量
4. 10YR5/8(黄褐色)しまりややあり、黒ボク土多量
5. 10YR5/8(暗褐色)しまりややあり、黒ボク土少量
6. 10YR3/4(暗褐色)しまりなし、地山土少量
7. 10YR3/4(暗褐色)しまりなし、地山土微量
8. 10YR3/4(暗褐色)しまりなし、地山土多量
9. 10YR4/6(褐色)しまりなし、黒ボク土少量
10. 10YR4/6(褐色)しまりなし



No.	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	産地
1	IVG9c	表土	石鏃	1.9	<1.3>	0.5	<0.6>	粘板岩	北上山地 古生界
2	VF1i	整地層	石鏃	2.1	1.5	0.5	1.1	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地胆沢川上流中新統
3	VL5f	II層	石鏃	2.3	1.5	0.4	1.0	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地 古生界
4	VJ6e	II層	石鏃	(3.3)	1.3	0.4	1.1	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地 古生界
5	VG3c	表土	石鏃?	3.7	2.3	0.7	4.4	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地胆沢川上流中新統
6	VL5e	II層	石鏃	2.5	1.4	0.85	2.0	赤褐色凝灰岩	北上山地 古生界
7	VL6b	II層	石鏃	2.3	0.9	0.6	0.9	チャート	北上山地 古生界
8	VL5e	II層	石鏃	2.3	1.2	0.6	0.9	チャート	北上山地 古生界
9	IA9j	表土	石匙	5.8	3.5	0.9	1.71	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地胆沢川上流中新統
10	F区	表採	石匙	4.1	<1.2>	<0.4>	<1.5>	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地 古生界
11	VL5d	II層	石鏃	2.0	1.4	0.9	2.5	赤褐色凝灰岩	北上山地 古生界
12	IVF9i	盛土	不定形嘴状	6.0	2.8	0.7	12.3	粘板岩	北上山地 古生界
13	IVG8a	表土	不定形	<3.4>	2.1	0.9	<7.2>	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地胆沢川上流中新統
14	IVG10g	整地層	不定形	<4.2>	3.5	1.7	<24.3>	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地胆沢川上流中新統
15	IVG10f	III層	石鏃	7.9	7.3	2.0	145.1	角閃石デイサイト	奥羽山地東縁部 中新統
16	VII1a	砂利層	磨石	10.8	9.9	8.8	1320.0	輝石安山岩	胆沢川～夏油川下流新第三系鮮新統
17	IVG10f	III層	穴あき石	4.7	2.8	1.5	23.8	細砂質凝灰岩	奥羽山地中軸部 中新統

第12図 縄文時代の遺構(陥し穴の4)



第13図 縄文時代の遺物（石器）

湾する。埋土は10層に細分されるが、黒ボク系と褐色系に大別できる崩落と自然流入の繰り返しで交互に堆積する。遺物は出土しなかった。

2. 古代及び古代～中世の遺構と遺物

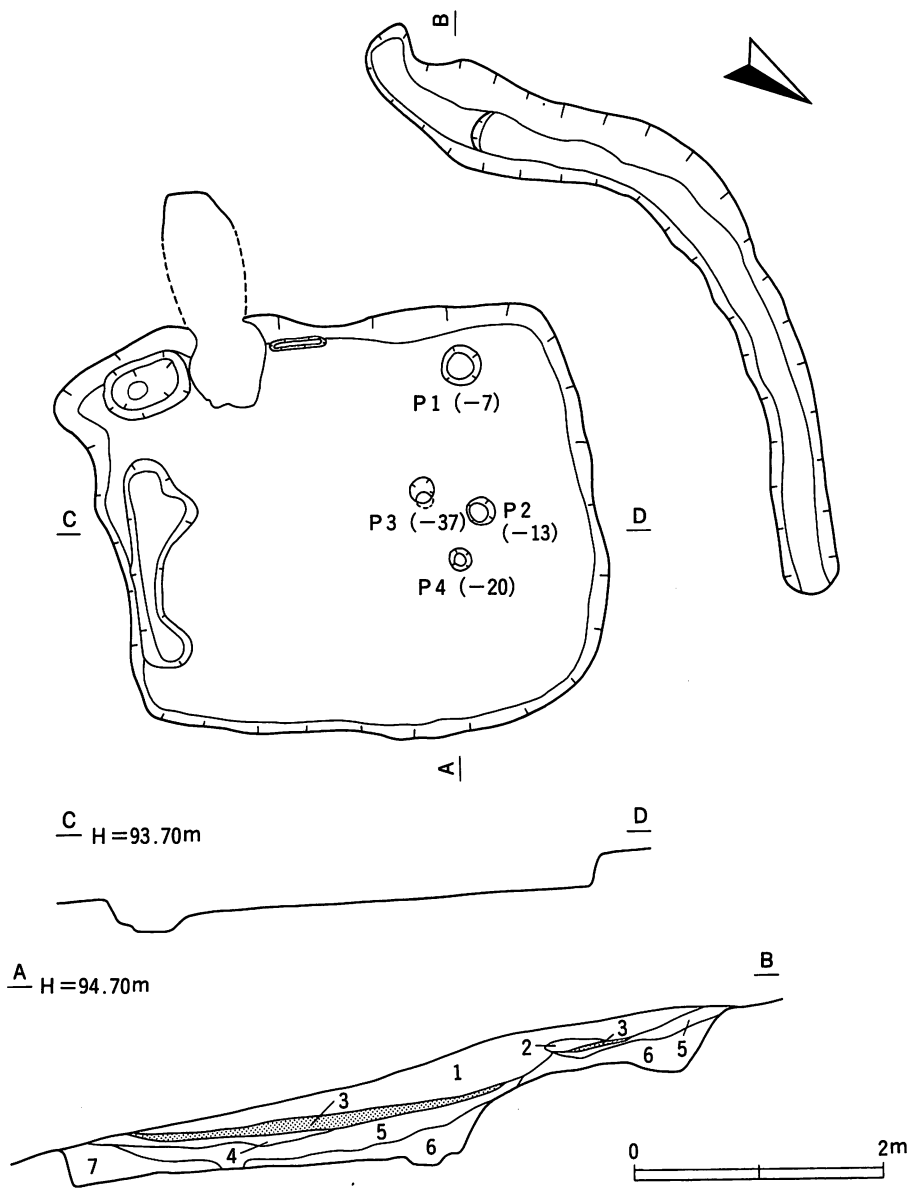
古代の遺構としては、C区とE区で各1棟の計2棟の竪穴住居跡が検出された。遺物が出土せず、遺存状態が悪いため時期の特定が適わず古代～中世とした遺構については、残存形態と時期の明確な遺構との重複関係に基づくものであり、E区の方形基調の竪穴状遺構4棟とD区の土坑2基がそれである。遺物は前2棟からの土師器と沢地形を利用した掘底旧表土や切岸等の斜面から須恵器の坏と甕の破片がわずかに出土している。

E5号竪穴住居跡（第14・15・18図、写真図版2・3）

平成7年度調査地E区のV I -5・6 g・hグリッドに位置する。本遺構は中世の普請であるE3曲輪の整地盛土下の褐色土（漸移層）上面で、5×3m程の不整な廃棄焼土の広がりを確認したため、ベルトを設定して掘り進めたところ竪穴住居跡と判明したものである。また、この北西山側で1m程の間隔をもって平行するL字状の溝跡が検出され、地形状況と位置関係から竪穴住居に伴う排水機能の溝跡と判断したものである。平面形は歪な方形を呈し、北側壁長約3m、南側壁長約2.8m、西側壁長約4m、東側壁長約3.5mを測る。主軸方位はS-45°-W、床面積は10.8㎡である。壁はやや外傾して立ち上がり、壁高は30～45cmを測る。埋土は中世の整地盛土と廃棄焼土下に黒ボク土がレンズ状に堆積する。床面は概ね平坦であるが、東方向谷側にやや傾斜している。床面施設は、カマドの南側南西隅には楕円形プランで鍋底状を呈する開口部70×45cm、深さ約15cmを測る貯蔵穴、カマド北側には幅約8cm、深さ約4cmの壁溝の一部が存在する。南壁際では不整な落ち込みを確認したが、竪穴掘削時の掘り方痕跡と思われる。柱穴は不規則配置の4基を検出した。カマドは西壁南側に付設され、本体は天井部架構材に長さ40cm前後の垂角礫、袖部芯材には大きさ30cm前後の扁平な自然石を使用していた。本体中央には扁平礫に被せて土師器坏(4)を利用した支脚が検出されている。煙道部は長さ約1m、幅約50cmの掘り込み式で西方向山側に上り勾配となっていた。北西の溝跡は直線距離で総長約6m、幅約50cm、深さ13～50cmで西方向の山側が深く、谷側との高低差は約50cmを測る。遺物はカマドからロクロ成形土師器の坏形土器、鉢形土器と甕形土器破片が各1点出土した。

C2号竪穴住居跡（第16・18図、写真図版2・3）

平成6年度調査地C区のV G -3 eグリッドに位置し、検出面は地山（中世削平整地面）である。本遺構はC2号腰曲輪とC3号堀跡の普請により南側の大半が掘削され消失し、またカマドの煙だしピットはC1号列木柵に掘り込まれ、原形を止めない。平面形と規模は一辺4m程の方形と推定され、遺存する西壁長は約3.5m、北壁長は1.2m、主軸方位はN-45°-Wである。壁は外傾して立ち上がり、残存壁高は約30cmを測る。埋土は黒ボク系の3層からなる。床面は

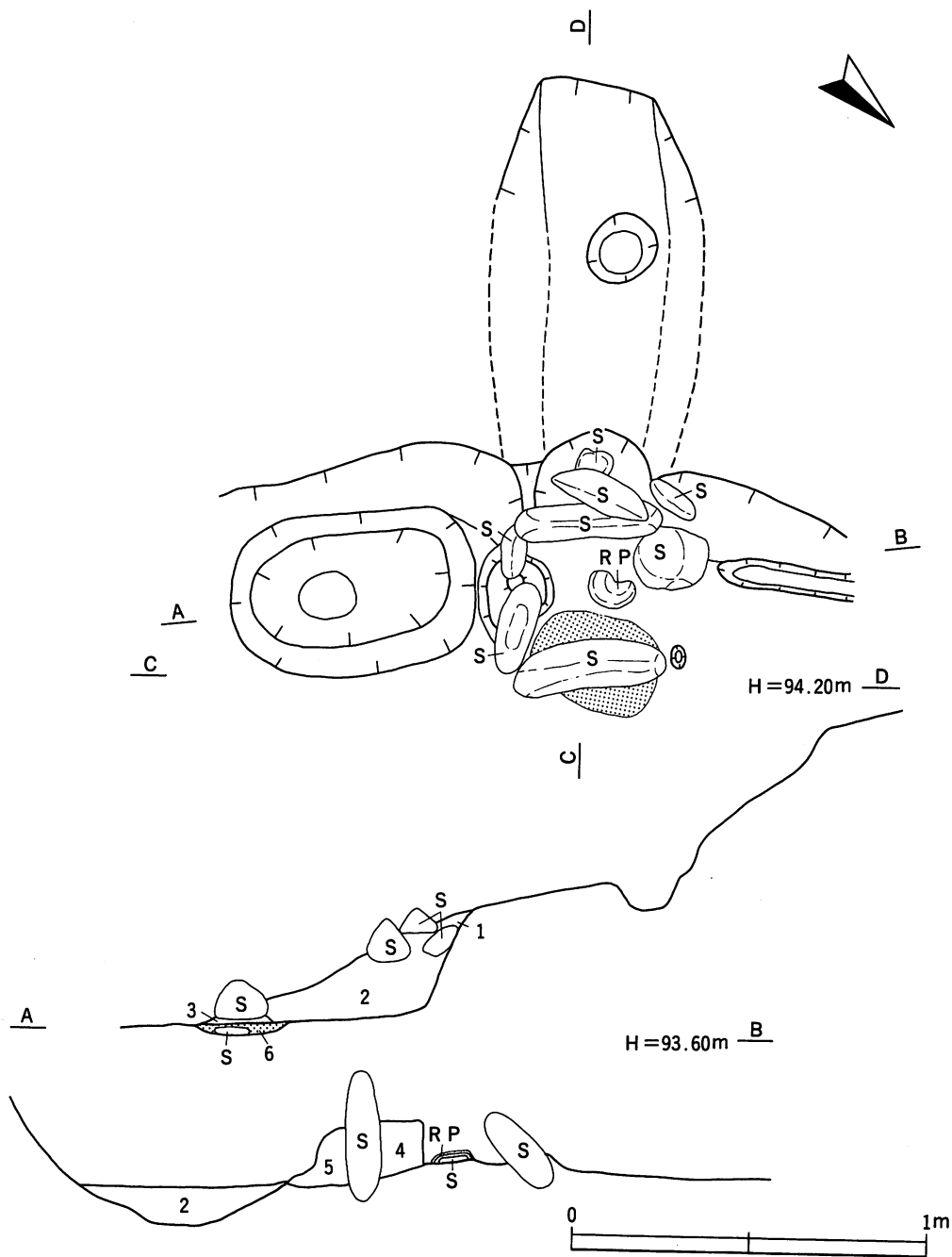


E 5号竪穴住居跡

1. 10YR5/6(黄褐色)しまり極めてあり、粘性あり、中世整地盛土
2. 10YR2/2(黒褐色)しまり極めてあり、粘性あり、中世整地盛土
3. 7.5YR5/6(明褐色)しまり極めてあり、粘性あり、中世整地盛土(廃棄焼土)
4. 7.5YR2/2(黒褐色)しまり極めてあり、粘性あり、中世整地盛土(焼土混入)
5. 10YR2/1(黒色)しまりなし、粘性あり
6. 10YR3/4(暗褐色)しまり・粘性あり
7. 10YR3/4(暗褐色)しまり・粘性あり、小礫混入

- P 1 10YR3/4(暗褐色)しまりなし、粘性あり
 P 2 10YR2/1(黒褐色)しまりなし、粘性あり
 P 3 10YR3/4(暗褐色)しまりなし、粘性あり
 P 4 10YR2/1(黒褐色)しまりなし、粘性あり

第14図 E 5号竪穴住居跡



E 5号竪穴住居跡カマド

1. 10YR3/4(暗褐色)しまりなし、粘性あり、炭化物・焼土粒少量
2. 10YR4/4(褐色)しまりあり、粘性なし、炭化物・焼土粒微量
3. 10YR3/4(暗褐色)しまりあり、粘性なし、炭化物微量、焼土粒少量
4. 7.5YR4/4(褐色)しまりあり、粘性なし、炭化物・焼土粒少量
5. 7.5YR4/6(褐色)しまり極めてあり、粘性ややあり、炭化物・焼土粒少量
6. 5YR4/6(赤褐色)しまり極めてあり、粘性なし、燃焼部焼土

第15図 E 5号竪穴住居跡カマド

概ね平坦で、堅締である。床面施設はカマドの東側北東隅に開口部 60×45 cmの楕円形で、深さ約 13 cmの貯蔵穴が検出されたに止まる。カマドは西壁北側に付設されているが、本体は燃烧部焼土以外の痕跡は認められなかった。煙道部は長さ約 1 m、幅約 30 cm、深さ約 20 cmで掘り込み式と推定される。遺物は煙道部からロクロ成形の壺形土器 1 個体の上半が破砕状態で出土した。

E 1 号竪穴状遺構（第 16 図、写真図版 2）

平成 7 年度調査地 E 区の V I - 6 j ・ V J - 7 a グリッドに位置する。検出面は地山であるが、遺構の位置する緩斜面（E 9 号曲輪）は畑地としてかなり掘削されており、遺存状況は極めて悪い。検出当初は位置関係から D 5 号帯曲輪の続き残存部と考えていたものだが、精査の結果、壁周溝と柱穴が確認されたため、竪穴状遺構と判断したものである。本遺構は E 2 号竪穴状遺構を切る。平面形と規模は遺存部が極めて少なく全容は不明であるが、残存する西壁長は約 10 m を測り、方形もしくは長方形基調のプランと推定される。壁は外傾して立ち上がり、遺存する壁高は 30～40 cm である。埋土は全体的に小礫の混じる黒ボク土 3 層からなる。壁溝は幅約 50 cm、深さ約 12 cm を測る。柱穴は壁に平行するように 7 基検出された。遺物は出土しなかった。

E 2 号竪穴状遺構（第 16 図、写真図版 2）

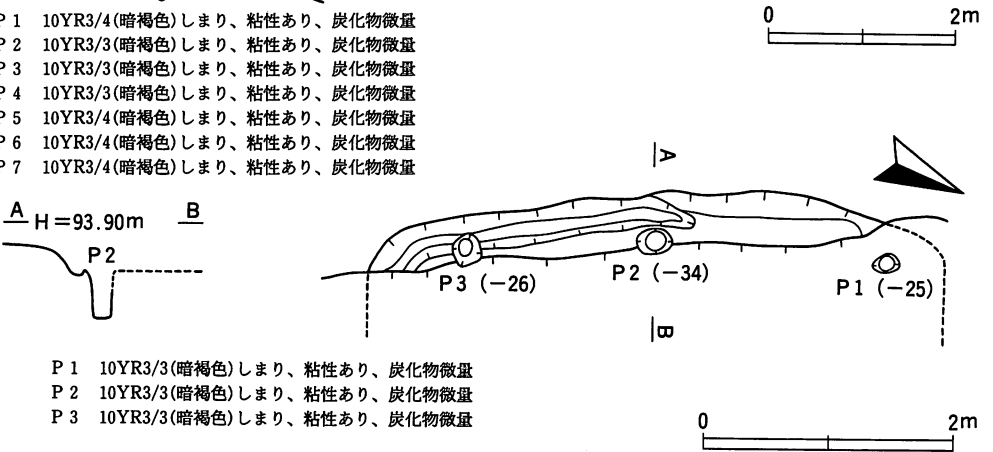
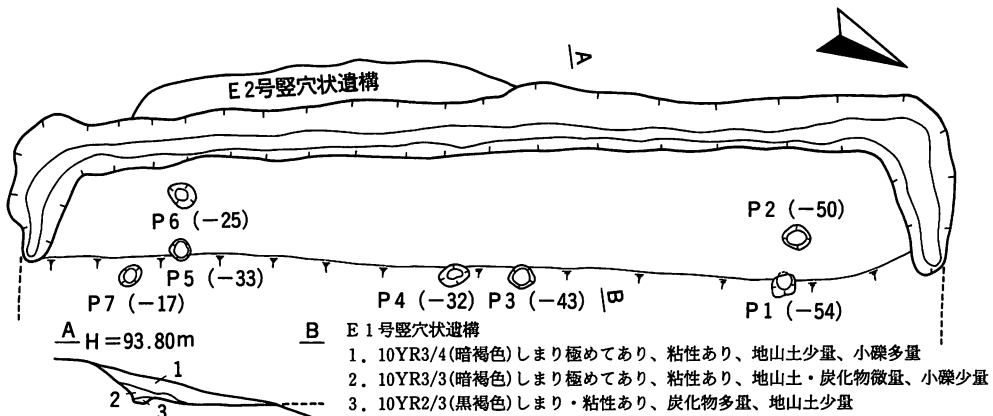
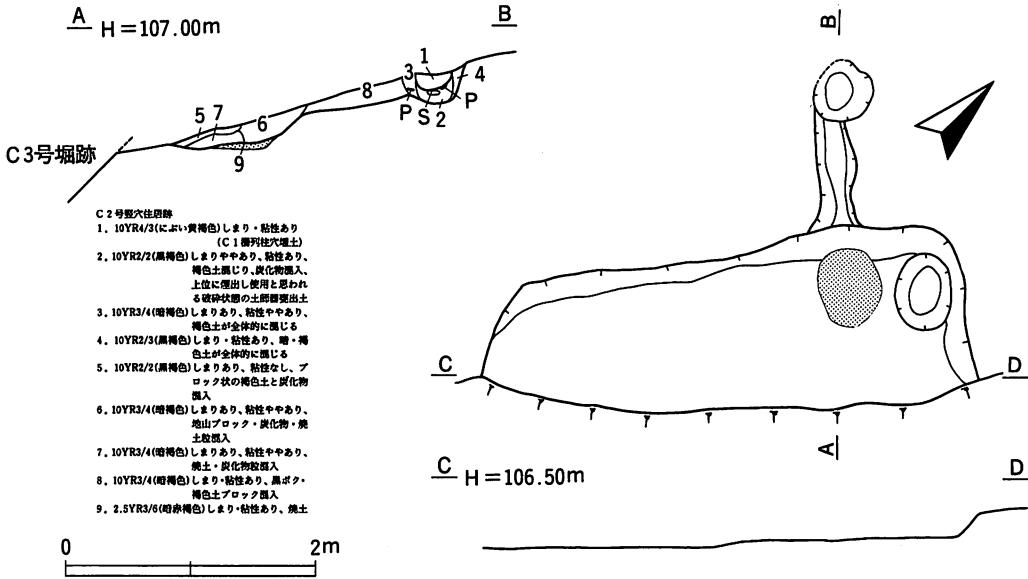
平成 7 年度調査地 E 区の V J - 7 a グリッドに位置し、E 1 号竪穴状遺構に切られる。検出時の状況は E 1 号竪穴状遺構と同様であり、遺存状況は極めて悪い。平面形は遺存する西壁からみて方形基調と推定され、残存する西壁長は約 4 m である。壁は外傾して立ち上がり、遺存する壁高は約 15 cm である。床面施設としては南半に幅約 20 cm、深さ 5 cm 前後の壁溝が存在し、壁際には等間隔の柱穴 3 基を検出した。遺物は出土しなかった。

E 3 号竪穴状遺構（第 17 図、写真図版 2）

平成 7 年度調査地 E 区の V I - 7 i グリッドに位置し、E 1・2 号竪穴状遺構同様掘削された畑地緩斜面（E 3 号曲輪）の地山で検出した。本遺構は E 区に位置する 4 棟のなかで最も遺存状況が悪く、壁と周溝の一部とその周辺に数基の柱穴が認められたに止まる。平面形は遺存する周溝から隅丸方形と推定されるが、規模は不明である。残存する壁高 3～20 cm、周溝は総長 4.5 m、幅約 25 cm、深さ約 5 cm を測る。柱穴は周溝内の 1 基である。遺物は出土しなかった。

E 4 号竪穴状遺構（第 17 図、写真図版 2）

平成 7 年度調査地 E 区の V I - 7 h グリッドに位置し、検出・遺存状況は前 3 棟と同様である。平面形は遺存する西壁からみて方形を呈すると思われ、残存する西壁長 2.5 m、南壁長 1.5 m、北壁長 0.7 m を測る。壁はやや外傾して立ち上がり、遺存する壁高は 3～12 cm である。埋土は壁際に壁崩落の褐色系が混じるが、基本的には黒ボク土の単層である。柱穴は西壁際に等間隔で 3 基検出され、いずれも柱痕が確認されている。両隅柱穴の周囲には柱固めの土盛りがされていた。遺物は出土しなかった。



第16図 C2号竪穴住居跡、E1・2号竪穴状遺構

E 5号竪穴住居跡柱穴

番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高
1	円形	0.18×0.17	0.12×0.09	0.20	93.008
2	円形	0.22	0.16×0.14	0.13	93.106
3	円形	0.20	0.13	0.37	92.877
4	円形	0.31×0.30	0.22×0.20	0.10	93.198

E 2号竪穴状遺構柱穴

番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高
1	略円形	0.21×0.25	0.12	0.25	93.055
2	略円形	0.29×0.20	0.17×0.16	0.34	93.138
3	略円形	0.23	0.14×0.10	0.26	93.228

E 4号竪穴状遺構柱穴

番号	概形	開口部	底径	深さ	底標高	柱痕径
1	方形	0.31×0.25	0.16×0.12	0.61	93.998	0.20×0.15
2	方形	0.37×0.33	0.23×0.20	0.55	94.067	0.23×0.18
3	方形	0.34×0.26	0.19×0.17	0.53	94.097	0.17

E 1号竪穴状遺構柱穴

単位 (m)

番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高
1	不整形	0.25×0.22	0.18×0.17	0.54	92.533
2	楕円	0.30×0.25	0.22×0.16	0.50	92.627
3	略方形	0.25×0.24	0.17×0.16	0.43	92.655
4	略楕円	0.33×0.21	0.18×0.10	0.32	92.790
5	略円	0.23×0.22	0.18×0.16	0.33	92.837
6	略楕円	0.31×0.25	0.14×0.13	0.24	92.984
7	略楕円	0.27×0.19	0.17×0.12	0.17	92.958

E 3号竪穴状遺構柱穴

番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高
1	楕円形	0.31×0.21	0.19×0.13	0.25	94.337

D 05号土坑 (第17図、写真図版2)

平成7年度調査地D区のVH-3 iグリッドに位置し、検出面は地山(中世削平整地層)である。本遺構はD 06溝跡に切られる。平面形は楕円形を呈し、規模は開口部100×70cm、底部80×45cmを測る。断面形は平鍋状を呈し、深さ約20cmを測る。埋土は黒ボク系土でD 06溝跡掘削時に地固めされたためか全体的に堅くしまり、上位には焼土ブロックが混じる。遺物は出土しなかった。

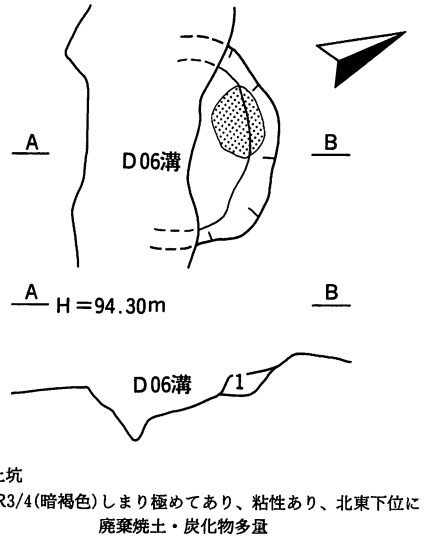
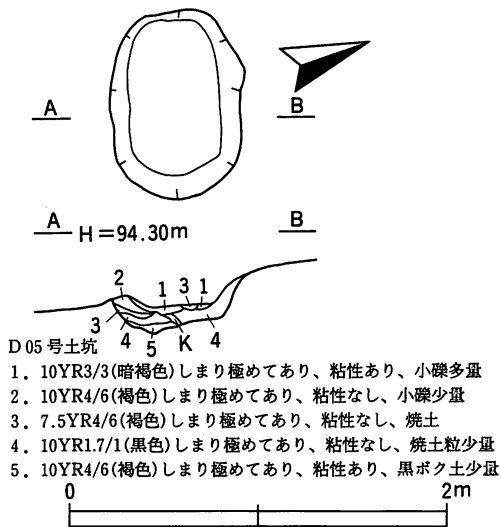
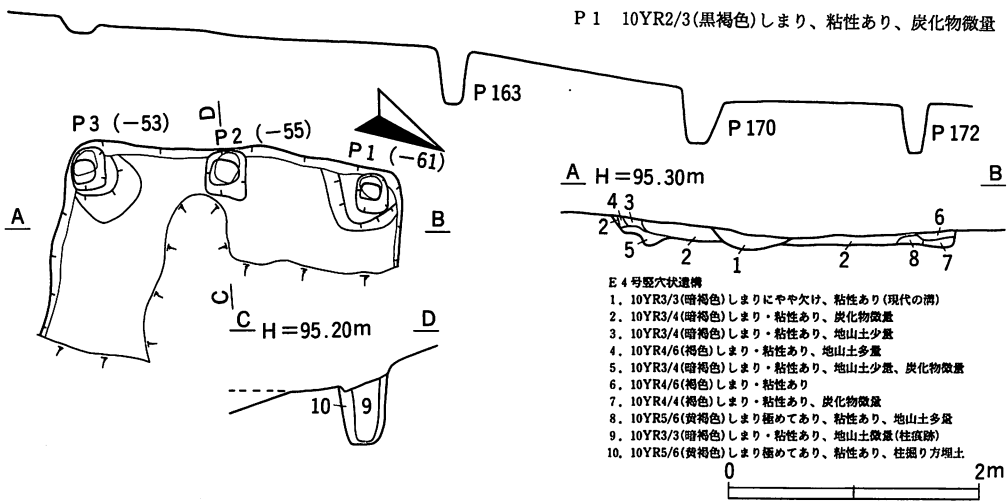
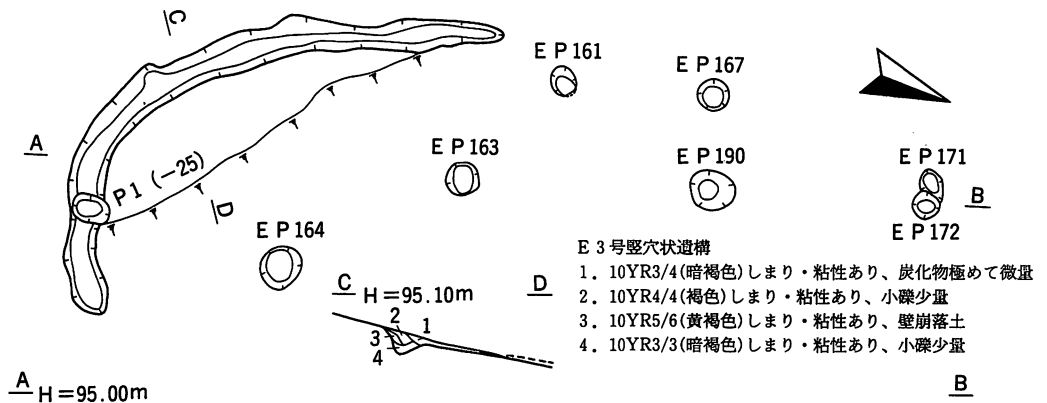
D 08号土坑 (第17図)

平成7年度調査地D区のVH-3 iグリッドに位置し、検出面は地山(中世削平整地層)である。本遺構はD 06号溝跡に破壊され、南側が消失していた。平面形は遺存状況からみて略円形もしくは楕円形を呈すると思われ、残存する長軸長は約1mである。壁は外傾し、深さ約20cmを測る。埋土は黒ボク土の単層で西側に焼土塊が認められた。遺物は出土しなかった。

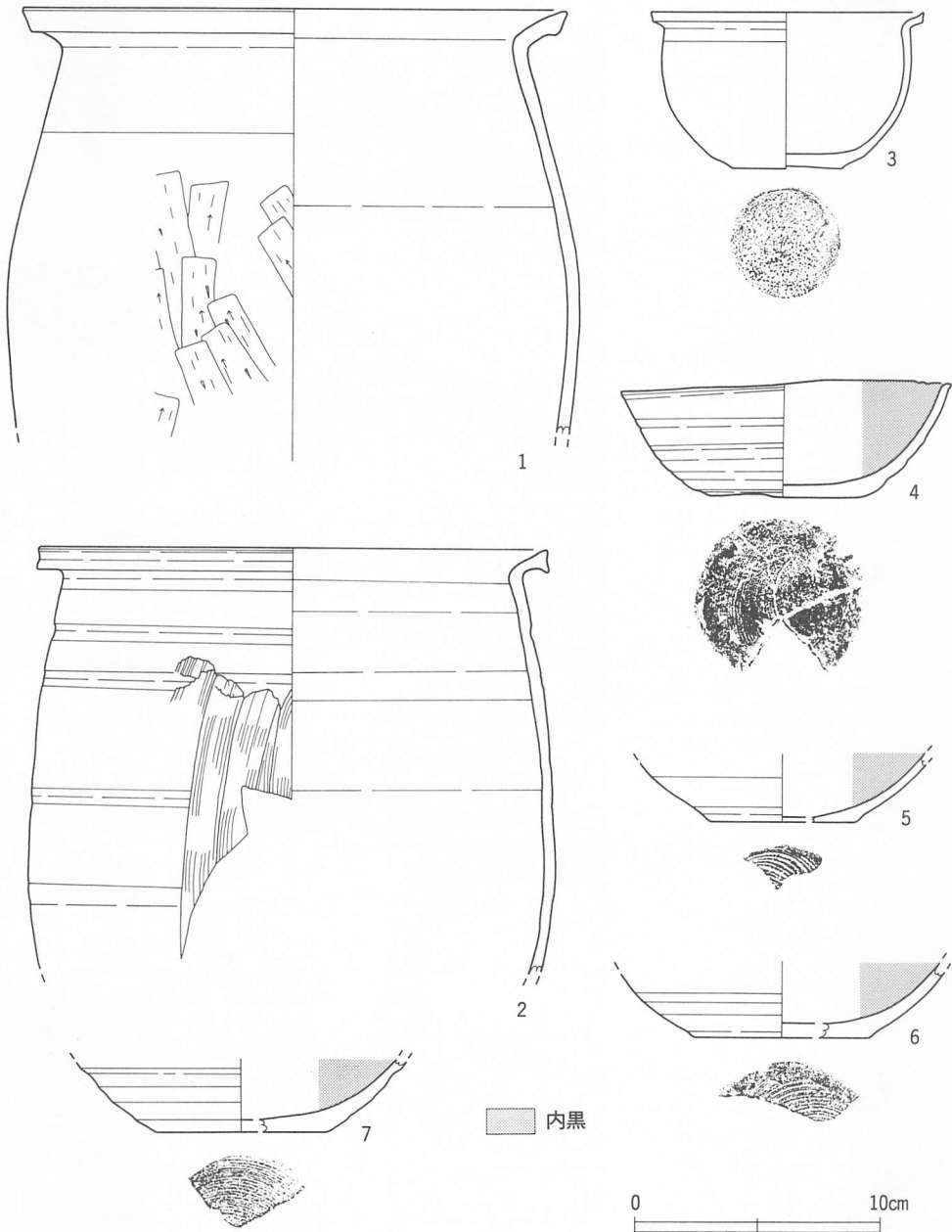
3. 中世の遺構

A区の遺構

A区は現況地形(縄張り)からみて城域外、総構え城下部分の北西端にあたり、館山遺跡2次調査地が東側と近接している。位置的に外郭防御線際にあたるため、検出された遺構は堀跡2条、溝跡6条、土坑5基と少ない。このうち堀跡2条は規模・形態から中世の館跡に伴うものと判断されたが、その他については出土遺物がなく、また中世に伴う可能性のある溝跡は、調査範囲が2~5mと狭く堀跡との関連した配置状況が不明なため、時期の特定は適わなかった。

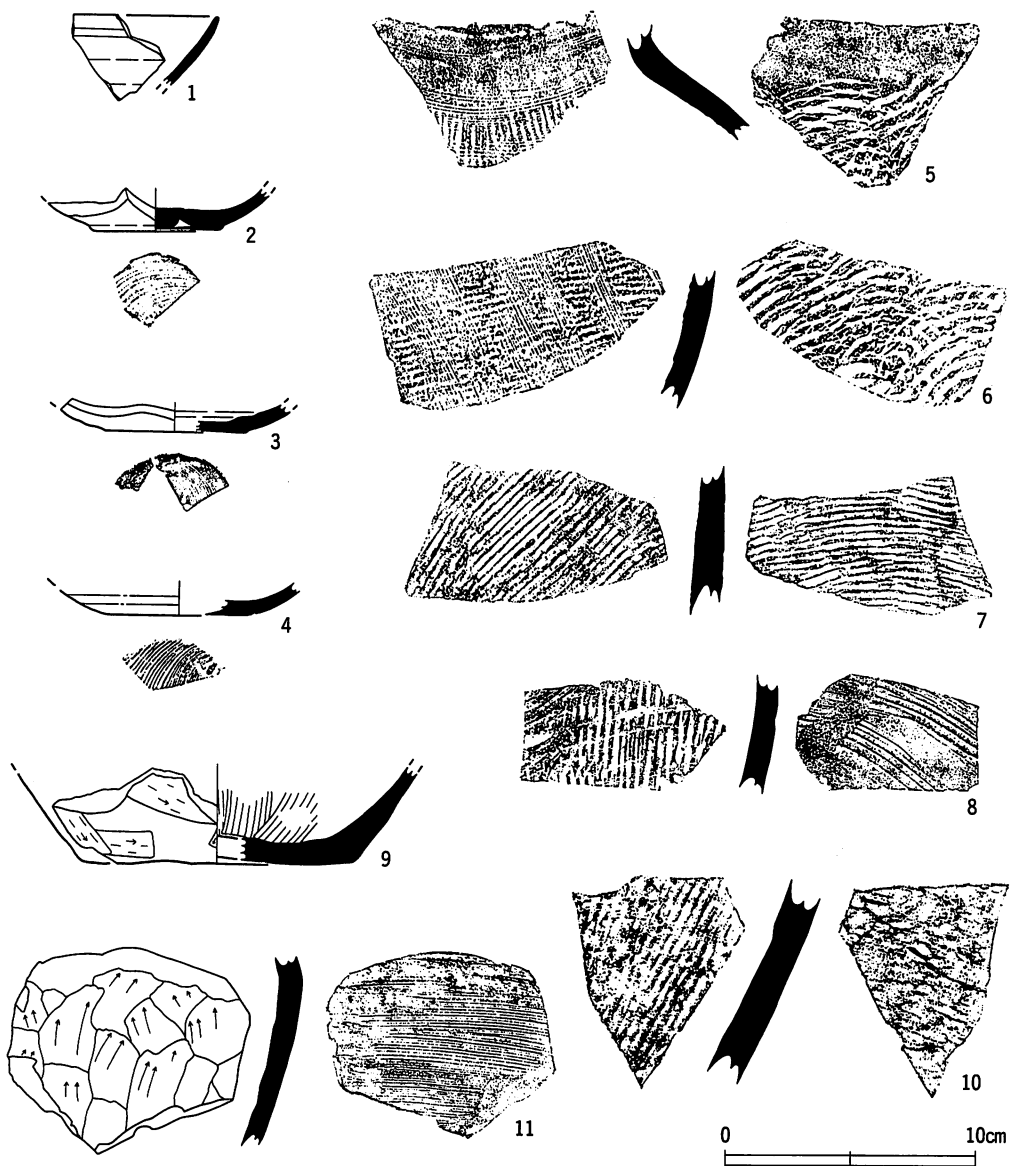


第17図 E 3・4号竖穴状遺構、D 5・8号土坑



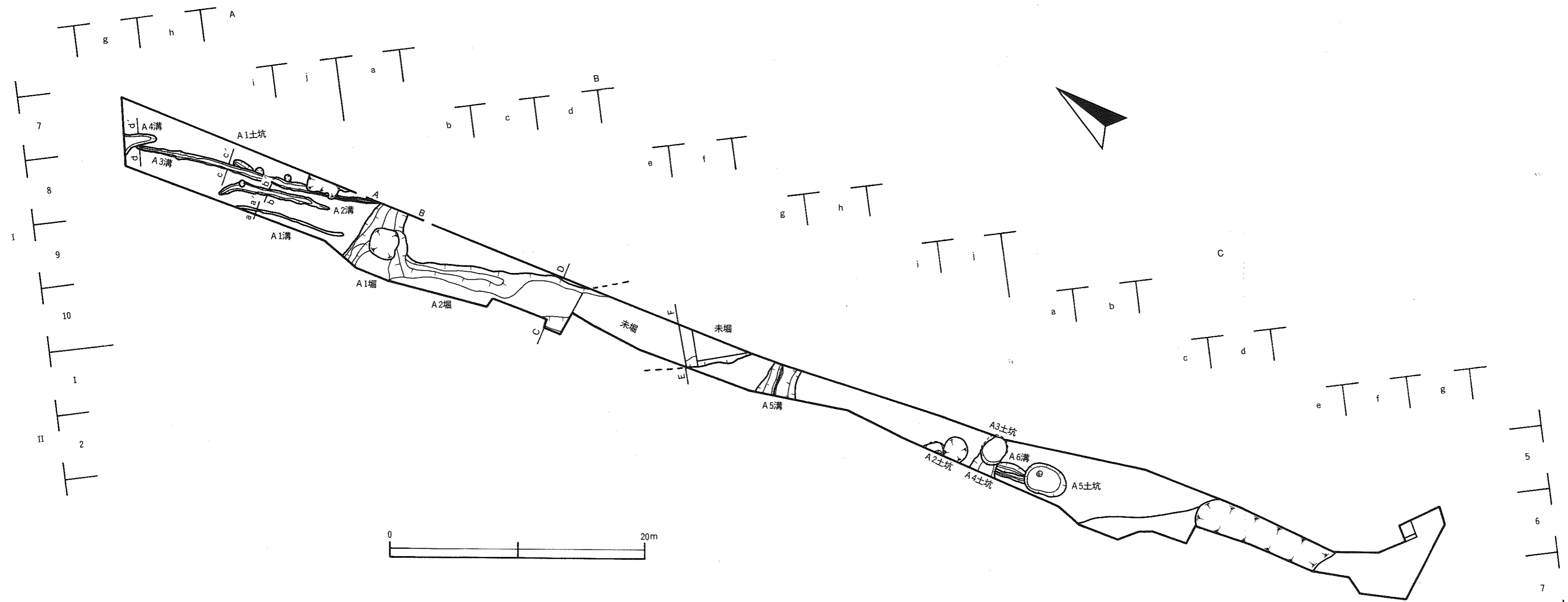
図番	出土地点	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器高	器厚	調整
1	VG3e	C2竪穴住居	煙道	甕	口縁～体部	22.3		<18.0>	0.5	ロクロ、外面ヘラケズリ
2	VI6g	E5竪穴住居	カマド	甕	口縁～体部	(20.8)		<17.3>	0.5	ロクロ、外面一部ヘラナデ
3	VI6g	E5竪穴住居	カマド	鉢	完形	(11.2)	4.5	6.4	0.3	ロクロ、回転糸切
4	VI6g	E5竪穴住居	カマド支脚	坏	完形	(13.4)	6.0	4.7	0.6	ロクロ、回転糸切、内面黒、内面一部ヘラミガキ
5	VI3d	D1堀	最下層(砂利)	坏	体部～底部		(6.0)	<2.4>	0.4	ロクロ、内黒、回転糸切
6	VI3d	D1堀	最下層(砂利)	坏	体部～底部		(7.2)	<2.9>	0.8	ロクロ、内黒、回転糸切
7	VJ46	E3切岸	表土	坏	体部～底部		(7.0)	<2.9>	0.7	ロクロ、内黒、回転糸切

第18図 古代の遺物(1)



図番	出土地点	遺構	層位	種別	器種	部位	底径	器高	器厚	胎土	その他の特徴
1	IVG10f	C3号堀	埋土3層	須恵器	坏	口縁部		(2.7)	0.4	褐灰	内外面ロクロ目
2	VG2f	C3号堀	埋土	須恵器	坏	底部	5.3	(1.7)	0.5	灰白	内外面ロクロ目、底部糸切り
3	IVG9f	C3号堀	3層	須恵器	坏	底部	5.7	(1.1)	0.5	灰	内外面ロクロ目、底部糸切り
4	VL5h	F4号堀	最下層(上面)	須恵器	坏	底部	(5.8)	(1.4)	0.6	灰	ロクロ目、糸切り
5	VJ5h	E2切岸	盛土	須恵器	甕	底部		(4.5)	1.0	褐灰	外面叩き目、内外面青海波文
6	VJ3i	E6号堀	最下層(砂)	須恵器	甕	体部		(5.5)	0.9	褐灰	外面叩き目→ヘラナデ、内面青海波文
7	VI3d	D1号堀	最下層(砂利)	須恵器	甕	体部		(5.8)	1.1	褐灰・暗赤褐	外面叩き目、内面当具痕
8	VK6f	E2号堀	14層	須恵器	甕	体部		(4.9)	0.8	灰	外面叩き目、内面当具痕→ナデ
9	IVH10h	DD04溝	埋土	須恵器	甕	底部	(11.0)	(3.9)	1.2	にぶ黄橙	外面縦ケズリ、内面ナデ目、焼成不良
10	VG2f	C3号堀	埋土	須恵器	大甕	体部		(8.2)	1.3	にぶ赤褐	外面叩き目、内面当具痕
11	VK4c	E1虎口	最下層	須恵器	甕	体部		(7.6)	0.9	褐灰	外面ケズリ、自然釉、内面、ハケ目

第19図 古代の遺物(2)



第20图 A区遗构配置图

A 1号堀跡（第20・21図、写真図版6）

A区北側IB-9・10 aグリッドに位置し、南北に長い調査区を横断して東西方向に走行する空堀である。東側には現況でわずかに堀跡の存在がうかがえるが、西側は現道工事の掘削により消失し、中央部には攪乱穴があるため全容は不明である。また西半ではA 2号堀跡と重複しており、旧状を止めない。完掘した形状からみて本遺構が新しいと判断された。検出できた範囲では、規模が長さ約5 m、実効堀幅は東側で約2.2 m、南北両壁の実効法高は約1 m、垂直高0.74 mを測る毛抜堀である。埋土は下位でわずかに自然堆積の様相を呈するが、ほとんど現道工事による客土であった。遺物は出土しなかった。

A 2号堀跡（第20・21図、写真図版6）

A区北半IB-10 a・b、IIB-1 c・d・e、2 e・fグリッドに位置し、調査区を縦断するように南北方向に走行する空堀である。北西側は現道工事の掘削により消失し、南側は工事の客土で埋め立てられているため全容は不明である。しかし調査区外の南方延長線上には途切れがちであるが、現況地形で堀跡と思われる痕跡が認められ、さらにその延長線にはB 1号堀跡が位置していることから、一連の遺構である可能性も考えられる。検出できた範囲では、規模が長さ約30 m、推定堀幅6 m前後、東西両壁の実効法高は約0.8 m、最大垂直高0.9 mを測る箱堀と推定される。東壁の北側中位には長さ約8 m、幅約0.3 mの犬走り状の平坦面があり、これに続くと思われるものがA 1号堀跡の北壁西側に存在することから本遺構が古いと判断した。埋土は東西両壁際に、壁崩落と考えられる部分的に暗褐色土が混じる黄褐色土が多量に堆積するほかは、ほとんどが現道工事による客土である。客土を除いた状態からは廃城以降現代に至るまで丘陵を越えるための道路として機能していたことが窺える。遺物は出土しなかった。

B区の遺構

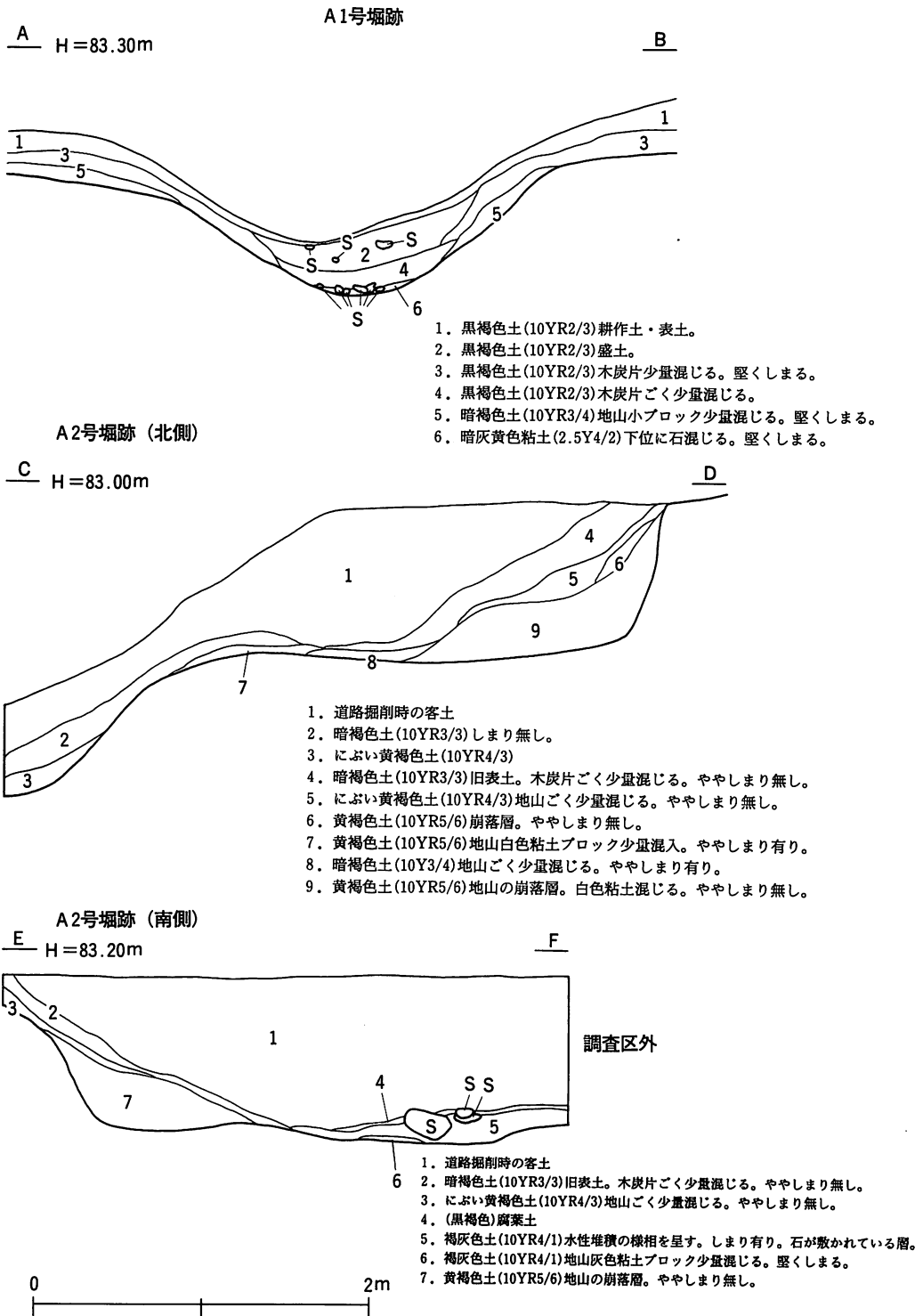
B区は現況地形（縄張り）からみて城域外、総構え城下部分の西端にあたる。調査区北側はややきつい傾斜面、南側は緩斜面という地形状況で遺構は南側でのみ検出されている。精査の結果、人工的な普請による整地は認められなかった。検出された中世の館跡に伴う遺構は掘立柱建物跡1棟、柱穴列（掘立柱建物跡？）2条、井戸跡1基、堀跡1条である。

B 1号掘立柱建物跡（第22図、写真図版6）

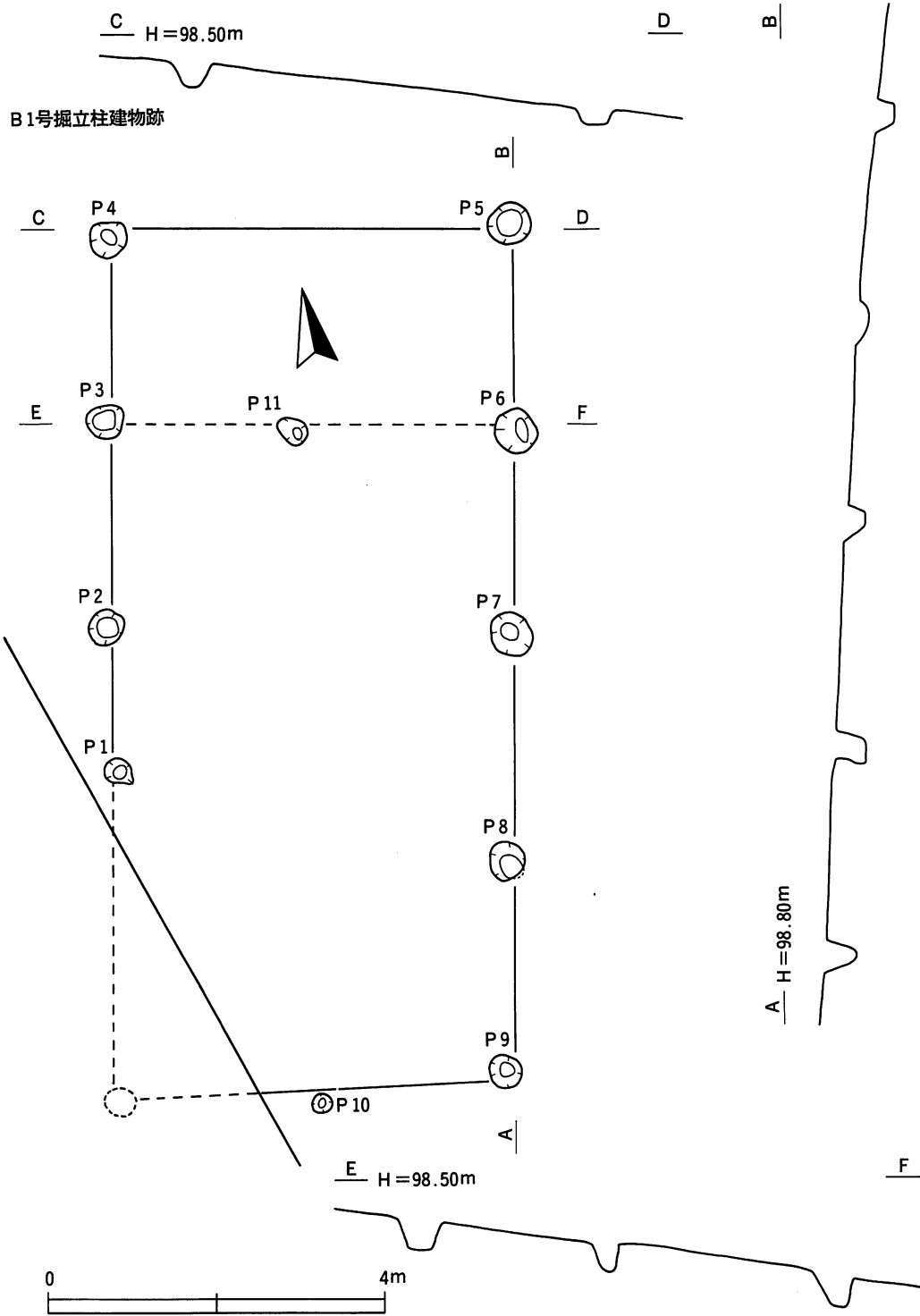
B区南西部IVE-3・4 e・fグリッドに位置し、南西隅が一部調査区外にかかる。B 1・2号柱穴列と重複するが新旧は不明である。平面形は2間×4間の直屋で、北側に1間×2間、南側に2間×3間の2部屋が見られる。桁行の軸方向はおよそ北-南である。規模は桁行約10 m、梁行約4.8 m、桁行柱間は約2.5 m、梁行柱間は約2.4 mを測る。遺物は出土しなかった。

B 1号柱穴列（第23図、写真図版6）

B区南西部IVE-4・5 gグリッドに位置する2間の柱穴列である。軸方向は北東-南西である



第21図 A区中世の遺構 (A1・2号堀跡)



第22図 B区中世の遺構 (B1号掘立柱建物跡)

が、南西側が調査区外にかかるため全長は不明である。本遺構は新旧関係は不明ながらB1号掘立柱建物跡と重複し、また南側にはB2号柱穴列が隣接している。検出できた範囲では柱間約2mで総長約4mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

B2号柱穴列 (第23図)

B区南西部IVE-4g、5g・hグリッドに位置し、B1号柱穴列およびB1号井戸跡とB1号土坑と隣接する柱穴列である。位置的にみてB1号掘立柱建物跡と重複するが、その新旧関係は不明である。軸方向は概ね北東-南西にあり、北東5m程の距離に延長方向でB1号堀跡が位置している。平面形は現状でB1号井戸跡とB1号土坑を囲むように2度屈曲する鍵形状の配列を呈するが、南西側が調査区外にかかるため全容は不明である。検出できた範囲では北東端の柱穴から3間(約7.3m)、3本目の柱穴から南東に屈曲して2間(約1.9m)、2本目から南西に屈曲して1間(約2.7m)となる。柱間は北東-南西方向では約2.5m、北西-南東方向の屈曲部では約2m、総延長では約13.8mを測る。柱穴から遺物は出土しなかった。

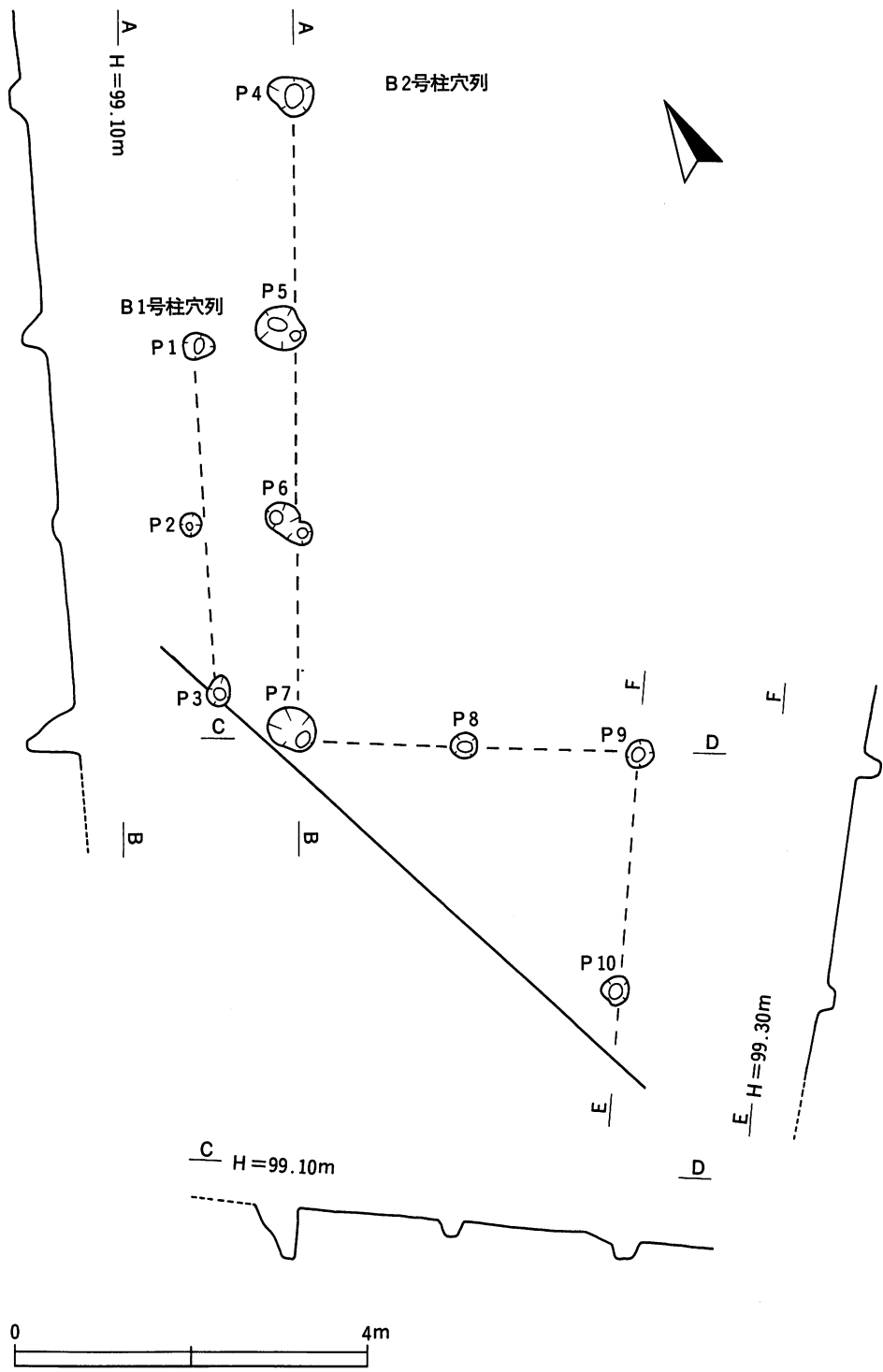
B1号掘立柱建物跡柱穴						B1・2号柱穴列柱穴					
単位 (m)						単位 (m)					
番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高	番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高
1	不整形	0.37×0.28	0.19×0.16	0.29	98.096	1	略円形	0.32×0.30	0.15×0.10	0.18	98.088
2	略円形	0.40×0.39	0.24×0.21	0.22	98.154	2	略円形	0.22×0.20	0.12×0.08	0.16	98.298
3	不整形	0.40×0.36	0.23	0.22	98.064	3	略楕円	0.30×0.28	0.14×0.11	0.18	98.423
4	不整形	0.42×0.40	0.20×0.14	0.36	97.858	4	不整形	0.51×0.44	0.30×0.24	0.18	97.905
5	略円形	0.47×0.43	0.30×0.26	0.23	97.716	5	不整形	0.53×0.48	0.11	0.26	97.988
6	略円形	0.52×0.50	0.26×0.21	0.23	97.716	6	不整形	0.21	0.10	0.09	98.325
7	略円形	0.54×0.46	0.18×0.17	0.24	97.825	7	不整形	0.51×0.44	0.18×0.13	0.55	98.017
8	略円形	0.42×0.40	0.30×0.25	0.18	97.833	8	略楕円	0.26×0.25	0.16×0.12	0.21	98.327
9	略円形	0.36×0.35	0.18×0.15	0.43	97.904	9	略円形	0.34×0.30	0.19×0.16	0.26	98.140
10	円形	0.19	0.09	0.18	98.278	10	略円形	0.30	0.20×0.17	0.16	98.434
11	不整形	0.34×0.26	0.14×0.13	0.21	97.918						

B1号井戸跡 (第24図)

B区の南側IVE-3gグリッドに位置する。平面形が大略円形を呈する井戸枠を持たない素掘りの井戸跡である。規模は開口部径約1.5m、底径80×70cm、深さ約1.8mを測る。断面形は概ね筒状を呈するが、開口部が外反する。埋土は黒ボク系の11層に細分され、上位は地山土混じりで堅くしまり、下位は水分を多量に含み植物遺存体が確認された。遺物は出土しなかった。

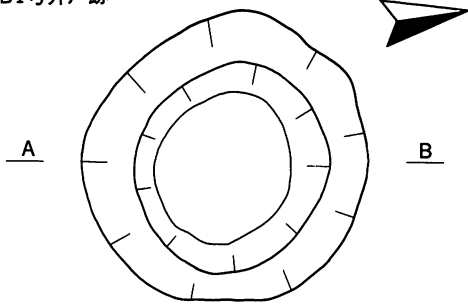
B1号堀跡 (第24図、付図1、写真図版6)

B区の南東部III E-10g、IVE-1・2g、2hグリッドに位置し、北東-南西に走行する空堀である。南側には現町道(旧道)が隣接平行している。本遺構は南西端が二股に別れていたため検出当初は溝跡2条としていたものだが、精査の結果二股部分は沢の痕跡であり、沢地形を利用した堀跡であることが判明したものである。北東側は調査区外の現道工事の掘削により消



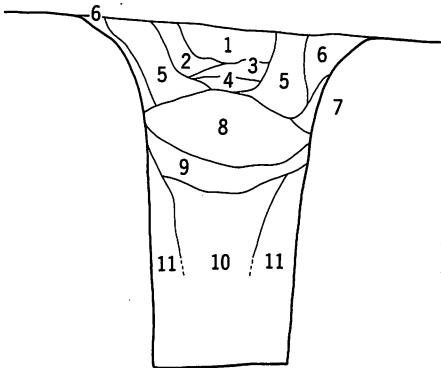
第23図 B区中世の遺構 (B1・2号柱穴列)

B1号井戸跡



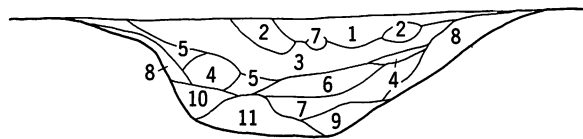
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山小ブロック微量混じる。堅くしまる。
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山小ブロック少量混じる。堅くしまる。
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山小ブロック大量に混じる。堅くしまる。
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山小ブロックごく微量混じる。ややしまり無し。
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山小ブロックごく微量混じる。堅くしまる。
6. 黒色土(10YR2/1)植物根大量混じる。ボソボソの土。
7. 黒色土(10YR2/1)地山粘土少量混じる。ややしまり有り。
8. 黒色土(10YR2/1)地山小ブロック微量混じる。ややしまり有り。
9. 黒褐色土(10YR2/2)植物遺存体混じる。しまり無し。水分多量含む。
10. 黒褐色土(10YR2/2)植物遺存体少量混じる。しまり無し。水分多量含む。
11. 黒褐色土(10YR2/2)植物遺存体少量、地山ブロック多量混じる。しまり無し。水分多量含む。

A H=98.00m



B1号堀跡 (西側)

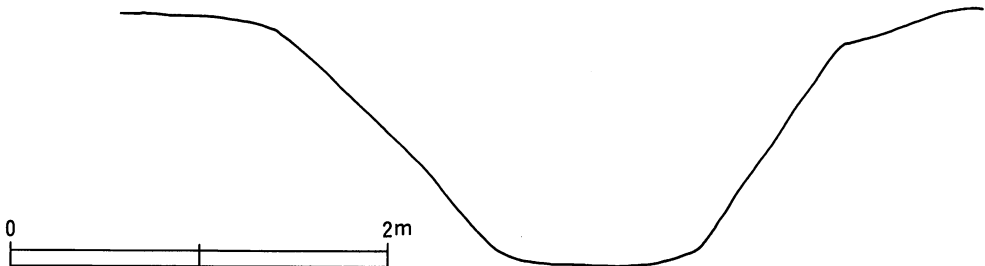
C H=97.50m



1. 黒色土(10YR1.7/1)地山ごく少量含み、堅くしまる。小礫混じる。
2. 明黄褐色粘土(10YR6/8)地山ブロック。
3. 褐灰色粘土(10YR4/1)酸化鉄随所に見られ、堅くしまる。地山ごく少量混じる。
4. 褐灰色粘土(10YR4/1)地山ブロック多量混じり、しまり有り。
5. 褐灰色粘土(10YR4/1)地山ブロック少量混じり、堅くしまる。
6. 褐灰色シルト混じり土(10YR4/1)水流による堆積の様相で粘土・シルトの互層。地山ブロックごく少量混じり、しまり無し。
7. 褐灰色シルト混じり土(10YR3/1)水流による堆積の様相で粘土・シルトの互層。地山ブロックごく少量混じり、しまり無し。
8. オリーブ褐色粘土(2.5Y4/6)地山ブロック少量混じり、堅くしまる。
9. 褐灰色粘土(10YR4/1)シルトやや少量及び少量の地山ブロック混じり、しまり有り。
10. 黄褐色粘土(10YR5/8)地山崩落層。白色粘土多量に混じり、しまり有り。
11. 黄褐色粘土(10YR5/8)地山崩落層。白色粘土多量に混じり、堅くしまる。

B1号堀跡 (東側)

A H=97.10m



第24図 B区中世の遺構 (B1号堀・井戸跡)

失しており全容は不明であるが、そのつながりは調査区外の現況から先記のとおりA 2号堀跡と一連のもの可能性がある。東側は人工的な箱堀となっているが、西側の二股部分はあまり手が加えられず、ほぼ沢地形のままであった。検出できた範囲での規模は、二股の北筋からは長さ約12 m、南筋からは約15 m、人工的部分は約6 mである。人工的部分での実効堀幅は約3 m、内壁（南壁）法高は約1.4 m、外壁（北壁）法高は約1.7 m、最大垂直高は1.2 mを測る。二股部分ではいずれも南西端に向かい狭く、そして浅くなる。二股の北側部分の延長3 m程のところにはB 1号井戸跡が位置しており、D区で検出された井戸跡や城域内で確認されたものにはすべて排水機能をもつ溝跡が付属し、それが堀跡に続いていることから、二股北側部分も本来は同様であったと思われる。埋土は上位に褐灰色系、下位に黄褐色系粘土と大別され、中位以下には部分的に水性堆積と思われる砂質土が認められる。遺物は出土しなかった。

C区の遺構

C区は城域内の中央北側、串団子状となっている高位部平坦地の東側主郭（柏山館）と西側副郭（松本館）を結ぶ、串部分の平坦地を中心とした範囲で、これに続くD区までの南側緩斜面を含む。全体の縄張りからみて緩斜面は丘陵南斜面中腹に設けられた腰曲輪の一部、高位部平坦地は主郭と副郭の連絡曲輪と推定される。基本層序は表土（20～30 cm）下が中世整地面となる。中世の館跡に伴うと思われる遺構は平坦地（曲輪・帯曲輪）3カ所、切岸状遺構1カ所、堀跡3条、土塁1条、溝跡8条、道路状遺構2カ所、土橋1カ所、橋跡1カ所、掘立柱建物跡8棟、竪穴状遺構1棟、門跡3基、柱穴列8条、列木柵跡4条、柱穴1,092基である。

C 1号平坦地〈連絡曲輪〉（付図1・2、写真図版7）

大林城最高位の曲輪のひとつである。同一レベルで調査区外の東側に主郭最高位の平坦地、西側に副郭最高位の平坦地があり、縄張り地形からみて東西両平坦地を結ぶ連絡曲輪と思われる。東側は現道工事の掘削により破壊されて消失し、西側は調査区外に広がるため全容は不明であるが、現道工事以前の写真と現況で確認される堀割からは東西両曲輪とは堀切で区画している。ただし東側の堀切は北端を幅1 m程残した土橋があつて主郭と連絡する。北側は急傾斜の切岸でC 1号堀跡に続き、南側は縁辺が約20 cm程の一段低い緩傾斜となり、下位の平坦地（C 2号平坦地）とは堀で区分している。推定される全体での平面形は、東西に長い長方形で東端が南側に張り出す鍵形を呈するが、張り出し部は明瞭な平坦地を形成していない。規模は東西長約60 m、南北幅約40 m、張り出し部は南北長約22 m、推定面積約2,800 m²である。南側縁辺の緩斜面を除いては南北幅は約33 mとなる。このうち調査地は平坦地の中央を南北に横断する範囲で、標高はおよそ107.8 mである。普請は尾根頂部を削平し、北側縁辺の谷頭に盛土して整地造成していた。層序は黒ボク表土（20 cm）下が中世整地面となり、削平部分では表土下が地山、盛土部分では旧表土と漸移層が残る。南縁中央には道路状遺構（虎口）がある。作事

の痕跡は道路状遺構の南端に門柱跡3基と橋跡1基、その西側には列木柵跡4条、北側盛土上と南側低位部を除く中央部には掘立柱建物跡8棟、竪穴状遺構1棟、柱穴列8条、そして柱穴1,014基が検出されている。

C2号平坦地〈帯曲輪〉(付図1・2、写真図版7)

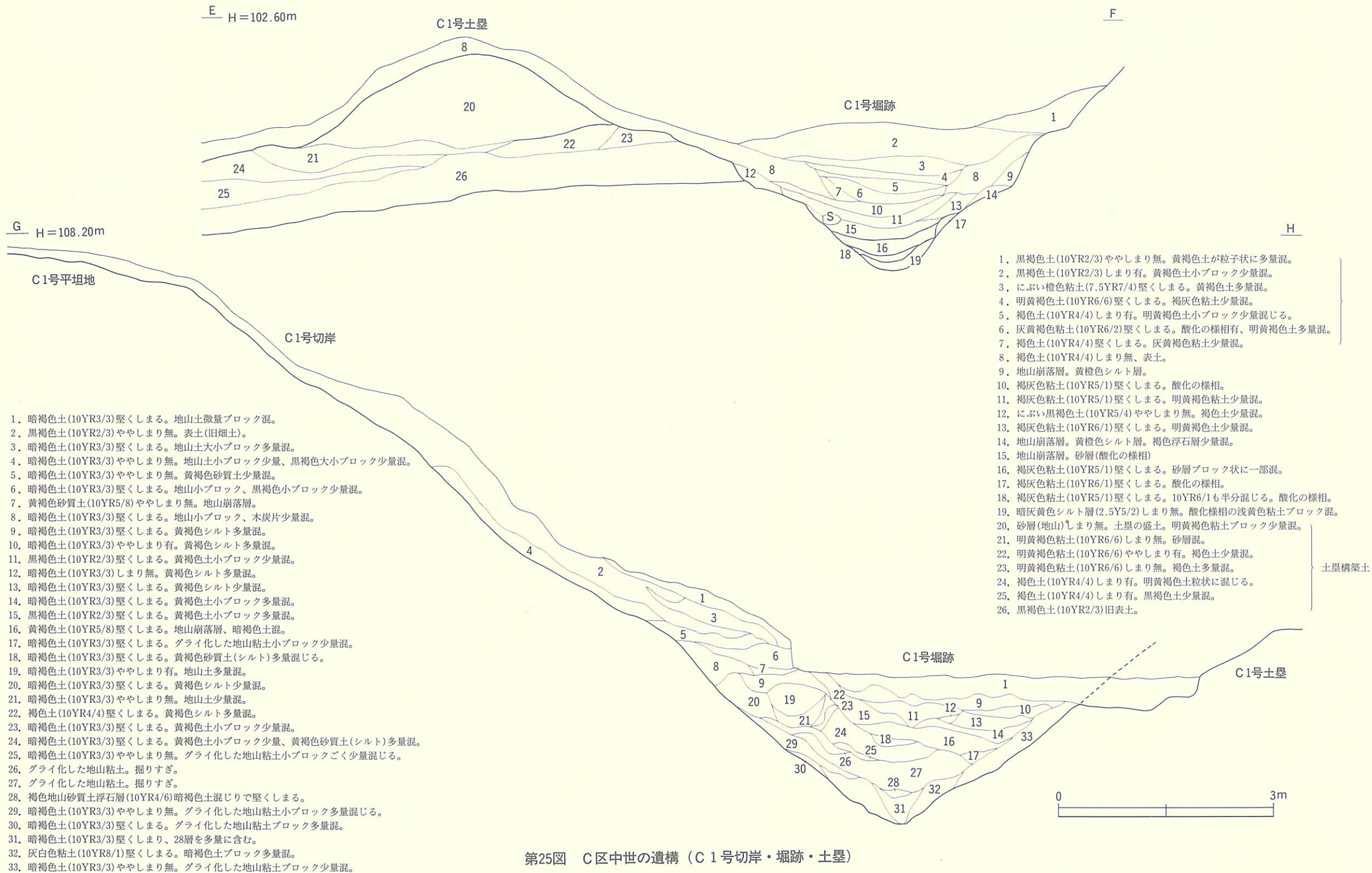
C1号平坦地の南側下位の平坦地である。現況で西側調査区外に続くのが確認されるが、東側は現道工事の掘削によって消失しており全容は不明である。調査前はC3号平坦地が確認されずひとつの腰曲輪と考えていたが、精査の結果2段の帯曲輪であることが判明した。調査区外西側部分にもその可能性がある。またこの平坦地は松本館を区切る西側の堀切底面と連続する。調査区外を含めた現状での規模は東西長約90m、調査地での南北幅6~8m、調査区外では幅7~10m、面積約600㎡を測り、調査地での標高は105m前後である。普請は削平により、表土下は地山となる。東側には道路状遺構が下位の平坦地に続き、上位の平坦地と筋を違えてあるため喰違虎口と推定される。作事の痕跡は柱穴72基、このほか溝跡数条が検出されている。

C3号平坦地〈帯曲輪〉(付図1・2、写真図版7)

C2号平坦地の南側下位の平坦地である。調査前はC2号平坦地との段差が確認されなかったが、西側調査区外の現況では幾分高低差が認められ、東側は道路状遺構までの範囲である。現状での推定される規模は、東西長約20m、南北幅約6m、面積約120㎡を測り、調査地での標高は102.5m前後である。普請は削平により、表土下は地山となる。作事の痕跡は柱穴6基、このほか溝跡数条が検出されている。

C1号切岸状遺構・C1号堀跡(第25図、付図1、写真図版7)

C1号平坦地北側の急斜面からC1号堀跡に続く塁壁で、C1号堀跡外側(北側)には土塁が伴う。いずれも塁壁の崩落や現町道造成により一部途切れる部分もあるが、現況で調査区外に続くのが確認される。西側方向では副郭(松本館)の外周を廻り城域南部のE1号土塁まで達する。東側は現道工事の掘削により消失しているが、現道の東側にも現況でこれと対応する塁壁堀跡が確認され、主郭(柏山館)の外周を廻り南側の総構え外郭段丘崖(切岸)に達する。主郭の北側から副郭の南側までは切岸状の塁壁があり、堀跡には土塁を伴うが、主郭の東側では土塁は認められない。C1号堀跡は総構え(城下)と城域(内郭)を区分するいわゆる横堀である。調査地では現道工事の盛土と町道の造成により、現況で堀跡は確認されていなかったが、縄張りから堀跡の存在が推測されていたものである。現状で推測される規模は、切岸普請は総延長約520m、堀跡総延長は約940m、調査地現状での最大実効幅掘(C1号平坦地・C1号土塁間)は約16.8m、同じく実効法高約12.3m、同じく外壁法高約6m、垂直塁壁高約7.8mを測る薬研堀である。普請は切岸の上位はC1号平坦地の整地盛土、下位からC1号堀跡については掘削して勾配をとり、法面の角度は約35°である。埋土は上位に現道工事の掘削排土が



厚く、下位には壘壁の崩落土が堆積する。遺物は切岸法面の表土および埋土中からかわらけ、常滑、天目茶碗などの破片が少量と石製品がわずかに出土した。

C 2号堀跡（第26図、付図2、写真図版7）

現況では確認されていなかったが、C区南側緩斜面の表土を除去したところC1号平坦地とC2号平坦地を区切って東西に走行する堀跡を検出したものである。検出時のプランからは、上位のC1号平坦地で検出した道路状遺構と対応して中央が細いため橋跡の存在が見込まれた。精査の結果、堀跡2条の重複で本遺構が古く、土橋がかけられていたことが判明した。西側は調査区外に続き、東側は現道工事により消失しているため全容は不明である。検出された範囲での規模は、土橋の西側は約8.4m、東側が14m、遺存する部分では最大堀幅約2.4m、同じく実効法高約0.8m、外壁法高0.5～1m、最大垂直高約0.6mを測る箱堀である。普請は掘削により、埋土は人為的な埋め戻しである。遺物は出土しなかった。

C 3号堀跡（第26図、付図2、写真図版7）

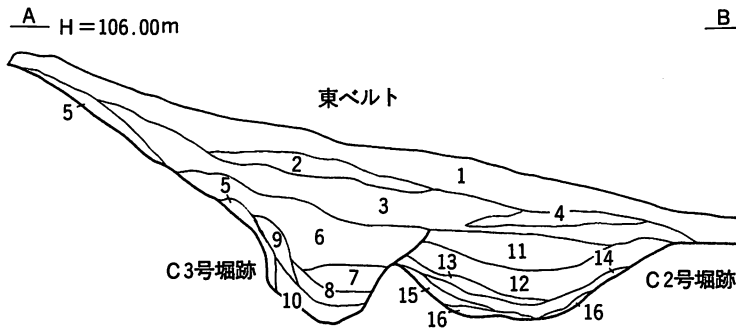
C2号堀跡の精査中に重複して検出したものであり、断面観察から本遺構が新しい。西側は調査区外に続き、東側は現道工事により消失しているため全容は不明である。精査した範囲ではC2号堀跡と平行重複して東西に走行し、北側壁面中位には緩傾斜ながら幅0.5～1mの犬走り状のテラスをもつ空堀である。土橋部分より東側が一段低く仕事の違いが見られた。検出した範囲での規模は東西長約26.6m、実効堀幅約3.5m、実効法高2.7～3m、外壁法高1～1.5m、最大垂直高約2mを測る薬研状の堀である。普請は掘削により、埋土は壁崩落の黄褐色土の混じるレンズ状の自然堆積である。遺物は陶磁器類、石・金属製品などが比較的多量に出土したが、そのほとんどは堀跡が埋まった後の3層中からのものであった。C2号竪穴住居跡の下方からは古代の須恵器破片が出土した。

C 1号土塁（第25図、付図1、写真図版7）

C1号堀跡に伴う土塁である。調査地では精査の結果検出したものであるが、調査区外では現況で堀跡の外側に伴って内郭を廻るのが確認される。現状で確認される規模は、ほぼ内郭切岸状壘壁と対応して総延長約520m、精査した範囲での敷（基底幅）4.2m、褶（上幅）1m前後、垂直高（C1号堀底から）約3mを測る。普請はC1号堀跡を掘削した土を盛り上げたと思われる下位が暗褐色系、上位が黄褐色系の断面カマボコ形の叩き土塁である。遺物は表土中から染付と金属製品各1点と構築土下位から須恵器破片1点が出土した。

C 1号溝跡（第27図、付図2、写真図版9）

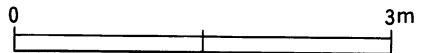
C2号平坦地の中央に位置し、土橋正面の東西方向からC2号道路状遺構の西側南北方向に屈曲する溝跡である。南端はC5号溝跡に接続する。規模は土橋の正面で約7m、総延長は約13.6m、幅0.5～1m、深さ約20cmを測る。排水機能をもつ可能性も考えられるが、配置状況



1. 黒褐色土(10YR2/3)しまり無。表土(旧耕作土)
 2. 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。地山土小ブロック多量混。
 3. 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。地山土小ブロック少量混。遺物包含層。
 4. 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。地山粘土小ブロック混。
 5. 黄褐色砂質土(10YR5/8)ややしまり無。地山崩落層。
 6. 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。地山土・明黄褐色土小ブロック、木炭片ごく微量混。
 7. 黒褐色土(10YR3/2)ややしまり無。地山小ブロック少量混。
 8. 黄褐色砂質土(10YR5/8)ややしまり無。黒褐色土少量混。
 9. 褐色土(10YR4/6)堅くしまる。地山土ごく小ブロック多量、木炭片ごく微量混。
 10. 黄褐色砂質土(10YR5/8)しまり無。黄褐色シルト混。
 11. 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。黄褐色シルト多量混。
 12. 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。黄褐色土小ブロック多量混。
 13. 黄褐色砂質土(10YR5/8)堅くしまる。暗褐色土少量混。
 14. 黄褐色砂質土(10YR5/8)堅くしまる。暗褐色土多量混。
 15. 黄褐色砂質土(10YR5/8)堅くしまる。明黄褐色土小ブロック少量混。
 16. 黄褐色砂質土(10YR5/8)ややしまり無。明黄褐色土小ブロック少量混。
- } C3堀
} C2堀



1. 暗褐色土(10YR3/3)しまり無。表土、やわらかい。
 2. 暗褐色土(10YR3/3)しまり無。表土、腐食土混。
 3. 暗褐色土(10YR3/3)しまり有。地山土ブロック多量混。遺物包含層。
 4. 黄褐色土(10YR5/8)しまり有。地山の崩落堆積土。
 5. 暗褐色土(10YR3/3)ややしまり無。地山土少量混。
 6. 黄褐色土(10YR5/8)しまり有。地山の崩落堆積土。表土少量混。
 7. 暗褐色土(10YR3/3)ややしまり無。表土の崩落堆積土。
 8. 攪乱。採石、玉石層(町道造成の為)
 9. におい橙色粘土(7.5YR7/3)地山の崩落土、堅くしまる。
 10. におい黄褐色土(10YR5/6)表土、地山土混じりの自然堆積層。堅くしまる。
 11. 黄褐色土(10YR5/6)地山崩落土、堅くしまる。
 12. 暗褐色土(10YR3/3)しまり有。表土の崩落堆積土。
 13. 暗褐色土(10YR3/3)地山土混じりの崩落土。堅くしまる。
 14. におい橙色粘土(7.5YR7/3)地山土混じり、堅くしまる。
 15. 黄褐色土(10YR5/6)崩落土。堅くしまる。
 16. 暗褐色土(10YR3/3)地山土多量混じりの崩落土。堅くしまる。
 17. 暗褐色土(10YR3/3)地山土少量混じりの崩落土。堅くしまる。
 18. 暗褐色土(10YR3/3)地山土多量混じりの崩落土。堅くしまる。
 19. 黄褐色土(10YR5/8)地山崩落土、堅くしまる。
 20. 暗褐色土(10YR3/3)表土崩落土、堅くしまる。
- } C3堀
} C2堀



第26図 C区中世の遺構 (C2・3号堀跡)

からみて土橋（虎口）の目隠し塀の痕跡と思われる。遺物は出土しなかった。

C 2号溝跡（付図2、写真図版9）

C 2号平坦地のほぼ中央でC 1号溝跡の東側に位置し、C 1号溝跡屈曲点の東側に起点をもってV字状に開いた南-北に走行する溝跡である。いずれも南端はC 4号溝跡まで達するのが確認された。規模は東西両溝とも約7.6 m、幅は0.5~1 mを測る。配置状況からみて排水溝と推定され、本来はC 8号溝跡まで達していたものと思われる。遺物はかわらけ1点と須恵器破片が数点出土した。

C 3号溝跡（第27図、付図2、写真図版9）

C 2号平坦地の東側に位置し、東西方向に走行する溝跡である。東側は現道工事の掘削により消失して不明であるが、西側はC 2号道路状遺構に達する。検出された範囲での規模は約5.6 m、幅約0.4 m、深さ約15 cmを測る。配置状況からみて塀跡の痕跡と推定され、北側の内なる空間は武者溜まりの平坦地と思われる。遺物は出土しなかった。

C 4号溝跡（付図2）

C 2号平坦地の中央東よりC 2号道路状遺構とC 2号溝跡の間に位置し、東西方向に走行する溝跡である。規模は長さ約2.6 m、幅約0.5 mを測る。配置状況からみてC 3号溝跡と対応する塀跡の痕跡と推定される。遺物は出土しなかった。

C 5号溝跡（付図2、写真図版9）

C 3号平坦地の中央に位置し、北辺の東西方向からC 1号溝跡と接続して南側に屈曲する溝跡である。南端は調査では確認できなかったが、配置状況からみてC 8号溝跡に伴う土坑状の遺構に達するものと思われる。検出できた範囲での規模は北辺の東西長約9.6 m、総延長約16 m、幅0.5~1 m、深さ10~20 cmを測る。配置状況から排水機能の溝跡か塀跡痕跡のいずれかが考えられる。遺物は検出面で短刀一振りと埋土中からかわらけ、白磁、常滑の破片が出土した。

C 6号溝跡（第27図、付図2、写真図版9）

C 3号平坦地の南側に位置し、東西方向に走行する溝跡である。両端とも南側にやや折れ、東側ではリング状となってC 5号溝跡に接続するが、西端は調査区外に続くため全容は不明である。検出できた範囲での規模は東西長約18 m、リング部分は約5 m、幅約0.8 mを測る。配置状況から排水機能の溝跡か塀跡痕跡のいずれかが考えられる。遺物は出土しなかった。

C 7号溝跡（付図2、写真図版9）

C 3号平坦地の北側中央に位置し、C 6号溝跡と平行する溝跡である。東端はC 6号溝跡に接続する。規模は長さ約5 m、幅約0.8 mを測る。遺物は出土しなかった。

C 8号溝跡（第27図、付図2、写真図版9）

C 3号平坦地の下位の段に位置するが、東側は現道工事の掘削、南側は平成6年度の掘削工

事により消失しており、全容は不明である。検出できた範囲では北東－南西に走行する溝跡で南端には流水のためか楕円状の落ち込みがある。規模は総延長約 10 m、幅約 0.5 m、深さ約 10 cm、楕円状の落ち込み部分では長軸約 5 m、短軸約 3 m を測る。遺物は出土しなかった。

C 1 号虎口<C1・2号道路状遺構、C1号土橋・橋跡、C1～3号門跡> (第 28 図、写真図版 8)

C 1 号平坦地への入り口である。C 1 号平坦地上の C 1 号道路状遺構と C 2 号平坦地上の C 2 号道路状遺構を筋違いに設けた、いわゆる喰違いの虎口形態をとり、古期 (C 2 号堀跡) には土橋、新期 (C 3 号堀跡) には木橋としていた。C 1 号道路状遺構は幅約 2 m、C 2 号道路状遺構は幅約 2.2 m、長さはいずれも約 8 m を測り、掘削して下位の段に向かい緩傾斜としていた。C 1 号土橋は C 2 号堀跡の掘り残しによるもので南北長約 2 m、東西幅 3.8 m が残る。C 1 号木橋跡は土橋上の北端の 2 基、C 1 号道路状遺構の南側に 2 基の柱穴を検出したもので、南北長約 4 m、東西幅約 2.4 m を測る。門跡 3 基は C 1 号道路状遺構の中間に対応する柱穴 6 基が検出されたもので、C 1 号門跡両側には列木柵跡が伴う。C 1 号門跡の柱間は約 1.3 m、C 2 号門跡柱間約 1 m、C 3 号門跡柱間約 2.4 m である。遺物は C 1 号道路状遺構の埋土中からかわらけ破片が若干出土した。各柱穴の計測値は下表のとおり、単位は m である。

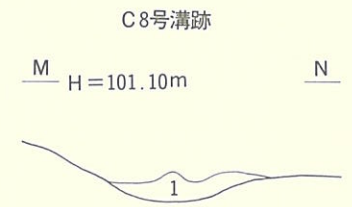
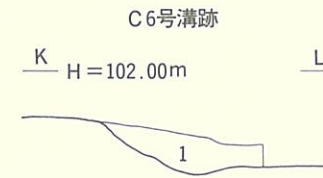
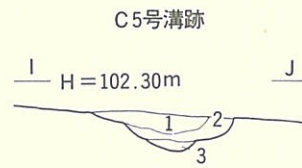
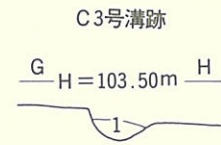
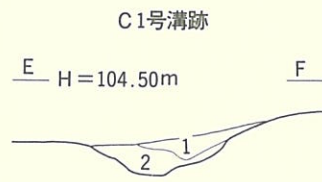
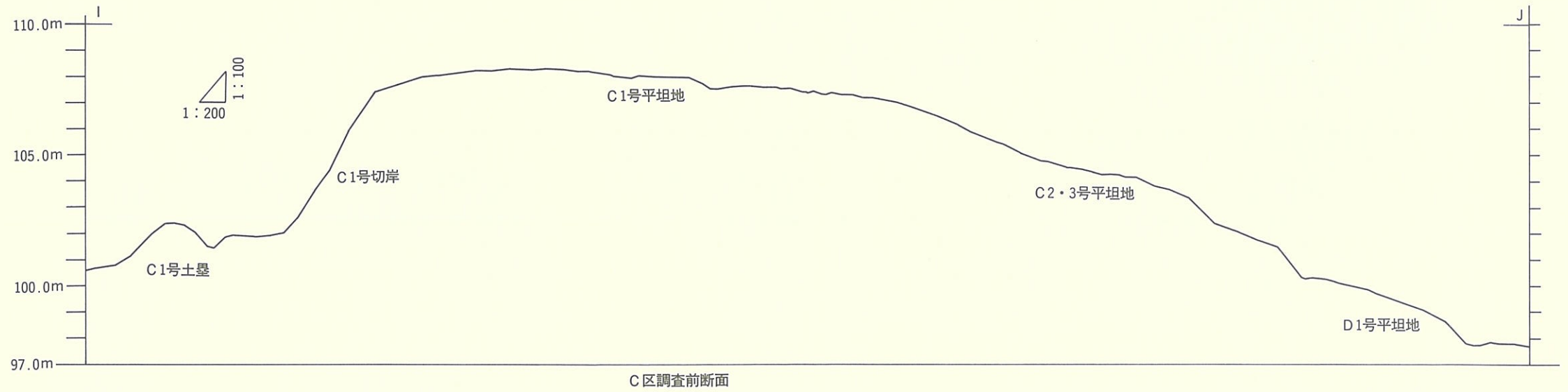
番号	概形	開口部	底径	深さ	底標高	番号	概形	開口部	底径	深さ	底標高
1 A	略楕円	0.95×0.77	0.50×0.40	0.19	105.69	7 D	略楕円	0.98×0.80	0.25	0.20	105.68
1 B	略楕円	0.72×0.50	0.37×0.30	0.44	105.50	8 A			0.29×0.18	0.56	105.33
2	略楕円	0.56×0.50	0.40×0.30	0.70	105.72	8 B			0.34×0.21	0.51	105.47
3	略楕円	0.40×0.32	0.18×0.22	0.15	104.65	8 C	略楕円	1.20×0.75	0.35×0.19	0.45	106.01
4	略円形	0.32	0.25	0.13	104.73	8 D			0.38	0.31	106.15
5 A	略楕円	0.95×0.73	0.60	0.37	106.04	9 A	略円形	0.46	0.33	0.49	106.08
5 B	略円形	0.55	0.40	0.28	105.68	9 B	略円形	0.40	0.25	1.01	105.31
6	略楕円	1.13×0.68	0.78×0.42	0.29	105.68	9 C	略円形	0.46	0.25	0.46	105.84
7 A			0.18×0.14	0.34	105.54	9 D	略円形	0.32	0.20	0.21	106.09
7 B	略円形	0.67	0.45	0.25	105.63	10	略楕円	0.77×0.63	0.61×0.52	0.89	105.98
7 C	略円形	0.55	0.42×0.23	0.38	105.58						

C 1 号掘立柱建物跡 (第 29 図)

C 1 号平坦地の中央、IV F・G-10 i・j・a グリッドに位置し、C 2 号掘立柱建物跡と C 1 号竪穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は 6 間×2 間の直屋で、東側に 1 間と南側に半間の庇、北側に 1 間×2 間の 2 部屋が見られる。桁行軸方向は N-45°-W である。規模は桁行約 12 m、梁行約 6.5 m、1 間の柱間は約 2 m を測る。柱穴から遺物は出土しなかった。

C 2 号掘立柱建物跡 (第 30 図)

C 1 号平坦地の中央西より、V F・G-1 j・a・b グリッドに位置し、C 1 号掘立柱建物跡と C 1 号竪穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は 4 間×2 間の直屋であり、



C1号溝跡

1. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、粘性やや有。褐色土粒まばらに含み、炭化物をわずかに含む。
2. 暗褐色(10YR3/4)しまり有、粘性有。多くの褐色土粒を全体に含む。

C3号溝跡

1. 暗褐色(10YR3/4)しまり有、粘性やや有。にぶい黄褐色土ブロックを含む。

C5号溝跡

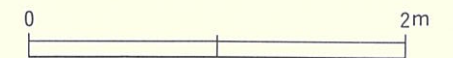
1. 暗褐色土(10YR3/4)堅くしまる。地山ブロック多量混。
2. 暗褐色土(10YR3/4)堅くしまる。地山ブロック、黄灰色粘土ブロック少量混。
3. 黄灰色粘土(2.5Y5/1)堅くしまる。地山小ブロック少量混。

C6号溝跡

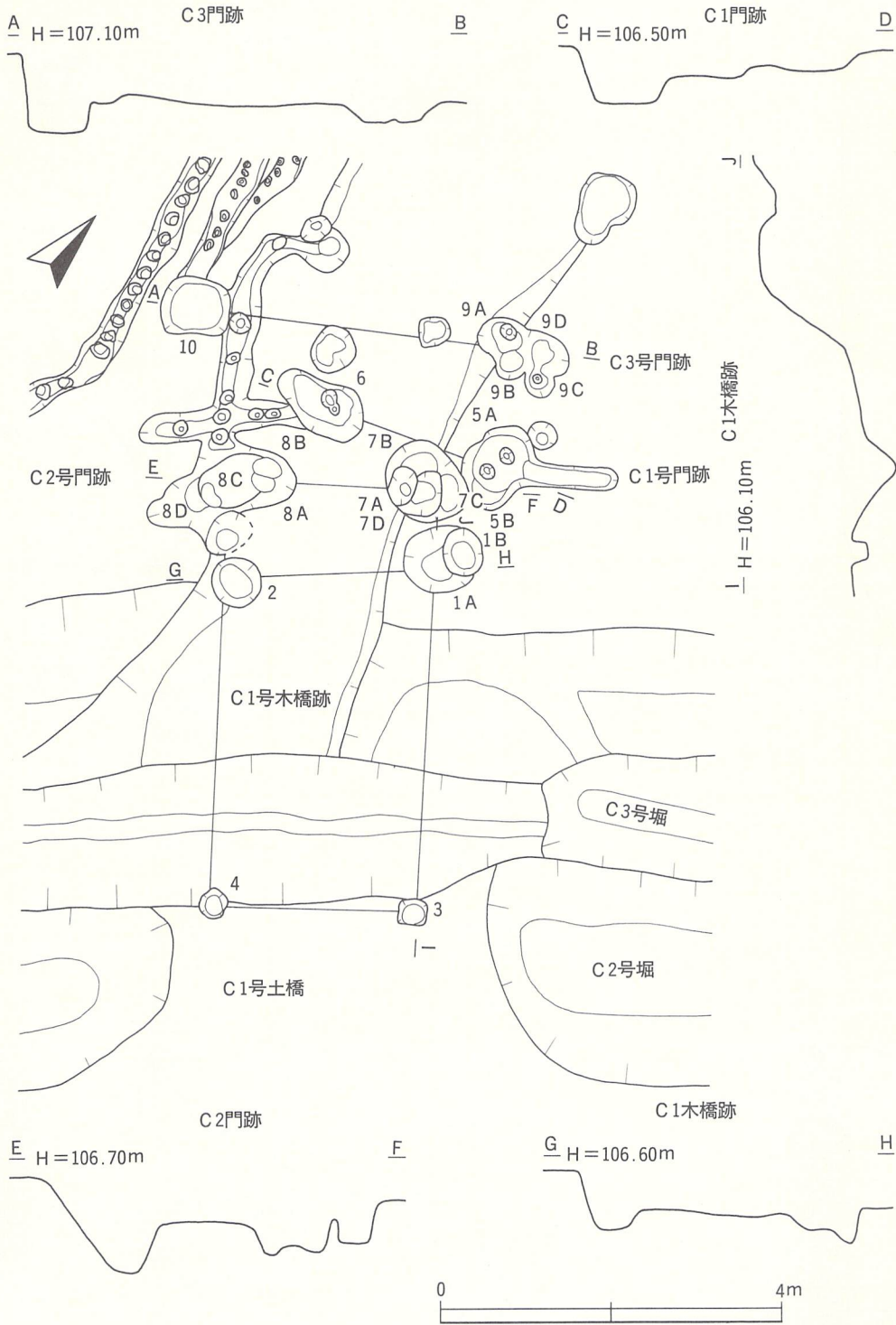
1. 暗褐色土(10YR3/4)堅くしまる。地山小ブロック少量混。

C8号溝跡

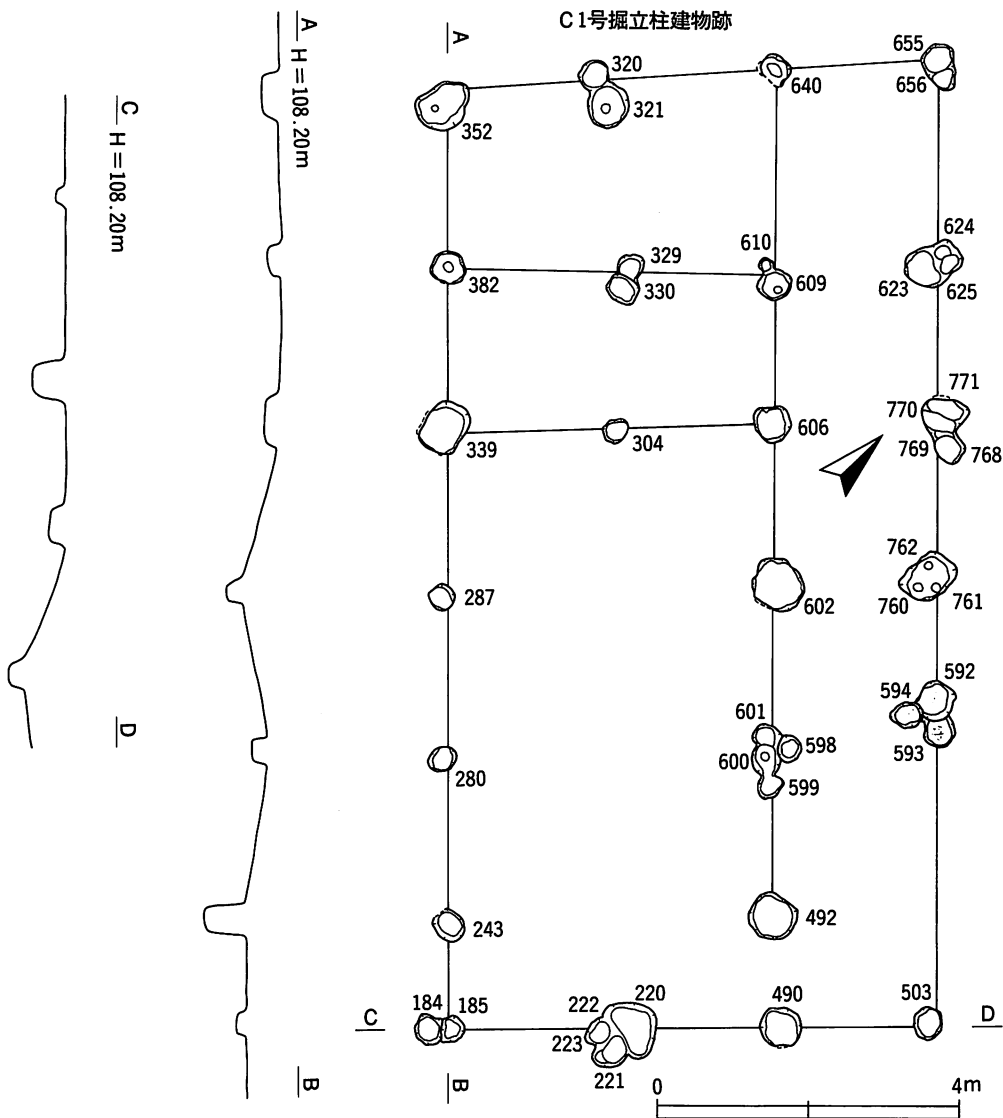
1. 暗褐色土。堅くしまる。明黄褐色小ブロック少量、黄褐色土粒子状に混。溝の埋土。



第27図 C区中世の遺構（地形断面、C1・3・5・6・8号溝跡）



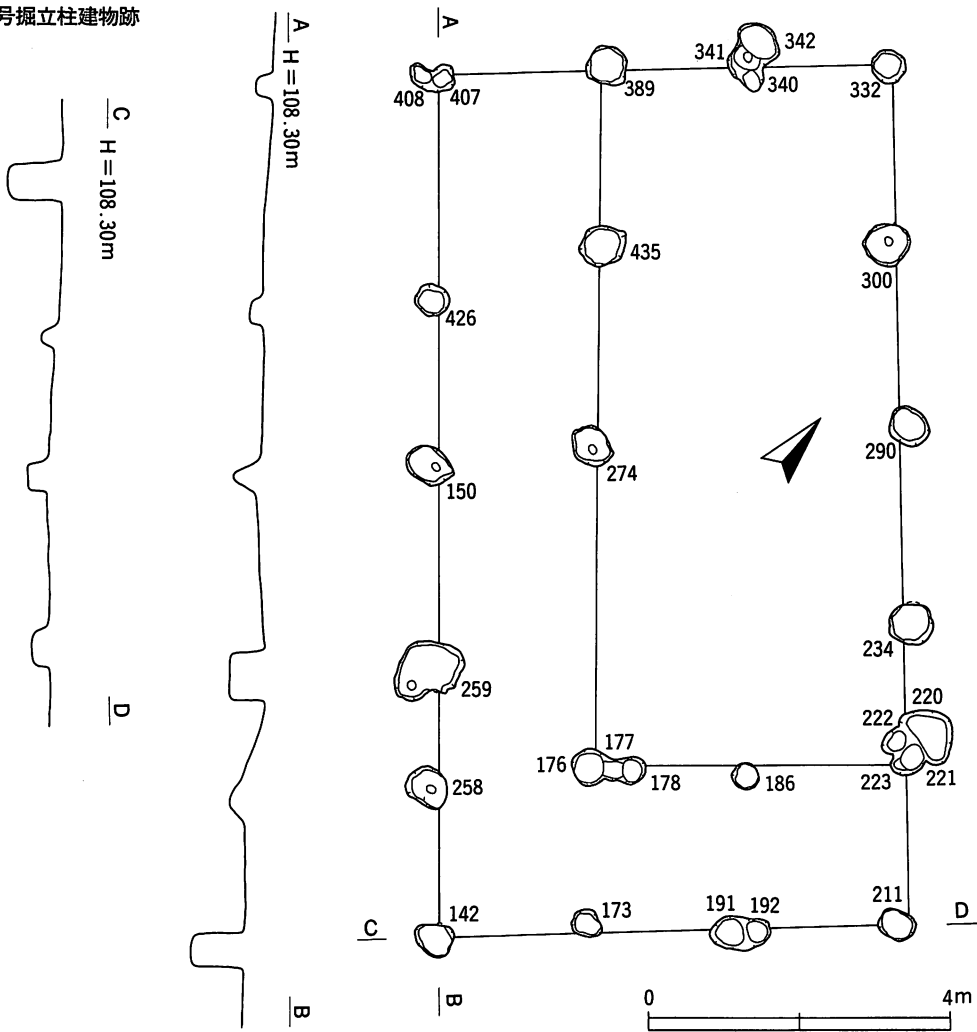
第28図 C区中世の遺構 (C1号虎口)



No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
185	VG1b	略円形	0.38	0.22	0.12	107.39	492	IVG10a	略円形	0.67	0.56	0.69	106.95
220	IVG10b	不整形	<0.74>	0.70×0.42	0.39	107.10	503	IVG9b	略円形	0.41	0.36	0.18	106.79
243	VG1a	略円形	0.36	0.34×0.26	0.56	106.96	593	IVG9a	略円形	0.42	0.33	0.04	107.57
280	VG1a	略楕円形	0.40×0.32	0.34×0.24	0.17	107.60	601	IVG10a	略円形	0.34	0.25	0.22	107.47
287	VG1j	略円形	0.35	0.25	0.18	107.27	602	IVF10j	略円形	0.70	0.64	0.26	107.65
304	IVF10j	略円形	0.36	0.32	0.11	107.86	606	IVF10j	略円形	0.49	0.44	0.45	107.52
320	IVF10i	略円形	0.40	0.35×0.34	0.18	107.47	609	IVF10j	略円形	0.48	0.37×0.36	0.15	107.66
329	IVF10j	略円形	0.35	0.29	0.14	107.77	624	IVF9j			0.30	0.26	107.65
339	VF1j	略楕円形	0.72×0.65	0.65×0.57	0.15	107.79	640	IVF10i	略円形	<0.38>	0.38×0.34	0.21	101.32
352	VF1i	略楕円形	0.76×0.56	0.69×0.42	0.44	107.75	655	IVF9i	略楕円形	(0.35)×<0.43>	0.38×0.34	0.46	107.37
382	VF1j	略円形	0.41	0.37	0.22	107.79	761	IVF9j			0.12	0.46	107.68
490	IVG10b	略円形	0.56	0.52	0.19	107.32	770	IVF9j	略楕円形	(0.25)×<0.49>	0.45	0.40	107.48

第29図 C区中世の遺構 (C1号掘立柱建物跡)

C2号掘立柱建物跡



No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
142	VG2b	不整形	0.51×0.43	0.45×0.41	0.69	106.99	259	VG2a	不整形	1.01×0.76	0.89×0.68	0.35	107.51
150	VG1a	略円形	0.66	0.60×0.40	0.32	107.54	274	VG1a	略円形	0.61	0.55	0.21	107.64
173	VG1b	不整形	0.42×0.35	0.34×0.25	0.21	107.41	290	IVG10a	略円形	0.54	0.45	0.10	107.55
176	VG1b	略円形	0.50	0.40	0.17	107.42	300	IVF10j	略円形	0.34	0.32	0.17	107.64
186	VG1b	略円形	0.38	0.31	0.13	107.38	332	IVF10j	略円形	0.44	0.32	0.14	107.81
191	VG1b	略円形	<0.43>	0.39×0.36	0.26	107.22	341	VF1j	略円形	<0.44>	0.36	0.21	107.78
211	IVG10b	略楕円形	0.52×0.42	0.45×0.43	0.19	107.28	389	VF1j	略円形	0.55	0.48	0.63	107.41
221	IVG10b			0.46×0.27	0.14	107.36	407	VF1j	略円形	0.35	0.26×0.21	0.19	107.88
234	IVG10a	略円形	0.56	0.46	0.25	107.13	426	VF1j	略円形	0.46	0.36	0.15	107.79
258	VG2b	略円形	0.48	0.53×0.39	0.26	107.43	435	VF1j	略円形	0.66	0.49	0.18	107.75

第30図 C区中世の遺構 (C2号掘立柱建物跡)

西側と南側に1間の庇をもつ。桁行軸方向はN-45°-Wである。規模は桁行約11.5m、梁行約6m、1間の柱間は約2mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 3号掘立柱建物跡 (第31図)

C 1号平坦地の東側、IVF-8 j グリッドに位置する。平面形は2間×2間の総柱の掘立柱建物跡である。軸方向はN-45°-Wである。規模は桁行約4m、梁行約3m、桁行柱間約2m、梁行柱間約1.5mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 4号掘立柱建物跡 (第31図)

C 1号平坦地の北東より、IVF-9 j グリッドに位置し、C 6号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は3間×2間の直屋で、軸方向はN-45°-Wである。規模は桁行約4m、梁行約3m、桁行柱間は約1.5m、梁行柱間は南北とも西側1間が約2m、東側1間が約1mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 5号掘立柱建物跡 (第31図)

C 1号平坦地の中央東より、IVG-9 a グリッドに位置する。平面形は2間×2間の総柱の掘立柱建物跡である。軸方向はN-45°-Wである。規模は桁行、梁行とも約3.6m、柱間は約1.8mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 6号掘立柱建物跡 (第32図)

C 1号平坦地の中央北より、IVF-9・10 i・j グリッドに位置し、C 1・4号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は3間×2間の総柱の掘立柱建物跡である。軸方向はN-45°-Wである。規模は桁行約5.6m、梁行約3.6m、柱間は桁行で約2m、梁行で約1.8mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 7号掘立柱建物跡 (第32図)

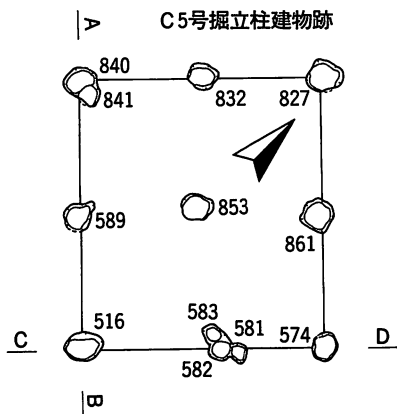
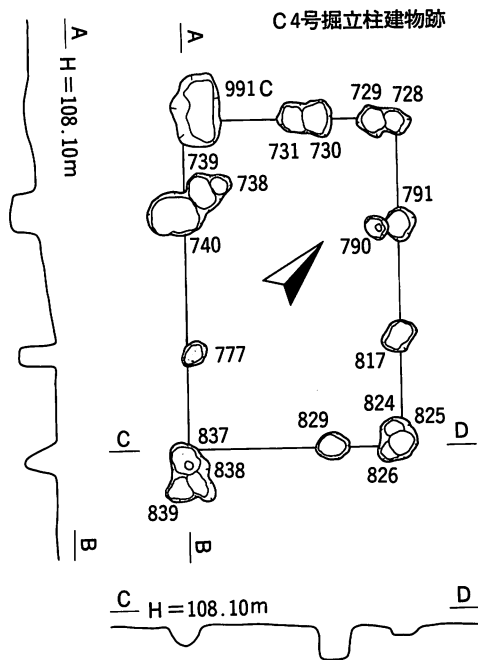
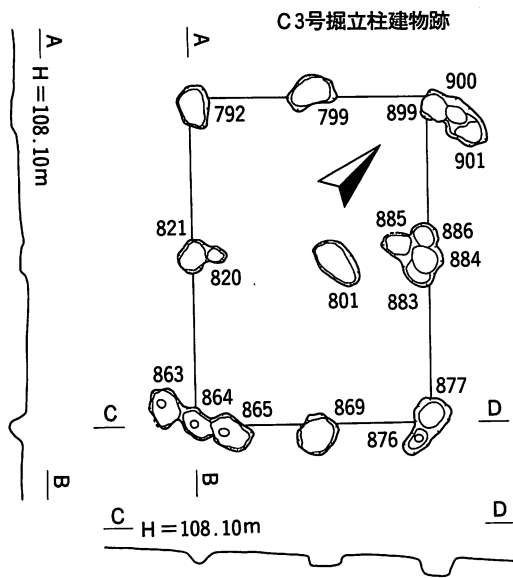
C 1号平坦地の中央西端、VG-3 a グリッドに位置するが、西側が調査区外にかかるため全容は不明である。検出できた範囲での平面形は2間×1間+ α の直屋で、南側に1間の庇をもつと思われる。軸方向はN-45°-Eである。規模は梁行約6.2m、柱間約2mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 8号掘立柱建物跡 (第32図)

C 1号平坦地の北東端、IVF-7 i・j グリッドに位置するが、東側が調査区外にかかるため全容は不明である。検出できた範囲での平面形は3間×2間+ α で直屋と推定される。軸方向はN-45°-Eである。規模は梁行約6.5m、柱間約2mを測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 1号竪穴状遺構 (第33図、写真図版8)

IVF・G-10 j・a、VF・G-1 j・a グリッドに位置する。C 1・2号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明である。平面形は長方形で南壁の東側に張り出しを持つ。規模は東西の



C 3号掘立柱建物跡 柱穴一覽表

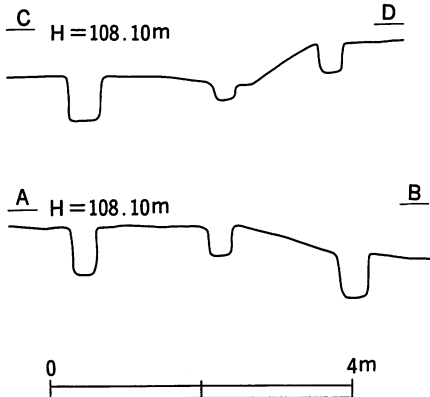
No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
792	IVF8j	略楕円形	0.56×0.43	0.49×0.33	0.13	107.72
799	IVF8j	不整形	0.61×0.38	0.50×0.33	0.39	107.53
801	IVF8j	略楕円形	0.73×0.43	0.68×0.34	0.20	107.63
821	IVF8j	略楕円形	0.45×0.34	0.41×0.28	0.08	107.79
864	IVG8a	略楕円形	<0.50>×<0.34>	0.45×0.27	0.21	107.62
869	IVG8a	略楕円形	0.58×0.52	0.52×0.46	0.11	107.58
877	IVG8a	略円形	<0.45>	0.36×0.29	0.35	107.42
884	IVF8j			0.38×0.33	0.25	107.58
899	IVF8j	略円形	<0.39>	0.27	0.25	107.54

C 4号掘立柱建物跡 柱穴一覽表

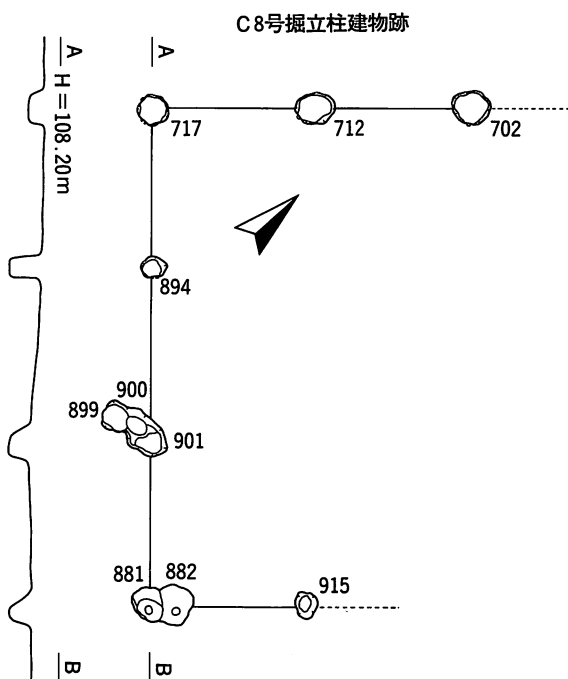
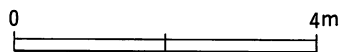
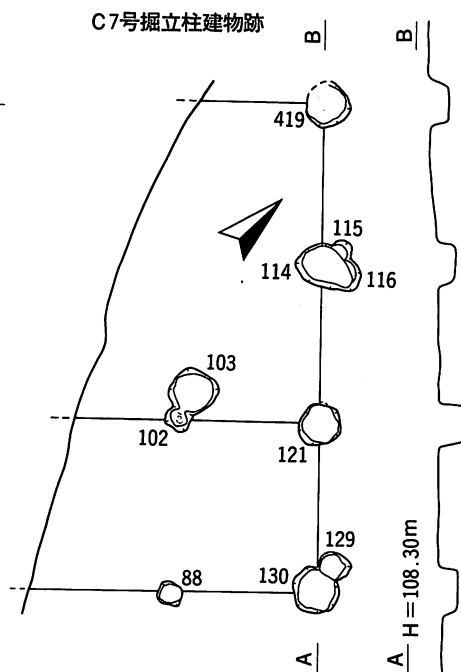
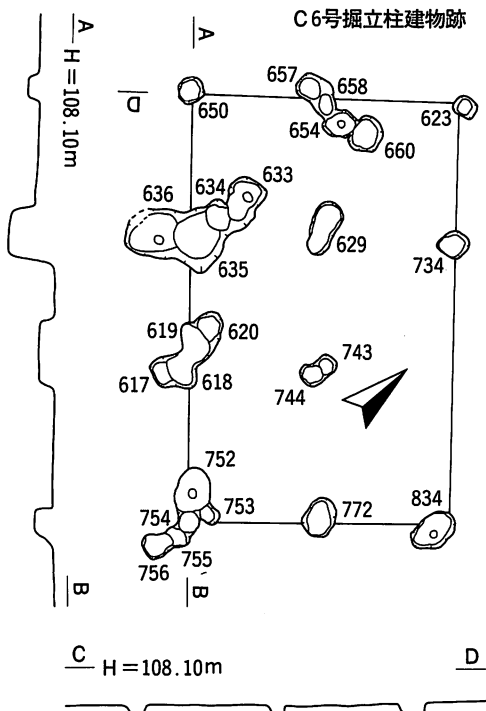
No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
728	IVF8j	略円形	0.30	0.27	0.17	107.75
730	IVF9j	略円形	<0.48>	0.40×0.36	0.42	107.40
740	IVF9j	略楕円形	0.75×0.60	0.64×0.46	0.33	107.34
777	IVF9j	略楕円形	0.48×0.39	0.31×0.20	0.49	107.41
791	IVF9j	略円形	0.45	0.35	0.23	107.62
817	IVF9j	略楕円形	0.50×0.40	0.41×0.28	0.16	107.71
825	IVF9j	略円形	(0.49)	0.32×0.31	0.10	107.76
829	IVF9j	略楕円形	0.45×0.35	0.36×0.28	0.43	107.44
837	IVF9j	略楕円形	(0.50)×0.42	0.32	0.42	107.45
991C	IVF9i	略円形	0.58	0.32	0.14	107.50

C 5号掘立柱建物跡 柱穴一覽表

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
516	IVG9a	略楕円形	0.52×0.40	0.45×0.36	0.57	106.88
574	IVG9a	略楕円形	0.36×0.31	0.33×0.29	0.38	107.47
582	IVG9a	略円形	<0.32>	0.24	0.16	107.11
589	IVG9a	略楕円形	0.47×0.36	0.36×0.25	0.38	107.47
827	IVF9j	不整形	0.50×0.43	0.41×0.40	0.10	107.75
832	IVF9j	略円形	0.41	0.35	0.88	106.97
840	IVF9j	略楕円形	(0.37)×<0.45>	0.25×0.36	0.62	107.25
853	IVG9a	略楕円形	0.41×0.35	0.36×0.32	0.81	106.99
861	IVG9a	略円形	0.45	0.37	0.26	107.52



第31図 C区中世の遺構 (C3～C5号掘立柱建物跡)



C 6号掘立柱建物跡 柱穴一覧表

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
618	IVF10j	略楕円形	0.38×0.50	0.30×0.43		
623	IVF9j	略円形	<0.56>	0.48×0.43	0.21	
629	IVF9i	略楕円形	0.72×0.34	0.68×0.31	0.24	107.39
635	IVF10j	略円形	<0.73>	0.54	0.59	107.29
650	IVF10i	略円形	0.38	0.29	0.14	107.51
658	IVF9i	略円形	<0.28>	0.26×0.18	0.14	107.47
734	IVF9i	略楕円形	0.43×0.36	0.36×0.30	0.14	107.45
744	IVF9j	略円形	<0.33>	0.27×0.25	0.22	107.70
754	IVF10j	略円形	<0.27>	0.25	0.22	107.66
772	IVF9j	略楕円形	0.53×0.38	0.47×0.34	0.44	107.44
834	IVF9j	略楕円形	0.63×0.41	0.57×0.33		

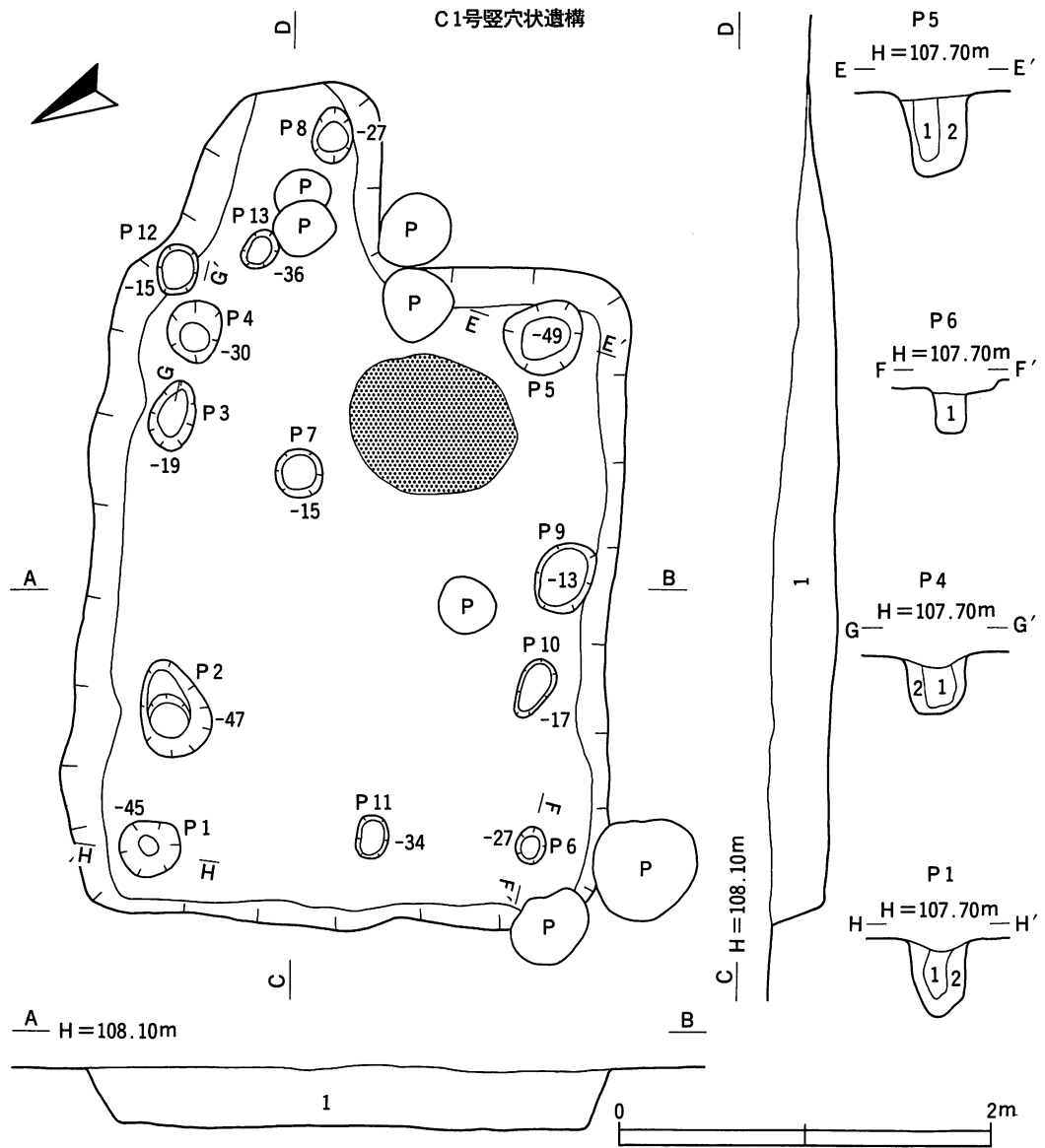
C 7号掘立柱建物跡 柱穴一覧表

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
88	VG2a	略円形	0.38	0.31	0.22	107.56
102	VG2a	略円形	0.33	0.23	0.13	107.87
114	VG2a	略楕円形	0.88×0.55	0.72×0.46	0.24	107.76
121	VG2a	略楕円形	0.60×0.55	0.50×0.48	0.33	107.58
130	VG2a	略円形	0.65	0.51×0.51	0.11	107.65
419	VF2j	略円形	<0.58>	<0.51>	0.25	107.85

C 8号掘立柱建物跡 柱穴一覧表

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
702	IVF7i	略円形	0.48	0.42	0.07	107.97
712	IVF7i	略楕円形	0.53	0.48	0.27	107.81
717	IVF8i	略円形	0.43	0.35	0.14	107.78
881	IVF8j	略円形	0.45	0.28	0.29	107.53
894	IVF8i	略楕円形	0.35×0.26	0.25×0.24	0.17	107.52
901	IVF8j	略円形	<0.36>	0.36×0.25	0.26	107.53
915	IVF7j	略楕円形	0.34×0.28	0.21×0.24	0.12	107.41

第32図 C区中世の遺構 (C6～8号掘立柱建物跡)



1. 暗褐色土(10YR3/4)しまり有、粘性やや有。地山ブロック多量混、炭化物わずかに含む。

P5

1. 暗褐色(10YR3/3)しまりやや有、粘性やや有。褐色土ブロック混。
2. 黄褐色(10YR5/8)しまり有、粘性やや有。暗褐色土ブロック、砂粒混。

P6

1. 黒褐色(10YR2/2)しまりやや有、粘性やや有。褐色土との混土。

P4

1. 黒褐色(10YR2/2)しまりやや有、粘性やや有。褐色土混、炭化物を含む。
2. 黄褐色(10YR5/8)しまり有、粘性有。褐色土少量含む。

P1

1. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性やや有。褐色土ブロック多量混。パミス少量含む。
2. 褐色(10YR4/6)しまりやや有、粘性有。暗褐色土混。

第33図 C区中世の遺構 (C1号竪穴状遺構)

壁約 3.5 m、南北の壁約 2.7 m、張り出し部は幅、奥行とも約 1 m を測る。長軸方位は N-60°-W、面積 9 m² である。床面は平坦で堅締、張り出し部は内側に緩やかに傾斜している。壁はやや外傾して立ち上がり、埋土は暗褐色土の単層である。床面南西部で赤色変化の弱い焼土が検出された。柱穴は 17 基検出され、配置と深さから P 1・4・5・6 を主柱穴と判断した。P 1・4・5 柱穴では径約 15 cm 程の柱痕が確認されている。遺物は埋土中から鉄製品 2 点が出土した。

C 1 号柱穴列 (第 34 図)

C 1 号平坦地の南東部で C 1 号道路状遺構の東側、IVG-9・10 d グリッドに位置する 4 間の柱穴列である。軸方向は北東-南西方向で、北側には C 2 号柱穴列が 1 間の間隔で平行する。柱間は約 1 m で総長約 4 m である。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 2 号柱穴列 (第 34 図)

C 1 号平坦地の南東部で C 1 号道路状遺構の東側、IVG-9・10 d グリッドに位置する 3 間の柱穴列である。軸方向は北東-南西で、南側には C 1 号柱穴列が 1 間の間隔で平行する。柱間は約 1.2 m で総長約 3.8 m を測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 3 号柱穴列 (第 34 図)

C 1 号平坦地の南西部、VG-2 c グリッドに位置する 3 間の柱穴列である。軸方向は北東-南西で柱間約 1.8 m、総長約 5 m を測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 4 号柱穴列 (第 34 図)

C 1 号平坦地の中央東より、IVG-9 b グリッドに位置する 3 間の柱穴列である。軸方向は北東-南西で柱間 1.5~1.8 m、総長約 4.5 m を測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 5 号柱穴列 (第 34 図)

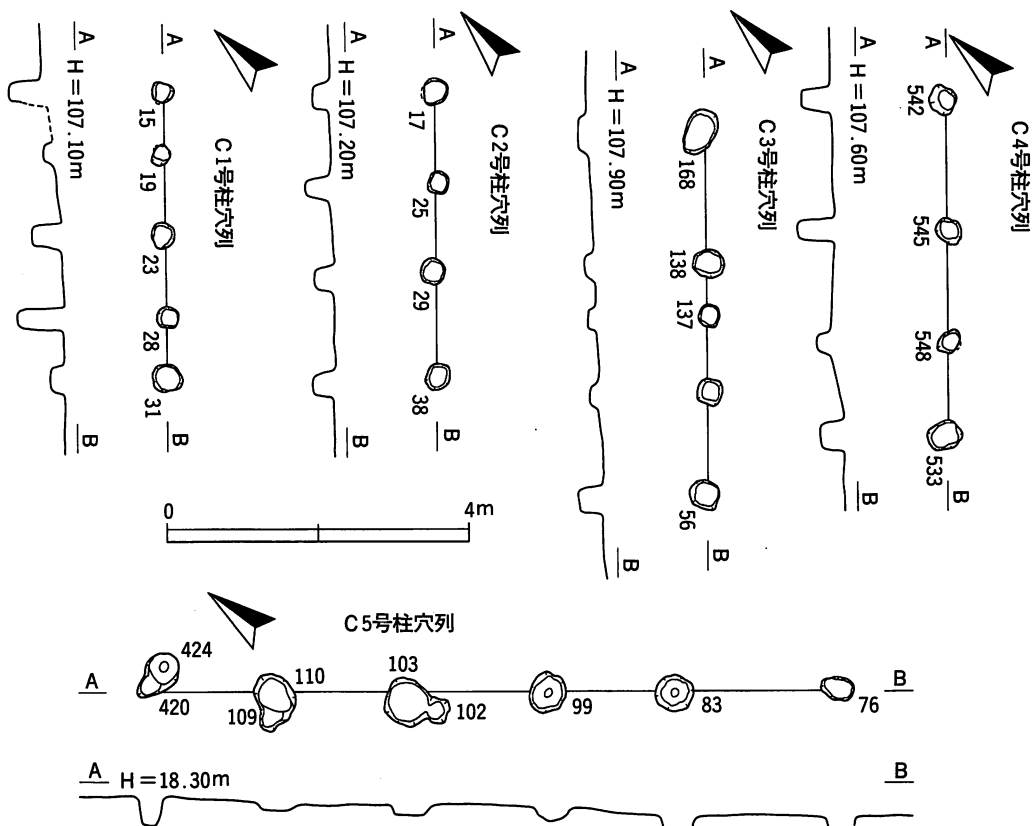
C 1 号平坦地の西端、VG-3 a・b グリッドに位置し、C 7 号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。調査区外西側に対応する柱跡が存在して掘立柱建物跡となる可能性も考えられる。現状では軸方向は北西-南東で 5 間の柱穴列である。柱間は約 2 m、総長約 9 m を測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 6 号柱穴列 (第 35 図)

C 1 号平坦地の中央東側、VG-8 a グリッドに位置する。C 4 号柱穴列と平行 2 間、そして直行 2 間で屈曲する都合 4 間の柱穴列である。柱間は約 2 m、総長約 8 m を測る。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 7 号柱穴列 (第 35 図)

C 1 号平坦地の北側、IVF-i ラインに位置する 8 間の柱穴列である。軸方向は北東-南西で柱間約 2 m、総長約 15.8 m を測る。位置的にみて C 1 号平坦地の北側防御柵跡と思われる。柱穴からは遺物は出土しなかった。



C 1号柱穴列 柱穴一覧表

No.	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
15	IVG9d	略円形	0.30	0.21	0.19	106.22
19	IVG9d	略円形	0.30×0.24	0.24×0.28	0.19	106.22
23	IVG9d	略円形	0.32	0.24	0.38	106.51
28	IVG10d	略円形	0.30	0.25	0.61	106.31
31	IVG10d	略円形	0.38	0.31	0.15	106.78

C 2号柱穴列 柱穴一覧表

No.	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
17	IVG9d	略円形	0.34	0.32	0.14	106.78
25	IVG10d	略円形	0.27	0.21	0.29	106.68
29	IVG10d	略円形	0.32	0.26	0.26	106.78
38	IVG10d	略円形	0.30	0.28	0.30	106.73

C 3号柱穴列 柱穴一覧表

No.	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
56	VG2c	略円形	0.45	0.34	0.09	107.61
61	VG2c	略円形	0.36	0.27	0.09	107.54
138	VG2c	略円形	0.38	0.33	0.10	107.48
168	VG1c	略楕円形	0.60×0.40	0.49×0.34	0.12	107.41

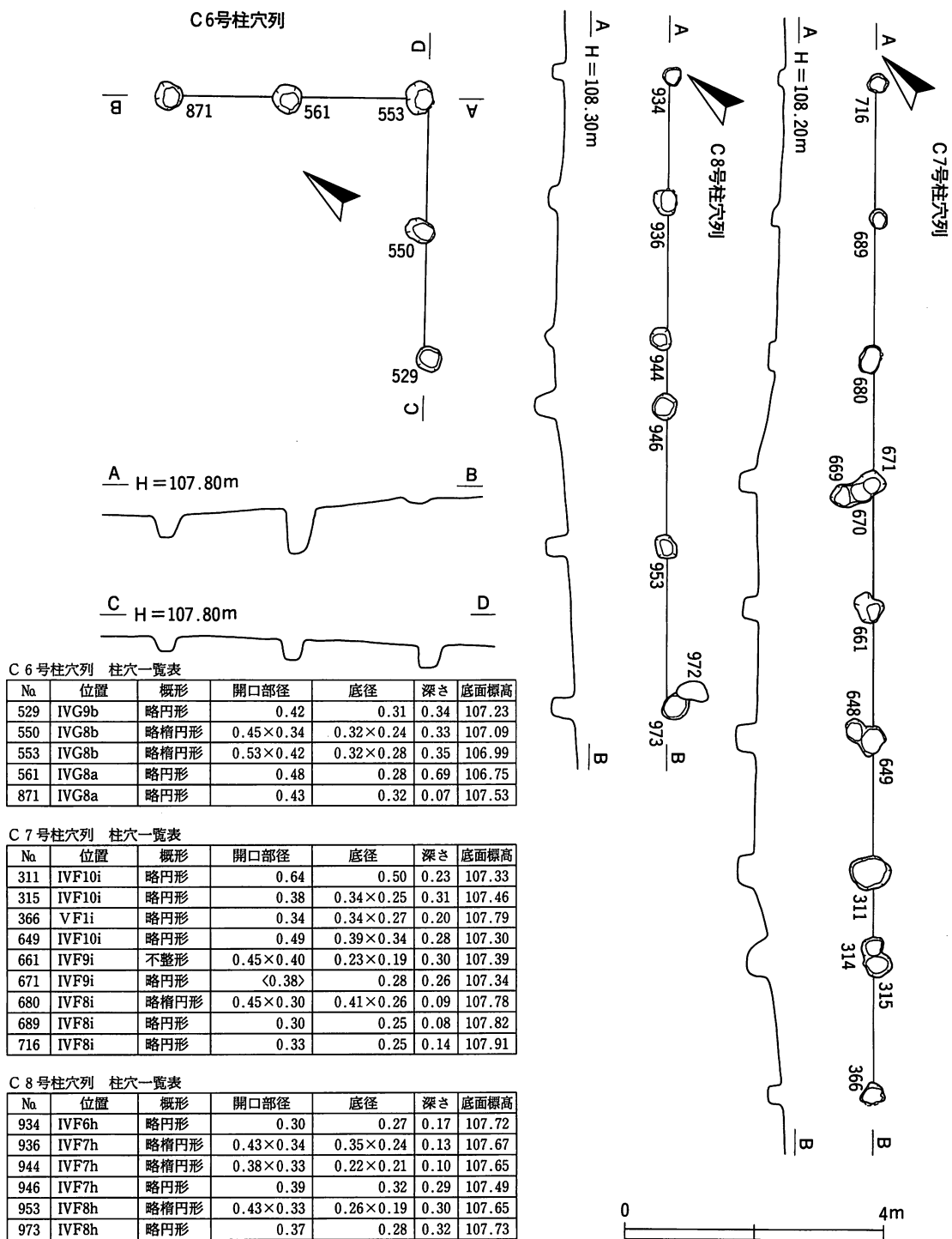
C 4号柱穴列 柱穴一覧表

No.	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
533	IVG9b	略楕円形	0.46×0.39	0.39×0.30	0.29	107.12
542	IVG8b	不整形	0.41×0.36	0.26×0.21	0.35	106.90
545	IVG8b	略楕円形	0.37×0.31	0.28×0.22	0.46	106.85
548	IVG8b	略楕円形	0.35×0.24	0.25×0.24	0.13	107.08

C 5号柱穴列 柱穴一覧表

No.	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
76	VG3b	略楕円形	0.44×0.32	0.38×0.26		
83	VG2b	略円形	0.50	0.39		
99	VG2a	略円形	0.48	0.45	0.20	107.78
103	VG2a	略円形	0.66	0.52	0.12	107.88
110	VG2a	略楕円形	<0.52>	0.37	0.10	107.94
420	VF2 j	略楕円形	(0.36)×(0.29)	(0.21)×(0.24)	0.37	107.72

第34図 C区中世の遺構 (C 1～5号柱穴列)



C 6号柱穴列 柱穴一覧表

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
529	IVG9b	略円形	0.42	0.31	0.34	107.23
550	IVG8b	略楕円形	0.45×0.34	0.32×0.24	0.33	107.09
553	IVG8b	略楕円形	0.53×0.42	0.32×0.28	0.35	106.99
561	IVG8a	略円形	0.48	0.28	0.69	106.75
871	IVG8a	略円形	0.43	0.32	0.07	107.53

C 7号柱穴列 柱穴一覧表

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
311	IVF10i	略円形	0.64	0.50	0.23	107.33
315	IVF10i	略円形	0.38	0.34×0.25	0.31	107.46
366	VF1i	略円形	0.34	0.34×0.27	0.20	107.79
649	IVF10i	略円形	0.49	0.39×0.34	0.28	107.30
661	IVF9i	不整形	0.45×0.40	0.23×0.19	0.30	107.39
671	IVF9i	略円形	<0.38>	0.28	0.26	107.34
680	IVF8i	略楕円形	0.45×0.30	0.41×0.26	0.09	107.78
689	IVF8i	略円形	0.30	0.25	0.08	107.82
716	IVF8i	略円形	0.33	0.25	0.14	107.91

C 8号柱穴列 柱穴一覧表

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高
934	IVF6h	略円形	0.30	0.27	0.17	107.72
936	IVF7h	略楕円形	0.43×0.34	0.35×0.24	0.13	107.67
944	IVF7h	略楕円形	0.38×0.33	0.22×0.21	0.10	107.65
946	IVF7h	略円形	0.39	0.32	0.29	107.49
953	IVF8h	略楕円形	0.43×0.33	0.26×0.19	0.30	107.65
973	IVF8h	略円形	0.37	0.28	0.32	107.73

第35図 C区中世の遺構 (C 6～8号柱穴列)

C 8号柱穴列 (第 35 図)

C 1号平坦地の北東縁、IV F-h ラインに位置する 5 間の柱穴列である。軸方向は北東-南西で柱間約 2 m、中央のみ約 1 m、総長は約 10 m を測る。位置的にみて C 1号平坦地の北側防御柵跡と思われる。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 1・2・3・4 列木柵跡 (付図 2)

すべて C 1号平坦地の南西部、C 1号道路状遺構の西側に位置する。C 1号列木柵跡のみ西側調査区外に続くため全容は不明である。確認された範囲での形態と規模は幅 30 cm前後、深さ 10~20 cmの溝内に、10~20 cmの間隔で径 15 cm程の柱穴が穿たれている。C 1号列木柵跡の総延長約 14 m、C 2号列木柵跡約 8.3 m、C 3号列木柵跡約 4 m、C 4号列木柵跡は約 3.8 m を測る。この 4 条のほか部分的に C 1号門跡に付属するものがあることから、いずれも C 1号平坦地の防御柵跡と思われる。配置状況からは C 1~3号列木柵跡は補強もしくは立て直し、C 4号列木柵跡は門の作り替えによるものと推定される。C 1号道路状遺構の東側では同形態の列木柵跡は確認できなかったが、位置的に C 1・2号柱穴列が対応する防御柵と推定される。柱穴からは遺物は出土しなかった。

C 区柱穴群 (付図 2)

C 区の柱穴は、C 1号平坦地では地形との関連と形態・規模・配置・深さ等から判断した C 1~8号掘立柱建物跡と C 1~8号柱穴列、門跡、橋跡を含めた 992 基、C 2号平坦地では 72 基、C 3号平坦地では 6 基の柱穴が検出された。各柱穴の計測値は以下の通り、単位は m である。

No	位 置	概 形	開口部径	底 径	深 さ	底面標高	重 複	備 考
1	IV G9d	略楕円形	0.36×0.32	0.26×0.30	0.13	105.89		C1 平
2	IV G9d	略円形	0.26	0.17	0.04	106.70		C1 平
3	IV G9d	略楕円形	0.13×0.15	0.08×0.08	0.06	106.72		C1 平
4	IV G9d	略円形	0.10	0.07	0.08	106.56		C1 平
5	IV G9d	略楕円形	0.29×0.23	0.25×0.18	0.08	106.55		C1 平
6	IV G9d	略楕円形	0.28×0.23	0.23×0.20	0.11	106.80		C1 平
7	IV G9d	略楕円形	0.50×0.30	0.40×0.26	0.07	106.90		C1 平
8	IV G9d	不整形	0.27×0.23	0.23×0.18	0.11	106.64		C1 平
9	IV G9d	略楕円形	0.41×0.29	0.34×0.28	0.23	106.71		C1 平
10	IV G8c	略円形	0.32	0.26	0.13	106.82		C1 平
11	IV G9c	略円形	0.24	0.19	0.28	106.71		C1 平
12	IV G9c	略円形	0.29	0.23	0.08	106.76		C1 平
13	IV G9d	略円形	0.29	0.23	0.08	106.64		C1 平
14	IV G9d	略円形	0.25	0.18	0.08	106.55		C1 平
15	IV G9d	略円形	0.30	0.21	0.19	106.22		C1 平 C1 柱列
16	IV G9c	略楕円形	0.37×0.27	0.33×0.26	0.08	106.88		C1 平
17	IV G9d	略円形	0.34	0.32	0.14	106.78		C1 平 C2 柱列
18	IV G9d	略円形	0.29	0.24	0.25	106.72		C1 平
19	IV G9d	略円形	0.30×0.24	0.24×0.28	0.19	106.22		C1 平 C1 柱列
20	IV G9d	略円形	0.21×0.16	0.13×0.09	0.06	106.56		C1 平
21	IV G10d	略円形	0.31	0.26	0.11	105.82		C1 平
22	IV G10d	略円形	0.26	0.18	0.10	105.84		C1 平
23	IV G9d	略円形	0.32	0.24	0.38	106.51		C1 平 C1 柱列
24	IV G9d	不整形	0.46×0.34	0.33×0.26	0.19	106.68		C1 平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
25	IV G10d	略円形	0.27	0.21	0.29	106.68			C1平 C2柱列
26	IV G10d	略円形	0.45	0.35	0.30	106.84			C1平
27	IV G10d	略楕円形	0.42×0.37	0.36×0.30	0.50	106.48			C1平
28	IV G10d	略円形	0.30	0.25	0.61	106.31			C1平 C1柱列
29	IV G10d	略円形	0.32	0.26	0.26	106.78			C1平 C2柱列
30	IV G10d	略楕円形	0.26×0.21	0.21×0.18	0.31	106.73			C1平
31	IV G10d	略円形	0.38	0.31	0.15	106.78			C1平 C1柱列
32	IV G10e	略円形	0.27	0.18	0.15	105.49			C1平
33	IV G10d	略円形	0.47	0.41	0.28	106.23			C1平
34	IV G10d	略円形	0.44	0.35	0.23	106.21			C1平
35	IV G10d	略楕円形	0.36×0.31	0.32×0.21	0.19	106.43			C1平
36	IV G10e	略円形	0.20	0.15	0.20	106.11			C1平
37	IV G10d	略楕円形	0.39×0.33	0.34×0.26	0.13	106.89			C1平
38	IV G10d	略円形	0.30	0.28	0.30	106.73			C1平 C2柱列
39	V G1c	略円形	0.39	0.32	0.13	107.11			C1平
40	V G1c	略円形	0.48	0.39	0.17	107.04			C1平
41	V G1d	略円形	0.57	0.49	0.43	106.39			C1平
42	V G1d	略円形	<0.58>	0.49	0.22	106.19	P66		C1平
43	V G1d	略楕円形	0.33×0.29	0.25×0.20	0.12	106.61			C1平
44	V G1d	略円形	0.23	0.16	0.09	106.75			C1平
45	V G1d	略円形	0.21	0.15	0.07	106.73			C1平
46	V G3d	略楕円形	0.39×0.35	0.31×0.27	0.31	106.78			C1平
47	V G3d	略円形	0.23	0.17	0.13	107.15			C1平
48	V G3d	不整形	0.34×0.32	0.27×0.25	0.22	107.17			C1平
49	V G3d	不整形	0.33×0.28	0.22×0.20	0.37	107.02			C1平
50	V G2d	略円形	0.22	0.13	0.09	106.40			C1平
51	V G2d	略円形	0.27	0.18	0.10	107.35			C1平
52	V G2c	略円形	0.36	0.27	0.17	107.25			C1平
53	V G2c	略楕円形	0.35×0.31	0.28×0.25	0.36	106.96			C1平
54	V G2c	略楕円形	0.35×0.35	0.25×0.28	0.04	106.99			C1平
55	V G3c	略楕円形	0.48×0.34	0.32×0.23	0.07	107.70			C1平
56	V G2c	略円形	0.45	0.34	0.09	107.61			C1平 C3柱列
57	V G2c	略円形	<0.44>	<0.33>	0.12	107.54	P65		C1平
58	V G2c	略楕円形	0.37×0.30	0.25×0.20	0.08	107.54			C1平
59	V G2c	略楕円形	0.31×0.28	0.28×0.15	0.08	107.50			C1平
60	V G2c	略円形	0.42	0.37	0.11	107.48			C1平
61	V G2c	略円形	0.36	0.27	0.09	107.54			C1平 C3柱列
62	V G2c	略楕円形	0.45×0.40	0.39×0.30	0.10	107.56			C1平
63	V G2c	略円形	0.35	0.27	0.07	107.59			C1平
64	V G2c	略楕円形	0.23×0.21	0.18×0.15	0.07	107.62			C1平
65	V G2c	不整形	<0.35>	<0.19>	0.12	107.54	P57		C1平
66	V G1d	不整形	<0.36>	<0.32>			P42		C1平
67	V G2b	略楕円形	0.37×0.31	0.31×0.24	0.06	107.68			C1平
68	V G2b	略円形	0.38	0.29	0.08	107.69			C1平
69	V G2b	略円形	0.41	0.34	0.11	107.68			C1平
70	V G2b	略円形	0.37×0.34	0.32×0.29	0.08	107.69			C1平
71	V G2b	略楕円形	0.34×0.27	0.23×0.19	0.11	107.70			C1平
72	V G2b	略楕円形	0.44×0.38	0.33×0.28	0.10	107.71			C1平
73	V G3b	略楕円形	0.27×0.23	0.19×0.17	0.70	107.15			C1平
74	V G2b	略楕円形	0.42×0.32	0.34×0.30	0.61	107.26			C1平
75	V G2b	略円形	0.37	0.34					C1平
76	V G3b	略楕円形	0.44×0.32	0.38×0.26					C1平 C5柱列
77	V G2b	略円形	0.37	0.41	0.80	107.05			C1平
78	V G2b	略円形	0.34	0.22	0.07	107.77			C1平
79	V G2b	略楕円形	0.46×0.33	0.32×0.20			P80		C1平
80	V G2b	不整形	<0.28>	<0.23>	0.06	107.79	P79		C1平
81	V G2b	略楕円形	0.36×0.24	0.24×0.22	0.23	107.62			C1平
82	V G2b	略円形	0.40	0.32					C1平
83	V G2b	略円形	0.50	0.39					C1平 C5柱列

No	位 置	概 形	開口部径	底 径	深 さ	底面標高	重 複	備 考
84	V G2b	略円形	0.49	0.36	0.78	107.05		C1 平
85	V G2b	略楕円形	0.71×0.49	0.61×0.43	0.43	107.35		C1 平
86	V G2a	略楕円形	0.43×0.28	0.34×0.22	0.20	107.59		C1 平
87	V G2a	略楕円形	0.39×0.32	0.29×0.28	0.21	107.58		C1 平
88	V G2a	略円形	0.38	0.31	0.22	107.56		C1 平 C7 掘立
89	V G2a	略楕円形	0.41	0.34	0.17	107.71		C1 平
90	V G3a	略楕円形	0.40×0.32	0.28×0.20	0.23	107.62		C1 平
91	V G3a	不整形	0.46×0.35	0.34×0.30				C1 平
92	V G2a	略楕円形	0.40×0.25	0.28×0.23				C1 平
93	V G3a	略楕円形	0.44×0.35	0.34×0.28				C1 平
94	V G3a	略円形	<0.29>	<0.21>	1.11	106.89	P95	C1 平
95	V G3a	略円形	0.30	0.18			P94	C1 平
96	V G3a	略円形	0.34	0.28	0.06	107.94		C1 平
97	V G2a	不整形	<0.25>	0.24	0.14	107.86	P98	C1 平
98	V G2a	不整形	<0.22>	0.19	0.16	107.84	P97	C1 平
99	V G2a	略円形	0.48	0.45	0.20	107.78		C1 平 C5 柱列
100	V G2a	略円形	0.28	0.21	0.08	107.92		C1 平
101	V G2a	不整形	0.38×0.29	0.30×0.22	0.16	107.84		C1 平
102	V G2a	略円形	0.33	0.23	0.13	107.87	P103	C1 平 C7 掘立
103	V G2a	略円形	0.66	0.52	0.12	107.88	P102	C1 平 C5 柱列
104	V G2a	略楕円形	0.28×0.19	0.18×0.14	0.26	107.72		C1 平
105	V G3a	略円形	0.25	0.20	0.31	107.71		C1 平
106	V G2a	略円形	0.51	0.39	0.15	107.92		C1 平
107	V G2a	略円形	0.46	0.35	0.11	107.89		C1 平
108	V G2a	略円形	0.38	0.30	0.15	107.88		C1 平
109	V G2a	不整形	<0.34>	<0.22>	0.11	107.93	P110	C1 平
110	V G2a	略楕円形	<0.52>	0.37	0.10	107.94	P109	C1 平 C5 柱列
111	V G2a	略円形	0.44	0.38	0.11	107.89	P112	C1 平
112	V G2a	不整形	<0.32>	<0.19>	0.57	107.83	P111	C1 平
113	V G2a	略円形	0.23	0.19	0.13	107.87		C1 平
114	V G2a	略楕円形	<0.88>×<0.55>	0.72×0.46	0.24	107.76	P115,P116	C1 平 C7 掘立
115	V F2j	略円形	<0.28>	<0.25>			P114,P116	C1 平
116	V G2a		<0.40>	<0.28>			P114,P115	C1 平
117	V G2a	略楕円形	0.55×0.46	0.43×0.38	0.31	107.58		C1 平
118	V G2a	略楕円形	0.50×0.38	0.39×0.32	0.25	107.64		C1 平
119	V G2a	略円形	0.37	0.32	0.19	107.55		C1 平
120	V G2a	不整形	0.32×0.29	0.28×0.25	0.25	107.63		C1 平
121	V G2a	略楕円形	0.60×0.55	0.50×0.48	0.33	107.58		C1 平 C7 掘立
122	V G2a	略楕円形	0.45×0.35	0.39×0.28	0.30	107.61		C1 平
123	V G2a	略楕円形	0.26×0.20	0.19×0.18	0.16	107.74		C1 平
124	V G2a	略円形	0.33	0.30	0.18	107.76		C1 平
125	V G2a	不整形	0.44×0.35	0.35×0.28	0.15	107.78		C1 平
126	V G2a	略円形	0.35	0.22	0.22	107.62		C1 平
127	V G2a	略楕円形	0.41	0.36	0.22	107.62		C1 平
128	V G2a	略円形	0.24	0.15×0.12	0.21	107.64		C1 平
129	V G2a	略円形	0.43	0.34×0.34	0.10	107.66	P130	C1 平
130	V G2a	略円形	0.65	0.51×0.51	0.11	107.65	P129	C1 平 C7 掘立
131	V G2b	不整形	0.41×0.33	0.34×0.30	0.15	107.49		C1 平
132	V G2b	略円形	0.29	0.18			P133	C1 平
133	V G2b	略円形	0.52	0.45	0.16	107.62	P132	C1 平
134	V G2b	略楕円形	0.42	0.40				C1 平
135	V G2b	略円形	0.35	0.31	0.16	107.62		C1 平
136	V G2b	略円形	0.38	0.29	0.12	107.58		C1 平
137	V G2c	略円形	0.31	0.25	0.06	107.53		C1 平
138	V G2c	略円形	0.38	0.33	0.10	107.48		C1 平 C3 柱列
139	V G2c	略円形	0.34	0.24	0.08	107.50		C1 平
140	V G2c	略円形	0.42	0.30	0.11	107.51		C1 平
141	V G2b	略円形	0.40	0.32	0.09	107.56		C1 平
142	V G2b	不整形	0.51×0.43	0.45×0.41	0.69	106.99		C1 平 C2 掘立

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
143	V G2b	略円形	0.25	0.20	0.10	107.56			C1平
144	V G2a	略円形	0.40	0.36	0.50	107.19			C1平
145	V G2a	略円形	0.38	0.30	0.14	107.59			C1平
146	V G2a	略楕円形	0.43×0.42	0.38×0.32	0.12	107.61			C1平
147	V G2a	略楕円形	0.33×0.27	0.25×0.19	0.23	107.62			C1平
148	V G2a	略円形	0.40	0.25	0.23	107.61			C1平
149	V G2a	略円形	0.40	0.24	0.23	107.61			C1平
150	V G1a	略円形	0.66	0.60×0.40	0.32	107.54			C1平 C2掘立
151	V G1a	略楕円形	0.56×0.36	0.48×0.31	0.22	107.69			C1平
152	V G1a	略楕円形	0.40×0.27	0.28×0.20	0.20	107.71			C1平
153	V G1a	略楕円形	0.38×0.28	0.30×0.22	0.08	107.74			C1平
154	V G1a	略円形	0.36	0.31×0.23	0.13	107.65			C1平
155	V G1a	略円形	0.28	0.28	0.13	107.61			C1平
156	V G1a	略楕円形	0.60×0.39	0.55×0.32	0.15	107.59			C1平
157	V G1a	略円形	0.39	0.28	0.19	107.59			C1平
158	V G1a	略楕円形	0.43×0.28	0.34×0.23	0.16	107.61			C1平
159	V G1b	略楕円形	0.34×0.27	0.29×0.26	0.15	107.50			C1平
160	V G1b	略楕円形	0.35×0.29	0.32×0.32	0.16	107.49			C1平
161	V G1b	略円形	0.35	0.27	0.16	107.49			C1平
162	V G1b	略円形	0.37	0.27	0.12	107.51			C1平
163	V G1b	略楕円形	0.40×0.31	0.32×0.31	0.17	107.49			C1平
164	V G1b	不整形	0.33×0.23	0.24×0.23					C1平
165	V G1b	略円形	0.39	0.27	0.17	107.42			C1平
166	V G1b	略楕円形	0.38×0.34	0.30×0.24	0.10	107.51			C1平
167	V G1c	略円形	0.50	0.34	0.12	107.43			C1平
168	V G1c	略楕円形	0.60×0.40	0.49×0.34	0.12	107.41			C1平 C3柱列
169	V G1c	略円形	0.30	0.14	0.11	107.28			C1平
170	V G1b	略円形	0.33	0.31	0.24	107.30			C1平
171	V G1b	略楕円形	0.53×0.32	0.37×0.19	0.28	107.35			C1平
172	V G1b	略円形	0.45	0.15	0.32	107.26			C1平
173	V G1b	不整形	0.42×0.35	0.34×0.25	0.21	107.41			C1平 C2掘立
174	V G1b	略円形	0.35	0.28	0.17	107.43			C1平
175	V G1b	略円形	0.27	0.23	0.18	107.41			C1平
176	V G1b	略円形	0.50	0.40	0.17	107.42	P177,P178		C1平 C2掘立
177	V G1b	不整形	<0.29>	<0.21>	0.11	107.48	P176,P178		C1平
178	V G1b	略円形	<0.36>	0.28	0.09	107.50	P176,P177		C1平
179	V G1b	略楕円形	0.26×0.21	0.19×0.19	0.11	107.41			C1平
180	V G1b	略円形	0.26	0.24	0.15	107.44			C1平
181	V G1b	略円形	0.45	0.36	0.07	107.53			C1平
182	V G1b	不整形	0.33×0.25	0.26×0.20	0.11	107.42			C1平
183	V G1b	略円形	0.35	0.25	0.09	107.41			C1平
184	V G1b	略円形	0.46	0.32	0.11	107.40	P185		C1平
185	V G1b	略円形	0.38	0.22	0.12	107.39	P184		C1平 C1掘立
186	V G1b	略円形	0.38	0.31	0.13	107.38			C1平 C2掘立
187	V G1b	略円形	0.46	0.38	0.07	107.44			C1平
188	V G1b	略円形	0.38	0.31	0.10	107.42			C1平
189	V G1b	略円形	0.32	0.28	0.11	107.41			C1平
190	V G1b	略円形	0.39	0.34	0.22	107.29			C1平
191	V G1b	略円形	<0.43>	0.39×0.36	0.26	107.22	P192		C1平 C2掘立
192	V G1b	略円形	<0.37>	0.30×0.26	0.39	107.08	P191		C1平
193	V G1b	略楕円形	0.39×0.32	0.29×0.24	0.18	107.30			C1平
194	V G1b	略円形	0.46	0.38	0.19	107.22			C1平
195	V G1c	略円形	<0.32>	0.31×0.27	0.19	107.16			C1平
196	V G1c	略円形	<0.31>	0.28×0.32	0.18	107.18			C1平
197	V G1b	略楕円形	0.38×0.32	0.28×0.28	0.29	107.19			C1平
198	V G1b	略円形	0.45	0.39	0.23	107.19			C1平
199	V G1b	略円形	0.46	0.38	0.20	107.21			C1平
200	V G1b	略楕円形	0.38×0.31	0.32×0.31	0.18	107.23			C1平
201	IV G10b	略円形	0.44	0.38	0.23	107.17			C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
202	IV G10b	略楕円形	0.35×0.28	0.28×0.27	0.19	107.25			C1 平
203	IV G10c	略円形	0.48	0.38	0.13	107.27			C1 平
204	IV G10c	略楕円形	0.28×0.24	0.22×0.17	0.17	107.18			C1 平
205	IV G10c	略楕円形	0.48×0.39	0.40×0.30	0.15	107.27			C1 平
206	IV G10b	略楕円形	0.36×0.28	0.34×0.26	0.13	107.28			C1 平
207	IV G10b	略楕円形	0.24×0.16	0.14×0.13	0.11	107.31			C1 平
208	IV G10b	略円形	0.29	0.25	0.19	107.29			C1 平
209	IV G10b	略円形	0.44	0.39	0.17	107.28			C1 平
210	IV G10b	略円形	0.31	0.23	0.11	107.39			C1 平
211	IV G10b	略楕円形	0.52×0.42	0.45×0.43	0.19	107.28			C1 平 C2 掘立
212	IV G10b	略楕円形	0.27×0.17	0.20×0.15	0.16	107.35			C1 平
213	IV G10b	略楕円形	0.31×0.26	0.24×0.20	0.17	107.36			C1 平
214	IV G10b	略楕円形	0.30×0.27	0.22×0.21	0.14	107.37			C1 平
215	IV G10b	略楕円形	0.53×0.44	0.45×0.38	0.12	107.38			C1 平
216	IV G10b	略円形	0.29	0.28					C1 平
217	IV G10b	略円形	0.41	0.30	0.12	107.38			C1 平
218	IV G10b	略円形	0.64	0.46	0.11	107.39			C1 平
219	IV G10b	略円形	0.32	0.27	0.17	107.32			C1 平
220	IV G10b	不整形	<0.74>	0.70×0.42	0.39	107.10	P221,P222		C1 平 C1 掘立
221	IV G10b			0.46×0.27	0.14	107.36	P223,P222,P220		C1 平 C2 掘立
222	IV G10b			0.29×0.22	0.13	107.37	P220,P221		C1 平
223	IV G10b			<0.14>			P221		C1 平
224	IV G10b	略円形	0.26	0.20	0.13	107.38			C1 平
225	IV G10b	略円形	0.20	0.18	0.16	107.35			C1 平
226	V G1b	略円形	0.34	0.24	0.16	107.38			C1 平
227	V G1b	略楕円形	0.35	0.29	0.11	107.41			C1 平
228	IV G10b	略楕円形	0.38×0.27	0.24×0.21	0.10	107.44			C1 平
229	IV G10b	略円形	0.46	0.36	0.20	107.29			C1 平
230	IV G10a	略楕円形	0.35×0.30	0.24×0.22	0.17	107.25			C1 平
231	IV G10a	略円形	0.38	0.34	0.09	107.38			C1 平
232	IV G10a	略円形	0.37	0.25	0.13	107.34			C1 平
233	IV G10a	略円形	0.61	0.52	0.20	107.18			C1 平
234	IV G10a	略円形	0.56	0.46	0.25	107.13			C1 平 C2 掘立
235	IV G10a	略楕円形	0.45	0.41	0.16	107.43			C1 平
236	IV G10a	略円形	0.36	0.32	0.17	107.42			C1 平
237	IV G10a	略円形	0.41	0.35	0.07	107.54			C1 平
238	IV G10a	略円形	0.41	0.32	0.11	107.33			C1 平
239	V G1a	略円形	0.36	0.32	0.17	107.26			C1 平
240	V G1a	略楕円形	0.33×0.26	0.23×0.19	0.15	107.39			C1 平
241	V G1a	略楕円形	0.53	0.45	0.13	107.41			C1 平
242	V G1a	不整形	0.46×0.32	0.38×0.30	0.18	107.34			C1 平
243	V G1a	略円形	0.36	0.34×0.26	0.56	106.96			C1 平 C1 掘立
244	V G1a	略円形	0.38	0.30×0.26	0.48	107.20			C1 平
245	V G1a	略楕円形	0.67×0.58	0.60×0.50	0.18	107.32			C1 平
246	V G1a	略円形	0.29	0.26	0.25	107.31			C1 平
247	V G1a	略円形	(0.26)	(0.31)	0.27	107.31	P248		C1 平
248	V G1b	略円形	(0.18)	(0.27)	0.28	107.30	P247		C1 平
249	V G3c	略円形	(0.47)	(0.32)					C1 平
250	V G3b	不整形	<0.53>	<0.38>					C1 平
251	V G2c	略円形	<0.44>	<0.29>	0.59	107.05			C1 平
252	V G2b	略円形	<0.53>	0.38	0.07	107.70			C1 平
253	V G2b	略円形	<0.34>	0.29×0.36	0.26	107.45	P254,P255		C1 平
254	V G2b			0.25×0.18	0.26	107.45	P253,P255		C1 平
255	V G2b		<0.39>	0.33×0.31			P253,P254,P256		C1 平
256	V G2b		<0.42>	<0.32>	0.23	107.44	P255		C1 平
257	V G2b	略円形	<0.49>	<0.39>	0.27	107.41	P258		C1 平
258	V G2b	略円形	0.48	0.53×0.39	0.26	107.43	P257		C1 平 C2 掘立
259	V G2a	不整形	1.01×0.76	0.89×0.68	0.35	107.51			C1 平 C2 掘立
260	V G2a	不整形	<0.38>	<0.29>	0.59	107.23	P261		C1 平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
261	V G2a	略円形	<0.38>	0.34×0.31	0.27	107.55	P260,P262		C1平
262	V G2a	略円形	<0.49>	0.42	0.29	107.53	P261,P263		C1平
263	V G2a	略円形	<0.31>	0.29×0.26	0.27	107.55	P262		C1平
264	V G1a	略円形	<0.33>	0.26	0.42	107.41	P266		C1平
265	V G1a			0.27×0.22	0.41	107.42			C1平
266	V G1a			0.44×0.38	0.34	107.42	P264		C1平
267	V G1a	略円形	0.54	0.44	0.26	107.28			C1平
268	V G1a	略楕円形	0.34×0.25	0.21×0.17	0.13	107.48			C1平
269	V G1a	略楕円形	0.44×0.39	0.35×0.29	0.14	107.52			C1平
270	V G1a	略楕円形	0.55×0.44	0.46×0.41	0.19	107.55			C1平
271	V G1a	略円形	0.37	0.29	0.26	107.53			C1平
272	V G1a	略楕円形	0.51×0.40	0.42×0.36	0.23	107.61			C1平
273	V G1a	略楕円形	0.35×0.35	0.31×0.25	0.23	107.62			C1平
274	V G1a	略円形	0.61	0.55	0.21	107.64			C1平 C2掘立
275	V G1a	略楕円形	0.36×0.23	0.35×0.23	0.37	107.52			C1平
276	V G1a	略楕円形	0.36×0.28	0.34×0.21	0.25	107.64			C1平
277	V G1a	略円形	0.50	0.33	0.23	107.60	P278		C1平
278	V G1a	略楕円形	<0.37>×<0.29>	0.33	0.21	107.62	P277,P279		C1平
279	V G1a	略楕円形	<0.49>×<0.26>	0.24	0.24	107.59	P278		C1平
280	V G1a	略楕円形	0.40×0.32	0.34×0.24	0.17	107.60			C1平 C1掘立
281	V G1a	略円形	0.39	0.33	0.13	107.51			C1平
282	V G1a	略楕円形	0.39×0.37	0.24×0.18	0.33	107.31			C1平
283	V G1a	略円形	0.39×0.36	0.31×0.32	0.12	107.39			C1平
284	IV G10a	略円形	0.26	0.29	0.27	107.35			C1平
285	IV G10a	不整形	0.38	0.28	0.30	107.32			C1平
286	IV G10a	略円形	0.32	0.27	0.30	107.32			C1平
287	V G1j	略円形	0.35	0.25	0.18	107.27			C1平 C1掘立
288	V G1j	略楕円形	0.48×0.34		0.37	107.56			C1平
289	V G1j	略楕円形	<0.40>×<0.30>	<0.22>	0.73	107.29			C1平
290	IV G10a	略円形	0.54	0.45	0.10	107.55	P291		C1平 C2掘立
291	IV G10a	略楕円形	0.72×0.56	0.60×0.47	0.13	107.51	P290		C1平
292	IV G10a	略円形	0.48	0.35	0.16	107.49			C1平
293	IV G10a	略円形	0.35	0.30	0.17	107.48			C1平
294	IV G10a	略楕円形	0.44×0.23	0.23×0.22	0.18	107.47			C1平
295	IV G10a	不整形	0.24	0.22	0.31	107.51	P296		C1平
296	IV G10a		0.29	0.15			P295		C1平
297	IV G10a	略円形	<0.43>	0.38	0.23	107.59	P298		C1平
298	IV F10j	略円形	<0.44>	0.39	0.18	107.64	P297		C1平
299	IV F10j	略楕円形	0.64×0.58	0.58×0.50	0.17	107.80			C1平
300	IV F10j	略円形	0.34	0.32	0.17	107.64			C1平 C2掘立
301	IV F10j	略円形	0.23	0.17	0.10	107.88			C1平
302	IV F10j	略円形	0.40	0.34	0.18	107.82			C1平
303	IV F10j	略円形	0.35	0.29	0.17	107.86			C1平
304	IV F10j	略円形	0.36	0.32	0.11	107.86			C1平 C1掘立
305	IV F10j	不整形	0.53	0.50	0.14	107.81			C1平
306	IV F10j	略楕円形	0.35×0.32	0.26×0.18	0.12	107.71			C1平
307	IV F10i	略円形	<0.59>	0.51×0.49	0.26	107.31	P308		C1平
308	IV F10i	略円形	<0.45>	0.29×0.22	0.31	107.26	P307		C1平
309	IV F10i	略楕円形	0.66×0.36	0.56×0.30	0.13	107.46			C1平
310	IV F10i	略円形	0.39	0.29	0.12	107.47			C1平
311	IV F10i	略円形	0.64	0.50	0.23	107.33			C1平 C7柱列
312	IV F10i	略円形	0.52	0.53	0.20	107.36			C1平
313	IV F10i	略楕円形	0.42×0.20	0.30×0.15	0.12	107.88			C1平
314	IV F10i	略円形	0.45	0.38×0.24	0.37	107.47	P315		C1平
315	IV F10i	略円形	0.38	0.34×0.25	0.31	107.46	P314		C1平 C7柱列
316	IV F10i	略円形	0.49	0.42	0.18	107.40			C1平
317	IV F10i	略楕円形	0.48×0.42	0.46×0.40	0.30	107.27			C1平
318	IV F10i	略円形	<0.54>	0.38	0.26	107.32			C1平
319	IV F10i	略円形	<0.48>	0.34	0.29	107.33			C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
320	IV F10i	略円形	0.40	0.35×0.34	0.18	107.47	P321		C1平 C1掘立
321	IV F10i	略円形	0.55	0.50×0.43	0.20	107.45	P320		C1平
322	IV F10i	略円形	0.36	0.28	0.23	107.42			C1平
323	IV F10i	略円形	0.50	0.42	0.43	107.32			C1平
324	IV F10i	略円形	0.32	0.29	0.05	107.84			C1平
325	IV F10i	略楕円形	0.46×0.34	0.40×0.28	0.08	107.81			C1平
326	IV F10j	略円形	<0.23>	0.14	0.12	107.79	P327		C1平
327	IV F10j	略円形	0.30	0.24	0.13	107.78	P326		C1平
328	IV F10j	略円形	0.40	0.34	0.12	107.79			C1平
329	IV F10j	略円形	0.35	0.29	0.14	107.77	P330		C1平 C1掘立
330	IV F10j	略楕円形	0.45×0.34	0.36×0.27	0.15	107.80	P329		C1平
331	IV F10j	略円形	0.38	0.34	0.17	107.81			C1平
332	IV F10j	略円形	0.44	0.32	0.14	107.81			C1平 C2掘立
333	IV F10j	略円形	<0.41>	<0.33>			P334		C1平
334	IV F10j	略楕円形	0.51×0.43	0.40×0.28	0.16	107.77	P333		C1平
335	IV F10j	略円形	<0.32>	0.29	0.13	107.82	P336		C1平
336	IV F10j	略円形	<0.42>	0.28	0.16	107.79	P335		C1平
337	IV F10j	略円形	<0.29>	0.23	0.22	107.74	P338		C1平
338	V F1j	略楕円形	<0.35>×<0.23>	0.25×0.17	0.22	107.73	P337		C1平
339	V F1j	略楕円形	0.72×0.65	0.65×0.57	0.15	107.79			C1平 C1掘立
340	V F1j	略円形	<0.30>	0.20	0.22	107.77	P341,P342		C1平
341	V F1j	略円形	<0.44>	0.36	0.21	107.78	P340,P342		C1平 C2掘立
342	V F1j	略楕円形	<0.42>×0.59	0.54×0.37	0.18	107.79	P340,P341		C1平
343	IV F10j	略楕円形	0.41×0.36	0.31×0.29	0.13	107.82			C1平
344	IV F10i	略円形	0.48	0.37	0.26	107.86			C1平
345	IV F10i	略円形	<0.42>	0.20×0.15	0.19	107.93	P346		C1平
346	IV F10i	略円形	<0.36>	0.17×0.14	0.27	107.92	P345		C1平
347	IV F10i	略楕円形	(0.30)×(0.24)	0.20×0.14	0.45	107.74			C1平
348	IV F10i	略楕円形	(0.36)×(0.33)	0.20×0.15	0.64	107.55			C1平
349	IV F10i	略楕円形	(0.33)×(0.29)	0.24×0.15	0.73	107.46			C1平
350	IV F10i	略楕円形	(0.53)×(0.35)	0.41×0.28	0.93	107.26			C1平
351	V F1i	略楕円形	(0.35)×(0.24)	0.19×0.13	0.20	107.99			C1平
352	V F1i	略楕円形	0.76×0.56	0.69×0.42	0.44	107.75			C1平 C1掘立
353	V F10i	略円形	0.51×0.47	0.32	0.48	107.52			C1平
354	V F1i	略円形	0.45	0.28	0.27	107.73			C1平
355	V F1i	不整形	0.42	0.33	0.26	107.74			C1平
356	V F1i	略円形	0.22	0.14	0.23	107.77			C1平
357	V F1i	略楕円形	0.21×0.15	0.13×0.09	0.21	107.79			C1平
358	V F1i	不整形	0.41×0.27	0.33×0.17	0.16	107.71			C1平
359	IV F10i	不整形	0.26×0.14	0.18×0.08	0.26	107.74			C1平
360	V F1i	略楕円形	0.49×0.37	0.38×0.23	0.14	107.77			C1平
361	V F1i	略楕円形	0.23×0.14	0.16×0.10	0.21	107.79			C1平
362	V F1i	略楕円形	0.30×0.13	0.22×0.08	0.15	107.79			C1平
363	V F1i	略円形	0.48	0.34×0.29	0.17	107.77	P364,P365		C1平
364	V F1i	略円形	0.43	0.28×0.24	0.18	107.76	P363,P365		C1平
365	V F1i	略円形	0.43	0.32	0.21	107.58	P363,P364		C1平
366	V F1i	略円形	0.34	0.34×0.27	0.20	107.79	P367		C1平 C7柱列
367	V F1i	略楕円形	0.45×0.58	0.38×0.27	0.25	107.74	P366		C1平
368	V F1i	略楕円形	0.31×0.24	0.20×0.15	0.16	107.88			C1平
369	V F1i	略円形	0.48	0.47×0.39	0.43	107.55	P370		C1平
370	V F1i	略円形	0.43	0.37	0.41	107.57	P369		C1平
371	V F1i	略楕円形	0.67×0.48	0.52×0.43	0.47	107.42			C1平
372	V F1i	略円形	0.49	0.38	0.38	107.57			C1平
373	V F1i	略楕円形	0.35×0.25	0.23×0.14	0.22	107.73			C1平
374	V F1i	略円形	0.86	0.71	0.23	107.82			C1平
375	V F1i	略円形	0.48	0.38	0.20	107.84			C1平
376	V F1i	略円形	0.63	0.59×0.48	0.51	107.41			C1平
377	V F1i	略円形	0.61	0.50×0.45	0.30	107.74	P378		C1平
378	V F1i	略円形	0.38	0.41×0.26	0.28	107.75	P377		C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
379	V F1i	略円形	0.36	0.34	0.12	108.15			C1平
380	V F1i	略円形	0.33	0.28	0.13	108.04			C1平
381	V F1j	略円形	0.40	0.38	0.18	107.81			C1平
382	V F1j	略円形	0.41	0.37	0.22	107.79			C1平 C1掘立
383	V F1j	略円形	0.60	0.51	0.14	107.88			C1平
384	V F1j	略楕円形	0.38×0.31	0.33×0.25	0.18	107.89			C1平
385	V F1j	略楕円形	0.38×0.34	0.31×0.26	0.22	107.85			C1平
386	V F1j	略円形	0.30	0.20	0.22	107.88			C1平
387	V F1j	略円形	0.32	0.23	0.11	107.89			C1平
388	V F1j	略楕円形	0.43×0.33	0.38×0.28	0.12	107.88			C1平
389	V F1j	略円形	0.55	0.48	0.63	107.41			C1平 C2掘立
390	V F1j	略楕円形	<0.65>×<0.49>	(0.60)×0.35	0.13	107.91	P391		C1平
391	V F1j	略楕円形	(0.42)×0.48	0.38×0.28	0.20	107.84	P390		C1平
392	V F1j	略円形	<0.32>	0.24×0.18	0.26	107.76	P393		C1平
393	V F1j	略円形	<0.38>	0.28×0.28	0.25	107.77	P392		C1平
394	V F1j	略円形	0.23	0.14	0.18	107.84			C1平
395	V F1j	不整形	0.34×0.33	0.26×0.18	0.20	107.82			C1平
396	V F1j	略楕円形	(0.40)×<0.28>	(0.27)×0.18	0.20	107.84	P397		C1平
397	V F1j	略楕円形	(0.60)×<0.54>	0.50×0.47	0.35	107.69	P396		C1平
398	V F1j*	略楕円形	0.44×0.30	0.24×0.21	0.14	107.84			C1平
399	V F1j	略円形	0.54	0.42	0.22	107.84			C1平
400	V F1j	略楕円形	0.46×0.38	0.36×0.30	0.16	107.92			C1平
401	V F1j	略円形	0.55×0.48	0.40×0.34	0.77	107.35			C1平
402	V F1i	略円形	0.38	0.38×0.25	0.24	107.84	P403		C1平
403	V F1i		<0.28>	<0.21>			P402		C1平
404	V F1i	略楕円形	0.33×0.23	0.23×0.18	0.30	107.82			C1平
405	V F1j	略円形	0.39×0.40	0.32×0.24					C1平
406	V F1j	不整形	0.53×0.44	0.41×0.27	0.20	107.82			C1平
407	V F1j	略円形	0.35	0.26×0.21	0.19	107.88	P408		C1平 C2掘立
408	V F1j	略楕円形	(0.35)×0.25	0.28×0.18	0.18	107.81	P407		C1平
409	V F2j	略円形	0.48	0.30	0.17	107.88			C1平
410	V F2j	略楕円形	0.55×0.37	0.40×0.25	0.16	107.94			C1平
411	V F2j	略楕円形	0.54×0.43	0.51×0.29	0.16	107.93			C1平
412	V F2j	略円形	0.42	0.35×0.34	0.13	107.94	P413		C1平
413	V F2j	略円形	0.31	0.23×0.18	0.16	107.91	P412		C1平
414	V F2j	略円形	(0.29)	(0.26)	0.20	107.88	P415		C1平
415	V F2j	略円形	(0.28)	(0.23)	0.20	107.88	P414		C1平
416	V F2j	略円形	<0.41>	0.30	0.18	107.86	P417		C1平
417	V F2j	略円形	<0.38>	0.33	0.23	107.85	P416,P418		C1平
418	V F2j	略円形	<0.39>	0.37×0.33	0.22	107.86	P417		C1平
419	V F2j	略円形	<0.58>	<0.51>	0.25	107.85			C1平 C7掘立
420	V F2j	略楕円形	(0.36)×<0.29>	<0.21>×(0.24)	0.37	107.72	P421		C1平 C5柱列
421	V F2j			0.38	0.40	107.69	P420		C1平
422	V F2j	略楕円形	0.66×0.51	0.58×0.33	0.53	107.47			C1平
423	V F2j	略円形	0.44	0.35×0.32	0.20	107.79	P424		C1平
424	V F2j	略円形	<0.26>	0.23	0.23	107.76	P423		C1平
425	V F2j	略円形	0.36	0.30	0.15	107.97			C1平
426	V F1j	略円形	0.46	0.36	0.15	107.79			C1平 C2掘立
427	V F1j	不整形	<0.57>×(0.38)	0.23	0.17	107.82	P428		C1平
428	V F1j	略円形	0.44	0.28	0.15	107.84	P427		C1平
429	V F1j	略楕円形	0.46×0.35	0.38×0.34	0.27	107.69			C1平
430	V F1j	略円形	0.35	0.27	0.41	107.55			C1平
431	V F1j	略楕円形	0.36×0.27	0.28×0.20	0.12	107.83			C1平
432	V G1a	略楕円形	0.51×0.37	0.42×0.26	0.13	107.79			C1平
433	V G1a	略楕円形	0.40×0.36	0.34×0.23	0.20	107.73			C1平
434	V G1a	略楕円形	0.67×0.69	0.66×0.58	0.15	107.80			C1平
435	V F1j	略円形	0.66	0.49	0.18	107.75			C1平 C2掘立
436	V G1a	略楕円形	0.69×0.53	0.59×0.43	0.20	107.73			C1平
437	V G1a	略円形	0.42	0.28	0.13	107.74			C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重 複	備 考
438	IV G10c	略円形	0.40	0.34	0.17	107.14		C1平
439	IV G10c	略円形	0.44	0.40	0.19	107.00		C1平
440	IV G9c	略円形	0.43	0.36	0.16	107.01		C1平
441	IV G10c	略円形	0.37	0.29	0.34	106.84		C1平
442	IV G10c	略円形	0.46	0.34	0.18	107.03		C1平
443	IV G9c	略円形	0.39	0.29	0.15	107.02		C1平
444	IV G9c	略楕円形	0.68×0.46	0.62×0.45	0.22	106.85		C1平
445	IV G9c	略楕円形	0.43×0.24	0.25×0.25	0.20	106.88		C1平
446	IV G8c	略円形	0.32	0.22	0.12	106.80		C1平
447	IV G8c	略円形	0.33	0.22	0.08	107.04		C1平
448	IV G8c	略円形	0.30	0.23	0.16	107.11		C1平
449	IV G8c	略円形	0.40	0.28	0.52	106.60		C1平
450	IV G8c	略円形	0.52	0.42	0.20	106.99	P451	C1平
451	IV G8c	略円形	0.46	0.29	0.17	107.02	P450	C1平
452	IV G8b	略楕円形	0.54×0.45	0.46×0.38	0.28	106.99		C1平
453	IV G9b	略楕円形	0.50×0.43	0.41×0.31	0.15	107.15		C1平
454	IV G9c	略円形	0.38	0.26	0.19	107.05		C1平
455	IV G9c	略楕円形	0.54×0.38	0.43×0.36	0.20	107.02		C1平
456	IV G9c	略楕円形	0.40×0.30	0.28×0.23	0.19	107.05		C1平
457	IV G9c	略楕円形	0.40×0.34	0.36×0.27	0.16	107.14		C1平
458	IV G9c	略円形	<0.43>	0.34	0.16	107.19	P459	C1平
459	IV G10c	略円形	<0.34>	0.24	0.16	107.19	P458	C1平
460	IV G10c	略円形	0.40	0.29	0.20	107.12		C1平
461	IV G10b	略円形	0.33	0.25	0.14	107.31		C1平
462	IV G10b	略円形	0.35	0.29	0.17	107.31		C1平
463	IV G10a	略円形	0.31	0.18				C1平
464	IV G10a	略円形	0.31	0.26	0.11	107.74		C1平
465	IV F10j	略円形	<0.47>	0.46	0.06	107.66	P466	C1平
466	IV F10j	略円形	<0.24>	0.17×0.23	0.24	107.69	P465	C1平
467	IV F10j	略円形	0.37	0.24	0.14	107.87		C1平
468	IV F10j	略円形	0.33	0.24	0.06	107.66		C1平
469	IV G10c	略円形	0.48	0.43	0.22	107.11		C1平
470	IV G10b	略円形	<0.53>	(0.37)×(0.24)	0.18	107.12		C1平
471	IV G10b	略円形	0.28	0.18	0.16	107.21		C1平
472	IV G10b	略円形	0.25	0.20	0.21	107.24		C1平
473	IV G10b	略楕円形	0.41×0.33	0.31×0.28	0.23	107.22		C1平
474	IV G10b	略楕円形	0.38×0.34	0.28×0.24	0.13	107.38		C1平
475	IV G10b	略円形	0.31	0.24	0.17	107.29		C1平
476	IV G10b	略楕円形	0.32×0.30	0.30×0.21	0.19	107.27		C1平
477	IV G9b	略楕円形	0.52×0.34	0.44×0.35	0.21	107.20		C1平
478	IV G9b	略円形	0.38	0.34	0.26	107.18		C1平
479	IV G9b	略円形	0.28	0.23	0.19	107.29		C1平
480	IV G10b	略円形	0.29	0.18	0.23	107.22		C1平
481	IV G10b	略円形	0.49	0.41	0.35	107.14		C1平
482	IV G10b	略円形	0.34	0.23	0.20	107.29		C1平
483	IV G10b	略円形	0.35	0.28	0.20	107.31	P484	C1平
484	IV G10b	略円形	0.41	0.39	0.22	107.29	P483	C1平
485	IV G10b	略円形	0.41	0.32	0.15	107.37		C1平
486	IV G10b	略円形	0.36	0.28	0.14	107.38		C1平
487	IV G10b	略円形	0.28	0.16	0.40	107.01		C1平
488	IV G10b	略円形	0.34	0.28	0.27	107.23		C1平
489	IV G10b	略円形	0.28	0.20	0.23	107.31		C1平
490	IV G10b	略円形	0.56	0.52	0.19	107.32		C1平 C1掘立
491	IV G10b	略円形	0.39	0.29	0.21	107.30		C1平
492	IV G10a	略円形	0.67	0.56	0.69	106.95		C1平 C1掘立
493	IV G10a	略円形	0.23	0.18	0.78	106.80		C1平
494	IV G10a	略円形	0.30	0.20	0.32	107.10		C1平
495	IV G10a	略楕円形	0.44×0.38	0.37×0.26	0.34	107.86		C1平
496	IV G10a	略楕円形	0.44×0.32	0.33×0.24	0.09	106.73		C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
497	IV G10a	略円形	0.32	0.23	0.07	106.75			C1 平
498	IV G10a	略楕円形	0.36×0.28	0.28×0.19	0.11	106.71			C1 平
499	IV G10b	略円形	0.32	0.25	0.09	106.72			C1 平
500	IV G10b	略円形	0.29	0.23	0.12	106.69			C1 平
501	IV G9b	略円形	<0.49>	0.27	0.16	106.78	P502		C1 平
502	IV G9b	略円形	<0.47>	0.31	0.15	106.79	P501		C1 平
503	IV G9b	略円形	0.41	0.36	0.18	106.79			C1 平 C1 掘立
504	IV G9b	略円形	0.54	0.44	0.39	107.05			C1 平
505	IV G9b	略円形	0.36	0.24	0.36	107.03			C1 平
506	IV G9b	略円形	0.31	0.26	0.38	107.01			C1 平
507	IV G9b	略円形	0.40	0.32	0.25	107.09			C1 平
508	IV G9b	略円形	0.48	0.37	0.38	107.04			C1 平
509	IV G9b	略円形	0.29	0.24	0.43	107.01			C1 平
510	IV G9b	略円形	0.35	0.30	0.55	106.84			C1 平
511	IV G9a	略楕円形	0.42×0.34	0.35×0.26	0.47	106.88			C1 平
512	IV G9a	略円形	0.29	0.23	0.62	106.85			C1 平
513	IV G9a	略円形	0.46	0.39	0.64	106.83			C1 平
514	IV G9a	略円形	0.53	0.47	0.88	106.59			C1 平
515	IV G9a	略円形	0.48	0.42	0.58	106.87			C1 平
516	IV G9a	略楕円形	0.52×0.40	0.45×0.36	0.57	106.88			C1 平 C5 掘立
517	IV G9a	略楕円形	0.28×0.24	0.15×0.12	0.68	106.77			C1 平
518	IV G9a	略楕円形	<0.50>×<0.40>	0.44×0.28	0.44	107.01	P519		C1 平
519	IV G9a	略円形	<0.49>	0.34	0.79	106.66	P518,P520		C1 平
520	IV G9a	略楕円形	(0.53)×<0.45>	0.49×0.33	0.86	106.59	P519		C1 平
521	IV G9a	略円形	0.33	0.23	0.30	106.84			C1 平
522	IV G9a	略円形	0.46	0.32	0.50	106.88			C1 平
523	IV G9b	略円形	0.43	0.12	1.33	106.17			C1 平
524	IV G9a	略楕円形	0.34×0.25	0.19×0.18	0.31	107.19			C1 平
525	IV G9a	略円形	0.31	0.21	0.30	107.05			C1 平
526	IV G9a	略楕円形	0.34×0.24	0.29×0.18	0.28	107.04			C1 平
527	IV G9a	略円形	0.23	0.17	0.31	107.24			C1 平
528	IV G9b	略円形	0.28	0.18	0.29	107.21			C1 平
529	IV G9b	略円形	0.42	0.31	0.34	107.23			C1 平 C6 柱列
530	IV G9b	略円形	0.29	0.21	0.27	107.18			C1 平
531	IV G9a	略円形	0.41	0.28	0.29	107.36			C1 平
532	IV G9b	略楕円形	0.39×0.33	0.28×0.26	0.42	106.78			C1 平
533	IV G9b	略楕円形	0.46×0.39	0.39×0.30	0.29	107.12			C1 平 C4 柱列
534	IV G9b	略楕円形	0.46×0.38	0.37×0.27	0.14	107.07			C1 平
535	IV G9b	略円形	0.46	0.38	0.41	107.01			C1 平
536	IV G9b	略楕円形	0.40×0.36	0.27×0.23	0.62	106.77			C1 平
537	IV G8b	略円形	0.44	0.35	0.52	106.79			C1 平
538	IV G8b	略楕円形	0.43×0.34	0.35×0.23	0.23	107.04			C1 平
539	IV G8b	略楕円形	0.43×0.33	0.39×0.29					C1 平
540	IV G8b	略楕円形	0.45×0.33	0.29×0.23	0.22	107.05			C1 平
541	IV G8b	略楕円形	0.49×0.40	0.35×0.34	0.50	106.77			C1 平
542	IV G8b	不整形	0.41×0.36	0.26×0.21	0.35	106.90			C1 平 C4 柱列
543	IV G8b	略円形	0.28	0.24	0.34	106.95			C1 平
544	IV G8b	略楕円形	0.30×0.24	0.23×0.16	0.35	106.96			C1 平
545	IV G8b	略楕円形	0.37×0.31	0.28×0.22	0.46	106.85			C1 平 C4 柱列
546	IV G8b	略円形	0.35	0.25	0.31	107.06			C1 平
547	IV G8b	略楕円形	0.57×0.44	0.53×0.32	0.30	107.12			C1 平
548	IV G8b	略楕円形	0.35×0.24	0.25×0.24	0.13	107.08			C1 平 C4 柱列
549	IV G8b	略楕円形	0.31×0.25	0.28×0.23	0.12	107.09			C1 平
550	IV G8b	略楕円形	0.45×0.34	0.32×0.24	0.33	107.09			C1 平 C6 柱列
551	IV G8a	略円形	0.29×0.29	0.18×0.15	0.32	107.01			C1 平
552	IV G8a	不整形	0.33×0.28	0.19×0.18	0.34	107.03			C1 平
553	IV G8b	略楕円形	0.53×0.42	0.32×0.28	0.35	106.99			C1 平 C6 柱列
554	IV G8b	略楕円形	0.50×0.34	0.24×0.23	0.22	107.07			C1 平
555	IV G8b	略円形	0.39	0.18	0.21	107.08			C1 平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
556	IV G8a	略円形	0.49	0.25	0.26	106.89			C1平
557	IV G8a	略円形	0.23	0.12	0.62	106.65			C1平
558	IV G8a	略円形	0.30×0.23	0.13×0.13	0.63	106.64			C1平
559	IV G8a	略円形	0.44	0.23	0.35	106.96			C1平
560	IV G8a	略円形	0.23	0.12	0.55	106.89			C1平
561	IV G8a	略円形	0.48	0.28	0.69	106.75			C1平 C6柱列
562	IV G8a	不整形	0.54×0.45	0.34×0.25	0.33	107.29			C1平
563	IV G8a	略楕円形	(0.21)	0.26×0.15	0.07	107.44	P564		C1平
564	IV G8a	略円形	<0.31>	0.22	0.09	107.42	P563		C1平
565	IV G8a	略円形	0.39	0.32	0.14	107.46			C1平
566	IV G8a	不整形	0.29	0.19	0.09	107.51	P567		C1平
567	IV G8a	略楕円形	(0.19)	(0.19)	0.08	107.52	P566		C1平
568	IV G8a	略円形	(0.25)×<0.45>	(0.15)×0.33	0.11	107.54	P569		C1平
569	IV G8a	略円形	<0.28>	0.22	0.11	107.54	P568		C1平
570	IV G8a	略円形	0.34	0.30	0.09	107.58			C1平
571	IV G8a	略円形	0.27	0.21	0.08	107.59			C1平
572	IV G9a	略円形	0.48	0.38	0.14	107.60			C1平
573	IV G8a	略円形	0.54	0.48	0.14	107.51			C1平
574	IV G9a	略楕円形	0.36×0.31	0.33×0.29	0.38	107.47			C1平 C5掘立
575	IV G9a	略楕円形	0.34×0.24	0.26×0.20	0.35	107.50			C1平
576	IV G9a	略楕円形	0.29×0.26	0.21×0.16	0.36	107.49	P577		C1平
577	IV G9a	略円形	<0.37>	0.19	0.34	107.51	P576,P578		C1平
578	IV G9a	略円形	0.26	0.23×0.18	0.30	107.55	P577,P579		C1平
579	IV G9a	略円形	0.32	0.29×0.28	0.28	107.57	P578		C1平
580	IV G9a	略楕円形	0.47×0.33	0.38×0.24	0.18	107.51			C1平
581	IV G9a	略円形	0.23	0.17	0.29	107.03	P582		C1平
582	IV G9a	略円形	<0.32>	0.24	0.16	107.11	P581,P583		C1平 C5掘立
583	IV G9a	略円形	<0.22>	0.20×0.16	0.23	107.09	P582		C1平
584	IV G9a	略楕円形	0.55×0.33	0.47×0.32	0.31	107.07			C1平
585	IV G9a	略楕円形	0.49×0.39	0.39×0.27	0.20	107.31	P586		C1平
586	IV G9a	略楕円形	0.60×0.35	0.56×0.29	0.10	107.41	P585		C1平
587	IV G9a		<0.26>				P588		C1平
588	IV G9a	略楕円形	0.48×0.45	0.45×0.35	0.39	107.46	P587		C1平
589	IV G9a	略楕円形	0.47×0.36	0.36×0.25	0.38	107.47	P590		C1平 C5掘立
590	IV G9a	略楕円形	(0.60)×<0.43>	(0.42)×0.37	0.32	107.20	P589		C1平
591	IV G9a	略円形	<0.39>	0.32	0.39	107.49	P592,P599		C1平
592	IV G9a	略円形	0.46	0.38	0.36	107.52	P591,P593,P594		C1平
593	IV G9a	略円形	0.42	0.33	0.04	107.57	P592		C1平 C1掘立
594	IV G9a	略楕円形	0.43×0.32	0.33×0.24	0.28	107.54	P592		C1平
595	IV G9a	略楕円形	0.41×0.41	0.34×0.28	0.45	107.06			C1平
596	IV G10a	略楕円形	0.54×0.46	0.45×0.38	0.33	107.14			C1平
597	IV G10a	略円形	0.27	0.23	0.36	107.52	P598		C1平
598	IV G10a	略楕円形	0.38×0.31	0.27×0.19	0.34	107.54	P597,P600,P601		C1平
599	IV G10a	略円形	0.34	0.28			P591,P600		C1平
600	IV G10a	略楕円形	(0.50)×0.36	(0.44)×0.24	0.20	107.49	P598,P599,P601		C1平
601	IV G10a	略円形	0.34	0.25	0.22	107.47	P598,P600		C1平 C1掘立
602	IV F10j	略円形	0.70	0.64	0.26	107.65			C1平 C1掘立
603	IV F10j	略円形	0.26	0.19	0.11	107.78	P604		C1平
604	IV F10j	略円形	0.18	0.16×0.13	0.12	107.77	P603		C1平
605	IV F10j	略楕円形	0.47×0.34	0.45×0.29	0.21	107.72			C1平
606	IV F10j	略円形	0.49	0.44	0.45	107.52			C1平 C1掘立
607	IV F10j	略楕円形	0.32×0.25	0.26×0.20	0.14	107.78			C1平
608	IV F10j	不整形	0.37×0.34	0.28×0.23	0.16	107.78			C1平
609	IV F10j	略円形	0.48	0.37×0.36	0.15	107.66	P610		C1平 C1掘立
610	IV F10j	略円形	0.21	0.20×0.13	0.17	107.64	P609		C1平
611	IV F10j	略楕円形	(0.25)×<0.36>	0.20×0.31	0.13	107.59	P612		C1平
612	IV F10j	略楕円形	(0.32)×<0.42>	0.34×0.28	0.14	107.61	P611		C1平
613	IV F10j	略楕円形	0.34×0.33	0.28×0.24	0.13	107.62			C1平
614	IV F10j	略円形	0.28	0.22×0.21	0.11	107.64			C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
615	IV F10j	略円形	<0.30>	0.25×0.21	0.23	107.66	P616		C1平
616	IV F10j	略円形	<0.28>	0.25	0.27	107.62	P615		C1平
617	IV F10j	略円形	<0.40>	0.30	0.17	107.72	P618		C1平
618	IV F10j	略楕円形	(0.38)×<0.50>	(0.30)×<0.43>			P617,P619		C1平 C6掘立
619	IV F10j	略楕円形	(0.35)×<0.53>	(0.30)×<0.48>	0.16	107.71	P618,P620		C1平
620	IV F10j	略円形	<0.33>	0.35×0.30	0.14	107.73	P619		C1平
621	IV F9j	略楕円形	0.29×0.24	0.14×0.14	0.20	107.71			C1平
622	IV F9j	略円形	0.24	0.22×0.18	0.15	107.72			C1平
623	IV F9j	略円形	<0.56>	0.48×0.43	0.21		P624,P625		C1平 C6掘立
624	IV F9j			0.30	0.26	107.65	P623,P625		C1平 C1掘立
625	IV F9j			0.40×0.20	0.25	107.66	P623,P624		C1平
626	IV F9i	略楕円形	0.43×0.35	0.39×0.27	0.31	107.65			C1平
627	IV F9i	略楕円形	0.53×0.35	0.33×0.27	0.18	107.47			C1平
628	IV F9i	略円形	0.28	0.20	0.14	107.49			C1平
629	IV F9i	略楕円形	0.72×0.34	0.68×0.31	0.24	107.39			C1平 C6掘立
630	IV F9i	略円形	<0.31>	0.25×0.19					C1平
631	IV F9i	略円形	<0.52>	0.35×0.29	0.32	107.31			C1平
632	IV F9i	略円形	<0.39>	0.24	0.24	107.39			C1平
633	IV F9i	略楕円形	(0.63)×<0.47>	0.55×0.36	0.47	107.16	P634		C1平
634	IV F10i	略円形	<0.50>	0.39	0.43	107.20	P633,P635		C1平
635	IV F10i	略円形	<0.73>	0.54	0.59	107.29	P634,P636		C1平 C6掘立
636	IV F10i	略楕円形	(0.83)×<0.63>	(0.69)×0.49	0.38	107.31	P635,P637		C1平
637	IV F10i	略楕円形	(0.50)×<0.28>	0.41×0.26			P636,P638		C1平
638	IV F10i	略円形	<0.80>	0.72	0.32	107.28	P637,P639		C1平
639	IV F10i	略円形	<0.52>	0.44	0.27	107.26	P638,P640		C1平
640	IV F10i	略円形	<0.38>	0.38×0.34	0.21	101.32	P639		C1平 C1掘立
641	IV F10i	略楕円形	(0.40)×<0.49>	0.50×0.36	0.18	107.43	P642,P643		C1平
642	IV F10i	略円形	0.51	0.35×0.29	0.08	107.56	P641,P643		C1平
643	IV F10i	略円形	<0.41>	0.38×0.35	0.21	107.40	P641,P642		C1平
644	IV F10i	略楕円形	0.35×0.28	0.30×0.25	0.16	107.43			C1平
645	IV F10i	略楕円形	0.55×0.38	0.49×0.35	0.26	107.33			C1平
646	IV F10i	略楕円形	0.55×0.52	0.49×0.39	0.28	107.29			C1平
647	IV F10i	略楕円形	0.45×0.38	0.32×0.30	0.23	107.34			C1平
648	IV F10i	略円形	0.31	0.30×0.24	0.26	107.31	P649		C1平
649	IV F10i	略円形	0.49	0.39×0.34	0.28	107.30	P648		C1平 C7柱列
650	IV F10i	略円形	0.38	0.29	0.14	107.51			C1平 C6掘立
651	IV F10i	略楕円形	0.66×0.48	0.55×0.44	0.18	107.45			C1平
652	IV F10i	略円形	0.36	0.29	0.19	107.46			C1平
653	IV F10i	略円形	0.34	0.27	0.15	107.48			C1平
654	IV F9i	略円形	0.44	0.38	0.25	107.38			C1平
655	IV F9i	略楕円形	(0.35)×<0.43>	0.38×0.34	0.46	107.37	P656		C1平 C1掘立
656	IV F9i	略円形	<0.33>	0.28×0.24	0.44	107.39	P655		C1平
657	IV F9i	略円形	<0.36>	0.28×0.25			P658		C1平
658	IV F9i	略円形	<0.28>	0.26×0.18	0.14	107.47	P657,P659		C1平 C6掘立
659	IV F9i	略円形	0.36	0.38×0.34	0.26	107.35	P658,P660		C1平
660	IV F9i	略円形	0.46	0.37×0.33	0.28	107.34	P660		C1平
661	IV F9i	不整形	0.45×0.40	0.23×0.19	0.30	107.39			C1平 C7柱列
662	IV F9i	略円形	0.40	0.30	0.23	107.34			C1平
663	IV F9i	略楕円形	0.44×0.30	0.34×0.30	0.22	107.34			C1平
664	IV F9i	略円形	0.37	0.27	0.20	107.36			C1平
665	IV F9i	略円形	0.38	0.32	0.21	107.45			C1平
666	IV F9i	略楕円形	0.32	0.26	0.39	107.23			C1平
667	IV F9i	不整形	<0.28>	0.23×0.19	0.21	107.41	P668		C1平
668	IV F9i	略楕円形	(0.27)×<0.42>	0.41×0.22	0.25	107.37	P667		C1平
669	IV F9i	略円形	<0.36>	0.30×0.23	0.25	107.32	P670		C1平
670	IV F9i	略円形	<0.38>	0.28			P669,P671		C1平
671	IV F9i	略円形	<0.38>	0.28	0.26	107.34	P670		C1平 C7柱列
672	IV F9i	略円形	0.33	0.20	0.12	107.48			C1平
673	IV F9i	略円形	0.38	0.35	0.20	107.74			C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
674	IV F9i	略楕円形	0.34×0.28	0.26×0.21	0.20	107.74			C1平
675	IV F9i	略楕円形	0.38×0.32	0.32×0.28	0.11	107.47			C1平
676	IV F9i	略楕円形	0.35×0.27	0.31×0.24	0.09	107.45			C1平
677	IV F9i	略円形	0.49	0.34	0.08	107.46			C1平
678	IV F8i	略円形	0.31	0.31×0.27	0.06	107.86	P679		C1平
679	IV F8i	略楕円形	(0.37)×0.26	0.28×0.19	0.09	107.78	P678		C1平
680	IV F8i	略楕円形	0.45×0.30	0.41×0.26	0.09	107.78			C1平 C7柱列
681	IV F8i	略円形	0.28	0.20	0.14	107.85			C1平
682	IV F8i	略円形	0.38	0.29	0.04	107.86			C1平
683	IV F8i	略円形	0.35	0.24	0.14	107.73			C1平
684	IV F8i	略円形	0.43	0.30	0.24	107.73			C1平
685	IV F8i	略円形	0.48	0.38	0.24	107.73			C1平
686	IV F8i	略楕円形	0.36×0.35	0.24×0.23	0.22	107.74			C1平
687	IV F8i	略円形	0.46	0.38	0.15	107.73			C1平
688	IV F8i	略円形	0.37	0.27	0.09	107.79			C1平
689	IV F8i	略円形	0.30	0.25	0.08	107.82			C1平 C7柱列
690	IV F8i	略円形	0.36	0.27	0.14	107.93			C1平
691	IV F8i	略円形	0.39	0.34	0.09	107.98			C1平
692	IV F8i	略円形	0.24	0.13	0.10	107.97			C1平
693	IV F8i	略楕円形	0.33×0.27	0.24×0.19	0.11	107.96			C1平
694	IV F8i	略楕円形	0.36×0.27	0.27×0.23	0.15	107.93	P695		C1平
695	IV F8i	不整形	<0.45>	0.27	0.11	107.97	P696,P694		C1平
696	IV F8i	略円形	0.30	0.18	0.14	107.94	P695		C1平
697	IV F8i	略楕円形	0.47×0.37	0.42×0.30	0.10	107.95			C1平
698	IV F7i	略楕円形	0.34×0.24	0.32×0.13	0.10	107.88			C1平
699	IV F7i	略楕円形	0.45×0.26	0.20×0.21	0.11	107.87			C1平
700	IV F7i	略円形	<0.40>	0.34	0.10	107.89	P701		C1平
701	IV F7i	略円形	<0.34>	0.33	0.11	107.88	P700		C1平
702	IV F7i	略円形	0.48	0.42	0.07	107.97			C1平 C8掘立
703	IV F7i	略円形	0.38	0.29	0.06	107.95			C1平
704	IV F7i	略円形	0.40	0.32	0.11	107.91			C1平
705	IV F7i	略楕円形	0.67×0.53	0.63×0.40	0.08	107.94			C1平
706	IV F7j	略円形	0.44	0.34	0.07	107.94			C1平
707	IV F7j	不整形	0.34×0.34	0.23×0.14	0.49	107.48			C1平
708	IV F7i	略楕円形	0.38×0.34	0.34×0.28	0.16	107.86			C1平
709	IV F7i	略円形	0.29	0.26	0.24	107.82			C1平
710	IV F7i	略楕円形	0.40×0.33	0.35×0.26	0.19	107.85			C1平
711	IV F7i	不整形	0.41×0.40	0.35×0.33	0.23	107.81			C1平
712	IV F7i	略楕円形	0.53	0.48	0.27	107.81			C1平 C8掘立
713	IV F7i	略円形	0.40	0.32	0.11	107.82			C1平
714	IV F8i	略円形	<0.30>	0.26	0.14	107.77	P715		C1平
715	IV F8i	略円形	<0.36>	0.33	0.13	107.78	P714		C1平
716	IV F8i	略円形	0.33	0.25	0.14	107.91			C1平 C7柱列
717	IV F8i	略円形	0.43	0.35	0.14	107.78			C1平 C8掘立
718	IV F8i	略円形	<0.49>	0.33	0.20	107.71	P719		C1平
719	IV F8i	略円形	<0.33>	0.27	0.20	107.71	P718		C1平
720	IV F8i	不整形	0.27×0.26	0.23×0.18	0.09	107.83			C1平
721	IV F8i	略円形	0.31	0.27	0.09	107.83			C1平
722	IV F8i	略円形	0.26	0.20					C1平
723	IV F8i	略円形	0.55	0.51	0.31	107.68			C1平
724	IV F8i	略楕円形	0.95×0.75	0.78×0.71	0.07	107.92			C1平
725	IV F8i	略楕円形	0.50×0.39	0.39×0.37	0.05	107.94			C1平
726	IV F8i	略楕円形	0.40×0.32	0.34×0.23	0.12	107.78	P727		C1平
727	IV F8i	略円形	0.44	0.30	0.11	107.79	P726		C1平
728	IV F8i	略円形	0.30	0.27	0.17	107.75	P729		C1平 C4掘立
729	IV F9i	略円形	0.34	0.32×0.21	0.17	107.75	P728		C1平
730	IV F9i	略円形	<0.48>	0.40×0.36	0.42	107.40	P731		C1平 C4掘立
731	IV F9i	略円形	<0.38>	0.33	0.35	107.47	P730		C1平
732	IV F9i	略楕円形	0.34×0.28	0.27×0.22	0.15	107.44			C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
733	IV F9i	略楕円形	0.35×0.33	0.28×0.24	0.16	107.44			C1平
734	IV F9i	略楕円形	0.43×0.36	0.36×0.30	0.14	107.45			C1平 C6掘立
735	IV F9i	略楕円形	0.48×0.31	0.36×0.27	0.12	107.47			C1平
736	IV F9i	略円形	<0.30>	0.29×0.28	0.09	107.50	P737		C1平
737	IV F9i	略円形	<0.33>	0.25×0.22	0.08	107.51	P736		C1平
738	IV F9j	略円形	<0.29>	0.24×0.22	0.15	107.52	P739,P740		C1平
739	IV F9j	略楕円形	(0.38)×<0.50>	0.42×0.29	0.32	107.35	P738,P740		C1平
740	IV F9j	略楕円形	0.75×0.60	0.64×0.46	0.33	107.34	P738,P739		C1平 C4掘立
741	IV F9j	略楕円形	0.64×0.33	0.54×0.23	0.25	107.67			C1平
742	IV F9j	略円形	0.36	0.27×0.26	0.23	107.69			C1平
743	IV F9j	略円形	<0.24>	0.23×0.16	0.18	107.74	P744		C1平
744	IV F9j	略円形	<0.33>	0.27×0.25	0.22	107.70	P743		C1平 C6掘立
745	IV F9j	略円形	0.30	0.25	0.25	107.66			C1平
746	IV F9j	略楕円形	0.36×0.28	0.21×0.13	0.36	107.55			C1平
747	IV F9j	略円形	0.30	0.23×0.20	0.40	107.51			C1平
748	IV F9j	不整形	0.31	0.28	0.30	107.61	P749		C1平
749	IV F9j	不整形	<0.33>	0.20	0.34	107.57	P748		C1平
750	IV F9j	略円形	0.30×0.30	0.25×0.23	0.38	107.51			C1平
751	IV F10j	略楕円形	0.33×0.24	0.21×0.18	0.21	107.68			C1平
752	IV F10j	略楕円形	0.60×0.58	0.11×0.10	0.32	107.58	P753,P754		C1平
753	IV F10j	略楕円形	<0.23>	0.17	0.26	107.62	P752,P754		C1平
754	IV F10j	略円形	<0.27>	0.25	0.22	107.66	P752,P753,P755		C1平 C6掘立
755	IV F10j	略楕円形	<0.32>×<0.28>	<0.22>×0.27	0.24	107.64	P754,P756		C1平
756	IV F10j	不整形	<0.32>	0.30	0.23	107.66	P755		C1平
757	IV F10j	略楕円形	0.38×0.34	0.29×0.21	0.11	107.80			C1平
758	IV G10a	略円形	0.30	0.21	0.10	107.72			C1平
759	IV F10j	略楕円形	0.31×0.29	0.28×0.21	0.20	107.84			C1平
760	IV F9j			0.11	0.48	107.66	P761,P762		C1平
761	IV F9j			0.12	0.46	107.68	P760,P762		C1平 C1掘立
762	IV F9j			0.10	0.44	107.70	P761,P762		C1平
763	IV F9j	略楕円形	<0.85>×0.68	0.66×0.58	0.23	107.72	P764		C1平
764	IV F9j	略楕円形	<0.66>×<0.58>	0.52×0.36	0.35	107.60	P763		C1平
765	IV F9j	略円形	0.39	0.32					C1平
766	IV F9j	略楕円形	0.36×0.34	0.29×0.23					C1平
767	IV F9j	略楕円形	0.49×0.30	0.41×0.27	0.23	107.64			C1平
768	IV F9j	略円形	<0.36>	0.31	0.39	107.49	P769		C1平
769	IV F9j	略円形	<0.33>	<0.23>			P768,P770		C1平
770	IV F9j	略楕円形	(0.25)×<0.49>	0.45	0.40	107.48	P769,P771		C1平 C1掘立
771	IV F9j	略楕円形	(0.30)×<0.52>	0.45	0.41	107.47	P770		C1平
772	IV F9j	略楕円形	0.53×0.38	0.47×0.34	0.44	107.44			C1平 C6掘立
773	IV F9j	略円形	0.32×0.28	0.22×0.19	0.46	107.40			C1平
774	IV F9j	略円形	0.45	0.38	0.55	107.32			C1平
775	IV F9j	略円形	<0.21>	0.15×0.19	0.50	107.37	P776		C1平
776	IV F9j	略円形	<0.22>	0.21×0.15	0.53	107.34	P775		C1平
777	IV F9j	略楕円形	0.48×0.39	0.31×0.20	0.49	107.41			C1平 C4掘立
778	IV F9j	略楕円形	0.29×0.16	0.20×0.11	0.75	107.15			C1平
779	IV F9j	略楕円形	0.36×0.31	0.30×0.19	0.49	107.41			C1平
780	IV F9j	略円形	0.29	0.25	0.45	107.39			C1平
781	IV F9j	不整形	0.50×0.44	0.42×0.35	1.04	106.80			C1平
782	IV F9j	略楕円形	0.23×0.15	0.16×0.09	0.40	107.44			C1平
783	IV F9j	略楕円形	0.34×0.28	0.26×0.19	0.78	106.99			C1平
784	IV F9j	略楕円形	(0.25)×<0.39>	0.33	0.35	107.44	P785		C1平
785	IV F9j	略円形	<0.48>	0.41	0.42	107.47	P784		C1平
786	IV F9j	略円形	<0.34>	0.27	0.13	107.40	P787		C1平
787	IV F9j	略円形	<0.42>	0.23	0.13	107.75	P786,P788		C1平
788	IV F9j	略円形	<0.38>	0.25	0.11	107.77	P787,P789		C1平
789	IV F9j	略円形	<0.34>	0.26	0.11	107.77	P788		C1平
790	IV F9j	略楕円形	0.34×0.28	0.28×0.24	0.42	107.45	P791		C1平
791	IV F9j	略円形	0.45	0.35	0.23	107.62	P790		C1平 C4掘立

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重 複	備 考
792	IV F8j	略楕円形	0.56×0.43	0.49×0.33	0.13	107.72		C1平 C3掘立
793	IV F8j	略楕円形	0.29×0.24	0.25×0.13	0.18	107.74		C1平
794	IV F8j	略楕円形	0.39×0.30	0.33×0.28	0.24	107.68		C1平
795	IV F8j	不整形	0.34	0.24×0.18	0.19	107.73		C1平
796	IV F8j	略円形	0.30	0.18	0.19	107.73		C1平
797	IV F8j	略円形	0.25	0.16	0.13	107.79		C1平
798	IV F8j	略円形	0.31	0.24	0.37	107.51		C1平
799	IV F8j	不整形	0.61×0.38	0.50×0.33	0.39	107.53		C1平 C3掘立
800	IV F8j	略楕円形	0.32×0.24	0.23×0.18	0.13	107.75		C1平
801	IV F8j	略楕円形	0.73×0.43	0.68×0.34	0.20	107.63		C1平 C3掘立
802	IV F8j	略円形	0.26	0.20	0.41	107.42		C1平
803	IV F8j	略楕円形	0.56×0.44	0.48×0.36	0.82	107.01		C1平
804	IV F8j	略楕円形	0.34×0.28	0.20×0.17	0.12	107.64		C1平
805	IV G8a	略円形	0.41	0.33	0.23	107.53	P806	C1平
806	IV F8j	不整形	0.50	0.31	0.30	107.48	P805	C1平
807	IV F8j	略楕円形	0.35×0.29	0.26×0.22	0.11	107.69		C1平
808	IV F8j	略円形	0.35	0.29	0.11	107.69		C1平
809	IV F8j	略楕円形	0.53×0.39	0.40×0.31	0.11	107.69		C1平
810	IV F8j	略楕円形	0.41×0.33	0.30×0.27	1.30	106.54		C1平
811	IV F8j	略楕円形	0.56×0.42	0.39×0.30	0.36	107.51	P812	C1平
812	IV F8j	略円形	0.39	0.39×0.33	0.35	107.49	P811	C1平
813	IV F8j	略楕円形	0.44×0.34	0.35×0.25	0.25	107.36		C1平
814	IV F8j	略円形	0.40	0.35	0.36	107.48		C1平
815	IV F8j	略楕円形	0.38×0.34	0.28×0.21	0.20	107.41		C1平
816	IV F8j	略楕円形	0.32×0.26	0.23×0.20	0.10	107.74		C1平
817	IV F9j	略楕円形	0.50×0.40	0.41×0.28	0.16	107.71		C1平 C4掘立
818	IV F8j	略楕円形	0.45×0.34	0.35×0.31	0.16	107.69		C1平
819	IV F9j	略円形	<0.42>	0.34	0.20	107.65		C1平
820	IV F8j	略楕円形	(0.26)×<0.20>	0.22×0.18	0.12	107.75	P821	C1平
821	IV F8j	略楕円形	0.45×0.34	0.41×0.28	0.08	107.79	P820	C1平 C3掘立
822	IV F9j	略楕円形	0.29×0.18	0.23×0.23	0.23	107.64		C1平
823	IV F9j	略楕円形	0.33×0.30	0.28×0.24	0.22	107.65		C1平
824	IV F9j	略楕円形	(0.25)×<0.42>	0.26	0.12	107.74	P825,P826	C1平
825	IV F9j	略円形	(0.49)	0.32×0.31	0.10	107.76	P824,P826	C1平 C4掘立
826	IV F9j	略円形	<0.28>	<0.21>	0.13	107.73	P824,P825	C1平
827	IV F9j	不整形	0.50×0.43	0.41×0.40	0.10	107.75		C1平 C5掘立
828	IV F9j	略楕円形	0.40×0.34	0.27×0.24	0.14	107.74		C1平
829	IV F9j	略楕円形	0.45×0.35	0.36×0.28	0.43	107.44		C1平 C4掘立
830	IV F9j	略円形	0.39	0.37×0.30	0.41	107.44	P831	C1平
831	IV F9j	略円形	0.29	0.19	0.26	107.59	P830	C1平
832	IV F9j	略円形	0.41	0.35	0.88	106.97		C1平 C5掘立
833	IV F9j	略円形	0.37	0.29	0.51	107.64		C1平
834	IV F9j	略楕円形	0.63×0.41	0.57×0.33				C1平 C6掘立
835	IV F9j	略円形	0.35	0.28	0.21	107.61	P836	C1平
836	IV F9j	略楕円形	0.29×0.22	0.21×0.18	0.41	107.41	P835	C1平
837	IV F9j	略楕円形	(0.50)×0.42	0.32	0.42	107.45	P838,P839	C1平 C4掘立
838	IV F9j	略楕円形	(0.50)×0.27	(0.21)	0.38	107.49	P837,P839	C1平
839	IV F9j	略円形	0.36	<0.29>	0.39	107.48	P837,P838	C1平
840	IV F9j	略楕円形	(0.37)×<0.45>	0.25×0.36	0.62	107.25		C1平 C5掘立
841	IV F9j	略円形	<0.31>	0.26	0.66	107.21		C1平
842	IV G9a				0.38	107.50	P844,P845	C1平
843	IV G9a	略円形	0.37	0.34	0.25	107.63	P844	C1平
844	IV G9a				0.34	107.54	P843,P845,P842	C1平
845	IV G9a				0.36	107.52	P844,P842	C1平
846	IV F9j	略楕円形	(0.39)×<0.58>	0.43	0.36	107.52	P847	C1平
847	IV G9a	略楕円形	<0.65>×(0.48)	0.55×0.43	0.29	107.55	P846	C1平
848	IV G9a	略円形	0.30	0.24	0.54	107.34		C1平
849	IV G9a	略円形	<0.38>	0.26	0.41	107.44	P850	C1平
850	IV G9a	略円形	<0.38>	0.28×0.28	0.39	107.46	P849,P851	C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
851	IV G9a	略円形	<0.35>	0.29×0.24	0.46	107.33	P850		C1 平
852	IV G9a	略円形	0.26	0.18	0.36	107.47			C1 平
853	IV G9a	略楕円形	0.41×0.35	0.36×0.32	0.81	106.99			C1 平 C5 掘立
854	IV G9a	略楕円形	0.28×0.26	0.25×0.18	0.38	107.45			C1 平
855	IV G9a	略楕円形	0.40×0.36	0.29×0.29	0.21	107.59			C1 平
856	IV G9a	略円形	<0.37>	0.31×0.26	0.15	107.69	P857		C1 平
857	IV G9a	略楕円形	<0.47>×<0.59>	0.50×0.33	0.12	107.72	P856,P858		C1 平
858	IV G9a	略楕円形	<0.40>×<0.48>	<0.45>×0.39	0.14	107.70	P857,P859		C1 平
859	IV G9a	略円形	<0.29>	0.24×0.24	0.15	107.69	P858		C1 平
860	IV G9a	略楕円形	0.41×0.34	0.33×0.26	0.12	107.68			C1 平
861	IV G9a	略円形	0.45	0.37	0.26	107.52			C1 平 C5 掘立
862	IV G9a	略楕円形	0.27×0.26	0.24×0.15	0.16	107.58			C1 平
863	IV G9a	略楕円形	0.41×0.53	0.45×0.35	0.21	107.62	P864		C1 平
864	IV G8a	略楕円形	<0.50>×<0.34>	0.45×0.27	0.21	107.62	P863,P865		C1 平 C3 掘立
865	IV G8a	略楕円形	0.60×0.49	0.50×0.37	0.24	107.52	P864		C1 平
866	IV G8a	略円形	0.34	0.32×0.22	0.14	107.69			C1 平
867	IV G8a	略円形	0.45	0.38	0.15	107.56			C1 平
868	IV G8a	略円形	0.49	0.41	0.17	107.54			C1 平
869	IV G8a	略楕円形	0.58×0.52	0.52×0.46	0.11	107.58			C1 平 C3 掘立
870	IV G8a	略円形	0.42	0.34	0.10	107.56			C1 平
871	IV G8a	略円形	0.43	0.32	0.07	107.53			C1 平 C6 柱列
872	IV G8a	略円形	0.38	0.25	0.10	107.50			C1 平
873	IV G8a	略円形	<0.24>	0.20	0.11	107.58	P874		C1 平
874	IV G8a	略楕円形	<0.35>×<0.43>	0.30×0.25	0.25	107.44	P873		C1 平
875	IV G8a	略円形	0.40×0.38	0.30×0.26	0.07	107.62			C1 平
876	IV G8a	略楕円形	(0.40)×<0.27>	0.29×0.18	0.36	107.41	P877		C1 平
877	IV G8a	略円形	<0.45>	0.36×0.29	0.35	107.42	P876		C1 平 C3 掘立
878	IV G8a	略円形	<0.36>	0.23	0.41	107.36	P879,P880		C1 平
879	IV G8a	略円形	<0.38>	0.29×0.24	0.40	107.37	P878,P880		C1 平
880	IV G8a	略楕円形	(0.30)×<0.48>	0.30×0.23	0.39	107.38	P878,P879		C1 平
881	IV F8j	略円形	0.45	0.28	0.29	107.53	P882		C1 平 C8 掘立
882	IV F8j	略円形	<0.50>	0.08×0.08	0.27	107.55	P881		C1 平
883	IV F8j	略楕円形	(0.48)×<0.40>	(0.21)×0.30	0.24	107.59	P884		C1 平
884	IV F8j			0.38×0.33	0.25	107.58	P883,P885,P886		C1 平 C3 掘立
885	IV F8j	略楕円形	(0.47)×<0.22>	0.35×0.24	0.16	107.67	P884		C1 平
886	IV F8j	略円形	<0.34>	0.29×0.24	0.29	107.54	P884		C1 平
887	IV F8j	略円形	0.40	0.28	0.14	107.69			C1 平
888	IV F8j	略円形	<0.31>	0.24×0.24	0.13	107.71	P889		C1 平
889	IV F8j	略円形	<0.48>	0.42	0.23	107.61	P888		C1 平
890	IV F8j	略楕円形	0.32×0.24	0.19×0.19	0.13	107.67			C1 平
891	IV F8j	略円形	0.30	0.20	0.12	107.68			C1 平
892	IV F8j	略円形	0.37	0.32	0.27	107.64			C1 平
893	IV F8i	略円形	0.35	0.29	0.30	107.60			C1 平
894	IV F8i	略楕円形	0.35×0.26	0.25×0.24	0.17	107.52			C1 平 C8 掘立
895	IV F8i	略円形	0.29	0.23	0.28	107.66			C1 平
896	IV F8i	略楕円形	0.45×0.42	0.38×0.28	0.46	107.57			C1 平
897	IV F8j	略円形	0.45	0.30	0.20	107.49			C1 平
898	IV F8j	略円形	0.42	0.30	0.20	107.49			C1 平
899	IV F8j	略円形	<0.39>	0.27	0.25	107.54	P900		C1 平 C3 掘立
900	IV F8j		<0.38>	0.30×0.21			P899,P901		C1 平
901	IV F8j		<0.36>	0.36×0.25	0.26	107.53	P900,P905		C1 平 C8 掘立
902	IV F8j	略円形	0.27	0.27×0.21					C1 平
903	IV F8j	略円形	0.36	0.30×0.24	0.15	107.61			C1 平
904	IV F8j	略楕円形	0.35×0.30	0.26×0.20	0.08	107.68			C1 平
905	IV F8j	略円形	<0.43>	<0.33>	0.28	107.51	P901		C1 平
906	IV F7j	略楕円形	0.27×0.24	0.16×0.11	0.46	107.40			C1 平
907	IV F7j	略楕円形	0.35×0.32	0.22×0.16	0.54	107.43			C1 平
908	IV F7j	略円形	0.35	0.25	0.61	107.36			C1 平
909	IV F7j	略楕円形	0.71×0.48	0.46×0.38	0.45	107.36			C1 平

No	位 置	概 形	開口部径	底 径	深 さ	底面標高	重 複	備 考
910	IV F7j	略円形	0.35	0.23	0.42	107.39	P911	C1平
911	IV F7j	略楕円形	0.35×0.44	0.34×0.25	0.59	107.22	P910	C1平
912	IV F7j	略楕円形	0.34×0.34	0.27×0.16	0.19	107.32		C1平
913	IV F7j	略楕円形	0.35×0.33	0.22×0.20	0.38	107.42		C1平
914	IV F7j	略楕円形	0.42×0.39	0.25×0.24	0.39	107.92		C1平
915	IV F7j	略楕円形	0.34×0.28	0.21×0.24	0.12	107.41		C1平 C8 掘立
916	IV F7j	略楕円形	0.32×0.25	0.21×0.16	0.40	107.40		C1平
917	IV F7j	略円形	<0.48>	0.31×0.28	0.21	107.42	P918	C1平
918	IV F7j	略円形	<0.27>	0.11	0.14	107.49	P917	C1平
919	IV F8j	略楕円形	0.42×0.35	0.32×0.26	0.39	107.24		C1平
920	IV F7j	略円形	0.45	0.35	0.21	107.59		C1平
921	IV G7a	略円形	0.31	0.15	0.11	107.44		C1平
922	IV G7a	略円形	0.43	0.28	0.12	107.42		C1平
923	IV G7a	略楕円形	0.36×0.34	0.20×0.18	0.14	107.37		C1平
924	IV G7s	略楕円形	0.35×0.27	0.20×0.15	0.11	107.38		C1平
925	IV G7a	略楕円形	0.46×0.34	0.20×0.19	0.12	107.25		C1平
926	IV G7a	略円形	0.32	0.20	0.11	107.66		C1平
927	IV G8a	略円形	0.21	0.14×0.10	0.17	107.33	P928	C1平
928	IV G8a	略楕円形	0.42×0.38	0.26×0.22	0.23	107.31	P927	C1平
929	IV G8a	略円形	0.34	0.19	0.07	107.50		C1平
930	IV G8a	略楕円形	0.57×0.51	0.39×0.33	0.09	107.46		C1平
931	IV G8a	略楕円形	0.33×0.26	0.16×0.14	0.06	107.55		C1平
932	IV F7h	略楕円形	0.30×0.19	0.20×0.15	0.13	107.87		C1平
933	IV F6h	略円形	0.38	0.28	0.24	107.74		C1平
934	IV F6h	略円形	0.30	0.27	0.17	107.72		C1平 C8 柱列
935	IV F6h	略楕円形	0.48×0.37	0.39×0.34	0.20	107.69		C1平
936	IV F7h	略楕円形	0.43×0.34	0.35×0.24	0.13	107.67		C1平 C8 柱列
937	IV F7h	略楕円形	0.51×0.43	0.38×0.29	0.20	107.68		C1平
938	IV F7h	略円形	<0.34>	0.24×0.20	0.22	107.66	P939	C1平
939	IV F7h	略円形	<0.48>	0.21×0.21	0.23	107.65	P939	C1平
940	IV F7h	略円形	0.34	0.24	0.29	107.64		C1平
941	IV F7h	略楕円形	0.38×0.26	0.36×0.14	0.24	107.67		C1平
942	IV F7h	略楕円形	0.46×0.35	0.27×0.16	0.12	107.69		C1平
943	IV F7h	略楕円形	0.38×0.28	0.26×0.16	0.08	107.64		C1平
944	IV F7h	略楕円形	0.38×0.33	0.22×0.21	0.10	107.65		C1平 C8 柱列
945	IV F7h	略円形	0.29	0.24	0.22	107.56		C1平
946	IV F7h	略円形	0.39	0.32	0.29	107.49		C1平 C8 柱列
947	IV F7h	略楕円形	0.38×0.31	0.25×0.16	0.13	107.61		C1平
948	IV F8h	略楕円形	0.33×0.28	0.20×0.16	0.24	107.72		C1平
949	IV F8h	略円形	0.31	0.25	0.29	107.68		C1平
950	IV F8h	略楕円形	0.35×0.25	0.28×0.16	0.28	107.69		C1平
951	IV F8h	略楕円形	0.39×0.28	0.28×0.20	0.23	107.73		C1平
952	IV F8h	略楕円形	0.40×0.27	0.28×0.19				C1平
953	IV F8h	略楕円形	0.43×0.33	0.26×0.19	0.30	107.65		C1平 C8 柱列
954	IV F8h	略楕円形	0.35×0.29	0.27×0.23	0.31	107.66		C1平
955	IV F8h	略楕円形	0.41×0.26	0.34×0.25	0.30	107.66		C1平
956	IV F8h	略円形	0.36	0.26	0.31	107.68		C1平
957	IV F8h	不整形	0.33×0.20	0.29×0.16	0.24	107.82		C1平
958	IV F8h	略楕円形	0.28×0.18	0.23×0.13	0.22	107.74		C1平
959	IV F8h	略円形	0.29	0.21	0.23	107.74		C1平
960	IV F8h	略円形	0.29	0.23	0.10	107.92		C1平
961	IV F8h	略円形	<0.35>	0.39×0.24	0.42	107.62	P962,P963	C1平
962	IV F8h	略円形	<0.28>	0.19	0.50	107.54	P961,P963	C1平
963	IV F8h	略楕円形	0.35×0.30	0.25×0.16	0.40	107.64	P961,P962	C1平
964	IV F8h	略楕円形	0.40×0.32	0.34×0.30	0.41	107.68		C1平
965	IV F8h	略楕円形	0.36×0.28	0.27×0.19	0.49	107.60		C1平
966	IV F8h	略楕円形	0.42×0.28	0.38×0.19	0.28	107.76		C1平
967	IV F8h	略楕円形	0.46×0.32	0.36×0.25	0.43	107.54		C1平
968	IV F8h	略円形	0.33	0.22×0.24	0.38	107.59		C1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	重	複	備考
969	IV F8h	略円形	0.32×0.28	0.25×0.21	0.35	107.75			C1平
970	IV F8h	略楕円形	0.34×0.26	0.27×0.21	0.50	107.55			C1平
971	IV F8h	略楕円形	0.40×0.35	0.31×0.29	0.31	107.74			C1平
972	IV F8h	略楕円形	0.49×0.30	0.46×0.24	0.25	107.80	P973		C1平
973	IV F8h	略円形	0.37	0.28	0.32	107.73	P972		C1平 C8柱列
974	IV F9h	略楕円形	0.25×0.21	0.15×0.08	0.17	107.74			C1平
975	IV F9h	略楕円形	0.44×0.35	0.28×0.28	0.22	107.59			C1平
976	IV F9h	略楕円形	0.36×0.25	0.19×0.13	0.20	107.62			C1平
977	IV F9h	略楕円形	0.35×0.30	0.28×0.24	0.21	107.76			C1平
980	IV F10h	略円形	0.25	0.20	0.12	107.72			C1平
981	IV F10h	略楕円形	0.29×0.23	0.23×0.19	0.13	107.71			C1平
982	IV F10h	略楕円形	0.63×0.32	0.58×0.30	0.12	107.66			C1平
983	V F1h	不整形	0.69×0.53	0.53×0.41	0.11	107.61			C1平
984	V F1h	略楕円形	0.46×0.30	0.30×0.21	0.19	107.53			C1平
985	V F1h	略楕円形	0.28×0.21	0.25×0.15	0.18	107.64			C1平
986	IV F10h	略楕円形	0.34×0.27	0.22×0.21	0.22	107.61			C1平
987	IV F9i	略楕円形	0.93×0.64	0.64	0.14	107.30			C1平
988	IV F10h	略円形	0.28		0.17	107.22			C1平
989	IV F10h	略楕円形	0.44×0.36	0.36	0.25	107.17			C1平
990	IV F9i	略円形	0.34		0.21	107.22			C1平
991 A	IV F9i	略円形		0.16×0.10	0.09	107.55	P991B,P991C		C1平
991 B	IV F9i	略円形	0.50	0.37	0.13	107.51	P991A,P991C		C1平
991 C	IV F9i	略円形	0.58	0.32	0.14	107.50	P991A,P991B		C1平 C4掘立
992	IV G8a	略円形	0.39	0.28	0.12	107.54			C1平
993	IV G8a	略円形	0.22	0.12	0.09	107.59			C1平
994 A	V F2j	略楕円形	(0.29)×0.12	0.18×0.12	0.13	107.88	P994B		C1平
994 B	V F2j	略楕円形	<0.32>×0.21	0.09×0.07	0.13	107.86	P994A		C1平
995	IV G9f	略円形	0.24	0.11	0.14	103.65			C2平
996	IV G9f	略円形	0.30	0.16	0.12	103.66			C2平
997	IV G9f	略楕円形	0.54×0.26	0.39×0.14	0.21	103.70			C2平
998	IV G9f	略円形	0.20×0.16	0.11×0.09	0.21	103.64			C2平
999	IV G9g	略円形	0.45	0.22	0.21	103.64			C2平
1000	V G1f	略円形	0.21	0.14	0.17	103.98			C2平
1001	V G1g	略楕円形	0.49×0.40	0.37×0.29					C2平
1002	V G1d	不整形	0.90×0.32	(0.74)×0.54	1.87	104.89			C2平
1003	V G1d	略円形	0.39	0.30	0.11	106.64			C2平
1004	V G1d	略楕円形	0.48×0.34	0.40×0.24	0.15	106.59			C2平
1005	V G1c	略楕円形	0.42×0.28	0.32×0.22	0.11	107.12			C2平
1007	V G2f	略楕円形	0.18×0.12	0.14×0.08					C2平
1008	V G2f	略楕円形	0.24×0.18	0.12	0.15	104.65			C2平
1009	V G2f	略円形	0.44	0.25	0.16	104.79			C2平
1010	V G2f	略楕円形	0.68×0.48	0.50×0.37	0.07	104.78			C2平
1011	V G2f	略楕円形	0.28×0.24	0.16	0.26	104.53			C2平
1012	V G2f	略円形	0.53	0.35	0.38	104.54			C2平
1014	V G2f	略円形	0.28	0.17					C2平
1015	V G2f	略楕円形	0.30×0.26	(0.21)×0.14					C2平
1016	V G2f	略楕円形	0.40×0.25	0.27×0.19	0.26	104.52			C2平
1017	V G2f	略楕円形	0.32×0.22	0.29×0.21	0.22	104.54			C2平
1018	V G2f	略円形	0.22	0.18	0.15	104.55			C2平
1019	V G3f	略楕円形	0.45×0.31	0.28	0.41	104.58			C2平
1020	V G3f	略楕円形	0.47×0.26	0.34×0.24	0.41	104.61			C2平
1021	V G3f	不整形	0.31×0.25	0.20×0.11	0.25	104.62			C2平
1022	V G3f	略楕円形	0.19×0.15	0.16×0.12	0.16	104.46			C2平
1023	V G3f	略円形	0.23	0.19	0.28	104.46			C2平
1024	V G3f	略円形	0.27	0.23	0.30	104.44			C2平
1025	V G3f	略楕円形	0.46×0.32	0.33×0.24	0.29	104.42			C2平
1026	V G3f	略円形	0.33	0.25	0.50	104.42			C2平
1027	V G3g	略楕円形	0.28×0.22	0.20×0.18	0.11	104.69			C2平
1028	V G3g	略円形	0.37	0.34×0.23	0.24	104.44			C2平

No	位 置	概 形	開口部径	底 径	深 さ	底面標高	重 複	備 考
1029	V G3g	略楕円形	0.26×0.19	0.21×0.13	0.25	104.29		C2平
1030	V G3g	略円形	0.14	0.10	0.08	104.25		C2平
1031	V G3g	略円形	0.17	0.14	0.12	104.81		C2平
1032	V G3g	略円形	0.16	0.13	0.14	104.79		C2平
1033	V G3g	略楕円形	0.52×0.41	0.48×0.39	0.18	104.44		C2平
1034	V G3g	略楕円形	0.30×0.26	0.26×0.24	0.10	104.50		C2平
1035	V G4f	略円形	0.44	0.32	0.12	104.81		C2平
1036	V G3g	略楕円形	0.24×0.20	0.22×0.18	0.24	104.90		C2平
1037	V G3g	略楕円形	0.26×0.21	0.20×0.16	0.13	104.81		C2平
1038	V G3g	略円形	0.16	0.13	0.13	104.81		C2平
1039	V G4g	略円形	0.24	0.21	0.11	104.62		C2平
1040	V G3g	略円形	0.39	0.32	0.15	104.50		C2平
1041	V G3g	略楕円形	0.30×0.20	0.30×0.20				C2平
1042	V G3f	略円形	0.40	0.40				C2平
1043	V G4g	略楕円形	0.80×0.62	0.40×0.30				C2平
1044	V G3g	略楕円形	0.62×0.24	0.62×0.24				C2平
1045	V G2h	略楕円形	0.66×0.24					C2平
1046	V G2h	略円形	0.26					C2平
1047	V G2h	略楕円形	0.30×0.18					C3平
1048	IV G10f	略楕円形	0.22×0.18					C2平
1049	V G2h	略楕円形	0.34×0.28	0.16×0.10				C3平
1050	V G2h	略円形	0.24					C3平
1051	V G2h	略楕円形	0.32×0.28	0.16×0.10				C3平
1052	V G2h	略楕円形	0.38×0.30	0.18×0.12				C3平
1053	V G2h	略楕円形	0.24×0.18					C3平
1054	V G1g	略円形	0.38	0.14				C2平
1055	V G1h	略円形	0.20					C2平
1056	V G1g	略楕円形	0.84×0.52	0.84×0.52				C2平
1057	V G10g	略楕円形	0.42×0.30					C2平
1058	V G10g	略楕円形	0.22×0.14					C2平
1059	V G10h	略楕円形	0.26×0.18					C2平
1060	V G10h	略円形	0.24					C2平
1061	V G9h	略楕円形	0.20×0.12					C2平
1062	V G9h	略楕円形	0.20×0.12					C2平
1063	V G9h	略楕円形	0.24×0.20					C2平
1064	V G9h	略楕円形	0.18×0.14					C2平
1065	V G9h	略楕円形	0.30×0.22					C2平
1066	V G9h	略楕円形	0.52×0.22					C2平
1067	V G9h	略楕円形	0.32×0.16					C2平
1068	V G9g	略楕円形	0.32×0.22					C2平
1069	V G9g	略楕円形	0.20×0.10					C2平
1070	V G9g	略円形	0.22					C2平
1071	V G9g	略楕円形	0.28×0.22					C2平
1072	V G9g	略楕円形	0.32×0.28					C2平

D区の遺構

D区は城域内の中央、北側の最高位部から下る緩斜面にあたり、南側は沢地形（D1・5号堀跡）で区切られる範囲である。D区については平成5年度と平成7年度と間を置いて2か年にわたって調査が行われたため、溝跡などの遺構のつながりが不明となっている部分がある。また平成6年度の調査終了後、委託者側のミスにより路線一区間（20m）分多く掘削工事がされたため、個々の遺構や普請造成は無論のことC区とのつながりが失われてしまったが、調査前の現況地形図からはC3号平坦地の下位に一段平場が存在した様子が伺える。現況地形の測量は平成6年度に行われたため、D区では調査前の地形図はなく、調査終了後の地形状況は南下がりの緩斜面となっていた。平成5年度の調査担当者は現況で段を確認したが、畑跡として調査を進めている。遺構の分布状況からみて旧状では北側上位には1段平場（D1号平坦地）があったものと推定される。基本層序は現道工事の盛土を除くと、20～30cmの表土下は山側（北側）では地山、谷側（南側）では地山上に褐色土が残る。中世の館跡に伴うと思われる遺構は平坦地（？）2カ所、堀跡2条、土塁1条、溝跡32条、階段状遺構1カ所、井戸跡1基、井戸状遺構1基、土坑1基、柱穴390基である。このほか時期不明の土坑5基が検出されている。

D1号平坦地〈腰曲輪？〉（付図3・4）

レベル的にみて丘陵南斜面中腹に設けられた腰曲輪のひとつと思われ、井戸跡が検出されたことから水の手曲輪と推定される。遺構の分布状況から南側は東西に走行するD1号溝跡までと推定されるが、西側は調査区外に伸びるD1号堀跡が現況では確認できず、北側は先記のとおり掘削され、また東側は現道工事の掘削により消失しているため全容は不明である。調査地の現状では東西長約28m、南北幅約16mの規模で、南側への緩傾斜となっている。標高は96～98mである。普請は削平によるものと思われるが、一部盛土造成していたかもしれない。井戸状遺構と溝跡のほかに作事の痕跡として柱穴313基が検出されたが、遺存範囲が狭いため建築物を想定するには至らなかった。

D2号平坦地〈腰曲輪？〉（付図3・4）

D1号平坦地の南側下位に位置するが、現状では南下がりの緩傾斜となっている。南側は東西に走行するD3号溝跡までと推定され、その南側下位にはD1号階段状遺構がある。西側はD1号堀跡までであるが、東側は現道工事の掘削により消失しており不明である。調査地現状での規模は東西長約22m、南北幅約18m、標高は96～94mである。普請は削平によるものと思われるが、一部盛土造成していたかもしれない。溝跡のほか作事の痕跡として柱穴77基が検出されたが、建築物を想定するには至らなかった。

D1号堀跡（第36図、付図3・4、写真図版10）

D区とE区を区画して北西－南東に走行する空堀である。南端はD5号堀跡と接続してE6

号堀跡に続くものと思われる。北西側は調査区外に続くが、現況地形では確認できなかった。縄張りからみて副郭（松本館）と連絡曲輪（C1号平坦地）に付属する丘陵中腹にある腰曲輪群を区画防御するものと推定される。調査地で確認された範囲での規模は長さ約40m、実効堀幅は北側（E2・D2号平坦地間）で約6.5m、南側のE区テラス状平場間では約5m、西壁実効法高はE2号平坦地までで約5m、テラス状平場までは約3.5m、東壁実効法高は約3.5mを測る葉研堀である。普請は形態から旧沢地形を利用して掘削したものと思われる。底面は北から南に低くなり、水流によりフラットではない。埋土は壁の崩落と水成の繰り返しによる自然堆積である。遺物は埋土中位から青・白磁がわずかに出土した。

D5号堀跡（第36図、付図3・4、写真図版10）

D区と主郭を区画して北東―南西に走行する空堀である。南端はD1号堀跡と接続してE6号堀跡に続くものと思われる。大半が調査区外東側の現道下であり、全容は不明であるが、縄張りからみて主郭（柏山館）と連絡曲輪（C1号平坦地）に付属する丘陵中腹にある腰曲輪群を区画防御するものと推定される。調査地で確認された範囲での規模は長さ約10m、実効堀幅約3.7m、西壁実効法高約4.5m、東壁実効法高2.5m以上の葉研状の堀跡である。普請はあまり行わず、形態から旧沢地形をほぼそのまま利用したものと思われる。底面は北から南に低くなり、水流によりフラットではない。埋土は壁の崩落と水成の繰り返しによる自然堆積である。遺物は磨石1点出土した。

D1号階段状遺構（第36図、付図4、写真図版10）

D区の南端、東西はD1・5号堀跡、北側上位がD3号溝跡で区画された南側に舌状に張り出す緩斜面部分に位置する。幅40cm程の溝状遺構が等高線と平行して等間隔に並び、縄張りでの位置状況からみてD区の平坦地（腰曲輪）に至る城道としての階段跡と判断した。削平して緩斜面を整地し、階段状に溝を掘ったものと思われるが、深さが3cm程と浅く作りが雑なことから、転がし根太痕跡の可能性が高い。E区平坦地（松本館腰曲輪）側への橋脚は認められなかったことから、東側調査区外には柏山館側の腰曲輪と連絡する橋脚が存在すると推定される。

D1号土塁（第37図、付図4、写真図版10）

D1号堀跡から2m程東側に平行する土塁である。現況で部分的に確認されたが、調査区外では認められない。検出した範囲での規模は長さ約14m、敷（基底幅）約2m、褶（上幅）約0.4m、垂直高約0.4mを測る。普請は土塁両側の溝の掘削土を積み上げた叩土塁である。

D1～32号溝跡（第37・38図、付図4、写真図版11）

D区の溝跡は平成5・7年度の両調査で計32条が検出されている。畑地の開墾削平と先記のとおり繋がりが不明なものがあるが、配置状況からD14とD28、D15とD24、D16とD25は同一遺構と考えられる。走行する方向で配置状況は異なり、調査区を東西に横走する溝跡(D

1・3号)は、現状で作事痕跡の多少からみて平坦地を機能的に区画し、調査区を南北に縦走する溝跡(D 4~17・22号)は平坦地の両サイドと中央にあり、いずれも南端がD 1・5堀跡に接続することから排水のためのものと推定される。斜走する溝跡(D 20・21・23号)と縦走するものの中には廃城後の流水によって生じた可能性もある。D 9号溝跡については始点の北側延長上に井戸跡があることから落ち水用、D 29・30号は規模・形態から竪穴住居跡の周溝の残存部である可能性が考えられる。各溝跡の現状での規模は次表のとおり、単位はmである。

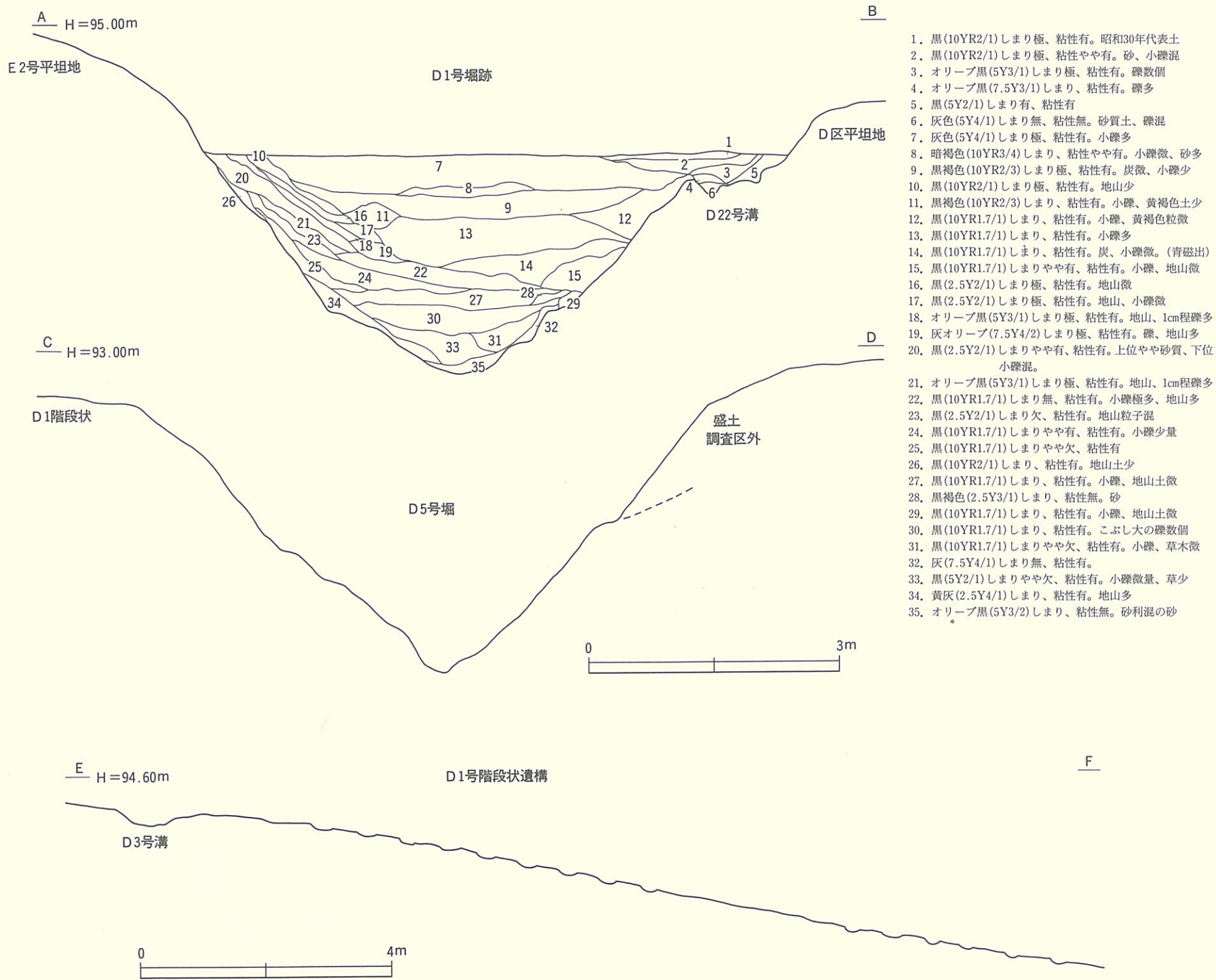
番号	方向	長さ	幅	深さ	重複・備考	番号	方向	長さ	幅	深さ	重複・備考
1	東西	19.0	1.8	0.13	2・14~17	17	南北	10.0	不明	0.06	16・27
2	東西	6.0	0.4	0.10		18	南北	4.0	0.8	0.10	12、須恵器
3	東西	15.4	1.0	0.28	7・8・21・24・25、鏡形	19	東西	4.4	0.6	0.20	
4	南北	10.6	0.4	0.10	5・22	20	斜走	4.4	1.0	0.10	
5	南北	16.0	0.5	0.08	4・22・D4土坑	21	斜走	4.2	0.7	0.12	21 B
6	南北	29.7	0.7	0.15	7・D5・6・8土坑・D1堀	22	南北	7.0	1.2	0.65	4・5・D6土坑・D1堀
7	南北	28.4	0.7	0.15	3・6・8・23	23	斜走	8.4	0.6	0.10	7
8	南北	15.0	1.0	0.18	3・7・D1堀、かわらけ	24	南北	17.0	0.7	0.28	3・32、屈曲
9	南北	5.7	0.4	0.15	D2井戸落ち水用	25	南北	1.6	0.7	0.10	3
10	南北	4.0	0.5	0.10		26	東西	4.4	1.0	0.15	14・15
11	南北	24.6	0.5	0.08		27	東西	2.8	1.5	0.17	16・17
12	南北	32.0	0.8	0.20	13・18・D5堀	28	東西	7.0	0.5	0.12	31、屈曲
13	南北	8.0	0.8	0.12	12	29	東西	2.2	0.2	0.04	14、竪穴周溝?
14	南北	4.6	0.7	0.13	1・26・29	30	東西	4.4	0.2	0.05	屈曲、2重平行、周溝?
15	南北	10.0	0.6	0.13	1・26・32	31	東西	12.2	1.2	0.10	1・15~17・28
16	南北	15.6	0.5	0.15	1・17・27・32	32	斜走	6.4	0.6	0.15	3・11・21・24・D5堀、青磁

D 1号井戸状遺構 (第40図)

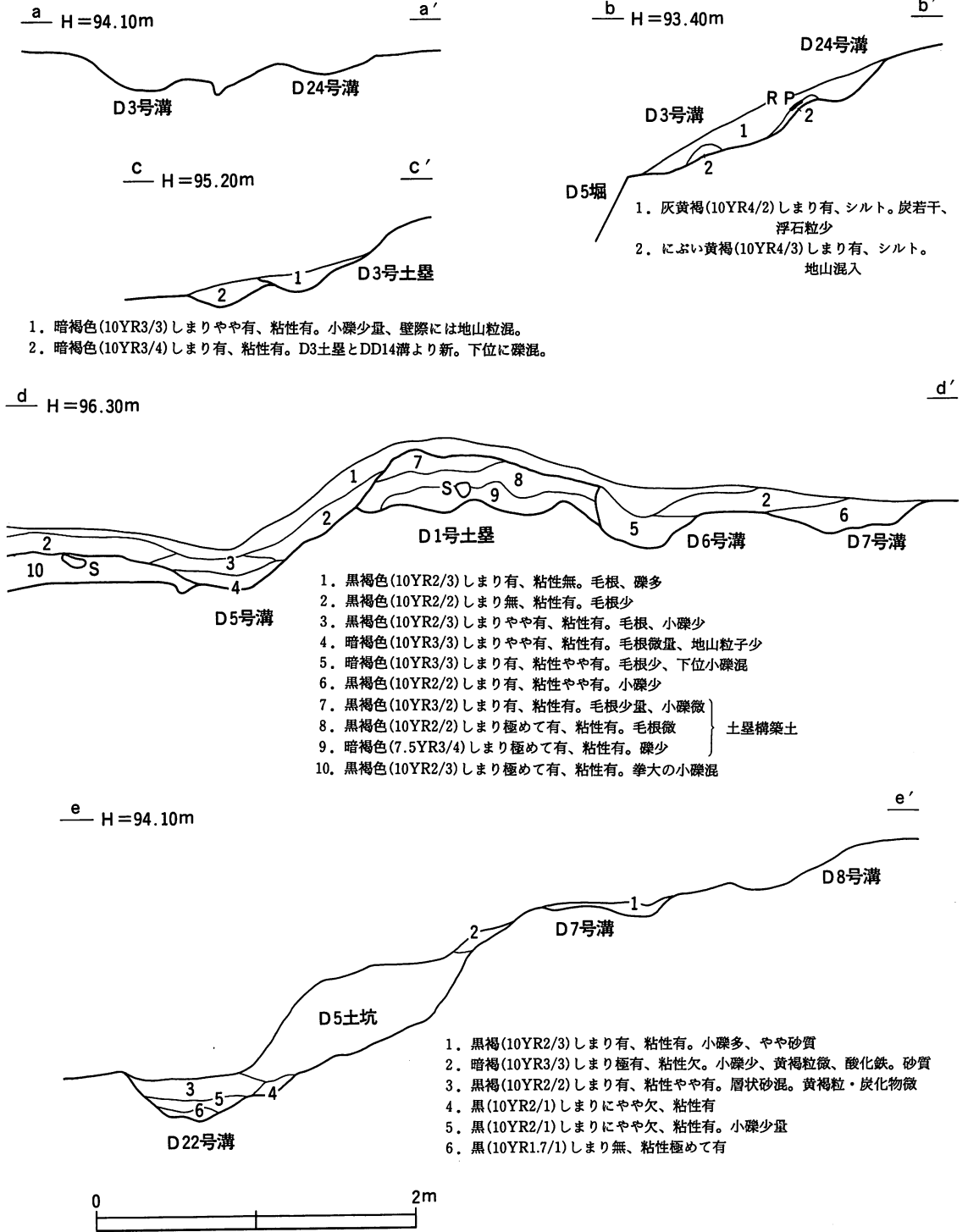
D区の北西端VH-4cグリッドに位置する。平成5年度の調査では断面実測まで精査を行い、平成7年度に残りの調査を行った。平面形は北東部が調査区外にかかるため全容は不明であるが、検出された範囲では開口部は南側に落ち水用の溝跡が伴うため南北に長い楕円形を呈し、掘り込み中位では円形となっている。規模は開口部で6×4.2m、中位で径約3m、底径約2m、深さ約1.2mを測る。断面形は底面から外傾して立ち上がり、上位で開く。埋土は黒ボク土を基調とし、下位はグライ化していた。形態・深さと落ち水溝が伴うことから、ため池の可能性が高い。遺物は埋土中から須恵器の破片1点出土した。

D 2号井戸跡 (第39図、写真図版11)

D区北東端の掘削された範囲のIVH-9aグリッドに位置する。平面形が大略円形を呈する井戸枠をもたない素掘りの井戸跡である。掘削されたため旧状は不明であるが、南側には落ち水溝が付属していたと思われる痕跡として開口部が南側に張り出す卵形プランとなっている。規



第36図 D区中世の遺構 (D1・5号堀、D1号階段状遺構)

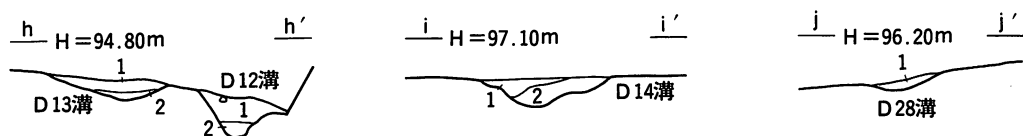


第37図 D区中世の遺構 (D区溝跡1)



- 1. 暗褐色(10YR3/4)しまり有、粘性無。鉄分多量、砂質
- 2. 黒褐色(10YR2/2)しまり有、粘性やや有。炭化物・焼土粒微量、砂質
- 3. 黒褐色(10YR3/2)しまりやや有、粘性有
- 4. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性有。鉄分少量
- 5. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性有。小礫少量
- 6. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、粘性有
- 7. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、粘性有。小礫・炭化物少量

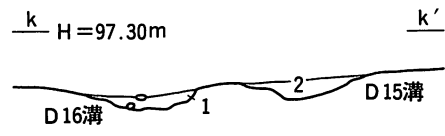
1. にぶい黄褐(10YR4/3)シルト。礫混。地山浮石粒少



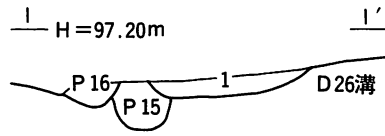
- 1. 黒褐(10YR3/2)しまり有、シルト。炭混
- 2. 黒褐(10YR2/3)しまり弱、シルト。炭微、湿り気有

- 1. 褐(10YR4/4)しまり有、シルト。礫微
- 2. 暗褐(10YR3/4)しまり有、シルト。礫微

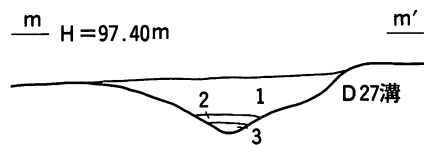
1. 暗褐色(10YR3/3)シルト。浮石粒やや含



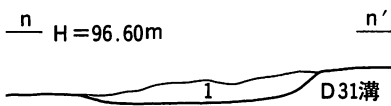
- 1. 暗褐(10YR3/3)しまり有、粘性やや有。シルト、礫少
- 2. 褐(10YR4/4)しまり有、粘性やや有。シルト、礫少



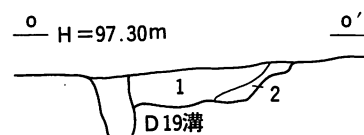
1. 暗褐(10YR3/3)しまりやや有、粘性無。地山ブロック、角礫



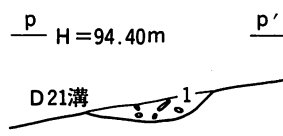
- 1. 暗褐(10YR2/3)しまり有、粘性無、シルト。炭微、円礫
- 2. 暗褐(10YR3/3)しまり無、粘性やや有、シルト
- 3. 黒褐(10YR3/2)しまり、粘性有、シルト。地山粒



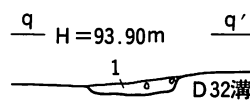
1. 暗褐(10YR3/3)しまりやや有、粘性無、シルト。円礫、黄褐粒



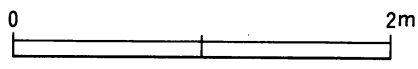
- 1. 黒褐色(10YR2/2)しまり有、粘性有。炭化物・地山粒微量
- 2. 褐色(10YR4/4)しまり有、粘性有。地山粒少量



1. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、シルト。礫混

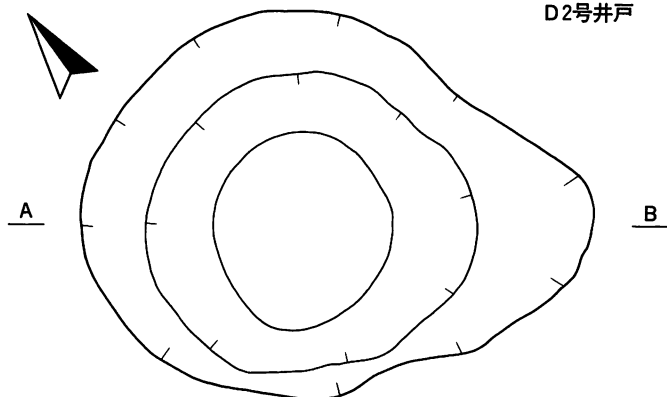


1. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、シルト。礫混

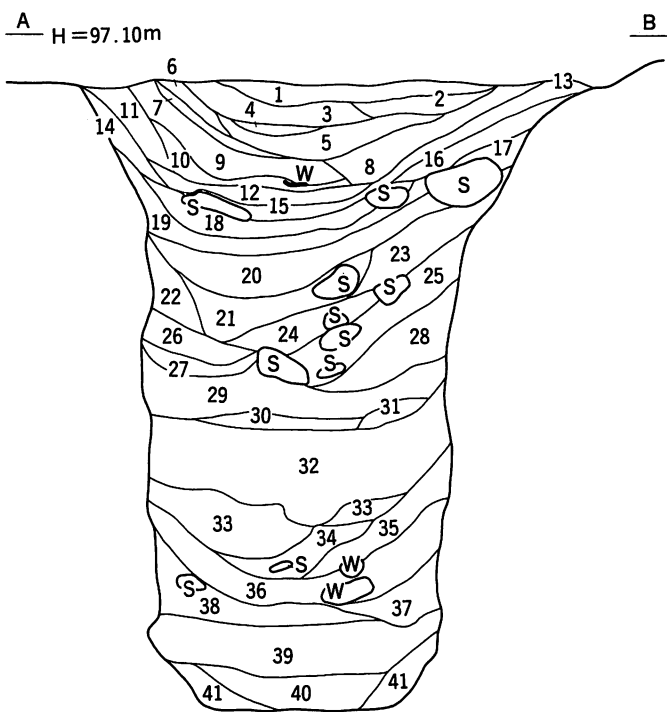


第38図 D区中世の遺構 (D区溝跡2)

D2号井戸

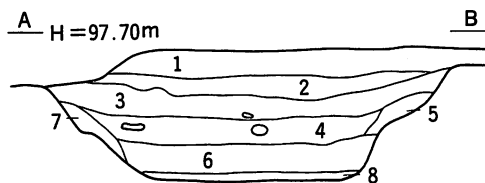
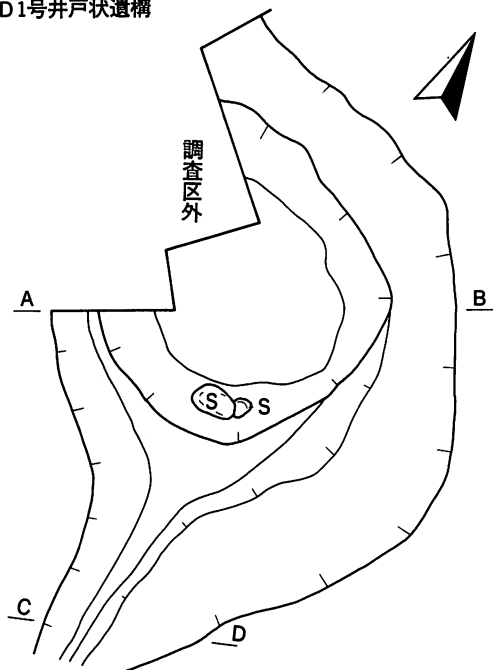


1. 黒(5Y2/1)しまりやや有、粘性有。酸化鉄含。獣骨出土
2. 黒(7.5Y2/1)しまり無、粘性有
3. 黒褐色(2.5Y3/1)しまりやや有、粘性無。砂質
4. 黒褐色(2.5Y3/1)しまり無、粘性有。3層より砂少
5. 黒(10Y2/1)しまり無、粘性有
6. 黒(2.5Y2/1)しまり無、粘性有。やや砂質
7. オリーブ黒(5Y3/1)しまり無、粘性有
8. 黒褐色(2.5Y3/1)しまり無、粘性有
9. 黒褐色(2.5Y3/1)しまりやや有、粘性無。砂質
10. オリーブ黒(5Y3/1)しまり無、粘性有
11. 黒(10YR2/1)しまりやや欠、粘性有。地山粒微
12. 黒褐色(2.5Y3/1)しまり無、粘性有
13. 黒褐色(2.5Y3/1)しまり無、粘性有。ブロック状に地山少
14. 黒(10YR1.7/1)しまりやや有、粘性有
15. オリーブ黒(5Y3/1)しまり無、粘性有
16. 黒(2.5Y2/1)しまり無、粘性有。ブロック状に地山少
17. 黒褐色(2.5Y3/1)しまり無、粘性有。地山微
18. 黒褐色(2.5Y3/1)しまり無、粘性有
19. 灰(7.5Y4/1)しまりやや有、粘性有。壁崩落土
20. 黒褐色(2.5Y3/1)しまり無、粘性無
21. 黒(N2/)しまり無、粘性有
22. 黒(5Y2/1)しまり無、粘性有。やや砂質
23. 灰オリーブ(7.5Y4/2)しまり無、粘性有
24. 灰(7.5Y4/1)しまり無、粘性有
25. 明褐色(7.5Y5/8)しまり無、粘性有。崩落土
26. 黒(7.5Y2/1)しまり無、粘性有
27. 緑灰(10GY5/1)しまり無、粘性有
28. オリーブ黒(7.5Y3/2)しまり無、粘性有。人頭大川原石多投棄
29. オリーブ黒(5Y3/1)しまり無、粘性有
30. 灰色(7.5Y4/1)しまり無、粘性有
31. 緑灰(10GY6/1)しまり無、粘性有。地山崩落土
32. 黒(5Y2/1)しまり無、粘性有
33. 緑灰(10GY6/1)しまり無、粘性有。地山崩落土
34. 黒(5Y2/1)しまり無、粘性有
35. 黒(5Y2/1)しまり無、粘性有。地山崩落土多
36. 黒(7.5Y2/1)しまり無、粘性有
37. 緑灰(10GY6/1)しまり無、粘性有。地山崩落土
38. 黒(5Y2/1)しまり無、粘性有。地山崩落土多
39. 灰(10Y4/1)しまり無、粘性有
40. 黒(2.5Y2/1)しまり無、粘性有
41. 暗緑灰(10GY4/1)しまり無、粘性無。砂質

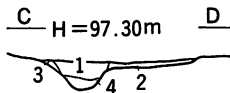


第39図 D区中世の遺構 (D2号井戸跡)

D1号井戸状遺構

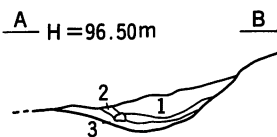
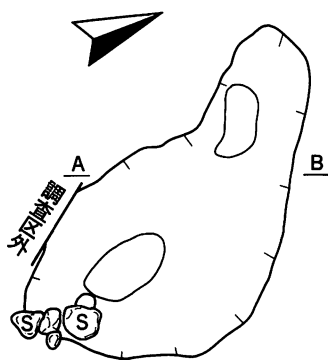


1. 黒褐(10YR3/2)しまり有、粘性無、シルト。竹根多く入る
2. 暗褐(10YR3/1)しまり有、粘性やや有、シルト。下半へ向い多く黄褐土入る。
3. 明黄褐(10YR6/6)しまり、粘性有、粘土。人為的？ 明黄褐粘土の隙間に暗褐土大量に含
4. 黒褐(10YR3/2)しまりやや有、粘性有、粘土。炭化物粒(水底に溜まった泥?)
5. 黒褐(2.5Y3/2)しまりやや有、粘性有、粘土質シルト。
6. オリーブ黒(5Y3/1)しまり無、粘性有、粘土。炭化物粒少
7. 黒褐(2.5Y2/1)しまり無、粘性有、粘土。黄褐粒含
8. オリーブ黒(5Y3/1)しまり有、粘性無、砂。3cm下の円礫多黄褐粒含

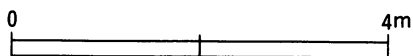


1. 暗褐(10YR3/3)しまりやや有、粘性無、シルト。地山粒含
2. 暗褐(10YR3/4)しまり有、粘性やや有、シルト。地山含
3. におい黄褐(10YR4/3)しまり有、粘性やや有。地山含
4. 黒褐(2.5Y3/1)砂、礫多く含む粘土、グライ化。地山粒含

D4号土坑



1. 黒褐(10YR2/3)しまり、粘性有。毛根、上面礫少量
2. 黒褐(10YR2/2)しまり、粘性有。黄褐色粒少量混
3. 黒褐(10YR2/3)しまり極有、粘性有。黒色土まばらに混



第40図 D区中世の遺構 (D1号井戸状遺構・D4号土坑)

模は開口部で2.7×2 m、底径約1 m、現状の深さ約3.3 mを測る。断面形は概ね筒状を呈し、開口部はやや外反する。埋土は41層に細分されるが、壁崩落と自然流入の繰り返しの堆積で、全体的にグライ化している。遺物は投廃棄されたと思われる状態で石臼・石鉢・漆器・曲物・木杭が埋土中から、鼻付き鉈は底面に直立して出土した。

D4号土坑 (第40図)

D区の西端でD1号土塁の西側、VH-4 e・fグリッドに位置し、D5号溝跡と重複する。平面形はダルマ状を呈し、底面に2カ所窪みがある。規模は開口部で4×1~2.2 m、底部は北側で0.3×0.7 m、南側で0.5×0.9 m、深さは北側で約30 cm、南側で約50 cmを測る。断面形は底面から明瞭な稜をもたずなだらかに外反し、埋土は黒ボク土を主体とする。窪みの箇所に対応して上位に溝跡があることから、落ち水の溜めおき場所と思われる。遺物は出土しなかった。

D区の柱穴群 (付図4、写真図版10・11)

D区の柱穴は、ほとんどをD1号平坦地で検出したが、建築物が展開するとと思われる北側上位の段が掘削されたため、調査地内では想定するには至らなかった。各柱穴の計測値は以下のとおりである。

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱径	重複	埋土	備考
1	V H1d	円形	0.22	0.10	0.19				10 YR2/3	D1平
2	V H1d	円形	0.28	0.17	0.13				10 YR2/3	D1平
3	V H1d	楕円形	0.35×0.30	0.20×0.17	0.29				10 YR3/2	D1平
4	V H1d	略円形	0.39	0.14×0.13	0.55	96.610			10 YR3/2	D1平
5	V H1d	略円形	0.26	0.14	0.25	96.870			10 YR3/2	D1平
6	V H1d	円形	0.30	0.18	0.17					D1平
7	V H1d	不整形	0.35×0.33	0.20×0.20	0.23					D1平
8	V H2d	略円形	0.36	0.20×0.16	0.45	96.670			10 YR2/2	D1平
9	V H1d	略円形	0.28	0.17	0.21	96.850			10 YR4/3	D1平
10	V H2d	不整形	0.15×0.15	0.11×0.08	0.12					D1平
11	V H2d	円形	0.21	0.12	0.27	96.840			10 YR3/2	D1平
12	V H2d	略円形	0.30	0.22	0.22				10 YR2/3	D1平
13	V H2d	略方形	0.43×0.35	0.14×0.13	0.42				10 YR3/2	D1平
14	V H2d	略楕円形	0.21×0.20	0.10×0.08	0.14	96.370				D1平
15	V H2d	円形	0.35	0.20	0.22					D1平
16	V H2d	略円形	0.35	0.28×0.24	0.14	96.800				D1平
17	V H2d	略円形	0.31	0.16	0.26	96.590				D1平
18	V H2d	略円形	0.20	0.14	0.11					D1平
19	V H2d	円形	0.32	0.16	0.12	96.720				D1平
20	V H2d	楕円形	0.19×0.17	0.09×0.08	0.16	96.700				D1平
21	V H2d	円形	0.24	0.15	0.09	96.670				D1平
22	V H2d	略楕円形	0.42×0.35	0.29×0.20	0.40	96.570	0.10		10 YR3/2	D1平
23	V H2c	不整形	0.45×0.35	0.22×0.15	0.37	96.760	0.07			D1平
24	V H2c	不整形	0.30×0.30	0.20×0.18	0.41	96.820	0.10		10 YR2/3	D1平
25	V H2c	略円形	0.25	0.23×0.20	0.37		0.09		10 YR2/3	D1平
26	V H2c	略円形	0.31	0.23×0.20	0.24	97.020	0.10			D1平
27	V H2d	楕円形	0.30×0.20	0.20×0.11	0.14	96.810			10 YR2/3	D1平
28	V H2d	略円形	<0.28>	0.13	0.21	96.810		P29	10 YR3/2	D1平
29	V H2d	略円形	<0.23>	0.15×0.06	0.24	96.780				D1平
30	V H2d	略円形	<0.30>	0.18×0.15	0.38	96.640		P31	10 YR2/3	D1平
31	V H2d	略円形	<0.33>	0.23×0.20	0.19	96.870			10 YR2/3	D1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱径	重複	埋土	備考
32	V H2d	円形	0.28	0.18	0.23				10 YR2/3	D1 平
33	V H2d	略円形	0.30	0.20	0.08	96.890				D1 平
34	V H2d	略方形	0.35×0.32	0.16×0.14	0.25	96.690				D1 平
35	V H2d	円形	0.30	0.13	0.21	96.770				D1 平
36	V H2d	略楕円形	0.30×0.24	0.18×0.15	0.35	96.650			10 YR2/2	D1 平
37	V H2d	略楕円形	0.32×0.30	0.25×0.15	0.24				10 YR3/3	D1 平
38	V H2d	略円形	<0.28>	0.17	0.27				10 YR3/2	D1 平
39	V H2d	楕円形	0.38×0.35	0.20×0.20	0.11					D1 平
40	V H2d	円形	0.26	0.15×0.12	0.31				10 YR2/3	D1 平
41	V H2d	円形	0.27	0.14	0.45	96.590				D1 平
42	V H2d	円形	0.34	0.23×0.20	0.50		0.14			D1 平
43	V H2d	略円形	0.31	0.18×0.10	0.28				10 YR3/4	D1 平
44	V H2d	円形	0.31	0.18	0.26	96.460	0.12		10 YR2/3	D1 平
45	V H2d	円形	0.30	0.18×0.15	0.28	96.810			10 YR2/3	D1 平
46	V H2d	楕円形	0.38×0.37	0.19×0.15	0.52	96.480			10 YR3/3	D1 平
47	V H2d	略円形	0.38	0.20	0.40		0.11			D1 平
48	V H2d	円形	0.22	0.18×0.15	0.05				10 YR3/2	D1 平
49	V H3d	略円形	0.40	0.20	0.27					D1 平
50	V H3d	楕円形	0.32×0.20	0.16×0.12	0.38				10 YR2/3	D1 平
51	V H3d	楕円形	0.34×0.30	0.18×0.15	0.32	96.750			10 YR2/3	D1 平
52	V H3d	不整形	0.31×0.28	0.20×0.18	0.60	96.460				D1 平
53	V H3d	円形	0.30	0.20	0.27	96.740			10 YR2/3	D1 平
54	V H3d	略円形	0.37	0.30	0.26					D1 平
55	V H3d	楕円形	0.38×0.37	0.28×0.25	0.27	96.750			10 YR2/3	D1 平
56	V H3c	円形	0.23	0.11	0.14	97.140				D1 平
57	V H3c	略円形	0.33	0.20×0.14	0.35				10 YR2/2	D1 平
58	V H3d	楕円形	0.38×0.34	0.37×0.18	0.29				10 YR2/2	D1 平
59	V H3d	方形	0.37×0.32	0.06×0.06	0.38	96.760			10 YR2/3	D1 平
60	V H3c	楕円形	0.33×0.25	0.19×0.15	0.24				10 YR2/3	D1 平
61	V H3d	略楕円形	0.22×0.18	0.11×0.09	0.12	96.910			10 YR3/2	D1 平
62	V H3d	円形	0.35	0.20	0.17				10 YR3/3	D1 平
63	V H3c	円形	0.40	0.30×0.25	0.50	96.810	0.20		10 YR3/2	D1 平
64	V H3d	円形	0.24	0.12	0.28	96.830				D1 平
65	V H3d	不整形	0.35×0.35	0.23×0.23	0.37	96.800	0.15		10 YR2/3	D1 平
66	V H3d	略円形	0.32	0.24	0.31	96.750	0.16		10 YR2/3	D1 平
67	V H3d	楕円形	0.40×0.32	0.16×0.15	0.30	96.810	0.16		10 YR3/2	D1 平
68	V H3d	略方形	0.36×0.33	0.17×0.17	0.40				10 YR3/3	D1 平
69	V H3d	円形	0.25	0.10	0.18	96.780			10 YR3/2	D1 平
70	V H3c	円形	0.28	0.14	0.33	96.760	0.08		10 YR2/3	D1 平
71	V H3d	円形	0.40	0.15	0.40				10 YR3/3	D1 平
72	V H3d	円形	0.32	0.20	0.15				10 YR3/3	D1 平
73	V H3d	略円形	0.39	0.25	0.33		0.15		10 YR3/2	D1 平
74	V H3c	略円形	0.25	0.13						D1 平
75	V H3c	略円形	0.40	0.18						D1 平
76	V H3c	楕円形	0.36×0.32	0.17×0.16	0.53	96.760			10 YR2/3	D1 平
77	V H3c	略円形	0.37	0.19	0.37	96.880			10 YR3/3	D1 平
78	V H3d	円形	0.27	0.14×0.11	0.34	96.790			10 YR2/3	D1 平
79	V H3d	円形	0.32	0.15	0.25	96.850		新 P78	10 YR2/3	D1 平
80	V H3d	円形	0.25	0.18×0.14	0.41	96.620			10 YR3/3	D1 平
81	V H3d	円形	0.35	0.18	0.16	96.810		新 P82	10 YR3/4	D1 平
82	V H3d	円形	0.25	0.20×0.10	0.28				10 YR3/2	D1 平
83	V H3d	楕円形	0.38×0.30	0.18×0.18	0.24	96.820		古 P82	10 YR2/3	D1 平
84	V H3d	略楕円形	0.40×0.30	0.21×0.18	0.26	96.780			10 YR2/3	D1 平
85	V H3d	略円形	0.35	0.17	0.16	96.890				D1 平
86	V H3d	略楕円形	0.45×0.40	0.22×0.20	0.48	96.480			10 YR2/3	D1 平
87	V H3d	略円形	0.30	0.11	0.30	96.670			10 YR2/3	D1 平
88	V H3c	略円形	0.36	0.17	0.55	97.080			10 YR3/4	D1 平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱径	重複	埋土	備考
89	V H3c	円形	0.31	0.18	0.23	97.020			10 YR3/4	D1 平
90	V H3d	楕円形	0.35×0.30	0.27×0.25	0.09	97.110			10 YR2/3	D1 平
91	V H3d	略円形	0.30	0.16×0.13	0.47	96.710	0.11		10 YR3/3	D1 平
92	V H3d	略円形	0.30	0.24	0.46	96.710		新 P91	10 YR2/3	D1 平
93	V H3d	円形	0.30	0.23×0.18	0.14	97.010			10 YR3/3	D1 平
94	V H3d	楕円形	0.28×0.25	0.22×0.18	0.17	97.990			10 YR3/4	D1 平
95	V H3d	略円形	0.30	0.12	0.41	96.740			10 YR3/4	D1 平
96	V H3d	略円形	0.14	0.07	0.12	97.040				D1 平
97	V H3d	略円形	0.30	0.15	0.37	96.790			10 YR2/3	D1 平
98	V H3d	略円形	0.34	0.17	0.31	96.780			10 YR2/3	D1 平
99	V H3d	楕円形	0.37×0.24	0.25×0.14	0.16	96.880			10 YR3/2	D1 平
100	V H3d	円形	0.23	0.13	0.13	96.890			10 YR3/2	D1 平
101	V H3c	円形	0.35	0.14	0.36	96.920			10 YR3/3	D1 平
102	V H3c	円形	0.24	0.20		97.050			10 YR3/2	D1 平
103	V H3c	略楕円形	0.28×0.27	0.18×0.16	0.21				10 YR3/4	D1 平
104	V H3c	略円形	0.30	0.13	0.46	96.880				D1 平
105	V H3c	円形	0.28	0.15	0.55	96.740			10 YR3/3	D1 平
106	V H3c	円形	0.35	0.18	0.22	97.060				D1 平
107	V H3c	略円形	0.37	0.25	0.44	96.820	0.11		10 YR3/2	D1 平
108	V H3d	略円形	0.40	0.27×0.23	0.60	96.600		古 P109		D1 平
109	V H3d	略円形	0.25	0.18×0.15	0.27	96.900			10 YR2/3	D1 平
110	V H3d	略円形	0.35	0.22×0.17	0.22	96.880				D1 平
111	V H3d	略円形	0.30	0.23×0.20	0.36	96.700			10 YR2/3	D1 平
112	V H3d	円形	0.32	0.15	0.46	96.630			10 YR2/3	D1 平
113	V H3d	楕円形	0.33×0.25	0.12×0.11	0.27				10 YR2/3	D1 平
114	V H3d	略円形	0.25	0.17×0.10	0.34	96.640		古 P116	10 YR2/3	D1 平
115	V H3d	略円形	0.28		0.31	96.680		新 P116		D1 平
116	V H3d	略円形	0.45	0.18	0.29	96.640		新 P114		D1 平
117	V H3d	略円形	0.25	0.11	0.22	97.010			10 YR3/3	D1 平
118	V H3d	略円形	0.23	0.10	0.22	96.960			10 YR3/2	D1 平
119	V H4d	略円形	0.32	0.07	0.22	96.920			10 YR2/3	D1 平
120	V H3d	円形	0.28	0.18	0.31					D1 平
121	V H4c	略円形	0.30	0.12	0.26	97.020			10 YR3/4	D1 平
122	V H4d	略円形	0.47	0.30×0.20	0.28	96.740				D1 平
123	V H4c	略円形	0.30	0.18	0.28	97.040				D1 平 陶磁器 83
124	V H4c	略円形	0.32	0.13×0.09	0.20	97.090				D1 平
125	V H4c	円形	0.26	0.13	0.40	96.820			10 YR2/3	D1 平
126	V H4d	略円形	0.35	0.20×0.17	0.27	96.950	0.15		10 YR2/3	D1 平
127	V H4d	略円形	0.37	0.14×0.10	0.28	96.890			10 YR3/4	D1 平
128	V H4d	円形	0.28	0.16×0.10	0.30	96.890			10 YR2/3	D1 平
129	V H4d	略円形	0.26	0.15	0.19	96.900			10 YR2/3	D1 平
130	V H4d	略円形	0.35	0.14	0.26	96.700			10 YR3/4	D1 平
131	V H4d	円形	0.31	0.15	0.23	96.710			10 YR3/3	D1 平
132	V H4c	楕円形	0.33×0.27	0.26×0.18	0.14	97.060				D1 平
133	V H4d	略円形	0.35	0.12	0.50	96.570			10 YR3/4	D1 平
134	V H4d	略円形	0.35	0.19	0.27	96.750			10 YR3/3	D1 平
135	V H4c	略楕円形	0.47×0.36	0.32×0.19	0.41	96.770				D1 平
136	V H4d	略円形	0.30	0.17	0.05			新 P137	10 YR2/3	D1 平
137	V H4d	略円形	0.41	0.21	0.66	96.480		古 P136	10 YR3/3	D1 平
138	V H4d	略楕円形	0.37×0.33	0.17×0.16	0.33	96.690			10 YR2/3	D1 平
139	V H4d	略円形	0.33	0.17	0.41				10 YR3/3	D1 平
140	V H4d	略楕円形	0.38×0.30	0.25×0.14	0.15	96.960			10 YR3/3	D1 平
141	V H4d	円形	0.37	0.24	0.16	96.970			10 YR3/4	D1 平
142	V H4c	円形	0.26	0.16×0.13	0.19	96.940				D1 平
143	V H4d	略円形	0.35	0.19	0.30	96.830			10 YR3/4	D1 平
144	V H4d	円形	0.33	0.20×0.15	0.19				10 YR3/4	D1 平
145	V H4d	円形	0.32	0.13	0.37		0.12			D1 平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱痕径	重複	埋土	備考
146	V H4d	円形	0.32	0.18	0.28					D1 平
147	V H1e	略円形	0.27	0.11×0.08	0.15	96.160				D2 平
148	V H1e	略方形	0.35×0.32	0.30×0.16	0.19	96.360			10 YR3/2	D1 平
149	V H1e	楕円形	0.27×0.18	0.15×0.09	0.15	96.160			10 YR2/3	D2 平
150	V H1e	略円形			0.27	95.960			10 YR2/3	D2 平
151	V H1e	不整形	0.47×0.33	0.20×0.10	0.87	95.310			10 YR2/3	D2 平
152	V H1e	略楕円形	0.45×0.42	0.30×0.26	0.30	96.340	0.10	新 P153		D1 平
153	V H1e	略円形	0.32	0.24×0.20	0.35	96.260				D1 平
154	V H1e	楕円形	0.37×0.28	0.22×0.14	0.15	96.110				D2 平
155	V H2e	略円形	0.31	0.15	0.30	96.210				D1 平
156	V H2e	略円形	0.50	0.14	0.54	96.120			10 YR2/3	D1 平
157	V H2e	円形	0.25	0.12×0.08	0.29	96.010			10 YR3/4	D2 平
158	V H2e	略楕円形	0.40×0.32	0.14×0.13	0.17	96.130			10 YR3/4	D2 平
159	V H2d	円形	0.32	0.18	0.25	96.550				D1 平
160	V H2e	円形	0.40	0.12	0.44	96.230	0.07			D1 平
161	V H2e	円形	0.32	0.17	0.22		0.10			D1 平
162	V H2e	円形	0.37	0.16	0.44	95.880				D1 平
163	V H2d	楕円形	0.40×0.35	0.25×0.25	0.17					D1 平
164	V H2d	楕円形	0.35×0.30	0.32×0.30	0.42	96.420	0.16		10 YR3/3	D1 平
165	V H2d	楕円形	0.45×0.38	0.35×0.32	0.14	96.710				D1 平
166	V H3d	略円形	0.30	0.28	0.15				10 YR3/2	D1 平
167	V H2e	円形	0.27	0.18×0.13	0.18	96.140				D1 平
168	V H2e	円形	0.30	0.17	0.17	96.320	0.10		10 YR3/3	D1 平
169	V H2e	円形	0.34	0.14	0.30	96.000				D2 平
170	V H3e	楕円形	0.27×0.22	0.10×0.10	0.15	96.170				D2 平
171	V H3d	略方形	0.34	0.17	0.14	96.750				D1 平
172	V H3d	円形	0.28	0.17	0.35				10 YR2/3	D1 平
173	V H3d	円形	0.35	0.19	0.23				10 YR2/3	D1 平
174	V H3d	略円形	0.30	0.18	0.60	96.320	0.14		10 YR3/3	D1 平
175	V H3e	円形	0.36	0.25	0.56	96.520			10 YR2/3	D1 平
176	V H3e	円形	0.35	0.28	0.30	96.420			10 YR3/3	D1 平
177	V H3d	略楕円形	0.31×0.25	0.20×0.15	0.23	96.690			10 YR3/2	D1 平
178	V H3d	円形	0.21	0.18×0.11	0.22	96.670			10 YR2/2	D1 平
179	V H3e	円形	0.38	0.19	0.49	96.230	0.10			D1 平
180	V H3e	楕円形	0.30×0.23	0.17×0.11	0.13	96.300			10 YR2/3	D1 平
181	V H3d	円形	0.37	0.21×0.16	0.47	96.400			10 YR2/3	D1 平
182	V H3e	円形	0.32	0.23×0.20	0.26	96.410			10 YR3/3	D1 平
183	V H3e	楕円形	0.33×0.30	0.15×0.14	0.25	96.340				D1 平
184	V H3e	円形	0.37	0.15	0.36	96.470			10 YR3/4	D1 平
185	V H3e	楕円形	0.25×0.20	0.18×0.13	0.34				10 YR3/3	D1 平
186	V H3d	楕円形	0.41×0.30	0.10×0.07	0.21	96.690		古 P187		D1 平
187	V H3d	略円形	0.35	0.23×0.20	0.41	96.490			10 YR2/3	D1 平
188	V H4e	楕円形	0.29×0.25	0.19×0.17	0.20					D1 平
189	V H4d	略円形	0.33	0.15	0.46					D1 平
190	V H4d	略円形	0.37	0.20	0.31					D1 平
191	V H4e	楕円形	0.34×0.25	0.12×0.11	0.23					D1 平
192	V H4e	円形	0.45	0.23	0.42					D1 平
193	V H4e	円形	0.24	0.09	0.20					D1 平
194	V H4e	円形	0.33	0.13	0.41					D1 平
195	V H1e	略円形	0.28	0.17	0.24	95.860				D2 平
196	V H1e	楕円形	0.37×0.29	0.12×0.09	0.29	95.680				D2 平
197	V H1f	楕円形	0.25×0.14	0.08×0.05	0.10	95.890			10 YR2/3	D2 平
198	V H1f	略円形	0.40	0.08	0.17	95.810		新 P199	10 YR3/3	D2 平
199	V H1f	略円形	0.35	0.10	0.22	95.780		古 P198		D2 平
200	V H1f	楕円形	0.40×0.27	0.15×0.12	0.15	95.870	0.11			D2 平
201	V H1f	円形	0.29	0.20	0.34	95.600				D2 平
202	V H1f	略円形	0.46	0.22×0.17	0.24	95.550			10 YR2/2	D2 平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱径	重複	埋土	備考
203	V H1f	楕円形	0.29×0.33	0.15×0.07	0.15	95.650			10 YR3/2	D2 平
204	V H2f	略楕円形	0.33×0.24	0.18×0.17	0.16	95.800				D2 平
205	V H2f	円形	0.26	0.12×0.06	0.08	95.490			10 YR3/2	D2 平
206	V H2f	不整形	0.36×0.34	0.17×0.11	0.09	95.850				D2 平
207	V H2f	不整形	0.25×0.24	0.07×0.04	0.20	95.840				D2 平
208	V H2f	円形	0.37	0.13×0.09	0.12	95.920			10 YR3/3	D2 平
209	V H2f	略楕円形	0.38×0.30	0.13×0.12	0.15	95.810				D2 平
210	V H2f	不整形	0.45×0.25		0.13	95.820				D2 平
211	V H2f	不整形	0.18	0.27×0.09	0.12	95.820				D2 平
212	V H2f	円形	0.36	0.22	0.15	95.980			10 YR4/3	D2 平
213	V H2e	略円形	0.30	0.12	0.40	95.780			10 YR3/2	D2 平
214	V H2e	楕円形	0.26×0.20	0.14×0.11	0.12	95.920				D2 平
215	V H2f	円形	0.25		0.12	95.730			10 YR3/2	D2 平
216	V H2f	略円形	0.23	0.15	0.10					D2 平
217	V H2f	略円形	0.28	0.21×0.13	0.10					D2 平
218	V H2f	略円形	0.23	0.11						D2 平
219	V H3f	円形	0.24	0.10						D2 平
220	V H3f	円形	0.19	0.14						D2 平
221	V H3f	楕円形	0.35×0.27	0.13×0.13	0.12	95.960			10 YR3/2	D2 平
222	V H3e	略円形	0.30	0.10	0.14	95.990			10 YR2/3	D2 平
223	V H3e	円形	0.25	0.11	0.20	95.980			10 YR3/2	D2 平
224	V H3f	円形	0.41	0.10						D2 平
225	V H3f	円形	0.29	0.17	0.08					D2 平
226	V H3f	円形	0.33	0.20	0.08					D2 平
227	V H3f	略円形	0.39	0.11	0.22					D2 平
228	V H3f	略円形	0.39	0.30	0.24	95.860				D2 平
229	V H3f	楕円形	0.40×0.34	0.20×0.15	0.14	85.850			10 YR3/2	D2 平
230	V H3f	円形	0.26	0.15	0.13					D2 平
231	V H3f	楕円形	0.30×0.28	0.11×0.10	0.08					D2 平
232	V H3f	楕円形	0.30×0.24	0.20×0.15	0.21					D2 平
233	V H3f	楕円形	0.50×0.39	0.11×0.11	0.38					D2 平
234	V H3f	略円形	0.35	0.16	0.44					D2 平
235	V H3f	円形	0.34	0.15	0.39					D2 平
236	IV H10d	円形	0.27	0.20×0.17	0.22	96.530			10 YR3/2	D1 平
237	IV H10d	楕円形	0.30×0.24	0.12×0.10	0.27	96.420			10 YR3/3	D1 平
238	V H1e	略円形	0.25	0.08	0.20	96.500			10 YR3/3	D1 平
239	IV H10e	略円形	0.33	0.17	0.19	95.980				D2 平
240	IV H10f	円形	0.29	0.12	0.10	95.820			10 YR2/3	D2 平
241	IV H10f	楕円形	0.32×0.30	0.18×0.18	0.11	95.770			10 YR3/2	D2 平
242	IV H10f	円形	0.23	0.14	0.12	95.610			10 YR2/3	D2 平
243	IV H10f	円形	0.35	0.16	0.20	95.570			10 YR2/2	D2 平
244	IV H10f	略楕円形	0.46×0.40	0.13×0.13	0.17	95.480			10 YR2/3	D2 平
245	V H1h	楕円形	0.35×0.30	0.19×0.16						D2 平
501	V H1d	略円形	0.43	0.26×0.23	0.40	96.727	0.14		10 YR4/6	D1 平
503	V H1d	方形	0.30×0.28	0.13×0.11	0.16	96.954			10 YR2/2	D1 平 炭化物少
504	V H1d	略円形	0.34	0.15	0.22	96.880			10 YR2/2	D1 平
505	V H1d	略円形	0.24	0.18×0.13	0.06	97.093			10 YR2/2	D1 平
506	V H1d	略円形	0.31	0.11	0.29	96.738			10 YR2/2	D1 平
507	V H1d	楕円形	0.18×0.17	0.10×0.05	0.14	96.852			10 YR2/1	D1 平
509	V H1d	楕円形	0.26×0.23	0.18×0.09	0.13	96.772			10 YR2/2	D1 平 炭化物微
510	V H1d	略円形	0.29	0.18×0.13	0.13	96.678			10 YR2/2	D1 平
511	V H1d	略円形	0.40	0.12	0.28	96.482			10 YR2/2	D1 平
513	V H1d	略円形	0.28	0.15×0.11	0.15	96.700			10 YR2/2	D1 平
514	V H1e	略楕円形	0.37×0.28	0.08×0.08	0.37	96.245			10 YR2/2	D1 平 炭化物少
515	V H1e	略方形	0.24×0.23	0.13×0.09	0.10	96.277	0.13		10 YR5/6	D1 平
516	V H1d	略円形	0.28	0.12	0.15	96.839			10 YR2/2	D1 平
518	V H1d	略円形	0.31	0.1	0.21	96.717			10 YR2/2	D1 平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱径	重複	埋土	備考
521	V H1e	略楕円形	0.44×0.33	0.20×0.19	0.41	96.260	0.15		10 YR4/6	D2平 炭化物微
522	V H1e	楕円形	0.35×0.32	0.12×0.10	0.24	96.394			10 YR2/1	D2平 炭化物微
523	V H1f	略円形	0.43	0.21	0.49	95.925	0.15		10 YR4/6	D2平
524	V H1f	略円形	0.26	0.10	0.11	96.338			10 YR2/2	D2平
525	V H1f	略円形	0.30	0.13	0.29	96.018			10 YR2/2	D2平
526	V H1f	略円形	0.30	0.10	0.17	96.168			10 YR2/2	D2平
528	V H1f	略円形	0.30	0.19	0.13	96.111			10 YR2/2	D2平 焼土粒微
529	V H1f	略円形	0.42	0.28×0.13	0.20	96.008			10 YR2/2	D2平
534	V H1c	円形	0.39	0.15	0.47	96.700	0.14		5 Y7/6	D1平 柱押さえ石
535	V H1c	略円形	0.34	0.15×0.11	0.35	96.850			10 YR2/2	D1平 炭化物微
536	V H1d	略円形	0.29	0.22×0.19	0.27	96.893			10 YR2/3	D1平 炭化物少 露多
537	V H1c	略楕円形	0.26×0.25	0.14×0.13	0.16	96.997	0.11		10 YR2/3	D1平 焼土粒微
538	V H1d	方形	0.26×0.22	0.14×0.12	0.11	97.022			10 YR2/2	D1平 炭化物微
539	IV H10d	不整形	0.25×0.24	0.16×0.10	0.25	96.778			10 YR2/3	D1平 地山土混
540	IV H10d	不整形	0.31×0.22	0.09×0.07	0.33	96.730			10 YR2/3	D1平
541	IV H10d	不整形	0.40×0.33	0.21×0.09	0.26	96.760	0.16		10 YR5/6	D1平
542	IV H10c	略円形	0.26	0.12	0.11	97.087			10 YR2/1	D1平
543	IV H10c	不整形	0.30×0.30	0.19×0.17	0.12	97.092			10 YR2/1	D1平
544	IV H10c	円形	0.34	0.20×0.16	0.25	96.951			10 YR2/2	D1平 根石
545	IV H10d	略楕円形	0.29×0.25	0.18×0.08	0.17	97.036			10 YR2/2	D1平
546	V H1c	略円形	<0.32>	0.22×0.16	0.24	96.962			10 YR2/2	D1平
547	V H1c	不整形	0.34×0.27	0.19×0.16	0.35	96.848	0.14		2.5 Y7/6	D1平 根石
548	V H1c	略楕円形	0.30×0.26	0.14×0.12	0.21	96.999			10 YR2/2	D1平
549	V H1c	略円形	0.35	0.19	0.27	96.919			10 YR2/2	D1平
550	V H2c	略円形	0.42	0.20×0.17	0.38	96.824	0.12		2.5 Y7/6	D1平 根石 陶磁器 81
551	V H2c	略円形	<0.23>	0.10	0.33	96.904	0.12	古 P647	10 YR4/6	D1平
552	V H2c	楕円形	0.50×0.43	0.26×0.20	0.28	96.895	0.14	古 P648	10 YR2/2	D1平 炭化物少
553	V H2c	不整形	0.38×0.34	0.19×0.19	0.30	96.942			10 YR2/2	D1平
554	V H2c	略円形	0.24	0.08	0.12	97.076			10 YR2/2	D1平
555	V H2c	円形	0.28	0.16	0.16	97.070			10 YR2/2	D1平 炭化物少
556	V H2c	略円形	<0.32>	0.15×0.10	0.33	96.924		古 P582	10 YR2/3	D1平 炭化物微
557	V H2c	略楕円形	0.27×0.26	0.14×0.09	0.20	97.024			10 YR2/3	D1平
558	V H2c	不整形	0.41×0.38	0.15×0.12	0.38	96.765	0.16		10 YR4/6	D1平
559	V H2c	略楕円形	0.41×0.32	0.19×0.13	0.18	97.017			10 YR3/1	D1平
560	V H2c	不整形	0.30×0.30	0.18×0.17	0.42	96.760			10 YR2/2	D1平 炭化物微
561	V H2c	円形	0.38	0.28×0.24	0.33	96.840	0.13		10 YR4/6	D1平 柱押さえ石
562	V H2c	略円形	0.27	0.11	0.20	96.999			10 YR2/2	D1平
563	V H2c	略円形	<0.34>	0.15	0.31	96.863		古 P564,P562	10 YR2/2	D1平
564	V H2c	略円形	<0.27>	0.14	0.23	96.967			10 YR2/2	D1平
565	V H2c	不整形	0.46×0.42	0.30×0.22	0.68	96.518			10 YR3/1	D1平
566	V H2c	略楕円形	0.29×0.27	0.14×0.10	0.21	97.039	0.15		10 YR4/6	D1平
567	V H2c	楕円形	0.21×0.18	0.09×0.08	0.25	96.998			10 YR2/1	D1平 炭化物微
568	V H2c	略楕円形	0.25×0.22	0.15×0.14	0.12	97.090			10 YR3/1	D1平
569	V H2c	略円形	0.31	0.20	0.24	96.950			10 YR3/2	D1平
570	V H2c	略方形	0.19×0.17	0.13×0.13	0.16	97.024			10 YR2/1	D1平
571	V H3c	略円形	<0.25>	0.12	0.19	97.050			10 YR2/2	D1平
572	V H3c	略円形	<0.31>	0.21×0.17	0.33	96.917		古 P571	10 YR2/2	D1平 炭化物微
573	V H3c	不整形	0.26×0.24	0.11×0.10	0.30	96.977			10 YR2/3	D1平 下部露多
574	V H3c	略円形	0.24	0.11	0.12	97.150			10 YR2/2	D1平 炭化物微
575	V H3c	楕円形	0.28×0.24	0.15×0.12	0.35	96.876			10 YR2/2	D1平
576	V H3c	略円形	<0.16>	0.03	0.10	97.128			10 YR2/2	D1平
577	V H3c	不整形	0.23×0.17	0.06×0.06	0.33	96.925			10 YR2/2	D1平
578	V H2c	円形	0.33	0.21	0.21	97.028			10 YR2/3	D1平 炭化物微
579	V H2c	不整形	0.26×0.20	0.15×0.11	0.06	97.143			10 YR2/1	D1平
580	V H2c	不整形	0.25×0.25	0.14×0.12	0.25	96.980	0.12		10 YR4/4,5/6	D1平
581	V H2c	略円形	<0.28>	0.18×0.07	0.28	96.939			10 YR2/2	D1平 炭化物微
582	V H2c	略円形	<0.28>	0.21	0.10	97.134		古 P581	10 YR2/2	D1平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱痕径	重複	埋土	備考
583	V H2c	不整形	0.24×0.18	0.09×0.07	0.11	97.124			10 YR4/4	D1 平
584	V H2c	略円形	<0.22>	0.07	0.11	97.114			10 YR2/2	D1 平
585	V H2c	略円形	<0.29>	0.15×0.11	0.23	97.001			10 YR2/1	D1 平
586	V H2c	略円形	<0.38>	0.17×0.12	0.32	96.900		古 P661	10 YR3/1	D1 平 礫多
587	V H2c	不整形	0.33×0.32	0.20×0.20	0.31	96.926			10 YR2/2	D1 平
588	V H1c	楕円形	0.17×0.16	0.11×0.10	0.04	97.163			10 YR2/1	D1 平
589	V H1c	略楕円形	0.25×0.19	0.03×0.03	0.12	97.058			10 YR3/1	D1 平 炭化物微
590	V H1c	略楕円形	0.18×0.14	0.11×0.10	0.18	97.015			10 YR2/1	D1 平
591	V H3c	略楕円形	0.16×0.15	0.06×0.05	0.29	96.936	0.14		10 YR6/8	D1 平 灰白色土含
592	V H3c	略円形	0.30	0.19	0.18	97.033	0.10		10 YR6/8	D1 平
593	V H3c	楕円形	0.29×0.25	0.14×0.13	0.22	97.004	0.11		10 YR6/8	D1 平
594	V H3c	不整形	0.34×0.24	0.24×0.13	0.15	97.087			10 YR2/1	D1 平
595	V H3c	略円形	<0.22>	0.11	0.25	96.984	0.14		10 YR6/8	D1 平 炭化物少
596	V H3c	略円形	<0.28>	0.13×0.10	0.31	96.924			10 YR3/1	D1 平
597	V H3c	略円形	<0.28>	0.05	0.21	97.031	0.08		10 YR6/8	D1 平 柱押さえ石
598	V H3c	不整形	0.36×0.35	0.20×0.14	0.38	96.893			10 YR3/1	D1 平 炭化物少
599	V H3c	不整形	0.35×0.33	0.17×0.16	0.57	96.702	0.13		10 YR6/8	D1 平 木製品 11
600	IV H10c	略楕円形	0.28×0.24	0.15×0.14	0.04	97.132			10 YR2/1	D1 平
601	IV H10d	不整形	0.35×0.35	0.15×0.14	0.25	96.888			10 YR2/2	D1 平 炭化物微
602	IV H10c	略楕円形	0.34×0.27	0.11×0.11	0.22	96.970			10 YR3/2	D1 平
603	IV H10c	略円形	0.25	0.18	0.13	97.043			10 YR3/1	D1 平
604	IV H10c	円形	0.27	0.14	0.14	97.124			10 YR3/1	D1 平
605	IV H10c	円形	0.30	0.20	0.07	97.116	0.15		10 YR5/8	D1 平 地山土含
606	IV H10c	円形	0.23	0.12	0.07	97.125	0.17		10 YR6/8	D1 平 灰白色土含
607	IV H10c	略楕円形	0.26×0.21	0.10×0.08	0.07	97.127			10 YR2/1	D1 平
608	IV H10c	円形	0.22	0.10	0.12	97.095			10 YR2/2	D1 平
609	IV H10c	円形	0.25	0.16	0.05	97.102			10 YR2/1	D1 平
610	V H1c	略円形	0.32	0.10×0.06	0.18	96.998			10 YR3/1	D1 平
611	IV H10d	略円形	0.25	0.11	0.32	96.850			10 YR3/1	D1 平
612	IV H10d	略円形	0.34	0.18	0.20	96.678			10 YR2/2	D1 平
613	IV H10d	略楕円形	0.25×0.20	0.10×0.08	0.33	96.706	0.13		10 YR6/8	D1 平
614	V H2c	略円形	0.25	0.19×0.12	0.17	97.053			10 YR6/6	D1 平 地山土混
615	V H3f	円形	0.32	0.14×0.10	0.31	95.950			10 YR2/3	D2 平
616	V H3f	楕円形	0.30×0.22	0.10×0.09	0.20	96.065			10 YR2/3	D2 平 焼土少
618	V H3f	円形	0.26	0.14	0.14	96.082			10 YR3/1	D2 平
619	V H3f	略円形	0.27	0.14×0.09	0.31	95.863			10 YR2/2	D2 平
621	V H3f	不整形	0.28×0.25	0.09×0.09	0.15	96.120			10 YR2/2	D2 平
622	V H4d	不整形	0.32×0.31	0.17×0.16	0.29	96.918			10 YR2/2	D1 平 炭化物微
623	V H3c	不整形	0.25×0.22	0.09×0.04	0.08	97.103			10 YR2/1	D1 平
624	V H2c	略円形	0.32	0.18	0.28	96.936	0.16		10 YR6/6	D1 平 灰白色土含
625	V H2c	略円形	0.32	0.21×0.16	0.14	96.979	0.10		10 YR2/1	D1 平 地山土含
626	V H2c	略円形	<0.32>	0.20×0.12	0.20	96.970			10 YR3/1	D1 平 地山土含
627	V H2c	略楕円形	0.34×0.30	0.25×0.20	0.17	97.070			10 YR2/1	D1 平 地山土含
628	V H1c	円形	0.24	0.06	0.13	97.045			10 YR2/3	D1 平
629	V H3h	略円形	0.27	0.18×0.12	0.30	94.384			10 YR2/3	D2 平
630	IV H10d	略円形	0.32	0.22×0.15	0.23	96.801			10 YR3/4	D1 平
631	V H3h	略楕円形	0.21×0.15	0.09×0.06	0.21	94.060			10 YR3/3	D2 平
632	V H3h	略楕円形	0.43×0.30	0.15×0.10	0.40	94.088			10 YR3/4	D2 平 炭化物微
633	V H2h	略楕円形	0.28×0.24	0.18×0.14	0.24	94.110			10 YR3/2	D2 平 炭化物微
634	V H2h	略楕円形	0.32×0.28	0.21×0.19	0.29	94.188			10 YR4/4	D2 平 柱押さえ石
635	V H2h	円形	0.22	0.14	0.14	94.077			10 YR3/3	D2 平
636	V H3h	略円形	0.25	0.16×0.11	0.16	94.209			10 YR3/3	D2 平
638	IV H9d	略円形	0.32	0.20	0.10	96.685			10 YR2/2	D1 平 焼土・地山土含
639	IV H9d	略円形	0.25	0.16×0.08	0.19	96.696			10 YR3/2	D1 平 地山土含
640	IV H10d	略円形	0.20	0.05	0.19	96.754			10 YR2/3	D1 平 炭化物少
641	IV H10d	楕円形	0.30×0.23	0.16×0.10	0.37	96.706			10 YR3/3	D1 平 地山土含
643	V H1c	略円形	0.38	0.20	0.20	96.950			10 YR2/2	D1 平 炭化物少

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱径	重複	埋土	備考
645	V H1c	円形	0.38	0.13	0.29	96.871	0.11		10 YR6/8	D1 平
646	V H2c	円形	0.21	0.11	0.05	97.179			10 YR3/2	D1 平
647	V H2c	略円形	<0.33>	0.17	0.20	97.024			10 YR4/4	D1 平
648	V H2c	略円形	<0.48>	0.18	0.44	96.745	0.14		10 YR6/8	D1 平
649	V H1c	楕円形	0.21×0.18	0.03×0.03	0.14	97.058			10 YR2/2	D1 平
650	V H2c	不整形	0.37×0.30	0.26×0.14	0.25	96.958	0.10		10 YR6/8	D1 平
651	IV H10c	円形	0.20	0.12	0.09	97.031			10 YR2/2	D1 平
652	V H2c		<0.20>	0.14	0.21	96.984			10 YR2/3	D1 平
653	V H1c	略円形	<0.22>	0.10×0.06	0.17	97.036		古 P547	10 YR2/2	D1 平
654	V H3c	不整形	0.27×0.20	0.18×0.10	0.24	97.000			10 YR2/2	D1 平
655	IV H10d	略円形	<0.28>	0.10×0.07	0.19	96.890			10 YR3/2	D1 平
656	IV H10d	略楕円形	0.44×0.35	0.17×0.17	0.46	96.627			10 YR2/3	D1 平 炭化物少
657	V H1c	略楕円形	0.35×0.31	0.13×0.10	0.24	96.908			10 YR2/1	D1 平
658	V H1c	略円形	0.30	0.10	0.25	96.885			10 YR2/3	D1 平
659	V H2c	略円形	0.25	0.17	0.10	97.130			10 YR3/2	D1 平
660	V H3c	略円形	0.23	0.11	0.13	97.183			10 YR3/2	D1 平
661	V H2c	略円形	<0.32>	0.26×0.22	0.25	96.992			10 YR4/4	D1 平

E 区の遺構

E 区は城域内のほぼ中央、主郭（柏山館）と副郭（松本館）に抱え込まれた谷筋で、従来枋形虎口と考えられていた塁壁（E 1 号土塁）内にある。調査地は谷筋の西側斜面下半にあたり、主として松本館（半入館）に属する。谷筋の東側斜面部下位は現道により破壊されている。現況地形では中央部が畑地として削平され、東下がりの緩斜面となっているほかは、調査地の西半が東側を下る急斜面、東半は北側 D 区から南側の塁壁まで約 100 m が緩斜面となっていた。この東半の旧状は沢地形であったものに、現道工事の掘削排土を埋め立てたことは知られていたが、調査の結果最大 8 m の厚さの客土が確認された。客土を除いた層序は、基本的には黒ボク表土（20～40 cm）下が中世面となる。層厚は西半の山側が薄く、東半の谷側に厚い。斜面には数段の帯状の平場があり、これらには壁崩落の褐色や黄褐色土が三角堆積していた。中世の館跡に伴うと思われる遺構は平坦地（腰曲輪・帯曲輪）7 カ所、犬走り状遺構 5 カ所、テラス状平場 14 カ所、切岸状遺構 4 カ所、堀跡 2 条、土塁 2 条、溝跡 3 条、土坑 1 基、柱穴列 2 条、柱穴 133 基である。このほかに中央部畑地で削平のため時期不明とした土坑が 1 基ある。平坦地とした平場は、規模の大きい腰曲輪と思われるもの 4 カ所と幅 3～5 m 程のやや広めの帯状平場 3 カ所、テラス状遺構は狭小な平場、犬走り状遺構としたものは幅 1 m 以内の狭い帯状の平場である。

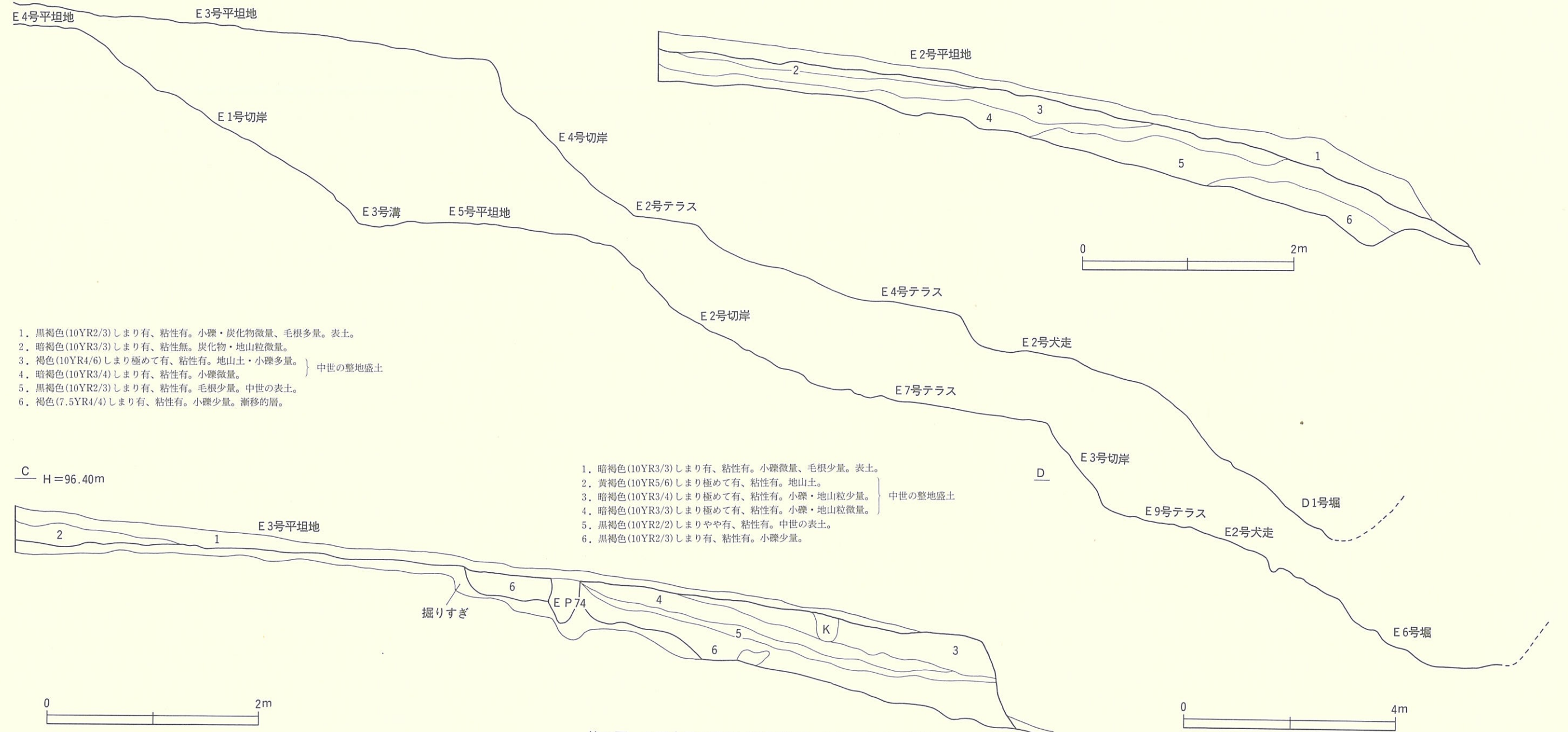
E 2 号平坦地〈腰曲輪〉（第 41 図、付図 3・5、写真図版 12）

松本館側の丘陵東斜面中腹に設けられた腰曲輪のひとつであり、調査区外に井戸跡が確認されることから水の手曲輪と思われる。南側には同一面の E 3 号平坦地が隣接するが、E 2 号土塁で区切られる。調査区外の西側には切岸と高位の曲輪、東側は E 4 号切岸から D 1 号堀跡があるが、調査区外北側に伸びる D 1 号堀跡が現況では確認できないため、北側は不明である。

G : H H = 96.60m

A H = 96.60m

G' B H'



- 1. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性有。小礫・炭化物微量、毛根多量。表土。
 - 2. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、粘性無。炭化物・地山粒微量。
 - 3. 褐色(10YR4/6)しまり極めて有、粘性有。地山土・小礫多量。
 - 4. 暗褐色(10YR3/4)しまり有、粘性有。小礫微量。
 - 5. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性有。毛根少量。中世の表土。
 - 6. 褐色(7.5YR4/4)しまり有、粘性有。小礫少量。漸移的層。
- } 中世の整地盛土

- 1. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、粘性有。小礫微量、毛根少量。表土。
 - 2. 黄褐色(10YR5/6)しまり極めて有、粘性有。地山土。
 - 3. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。小礫・地山粒少量。
 - 4. 暗褐色(10YR3/3)しまり極めて有、粘性有。小礫・地山粒微量。
 - 5. 黒褐色(10YR2/2)しまりやや有、粘性有。中世の表土。
 - 6. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性有。小礫少量。
- } 中世の整地盛土

第41図 E区中世の遺構(地形断面、E 2・3号平坦地)

ただし、限定された地形で縄張りを考えた場合、調査区外も含めた平面形は北側が狭い台形様と推定され、規模は東西最大幅約 20 m、南北推定最大長は約 50 m、推定面積 730 m²となる。このうち調査対象となった範囲はわずかに西南縁辺部で、精査した範囲での標高は 96 m 程である。普請は削平後に盛土をして整地造成していた。調査地内の層序は、表土（黒ボク土約 12 cm）下が中世整地面となり、西の山側は整地盛土（15～25 cm）下は地山、東側の谷頭では地山上に中世当時の表土（40 cm 前後）と思われる黒ボク土が存在する。作事の痕跡として柱穴 49 基、柱穴列 2 条（掘立柱建物跡？）が検出されている。

E 3 号平坦地〈腰曲輪〉（第 41 図、付図 3・5、写真図版 12）

松本館側の丘陵東斜面中腹に設けられた腰曲輪のひとつである。北側には同一面の E 2 号平坦地が隣接するが、E 2 号土塁で区切られている。調査区外の西側には高低差の少ない高位の曲輪、東側は E 4 号切岸から E 6 号堀跡があるが、南側は畑地として掘削され旧状を止めない。限定された地形と周囲の曲輪配置および作事痕跡の存在から、調査区外も含めた平面形は台形様と推定され、規模は東西最大幅約 15 m、南北推定最大長は約 35 m、推定面積 290 m²となる。調査地は西側 1/3 を除いた範囲で、標高は 94～95.5 m である。普請は西の山側が削平、東側の谷頭は盛土をして整地造成していた。調査地内の層序は、基本的には表土（黒ボク土約 10 cm）下が中世整地面となり、山側では部分的に暗褐色土が見られるが表土下は地山、谷側では整地盛土（約 30 cm）下に中世当時の表土（約 10 cm）と漸移層（約 20 cm）が存在する。作事の痕跡として柱穴 84 基が検出されたが、建築物を想定するには至らなかった。

E 4 号平坦地〈腰曲輪〉（付図 3、写真図版 12）

松本館側の丘陵東斜面中腹に設けられた腰曲輪のひとつであり、E 3 号平坦地の一段上の曲輪である。調査地は狭小で大半は調査区外になる。現状での平面形は南北に長い帯状で、北は E 2 号土塁から南は城域を取り巻く横堀（内郭）まで達する。規模は南北総延長約 86 m、東西幅はおよそ 12～15 m、面積 920 m²を測り、調査地での標高は 95.8 m である。北側では九十九折りとなって西側上位の曲輪と連絡している。普請は削平整地、黒ボク表土（約 20 cm）下は漸移層であった。調査地は曲輪の中央部東側縁辺で、作事の痕跡は確認できなかった。

E 9 号平坦地〈腰曲輪？〉（付図 3・5）

E 区中央部で東側に張り出した範囲である。現況は畑地として掘削されており、旧状は全く不明だが、地形と周辺の曲輪配置からみて腰曲輪と判断したものである。E 1・2 号竪穴状遺構の遺存状況から判断して、E 5 号帯曲輪と連絡して同一面に削平および盛土整地していたものと推測される。現状から推定される規模は南北約 20 m、東西約 16 m、推定面積約 290 m²である。

E 5 号平坦地〈帯曲輪〉（付図 3、写真図版 12）

E 区の南西部斜面に設けられた南北に長い帯曲輪である。E 9 号平坦地に連絡すると思われ

る北端は、畑地で掘削され不明であるが、南端はE 1号土塁に達する。西側はE 1号切岸、東側はE 2号切岸となっている。調査対象となった範囲は北半であるが、調査区外も含めた規模は南北総延長約58 m、調査地での東西幅3~5 m、調査区外での幅は3~7 mを測り、調査地での標高は93~90 mで緩い南下りとなっている。普請は山側を削平し、谷側に盛土をして整地造成していた。E 1号切岸の裾には排水のためと思われる幅約60 cm、深さ約15 cmの溝が走る。作事の痕跡は確認されなかった。

E 10号平坦地〈帯曲輪〉(付図3)

E区の南西部斜面に設けられた南北に長い帯曲輪である。E 4・E 5号平坦地との曲輪で、E 1号切岸の南側中位に位置する。調査地は北端のみで大半は調査区外になり、南端は内郭に達する。全体の規模は南北総延長約34 m、東西幅3~10 mと南側が広がる。調査地での標高はおよそ92.5 mである。調査地での普請は削平整地による。作事の痕跡は確認されなかった。

E 11号平坦地〈帯曲輪〉(第42図、付図3、写真図版13)

E 1号土塁の南側壁下位、壘壁にそって設けられた東西に長い帯曲輪である。E 2号堀跡と平行し、西側調査区外では南側に緩やかに弧を描く。調査区外を含めた規模は、東西総延長約24 m、南北幅3~4 mを測り、調査地での標高はおよそ81 mである。普請は西側が旧沢跡を埋め立て造成し、東側は削平整地によるものである。作事の痕跡は確認されなかった。

E 1号犬走り状遺構(付図3、写真図版12)

E 5号平坦地の下段で沢底(E 6堀跡)に至る壘壁斜面に設けられた帯状の幅の狭い平場である。規模は南北総延長約50 m、東西幅1 m前後を測り、標高は北側で約89.5 m、南側で約87 mと南下がりとなる。中央部と南端はやや広めのテラス状(E 7・11号テラス)となっている。普請は地形によって削平と盛土が行われている。埋土は黒ボク表土(10~20 cm)下に壁崩落の褐色土と黄褐色土が三角堆積する。作事の痕跡は確認されず、機能的には戦時は防御、平時は壘壁面の整備と管理のために設けられたものと思われる。

E 2号犬走り状遺構(付図3、写真図版12)

E 1号犬走り状遺構の下段の壘壁斜面に設けられた帯状の幅の狭い平場である。規模は南北総延長約100 m、東西幅1 m前後を測り、標高は北側で約89.5 m、中央で約85 m、南側で約82 mと南下がりとなる。南北両端の各1カ所と中央部で2カ所がやや広いテラス状(E 4・9・10・13テラス)となっている。普請、埋土ともE 1号犬走り状遺構と同様であり、作事の痕跡は確認されず、機能的には戦時は防御、平時は壘壁面の整備と管理のために設けたものと思われる。

E 3号犬走り状遺構(付図3、写真図版12)

E 2・3号平坦地の下段、E 2号犬走り状遺構の上段の壘壁斜面に設けられた帯状の幅の狭い平場である。E 1号溝跡からの流水のため中央で分断されているが、規模は南北総延長約24 m、

東西幅1m前後を測り、標高はおおよそ92.5m程である。普請、埋土ともE1・2号犬走り状遺構と同様であり、やはり作事の痕跡は確認されず、機能的には戦時は防御、平時は墨壁面の整備と管理のために設けられたものと思われる。

E4号犬走り状遺構（付図3）

E5号平坦地の下段の墨壁斜面に設けられた幅1m前後と狭い帯状の平場である。南西側が調査区外にかかるため全容は不明であるが、レベル的にみてE1号土塁上（武者走り？）と連絡するものと思われる。調査地での標高は約86.5mを測る。普請、埋土ともほかの犬走り状遺構と同様であり、作事の痕跡は確認されず、機能的には戦時は防御、平時は墨壁面の整備と管理のために設けられたものと思われる。

E5号犬走り状遺構（付図3）

谷筋の東側、柏山館に属する斜面に設けられた帯状の幅の狭い平場である。現道側の調査区外の試掘トレンチで部分的に確認したものであり、全容は不明である。確認した範囲では幅約0.5m、標高は北側の試掘地点で85m前後、南側の地点で82.5mを測る。普請は削平整地、埋土はほかと同様である。作事の痕跡は確認されず、機能的には戦時は防御、平時は墨壁面の整備と管理のために設けられたものと思われる。

E1～14号テラス状遺構（付図3、写真図版12）

平坦地（曲輪・腰曲輪）の下段で沢底（E6・D1号堀跡）に至る墨壁斜面に設けられ、単独のものや犬走り状遺構と接続するものがある。E4号切岸からD1号堀跡斜面に位置するものについては、廃城後に墨壁の崩落でできたものや犬走りの途切れたものの可能性もある。地形によるものか意図的なものか判断はつかないが、機能的には犬走り状遺構と同様、戦時には防御、平時には墨壁面の整備と管理のために設けられたものと思われる。いずれも作事の痕跡は確認されなかった。各テラス状遺構の位置と規模は下表の通り、単位はmである。

番号	位置	規模	連絡	番号	位置	規模	連絡	番号	位置	規模	連絡
1	4切岸	9×1		6	2切岸	14×1.8		11	2切岸	4×3.8	E1犬走り
2	4切岸	15×2.5		7	2切岸	8×4	E1犬走り	12	2切岸	(8)×3.8	E1・4犬走り
3	4切岸	5×1.3		8	3切岸	9×2.4	E9テラス	13	3切岸	(5)×2.4	E2犬走り
4	4切岸	9×2	E2犬走り	9	3切岸	16×3	E2犬走り	14	E1土塁	(5)×1.8	
5	4切岸	8×1.2		10	3切岸	5×3.5	E2犬走り				

E1号切岸状遺構（付図3、写真図版12）

E区の南側、E4号平坦地とE5号平坦地の間の斜面である。南側の中位にはE10号平坦地がある。調査地内での最大実効法高は約6.5m、垂直墨壁高は約4mを測る。普請は掘削によって傾斜をとり、法面の角度は現状で35°である。

E2号切岸状遺構（付図3、写真図版12）

E 区の南側で E 1 号切岸状遺構の下位、E 5 号平坦地と E 1 号犬走り状遺構間の斜面である。北側中位には E 6 号テラスがある。調査地内での最大実効法高は約 5.5 m、垂直壘壁高は約 2.5 m を測る。普請は山側上位が E 5 号平坦地の整地盛土、谷側下位は掘削して傾斜をとり、法面の角度は現状の上位で 35°、下位で 30°である。

E 3 号切岸状遺構（付図 3、写真図版 12）

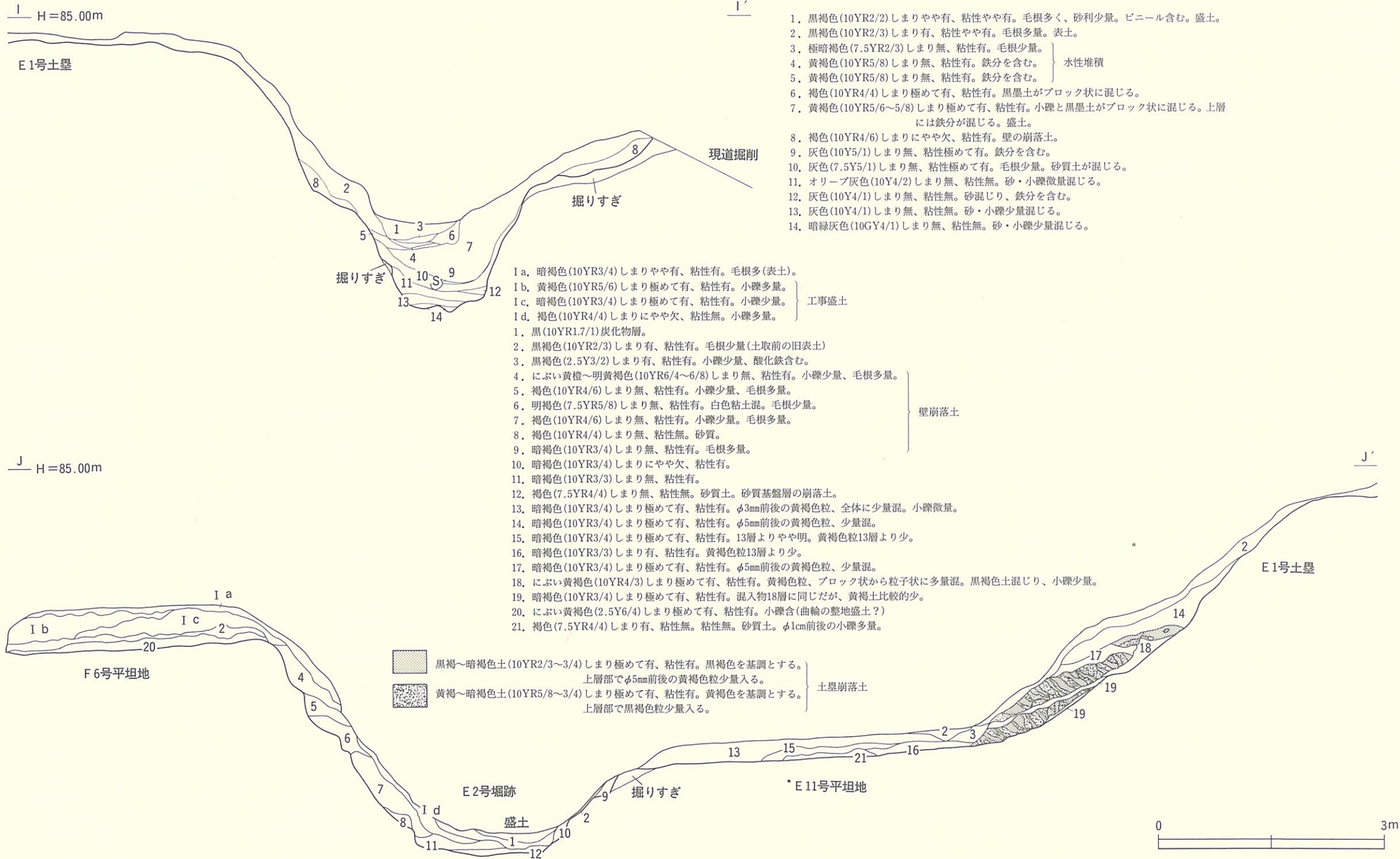
E 区の南側で E 2 号切岸状遺構の下位、E 1 号犬走り状遺構と E 2 号犬走り状遺構間の斜面である。北側中位には E 8・9 号テラスが設けられているため途切れるが、壘面としては E 4 号切岸状遺構と同一である。最大実効法高は約 5.2 m、垂直壘壁高は約 2.5 m を測る。普請は南側が掘削、北側がテラス状遺構の整地盛土で傾斜をとり、法面の角度は現状の上位で 55°、下位で 20～25°である。

E 4 号切岸状遺構（付図 3、写真図版 12）

E 区の北側、E 2・3・9 号平坦地と E 2 号犬走り状遺構間の斜面である。中央中位には E 1～5 号テラス、北側中位には E 3 号犬走り状遺構がある。調査地内での実効法高はおよそ 7.5 m、垂直壘壁高は約 3.2 m を測る。普請は山側上位が E 2・3 号平坦地の整地盛土、谷側下位は掘削して傾斜をとり、法面の角度は現状の上位で 45°、下位で 20°前後である。

E 2 号堀跡（第 42 図、付図 3、写真図版 13）

発掘調査以前には、現況地形から桁形虎口と考えられていたもので、F 区の西側調査区外に続くのが確認される南―北に走行する空堀である。調査地は E 区南端の E 1 号土塁にそって 2 度屈曲する部分であり、北端は 2 m の高低差をもって E 6 号堀跡に連続する。土塁を切る北側部分では東壁上位が現道工事により消失しているが、法面に幅約 50 cm 程の段（E 5 号犬走り状遺構）が検出されている。南端は宅地で破壊され、全容は不明である。現状で確認された範囲では北端から約 25 m で西に、さらに 17 m 程で南に再度折れる。規模は南北総延長約 126 m、調査地北側土塁を切る部分では実効堀幅約 4.5 m、西壁実効法高約 4 m、東壁残存法高約 1.6 m、垂直壘壁高 3.3 m を測る箱薬研の堀、土塁外壁に平行する部分では実効堀幅約 5 m、南壁実効壘壁高約 3.4 m、北壁実効法高約 1.5 m、垂直壘壁高約 2.8 m を測る箱堀となっている。底面は北から南に低く、調査地内では高低差約 1.3 m である。普請は調査地屈曲部は基盤層を掘り込んでいたが、調査区外を南走する部分は旧沢地形（E 6 号堀跡に続く）を利用していた。このため沢を E 1 号土塁でせき止め、水堀としていた E 6 号堀跡の増水分が雨季には流水したもののか、堀底は凹凸が激しくおう穴（ポットホール）が認められた。E 6 号堀跡を渡る橋の存在した可能性もあるが、堀底の状態を見る限りでは虎口として機能せず、偽虎口であったと思われる。盛土を除いた埋土は、黒ボク土混じりの壁崩落土および水性堆積の砂がち土と鉄分混じりの赤茶色土がわずかで、部分的にグライ化していた。遺物は埋土下位の赤茶色土から白磁と



- 1. 黒褐色(10YR2/2)しまりやや有、粘性やや有。毛根多く、砂利少量。ビニール含む。盛土。
- 2. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性やや有。毛根多量。表土。
- 3. 極暗褐色(7.5YR2/3)しまり無、粘性有。毛根少量。
- 4. 黄褐色(10YR5/8)しまり無、粘性有。鉄分を含む。
- 5. 黄褐色(10YR5/8)しまり無、粘性有。鉄分を含む。
- 6. 褐色(10YR4/4)しまり極めて有、粘性有。黒墨土がブロック状に混じる。
- 7. 黄褐色(10YR5/6~5/8)しまり極めて有、粘性有。小礫と黒墨土がブロック状に混じる。上層には鉄分が混じる。盛土。
- 8. 褐色(10YR4/6)しまりにやや欠、粘性有。壁の崩落土。
- 9. 灰色(10Y5/1)しまり無、粘性極めて有。鉄分を含む。
- 10. 灰色(7.5Y5/1)しまり無、粘性極めて有。毛根少量。砂質土が混じる。
- 11. オリーブ灰色(10Y4/2)しまり無、粘性無。砂・小礫微量混じる。
- 12. 灰色(10Y4/1)しまり無、粘性無。砂混じり、鉄分を含む。
- 13. 灰色(10Y4/1)しまり無、粘性無。砂・小礫少量混じる。
- 14. 暗緑灰色(10GY4/1)しまり無、粘性無。砂・小礫少量混じる。

- I a. 暗褐色(10YR3/4)しまりやや有、粘性有。毛根多(表土)。
- I b. 黄褐色(10YR5/6)しまり極めて有、粘性有。小礫多量。
- I c. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。小礫少量。
- I d. 褐色(10YR4/4)しまりにやや欠、粘性無。小礫多量。

- 1. 黒(10YR1.7/1)炭化物層。
- 2. 黒褐色(10YR2/3)しまり有、粘性有。毛根少量(土取前の旧表土)。
- 3. 黒褐色(2.5Y3/2)しまり有、粘性有。小礫少量、酸化鉄含む。
- 4. にぶい黄橙~明黄褐色(10YR6/4~6/8)しまり無、粘性有。小礫少量、毛根多量。
- 5. 褐色(10YR4/6)しまり無、粘性有。小礫少量、毛根多量。
- 6. 明褐色(7.5YR5/8)しまり無、粘性有。白色粘土混。毛根少量。
- 7. 褐色(10YR4/6)しまり無、粘性有。小礫少量。毛根多量。
- 8. 褐色(10YR4/4)しまり無、粘性無。砂質。
- 9. 暗褐色(10YR3/4)しまり無、粘性有。毛根多量。
- 10. 暗褐色(10YR3/4)しまりにやや欠、粘性有。
- 11. 暗褐色(10YR3/3)しまり無、粘性有。
- 12. 褐色(7.5YR4/4)しまり無、粘性無。砂質土。砂質基盤層の崩落土。
- 13. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。φ3mm前後の黄褐色粒、全体に少量混。小礫微量。
- 14. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。φ5mm前後の黄褐色粒、少量混。
- 15. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。13層よりやや明。黄褐色粒13層より少。
- 16. 暗褐色(10YR3/3)しまり有、粘性有。黄褐色粒13層より少。
- 17. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。φ5mm前後の黄褐色粒、少量混。
- 18. にぶい黄褐色(10YR4/3)しまり極めて有、粘性有。黄褐色粒、ブロック状から粒子状に多量混。黒褐色土混じり、小礫少量。
- 19. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。混入物18層に同じだが、黄褐色比較の少。
- 20. にぶい黄褐色(2.5Y6/4)しまり極めて有、粘性有。小礫含(曲輪の整地盛土?)
- 21. 褐色(7.5YR4/4)しまり有、粘性無。粘性無。砂質土。φ1cm前後の小礫多量。

- 黒褐~暗褐色土(10YR2/3~3/4)しまり極めて有、粘性有。黒褐色を基調とする。上層部でφ5mm前後の黄褐色粒少量入る。
- 黄褐~暗褐色土(10YR5/8~3/4)しまり極めて有、粘性有。黄褐色を基調とする。上層部で黒褐色粒少量入る。

第42図 E区中世の遺構(E2号堀跡)

染付が各1点出土した。

E 6号堀跡 (第43図、付図3、写真図版12・13)

調査区東縁を南―北にやや蛇行して走行するほぼ沢地形のままの堀跡である。東側が調査区外にかかり、現道により破壊されているため全容は不明であるが、旧地形からみて北側でD 1・5号堀跡と連続するものと思われる。南端はE 1号土塁でせき止められている。推測される規模は、D 1・5号堀跡合流点からE 1号土塁までの南北長約92 m、確認できた部分での堀幅(E 2・5号犬走り間)約14 m、西壁実効法高約9.3 m、東壁実効法高約6 m、最大垂直高約4 mを測る。沢は北から南に傾斜し、高低差約13 mである。地形的にもすべての水が集まる沢をせき止め、E 2号堀跡と段差を設けていることから、南端E 1号土塁からE 2号堀跡とレベルが一致する北側約27 mの間が水堀となっていたものと思われる。普請は西側E 2号犬走り状遺構の整地盛土により、上位が部分的に急角度となっている。埋土は現代の盛土を除くと崩落土と水性の砂がち堆積の幾重もの繰り返しによるものである。E 2号堀跡より低いレベルでは保水によりグライ化していた。遺物はE 1号土塁際の堀底から染付、白磁、石鉢、各1点と馬の頭骨、中世当時の旧表土と思われる黒ボク土からは須恵器の甍破片が出土した。

E 1号土塁 (第44図、付図3、写真図版13)

E区南端に位置し、城域内を区画する目隠しと沢筋からの一直線の侵入を防ぐために、旧沢地形をせき止めて構築した内郭ラインの防壁土塁である。平面形は東端が城域内北側に折れるカギ形を呈するが、折れ部分では北側に狭くなる。西端は調査区外にかかり全容は不明であるが、レベル的にE 4号犬走り状遺構に連絡すると思われる。調査区外を含めた規模は東西長約24 m、折れ部分の南北長約8 m、敷(基底幅)約14 m、褶(上幅)およそ5~6 m、垂直壁高(E 11号平坦地から)3.9 m、外壁実行法高約5.2 m、勾配は45~50°である。普請は東側生城寺館からの張り出しをE 2号堀跡を掘削することで折れ部分を造りだし、沢部分では5~10 cmの厚さで黄褐色土と黒ボク土を交互に積み上げた、いわゆる版築土塁である。積土間には繋ぎと思われる厚さ1 cm程の芝草、内部には手抜き工事と思われる部分も認められた。断ち割り断面からは構築に3段階の作業が見られた。第1段階では沢をせき止めて水流を変えるため、北側にE 2号堀跡底面よりもやや高くなるように土を積み上げ、第2段階で現状に近い大規模な積み上げを行い、第3段階は作業中か完成後かは不明であるが、北側城域内に崩落した上に積み上げて現状の形態としていた。現道を挟んだ東側には現況で対応するように土塁が確認されており、偽虎口と思われるE 2号堀跡とは別に、現道部分にはF 1号道路状遺構からの虎口が存在していたと思われる。遺物は折れ部分の表土中から石臼(上臼)1点が出土した。

E 2号土塁 (付図5)

E区北西部のE 2・3号平坦地を区切る土塁である。水の手曲輪(E 2号平坦地)の防壁土塁

と思われる。西側の大半が調査区外にかかり、調査地は東側の先端部のみである。調査区外を含めた規模は、東西長約 20 m、調査地での敷(基底幅)約 1.5 m、最大垂直高約 50 cmを測るが、調査区外ではおよそ 1 m 程の高さをもつ。普請は本遺構両側の溝跡掘削時の排土を利用したと思われる盛土構築である。

E 1号溝跡 (第 45 図、付図 5)

E 区北西部の E 2 号平坦地に位置し、E 2 号土塁北側に平行して東西に走行する溝跡である。現況で西側調査区外に続き、起点には井戸跡が確認されていることから、使い水や増水時の排水のためのものと思われる。E 2 号平坦地の東縁から D 1 号堀跡にかけては水流により自然の溝状となっている。調査区外を含めた平坦地上の規模は東西長約 25 m、調査地での幅約 1 m、深さ 20~50 cmを測り、東側に低くなる。北側には現状で重複する溝跡があるが、断面の観察から廃城後管理されなくなったため雨季と乾季に土砂の堆積と水流により、作られたものと思われる。遺物は青磁、染付と須恵器の破片各 1 点が出土した。

E 2号溝跡 (第 45 図、付図 5)

E 区北西部の E 3 号平坦地に位置し、E 2 号土塁南側に平行して東西に走行する溝跡である。調査区西側に続くものと思われるが、現況では確認できなかった。東端で E 1 号溝跡と重複する。調査地での規模は東西長約 4.5 m、幅約 1.2 m、深さ約 15 cmを測り、東側に低くなる。遺物は出土しなかった。

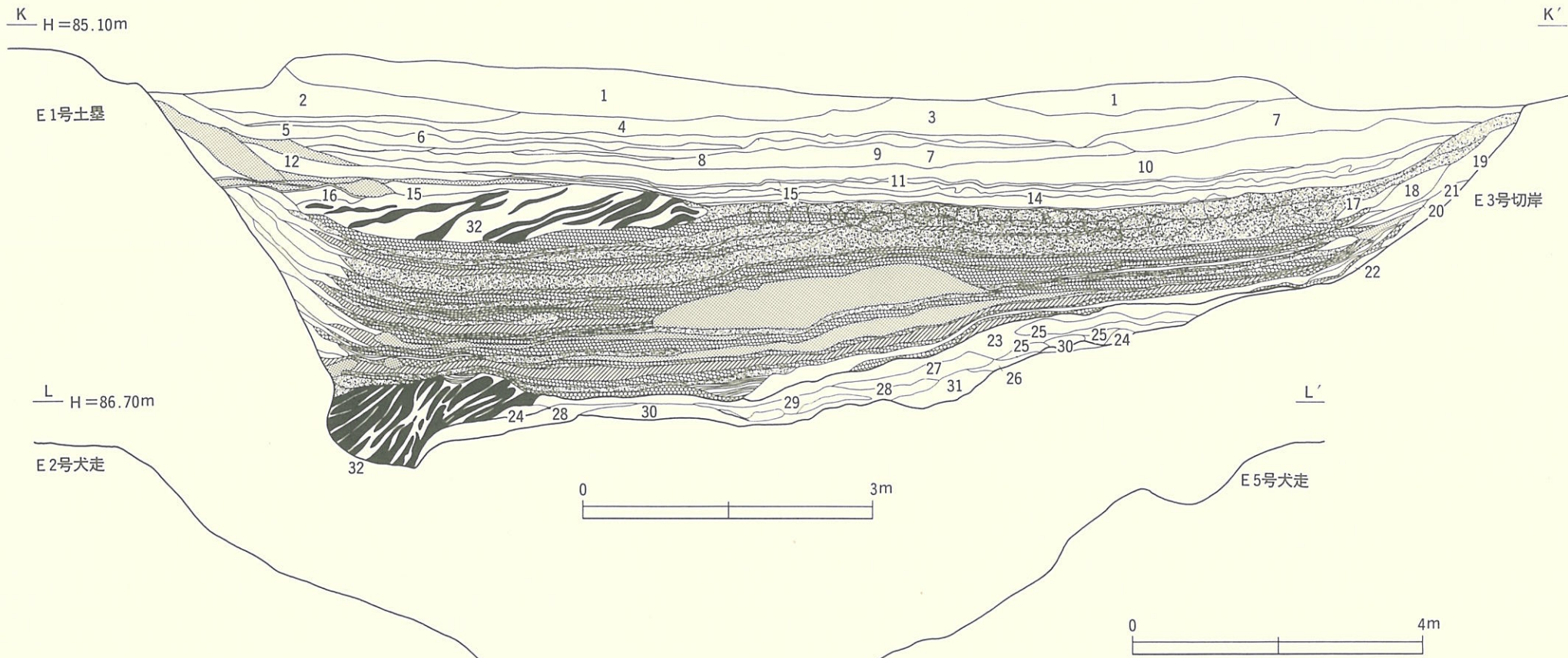
E 3号溝跡 (付図 3)

E 区中央部西側の E 5 号平坦地に位置し、E 1 号切岸状遺構の裾にそって南北に走行する溝跡である。調査区外南西側に続くと思われるが、現況では確認できなかった。調査地での規模は南北長約 29 m、幅約 90 cm、深さ 10~15 cmを測り、南側に低くなる。位置と状況からみて E 5 号平坦地保護のための排水溝と思われる。遺物は出土しなかった。

E 12号土坑 (第 45 図)

E 区のほぼ中央 V J-9 f グリッドに位置し、E 10 号テラス状平場に接する。表土からの土厚(特に盛土)を確認するためトレンチを掘ったところ地山面で検出した。試掘時には全体的にグライ化していたため判別できなかったものであるが、現代の盛土を除去したところ中世の整地盛土(E 10 号テラス)からの掘り込みであることが判明した。平面形はトレンチで破壊したため全容は不明であるが、残存部からは東西に長い楕円形を呈すると思われ、開口部 200×150 cm、底部 120×50 cmを測る。掘り込み面からの深さは約 90 cmである。断面形は直立する下位から上位で外反する。埋土は黒ボク土を主体とするが、山側からの流れ込みにより幾層にもなる。遺物は検出面で漆器が 2 点出土した。

E 1号柱穴列 (第 45 図、写真図版 12)



1. 暗褐色(10YR3/3)しまり極めて有、粘性有。φ1cmの小礫を多量含む。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)しまり極めて有、粘性有。φ1cmの小礫を多量含む。
3. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。φ1cmの小礫を多量含む。
4. 褐色(10YR4/4)しまり極めて有、粘性有。φ1cmの小礫、地山土多量混。
5. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。φ1cmの小礫を多量含む。
6. にぶい黄褐色(10YR5/4)しまり極めて有、粘性有。鉄分混。
7. 褐色(10YR4/4)しまり極めて有、粘性有。φ1cmの小礫を多量含む。
8. 暗褐色(10YR3/4)しまり極めて有、粘性有。φ1cmの小礫を多量含む。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)しまり極めて有、粘性有。鉄分混。
10. 褐色(7.5YR4/3)しまり極めて有、粘性有。鉄分含む。
11. にぶい黄褐色(10YR5/4)しまり極めて有、粘性有。鉄分混。
12. にぶい黄褐色(10YR4/3)しまり極めて有、粘性有。鉄分混。
13. 灰黄褐色(10YR5/2)しまり極めて有、粘性有。鉄分含む。
14. あさい黄色(2.5Y7/4)しまり有、粘性極めて有。酸化鉄、霜降り状に混じる。
15. にぶい黄褐色(10YR5/3)しまり有り、粘性有。砂少量混。
16. 褐色(10YR4/4)しまり無、粘性無。砂。
17. 灰黄褐色(10YR5/2)しまり有、粘性有。鉄分混。
18. 暗灰褐色(2.5Y5/2)しまり有、粘性有。鉄分混。
19. 褐色(7.5Y4/6)しまり無、粘性無。小礫混じりの砂。
20. 灰黄褐色(10YR5/2)しまり有り、粘性有り。鉄分混。
21. 灰黄色(2.5Y7/2)しまり無、粘性有。砂、小礫少量混。
22. 黄褐色(10YR5/6)しまり有、粘性無。砂。

盛土

E6号堀跡

23. 検出時、緑灰色(10GY5/1)しまり極めて有、粘性有。小礫、黒ボク土少量混。経過後、黄褐色(10YR5/8)
24. 黒(10YR2/1)しまり有、粘性有。砂質土混。
25. 黒(10YR1.7/1)黒ボク土をベースにした盛土。小礫・黄褐色土少量混。
26. 検出時、緑灰色(10GY5/1)しまり極めて有、粘性極めて有。小礫少量混。経過後、黄褐色(10YR5/8)
27. 黒(10YR2/1)しまり極めて有、粘性有。小礫微量混。
28. 黒(10YR1.7/1)しまりやや有、粘性有。小礫微量混。
29. 検出時、緑灰色(5G6/1)しまりやや有、粘性極めて有。経過後、黄褐色(10YR5/8)
30. 暗灰色(N3/)しまりにやや欠、粘性極めて有。旧表土(中世)
31. オリーブ黒(5Y3/1)しまり有、粘性極めて有。
32. 黄褐色(10YR5/8)土塁崩落土。

中世整地盛土

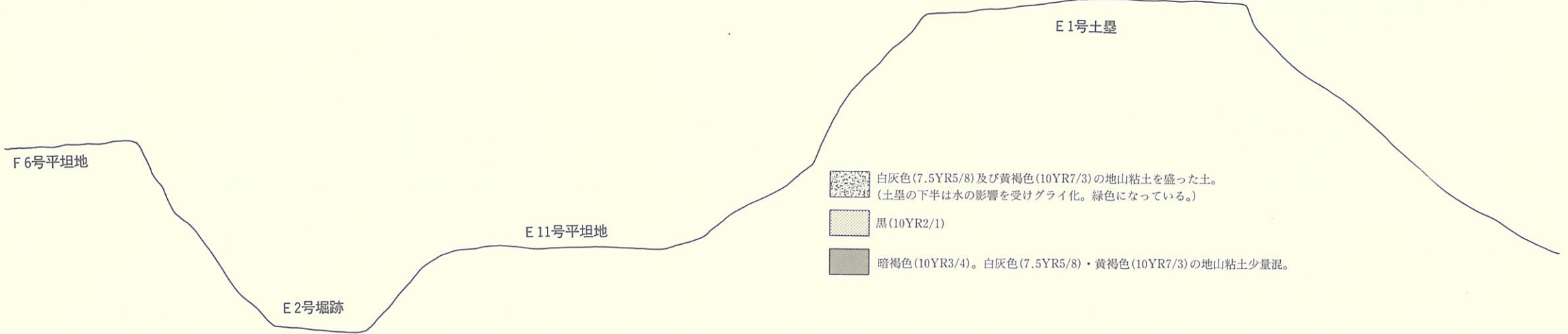
- 黒(2.5Y2/1)土塁崩落土。
- 赤褐色(5YR5/4)しまりにやや欠、粘性無。φ1mm~5mmの砂。基盤層の水流砂粒土。
- 黄灰色(2.5Y5/1)しまりやや有、粘性極めて有。同色系統で約1cmの堆積状況が見られる。
- 黒(10YR1.7/1)しまり有、粘性やや有。きめ細かい黒ボク砂質土にφ5mm前後の黄褐色粒入る。含有物の多少で幾重にも堆積を繰り返す。
- 黒褐色(2.5Y3/1)しまりやや有、粘性極めて有。
- 黄灰色(2.5Y4/1)しまりやや有、粘性極めて有。同色系統で約1cmの堆積状況が見られる。

水性堆積

第43図 E区中世の遺構 (E6号堀跡)

M H = 85.00m

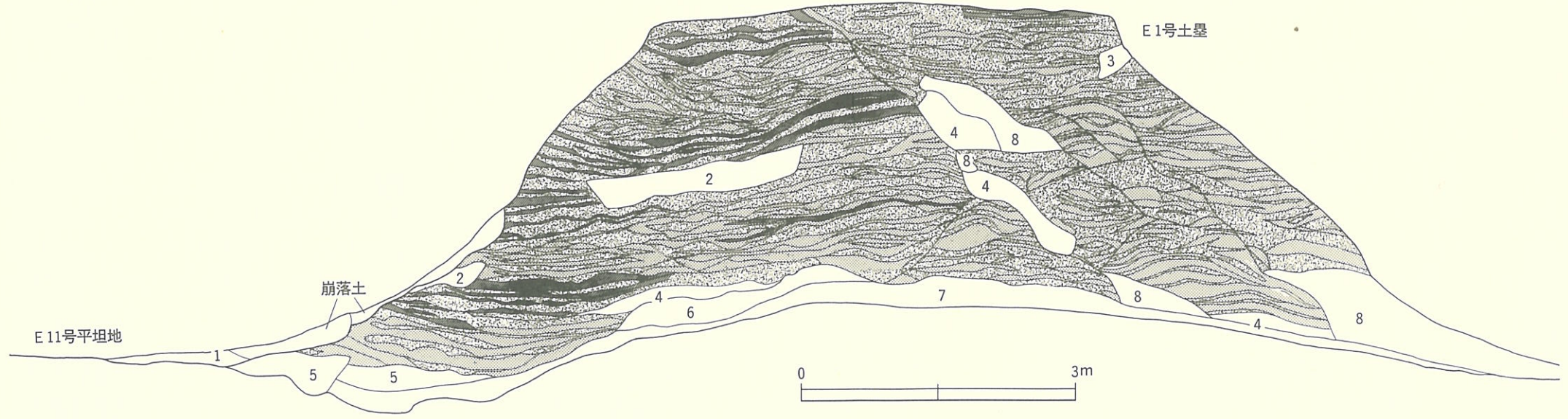
M'



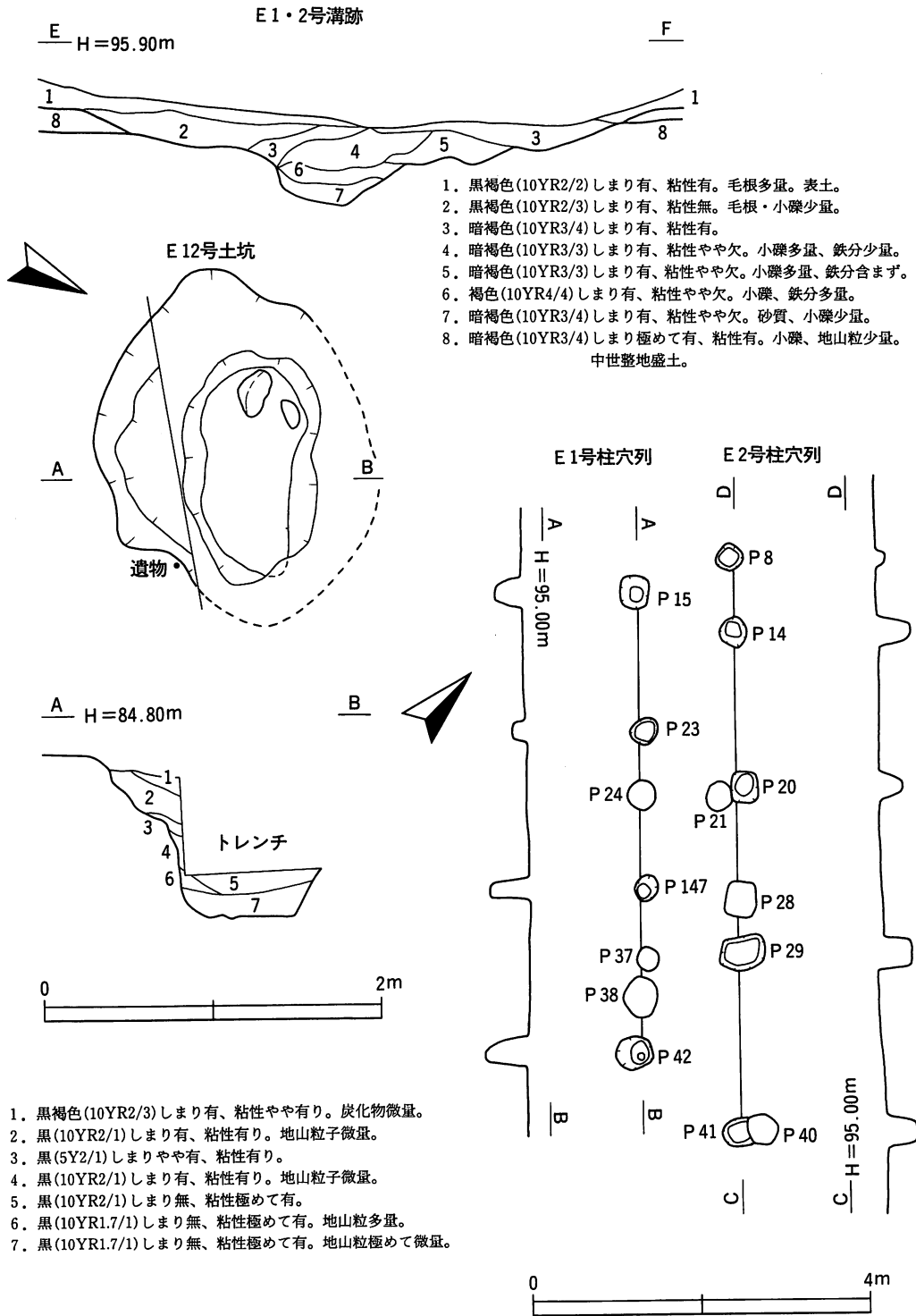
1. 褐色(7.5YR4/6)崩落土。
2. 黒褐色～暗褐色(10YR3/1～10YR3/3)地山土、黒ボク土の混じったもの。手抜き工事部分。
3. 褐色(10YR4/4)手抜き工事部分。
4. 黄褐色～にぶい黄褐色(10YR5/6～10YR7/3)黒ボク土少量混。手抜き工事部分。
5. 黄褐色(10YR5/6)礫混じりの地山土。手抜き工事部分。
6. 黒(10YR1.7/1)沢筋の堆積の為、幾層にも積み重なっている。
7. 黒(10YR2/1)旧表土(中世)
8. 暗褐色(10YR3/4)層中に白灰色(7.5YR5/8)及び黄褐色(10YR7/3)の地山粘土と黒ボク土(10YR2/1)が不整合に混じる。

N H = 85.00m

N'



第44図 E区中世の遺構 (E1号土塁)



第45図 E区中世の遺構 (E1・2号溝跡、E1・2号柱穴列、E12号土坑)

E区北西部のE2号平坦地上VH-5j、VI-5aグリッドに位置する3間の柱穴列である。軸方向は北西-南東で平坦地の縁辺と平行する。規模は南側2間が柱間約2m、北側1間が約1.7mで総長約5.7mを測る。東側約1mにはE2号柱穴列が半間ほどずれて平行する。平坦地の縁辺に位置するため柵列跡と思われるが、調査区外の西側に対応する柱が存在して掘立柱建物跡となる可能性も考えられる。柱穴から遺物は出土しなかった。

単位 (m)

柱番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高	埋土	分類
42	略円形	0.43	0.09	0.52	94.74	10 YR2/3	A2
147	略楕円	0.31×0.27	0.18×0.16	0.48	94.82	10 YR2/3	A2
23	略円形	0.34	0.26×0.22	0.17	95.125	10 YR2/3	D
15	略方形	0.38×0.35	0.18	0.37	94.91	10 YR2/3	B

E2号柱穴列 (第45図、写真図版12)

E区北西部のE2号平坦地上VH-5j、VI-5aグリッドに位置する4間の柱穴列である。軸方向は北西-南東で平坦地の縁辺と平行する。規模は南側3間が柱間約2m、北側1間が約1mで総長約7mを測る。西側約1mにはE2号柱穴列が半間ほどずれて平行する。平坦地の縁辺に位置するため柵列跡と思われるが、調査区外の西側に対応する柱が存在して掘立柱建物跡となる可能性も考えられる。その場合北側に庇をもつと思われる。柱穴から遺物は出土しなかった。

単位 (m)

柱番号	概形	開口部径	底径	深さ	底標高	埋土	分類
41	略円形	<0.40>	0.25	0.36	94.70	10 YR2/3	A1
29	略方形	0.50×0.40	0.41×0.30	0.42	94.73	10 YR3/4	A1
20	略方形	0.37×0.32	0.27×0.20	0.30	94.84	10 YR2/3	A1
14	略方形	0.36×0.31	0.18×0.16	0.39	94.74	10 YR2/3	A2
8	略方形	0.29×0.28	0.20×0.20	0.11	95.03	10 YR2/3	A2

E区柱穴群 (付図5)

E区の柱穴はE2号平坦地で形態・配置・規模・深さ等から判断したE1・2号柱穴列を含め49基、E3号平坦地では84基が検出された。各柱穴の計測値は次表の通り、単位はmである。

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱痕	重複	埋土	分類	備考
1	V H6j	方形	0.24×0.21	0.17×0.13	0.16	94.926			10 YR3/3	C	E2平
3	V H6j	略方形	0.21×0.20	0.21×0.16	0.23	94.922			10 YR2/2	C	E2平
7	V H6j	略方形	0.28×0.26	0.19×0.14	0.31	94.918			10 YR2/1	C	E2平
8	V H5j	略方形	0.29×0.28	0.20×0.20	0.11	95.027			10 YR2/3	A2	E2平 E2柱列
9	V H5j	円形	0.30	0.17	0.34	94.713			10 YR2/3	C	E2平 炭化物微
10	V H5j	略円形	0.25	0.21×0.11	0.34	94.588			10 YR2/3	A2	E2平
11	V H5j	方形	0.28×0.26	0.19×0.18	0.14	94.655			10 YR2/3	A1	E2平
12	V H5j	略方形	0.35×0.32	0.18×0.17	0.31	94.696			10 YR2/3	A2	E2平
13	V H5j	略方形	0.36×0.33	0.25×0.23	0.25	94.813			10 YR2/3	A1	E2平 炭化物微
14	V H5j	略方形	0.36×0.31	0.18×0.16	0.39	94.743			10 YR2/3	A2	E2平 E2柱列
15	V H6j	方形	0.38×0.35	0.18×0.17	0.37	94.907			10 YR2/3	B	E2平 E1柱列

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱痕重複	埋土	分類	備考
16	V H6j	略方形	0.27×0.26	0.19×0.19	0.42	94.945		10 YR3/3	C	E2 平
18	V I5a	略方形	0.27×0.25	0.18×0.17	0.28	94.735		10 YR3/3	A2	E2 平
19	V I5a	方形	0.30×0.26	0.22×0.18	0.26	94.867		10 YR2/3	A1	E2 平
20	V I5a	略方形	0.37×0.32	0.27×0.20	0.30	94.845		10 YR2/3	A1	E2 平 E2 柱列 炭化物微
21	V I5a	円形	0.35	0.25×0.21	0.28	94.898		10 YR2/3	A2	E2 平 炭化物微
22	V I6a	略円形	0.28	0.15×0.08	0.34	94.883		10 YR2/3	A2	E2 平
23	V I6a	略円形	0.34	0.26×0.22	0.17	95.125		10 YR2/3	D	E2 平 E1 柱列 炭化物含
24	V I6a	円形	0.33	0.15	0.50	94.798		10 YR2/3	A2	E2 平
25	V I6a	略円形	0.30	0.18	0.47	94.961		10 YR3/4	D	E2 平
26	V I5a	略円形	0.34	0.25×0.18	0.38	94.582		10 YR3/3	A2	E2 平
27	V I5a	略円形	0.23	0.15×0.12	0.40	94.655		10 YR2/3	A2	E2 平 炭化物微
28	V I5a	略方形	0.41×0.35	0.36×0.28	0.35	94.817		10 YR3/3	A1	E2 平
29	V I5a	略方形	0.50×0.40	0.41×0.30	0.42	94.736		10 YR3/4	A1	E2 平 E2 柱列
30	V I6a	略方形	0.24×0.23	0.18×0.16	0.32	95.020		10 YR2/3	B	E2 平
31	V I6a	略円形	0.32	0.19	0.31	95.090		10 YR3/4	B	E2 平
32	V I5a	円形	0.33	0.25	0.37	94.555		10 YR2/3	A2	E2 平
33	V I5a	略方形	0.28×0.26	0.18×0.17	0.58	94.393	古 P32	10 YR2/3	C	E2 平
34	V I5a	略楕円形	0.26×0.22	0.20×0.09	0.39	94.748		10 YR2/3	C	E2 平
35	V I5a	略方形	0.23×0.21	0.15×0.11	0.35	94.674		10 YR3/3	C	E2 平
36	V I5a	略楕円形	0.33×0.27	0.26×0.17	0.35	94.673		10 YR2/3	C	E2 平
37	V I6a	円形	0.28	0.16	0.35	94.927		10 YR2/3	D	E2 平 炭化物微
38	V I6a	略楕円形	0.50×0.38	0.37×0.27	0.35	94.945		10 YR2/3	D	E2 平
39	V I5a	略楕円形	0.33×0.31	0.24×0.21	0.29	94.625		10 YR2/3	A2	E2 平 炭化物微
40	V I5a	略円形	0.40	0.30×0.24	0.46	94.530		10 YR2/3	A2	E2 平
41	V I5a	略円形	<0.40>	0.25	0.36	94.700	古 P40	10 YR2/3	A1	E2 平 E2 柱列
42	V I6a	略円形	0.43	0.09	0.52	94.745		10 YR2/3	A2	E2 平 E1 柱列
43	V I6a	円形	0.24	0.18×0.15	0.19	95.148		10 YR3/4	A2	E2 平 礫多
44	V I5b	円形	0.29	0.13	0.32	94.698		10 YR3/3	A2	E2 平
47	V I6b	略方形	0.24×0.24	0.16×0.16	0.12	95.209		10 YR3/3	C	E2 平 地山土微
51	V I6b	方形	0.28×0.23	0.21×0.17	0.22	95.309		10 YR2/2	C	E2 平
55	V I6c	略方形	0.20×0.20	0.14×0.13	0.17	95.232		10 YR3/3	D	E3 平
56	V I6c	略方形	0.24×0.21	0.15×0.12	0.20	95.311		10 YR3/4	D	E3 平
58	V I6d	略楕円形	0.30×0.26	0.18×0.16	0.24	95.522		10 YR4/4	D	E3 平 黒褐色土混
59	V I6d	楕円形	0.25×0.20	0.17×0.15	0.17	95.579		10 YR3/3	D	E3 平
60	V I6d	略円形	0.23	0.19×0.07	0.25	95.551		10 YR3/4	D	E3 平 炭化物微
61	V I6d	楕円形	0.31×0.25	0.27×0.18	0.25	95.525		10 YR3/4	D	E3 平 炭化物微
62	V I6d	略楕円形	0.30×0.23	0.17×0.15	0.67	95.079		10 YR3/3	B1	E3 平
63	V I7d	略楕円形	0.29×0.26	0.18×0.14	0.35	95.448	0.15	10 YR3/4	C	E3 平 上面礫多
64	V I6d	楕円形	0.34×0.30	0.26×0.22	0.23	95.443		10 YR3/3	B1	E3 平 炭化物微
66	V I6d	略円形	0.25	0.12	0.53	95.017		10 YR3/3	D	E3 平
71	V I6d	略楕円形	0.25×0.24	0.18×0.15	0.15	95.259		10 YR3/4	B1	E3 平
73	V I6d	略方形	0.41×0.34	0.16×0.15	0.52	94.905		10 YR3/3	B1	E3 平
74	V I6e	略楕円形	0.41×0.28	0.20×0.13	0.47	94.787		10 YR2/3	A	E3 平
75	V I6e	不整形	0.29×0.28	0.24×0.16	0.28	94.999		10 YR2/3	A	E3 平
76	V I6e	円形	0.31	0.22	0.32	94.897		10 YR3/3	A	E3 平
77	V I6e	円形	0.30	0.20	0.29	94.956		10 YR3/3	A	E3 平
78	V I6e	円形	0.34	0.18	0.35	94.894		10 YR3/3	A	E3 平
79	V I6e	略方形	0.30×0.27	0.21×0.19	0.44	94.703		10 YR3/3	A	E3 平
82	V I6e	不整形	0.29×0.28	0.20×0.18	0.15	94.995		10 YR3/3	B1	E3 平
83	V I6e	不整形	0.25×0.23	0.21×0.17	0.17	94.909		10 YR3/4	B1	E3 平
85	V I6e	略円形	0.28	0.06	0.25	95.137		10 YR2/3	D	E3 平
86	V I6e	略楕円形	0.22×0.18	0.09×0.08	0.15	95.323		10 YR3/4	D	E3 平
87	V I6e	略楕円形	0.34×0.27	0.16×0.13	0.19	95.310		10 YR2/3	D	E3 平 炭化物少
88	V I6e	略円形	0.26	0.17×0.13	0.11	95.377		10 YR2/3	D	E3 平
89	V I6e	略円形	0.30	0.19	0.17	95.237	0.15	10 YR3/2	C	E3 平 炭化物微
90	V I6e	楕円形	0.25×0.22	0.17×0.14	0.20	95.170		10 YR3/2	D	E3 平
91	V I6e	略円形	0.31	0.23×0.19	0.28	95.104		10 YR3/2	D	E3 平 炭化物微

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱痕	重複	埋土	分類	備考
92	V I6e	略方形	0.33×0.30	0.19×0.18	0.18	95.189			10 YR3/2	D	E3平
93	V I6e	略楕円形	0.27×0.19	0.14×0.11	0.41	94.965			10 YR3/2	D	E3平
94	V I7e	円形	0.21	0.13	0.08	95.379			10 YR2/3	D	E3平 地山土少
95	V I7e	略円形	0.33	0.10	0.77	94.823	0.15		10 YR3/2	B2	E3平
96	V I7e	略円形	0.20	0.09	0.18	95.374			10 YR3/2	D	E3平 炭化物少
97	V I7e	略楕円形	0.33×0.26	0.17×0.15	0.27	95.290			10 YR2/3	D	E3平
98	V I7e	円形	0.19	0.12	0.08	95.481			10 YR2/3	D	E3平
99	V I7e	円形	0.20	0.15	0.34	95.202	0.17		10 YR2/3	C	E3平 地山土微
103	V I7e	楕円形	0.33×0.29	0.23×0.15	0.17	95.440	0.15		10 YR2/3		E3平 炭化物微
105	V I7e	略方形	0.23×0.22	0.15×0.12	0.40	95.210			10 YR3/4	B1	E3平
106	V I7e	略方形	0.31×0.27	0.20×0.16	0.50	95.108	0.18		10 YR3/4		E3平
107	V I7e	略方形	0.24×0.23	0.14×0.14	0.20	95.397			10 YR3/3	B1	E3平
109	V I7f	略円形	0.29	0.17	0.27	95.315			10 YR2/2	D	E3平
111	V I6d	略円形	0.19	0.10	0.23	95.073			10 YR4/4	A	E3平
114	VI I7d	略楕円形	0.33×0.24	0.13×0.11	0.68	94.942			10 YR3/3	B1	E3平 黒褐色土微
115	VI I7d	不整形	0.24×0.18	0.14×0.12	0.14	95.506			10 YR3/4	D	E3平 炭化物微
116	VI I7d	略円形	0.24	0.12×0.09	0.20	95.438			10 YR3/3	B1	E3平
117	VI I7d	楕円形	0.22×0.16	0.17×0.12	0.15	95.474	0.18		10 YR3/3	C	E3平
118	VI I7d	略円形	0.18	0.12	0.18	95.459			10 YR3/3	B1	E3平
119	VI I7d	略楕円形	0.26×0.23	0.15×0.15	0.46	95.316	0.15		10 YR3/3	B2	E3平 炭化物微
120	V I7f	円形	0.16	0.08	0.09	95.262			10 YR3/3	D	E3平
121	V I7f	略円形	0.31	0.21	0.17	95.137			10 YR3/2	D	E3平 炭化物微
122	V I7f	略円形	0.36	0.20	0.32	94.885			10 YR3/3	B1	E3平 炭化物微
124	V I6f	略円形	0.30	0.18	0.21	94.760			10 YR3/3	A	E3平 炭化物少
125	V I7g	略円形	0.27	0.17	0.21	95.070			10 YR3/2	D	E3平
126	V I7g	円形	0.18	0.10	0.25	94.775			10 YR3/3	D	E3平 炭化物微
127	V I7g	略楕円形	0.33×0.28	0.25×0.20	0.16	94.920			10 YR3/3	D	E3平
128	V I7g	略楕円形	0.21×0.20	0.11×0.11	0.12	95.255			10 YR3/4	D	E3平 地山土少
129	V I6g	略楕円形	0.28×0.23	0.18×0.15	0.23	94.354			10 YR2/3	D	E3平
130	V I6g	楕円形	0.37×0.28	0.28×0.21	0.18	94.340			10 YR3/3	D	E3平
131	V I6g	略円形	0.31	0.23	0.26	94.113			10 YR2/3	D	E3平
132	V I6g	略円形	0.26	0.16	0.53	93.745			10 YR3/4	B1	E3平
133	V I6h	略円形	0.28	0.18	0.37	93.305			10 YR4/4	A	E3平
134	V I7f	略楕円形	0.33×0.21	0.14×0.13	0.43	95.190			10 YR3/2	B1	E3平 炭化物微
135	V I7f	略楕円形	0.35×0.26	0.23×0.21	0.36	95.100			10 YR3/3	B1	E3平
136	V I6d	略円形	0.28	0.19×0.16	0.25	95.417	0.15	古P154	10 YR3/4	B2	E3平 炭化物微
137	V I6b	不整形	0.29×0.25	0.18×0.16	0.39	95.211			10 YR3/3	C	E2平
139	V I6b	円形	0.24	0.19	0.38	95.286			10 YR3/2	C	E2平
140	V I6e	円形	0.26	0.19	0.19	95.064			10 YR3/4	B1	E3平 上面小礫多
141	V I6e	略楕円形	0.30×0.24	0.14×0.13	0.21	95.020			10 YR3/4	B1	E3平 上面小礫多
142	V I7f	略楕円形	0.20×0.18	0.13×0.09	0.22	95.097	0.15		10 YR2/3	C	E3平
144	V I6a	不整形	0.23×0.23	0.15×0.14	0.22	95.209			10 YR2/3	C	E2平
145	V I6a	方形	0.22×0.18	0.15×0.14	0.16	95.197			10 YR2/3	C	E2平
147	V I6a	略楕円形	0.31×0.27	0.18×0.16	0.48	94.824			10 YR2/3	A2	E2平 E1柱列
149	V I7d	不整形	0.23×0.20	0.16×0.15	0.32	95.477	0.15		10 YR3/3	B2	E3平
152	V I6e	円形	0.17	0.10	0.08	95.403			10 YR2/3	D	E3平
153	V I6d	略楕円形	0.33×0.30	0.25×0.21	0.41	95.100			10 YR3/3	B1	E3平
154	V I6d	略楕円形	0.38×0.27	0.14×0.14	0.39	95.305			10 YR4/4	A	E3平
155	V H5j	略円形	0.20	0.14×0.11	0.13	95.050			10 YR2/3	C	E2平
156	V I5a	不整形	0.33×0.29	0.22×0.14	0.30	94.205			10 YR4/6		E2平
157	V H6g	略円形	0.36	0.28	0.17	94.378			10 YR2/2	C	E2平
158	V I6f	不整形	0.33×0.29	0.19×0.19	0.35	94.645			10 YR2/2	C	E3平
160	V I6g	略楕円形	0.34×0.28	0.28×0.22	0.18	93.782			10 YR4/4		E3平
161	V I7i	略楕円形	0.24×0.21	0.15×0.13	0.58	94.017			10 YR3/3		E3平
162	V I7j	楕円形	0.32×0.23	0.17×0.12	0.24	94.148			10 YR3/4		E3平
163	V I7i	略円形	0.27	0.23×0.16	0.44	94.017			10 YR3/3		E3平
164	V I7i	楕円形	0.33×0.30	0.25×0.20	0.30	94.126			10 YR3/3		E3平

No	位置	概形	開口部径	底径	深さ	底面標高	柱痕	重複	埋土	分類	備考
165	V I6i	不整形	0.36×0.31	0.17×0.12	0.55	93.211			10 YR3/4		E3 平
166	V I7i	不整形	0.18×0.15	0.11×0.10	0.19	93.725			10 YR2/3		E3 平
167	V I7i	不整形	0.25×0.22	0.16×0.12	0.14	93.773			10 YR2/3		E3 平
168	V I6i	不整形	0.24×0.22	0.18×0.14	0.24	93.579			10 YR2/3		E3 平
169	V I7h	円形	0.25	0.16	0.21	94.099			10 YR4/4		E3 平
170	V I7h	略楕円形	0.37×0.32	0.15×0.15	0.44	93.706			10 YR3/3		E3 平
171	V I7h	略楕円形	0.30×0.20	0.17×0.11	0.23	93.857			10 YR3/3		E3 平
172	V I7h	略円形	0.21	0.12	0.36	93.649			10 YR4/4		E3 平

E2 柱穴 分類記号

- A1 角柱 ϕ 5mm~2cm 前後の地山土が検出面で少量混。
A2 円柱 ϕ 5mm~2cm 前後の地山土が検出面で少量混。
B 円柱 検出面で地山土部分的に多量に見える。(柱痕の確認できた物)
C 円柱 検出面、埋土とも黒ボク土のもの。
D 円柱 検出面で多量の焼土を確認できたもの。

F 区の遺構

F 区は城域内、生城寺館（III郭）の南方低位部の区画に属する。この区画は現況で南西側が堀（E 2号堀跡）、南東側が切岸（段丘崖）、北側が土塁および切岸で囲まれた台形様の範囲で、数段の腰曲輪が確認されている。F 区はこの南西部にあたり、城域南端に張り出した最低位の平坦地である。調査区東側は区画を東西に分断する現道で、調査区北側は土取りにより破壊されている。平坦地の層序は表土（黒ボク土 10~30 cm）下は地山あるいは基盤の砂礫層となっていたが、部分的に攪乱土が見受けられたことから一部現道工事もしくは土取りの影響を受けているものと思われ、旧状は現況とは幾分異なった可能性もある。検出された遺構は平坦地（横矢柵形・腰曲輪）3カ所、堀跡1条、道路状遺構1基、土塁1基である。

F 6号平坦地〈横矢柵形〉（付図3）

北および西側に屈曲するE 2号堀跡、南東にF 1号道路状遺構とF 3号土塁があり、これらの接続している塁面の側防のため、曲輪の隅を方形様に張り出した所謂横矢柵形の曲輪である。北東部が土取りされているため曲輪の連絡は不明であるが、位置と状況から北側ではF 7号平坦地と連結するものと思われる。調査区外も含めた現状では、平面形は旧地形の制約を受け南側がやや不整で狭くなるが概ね長方形、規模は東西約12 m、南北約33 m、推定面積約330 m²を測り、標高は北-南に82.5~81 mである。普請は削平による整地造成であるが、調査区外となる南西1/4程の範囲は稜の不明瞭な段差の緩傾斜で、わずかに低くなっていることから、整地がなされていないかもしれない。精査した残存部の層序は、表土（黒ボク土 20 cm）下が整地面（地山）となり、土取り際には表土上に攪乱盛土が乗ることから後世の人工改変は行われていないものと思われる。曲輪の機能によるためか調査地内では作事の痕跡は認められなかった。

F 7号平坦地〈腰曲輪〉（付図3）

西側にF 1号道路状遺構、南側にF 4号堀跡があるが、東側は現道工事の掘削、北側は土取りによって破壊され、全体的な旧状と機能は不明である。現存する範囲での平面形はおおよそ長

方形、現状での規模は東西6~7m、南北約24mを測り、標高は北-南に81.2~79m程である。普請は削平による整地造成である。精査した残存部での層序は表土(地山混じりの攪乱土10cm)下が基盤砂礫層(整地面?)となり、F4号堀跡東端の遺存状況と現道東側の曲輪との比高からして、現道部分はほとんどが切岸であったと推定されることから、現状の平坦地も部分的に工事の掘削による影響を受けているものと思われる。調査地内では作事の痕跡は認められなかった。周辺の現況地形から見られる縄張りでの位置関係と作事地形の痕跡が確認されなかったこと、そして先記のとおりE2号堀跡とE1号土塁による構造が偽虎口であったことから、F1号道路状遺構が搦手口に関連するものと推定され、その場合この平坦地は武者溜の曲輪である可能性が考えられる。

F8号平坦地(付図3)

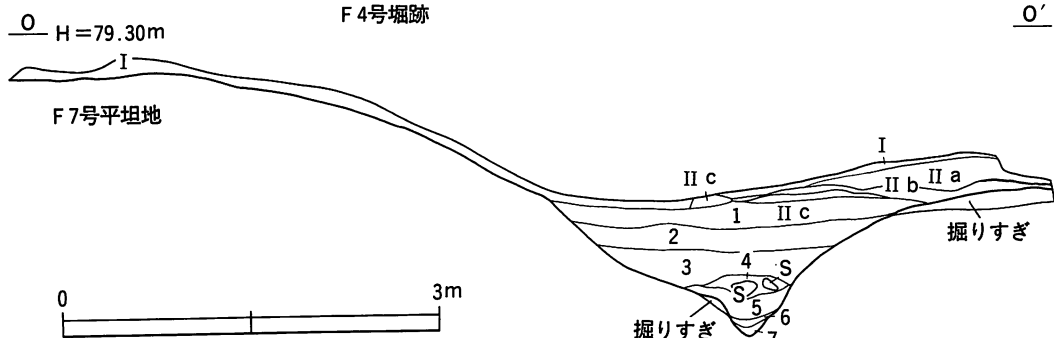
北側にF4号堀跡、西側はE2号堀跡に続く切岸状の急傾斜となっているが、東側の大半が現道工事の掘削により消失し、遺存する範囲が狭いため、平面形・規模等の旧状は不明である。層序はF7号平坦地と同様であり、現況での平坦地(標高70m前後)は明確な平場を形成しておらず、位置関係およびF4号堀跡東端の遺存状況と現道東側曲輪との比高から、現道部分はほとんどが傾斜面であったと推定され、現状平坦地も工事の影響を受けたためとも思われる。

F4号堀跡(第46図、付図3)

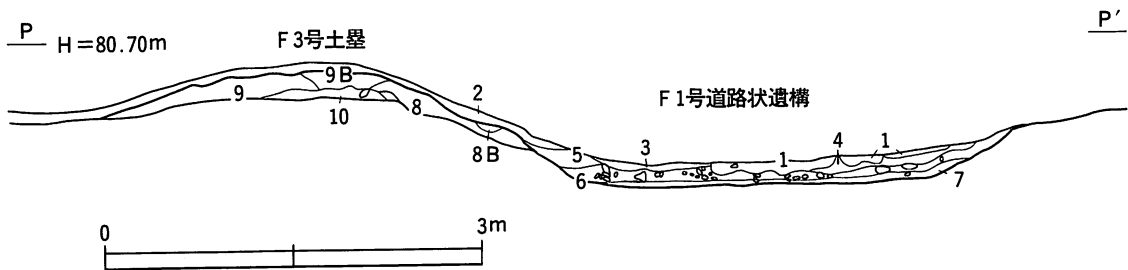
F区中央やや南よりVL-4g・h、5g・hグリッドに位置し、調査区を横断して北東-南西に走行する空堀である。東側は現道工事の掘削により消失し、西側の調査区外では現況で確認できないため全容は不明であるが、縄張りの位置関係からみて西側はE2号堀跡に達し、現道を挟んで東側にはこれに続くと思われる堀跡が確認されている。検出できた範囲での規模は長さ約8m、実効堀幅約5m、北壁実効法高約4m、南壁実効法高約1.6m、垂直壘壁高約1.9m、外壁垂直高約1mを測る葉研堀である。北壁上位はやや外傾して傾斜が緩く、堀底は西側に下り勾配で高低差約1.3mを測る。「く」の字に屈曲すると思われる推定総延長は約60mとなる。埋土は上位に現道工事の盛土、中位には黄褐色系土が厚く、下位に灰黄褐色土が堆積する。底面が均一でないことと下位がグライ化していることから、沢筋を利用した排水機能を持つと思われる。遺物は埋土中位で須恵器杯の破片が1点と最下層で青磁破片が1点出土した。

F1号道路状遺構(第46図、付図3、写真図版13)

F区中央西よりVL-5b・cグリッドに位置し、北々西-南々東に伸び、西側にはF3号土塁を伴う。当初、現況から堀跡と考えていたものだが、掘り上がりの形態および周辺の縄張りとの位置関係からみて道路状遺構と判断したものである。南側は現況でE2号堀跡に達するのが確認されたが、北側は土取りにより消失し、遺存する北端部も土取りの影響を受けていると思われる。確認できた範囲では、F6・7号平坦地を区切るように直線的な溝状に掘り込まれ、南



- I. 黒褐色(10YR2/3)しまり無、粘性有。毛根多量、表土。
- IIa. 褐色(10YR4/6)しまり無、粘性有。毛根多量、表土。
- IIb. 黒褐色(10YR3/2)しまりにやや欠け、粘性有。
- IIc. 黄褐色(10YR5/6)しまり有、粘性有。
- 1. 褐色(10YR4/4)しまり有、粘性有。
- 2. におい黄褐色(10YR4/3)しまり極めて有、粘性有。炭化物、小礫微量含む。
- 3. におい黄褐色(10YR5/3)しまり極めて有、粘性有。砂粒少量混じる。炭化物、小礫共に2層より多い。
- 4. 灰黄褐色・黄褐色(10YR5/2・10YR5/8)しまり極めて有、粘性有。砂粒、礫混じる。
- 5. 黄灰色(2.5Y5/1)しまり極めて有、粘性有。小礫少量混じる。
- 6. 灰黄褐色・黄褐色(2.5Y7/2・10YR5/6)しまり極めて有、粘性無。砂質。
- 7. 灰黄褐色・黄褐色(2.5Y7/2・10YR5/6)しまり極めて有、粘性無。礫が多い。



- 1. 暗褐色(10YR3/3)しまり無、粘性有。毛根多量。
- 2. 暗褐色(10YR3/4)しまり無、粘性有。毛根多量、表土。
- 3. 褐色(10YR4/4)しまり有、粘性無。やや砂質。
- 4. におい黄褐色(10YR5/4)しまりにやや欠け、粘性無。酸化鉄分を少量含む。
- 5. 褐色(10YR4/6)しまりやや有、粘性有。小礫少量含む。土塁の崩落土。
- 6. におい黄褐色(10YR4/3)しまり有、粘性有。酸化鉄分を微量含み、小礫多量に混じる。
- 7. におい黄褐色(10YR4/3)しまり極めて有、粘性やや有。やや砂質。φ5mm前後の黒色粒が全体に混じる。
- 8. 褐色(10YR4/6)しまり有、粘性有。地山(黒沢尻火山灰層)
- 8B. 8層が毛根による攪乱を受けた箇所。
- 9. 褐色(10YR4/4)しまり有、粘性有。地山(黒沢尻火山灰層)
- 9B. 9層が毛根による攪乱を受けた箇所。
- 10. におい黄色(2.5Y6/4)しまり極めて有、粘性有。小礫多量に混じる。礫混じりの基盤層。

第46図 F区中世の遺構 (F4号堀跡、F1号道路状遺構、F3号土塁)

側城域外に向かって緩い下がり勾配となっている。精査した範囲での規模は、長さ約12m(北-南高低差約1m)、土塁も含めた上端幅5~6m、底幅約2mである。深さは最も土塁の状態が良いラインで西壁実効法高約1.8m、東壁実効法高約0.7m、垂直高約1mを測り、勾配に従って北に浅く南に深くなる。現況で確認される総延長は約23mとなる。埋土は黒ボク表土以下が10cm程の厚さの黄褐色系土で全体的に小礫が多量に混じり、下位は幾分グライ化していた。周囲の曲輪配置からみて土取り部分が虎口となり搦手門が位置したと推定され、E2号堀跡には筋違橋がかけられたものと思われる。遺物は青白磁破片が1点出土した。

F3号土塁 (第46図、付図3、写真図版13)

F区中央西よりVL-5・6bグリッドに位置し、F1号道路状遺構に伴って北々西-南々東に伸びる。調査区外も含め現況で確認できた長さは約10m、基底幅約3m、上幅約1m、高さ0.3~0.5mである。普請は周囲(F6号平坦地・F1号道路状遺構)を掘り下げて造りだしてあった。調査区内では土取りとその影響で遺存状況は極めて悪く、精査した範囲では土塁上に柱穴等は検出されなかった。

4. 時期不明の遺構 (第20・47~49図)

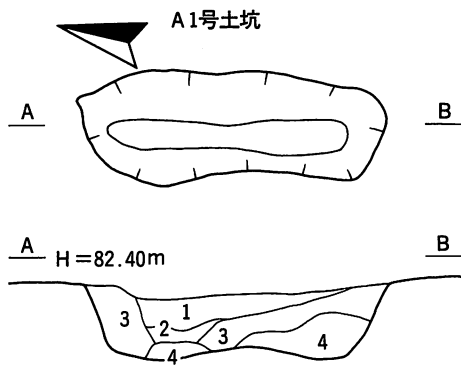
遺物が出土せず、単独で検出されたため時期の特定できなかった遺構は、A区の土坑5基、溝跡6条、B区の土坑1基、D区の土坑5基、E区の土坑1基である。各遺構の形態・規模は以下の通り、単位はmである。

土坑

番号	位置	平面形	開口部	底部	深さ	番号	位置	平面形	開口部	底部	深さ
A1	A区I A-8i	溝状	1.60×0.51	1.22×0.21	0.38	D1	D区V H-4e	不整形	1.18×0.98	1.06×0.74	0.18
A2	A区II B-4I	不明	1.60×?	1.45×?	0.41	D2	D区IV H-10h	楕円形	1.00×0.68	0.54×0.38	0.18
A3	A区II B-4j	楕円形	2.29×1.78	2.16×1.86	0.81	D3	D区V H-3f	楕円形	0.74×0.44	0.64×0.24	0.11
A4	A区II B-4j	不明	1.80×?	1.04×?	0.32	D6	D区V H-3f	略楕円	0.78×0.44	0.44×0.30	0.10
A5	A区II C-4a	略方形	3.24×2.36	2.68×1.94	0.42	D7	D区V H-3i	楕円形	2.06×1.26	0.50×0.30	0.70
B1	B区IV E-4g	不整形	4.20×3.20	2.78×1.32	0.38	E13	E区V I-7j	不整形	0.86×0.70	0.48×0.38	0.22

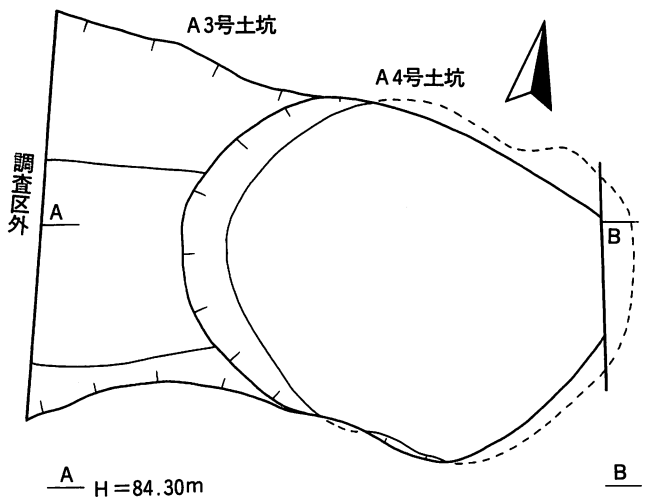
溝跡

番号	位置	長さ	幅	深さ	重複	番号	位置	長さ	幅	深さ	重複	番号	位置	長さ	幅	深さ	重複
A1	A区北側	8.60	0.20	0.09		A3	A区北側	19.6	0.40	0.10	4、A1土坑	A5	A区中央	5.00	4.90	0.50	
A2	A区北側	9.00	0.43	0.05		A4	A区北側	2.6+	0.76	0.11	3	A6	A区南側	4.70	1.20	0.15	A4・5土坑

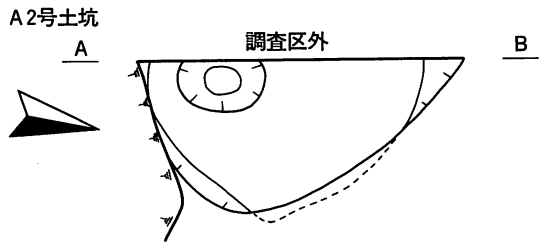
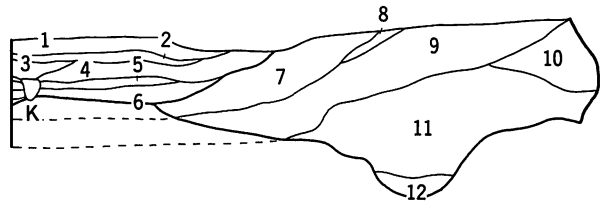


- 1. 黒褐色(10YR3/2)シルト。炭化物わずかと褐色土ブロック含
- 2. 暗褐色(10YR3/4)シルト。
- 3. 褐色(10YR4/4)しまり有、シルト。汚れた火山灰(ローム)
- 4. 褐色(10YR4/6)しまり有、シルト。汚れた火山灰(ローム)

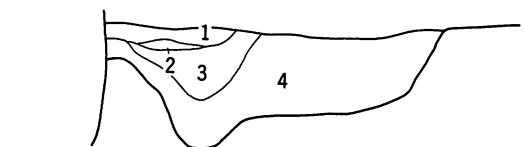
- 1. 暗褐(10YR3/3)堅くしまる。木炭小片微
- 2. 暗褐(10YR3/3)堅くしまる。黒色土少
- 3. 褐(10YR4/4)堅くしまる。
- 4. 暗褐(10YR3/3)堅くしまる。地山小ブロック、木炭片混
- 5. におい黄褐(10YR5/3)しまり無。木炭片微、砂層
- 6. におい黄褐(10YR5/4)しまり無。砂混
- 7. 黄褐(10YR5/6)堅くしまる。地山多量混、人為堆積
- 8. 明黄褐(10YR6/8)堅くしまる。灰白色粘土混、人為堆積
- 9. 褐(10YR4/4)堅くしまる。混入物殆ど無、自然堆積
- 10. 暗褐(10YR3/3)ややしまり無。地山塊混、人為堆積層
- 11. 褐色(10YR4/6)ややしまり無。暗褐土・軽石多量混、人為堆積層
- 12. 黄褐色(10YR5/8)しまり無



A H=84.30m

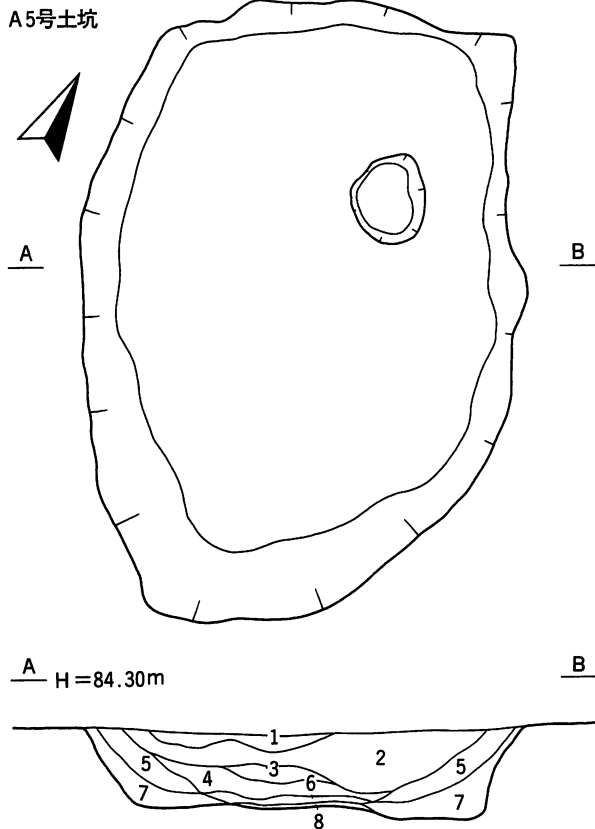


A H=83.90m

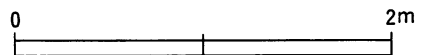


- 1. 灰黄褐(10YR4/2)堅くしまる。
- 2. におい黄褐(10YR5/2)堅くしまる。粘土
- 3. 灰黄褐(10YR4/2)堅くしまる。地山ブロック少
- 4. 黄褐(10YR5/8)地山で埋め戻された土

- 1. 暗褐(10YR3/3)堅くしまる。
- 2. 暗褐(10YR3/3)堅くしまる。地山小ブロック少
- 3. 褐(10YR4/4)堅くしまる。
- 4. 褐(10YR4/4)ややしまり無。木炭片微量混
- 5. 暗褐(10YR3/3)しまり無。黒色土多量混。砂質
- 6. におい黄褐(10YR5/3)しまり無。砂層。黒土少、水性堆積
- 7. 黄褐(10YR5/8)しまり有。地山ブロック混。崩落層
- 8. 灰白(10YR7/1)粘土、地山

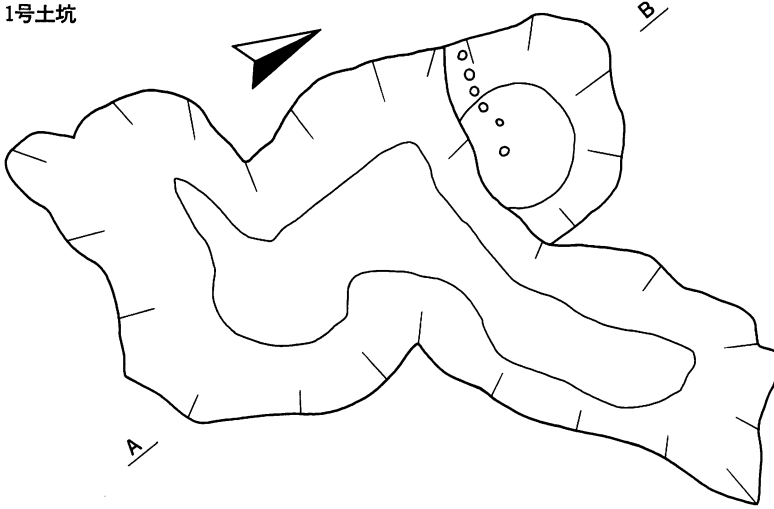


A H=84.30m

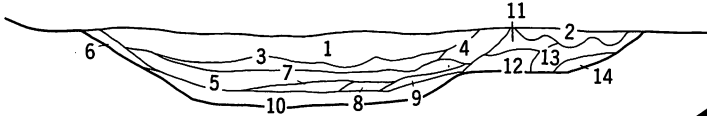


第47図 時期不明の遺構(1)

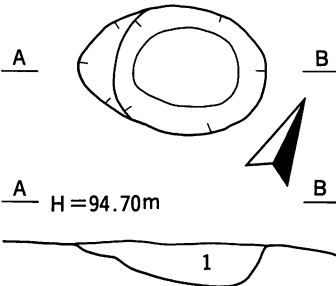
B1号土坑



A H=98.20m



1. 黒褐(10YR2/2)堅くしまる。地山極少
2. 黒(10YR2/1)堅くしまる。地山ブロック多
3. 黒褐(10YR2/2)ややしまり無
4. 黒褐(10YR3/2)堅くしまる。地山ブロック、褐灰粘土多
5. 褐灰(10YR4/1)ややしまり無
6. 黒褐(10YR2/2)堅くしまる。地山少
7. 褐灰(10YR4/1)ややしまり無、シルト
8. 黒褐(10YR2/2)ややしまり無、シルト
9. 黒褐(10YR2/2)ややしまり無、褐灰土少
10. 黒褐(10YR2/2)ややしまり無、シルト。地山極少
11. 黒(10YR2/1)堅くしまる。混入物殆ど無
12. 黒(10YR2/1)ややしまり無。地山極少
13. 黒(10YR2/1)堅くしまる。地山ブロック少
14. 黒(10YR2/1)堅くしまる。地山ブロック多

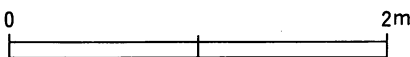


D2号土坑

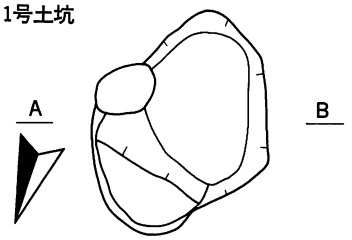
A H=94.70m



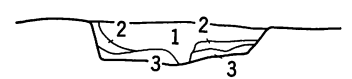
1. 黒褐(10YR2/2)しまりやや有、シルト。礫(10cm以下)・黄褐土の小石・黄褐土粒わずかに含。



D1号土坑

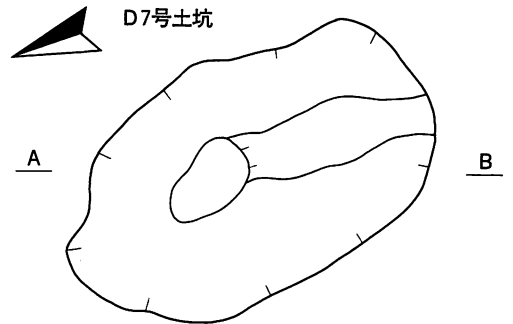


A H=96.90m

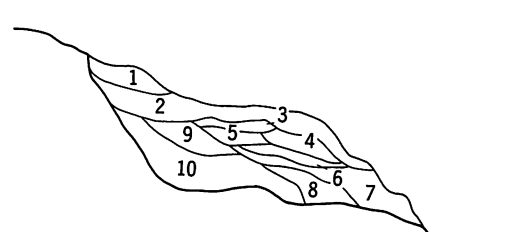


1. 黒褐(10YR3/2)しまり有、粘性やや有。礫・黄褐土塊状に微混
2. 褐(10YR4/4)しまり有、粘性やや有。黄褐土ブロック状に混
3. 明黄褐(10YR6/6)しまり有、粘性やや有。礫・砂粒含

D7号土坑

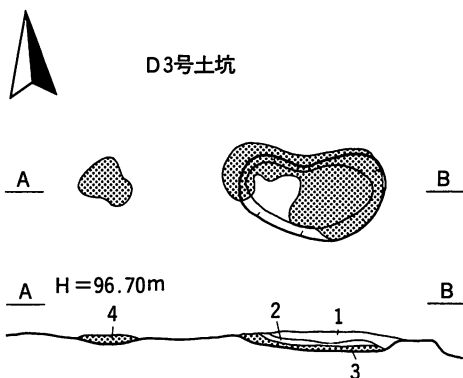


A H=93.80m

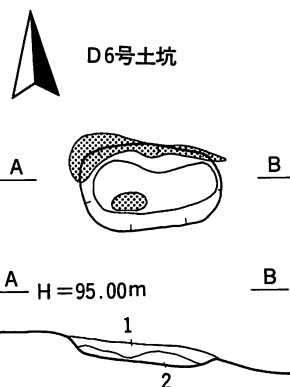


1. 暗褐(10YR3/3)しまり極有、粘性欠。炭少、黄褐色粒微、酸化鉄混、砂質
2. 黒褐(10YR3/2)しまり極有、粘性有。炭少、黄褐色粒微、酸化鉄混、砂質
3. 黒褐(10YR3/2)しまり極有、粘性有。小礫多
4. 黒褐(10YR3/2)しまり極有、粘性有。4よりやや大きい石混
5. 黒褐(10YR3/2)しまり極有、粘性有。黄褐粒微、酸化鉄、砂質
6. 黒褐(10YR3/2)しまり極有、粘性有。小礫多
7. 黒褐(10YR3/2)しまり極有、粘性無。砂質
8. 黒(10YR2/1)しまり、粘性有。やや砂質
9. 黒褐(10YR3/2)しまり極有、粘性有。4よりやや大きい石混
10. 黒(10YR2/1)しまり有、粘性有。礫多

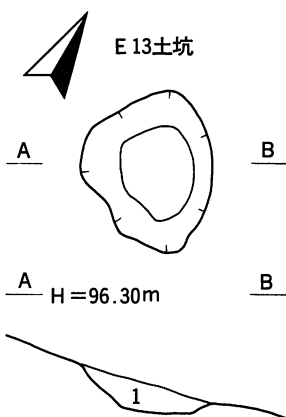
第48図 時期不明の遺構(2)



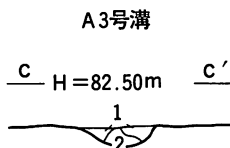
1. 暗褐(10YR3/4)しまり有、粘性無、シルト。粘土塊含む
2. 黒褐(10YR2/2)しまりやや有、粘性無、シルト。炭多、焼土含
3. 明赤褐(5YR5/8)焼土、堅く焼きしまる。
4. 明赤褐(7.5YR5/6)焼土、堅く焼きしまる。



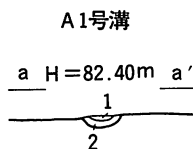
1. 黒褐(10YR3/2)しまり有、粘性無。粘土塊含む、赤褐粒含
2. 黒褐(10YR2/2)しまり有、粘性やや有。炭多、焼土粒含



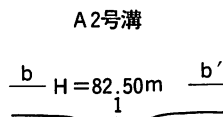
1. 暗褐色(10YR3/4)しまり極有、粘性有。小礫少、地山粒微



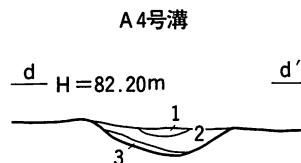
1. 黒褐(10YR2/3)堅くしまる。
2. 暗褐(10YR3/4)堅くしまる。地山小ブロック多



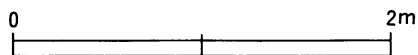
1. 黒褐(10YR2/3)堅くしまる。
地山ブロック少
2. 暗褐(10YR3/4)ややしまり無。
地山シルト少



1. 黒褐(10YR2/3)堅くしまる。
地山ブロック少



1. 黒褐(10YR2/3)堅くしまる。地山小ブロック少
2. 暗褐(10YR3/4)堅くしまる。地山小ブロック極少
3. 暗褐色(10YR3/4)堅くしまる。地山小ブロック多



第49図 時期不明の遺構(3)

V 中世の遺物

当遺跡から出土した中世に属する遺物には陶磁器類 543 点、石製品 27 点、貨幣を含む金属製品 59 点、木製品 13 点などがあり、本遺跡調査区の中枢部をなす C 区から集中的に出土している。しかし、ほとんどのものが破片として出土しており完形品は非常に少ないため、固体数の掌握は難しい。

1. 陶磁器

1) 国内産陶器

国産の陶器は 230 点出土している。その内訳は瀬戸・美濃系灰釉陶器 68 点 (29.6%)、同系鉄釉陶器 25 点 (10.9%)、常滑系陶器 45 点 (19.6%)、その他の国産陶器 4 点 (1.7%)、瓦質陶器 5 点 (2.2%)、かわらけ 83 点 (36.1%) であり、中世に属する陶磁器類出土総数の 42.4% を国内産の陶器が占める。これらの中には小破片のため図示できないものも多数含まれる。以下に種類ごとに分類し、器種ごとにその概略を述べる。

(1) 瀬戸・美濃系灰釉陶器

破片数で 68 点出土している。C 区から集中的に出土しており 94.1% を占める。この中には丸皿 65 点、碗 1 点、瓶子 1 点、卸し皿 1 点が含まれる。

a 丸皿 (表 1、第 50 図、写真図版 14・28)

本遺跡出土の瀬戸・美濃系灰釉陶器の 95.6% を占める。いずれも破片であるが、部位の内訳は口縁部 20 点、体部 35 点、底部 10 点である。本遺跡調査区の居住区域である C 区 1 号平場からの出土が 50 点と圧倒的に多い。

口縁部をみると、端部が外反するもの (17・42・60) と直線的に外傾するもの (16・30・40・56・64) の 2 種類に分類できる。いずれも底部外面には断面台形の低い輪高台が付き、体部は高台脇から外傾する。また、外底にはいずれも輪トチンの跡が付着し (35・36)、重ね焼きされた状況を示している。底部内面に印花文を付すものが 1 点 (36) みられる。釉は、内外面とも全面施釉されており、色調は緑色～淡い褐色までばらつきがあるものの、いずれも貫入が入る半透明なガラス質である。

器形や技法から、いずれも大窯 I 期から大窯 II 期にかけての特徴を示しており、15 世紀末から 16 世紀後半にかけての製品である。

b 碗 (表 1、第 50 図、写真図版 14)

C 区 1 号平場で表土中から 1 点 (63) 出土している。内湾する体下部破片で器厚は 9 mm と厚い。釉調は、褐色味のある淡い緑色で貫入の入る半透明なガラス質である。

形態からみて 16 世紀後半の大窯 III 期に属する製品と考えられる。

c 瓶子 (表1、第50図、写真図版14)

E区4号堀切岸表土中から1点(67)出土している。肩部の破片で器厚は1.2cmを計る。外面には菊の印花文が付されており、釉は薄い褐色味のある淡緑色である。

器形と文様から、14世紀初め頃の古瀬戸の製品と考えられる。

d 卸し皿 (表1、写真図版28)

C区1号平場門跡付近から1点(68)出土している。約1cm四方の底部の小破片のため全体像は不明であるが、内面に3本の交差する刻み目をもつため卸し皿と判断した。釉は淡い緑色である。

(2) 瀬戸・美濃系鉄釉陶器

破片数で25点出土している。C区からの出土が84%と多数を占める。この中には天目茶碗24点、天目台1点が含まれる。

a 天目茶碗 (表2、第51図、写真図版14・28)

本遺跡出土の瀬戸・美濃系鉄釉陶器の96%を占める。いずれも破片であるが、部位の内訳は口縁部8点、体部15点、底部1点である。これらはC区1号平場及び1～3号堀とほぼC区全域から出土している。

口縁部破片からみると、口縁端部がゆるく外反するもの(2・12・15・23)とやや強く外反するもの(17)、そして口縁端部が肩部から直線的に立ち上がるもの(11・21)の3種類がみられる。体部破片では、体下部が露胎のもの(11)と化粧がけされているもの(4・16)の2種類がある。釉は、口縁部が薄く体部に向かって厚くなり、下端に釉溜のみられるもの(9)もある。釉調は黒又は黒褐色のものが多いが、均一に薄く褐色の釉がかけられているものもみられる。

本遺跡出土の天目茶碗は器形や技法から、大窯I期から大窯III期(15世紀末から16世紀後半)にかけての製品と考えられる。特に大窯III期(16世紀後半)のものが多いのが特徴である。

b 天目台 (表2、第51図、写真図版14)

C区2号平場から1点(25)出土している。外底は削り出した内反り高台で、底部から高台脇までは露胎である。高台脇端部から体部にかけてはほぼ黒色の釉が全面施釉されているが、釉は二次火熱を受けて火脹れがみられる。特殊な製品ではあるが、器形や胎土から15世紀後半の瀬戸産の製品と考えられる。

(3) 常滑系陶器

45点の破片が出土している。C区から集中的に出土しており91.1%を占める。この中には甕32点、壺13点が含まれる。

a 甕 (表3、第52図、写真図版15・29～32)

甕32点はいずれも器厚が1cmを超える大甕の破片と考えられるが、内訳は口縁部2点、肩部8点、体部22点である。これらはC区から集中的に出土しているが、その中でも45.6%が堀

や切岸からの出土である。

口縁部が残る2点(6・25)のつくりをみると、口縁部が外方へ捻り返されて幅約4.0cm、厚さ約2.5cmの玉縁状を示す。これらはいずれもくすんだ茶褐色の釉が薄くかけられている。また、内外面には撫で調整痕を残す。14は底部から体下部にかけての破片であるが、外面の底部からの立ち上がりに削り調整がみられる。これもくすんだ茶褐色の釉が薄くかけられている。体部破片(29・30)にはいずれも外面に光沢のある茶色の釉がかけられており、押印文がみられる。胎土は、甕全体的に砂粒が多量に混入しており粗い。

製作年代については、口縁部形態から16世紀初めから16世紀中頃にかけてと考えられる。

b 壺(表3、写真図版31・32)

13点の内訳は肩部5点、体部8点である。これらは甕同様C区から集中的に出土している。甕に比べ小破片が多いが、いずれも外面に光沢のある茶色の釉がかけられている。中に2点(33・34)内面にロクロ目を残すものがみられる。

甕と共伴していることから同時期の製品と考えられる。

(4) その他国産陶器

上述した以外の国産陶器としては4点出土しているが、この中には播り鉢1点、甕2点、壺1点が含まれる。

a 播り鉢(表4、写真図版33)

C区3号堀埋土中から底部破片が1点出土している。小破片のため全体像は不明であるが、内面に並行沈線が付されている。焼成は非常に良好で、濃い灰色の色調を示す。内外面とも無釉である。時期的には15世紀から16世紀の製品と考えられ、産地は不明であるが北陸系と推定される。

b 甕(表4、写真図版33)

2点出土している。いずれも体部小破片であり全体像は不明であるが、3は胎土・釉調から16世紀頃の信楽焼の破片と考えられる。

c 壺(表4、写真図版33)

E区から1点出土している。肩部の小破片で全体像は不明である。

(5) 瓦質陶器

瓦質陶器が5点出土しているがC区から3点、F区から2点出土している。この中には火鉢1点、香炉2点、器種不明なもの2点が含まれる。

a 火鉢(表5、第52図、写真図版15)

C区平場柱穴埋土から体部破片が1点出土している。全体像は不明であるが、外面には炭素が吸着しており、格子状の突帯文をもつ。胎土は灰黄色の軟質である。生産地は不明であるが、時期的には15・16世紀のものと考えられる。

b 香炉 (表 5、第 52 図、写真図版 15)

C区平場から 2 点出土している。2 は体部破片で、外面には押印された渦巻き文と雷文をもつ。胎土は淡い黄色で軟質である。3 は脚部から底部にかけての破片である。全体像は不明であるが、外面に炭素が吸着しており、胎土は褐灰色で軟質である。いずれも産地は不明であるが、時期的には 15・16 世紀のものと考えられる。

(6) かわらけ

83 点出土している。これらは C 区からの出土が 92.8%、D 区からの出土が 7.2% と居住区域の C 区から集中的に出土しているのが大きな特徴である。個体数については 65 点以上と推定できる。破片を含めいずれもロクロ成形されたもので、手捏ねのものは 1 点もみられない。口径及び底径から坏と小皿の 2 種類に分類した。

成形技法や形態から考えて、いずれも時期的には 15～16 世紀に属するものであろう。

a 坏 (表 6、第 53 図、写真図版 15・33)

12 点出土しているが、11 点が C 区からの出土である。内訳は、底部から体部あるいは口縁部までを残すものが 9 点、体部 2 点、口縁部 1 点である。

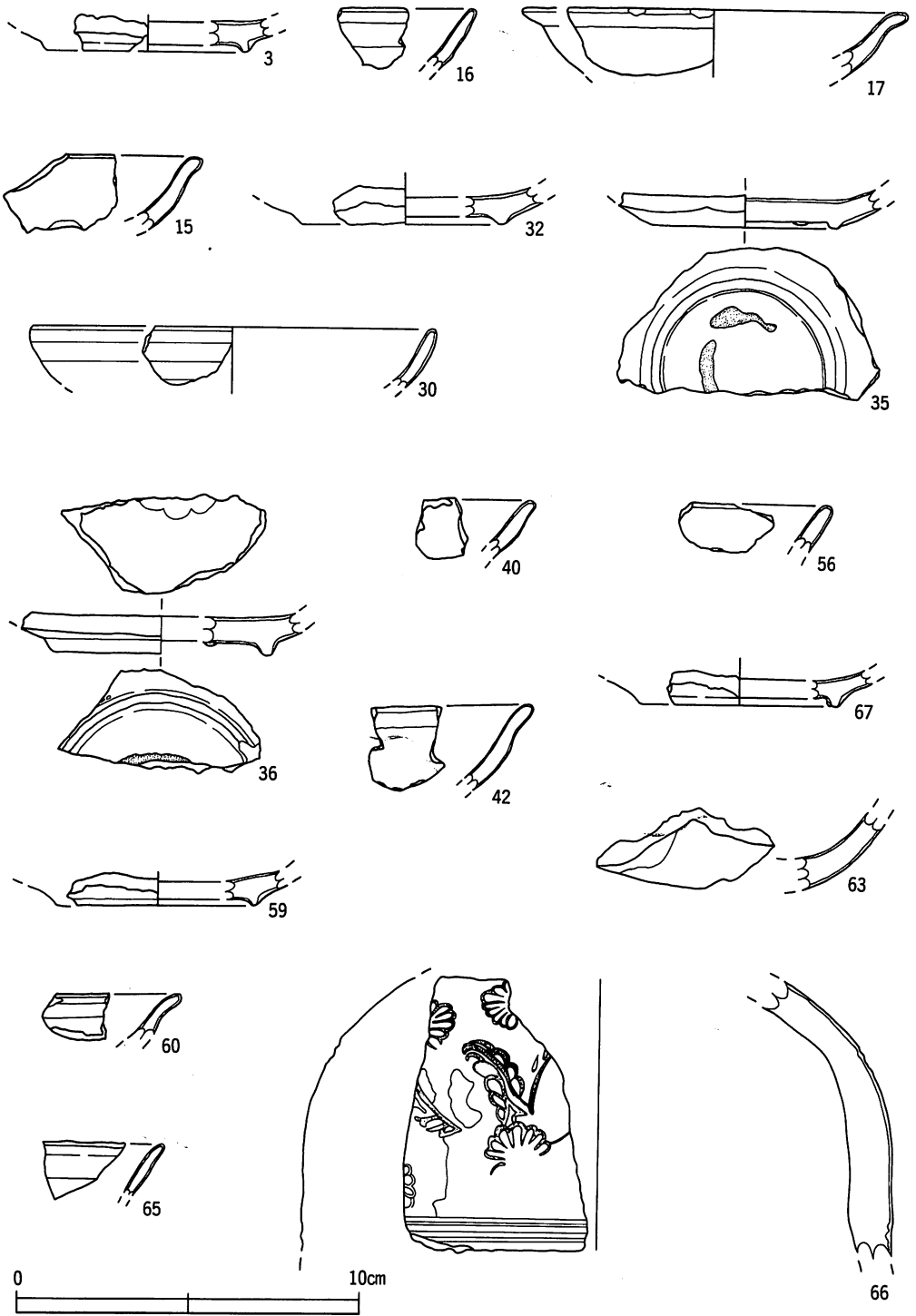
底部の形態からみると、底部が高台気味につくられており、ロクロ成形の回転糸切痕が調整されている。体部に比べ、底部中央部の器厚が 5～7 mm 前後と薄いのも特徴である。しかし、体部の厚さは体中央部まで厚みをもってつくられるもの (1・2) と、体下部から口縁部まで非常に薄くつくられるもの (12) の 2 種類がある。坏に分類した 11 のみが回転糸切り痕を残しているが、破片のため全体像が不明であり大きめの小皿に分類されるものかもしれない。胎土はいずれもやや粗く雲母を多量に含んでいる。

b 小皿 (表 6、第 53 図、写真図版 15・33・34)

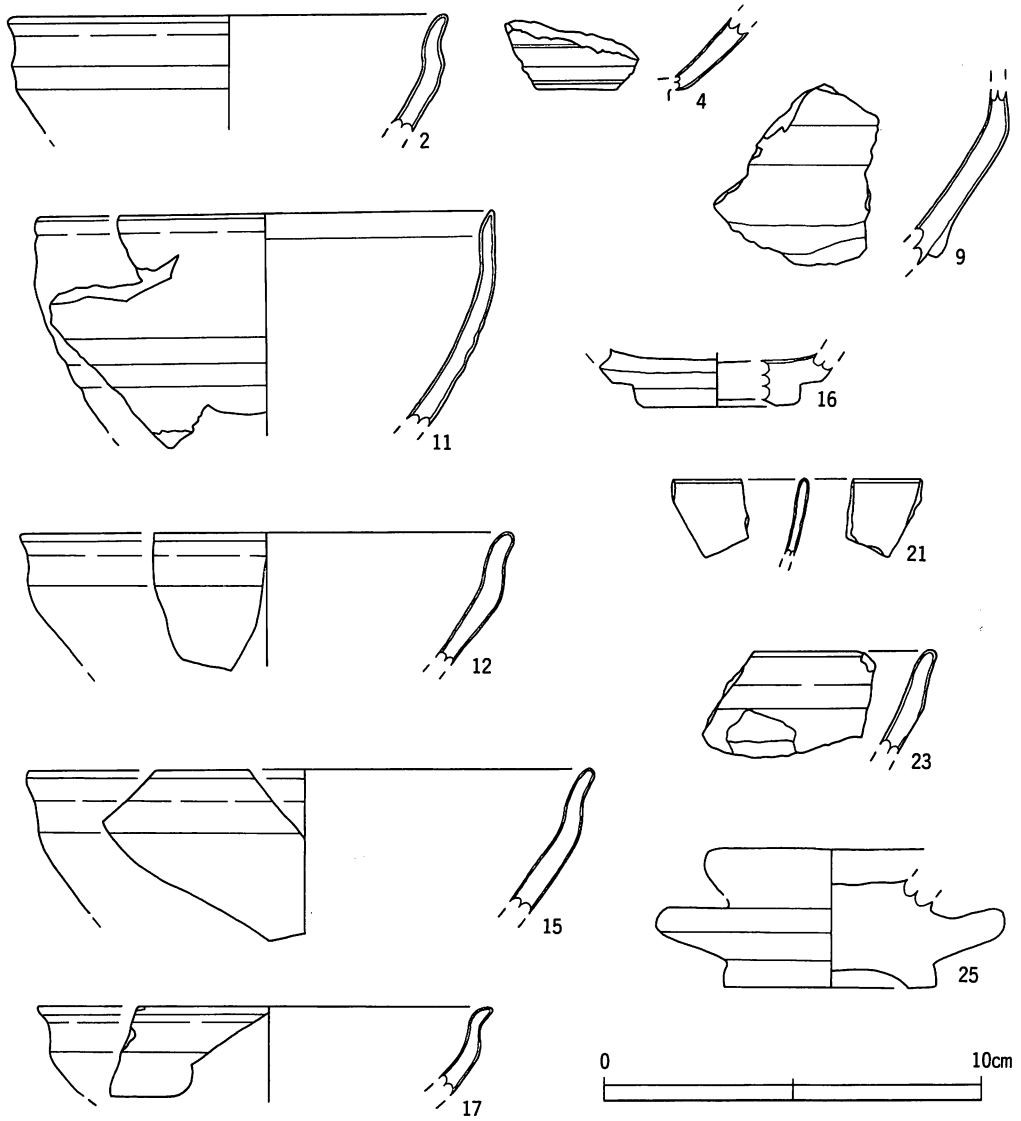
71 点出土している。C 区からの出土が 90.1% であり、坏同様居住区域から集中的に出土している。内訳は、底部から体部あるいは口縁部まで残るもの 57 点、口縁部のみ、あるいは口縁部から体部まで残るもの 12 点、体部 2 点である。

底部から口縁部にかけてのつくりをみると、外面については底部から口縁部まで直線的に外傾してつくられるもの (24・37・72) と口縁端部がやや内湾気味につくられるもの (15・43・44・58・64・71)、口縁端部がやや外反するもの (81) の 3 種類がみられる。内面については、ほぼ直線的に口縁部までつくられるもの (15・43・58・72) と内湾しながら口縁部までつくられるもの (24・44・64・71) の 2 種類がある。

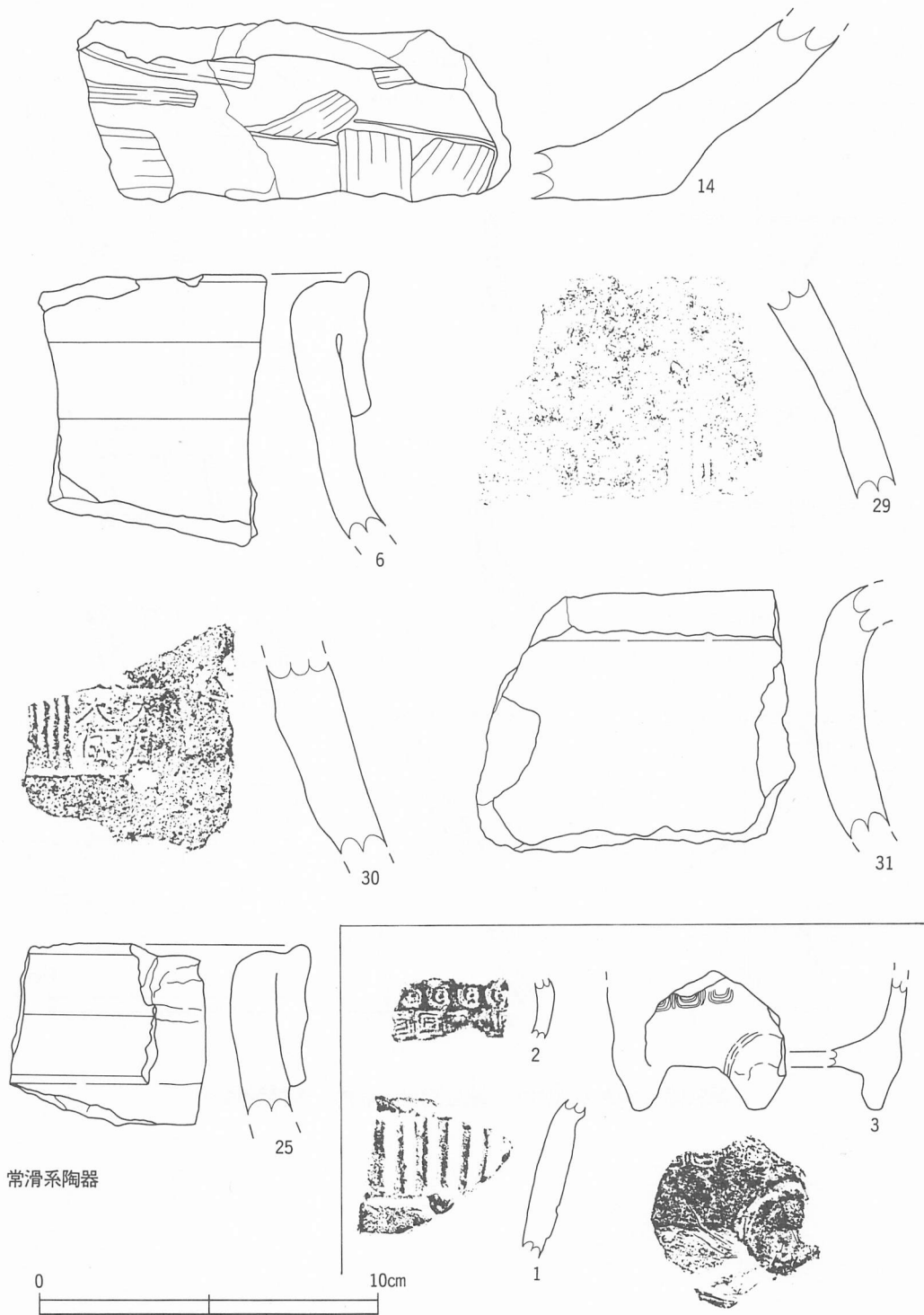
口径の法量値をみると、8 cm～9 cm 台のものが 10 点、10 cm 以上のものが 12 点と大きく 2 種類に分類できる。成形はいずれもロクロ成形で底部に回転糸切痕を残すが、2 点 (24・61) をのぞきすべて無調整である。胎土は坏同様雲母を多く含むが、坏に比べて密である。



第50図 中世の遺物 1 (国産陶器—瀬戸・美濃灰釉—)

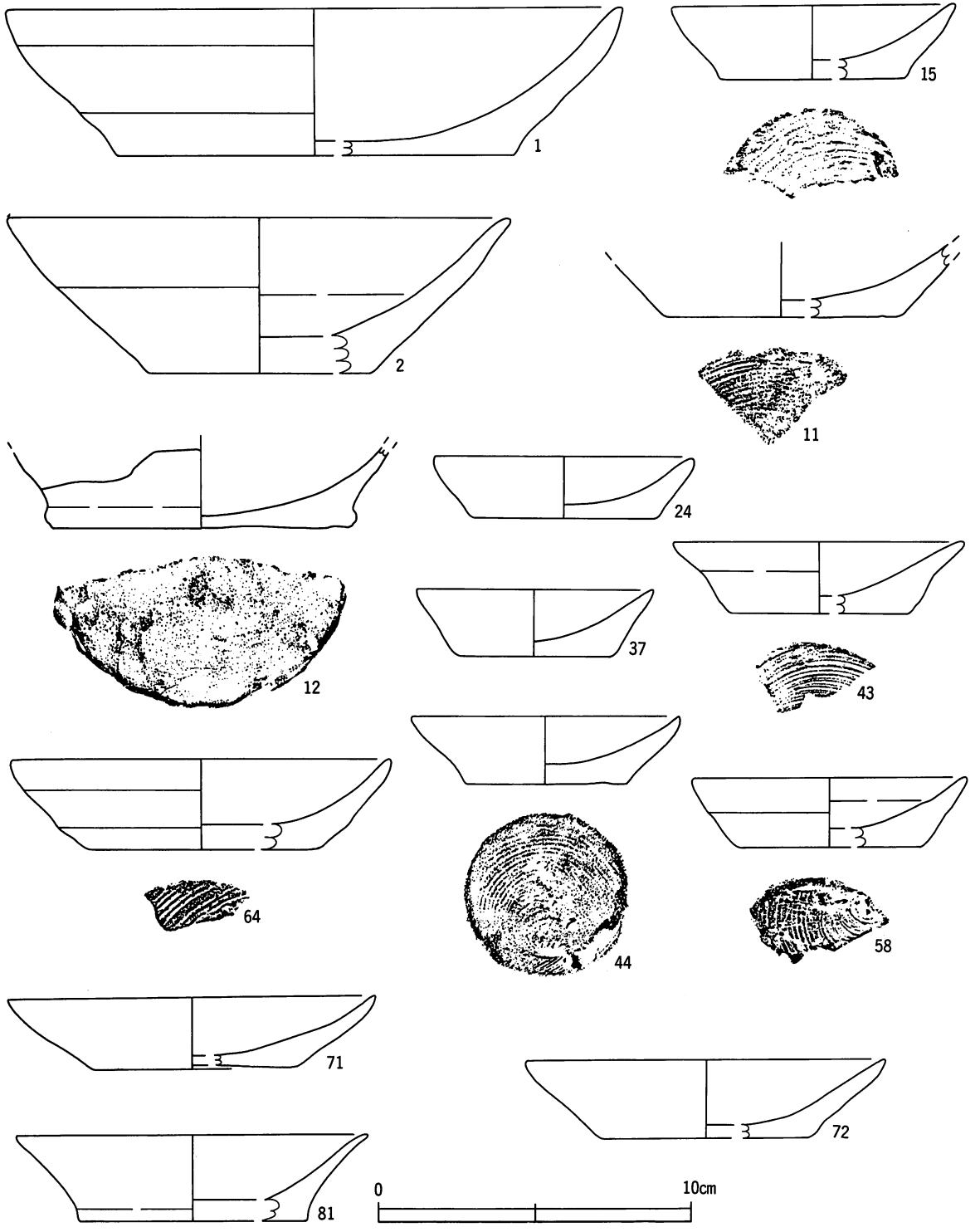


第51図 中世の遺物2 (国産陶器—瀬戸・美濃鉄釉—)



常滑系陶器

第52図 中世の遺物3 (国産陶器—常滑系・瓦質—)



第53図 中世の遺物4 (国産陶器-かわらけ-)

表1 瀬戸・美濃灰釉陶器

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV F09d		表土	皿	体部			0.5	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入
2	IV F09d		表土	皿	高台～底部			0.6	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入
3	IV F09d		表土	皿	高台脇～底部		(6.0)	0.6	淡緑	黄白	貫入多い、削り出しの低い輪高台、焼成不良
4	IV F08h		表土	皿	高台脇～底部		(5.4)	0.6	淡緑	黄白	貫入多い、削り出しの低い輪高台、焼成不良
5	IV F08h		表土	皿	体部			0.6	褐色味のある淡緑	淡褐灰	小破片、両面釉白濁、焼成不良
6	IV F07i		表土	皿	高台脇～底部		(6.4)	0.6	淡緑	黄白	粗い貫入、低い削り出し輪高台、焼成不良
7	IV F08i		表土	皿	体部			0.5	やや黄味をもつ淡緑	淡黄白	外面貫入多い、内面粗い貫入、焼成不良
8	IV F09i		表土	皿	口縁部			0.4	やや黄味をもつ淡緑	淡黄白	小破片、貫入多い、口縁直口
9	IV F10i		表土	皿	高台脇～底部			0.8	淡緑	淡褐灰	焼成良好、外底に輪トチン跡、低い高台
10	IV F08j		表土	皿	高台脇～底部			0.4	褐色味のある淡緑	黄白	削り出し輪高台、貫入多い、焼成不良
11	IV F08j		表土	皿	体部			0.5	やや黄味をもつ淡緑	淡黄白	小破片、外面貫入多い、内面粗い貫入
12	IV F09j		表土	皿	口縁部			0.5	褐色味のある淡緑	淡褐灰	小破片、両面釉白濁、口縁直口
13	IV F10j		表土	皿	口縁部			0.4	やや黄味をもつ淡緑	淡黄白	小破片、両面細かい貫入、口縁直口、焼成良好
14	IV F10j		表土	皿	底部			0.6	淡緑	黄白	小破片、僅かに貫入
15	IV G08a		表土	皿	口縁部			0.4	やや黄味をもつ淡緑	淡黄白	小破片、口縁部端反り
16	IV G08a		表土	皿	口縁部			0.4	やや黄味をもつ淡緑	褐灰	細かい貫入、口縁直口、焼成良好
17	IV G08a	C区柱穴	埋土	皿	口縁～体上部	(11.4)		0.6	淡緑	黄白	細かい貫入、口縁端反り
18	IV G09a		表土	皿	高台脇～底部			0.6	淡緑	淡黄白	小破片、削り出し輪高台、焼成良好
19	IV G10a		表土	皿	高台脇			0.5	淡緑	黄白	小破片、貫入
20	IV G10a		表土	皿	体下部			0.5	やや黄味をもつ淡緑	淡黄白	小破片、貫入
21	IV G10a		表土	皿	高台脇			0.6	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入
22	IV G09b		表土	皿	口縁部			0.4	やや黄味をもつ淡緑	黄白	小破片、口縁端反り
23	IV G10b		検出面	皿	高台脇～底部			0.5	淡緑	黄白	削り出し輪高台、粗い貫入
24	IV G10b		検出面	皿	口縁部			0.6	やや黄味をもつ淡緑	淡灰白	小破片、口縁直口、焼成良好
25	IV G10b	C区柱穴	埋土	皿	口縁～体上部			0.5	褐色味のある淡緑	淡黄白	細かい貫入、口縁端反り、焼成良好
26	IV G10c		表土	皿	口縁部			0.5	やや黄味をもつ淡緑	黄白	小破片、貫入、口縁直口
27	IV G10e		検出面	皿	口縁部			0.4	褐色味のある淡緑	黄白	小破片、貫入、外面釉白濁、口縁直口
28	IV G09f	C3堀	埋土	皿	体上部			0.5	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入、外面ロクロによる段あり
29	IV G10f	C3堀	埋土	皿	高台～底部			0.5	褐色味のある淡緑	黄白	小破片、貫入
30	IV G10f	C3堀	埋土	皿	口縁部	(12.0)		0.4	淡緑	黄白	粗い貫入、口縁直口
31	IV G10f	C3堀	埋土	皿	高台脇～底部	(5.6)		0.7	淡緑	褐灰	粗い貫入、焼成良好
32	IV G10f	C3堀	埋土	皿	高台脇～底部	(6.0)		0.6	淡緑	黄白	削り出し低い輪高台、内底部貫入
33	IV G10f	C3堀	埋土	皿	高台～底部			0.5	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入、削り出し輪高台
34	IV G10f	C3堀	埋土	皿	底部			0.8	褐色味のある淡緑	黄白	小破片、外底貫入
35	IV G10f	C3堀	埋土	皿	高台脇～底部		5.4	0.7	緑	黄白	削り出し低い輪高台、外底に輪トチン跡
36	IV G10f	C3堀	埋土	皿	高台脇～底部		6.6	0.8	淡緑	淡黄白	削り出し輪高台、外底に輪トチン跡
37	IV G09g		検出面	皿	底部			0.6	淡緑	淡褐灰	内底貫入、外底に輪トチン跡
38	IV G10g		II層	皿	高台脇～底部			0.8	淡緑	淡黄白	貫入、外面白濁
39	IV G10g		検出面	皿	体上部			0.5	褐色味のある淡緑	黄白	貫入、内面白濁
40	IV G10g		II層	皿	口縁部			0.5	やや黄味をもつ淡緑	黄白	両面粗い貫入、口縁直口
41	V F01i		表土	皿	口縁部			0.4	やや黄味をもつ淡緑	灰白	小破片、貫入、口縁直口
42	V F02j		表土	皿	口縁～体上部			0.5	淡緑	黄白	貫入、口縁端反り
43	V G01a		表土	皿	体上部			0.5	褐色味のある淡緑	黄白	小破片、細かい貫入
44	V G02a		表土	皿	体上部			0.5	淡緑	黄白	小破片、細かい貫入
45	IV G08b		表土	皿	体下部			0.4	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
46	V G02c		検出面	皿	口縁～体上部			0.6	淡緑	黄白	外面クロロによる段、両面細かい貫入、口縁直口
47	V G02c		検出面	皿	口縁部			0.4	褐色味のある淡緑	黄白	小破片、口縁直内
48	V G01d		検出面	皿	高台～底部			0.7	淡緑	黄白	削り出し輪高台、内底貫入
49	V G02d		表土	皿	体上部			0.6	やや黄味をもつ淡緑	淡黄白	僅かに貫入、内外面白濁
50	V G02d		表土	皿	口縁～体上部			0.5	淡緑	黄白	粗い貫入、口縁端反り
51	V G01f	C3 堀	埋土	皿	体下部			0.6	淡緑	黄白	僅かに貫入
52	V G02f		表土	皿	口縁部			0.5	褐色味のある淡緑	黄白	小破片、細かい貫入、口縁直口
53	V G02f		表土	皿	高台～底部			0.5	緑	灰	粗い貫入、削り出し輪高台、焼成良好
54	V G02f		表土	皿	体部			0.6	褐色味のある淡緑	淡黄白	内外面白濁、口縁端反り
55	V G02f		表土	皿	高台～底部	(6.4)		0.7	褐色味のある淡緑	淡黄白	貫入、低い輪高台
56	V G02f		表土	皿	口縁部			0.5	褐色味のある淡緑	淡黄白	細かい貫入、口縁部直口
57	V G02f		表土	皿	体部			0.4	やや黄味をもつ淡緑	黄白	小破片、細かい貫入
58	V G04f		表土	皿	底部			0.5	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入
59	IV G09f		表土	皿	高台脇～底部	(6.0)		0.6	淡緑	黄白	貫入、削り出し輪高台
60	V G02g		表土	皿	口縁部			0.4	淡緑	黄白	細かい貫入、口縁部端反り
61	V G02g		表土	皿	体部			0.4	淡緑	黄白	小破片、粗い貫入
62	V G02g		表土	皿	口縁部			0.4	淡緑	黄白	小破片、細かい貫入、口縁直内
63	D 区?	柱穴	埋土	皿	口縁部	(11.2)		0.3	淡緑	灰	粗い貫入
64	V K07b		II層	皿	口縁部			0.4	淡緑	黄白	細かい貫入
65	V K03h	E2 堀	旧表土	皿	底部	(5.9)		0.5	淡緑	黄白	粗い貫入
66	IV G08a		表土	碗	体部			0.9	褐色味のある淡緑	黄白	細かい貫入
67	V H03c	E4 切岸	表土	瓶子	肩部			1.2	褐色味のある淡緑	灰	細かい貫入
68	V G02e	C1 道路	埋土	卸し皿	底部			0.7	淡緑	黄白	小破片

表2 瀬戸・美濃鉄釉陶器

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV F07h		表土	天目茶碗	体上部			0.6	黒一部茶	灰白	小破片
2	IV F08h	C1 堀切岸	表土	天目茶碗	口縁部～体上部	11.6		0.6	口縁茶褐、体部黒褐	褐灰	口縁部内湾するが口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
3	IV F10i		表土	天目茶碗	体上部			0.5	褐	灰	小破片
4	IV G08a		表土	天目茶碗	体下部			0.6	黒	灰白	体下部化粧がけ(鬼板塗布)
5	IV G09c		表土	天目茶碗	体部			0.6	黒	灰白	小破片、火を受けている
6	IV G10e		表土	天目茶碗	口縁部			0.6	褐	灰	口縁部内湾するが、口唇部外反気味に挽き出す
7	IV G10f	C1 堀	埋土	天目茶碗	体下部			0.9	黒褐	灰褐	小破片、体下部露胎
8	IV G10f	C1 堀	埋土	天目茶碗	体下部			0.7	黒褐	灰褐	小破片、体下部露胎
9	IV G10j		II層	天目茶碗	体部			1.0	黒褐	灰褐	体下部露胎、火を受けている
10	V G02e		表土	天目茶碗	体部			0.6	黒一部茶	灰白	火を受けている
11	V G01f		表土	天目茶碗	口縁部～体下部	12.6		0.6	黒一部茶	灰白	口唇部薄く挽き出す。火を受けている。接合破片
12	V G02f		表土	天目茶碗	口縁部	(13.2)		0.6	黒	灰白	火を受け釉が火ぶくれ
13	V G02f		表土	天目茶碗	体下部			0.6	茶褐	灰	小破片、体下部露胎
14	V G02f		表土	天目茶碗	体下部			0.4	黒一部茶	灰白	小破片
15	V G02f	C3 堀	表土	天目茶碗	口縁部～体中部	(15.2)		0.6	褐	灰白	口縁部内湾するが口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
16	V G03g		表土	天目茶碗	高台脇～底部	(4.4)		1.0	黒	灰白	削り出し高台、体下部化粧がけ(鬼板塗布)
17	V F01j		表土	天目茶碗	口縁部	(12.0)		0.5	褐灰	灰	口縁部内湾するが、口唇部外反気味に挽き出す
18	V G01a		表土	天目茶碗	体部			0.6	褐灰	灰	小破片、No.17 と同一個体
19	IV F08j		表土	天目茶碗	体部			0.7	黒	灰	内面に段つく
20	IV G10h		IV層	天目茶碗	体部			0.6	褐灰	灰	小破片、No.17 と同一個体
21	V H02d	D 区溝	埋土	天目茶碗	口縁部			0.3	黒	灰	小破片、焼成良好
22	V H02e	D 区溝	埋土	天目茶碗	体下部			0.7	黒にコゲ茶	灰	体下部露胎
23	V L06c		II層	天目茶碗	口縁部			0.6	茶褐	灰	口縁部内湾するが口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
24	V L06c		II層	天目茶碗	体部			0.6	黒褐	灰褐	体下部露胎
25	IV G10h		表土	天目台	体部～底部			0.8	黒	灰	火を受けている

表3 常滑系陶器

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV F05e	C1 堀切岸	表土	甕	体部			1.1		褐灰	
2	IV F05e	C1 堀切岸	表土	甕	体部			1.1		褐灰	
3	IV F05e	C1 堀切岸	表土	甕	体部			1.2		褐灰	
4	IV F05e	C1 堀切岸	表土	甕	体部			1.2		褐灰	
5	IV F05e	C1 堀切岸	表土	甕	体部			1.2		褐灰	No.7 と接合
6	IV F05e	C1 堀切岸	表土	甕	口縁部			1.0		褐灰	接合破片
7	IV F05e	C1 堀切岸	表土	甕	体部			1.2		褐灰	No.5 と接合
8	IV F05e	C1 堀	埋土	甕	体部			1.3		褐灰	
9	IV F05e	C1 堀	埋土	甕	体部			1.1		褐灰	接合破片
10	IV F06e	C1 堀	埋土	甕	体部			1.2		褐灰	
11	IV F07i		表土	甕	体部			1.0		褐灰	小破片
12	IV F09i		表土	甕	体部			1.1		褐灰	小破片
13	IV G09f	C2 堀	埋土	甕	肩部			1.4		褐灰	
14	IV G10f	C2 堀	埋土	甕	底部			1.3		褐灰	接合破片
15	IV G10f	C2 堀	埋土	甕	肩部			1.6		褐灰	
16	IV G10f	C2 堀	埋土	甕	体部			1.1		褐灰	小破片
17	IV G10g		II層	甕	体部			1.3		褐灰	小破片
18	IV G09j		II層	甕	肩部			1.3		褐灰	小破片
19	IV H10a		表土	甕	肩部			1.3		褐灰	
20	IV H10a		表土	甕	肩部			1.1		褐灰	接合破片
21	IV H10a		表土	甕	体部			1.2		褐灰	小破片
22	IV H10a		表土	甕	肩部			1.2		褐灰	
23	V G01d	C1 道路	埋土	甕	体部			1.3		褐灰	小破片
24	V G02f		表土	甕	体部			1.4		褐灰	小破片
25	V G01h	C5 溝	埋土	甕	口縁部			1.3		褐灰	小破片
26	V G01h		表土	甕	体部			1.4		褐灰	
27	V G01h		表土	甕	体部			1.3		褐灰	小破片
28	V G01h		表土	甕	体部			1.3		褐灰	小破片
29	IV H10f		III層	甕	体部			1.3		褐灰	押印あり
30	V H04j	D1 堀	埋土	甕	肩部			1.9		褐灰	押印あり
31	V J04b		II層	甕	口頸部~肩部			1.4		褐灰	
32	IV H10d		II層	甕	体部			1.2		褐	
33	IV F09f	C3 堀	III層	壺	肩部			0.8		灰黄	外面釉だれ、内面クロロ目、小破片
34	V G02f		II層	壺	体部			0.9		灰黄	外面釉、内面クロロ目
35	IV V05e	C1 堀	埋土	壺	体部			1.0		褐灰	No.37、39 と接合
36	IV F07j		表土	壺	体部			1.0		褐灰	小破片
37	IV F07j		表土	壺	体部			1.0		褐灰	No.35、39 と接合
38	IV F07j		表土	壺	体部			1.0		褐灰	小破片
39	IV F07j		表土	壺	体部			1.0		褐灰	No.35、37 と接合
40	V G01a		表土	壺	肩部			0.9		灰	小破片、焼成良好
41	IV H10a		表土	壺	肩部			1.0		褐灰	小破片
42	IV G08b		表土	壺	肩部			1.0		褐灰	小破片
43	V G01h	C5 溝	埋土	壺	肩部			1.0		褐灰	
44			表土	壺	体部			1.0		褐灰	小破片
45	V J03a		表土	壺	体部			1.0		褐灰	小破片

表4 その他国産陶器

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	V G01f	C3 堀	埋土	播り鉢	底部			2.5		灰	底部小破片
2	IV F06f	C3 堀	埋土	甕	体部			1.2		褐灰	外面釉・平行叩き目、内面ナア
3	V G02f		表土	甕	体部			1.2		灰白	小破片
4	V I07e		表土	壺	肩部			0.9		暗褐	小破片

表5 瓦質陶器

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV G08a	C区柱穴	埋土	火鉢	体部			0.9		灰黄	外面炭素吸着
2	IV G10f		III層	香炉	口縁部			0.5		淡黄	外面炭素吸着
3	V G01f		II層	香炉	底部		(7.4)	0.6		褐灰	外面炭素吸着
4	V L05d		盛土中		口縁部			1.0		暗褐	外面炭素吸着
5	V L05d		盛土中		体部			1.2		暗褐	

表6 かわらけ

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV F08j	C区柱穴	埋土	坏	口縁~底部	(19.6)	12.8	1.3		橙	ロクロ、底部糸切後調整、底部の器厚薄い
2	IV F09j	C区柱穴	検出面	坏	口縁~底部	(16.2)	(7.5)	1.5		赤褐	ロクロ、底部糸切後調整、底部内黒
3	IV G08a		表土	坏	底部			1.0		淡橙	ロクロ、磨減
4	IV G08a	C区柱穴	埋土	坏	体下~底部			1.6		明赤褐	ロクロ、底部糸切、底部外面一部黒色
5	IV G10f	C3堀	埋土	坏	体下~底部		11.9	1.0		淡橙	ロクロ、底部糸切後調整
6	IV G10h		IV層	坏	体下部			1.2		淡橙	ロクロ
7	IV G09j		表土	坏	体下~底部			1.4		橙	ロクロ、底部糸切り
8	IV F10f		表土	坏	底部			1.2		橙	ロクロ、内外面磨減
9	V G01d		検出面	坏	体下部			1.0		橙	ロクロ
10	IV G10f	C3堀	埋土	坏	口縁部			0.6		橙	ロクロ、内外面磨減
11			表土	坏	体下~底部		7.8	1.0		橙	ロクロ、底部糸切
12	V H4c	DP123	埋土	坏	底部		10.0	0.6		黄橙	ロクロ、底部糸切後調整、外面ロクロ目内黒処理
13	IV F08g		表土	小皿	体下~底部			1.0		淡橙	ロクロ、底部糸切
14	IV F08h	C1切岸	表土	小皿	口縁~底部	(10.9)	(5.9)	0.9		橙	ロクロ、底部糸切、口縁部一部内黒
15	IV F08h	C1切岸	表土	小皿	口縁~底部	(9.1)	6.1	1.0		明赤褐	ロクロ、底部糸切、内外面一部黒色
16	IV F08h	C1切岸	表土	小皿	口縁~底部	(9.3)	(6.0)	1.0		橙	ロクロ、底部糸切
17	IV F08j	C区柱穴	埋土	小皿	底部			0.8		黄橙	ロクロ、底部糸切
18	IV F08j	C区柱穴	埋土	小皿	口縁~体下部			1.0		橙	ロクロ、磨減小破片
19	IV F09j	C区柱穴	埋土	小皿	口縁部			0.8		赤褐	ロクロ、内外面黒色
20	IV G08a	C区柱穴	埋土	小皿	口縁部			0.6		黄橙	ロクロ
21	IV G09a		表土	小皿	口縁~底部	9.2	6.5	0.8		橙	ロクロ
22	IV G09a		検出面	小皿	口縁~底部			0.9		橙	ロクロ、磨減
23	IV G09a	C区柱穴	埋土	小皿	体下~底部			0.9		淡橙	ロクロ、小破片
24	IV G10b	C区柱穴	埋土	小皿	口縁~底部	(8.4)	6.2	1.0		淡橙	ロクロ、底部糸切後調整
25	IV G09f	C3堀	埋土	小皿	口縁~体下部	11.9		0.8		橙	ロクロ、口唇部内面黒斑
26	IV G09f	C3堀	埋土	小皿	口縁~底部	(12.1)	(8.1)	1.1		橙	ロクロ、底部糸切、内黒
27	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	口縁~底部	(8.3)	(5.5)	1.1		橙	ロクロ、底部糸切
28	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	口縁~体下部		5.0	0.9		橙	ロクロ、一部内黒
29	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	口縁~底部		6.3	0.8		淡橙	ロクロ、底部糸切
30	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	口縁~底部	(11.8)	8.0	0.9		明赤褐	ロクロ、底部糸切
31	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	体下~底部		7.0	1.0		橙	ロクロ、底部糸切
32	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	口縁~底部		7.8	1.0		淡橙	ロクロ成形、底部糸切
33	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	口縁~体部			0.8		橙	ロクロ
34	IV G10f	C3堀	埋土	小皿	底部			1.0		橙	ロクロ、内外面磨減
35	IV G09g		検出面	小皿	口縁~体下部			0.8		にぶい橙	ロクロ、内面黒斑
36	IV G10g		II層	小皿	体下~底部			1.1		黄橙	ロクロ、内外面磨減
37	IV G10h		III層	小皿	口縁~底部		(5.1)	1.2		にぶい橙	ロクロ、底部糸切
38	IV G10h		III層	小皿	口縁~底部		8.0	0.9		橙	ロクロ、底部糸切
39	IV G10h		IV層	小皿	口縁~体下部	(10.0)	(7.2)	0.7		橙	ロクロ
40	IV G10h		IV層	小皿	口縁~体下部			1.0		橙	ロクロ
41	IV G10h	C2溝	埋土	小皿	体下~底部			1.0		橙	ロクロ
42	IV G09j		表土	小皿	口縁~体下部			0.7		橙	ロクロ、外面一部黒色
43	V F01i	C区柱穴	埋土	小皿	口縁~底部	9.4	5.8	1.3		にぶい赤褐	ロクロ、底部糸切、内外面黒色、口唇部外反気味
44	V G02a	C区柱穴	埋土	小皿	口縁~底部	8.6	5.3	1.0		橙	ロクロ、底部糸切、口唇部内外面一部黒色

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
45	V G02a	C区柱穴	埋土	小皿	口縁～底部			0.8		橙	ロクロ、内外面一部黒色
46	V G02a	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部			1.2		橙	ロクロ、内外面磨減
47	V G01c		検出面	小皿	体下～底部		6.6	1.0		黄橙	ロクロ、底部糸切
48	V G01d	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部		6.0	0.9		橙	ロクロ、底部糸切
49	V G01e	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部		5.1	0.9		橙	ロクロ、底部糸切
50	V G01e	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部		7.1	1.1		淡橙	ロクロ、底部糸切
51	V G01e	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部			1.1		淡橙	ロクロ、内外面磨減
52	V G01e	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部	(9.0)	6.8	1.0		橙	ロクロ、底部糸切
53	V G01e	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部			1.2		にぶい橙	ロクロ、底部糸切
54	V G01e	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部			1.1		橙	ロクロ
55	V G02e		検出面	小皿	体下部			1.1		橙	ロクロ
56	V G02e	C1 道路	埋土	小皿	体下～底部		6.7	1.3		橙	ロクロ、底部糸切
57	V G01f	C3 堀	埋土	小皿	底部			1.1		橙	ロクロ、内外面磨減
58	V G01f	C3 堀	埋土	小皿	口縁～底部	8.8	7.0	1.2		明赤褐	ロクロ、底部糸切
59	V G01f	C3 堀	埋土	小皿	口縁～体下部			0.8		橙	ロクロ
60	V G01f	C3 堀	埋土	小皿	体下～底部			1.1		橙	ロクロ、内外面磨減
61	V G01f	C3 堀	埋土	小皿	体下～底部		7.4	1.2		にぶい橙	ロクロ、底部糸切後調整
62	V G02f		表土	小皿	体下～底部			1.0		にぶい橙	ロクロ
63	V G02f		II層	小皿	体部～底部			1.0		橙	ロクロ、内外面一部黒色
64	V G02g		表土	小皿	口縁～底部	(12.2)	7.6	1.0		橙	ロクロ、底部糸切、一部内黒
65	V G01h	C5 溝	埋土	小皿	体下～底部		5.1	1.2		橙	ロクロ、内外面磨減
66	V G01h	C5 溝	埋土	小皿	底部			0.9		橙	ロクロ、内外面磨減
67	V G10h		表土	小皿	口縁～底部	10.2	6.5	1.1		橙	ロクロ、底部糸切、一部内黒
68	V G01i		表土	小皿	体下～底部			1.0		橙	ロクロ、内外面磨減
69	V G02i		検出面	小皿	体下～底部		5.6	0.8		橙	ロクロ、内外面磨減、薄手
70	V G02i		検出面	小皿	底部			0.6		淡橙	ロクロ、底部内黒
71	V G02i		検出面	小皿	口縁～底部	(11.8)	6.5	0.9		橙	ロクロ、内外面磨減、薄手
72	V G02i	C7 溝	埋土	小皿	口縁～底部	11.6	7.0	1.0		橙	ロクロ、内外面磨減
73			表探	小皿	体下～底部			1.3		橙	ロクロ、底部糸切、体下部外面黒色
74	IV F10i		表土	小皿	体下～底部			1.0		橙	ロクロ、内外面磨減
75	V G01f		表土	小皿	体下部			1.0		橙	ロクロ、内外面磨減
76	V G04g		表土	小皿	体下～底部			1.0		橙	ロクロ、底部糸切
77		溝	埋土	小皿	体下～底部			0.9		橙	ロクロ、底部糸切
78	IV H10f	D12 溝	埋土	小皿	体下～底部	(11.2)	(8.9)	0.9		橙	ロクロ
79	D区?	柱穴	埋土	小皿	口縁部			1.0		橙	ロクロ
80	V H03e		表土	小皿	口縁部			0.7		にぶい橙	ロクロ
81	V I05g		表土	小皿	口縁～底部	(7.8)	(5.2)	0.8		橙	ロクロ
82	V H02c	DP550		小皿	口縁～底部	(10.0)	(6.5)	0.8		橙	ロクロ、底部回転糸切、接合破片
83	V H02i		II層	小皿	口縁～底部	(11.4)	(7.4)	1.0		灰褐	ロクロ、底部回転糸切痕

2) 中国産磁器

出土した舶載磁器 313 点はいずれも中国産である。内訳は青磁 85 点(27.2%)、青白磁 13 点(4.2%)、白磁 102 点(32.6%)、染付 110 点(35.1%)、鉄釉磁器 3 点(0.9%)であり、中世に属する陶磁器類出土総数の 57.6%を中国産の磁器が占める。これらはいずれも破片での出土点数であるため、そのまま個体数を表すものではない。また、小破片が多く図示できないものも多数含まれている。以下に種類ごとに分類し、器種ごとにその概略を述べる。

(1) 青磁

85 点出土している。出土区域は C 区が圧倒的に多く 80%を占める。この中には盤 3 点(3.5%)、香炉 1 点(1.2%)、碗 47 点(55.3%)、皿 33 点(38.8%)、不明なもの 1 点(1.2%)が含まれる。釉調や胎土からほとんどが龍泉窯系の製品である。小破片であり全体像が不明な香炉をのぞき、以下に器種ごとに概略を記す。

a 盤 (表 7、第 54 図、写真図版 16・24)

接合できたものを含め 3 点(1~3)出土しているが、1・2 は釉調及び胎土から同一個体であり、個体数は 2 点である。1・2 は C 区から、3 は D 区から出土している。

1・2 は口径が 40 cm 程と推定される大型の盤の破片である。断面が台形状で高さ 13 mm ほどの若干内傾する輪高台が付き、見込部分は無文である。胎土は非常に緻密で黒点が点在する白色を示す。釉は全面施釉後外底の釉を幅 3 cm ほどの輪状に削りとって露胎とし、露胎部分が茶色く発色している。釉調は淡い緑色であり、内外面に細かく貫入が入る。3 は内面に幅 3 mm ほどの浅い窪みが底部から口縁部の縦方向に並行して付けられている。口縁部は外方へ屈曲した後、大きく内湾して直立する。釉はややくすんだ淡緑色で、貫入はみられない。胎土は緻密であるが、1・2 に比べ灰色がかっている。

時期的には 1・2 が 14 世紀前半、3 が 15 世紀前半頃の製品と推定される。

b 碗 (表 7、第 54・55 図、写真図版 16・24)

48 点出土しているが、出土部位の内訳は底部を残すもの 9 点、口縁部を残すもの 11 点、体部破片が 28 点である。C 区から多く出土しており 76.6%を占めるが、すべて破片での出土であり完形品はみられない。

体部に蓮弁文をもつ破片が 19 点(5~23)あり、この中には鎗蓮弁文をもつもの 4 点(5・6・7・19)、線描きあるいはヘラ削りによる間隔の狭い蓮弁文をもつもの 13 点(8~18、20・21)、3 cm ほどの間隔の広い蓮弁文をもつもの 2 点(22・23)が含まれる。

鎗蓮弁文をもつ 5 は底部から高台脇にかけての接合破片である。底部径 8 cm で、やや外傾気味で高さ 1 cm の高台が付く。釉調はややくすんだ緑色で厚くかけられている。外底の釉は削りとられて露胎となっており、その部分が茶色に発色している。見込には圈線が施されている。

19 は鑄蓮弁をもつ口縁部破片であり、口縁端部はやや外反する。釉調はくすんだ緑色で、胎土は緻密であり灰色を呈する。蓮弁はへらにより幅広く削られており頭部が剣先形になっている。いずれも時期は14世紀前半に属する製品であろう。

17 は蓮弁をもつ口縁部破片であり、口縁部は直口する。釉調は透明感のある緑色で、内外面ともに細かい貫入が入る。外面には、線描きというよりもへら削りによって幅の狭い蓮弁が描かれており、頭部は丸形である。時期は15世紀中頃に属する製品と考えられる。

8・14 は口縁端部がやや内湾する口縁部破片である。釉調はやや白っぽさのある緑色で、内面に細かい貫入が入る。外面に線描きの間隔の狭い蓮弁をもつが、蓮弁が退化段階に入っているものであり、頭部は波状になり縦線と分離している。時期は15世紀後半から16世紀初頭にかけての製品と考えられる。

間隔の広い蓮弁をもつ口縁部破片23は、口縁端部がやや内湾する。釉調はややくすんだ緑色で、胎土は緻密で灰白色を呈する。内外面ともに貫入はみられない。外面の蓮弁は浅いへら削りによって粗略に切られたものであり、内面にも文様が切られている。時期は14世紀末から15世紀前半にかけての製品と考えられる。

外面が無文の碗の口縁部破片をみると、口縁部がやや内湾するもの(46)と口縁端部が外反するもの(52)の2種類がみられる。いずれも釉調はくすんだ緑色であり、胎土は灰白色で緻密である。また、底部破片をみると、内面が無文のもの(40)と印刻文を有するもの(24・36・47)がある。釉はいずれも全面施釉後、外底を輪状に削りとり露胎である。これらの釉の処理方法は、14世紀後半から16世紀前半にかけてのものである。

c 皿(表7、第55図、写真図版16・17・24・25)

31点出土しているが、器種としては稜花皿が16点(53~68)、碁筭底ヒダ皿が4点(69~72)、皿11点(73~83)である。稜花皿が51.6%と半数以上を占める。皿類の93.5%がC区から集中して出土している。

稜花皿については、口縁部~底部までを残存する破片がないため底部については不明である。いずれも外面は無文であり、口縁部は外反し腰部に段を有するものである。口縁部破片55・59は同一個体と考えられるものであるが、胎土はやや粗く灰白色であり、釉調は淡い緑色で内外面に細かい貫入が入る。口縁部内面に3条の並行する沈線が巡る。62・66は、いずれも口縁部内面に波状の2本の沈線が巡るものである。66の方が口縁部の器厚が厚いが、胎土はいずれもやや粗く灰白色である。釉調は62がくすんだ緑色であるのに対し、66は白色がかかった淡緑色である。腰部に段をもつ58は、稜花皿で唯一口縁部から体下部まで残存するものであり、内外面とも無文である。釉調は褐色の濁りのある淡い緑色であり、胎土はやや粗い灰白色である。内外面とも貫入はみられない。稜花皿は、時期はいずれも15世紀後半から16世紀中頃にか

ての製品である。

71・72は碁笥底のヒダ皿の底部破片である。71は内底見込に印刻文をもつ。外底は中心部に直径1cmの釉を残し、輪状に削り取られており露胎である。72の外底も露胎である。いずれも釉調はオリブ褐色であり、胎土は褐灰白色である。時期は14世紀後半頃の製品と推定される。

84は坏の口縁部破片である。口縁端部が外反し、外面に鎬蓮弁文をもつ。釉調は透明感のある淡緑色であり、胎土は緻密な灰白色で貫入はみられない。時期は14世紀前半の製品と考えられる。

83は内外面丸彫りされている皿である。全面施釉されているが、焼きが甘く釉調はにぶい黄橙色を呈す。白磁の可能性もあるが一応青磁として分類した。時期は16世紀に属するものと推定される。

(2) 青白磁

13点出土している。出土区域は12点がC区から、F区から1点出土している。この中には菊花皿2点(15.4%)、梅瓶11点(84.6%)が含まれる。

a 皿(表9、第56図、写真図版17・26)

皿2点は同一個体の菊花皿である。2は口縁部から体下部にかけての破片であり、内外面がへら彫りされている。淡い青白色を呈す透明釉がかけられ、底部は露胎と推定される。時期は14世紀のものと考えられる。

b 梅瓶(表9、第56図、写真図版17・18・26)

11点の中には体部10点、肩部1点が含まれる。外面には櫛目文様が施され貫入が入る。内面にはいずれもロクロ目を残す。釉調は透明な青白色であり、胎土は灰白色を呈す。時期は14世紀の製品と考えられる。

(3) 白磁

102点出土している。出土区域はC区が85.3%を占める。この中には四耳壺1点(1%)、水注の底部破片と思われるもの1点(1%)、皿98点(96%)、碗2点(2%)が含まれる。図示できない小破片が多いため、全体像がわかる皿・碗について以下に概略を記す。

a 皿(表8、第56図、写真図版17・25・26)

98点の出土部位の内訳は、口縁部47点、体部37点、底部14点である。この中で器種がわかるものは角皿1点(3)、直口皿12点(8~19)、端反り皿56点(20~75)であり端反り皿が圧倒的に多い。

図示した口縁部破片をみると、28・31・36・39・41・53・55・68・96が端反り皿である。器形は、高台脇から外傾した体部が内湾して立ち上がり、口縁部で外反し口唇部は丸くおさまる。胎土は緻密で白色を呈し、焼成は良好である。釉調は白色が多いが、灰色がかったものもみら

れる。底部まで残存する破片がないため底部のつくりは不明であるが、底部破片 38・47・49・58・63 から、削り出しの低い輪高台をもち、畳付きを除いて全面施釉されているものと推定される。時期は 15 世紀後半から 16 世紀にかけての製品と考えられる。

12・19 は直口皿である。12 は 19 に比べ口縁端部の器厚が厚く口唇部が丸くおさめられている。19 は 12 に比べ体下部の内湾が強く、口唇部は薄く挽き出されている。12 は端反り皿に先行する 15 世紀中頃の製品と考えられる。19 については 16 世紀代の製品の可能性が考えられる。

3 は内面に印花文を有する型つくりの角皿と考えられる。釉は灰白色を呈し、胎土は緻密な灰白色である。18 は玉縁口縁を有する皿の口縁部破片と考えられる。釉調はやや褐色味のある灰色で、胎土は緻密な灰白色である。これは 12 世紀までさかのぼる製品であろう。

b 碗 (表 8、写真図版 26)

2 点(101・102)はいずれも高台部分の小破片であり全体像は不明である。102 は高台脇から底部の一部まで残る。高台脇から底部まで露胎であり、内底見込みに貫入がみられるものである。

(4) 染付

110 点出土している。出土区域は C 区が 81.8 % を占める。この中には碗 6 点(5.5 %)、皿 104 点(94.5 %)が含まれる。図示できない小破片が多いが、口縁部や底部を残すものから皿・碗について以下に概略を記す。

a 碗 (表 10、第 57 図、写真図版 18・26)

6 点(1～6)の中には高台や底部を残すもの 4 点、体部 2 点がある。高台脇から底部までを残す 2 は、1.2 cm の高さをもつ輪高台で、基部を厚くし畳付部を薄くしている。畳付はヘラで面取りされており、高台内は施釉されない。見込に描かれている文様については不明である。時期は 15 世紀代におさまる製品と考えられる。高台脇から高台までを残す 4 は、6 mm ほどの低い輪高台をもち、高台内にも施釉されている。高台脇および見込に文様が描かれているが、種類は不明である。時期は 16 世紀前半の製品と考えられる。

b 皿 (表 10、第 57・58 図、写真図版 18・26・27)

104 点の中には口縁部 39 点、体部 42 点、高台あるいは底部までを残すもの 23 点が含まれる。この中で器種がわかるものは直口皿 39 点(7～45)、端反り皿 21 点(46～66)に分類できる。同様に底部を残す 18 点についてみると、碁笥底のものが 2 点(67・68)みられる。

直口皿に分類したもののの中で 16・37 についてみると、16 は口縁部内外面に 2 条線が施され、外面の条線下に花文が描かれている。器厚は 2 mm と薄く、口唇は丸くつくられている。釉は内外面とも淡い青味がかった白色で光沢が強い。37 は器厚が 4 mm と厚い。外面に草花文が描かれ、口縁端部内面には 1 条線が施されている。釉は厚く淡青白色で光沢があるが、全体的にやや

くすんだ発色である。これら直口皿はいずれも 16 世紀の前半～中頃の製品と考えられる。

端反り皿に分類したもののなかで代表的な 58・59 についてみると、58 は種類は不明であるが外面に文様が描かれ、口縁端部内面に 2 条線が施される。器厚は体部で 4 mm を計るが口唇部は 1.5 mm と薄くつくられている。釉は淡い青味があった白色で光沢がある。59 は小ぶりの皿である。体部外面に唐草文様が描かれ、口縁端部内面には条線が施される。見込には重圈文がみられ、白色の釉は光沢が強い。これら端反り皿はいずれも 15 世紀後半から 16 世紀前半にかけての製品と推定される。

底部残存破片の 77・91・97 についてみると、77 は高さ 5 mm の輪高台をもつものである。畳付部は釉がふき取られており、砂が付着している。高台外面には 2 条線が施されている。見込には草花文が描かれ、外底には文字の一部と思われるものがみられる。釉は白色で光沢はややにぶい。高台から底部を残す 91 と高台内底部破片である 97 はいずれも見込に玉取獅子文が描かれている。91 は、高さ 5 mm で断面三角形の輪高台をもち、畳付部は釉がふき取られている。高台外面には 2 条線が、内面基部にも条線が施されている。これらはいずれも 15 世紀後半から 16 世紀前半の製品と考えられる。

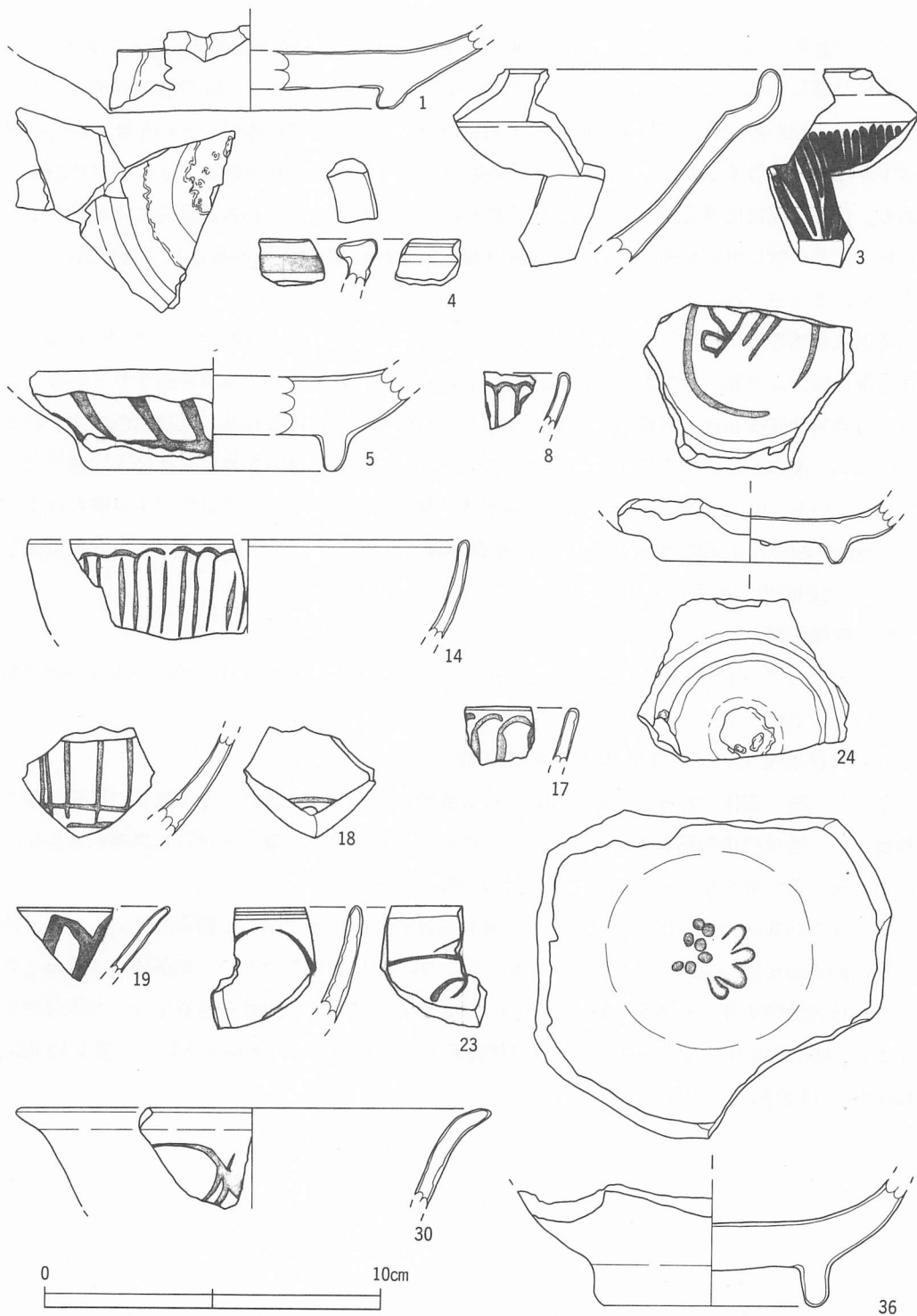
(5) 鉄釉磁器

3 点出土しているが、出土区域は C 区 1 点、D 区 2 点である。器種はいずれも天目茶碗であり、以下に概略を記す。

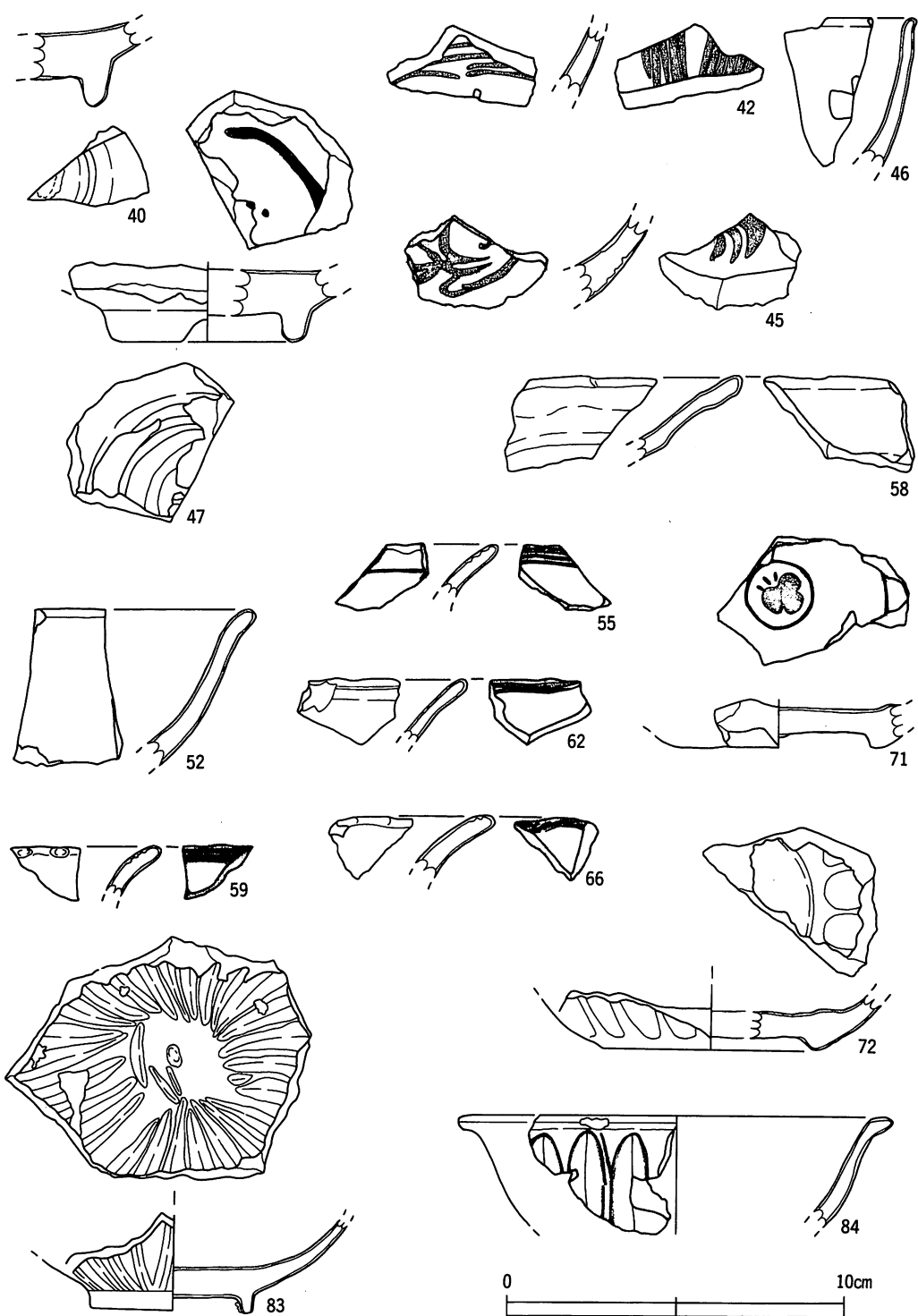
a 天目茶碗 (表 11、第 58 図、写真図版 18・27)

1・2 は同一個体である。1 は体部はほぼ直線的に外傾し、端部が大きく括れ口縁部は軽く外反する。釉は口縁端部から口唇部で薄く茶褐色を呈し、体部は厚くかけられ黒褐色を呈す。胎土は灰白色でやや粗い。時期は 15 世紀代の製品と推定される。

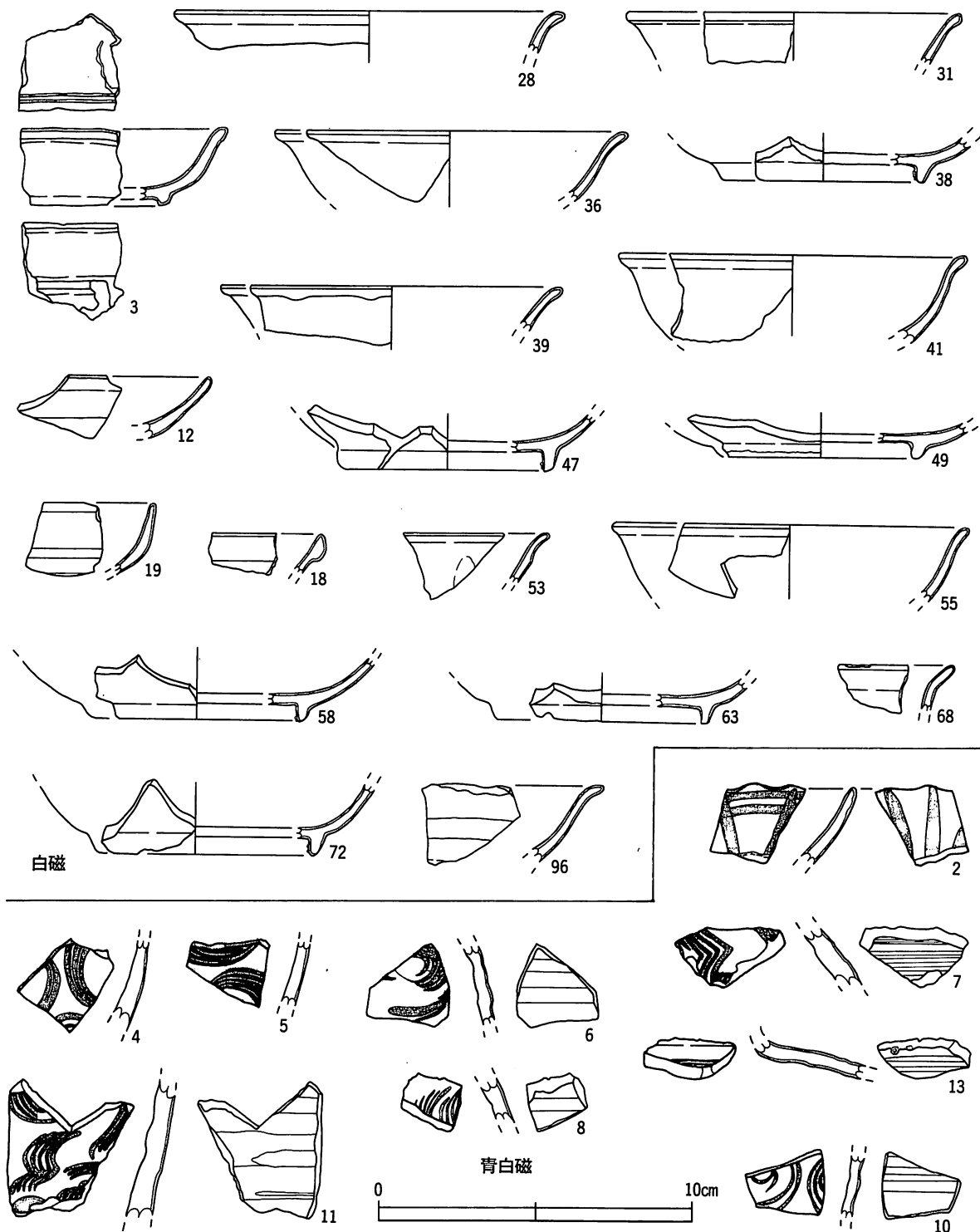
3 は高さ約 6 mm の削り出し高台をもち、高台脇は約 2 mm の幅で平らに削られている。高台内は縁の約 4 mm を残して浅く斜めに削っているが、中心部は膨らみをもつ。底部径は 4.6 cm を計る。釉は内面体下部から茶溜りにかけて均一にかけられており、焦げ茶色を呈すが光沢はややにぶい。胎土は暗灰色でやや粗い。これは建窯系の天目茶碗(建盞)と推定され、時期は 13 世紀後半から 14 世紀代の製品と考えられる。



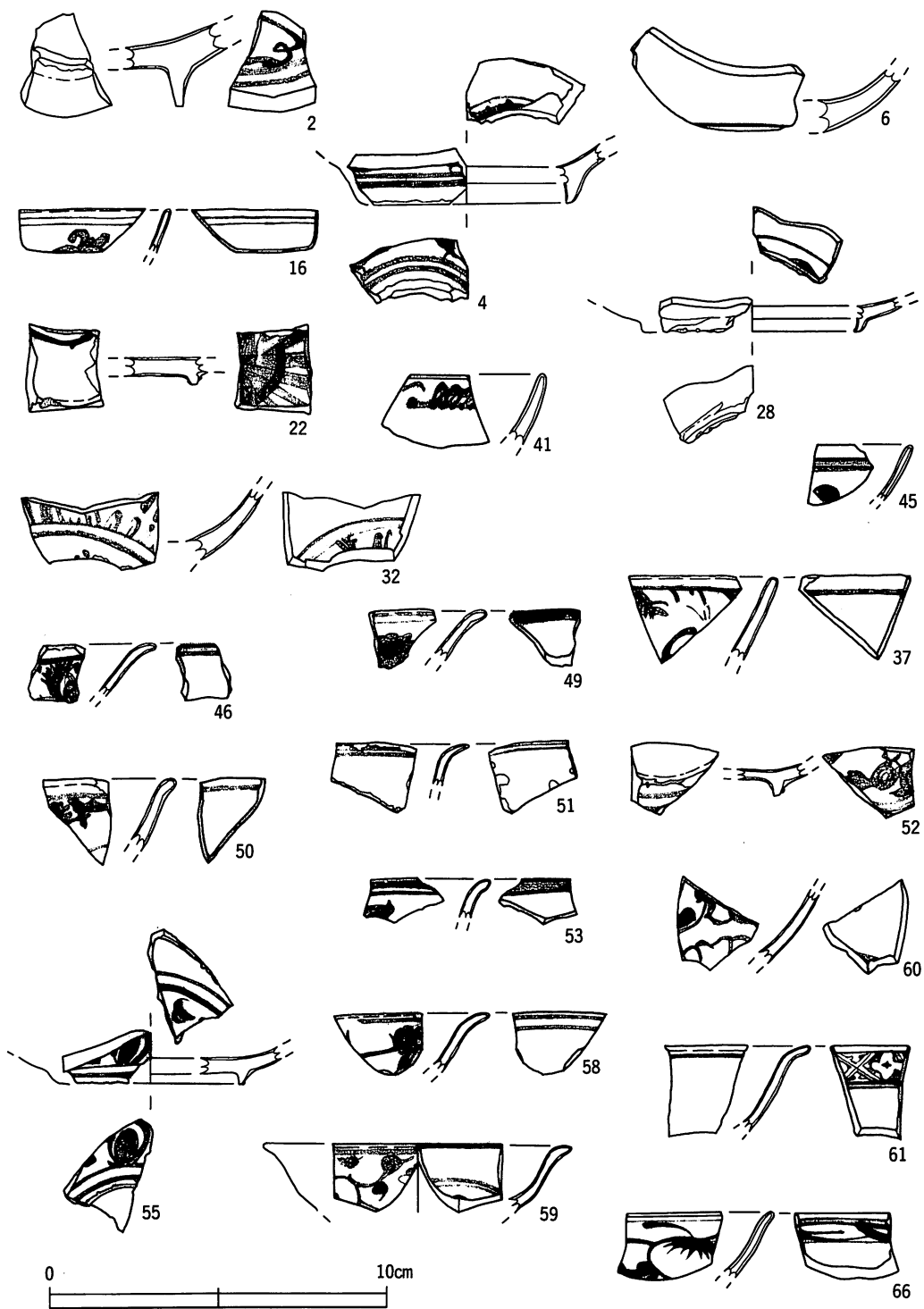
第54図 中世の遺物 5 (中国産磁器—青磁—)



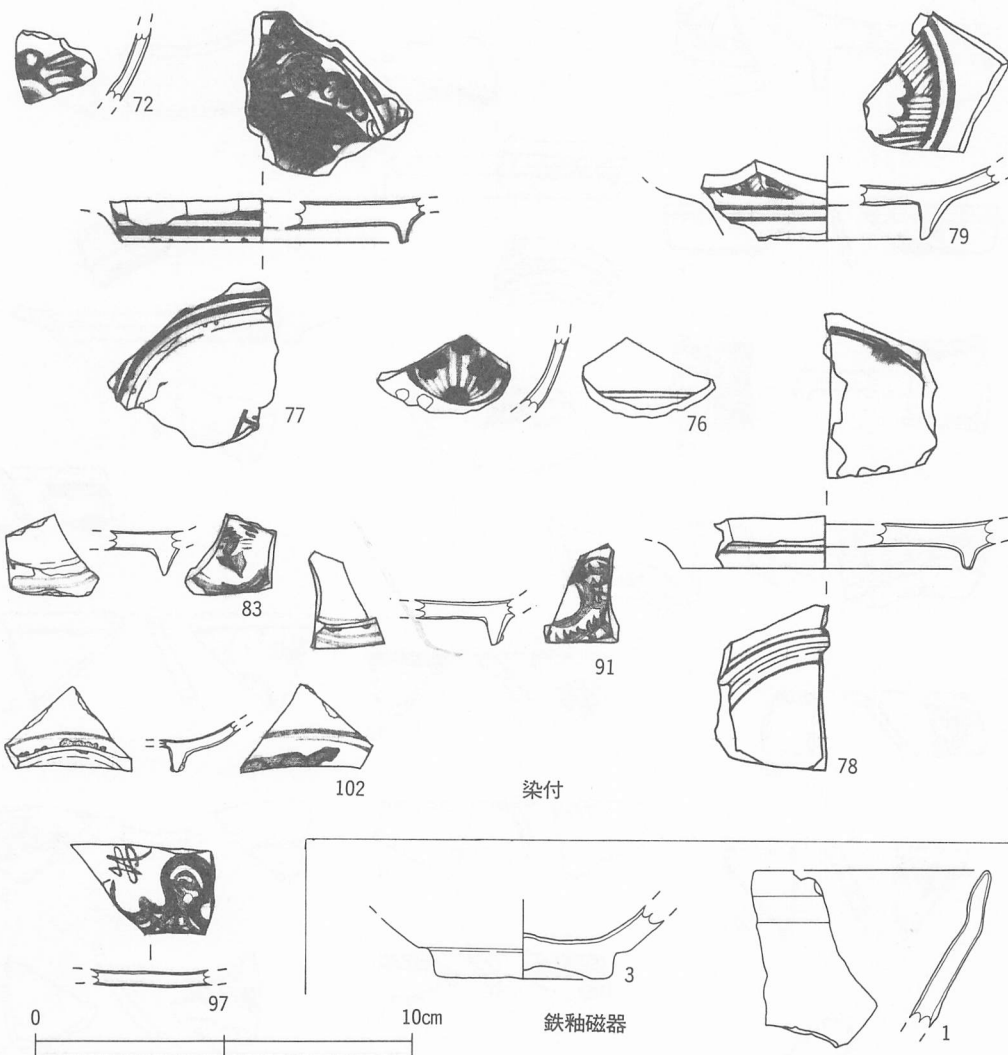
第55図 中世の遺物6 (中国産磁器—青磁—)



第56図 中世の遺物7 (中国産磁器-白磁・青白磁-)



第57図 中世の遺物 8 (中国産磁器—染付—)



第58図 中世の遺物9 (中国産磁器—染付・鉄釉—)

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV G10a	C区柱穴	埋土	盤	体下部~底部	(17.2)	2.4 2.3	淡緑	白	両面貫入、全面施釉後底部カキ取、火を受けている	
2	V Flj		表土下層	盤	体部		1.1	淡緑	白	内面貫入、No.1と同一個体	
3	V H4j	D1堀	埋土中位	盤	口縁部~体部		0.6	淡緑	灰白	焼成良好(D2号井戸出土遺物と接合)	
4	IV G10f		III層	香炉(算木文?)	口縁部		0.6	緑	灰白	僅かに貫入、口唇部内側に挽き出す、焼成良好	
5	IV F8j	C区柱穴	埋土	蓮弁文碗	高台脇~底部	8.0	1.7	緑	灰	焼成やや不良、高台全面施釉後外底円形カキ取	
6	IV g10e		検出面	蓮弁文碗	体下部		0.9	青味のある緑	淡灰白	小破片、焼成良好	
7	V G1f		II層	蓮弁文碗	体部		0.8	青味のある緑	淡灰白	釉厚い、焼成良好、火を受けている	
8	V F1i		表土	蓮弁文碗	体部		0.4	やや透明な緑	淡灰白	小破片、両面貫入	
9	V G1a		表土	蓮弁文碗	口縁部		0.4	やや透明な緑	灰白	小破片、両面貫入	
10	V G1e		表土	蓮弁文碗	体部		0.4	やや透明な緑	淡灰白	小破片、両面貫入	

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
11	V G1f		Ⅲ層	蓮弁文碗	体部			0.5	やや透明な緑	くすんだ灰白	小破片、両面貫入
12	V G1f	C3 堀	埋土	蓮弁文碗	体部			0.5	やや透明な緑	灰白	両面僅かに貫入
13	V G2f		表土	蓮弁文碗	体部			0.4	やや透明な緑	灰白	竜泉糸、焼成良好
14	V G2f		表土	蓮弁文碗	口縁部	(13.2)		0.4	透明な緑	淡灰白	3破片接合、両面貫入
15	IV G10f		Ⅲ層	蓮弁文碗	体部			0.6	くすんだ緑	灰	小破片、両面僅かに貫入
16	IV G10f		Ⅲ層	蓮弁文碗	体部			0.5	やや透明な緑	灰白	小破片、両面貫入
17	V G1h		表土	蓮弁文碗	口縁部			0.4	透明感のある緑	灰白	両面貫入
18	V G1j		表土	蓮弁文碗	体下部			0.9	やや青味のある緑	灰	両面僅かに貫入
19	V L5h	F4 堀	埋土	蓮弁文碗	口縁部			0.4	灰緑	灰	焼成良好
20	V H4j	D1 堀	埋土中位	蓮弁文碗	体部			1.2	若干くすんだ緑	灰白	両面貫入
21	V I3e		旧表土	蓮弁文碗	体部			0.5	淡緑	灰	両面貫入
22	V H1i	SD06	盛土中	蓮弁文碗	口縁部			0.4	淡緑	灰	焼成良好
23	V H5i		盛土中	蓮弁文碗	口縁部			0.6	淡緑	灰	焼成良好
24	IV F7g	C 区柱穴	埋土	碗	高台脇～底部		5.6	0.8	緑	灰	両面貫入、高台全面施釉後外底円形カキ取
25	IV F8h		表土	碗	高台	(7.1)		1.1	若干くすんだ緑	灰白	両面粗い貫入、竜泉糸、高台全面施釉、焼成良好
26	IV F9j		表土	碗	体部			0.6	緑	灰白	小破片、両面粗い貫入
27	IV F9j		表土	碗	体下部	(7.4)		0.7	青白	灰白	小破片、両面細かい貫入、焼成やや不良
28	IV F10j		表土	碗	体下部			0.6	若干くすんだ緑	灰白	竜泉糸、焼成良好
29	IV F10j		検出面	碗	高台～底部	(5.6)		0.8	淡緑	灰	高台施釉後高台内側釉のカキ取
30	IV G8a		表土	碗	口縁部	(14.2)		0.5	緑	灰	内面僅かに貫入、竜泉糸
31	IV G10f		表土	碗	体下部			1.3	くすんだ緑	灰白	竜泉糸
32	IV G10f	C3 堀	Ⅲ層	碗	体下部			1.1	若干くすんだ緑	灰白	竜泉糸、火を受けている
33	IV G10f	C3 堀	Ⅲ層	碗	体部			0.9	若干くすんだ緑	灰白	両面僅かに貫入、竜泉糸
34	IV G9a		表土	碗	体下部			0.9	くすんだ緑	くすんだ灰白	内面施文、竜泉糸
35	IV G10h		Ⅳ層	碗	体下部			0.8	緑	灰白	小破片、両面若干白濁、火を受けている
36	V F1j	C 区柱穴	埋土	碗	体下部～底部		7.0	1.1	僅かに青味をもつ緑	淡灰白	全面施釉後、外底は中心部を除き釉のカキ取
37	V G1a		表土	碗	体部			0.9	やや透明な緑	灰白	小破片
38	V G1e		表土	碗	体部			1.0	緑	灰白	外面僅かに貫入、火を受けている、竜泉糸
39	V G1f		Ⅱ層	碗	体下部～底部			1.5	くすんだ緑	淡灰白	竜泉糸、火を受けている
40	V G2f		Ⅱ層	碗	高台脇～底部	(4.8)		1.4	若干くすんだ緑	灰	両面白濁、両面貫入、全面施釉後外底カキ取
41	IV G10f		Ⅱ層	碗	体部			0.6	透明な緑	灰白	小破片、両面僅かに貫入、焼成良好
42	IV G10f		Ⅲ層	碗	体下部			0.7	くすんだ緑	褐色味のある灰白	2破片接合、両面貫入、焼成不良
43	V H1b		表土	碗	口縁部			0.4	くすんだ緑	灰白	小破片、竜泉糸
44	V H3F		表土	碗	体部			0.5	やや青味のある緑	灰白	小破片、釉の白濁
45	V H4d			碗	体下部			1.0	若干くすんだ緑	灰白	竜泉糸、両面貫入、焼成良好
46	V J4b		表土	碗	口縁部			0.5	若干くすんだ緑	灰白	焼成良好
47	V H3j	D1 堀	埋土	碗	底部		5.7	1.3	若干くすんだ緑	灰	高台全面施釉後外底円形カキ取
48	V I3a	D1 堀中段溝	埋土	碗	底部	(9.1)		0.6	淡緑	灰白	高台全面施釉、火を受けている
49	IV F9j		表土	碗	口縁部			0.5	緑	灰白	小破片、竜泉糸、火を受け焼成良好
50	IV F9i		表土	碗	体部			0.6	若干くすんだ緑	灰白	両面細かい貫入、火を受け、竜泉糸
51	V I5c	E1 溝	埋土	碗	体部			0.8	淡灰緑	灰白	小破片
52	IV F10j		検出面	碗	口縁～体下部			0.7	若干くすんだ緑	灰白	両面僅かに貫入、口唇部外反、竜泉糸
53	IV F8j		表土	稜花皿	体下部			0.6	灰緑	灰	両面僅かに貫入、No54と同一個体
54	IV F7j		表土	稜花皿	口縁～体中部			0.5	灰緑	灰	内面僅かに貫入、No53と同一個体
55	IV F10j		表土	稜花皿	口縁～体上部			0.5	淡緑	灰白	両面貫入、口唇部外反気味、No59と同一個体
56	IV F10j		表土	稜花皿	体上部			0.6	青白	灰	両面貫入、焼成やや不良
57	IV G8a		表土	稜花皿	口縁部			0.4	緑	灰	釉に白い濁り
58	IV G8a		表土	稜花皿	口縁～体下部			0.5	緑	灰	火を受け釉に濁り、焼成やや不良
59	IV G9a		表土	稜花皿	口縁部			0.5	淡緑	灰白	小破片、両面貫入、No55と同一個体
60	IV G10h		Ⅲ層	稜花皿	体下部			0.6	くすんだ緑	褐色気味灰白	2破片接合、両面細かい貫入
61	V G1d	C1 道路	埋土	稜花皿	体部			0.6	若干くすんだ緑	灰	小破片、両面貫入
62	V G2f		表土	稜花皿	口縁部			0.4	くすんだ緑	くすんだ灰白	両面白濁りあり
63	V G3f		検出面	稜花皿	口縁部			0.5	若干くすんだ緑	淡灰白	両面僅かに貫入
64	V G3g		表土	稜花皿	口縁部			0.4	若干くすんだ緑	灰白	両面細かい貫入
65	V G4g		表土	稜花皿	体部			0.6	若干くすんだ緑	灰白	外面僅かに貫入、外面段あり
66	V I3d		表探	稜花皿	口縁部			0.7	淡緑	灰白	両面貫入
67	V I3d	D1 堀	最下層	稜花皿	体部			0.6	灰白	灰	焼成不良
68	V I5h		表土	稜花皿	体部			0.7	若干くすんだ緑	灰	両面貫入

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
69	IV G8a	C区溝	埋土	ゴケ底ヒダ皿	口縁部			0.6	オリーブ褐	褐灰白	両面細かい貫入、火を受け、焼成不良
70	IV G10f	C3堀	埋土	ゴケ底ヒダ皿	口縁部			0.6	オリーブ褐	褐灰白	小破片、両面貫入、焼成不良、№69より薄手
71	IV G10f	C3堀	埋土	ゴケ底ヒダ皿	底部		5.4	0.7	オリーブ褐	褐灰白	小破片、両面貫入、外底中心部残、軸カキトリ№70同一
72	V G1a		表土	ゴケ底ヒダ皿	体下部～底部		(6.4)	0.7	オリーブ褐	褐灰白	両面貫入、火受、焼成不良、外底軸カキトリ№69同一
73	IV F9h		表土	皿	体部			0.5	淡灰緑	灰	小破片、両面僅かに貫入、竜泉系
74	IV G10a		表土	皿	口唇部			0.5	緑	灰白	小破片、内面貫入
75	IV G10f		Ⅲ層	皿	体部			0.5	緑	灰白	竜泉系、火を受けている
76	IV G9g		検出面	皿	体部			0.5	若干くすんだ緑	灰白	両面貫入
77	IV G9g		検出面	皿	口縁部			0.4	若干くすんだ緑	灰白	両面粗い貫入、口縁部直口
78	V F1j		検出面	皿	体部			0.5	僅かに青味をもつ緑	淡灰白	小破片、火を受けている
79	V G1e	C1道路	埋土	皿	高台盤～底部			0.8	青味のある緑	灰白	2破片接合、両面僅かに貫入、焼成良好
80	V G1f		Ⅲ層	皿	体部			0.5	若干くすんだ緑	灰白	小破片、両面貫入
81	V G1f		Ⅱ層	皿	体下部			0.8	くすんだ緑	淡灰白	両面白い濁りあり、火を受けている
82			I層	皿	底部			0.9	灰緑	灰	両面貫入、火を受けている
83	V G1f		Ⅱ層	皿(ヒダ)	体下部～底部	4.9		0.7	におい橙	におい黄橙	焼成不良、青磁か白磁か不明(ヒダ削られている)
84	IV G8a		表土	坏	口縁～体部	(12.9)		0.5	透明感のある緑	淡灰白	2破片接合、口唇部外反
85	IV f10j		表土	?	体下部			0.5	若干くすんだ緑	灰白	小破片、竜泉系、両面細かい貫入

表 8 白 磁

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV G10g		検出面	四耳壺	底			1.3	白	白	内外底軸のカキ取
2	IV F8j	C区柱穴	埋土	水柱?	底部			0.6	淡緑白	灰白	両面貫入
3	V H4d		表土	角皿	口縁部～底部			0.4	灰白	灰白	2破片接合
4	V H3i	D1堀	埋土	皿	体部			0.3	白	白	小破片
5			排土中	皿	体部			0.4	白	白	小破片
6	V I5a		表土	皿	体部			0.4	薄い灰色がかった白	淡灰白	小破片
7	V H2i		Ⅱ層	皿	体部			0.5	灰白	灰白	小破片
8	IV F7i		表土	皿(直口)	口縁部			0.4	白	白	外面僅かに貫入
9	IV G8a		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片
10	IV G10a		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片
11	IV G9c		表土	皿(直口)	体下部			0.4	白	淡灰白	内底見込み軸カキ取?
12	V F2i		表土	皿(直口)	口縁部			0.5	やや灰色味のある白	白	両面細かい貫入
13	V F1j		表土	皿(直口)	口縁部			0.4	淡黄白	淡黄白	小破片
14	V G2e		表土	皿(直口)	体部			0.3	白	白	小破片
15	V G2f		検出面	皿(直口)	口縁部	(9.7)		0.4	淡黄白	淡黄白	両面細かい貫入、焼成不良
16	V G3g		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片
17	IV G10g		Ⅲ層	皿(直口)	口縁部			0.3	淡黄白	淡黄白	小破片、両面貫入
18	V H2d	D区溝	埋土	碗	口縁部			0.3	淡黄白	淡黄白	土縁状口縁、小破片
19	V I5b		盛土中	皿(直口)	口縁部			0.2	灰白	灰白	口唇部内薄
20	I A8i		表土	皿(端反り)	口縁部			0.2	薄い灰色がかった白	淡灰白	小破片
21	IV F9d		表土	皿(端反り)	口縁部	(8.2)		0.3	薄い灰色がかった白	淡灰白	口縁ゆるく外反、口唇ゆるく外反気味に挽き出す
22	IV F9d		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片
23	IV F8h		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片、口唇ゆるく外反気味に挽き出される
24	IV F8i		表土	皿(端反り)	口縁部			0.2	白	白	小破片
25	IV F7j		表土	皿(端反り)	体上部			0.4	白	白	両面貫入
26	IV F7j		表土	皿(端反り)	口縁部	(9.3)		0.3	薄い灰色がかった白	淡灰白	口縁部下部に段あり
27	IV F7j		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	灰白	灰白	外面にロクロ目残る
28	IV F8j	C区柱穴	埋土	皿(端反り)	口縁部	12.6		0.3	黒色斑点ある灰白	淡灰白	口唇部の一部に砂付着
29	IV F9j		表土	皿(端反り)	口縁部			0.4	白	白	小破片
30	IV F10j		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	薄い灰色がかった白	淡灰白	口唇部緩く外反気味に挽き出す
31	IV G8a		表土	皿(端反り)	口縁部	(10.8)		0.3	黒色斑点ある灰白	淡灰白	口唇部端部平らに調整
32	IV G8a		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片
33	IV G8a		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	灰白	灰白	小破片、外面僅かに貫入
34	IV G8a		表土	皿(端反り)	体部			0.3	灰白	淡灰白	小破片、両面貫入
35	IV G8a		表土	皿(端反り)	体上部			0.3	薄い灰色がかった白	淡灰白	小破片
36	IV G8a	C区柱穴	埋土	皿(端反り)	口縁部	(11.3)		0.3	白	白	口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
37	IV G8a	C区柱穴	埋土	皿(端反り)	口縁部			0.3	灰白	白	小破片
38	IV G9a		表土	皿(端反り)	高台盤～底部	(6.5)		0.4	白	白	壺付部露胎、砂付着
39	IV G9a		表土	皿(端反り)	口縁部	(11.0)		0.3	白	白	口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
40	IV G9c		表土	皿(端反り)	体下部			0.4	薄い灰色がかった白	白	外面に小さいふくらみあり

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
41	IV G10c		表土	皿(端反り)	口縁部~体部	(11.2)		0.4	黒色斑点のある白	白	4破片接合
42	IV G10c		表土	皿(端反り)	体下部			0.3	灰白	白	外面に若干ふくらみあり
43	IV G9f	C3堀	埋土	皿(端反り)	体部			0.4	灰白	淡灰白	小破片
44	IV G10f	C3堀	埋土	皿(端反り)	体部			0.3	灰白	白	小破片
45	IV G10f	C3堀	埋土	皿(端反り)	口縁部			0.4	白	灰白	口唇部僅かに外反
46	IV G10f	C3堀	埋土	皿(端反り)	体上部			0.4	灰白	淡灰白	2片接合、外面に小さい穴数個あり
47	IV G10f	C3堀	埋土	皿(端反り)	体下部~底部		7.0	0.4	白	白	2片接合、疊付部露胎、砂付着
48	IV G10h		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片
49	V F2j		表土	皿(端反り)	高台脇~底部	(6.9)		0.5	白	白	2片接合、疊付部露胎、砂付着
50	V F2j		表土	皿(端反り)	高台脇~底部	(5.6)		0.3	白	白	疊付部露胎、砂付着
51	V G1a		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	黒色斑点のある白	灰白	小破片
52	V G1d		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	灰白	淡灰白	小破片
53	V G3d	C区柱穴	埋土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	外面に小さいコブ状のふくらみあり
54	V G1e		表土	皿(端反り)	高台脇~底部			0.4	白	白	疊付部露胎
55	V G2e		表土	皿(端反り)	口縁部	(11.5)		0.4	黒色斑点のある灰白	灰白	2破片接合、口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
56	V G2e		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	口紅あり
57	V G1f		II層	皿(端反り)	口縁部			0.2	白	白	小破片、口唇部端部平らに調整
58	V G1f	C3堀	埋土	皿(端反り)	体下部~底部	(7.5)		0.4	黒色斑点のある白	灰白	疊付部露胎
59	V G2f		表土	皿(端反り)	体下部			0.4	灰白	灰白	小破片
60	V G3f		II層	皿(端反り)	体下部			0.4	黒色斑点のある白	淡灰白	2破片接合
61	IV G10f		III層	皿(端反り)	体部			0.3	黒色斑点のある白	灰白	小破片
62	IV G10f		III層	皿(端反り)	体下部			0.4	黒色斑点のある白	灰白	小破片
63	V G1i	C5溝	表土	皿(端反り)	高台脇~底部			0.4	白	白	疊付部露胎
64	V G3h		II層	皿(端反り)	口縁部			0.3	黒色斑点のある白	淡灰白	小破片
65	IV G9b	検出面	皿(端反り)	口縁部				0.3	黒色斑点のある白	淡灰白	小破片
66	IV G10j	検出面	皿(端反り)	口縁部				0.3	灰白	灰白	小破片
67	V16h		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	黒色斑点のある白	灰白	小破片、口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
68	V K3c		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	灰白	白	小破片、口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
69			排土中	皿(端反り)	口縁部			0.3	濃い灰色がかった白	淡灰白	小破片、口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
70	V K3h	E2堀	埋土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
71	V K3d	E偽虎口	埋土	皿(端反り)	口縁部			0.2	白	白	小破片、口唇部薄く外反気味に挽き出す
72			排土中	皿(端反り)	底部			0.3	淡黄白	淡黄白	疊付部露胎、砂付着
73	V15h		I層	皿(端反り)	口縁部			0.3	灰白	灰白	小破片
74	V16c		表土	皿(端反り)	口縁部			0.2	白	白	小破片
75	V G3f		表土	皿(端反り)	口縁部			0.4	淡黄白	淡黄白	外面ロ口段あり、口唇部ゆるく外反気味に挽き出す
76	IV G8a		表土	皿	口縁部			0.4	やや緑味のある白	淡灰白	小破片
77	I A8i		表土	皿・?	高台脇~高台			0.4	濃い灰色がかった白	淡灰白	小破片、疊付部露胎
78	IV F7i		表土	皿・?	体部			0.4	白	白	小破片
79	IV F7i		表土	皿・?	体部			0.6	白	白	小破片
80	IV F8i		表土	皿・?	体部			0.4	黒色斑点ある灰白	淡灰白	小破片
81	IV F8i		表土	皿・?	体部			0.4	白	白	小破片
82	IV F7j		表土	皿・?	高台脇~底部			0.3	白	白	疊付部露胎
83	IV F7j		表土	皿・?	体下部			0.5	白	白	小破片、内面わずかに貫入
84	IV G8a		表土	皿・?	体下部			0.4	白	白	小破片、内面細かい貫入
85	IV G8a		表土	皿・?	高台			0.7	白	白	小破片、疊付部露胎
86	IV G8f		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
87	IV G9g	検出面	皿・?	体部				0.3	白	淡灰白	小破片
88	IV G10g		表土	皿・?	体部			0.4	白	淡灰白	小破片
89	V F1j		表土	皿・?	高台脇~底部			0.4	やや灰色味のある白	灰白	疊付部露胎
90	V F2j		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
91	V G1a		表土	皿・?	体下部~高台脇			0.4	白	白	高台脇に砂付着
92	V G1a		表土	皿・?	体部			0.3	灰白	淡灰白	小破片
93	V G1a		表土	皿・?	底			0.3	白	白	小破片
94	V G1e		表土	皿・?	体部			0.3	灰白	淡灰白	小破片
95	V G2e		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
96	V G2f		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
97	V G2f		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
98	V G3f		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
99	V G2g		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
100	V G3g		表土	皿・?	体部			0.3	白	白	小破片
101	V G1c		表土	碗	高台			0.4	白	白	小破片
102	V G1f		表土	碗	高台脇~底部			0.4	淡黄白	淡黄白	高台脇~底部露胎、見込に貫入

表9 青白磁

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV G8a		整地層	皿	体下部			0.3	青白	灰白	小破片、菊花形、底部・見込露胎
2	V G1f	C3堀	埋土	皿	口縁~体下部			0.4	青白	灰白	菊花形、No.1と同一個体
3	IV F10i		表土	梅瓶	体部			0.4	青白	灰白	小破片、外面僅貫入、内面薄釉細かい貫入
4	IV F10i		整地層	梅瓶	体部			0.6	青白	灰白	小破片、外面僅貫入、内面薄釉細かい貫入
5	IV G9f	C3堀	埋土	梅瓶	体部			0.4	青白	灰白	内面薄く釉かかる
6	IV G10f	C3堀	埋土	梅瓶	体部			0.4	青白	灰白	内面薄く釉かかる
7	IV G10f		埋土	梅瓶	体部			0.7	青白	灰白	内面薄く釉かかる
8	IV G9g		検出面	梅瓶	体部			0.6	青灰	灰白	外面僅かに貫入、内面薄い釉
9	V F1h		整地層	梅瓶	体部				青白	灰白	小破片、外面粗い貫入、内面薄い釉
10	V F2i		表土	梅瓶	体部			0.4	青白	灰白	外面粗い貫入、内面薄い釉やや不良
11	V G3f	C3堀	埋土	梅瓶	体部			0.8	青白	灰白	小破片、内面薄い釉
12	V G3f		表土	梅瓶	体部			0.4	青白	灰白	小破片、内面薄い釉
13	V L5h	F1道路	埋土	梅瓶	肩部			0.5	青白	灰白	外面貫入、内面薄い釉

表10 染付

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV G9e		表土	碗	高台脇~底部			0.6	白	白	疊付部除き全面施釉、疊付部に砂付着
2	V G1a	C区柱穴	埋土	碗	高台脇~底部			0.8	白	白	疊付及び高台内外面一部露胎、内底貫入
3	V G1f	C3堀	埋土	碗	底部			0.9	白	白	小破片
4	IV H10f		皿層	碗	高台脇~高台	(7.2)		0.5	やや青味のある白	白	疊付露胎、両面僅かに貫入
5	IV H10h		表土	碗	体下部			0.5	灰白	白	両面僅かに貫入、具須濁る
6	V 14j		表土	碗	体部			0.7	白	灰白	内面火を受けている
7	C区	Cl土塁		皿(直口)	口縁部			0.3	やや青味がかつた白	白	小破片、火を受けている
8	IV F7i		表土	皿(直口)	口縁部			0.4	灰白	黄白	小破片、焼成不良
9	IV F9j		表土	皿(直口)	体下部			0.5	白	白	焼成良好
10	IV G10b		表土	皿(直口)	体部			0.3	白	白	焼成良好
11	IV G9c		表土	皿(直口)	体部			0.3	白	白	小破片、外面貫入
12	IV G9e		表土	皿(直口)	体部			0.3	白	白	小破片、両面貫入
13	IV G9f		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片
14	IV G9f	C3堀	埋土	皿(直口)	体部			0.4	褐灰白	褐灰白	両面細かい貫入、焼成不良
15	IV G10f		表土	皿(直口)	口縁部			0.5	褐灰白	黄白	両面貫入
16	IV G10f	C3堀	埋土	皿(直口)	口縁部			0.2	白	白	焼成良好
17	IV G10f	C3堀	埋土	皿(直口)	体下部			0.5	白	白	小破片、焼成良好
18	IV G10g		表土	皿(直口)	体下部			0.3	白	白	小破片、焼成良好
19	IV G10g		検出面	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片
20	IV G9h		II層	皿(直口)	口縁部			0.2	白	白	小破片
21	V F2j		表土	皿(直口)	体部			0.4	灰白	黄白	小破片、両面貫入
22	V F2j		整地層	皿(直口)	高台~底部			0.5	白	白	疊付部砂付着、火を受けている
23	V G1a		表土	皿(直口)	底部			0.5	白	白	小破片、両面細かい貫入
24	V G1a		表土	皿(直口)	体下部			0.5	やや青味のある白	白	小破片、両面細かい貫入
25	V G1a		表土	皿(直口)	口縁部			0.2	白	白	小破片
26	V G1a		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片、焼成良好
27	V G2e		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	褐灰白	黄白	小破片、両面僅かに貫入
28	V G1f		表土	皿(直口)	体下部~高台	(6.4)		0.3	白	白	疊付部砂付着、焼成良好
29	V G1f		表土	皿(直口)	体下部~底部			0.3	白	白	疊付部砂付着、焼成良好
30	V G1f	C3堀	埋土	皿(直口)	体部			0.5	やや青味のある白	黄白	小破片、両面細かい貫入
31	V G3d	C区柱穴	埋土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片、火を受けている
32	V G1f	C3堀	埋土	皿(直口)	体下部			0.7	灰白	黄白	高台脇に砂付着
33	V G2f		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片
34	V G2f		表土	皿(直口)	口縁部			0.2	白	白	小破片
35	V G2f		表土	皿(直口)	口縁部			0.4	褐灰白	褐灰白	両面細かい貫入、焼成不良、No.14と同一個体
36	V G3f		表土	皿(直口)	高台部			0.3	白	白	小破片、疊付部露胎
37	V G3f		表土	皿(直口)	口縁部			0.4	やや青味のある白	白	釉・具須ともに濁りあり
38	V G3g		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	やや青味のある白	白	小破片
39	V G4g		表土	皿(直口)	口縁部			0.4	褐灰白	黄白	外面僅かに貫入
40	V H3f		表土	皿(直口)	口縁部			0.2	白	白	小破片
41	D区		表探	皿(直口)	口縁部			0.4	白	白	両面細かい貫入
42	V K6b		表土	皿(直口)	口縁部			0.3	白	白	小破片
43	E区		排土中	皿(直口)	口縁部			0.2	白	白	小破片
44	V J7c		表土	皿(直口)	口縁部			0.5	白	白	口縁部内湾気味
45	V I5i		表土	皿(直口)	口縁部			0.2	白	白	小破片
46	IV F8h		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	やや青味がかつた白	白	小破片、内面貫入

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
47	IV F7i		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	やや青味がかつた白	白	小破片、火を受けている
48	IV F8i		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	褐灰白	黄白	小破片
49	IV F9i		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	外面貫入
50	IV F7j		表土	皿(端反り)	口縁部			0.4	褐灰白	黄白	両面僅かに貫入
51	IV F7j		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	焼成良好
52	IV F9j		表土	皿(端反り)	高台～底部			0.4	褐灰白	黄白	両面僅かに貫入、疊付部に砂付着
53	IV G9a		検出面	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	両面細かい貫入
54	IV G10e		表土	皿(端反り)	体部			0.3	白	白	小破片
55	IV G10f	C3堀	埋土	皿(端反り)	体下部～底部		(6.3)	0.5	やや青味のある白	白	疊付及び外底露胎、両面貫入
56	V G1a		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片
57	V G2c		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片
58	V G1e	C1道路	埋土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	焼成良好
59	V G1f	C3堀	埋土	皿(端反り)	口縁部	9.2		0.3	白	白	焼成良好
60	V G1f	C3堀	埋土	皿(端反り)	体下部			0.4	白	白	焼成良好
61	V G3f	C3堀	埋土	皿(端反り)	口縁部			0.3	淡灰白	白	釉・具須ともに濁りあり
62	V G1h		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片
63	V G2h		表土	皿(端反り)	体下部			0.5	白	白	両面細かい貫入
64	IV VG区		表土	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	小破片、両面僅かに貫入
65			表探	皿(端反り)	口縁部			0.4	白	白	小破片
66	V K6g		表探	皿(端反り)	口縁部			0.3	白	白	焼成良好
67	IV G9h		表土	皿(ゴケ底)	体下部～底部			0.5	白	白	疊付部露胎、両面貫入
68	V G2e		表土	皿(ゴケ底)	体下部～底部			0.5	白	白	疊付部露胎
69	IV F5e	C1切岸	表土	皿	体下部～底部	(7.0)		0.4	白	白	疊付部除き全面施釉
70	IV F8i		表土	皿	体下部			0.3	白	白	小破片、焼成良好
71	V G2e		表土	皿	体部			0.3	白	白	小破片
72	V H1h		表土	皿	体部			0.4	白	白	小破片
73	V J4a		表土	皿	体部			0.5	白	白	小破片
74	V J4a		表土	皿	体部			0.3	白	白	小破片
75	V K3d	E偽虎口	最下層	皿	底部			0.5	白	白	外底全面施釉
76	V I6h		表土	皿	体部			0.4	白	白	小破片
77	V L5a		盛土中	皿	底部	(7.6)		0.7	白	白	疊付部除き全面施釉、疊付部砂付着
78	V H1h		表土	皿	底部	(7.7)		0.6	白	白	疊付部砂付着、全面施釉
79	V I6c	E1溝	埋土	皿	底部	(5.6)		0.5	白	白	疊付露胎
80	E区		排土中	皿	体部				白	白	小破片
81	V K3h	E2堀	埋土	皿	体部			0.5	白	白	小破片
82	D区		排土中	皿	体部			0.4	白	白	小破片
83	IV F7i		表土	皿?	高台～底部			0.5	白	白	両面貫入、疊付部除き全面施釉
84	IV F8i		表土	皿?	高台～底部			0.4	白	白	疊付部除き全面施釉
85	IV F10i		表土	皿?	体部			0.5	白	白	小破片
86	IV F10j		表土下	皿?	体下部			0.5	白	白	小破片、焼成良好
87	IV G8a		表土	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
88	IV G10a		表土	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
89	IV G9c		表土	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
90	IV G9f		II層	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
91	IV G10f	C3堀	埋土	皿?	高台～底部			0.4	白	白	両面細かい貫入、疊付部除き全面施釉
92	IV G10f		埋土	皿?	体下部			0.7	褐灰白	黄白	小破片、両面貫入
93	IV G10g		検出面	皿?	体部			0.3	白	白	小破片、両面僅かに貫入
94	V G1a		表土	皿?	高台			0.5	白	白	小破片、疊付部露胎
95	V G2e		表土	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
96	V G2f		表土	皿?	体下部			0.5	白	白	小破片
97	V G2h		表土	皿?	体下部			0.4	白	白	両面僅かに貫入
98	V G2h		表土	皿?	高台～底部			0.4	黄白	白	外底施釉
99	V G2h		表土	皿?	体部			0.7	白	白	小破片
100	V G2h		表土	皿?	高台～底部			0.5	白	白	小破片、外底に具須・施釉
101	V G2i		検出面	皿?	高台露～底部			0.2	白	白	小破片、外底に施釉
102	V H3f		表土	皿?	体下部～底部			0.3	白	白	疊付露胎、疊付砂付着、焼成良好
103	V H3f		表土	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
104	V H3f		表土	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
105	V H3f		表土	皿?	体部			0.3	白	白	小破片
106	V G2e		表土	皿?	体下部			0.6	白	白	小破片
107	V G1f		III層	皿?	体下部			0.4	褐灰白	黄白	小破片
108	V H02d	DP47	埋土	皿?	体部			0.4	白	白	小破片、両面貫入
109	V H1d	D区溝	埋土	皿?	体下部～底部			0.5	灰白	白	両面細かい貫入、外底に施釉
110	V H3g			皿?	体部			0.3	白	白	小破片

表11 鉄釉磁器

No	出土位置	遺構	層位	器種	部位	口径	底径	器厚	釉調	胎土	調整
1	IV F9j		表土	天目茶碗	口縁部～体中部			0.6	口縁コゲ茶、体部黒	灰白	口縁部内湾、焼成良好
2	V H3f		表土	天目茶碗	口縁部			0.5	コゲ茶	灰白	小破片、No.1と同一個体
3	V H3f		表探	天目茶碗	高台露～底部		4.6	0.6	黒に茶	灰	削り出し高台、底は浅く削る

2. 石製品 (第 59～63 図、写真図版 19・20)

石製品は 27 点が出土した。1～8 は砥石で偏平なもの 3 点、台形柱状 1 点、角柱状 2 点、三角柱状 1 点、六角柱状 1 点があり、すべて C 区から出土した。1・3・6 は表裏 2 面、多角形のもの は全面が使用され、4・6 は使いべりが激しい。9～14 は石臼で 9 は受皿のついた下臼である。上面はかたべりし、摩滅のため目の刻みは残っていない。このほか下臼の受皿部小破片 1 点がある。10～13 の上臼は中心を貫通した原料供給口があるが、14 は中心に芯棒受けがあり、供給口は中心からずらして穿孔している。上臼下面は放射型に目の溝を刻んでいるが、10 は摩滅して目の刻みが残っていない。10・11 では側面に対応して 2 カ所の挽き木の打込孔がある。12 では残存する側面に打込孔が 1 カ所認められ、菱形模様の彫刻がなされている。10 と 11 は焼け焦げ、D 2 号井戸跡出土であることから対の可能性がある。形態から 9～13 は茶臼、14 は粉挽き臼と思われる。15～22 は石鉢である。15～19 は天然の円礫を用い、外面はほとんど加工調整されず、底部は丸い。17～19 は内側の削りは浅く、19 の内面は凸凹が著しい。20～22 は比較的内外面とも丁寧に調整加工され、18・20～22 の底部は平坦で座りがよい。

3. 漆器・木製品 (第 64～66 図、写真図版 21)

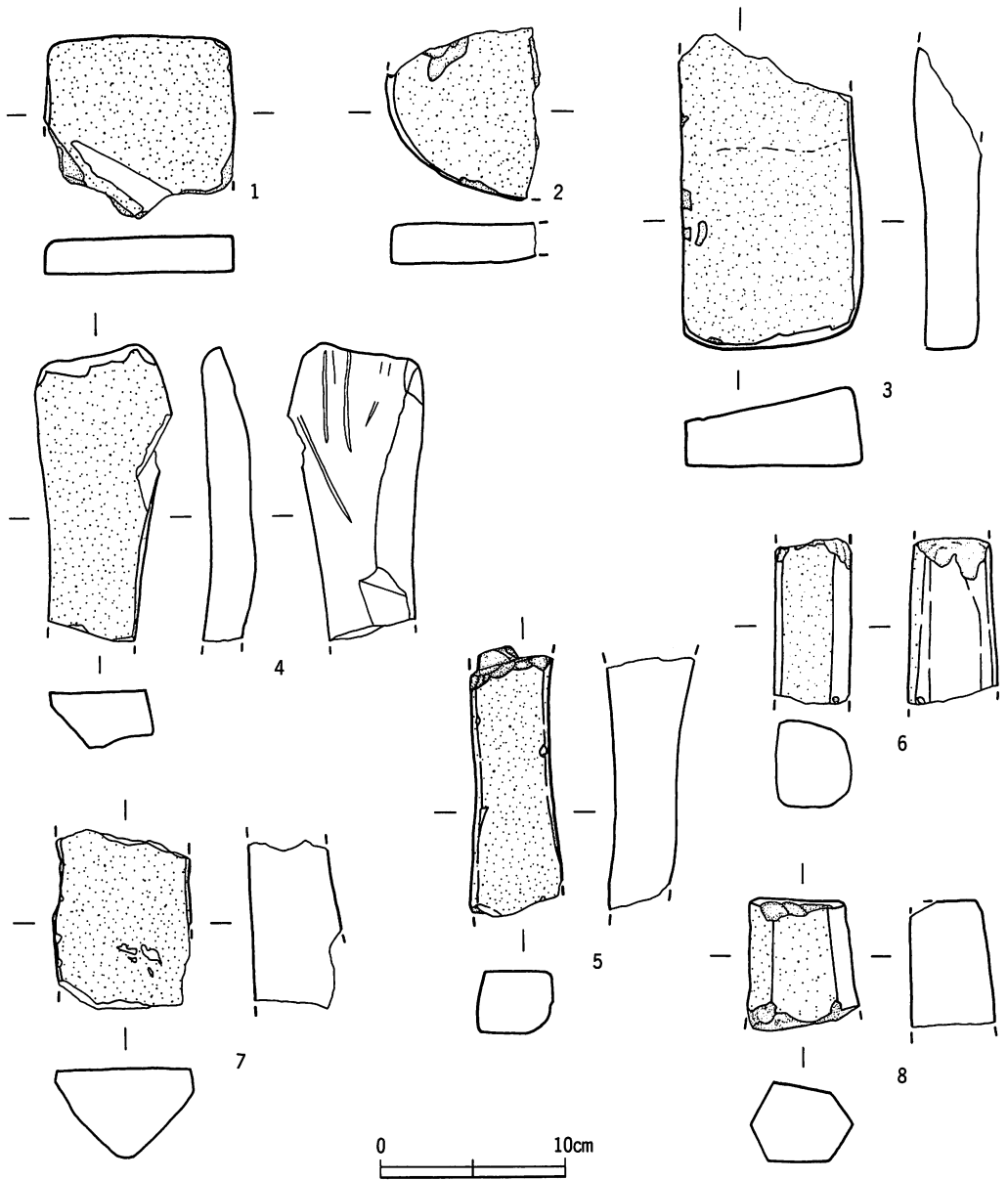
漆器は 5 点出土した。1～4 は漆器椀、3 は高台部分である。1・2 の内面は下地黒漆に赤漆を重ね、外面は黒漆、3 は内外面とも黒漆、4 は内面に赤漆、外面には下地黒漆の上に赤漆で木葉を描いている。5 の板状製品は一面は赤漆、一面は下地黒漆に赤漆を重ね塗りしている。

木製品は堀跡と井戸跡から 8 点出土した。6・7 は底板、8 は曲物である。8 a の側板は樹皮で縫い合わせる作りで、縫い合わせの穴が 3 カ所あることから 2 重巻、その間は約 33 cm を測る。遺存する樹皮が途切れていることから器高は 9 cm 以上あったと思われる。8 b は底板で側面は斜めに仕上げられ、最大円周は約 33.6 cm を測る。8 a・b は出土地点が同じことと大きさが一致することから同一個体と思われる。9 は板状製品である。欠損しているが、残存形態から魚形の形代と思われる。10～12 は木杭である。10・11 は雑木の先端部のみ加工しているが、12 は基部を差し込みできるように細く加工している。13 は D 区の柱穴 599 に遺存していた柱木である。

4. 銭貨・金属製品 (第 67～69 図、写真図版 22・23)

銭貨は C 区で 2 枚、D 区で 1 枚出土し、いずれも初鑄 1408 年の中国産(明)の永樂通寶である。

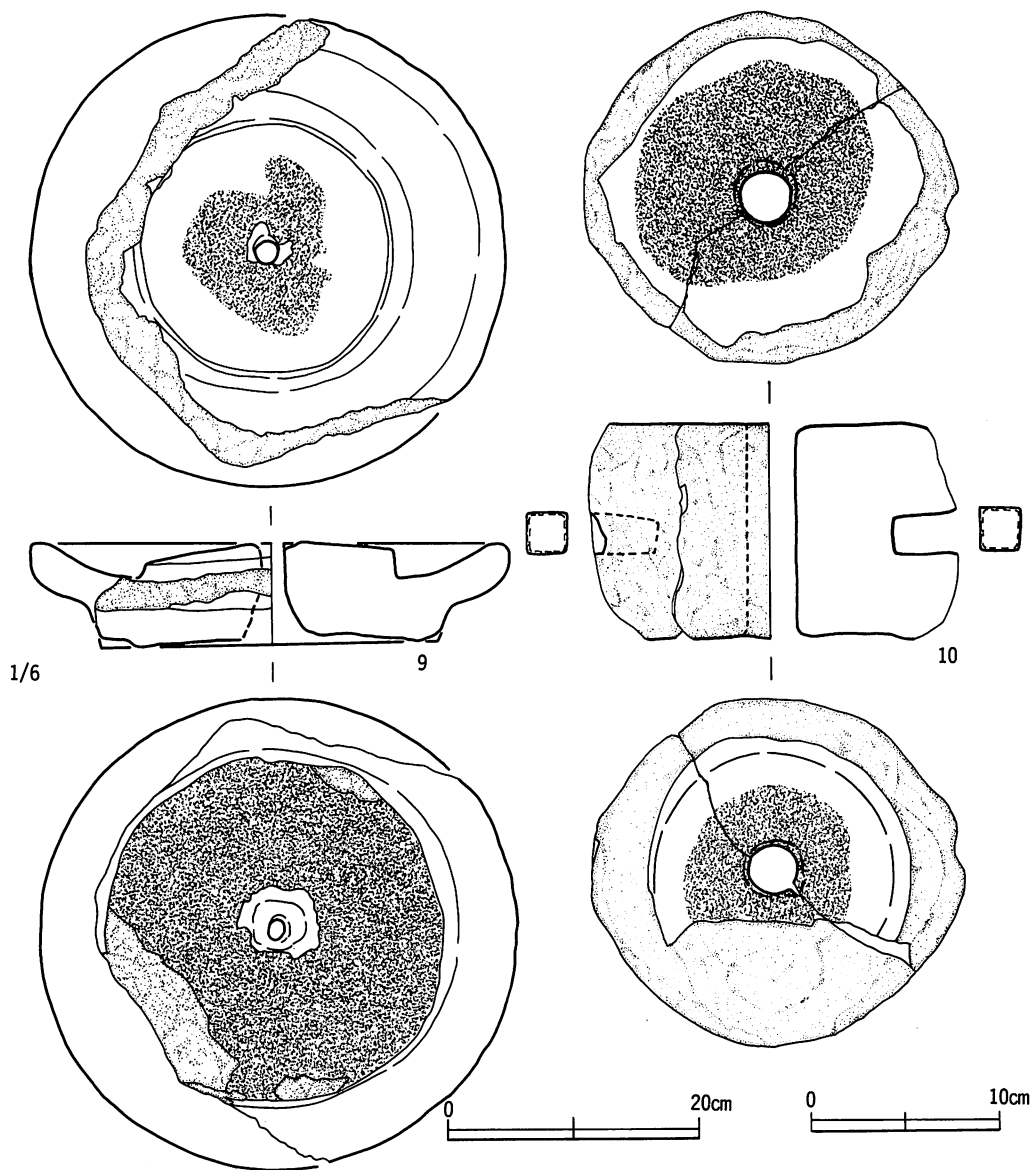
金属製品は 57 点が出土した。鉄滓、形態不明の小破片(鍋?)を除く 26 点を図示した。1 は刃渡りは 22.2 cm の短刀である。研ぎべりのためか刀身の先端半分が細い。2 は小柄の柄と思われる銅製品である。4・5 は鉈で、4 は切っ先に突起があるいわゆるハナ付鉈である。5 も欠損しているが切っ先に突起のあった痕跡が認められる。ハナ付鉈は日本海沿岸から東北南部に分布し、その普及は中世後半以降と見られている。6～9 は角釘である。10～21 は鍋の部品である。10 はつる、11～13 は耳、13 は内耳である。22 は銅鏡であるが腐食が激しく模様は不明である。



石製品 1

図写番	出土地点	遺構	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質
1	IVF8h	C1号切岸	表土	砥石	<7.5>	7.9	1.5	<124.7>	細砂質凝灰岩
2	VG1f		II層	砥石	<7.0>	<6.3>	1.7	<89.0>	細砂質凝灰岩
3	C区	溝	埋土	砥石	<12.7>	7.3	3.2	<390.0>	斜長石流紋岩
4	IVG10f	C3号堀	3層	砥石	<12.0>	5.6	2.4	<175.5>	細砂質凝灰岩
5	VG1f	C3号堀	埋土	砥石	<11.1>	3.7	3.6	<181.6>	細砂質凝灰岩
6	IVG10f	C3号堀	3層	砥石	<6.8>	3.8	3.2	<137.9>	細砂質凝灰岩
7	VG3f	C3号堀	埋土	砥石	<7.4>	5.8	3.7	<201.9>	細砂質凝灰岩
8	IVG9j		表土	砥石	<5.4>	4.6	3.6	<132.1>	細砂質凝灰岩

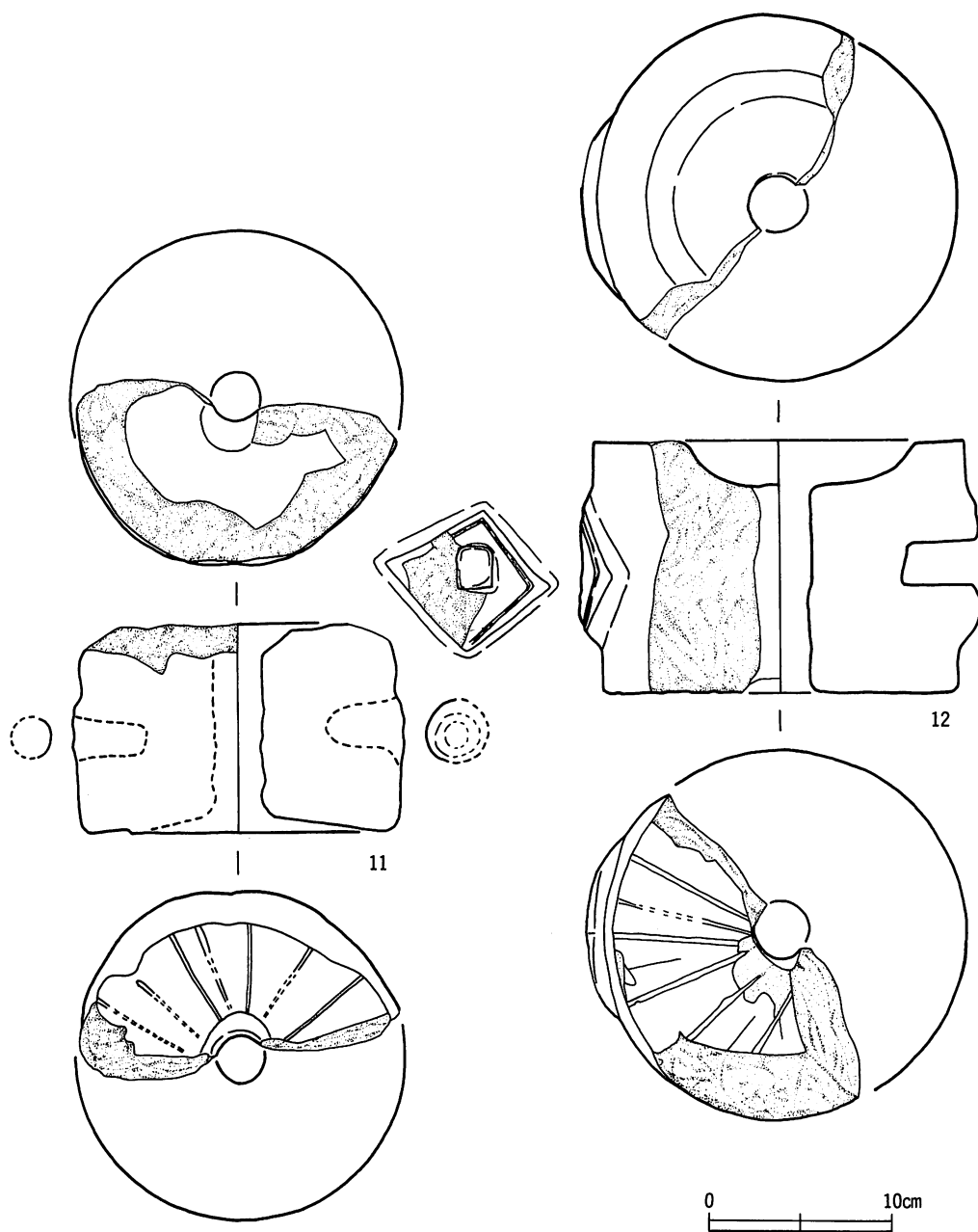
第59図 中世の遺物10 (石製品-砥石-)



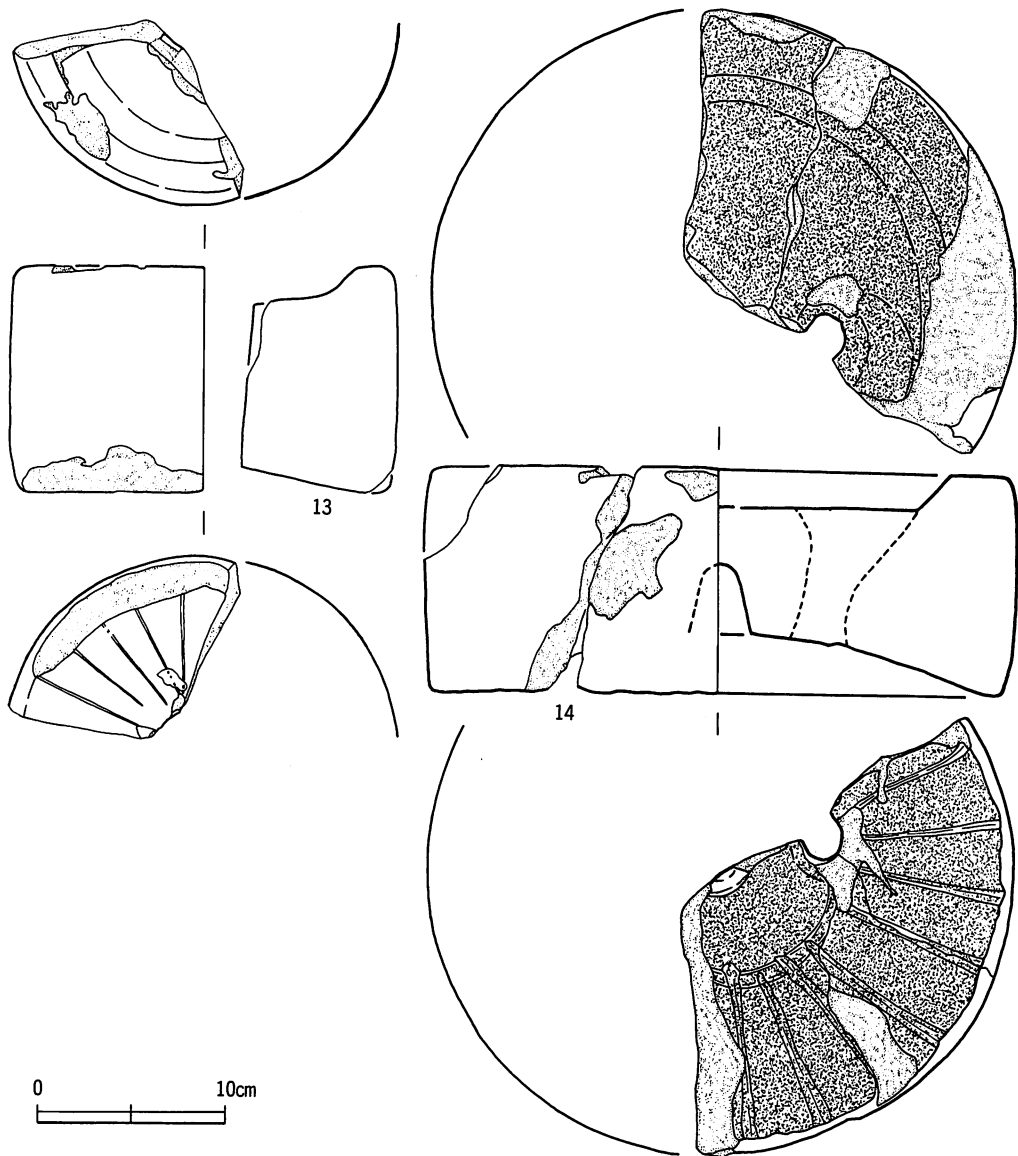
石製品 2

図写番	出土地点	遺構	層位	器種	径(cm)	厚さ(cm)	重さ(kg)	石質
9	IVH9a	D2号井戸	S1	石臼(下)	<38.0>	8.0	<7.9>	デイサイト
10	IVH9a	D2号井戸	S16	石臼(上)	<19.9>	11.6	<2.7>	角閃石デイサイト
11	VK3d		表土	石臼(上)	<17.9>	<11.5>	<2.2>	デイサイト
12	VK4c	E偽虎口	2層	石臼(上)	<20.0>	14.2	<4.1>	デイサイト
13	VH4f		表土	石臼(上)	<20.5>	11.8	<1.6>	デイサイト
14	VG1d		表土	石臼(上)	<31.4>	11.6	<2.8>	角閃石デイサイト

第60図 中世の遺物11 (石製品-石臼-)



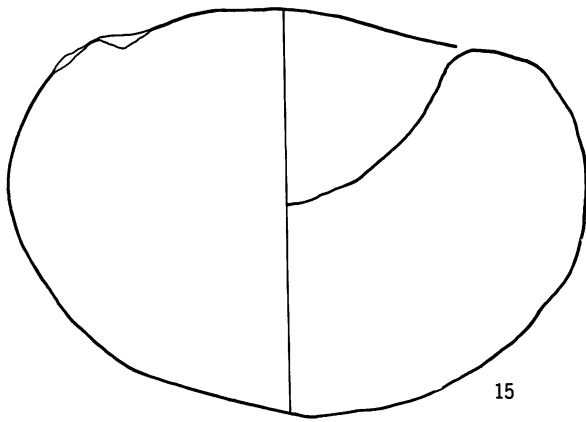
第61図 中世の遺物12 (石製品-石臼-)



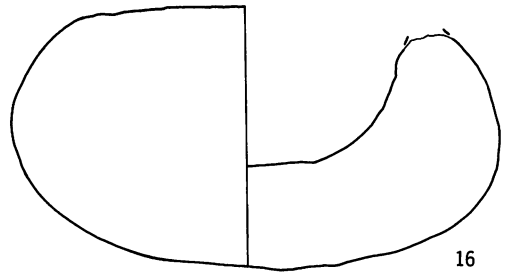
石製品 3

図写番	出土地点	遺構	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	石質
15	VG1d		表土	石鉢	31.0	<21.2>	21.6	<10.16>	普通輝石紫蘇輝石安山岩
16	D区	表採		石鉢	26.3	<20.8>	13.8	<6.95>	輝石安山岩
17	VG3f	C3号堀	埋土	石鉢	25.0	<17.8>	12.8	<7.0>	角閃石デイサイト
18	IVF6f	C1号堀	最下層	石鉢	25.9	<18.2>	15.9	<9.36>	普通輝石紫蘇輝石安山岩
19	VG1d		表土	石鉢	24.6	<19.4>	16.2	<6.64>	角閃石デイサイト
20	IVH9a	D2号井戸		石鉢			<14.1>	<1.25>	デイサイト
21	VJ3d	E6号堀	底面	石鉢	<25.6>		13.0	<1.19>	輝石安山岩
22	D区?	柱穴	埋土	石鉢			<3.1>	<0.43>	角閃石デイサイト

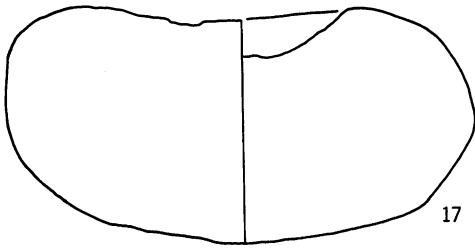
第62図 中世の遺物13 (石製品-石臼-)



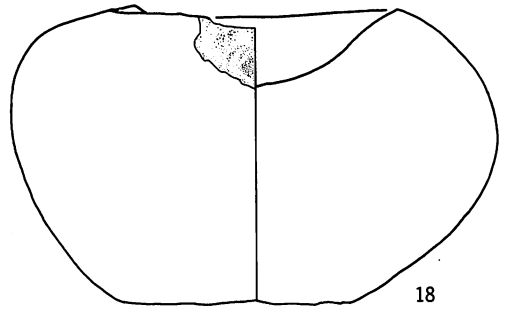
15



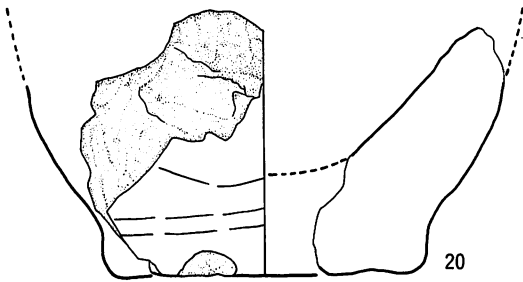
16



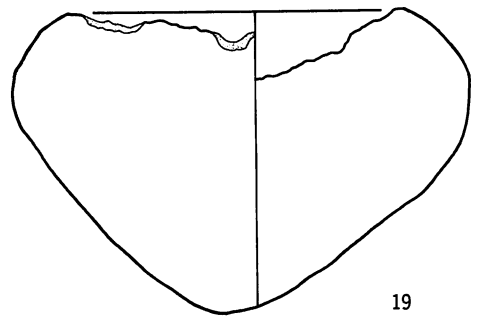
17



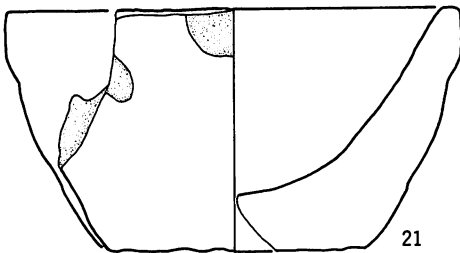
18



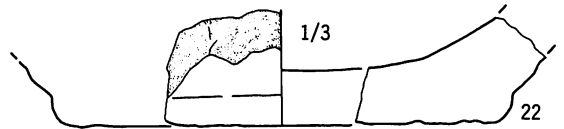
20



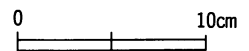
19



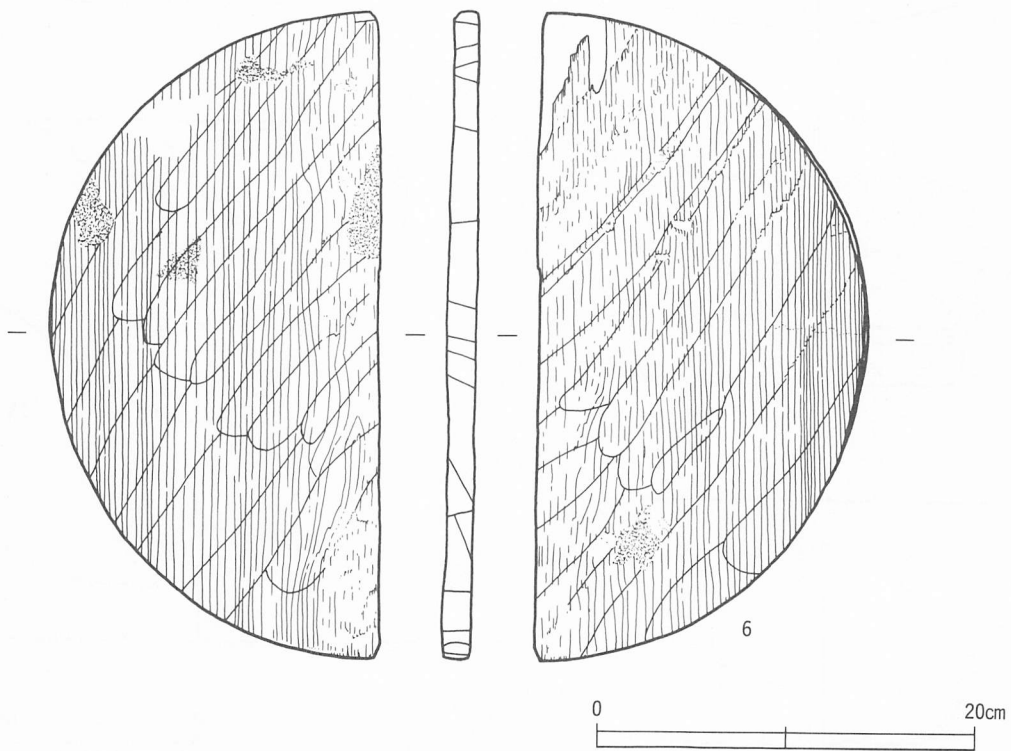
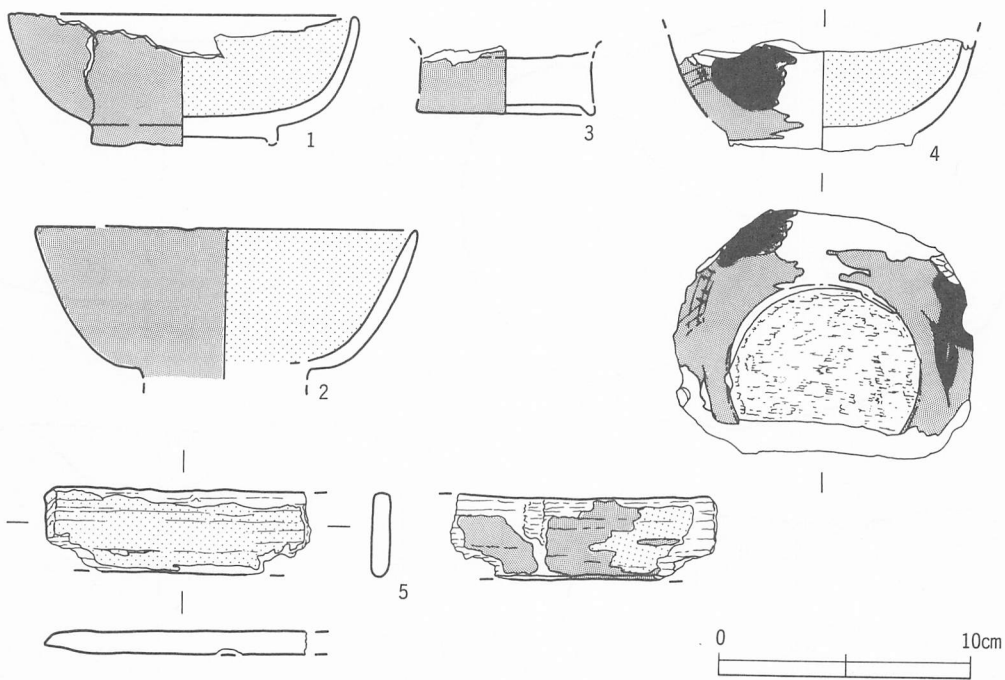
21



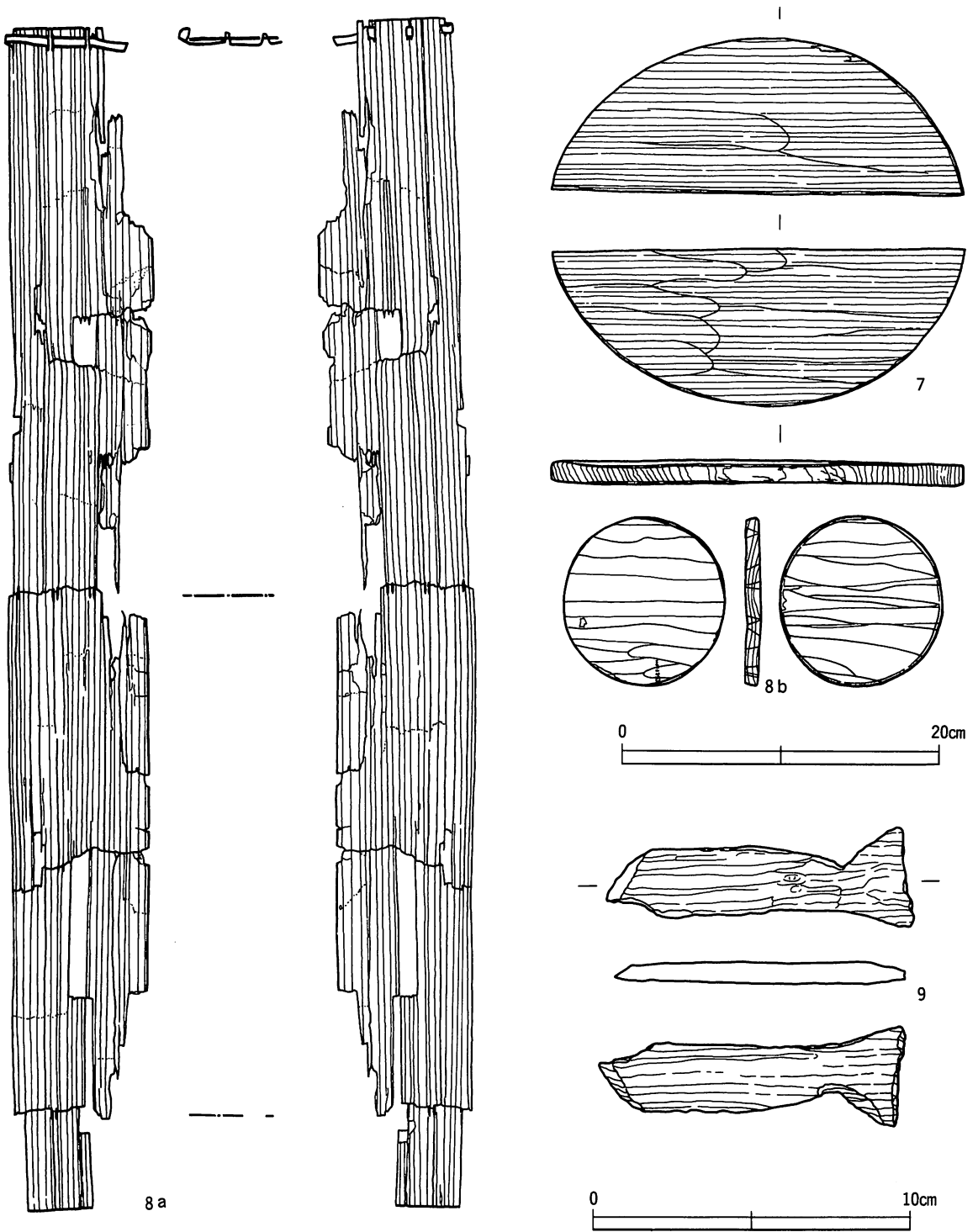
22



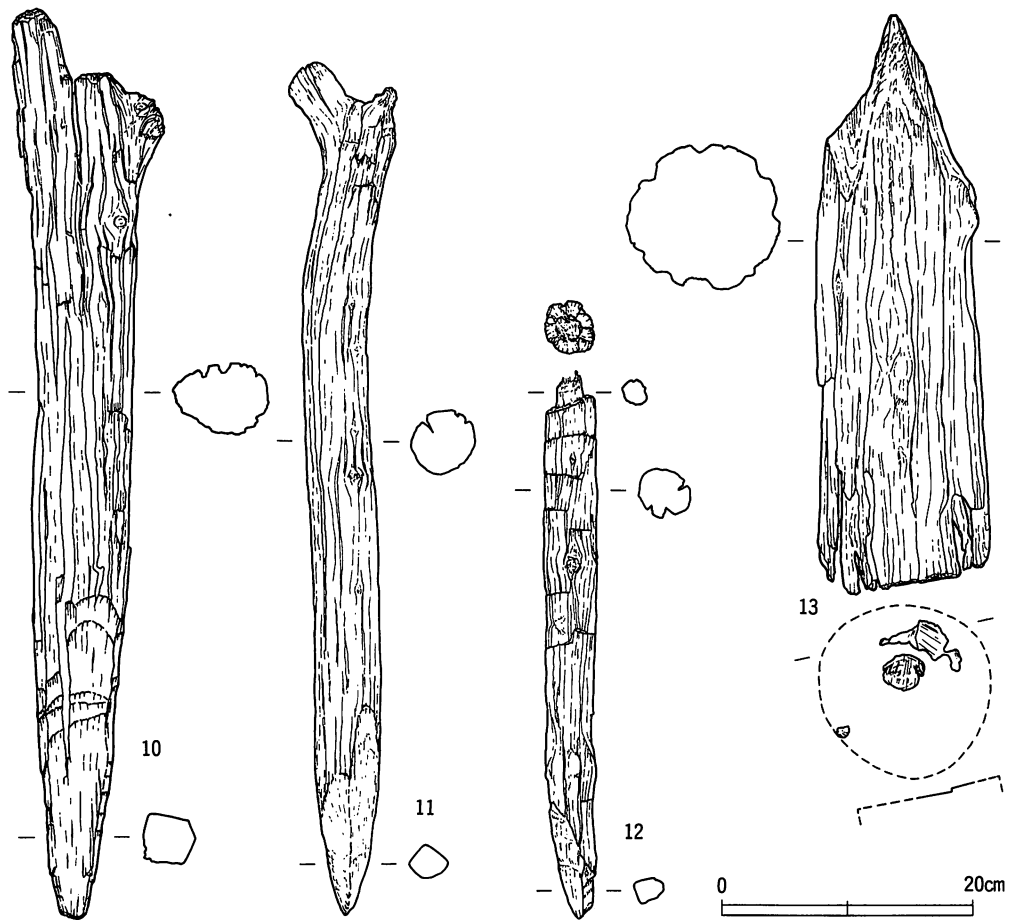
第63図 中世の遺物14 (石製品-石鉢-)



第64図 中世の遺物15 (木製品)



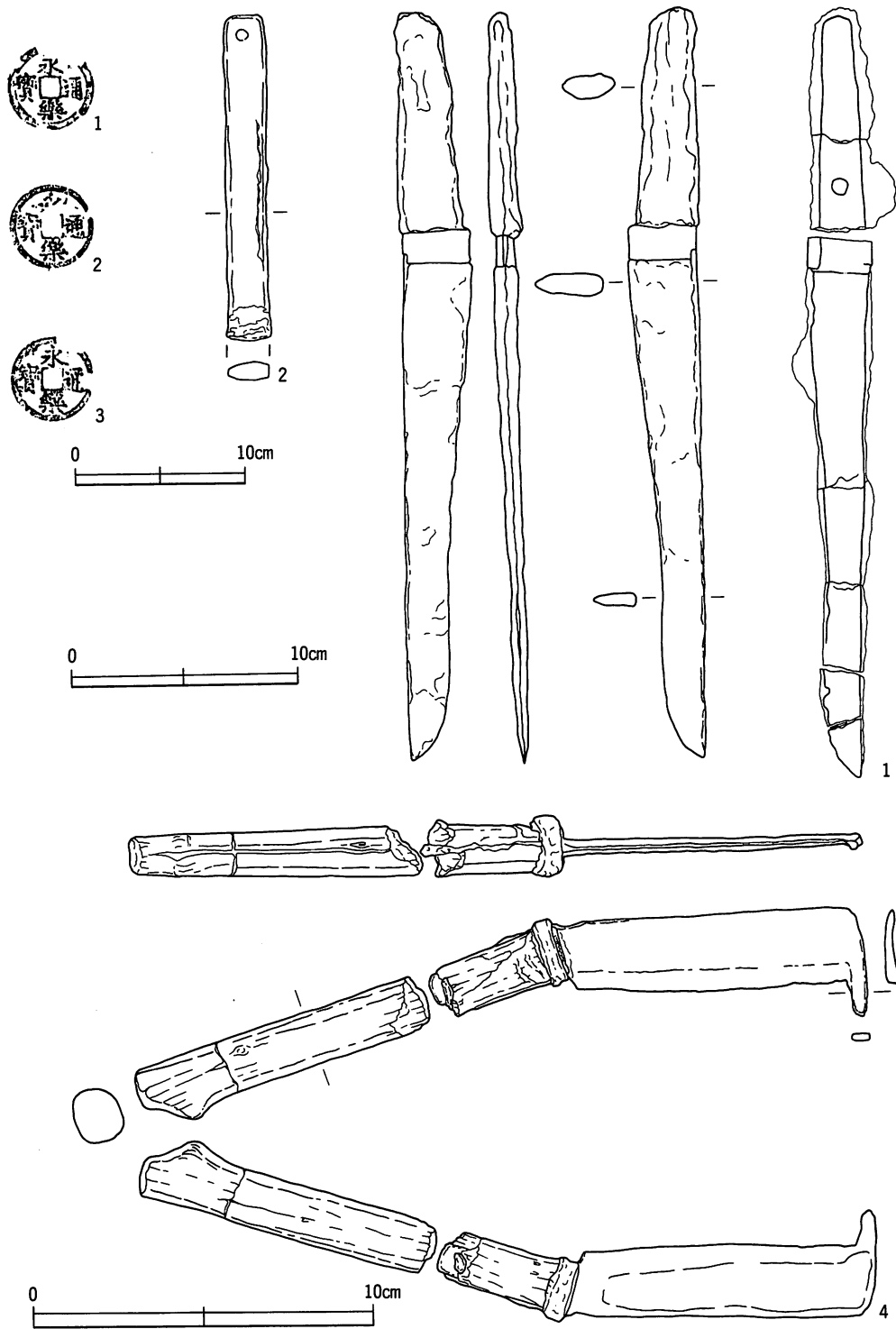
第65図 中世の遺物16 (木製品)



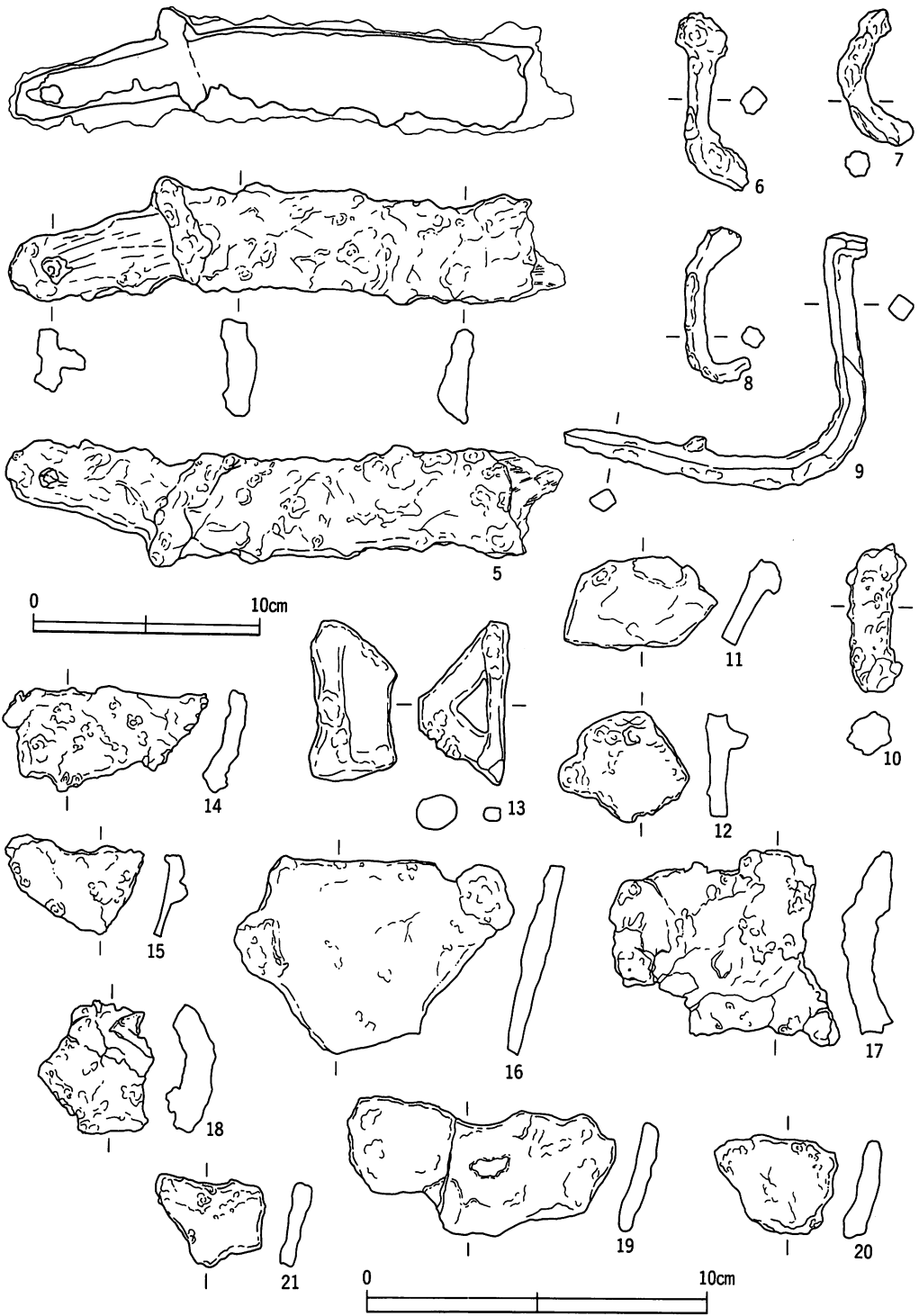
木製品

図番	出土地点	遺構	層位	器種	口径・長さ(cm)	高さ・幅(cm)	底径・厚さ(cm)	樹種名
1	IVH9a	D2井戸	埋土中位	漆器椀	径14.0	器高5.2	径7.6	ブナ属の一種
2	IVH9a	D2井戸	C4	漆器椀	径<15.4>	器高<6.1>	径<6.6>	ブナ属の一種
3	IVH9a	D2井戸	埋土中位	漆器椀		器高<2.7>	径7.2	ブナ属の一種
4	VJ4f	E12土坑	検出面	漆器椀		器高<4.4>	径<7.7>	ケヤキ
5	VJ4f	E12土坑	検出面	漆小板	<7.0>	<2.3>	0.6	スギ
6	IVH9a	D2井戸	C24	桶底板	径33.5	<17.5>	1.7	ヒノキ属の一種
7	IVH9a	D2井戸	C5	桶底板	径21.7	<8.4>	1.2	スギ
8 a	IVF9a	D2井戸	C6	曲物	75.1	<9.0>	0.15	ヒノキ属の一種
8 b	IVF9a	D2井戸	C6	曲物(底板)	10.7		1.0	ヒノキ属の一種
9		C1堀	埋土	形代?	<9.75>	<3.1>	0.75	アスナロ
10	IVH9a	D2井戸	C9	木杭	73.7		12.0	クリ
11	IVH9a	D2井戸	C8	木杭	67.2		8.5	クリ
12	IVH9a	D2井戸	埋土	木杭	44.6		4.2	クリ
13	VH3c	DP599		柱木	<46.8>		<13.8>	ヒノキ属の一種

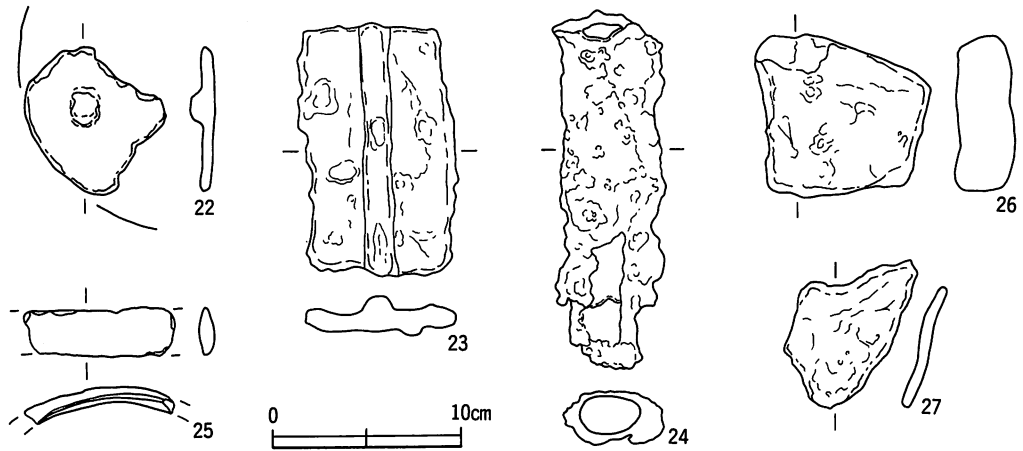
第66図 中世の遺物17 (木製品)



第67図 中世の遺物18 (金属製品)



第68図 中世の遺物19 (金属製品)



古銭

No.	出土地点	遺構	層位	種類	径(mm)	重さ(g)	初鑄年代	産地
1	VG1e	C1道路	埋土	永楽通寶	24	<1.65>	1408	中国(明)
2	VG1f	C3堀	埋土	永楽通寶	24	<1.16>	1408	中国(明)
3		D5堀	埋土	永楽通寶	24	<2.56>	1408	中国(明)

No.	出土地点	遺構	層位	材質	器種	部位	長さ	幅	厚さ	重さ
1	VG2h	C5溝	検出面	鉄	短刀		34.2	2.8	0.8	173.3
2	IVG10f	C3堀	3層	銅	小柄	柄	<9.7>	1.1	0.5	18.4
3	IVG10f	C3堀	3層	鉄	刀子?	刀身部?	<5.6>	1.7	0.6	9.7
4	IVH9a	D2井戸	底面	鉄	ナタ		43.2	11.4	0.8	340.0
5	IVG9j	C区	表土下	鉄	ナタ		24.7	5.4	1.1	375.0
6	VG1a	C1竪穴	床面	鉄	釘	頭~身部	5.2	0.7	0.6	12.1
7	VG2e	C1道路	埋土	鉄	釘	身部	4.0	0.9	1.2	7.4
8	IVF8j		表土	鉄	釘	身部	4.6	0.6	0.6	6.7
9	VG3f		表土下	鉄	釘	完形	8.9	0.9	0.7	36.8
10	VG2c	柱穴	埋土	銅	鍋	つる	<4.4>	1.7	1.0	8.5
11	VG2f			鉄	鍋	耳部	<4.3>	<2.8>	0.5	22.5
12	VG2c	柱穴	埋土	銅	鍋	耳	<3.3>	<3.3>	1.1	17.2
13	IVF7j		表土	鉄	鍋	内耳	4.8	2.5		34.0
14	VG2c	柱穴	埋土	鉄	鍋	口縁部	<6.0>	<3.2>	0.5	25.4
15	VG1b		検出面	鉄	鍋	口縁部	4.1	3.0	0.2	8.5
16	IVG8a		表土	鉄	鍋	口縁部	<8.2>	<5.8>	0.7	63.9
17	VG2c	柱穴	埋土	銅	鍋	体部	<6.2>	<5.8>	0.8	52.1
18	VG2c	柱穴	埋土	銅	鍋	体部	<4.0>	<3.4>	0.8	17.0
19	VG3c		表土	鉄	鍋	体部	<7.9>	<4.2>	0.5	46.2
20	VG2e		表土	鉄	鍋	体部	3.6	3.0	0.6	15.6
21	VG3g		表土	鉄	鍋	体部	<3.2>	<2.8>	0.8	10.9
22	VG4g		表土	銅	鏡		<3.9>	<3.7>	0.3	16.2
23	IVG8a		表土	鉄	小札?		6.8	4.3	1.0	30.1
24	VF9i	柱穴	埋土	鉄	管状製品?		<9.6>	2.8	1.3	36.2
25	VG1f	C3堀	埋土	銅	不明		<4.0>	1.3	0.4	8.9
26	VG2f		検出面	鉄	不明		<4.5>	<4.3>	1.5	73.4
27	IVG10c		表土	銅	不明		<3.9>	<3.5>	0.3	18.9

第69図 中世の遺物20 (金属製品)

VI 自然科学的分析

(1)金ヶ崎町松本館跡出土材の樹種同定結果報告 -94・95年度-

高橋利彦 (木工舎「ゆい」)

1. 試料

試料は No1~15 で、No.1,2 は B 区井戸跡埋土から検出された先端を削った丸木で杭と考えられるものである。No.3 は C 区堀跡 C1 埋土から検出された小材片で形代と考えられている。いずれも中世のものとされる。No.4 (曲物) は側板と底板の 2 部材に a,b の枝番をつけたため試料数は 16 点となる。試料は中世中頃あるいは中世? のものとされる井戸跡や土坑などから検出された木製品・加工材で、漆塗椀や曲物などの日用品や柱・杭の建築・土木材などである(表 1 参照)。

2. 方法

剃刀の刃を用いて試料の木口・柾目・板目の 3 面の徒手切片を作成、ガム・クロラル (Gum Chloral) で封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。同時に顕微鏡写真図版 (図版 1、2、3) も作製した。なお作製したプレパラートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料は以下の 6 Taxa (分類群。ここでは属・種の異なった階級の分類単位を総称している) に同定された。試料の主な解剖学的特徴や原生種の一般的な性質は次のようなものである。なお、各 Taxon の科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物 木本 I・II」(1989) にしたがった。また、一般的性質などについては「木の事典 第 1 巻~第 17 巻」(1979~1982) も参考にした。

・アスナロ (*Thujaopsis dolabrata*) ヒノキ科 No.3

早材部から晩材部への移行は緩やかで、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔は小型でヒノキ型~スギ型で 1~6 個。放射組織は単列、1~15 細胞高。

アスナロは本州・四国・九州に分布する日本特産の常緑高木で、時に植栽される。北海道 (渡島半島以南)・本州北部には変種ヒノキアスナロ (ヒバ) (*T.dolabrata* var. *hondai*) がある。材はやや軽軟で保存性は高い。建築・土木・家具・器具材など各種の用途が知られている。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科 No.1,2,12,13,14

環孔材で孔圏部は 1~4 列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形~円形、小道管は単独および 2~3 個が斜 (放射) 方向に複合、横断面では角張った楕円形~多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放

射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単（～2）列、1～25細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、樹木や海苔粗朶などの用途が知られている。

・スギ (*Cryptomeria japonica*) スギ科 No.9,15

早材部から晩材部への移行は急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はスギ型で(Taxodioid)で2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では現在ヒノキに次ぐ植林面積をもち、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樽桶類・舟材など各種の用途がある。

・ヒノキ属の一種 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科 No.4a,4b,10,11

早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型(Cupressoid)で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

ヒノキ属にはヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) とサワラ (*C. pisifera*) の2種がある。ヒノキは本州（福島県以南）・四国・九州に分布し、また各地で植栽される常緑高木で、国内では現在植林面積第1位の重要樹種である。材はやや軽軟で、加工は容易、割裂性は大きい強度、保存性は高い。建築・器具材など各種の用途が知られている。サワラは本州（岩手県以南）・九州に自生し、また植栽される高木で多くの園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが、耐水性が高いため樽や桶にするほか各種の用途がある。

・ブナ属の一種 (*Fagus* sp.) ブナ科 No.6,7,8

散孔材で管孔は単独または放射方向に2～3個が複合。横断面では多角形、管壁はやや薄く、分布密度は高い。道管は単穿孔および段(bar)数が10前後の階段穿孔をもち、壁孔は大型で対列状～階段状に配列、放射組織との間では網目状となる。放射組織は同性～異性型、単列・数細胞高のものから複合組織までである。柔組織は短接線状および散在状。年輪界は明瞭～やや不明瞭。

ブナ属にはブナ (*Fagus crenata*) とイヌブナ (*F. japonica*) の2種がある。ブナは北海道南西部（黒松内低地帯以南）・本州・四国・九州に、イヌブナは本州（岩手県以南）・四国・九州の主として太平洋側に分布する。イヌブナのほうがブナより低標高地から生育し、またブナのような大群落をつくることはない。ブナは日本の冷温帯落葉樹林を代表する樹木で、かつて

は東日本の山地に広く生育していた。材はやや重硬で、強度は大きい加工はそれほど困難ではなく、耐朽性は低い。木地・器具・家具・薪炭材などの用途があったが、最近では各種の用途に用いられている。

・ケヤキ (*Zelkova serrata*) ニレ科 No.5

環孔材で孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線~斜方向の文様をなす。大道管は管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独、小道管は管壁はやや薄く、横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性型、1~10細胞幅、1~30細胞高であるが時に60細胞高を越える。しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにも達する。材はやや重硬で、強度は大きい加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途が知られ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つに上げられる。

以上の同定結果を出土遺構や推定される用途・所属年代とともに一覧表で示す(表1)。

表1 松本館跡出土材の樹種

試料番号	出土遺構	用途	種名
1	B 1 井戸	杭	クリ
2	B 1 井戸	杭	クリ
3	C 1 堀	形代?	アスナロ
4 a	D 2 井戸	曲物底板	ヒノキ属の一種
4 b	D 2 井戸	同上底板	ヒノキ属の一種
5	E 12 土坑	漆塗椀	ケヤキ
6	D 2 井戸	漆塗椀	ブナ属の一種
7	D 2 井戸	漆塗椀	ブナ属の一種
8	D 2 井戸	漆塗椀	ブナ属の一種
9	D 2 井戸	底板(小)	スギ
10	D 2 井戸	底板(大)	ヒノキ属の一種
11	D P 599	柱	ヒノキ属の一種
12	D 2 井戸	杭	クリ
13	D 2 井戸	杭	クリ
14	D 2 井戸	杭	クリ
15	E 12 土坑	板	スギ

4. 考察

漆塗椀は中世中頃のものとするが、IV H9a D2 井戸跡出土の3点はいずれもブナ属に、E12

土坑出土の1点はケヤキに同定された。当時はブナ属（ブナ）製の漆器が多用されたようで、仙台市今泉城跡1）（木村・内藤 1983）や同市中田南遺跡2）（高橋 1994）出土試料からも類例が報告されている。一方、試料よりやや古い時期のものとなるが、平泉町柳之御所跡第23次・31次調査出土試料ではケヤキの用例が多い3）（既報）。この違いは時期の違いによるもののようにもみえるが、遺跡の性格にも違いがあるようで、検討の余地があると思う。

曲物は側板・底板ともヒノキ属に同定された。また曲物や桶など円形容器の底板とみられる試料（No.9・10）もスギとヒノキ属であった。両 Taxa の材はともに木理が通直で割裂性が大きく薄手の幅広板が得やすいことと、広葉樹材に比して材が均質なことからこれらの針葉樹が選択されたものと思われ、現行の用材とも通ずる。

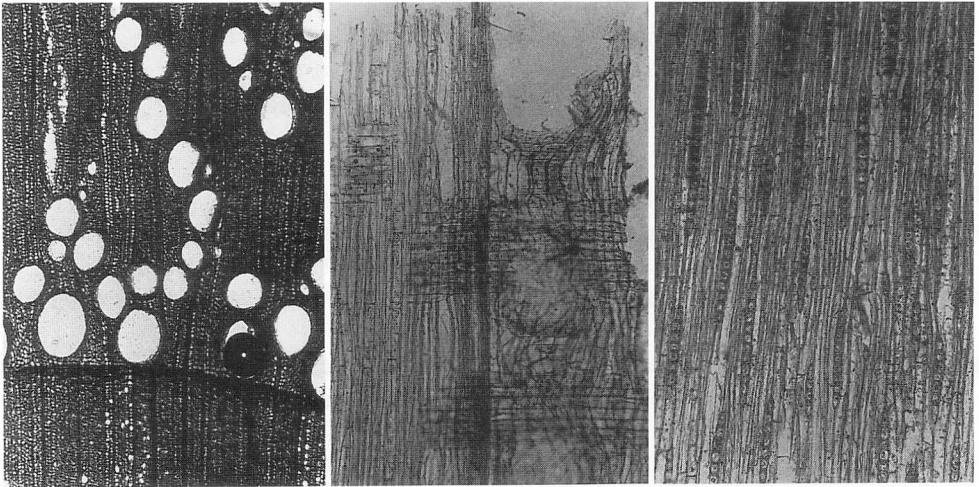
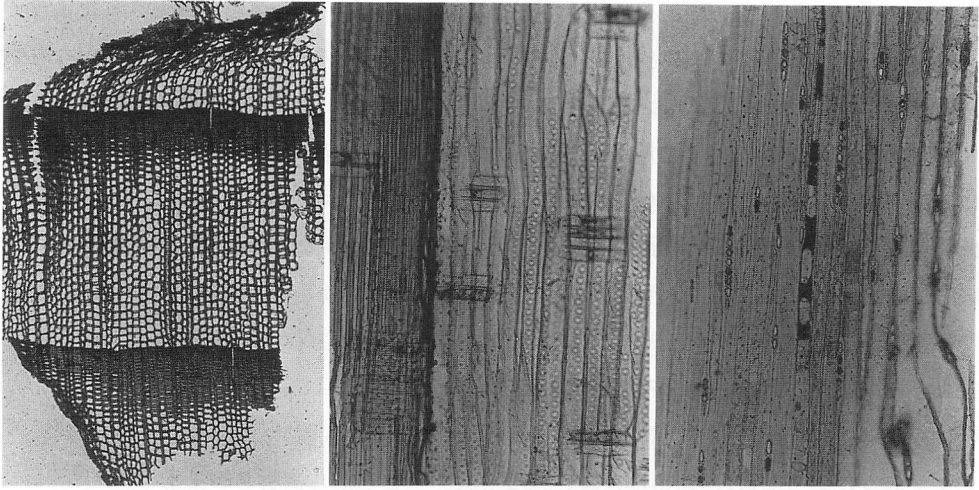
杭は中世？のものとなるが3点ともクリに同定された。B区井戸跡出土の2点（No.1・2）もクリであったが（前報）、耐朽性に優れ強度も大きいことから適材といえよう。

〈注〉

- 1) 中世または中世～近世のものとなる椀7点はブナ5点、ケヤキ2点に同定されている。
- 2) 中世後半のものとなる椀14点と皿6点はいずれもブナ属に同定されている。
- 3) 椀4点・皿3点がケヤキ6点ブナ属1点に、器種不明の1点がエゴノキ属に同定されている。

〈引用文献〉

- 平井 信二 1979～1982 「木の事典 第1巻～第17巻」, かなえ書房。
- 木村 中外・内藤 俊彦 1983 今泉城から出土した木製品の素材, 「仙台市文化財調査報告書第58集 今泉城跡—名取川下流域における中世城館跡の調査—」, 仙台市教育委員会, 206-207。
- 佐竹 義輔・原 寛・亘理 俊次・富成 忠夫 (編) 1989 「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」 平凡社, 321・305 pp.
- 高橋 利彦 1994 仙台市中田南遺跡出土材の樹種, 「仙台市文化財調査報告書第182集 仙台市中田南遺跡—古代・中世の集落跡の調査—」, 仙台市教育委員会, 406-422。

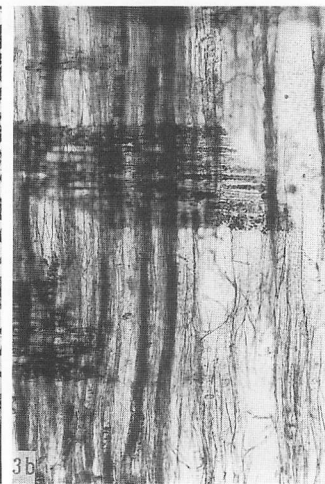
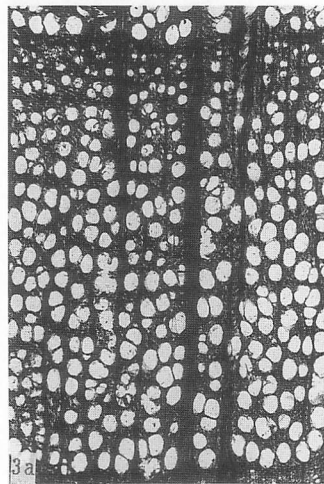
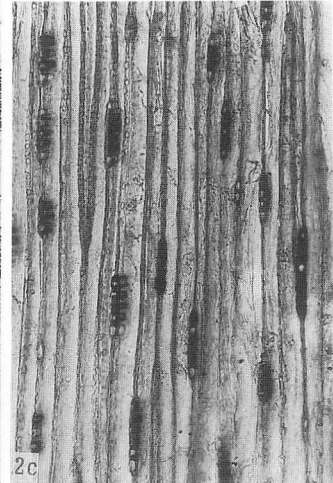
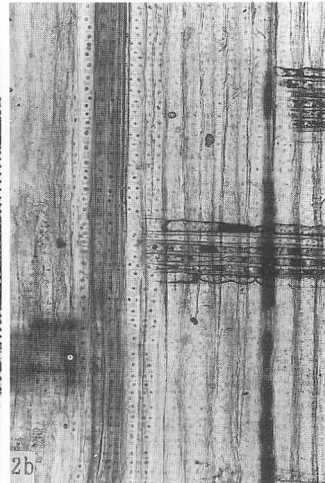
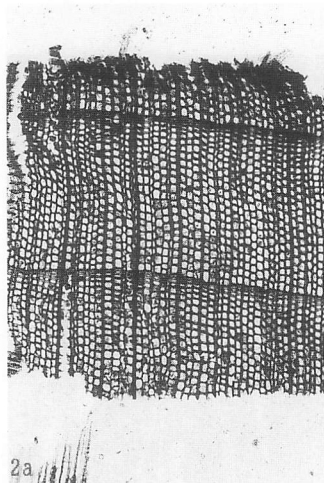
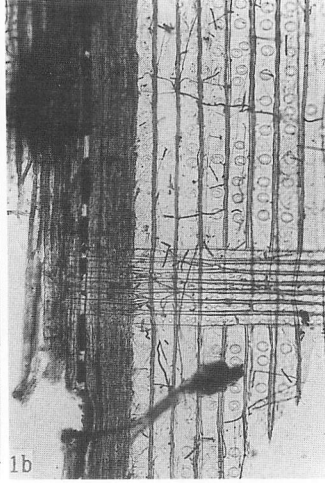
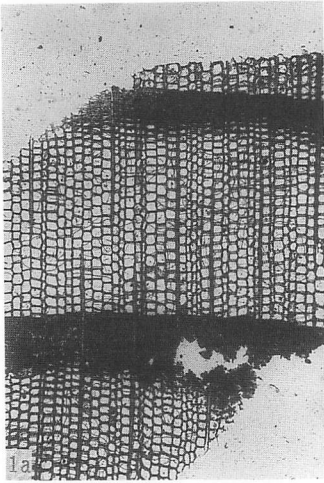


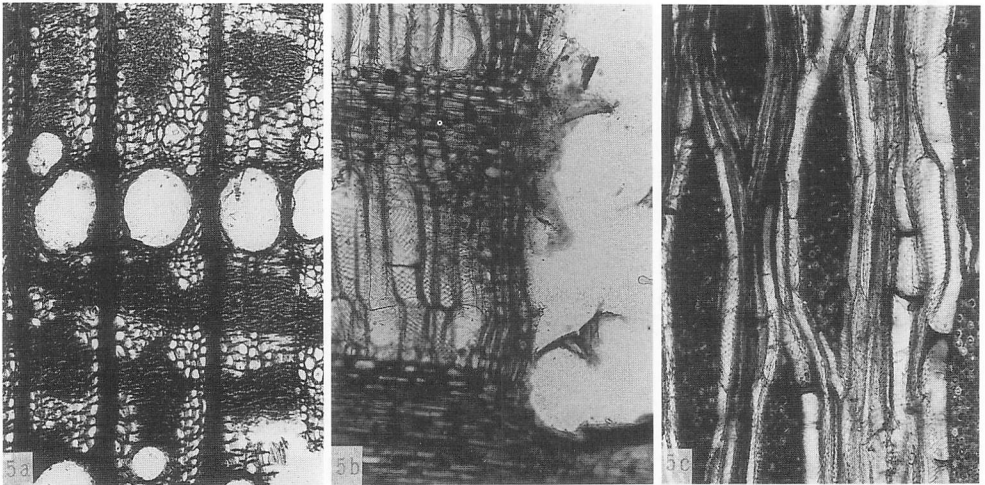
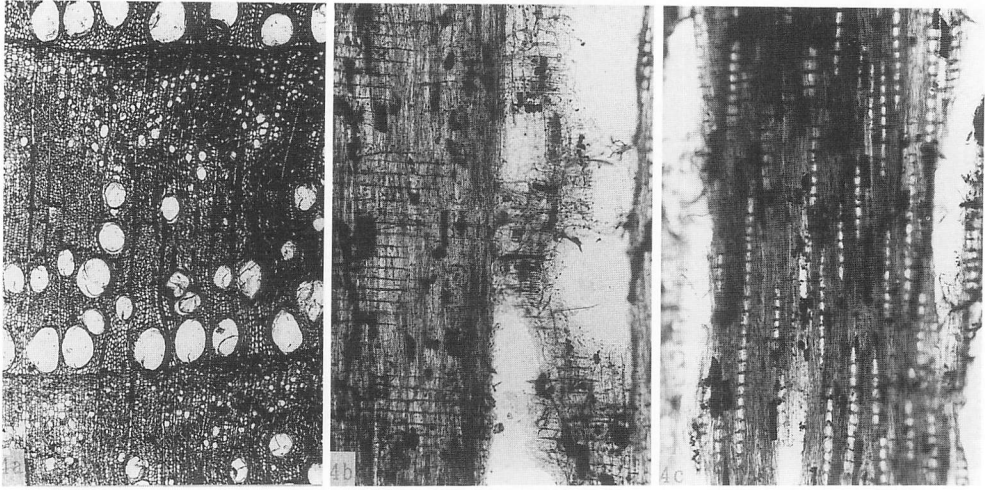
図版 1 1. アスナロ No. 3

 2. クリ No. 2

a : 木口×40 b : 柁目×100 c : 板目×100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ柁目では左から右





- 図版 2 1. スギ No.15
 2. ヒノキ層の一種 No.10
 3. ブナ層の一種 No. 8

- 図版 3 4. クリ No.12
 5. ケヤキ No. 5

a : 木口×40 b : 柾目×100 c : 板目×100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上柾目では左から右

(4)松本館出土試料の放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. 試料と方法

試料名	種類	前処理・調整	測定法
No.1	樹木	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線計数法
No.2	樹木	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線計数法

2. 測定結果

試料名	14 C 年代 1) (年 BP)	$\delta^{13}C$ 2) (?)	補正 14 C 年代 3) (年 BP)	歴年代 4) 交点 (1 σ) (Beta-)	測定 No.
No.1	420 \pm 90	-26.7	390 \pm 80	AD 1475 (AD 1435 TO 1640)	89407
No.2	620 \pm 60	-22.5	660 \pm 60	AD 1300 (AD 1285 TO 1395)	89408

1) 14 C 年代測定値

試料の 14 C/12 C 比から、単純に現在 (1950 年 AD) から何年前 (BP) かを計算した値。14 C の半減期は 5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}C$ 測定値

試料の測定 14 C/12 C 比を補正するための炭素安定同位体比 (13 C/12 C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (?) で表す。

3) 補正 14 C 年代値

$\delta^{13}C$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、14 C/12 C の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 歴年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 14 C 濃度の変動を補正することにより、歴年代 (西暦) を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の 14 C の詳細な測定値を使用した。この補正は 10,000 年 BP より古い試料には適用できない。歴年代の交点とは、補正 14 C 年代値と歴年代補正曲線との交点の歴年代値を意味する。1 σ は補正 14 C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した歴年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1 σ 値が表記される場合もある。

VII ま と め

平成5年度から平成7年度までの3カ年にわたる松本館跡の発掘調査で得られた資料は、遺構については縄文時代の陥し穴12基、平安時代の竪穴住居跡2棟、古代～中世と思われる竪穴状遺構4棟、土坑2基、中世では普請事業として平坦地15カ所、犬走り状遺構5カ所、テラス状平場14カ所、切岸状遺構5カ所、堀跡11条、土塁5基、道路状遺構3カ所、階段状遺構1カ所、土橋1カ所、虎口1カ所、作事の痕跡として掘立柱建物跡9棟、竪穴状遺構1棟、柱穴列12条、列木柵跡4条、溝跡48条、井戸跡3基、土坑1基、柱穴1,615基、そして時期不明の土坑12基、溝跡6条の計1,792遺構、柱穴を除いては177遺構である。遺物については縄文時代では土器破片、剝片石器、礫石器、古代では土師器の甕と坏、須恵器破片、中世では国産陶器として瀬戸・美濃灰釉陶器、瀬戸・美濃鉄釉陶器、常滑系陶器、その他の国産陶器、瓦質陶器、かわらけ、中国産磁器として青磁、白磁、青白磁、染付、鉄釉磁器、石製品として砥石、石臼、石鉢、木製品として漆器、曲物、底板、木杭、金属製品として古銭（明銭）、短刀、鉈、鍋、釘、銅鏡などが出土している。

松本館跡は先記のように大林城（柏山館）の一区画を占めるものであり、遺跡（大林城）の東部低位平坦地、いわゆる総構え外郭部分ではこれまで4次にわたって発掘調査が行われている。第1次調査（サンピア金ヶ崎関連）分については未報告のため詳細は不明であるが、今次の調査同様、過去の発掘調査でも中世に先行する時代として縄文時代は陥し穴、古代は竪穴住居跡等が検出されている。今次の調査では縄文・古代の検出遺構と、特に遺物が極めて少ないため、本章では遺跡の主体となる中世の遺構（特に縄張り普請地形）と遺物について若干のまとめを行い、本報告を終了することとしたい。

なお、縄文時代の遺構（陥し穴）と古代の遺構・遺物については先の調査報告で分類と考察がなされている。（注1・2）また、文献・伝承・由来等の詳細については紙面の都合により、はなはだ勝手ながら巻末の参考文献等を参照されたい。主要な柏山氏関連文書と地史および地元のお口頭伝承については千葉周秋氏により抜粋集成がなされている。（注2）

1 大林城の構造（縄張り）について（第70図、付図6・7）

大林城は現在の地名で胆沢郡金ヶ崎町大字永沢及び永栄に所在し、奥羽山系の鍋割山から続く河岸段丘で、永栄開拓から東方にクサビ状に張り出した永栄丘陵の東端部に立地する。（実際には北東－南西に長い段丘、城館であるが、以下で述べる計測の方向は便宜的にこれを東－西として記している。）城域は、縄張り地形とこれまでの発掘調査成果から小字名で西側から、松本館・西柏山館・柏山館・東柏山館・下館・上宿・柳林までを含む範囲であることが確認されている。その占地は城の立地する丘陵の南に胆沢川、北に永沢川を控え、その南は胆沢扇状地、

北は六原扇状地、さらに東は北上川左岸に広がる江刺沖積平野を一望できる要衝である。

本城については葛西氏の家臣柏山氏の居城とされる中世城館であり、その終焉は1590年の豊臣秀吉による奥州仕置をもって迎えるが、築城年代、特に現在に威容を残す城構えが整った時期については不明である。一説には13世紀初頭に葛西氏家臣の千葉氏が胆沢地方の地頭として百岡城に任じられた時に、姓を柏山、城名を大林城に改めたと伝えられる。文献史料には柏山氏以降の16世紀末にも数度城郭として一時的に機能していたことが記されている。また、大林城は別称として百岡城(館)、柏山館、松本館、生城寺館、舞鶴城(館)とも呼ばれているが、先の調査結果と伝承からは百岡城は古代における阿部氏の砦、松本館と生城寺館は近世以降の松本日向守の入部と生城寺の建立によるもので、舞鶴城は前面(南東側)からの景観が舞う鶴に似ているための美称とされている。柏山館については柏山氏の居城の跡であったからである。

さて、現況地形から大林城を概観すると自然地形および人工塁壁により大きく3重の防御線を持つ総構えの城郭であることが読み取れる。つまり外界の攻城側から見ると第一の関として西側には自然丘陵、残る三方は外堀と言えるであろう胆沢川と永沢川があり、両河川は丘陵の東方で合流し、北上川に続く。これらの川を渡ると第二の関として切岸状の丘陵段丘崖、いわゆる総構えの外郭塁壁があり、丘陵の東端に向かい外周の比高は80→75mと低くなっている。これを東側比高の低い方から登ると南西部に高位の段丘高台が望まれ、この高台、いわゆる内郭を囲む第三の関として内堀と土塁が巡る。内郭南側については外郭塁壁と一連である比高の高い切岸状の段丘崖となっている。このうち城域とされる範囲は第二の関内の段丘上の部分であり、この城下となる胆沢川と永沢川に囲まれた地域は、北側の羽黒堂町跡を始め柏山氏の時代に町場が形成されていた所と伝えられる。

大林城は、城域全体では東西約1,300m、南北は200~550m(東に狭く西に広い)、推定される総面積は346,000m²の規模を誇る。このうち外郭部分では東西約1,100m、南北200~450m、面積約217,000m²、内郭部分では東西約470m、南北約320m、面積約114,000m²を測る。内郭高位部の標高は約108m、外郭低位部の標高は約80m、胆沢川との最大比高は約45mである。

これまでの5次にわたる発掘調査と現況地形の地表面、及び昭和20年代撮影の米軍航空写真の観察からは第70図に示したような堀割り区画が想定される。

まず、外郭では東端に外郭防御の堀跡1条が第1次と4次調査において部分的に検出され、北西部では第2次調査において外郭の町割り区画と防御のための堀跡3条が部分的に検出されている。これらの堀跡はいずれも幅約3~4m前後、深さ1~1.5m程の規模のものであり、外郭を大きく3区画するものと推定される。外郭1の曲輪を東端で区切る堀跡は推定長約250m、2の曲輪を区切る堀跡は推定長約90m、3の曲輪を区切る堀跡は2の曲輪との連絡のためか西側で一部途切れ、東側1/3程のところまで2度屈曲し、その総延長は約458mと推定される。さ

らに、北西部下館地区の第2次調査では、区画と排水を兼ねた井戸跡と関係を持つ堀状及び溝跡が検出されているが、その規模は幅が約1~2m、深さは50cm以下のもので防御性は弱い。この最小一区画には主要建物跡数棟と付属建物跡、井戸跡が組合わさっており、一区画はおよそ700㎡程の規模と推定される。3つの曲輪の規模は1の曲輪は約100,000㎡、2の曲輪は約27,500㎡、3の曲輪は約75,200㎡を測る。

次ぎに内郭であるが、内郭を区画防御する堀跡（C1号堀跡）と土塁（C1号土塁）は、先記のように堀跡の総長は約940mを測り、南西端は偽虎口を形成するE2号堀跡に連続する。東側の土塁は現況では確認できず、残存長は約520mである。南側の切岸状段丘崖を含めた全周は約1,360mとなる。この内郭は堀及び土塁や切岸の塁壁によってさらに分割され、主要な曲輪は南側が開く「コの字」状の尾根頂部にあり、堀と切岸によって4区画されている。それは地名及び伝承から想定されている東側主郭、西側副郭、南東側III郭、そして主郭と副郭の間に位置するIV郭である。主郭は東西約85m、南北145~190mの台形状で、全長約570mの区画防御の横堀が巡り、一段低い曲輪5とこれを抱え込み東側が開く「コの字」状の曲輪1から構成され、面積は約14,700㎡を測る。北西端は堀を掘り残し、IV郭と連絡する土橋としている。副郭は東西45~115m、南北35~155mの「くの字」状の曲輪2で、北と西側が堀と土塁、東と南側は切岸、東端は堀切でIV郭と区切られ、面積は約9,100㎡を測る。III郭は東西20~30m、南北約120mの三日月状で、西側は全長約100mの堀と土塁、東側は切岸で区画防御され、その構成は曲輪3・6・7からなり、面積は約3,270㎡を測る。IV郭は南東に張り出しをもつ東西約60m、南北40~60mの長方形様の曲輪4で、四方が堀で区切られる。面積は約2,800㎡を測る。

ところで、江戸時代の記録には「永沢村安永風土記」中に、本丸（柏山館）南北230間（約416.3m）、東西120間（約217.2m）、2の丸（松本館）南北190間（約343.9m）、東西110間（約199.1m）、「百岡村安永風土記」中には、駒形舞鶴館（生城寺館）南北119間（約215.4m）、東西80間（約144.8m）とあり、「仙台領古城書上」では本丸は東西72間（約130m）、南北18間（約32.5m）、2の丸は東西20間（約36m）、南北28間（約50.7m）としている。すべて現状の計測値とは一致しないが、主郭柏山館では北側の張り出しを区切る溝跡が確認されていることもあり、南北両端の張り出しを個別の曲輪と見た場合には、「仙台領古城書上」の本丸は主郭、2の丸はIV郭に該当する可能性がある。いずれにしても主要郭は3区画であり、主郭は東の柏山館、副郭は西の半入館（松本館）、III郭は南西の西柏山館（生城寺館）に相当するものと思われ、IV郭は土橋で主郭と連絡することから、主郭に付属する連絡曲輪と推定される。

以上の尾根頂部を占める4つの郭の下位で丘陵の中腹には、比較的横幅の広い曲輪が群をなす。内包される範囲では地形の制約もあって、各曲輪はやや幅が狭く帯状となっているが、主

郭の東側に位置する曲輪群は、主要郭に匹敵する広さをもつ。これらも堀や土塁と切岸によって大きく区画されており、この郭群それぞれは、対応する上位の各主要郭の補助的役割を果たす腰曲輪群と推定される。また内包される郭群の中には井戸跡が存在するものもあり、主要郭に対して水の手曲輪が付属するものと推定され、これらの下位で堀底に至る斜面には幅の狭い帯曲輪や犬走りが設けられている。南端の郭は、偽虎口及び搦手口(F1号道路状遺構)を形成すると思われる南側の版築土塁(E1号土塁)で区切られ、虎口防御の出丸として機能する腰曲輪群と推定される。各郭群と各曲輪の規模は以下の通り、単位はmと㎡である。

郭名	属	東西	南北	面積	郭名	属	東西	南北	面積	郭名	属	東西	南北	面積
V郭	主	30~60	55	4,200	VIII郭	III	70~100	75	4,560	XI郭	III	80~120	100~150	12,400
VI郭	主	60~170	60~200	22,000	IX郭	III	30~80	40~90	3,890	XII郭	虎口	40~100	65	4,750
VII郭	副	40~90	180	9,500	X郭	IV	10~70	85	3,200					

曲輪名	属性	東西	南北	面積	標高	曲輪名	属性	東西	南北	面積	標高
曲輪1	主郭	40~90	40~165	10,900	108.0	曲輪18	腰曲輪	6~11	35	360	102.0
曲輪2	副郭	45~115	35~155	9,100	108.5	曲輪19	腰曲輪	15	40	510	98.0
曲輪3	III郭	10~25	70	1,150	107.5	曲輪20	腰曲輪	5~13	85	920	96.0
曲輪4	IV郭	60	30~60	2,800	108.0	曲輪21	水曲輪	(10)~20	(50)	730	96.0
曲輪5	武者溜?	40	80	2,940	103.0	曲輪22	腰曲輪	13	(20)	(290)	95.0
曲輪6	腰曲輪	25	25	620	104.0	曲輪23	腰曲輪	5~10	35	250	92.5
曲輪7	腰曲輪	40	30	780	106.0	曲輪24	腰曲輪	(20)	(20)	(290)	<91.0>
曲輪8	腰曲輪	30	70	1,580	100.0	曲輪25	水曲輪	15~20	80	1,160	102.0
曲輪9	腰曲輪	35	75	2,650	96.0	曲輪26	腰曲輪	95	5~25	1,290	98.0
曲輪10	腰曲輪	50	20	1,000	99.0	曲輪27	腰曲輪	30	25	790	99.0
曲輪11	腰曲輪	40~165	40~120	11,400	92.0	曲輪28	腰曲輪	44	32	1,430	95.0
曲輪12	腰曲輪	18	75	1,380	102.0	曲輪29	腰曲輪	75~120	100~150	12,400	88.0
曲輪13	腰曲輪	5~15	55	800	99.0	曲輪30	腰曲輪	36	17	560	90.0
曲輪14	腰曲輪	<9>	<70>		98.5	曲輪31	腰曲輪	45	15	<630>	84.0
曲輪15	腰曲輪	<5>	<28>		98.5	曲輪32	腰曲輪	<25>	17	<400>	82.5
曲輪16	腰曲輪	55	8~10	460	103.0	曲輪33	横矢掛	7~(13)	30	(330)	81.5
曲輪17	腰曲輪	25	15	450	103.0	曲輪34	武者溜?	<7>	<22>		80.5

ところで、伝承では堀跡は現在4条のみが確認されるに止まるが、往古は7重にあり、水堀であったとも言われている。これまでの成果からは主郭柏山館を中心として見た場合、内郭で2~3重、外郭で3重の堀跡が確認されているが、内郭南壁の東側には堀跡と思われる開析部があることから、内郭部に1条、外郭部に1~2条の堀跡が存在する可能性も考えられる。

以上大林城の構造について概観したが、次項で後述しているように、これまでの発掘調査で出土した遺物、特に陶磁器類は16世紀代のものが多く主体となっていること。そして丘城である本城は、梯郭及び連郭式の折衷ともいえる並郭式縄張となっているが、求心性が強く、家臣団集落や宿と寺社などが形成される戦国時代の主要な城郭で見られる総構え、さらに現況地形(縄張り)及び発掘調査から観察される城構え、つまり内郭を囲む横堀と土塁、多重堀切、搦

手口と思われる内郭南端の枿形状と推定される虎口及び横矢掛けなどの形態、これらは戦国時代より出現するものであること。大規模な版築土塁（E1号土塁）は16世紀初期以後に利用されるものであること。また現状が最終形態となる胆沢地方最大の城郭は、相当量の労働力を必要とする大規模な普請地形によるものであり、当時の社会情勢を考えるならば、短期に築城もしくは改修する必要性が高く、そのための労働力を結集する権勢、言い換えると使役を課すことのできる多数の領民を抱えていたことが窺える。すなわち当該地方において権勢並ぶべきもない威勢を誇り、かつ最も領地が安定していた時期、つまり16世紀前半に現在見られる最終形態の威容が整ったものと推定される。

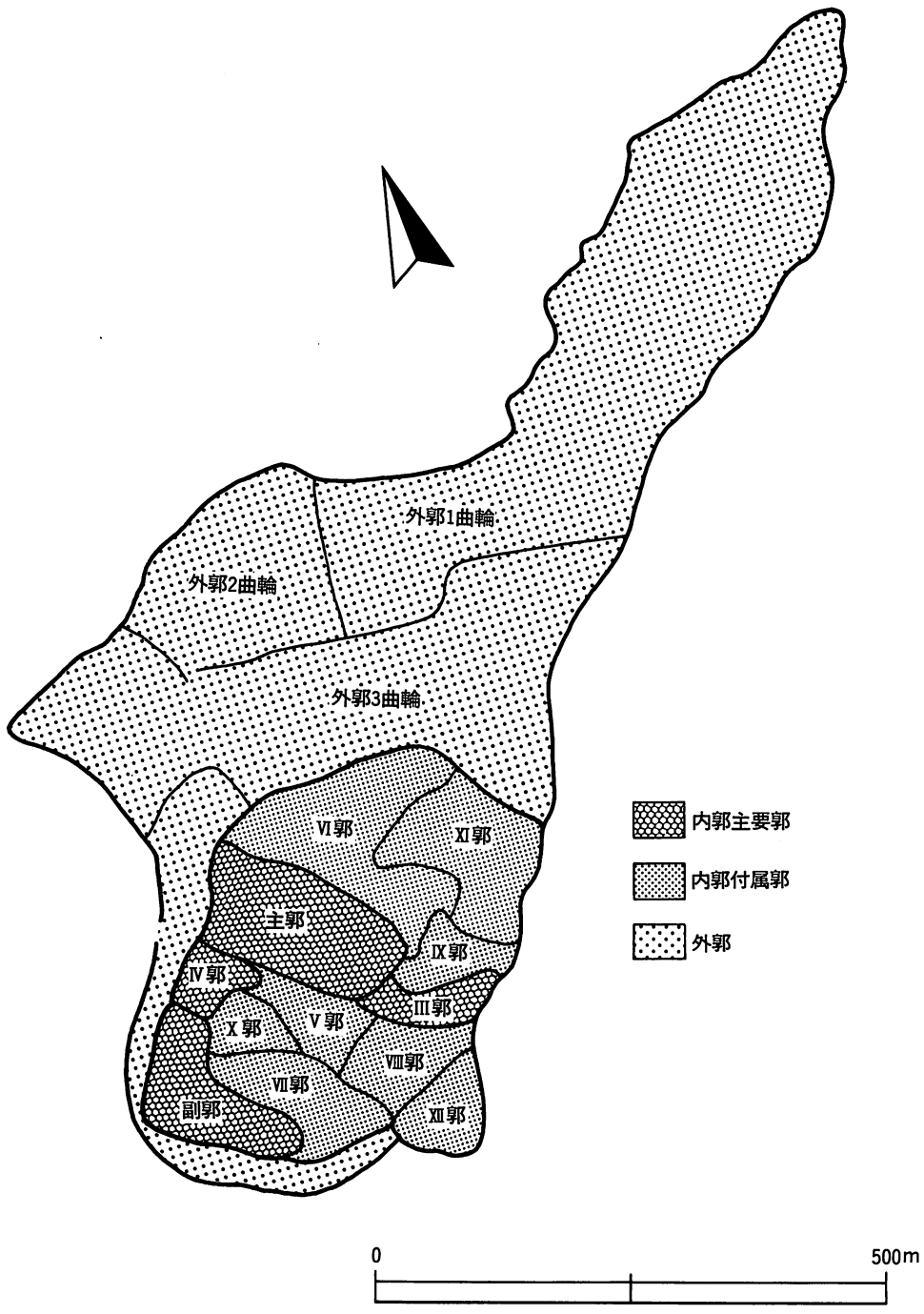
注1. 岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集 「館山遺跡第2次発掘調査報告書」-岩手県立県南青少年の家建設事業関連発掘調査- (勲岩手県埋蔵文化財センター・岩手県教育委員会 昭和58年)

注2. 岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第一八集 柏山館跡遺跡 岩手県生活福祉部・金ヶ崎町教育委員会 平成2年

注3. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第242集 「柏山館跡発掘調査報告書」-サンピア金ヶ崎建設事業関連- (勲岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平成8年)

〈参考文献〉

1. 岩手県胆沢郡金ヶ崎町中央生涯教育センター 平成5年度企画展図録「金ヶ崎の城・館・柵」 平成6年
2. 岩手県文化財調査報告書第82集 「岩手県中世城館跡」分布調査報告書 岩手県教育委員会 1986年
3. 金ヶ崎町史資料編 「永沢村風土記、百岡村風土記」 金ヶ崎町史編纂委員会 昭和40年
4. 胆沢町史II-古代・中世編- 胆沢町史刊行会 昭和57年
5. 水沢市史2-中世- 水沢市史刊行会 昭和51年
6. 岩手県中世文書中巻 国書刊行会 昭和58年
7. 千田嘉博・小島道裕・前川要 「城館調査ハンドブック」 新人物往来社 1993年
8. 鳥羽政雄 「日本城郭辞典」 東京堂出版 昭和46年
9. 村田修三 「図説中世城郭辞典I-北海道・東北・関東- 新人物往来社 昭和62年
10. 村田修三 「図説中世城郭辞典II-中部・近畿- 新人物往来社 昭和62年
11. 本堂寿一 「日本城郭大系2」-青森・岩手・秋田- 新人物往来社 昭和55年
12. 中世の城と考古学 新人物往来社 1991年
13. 西ヶ谷恭弘 「戦国の城」-目で見える築城と戦略の全貌-〈上〉関東編 学習研究社 1994年
14. 西ヶ谷恭弘 「戦国の城」-目で見える築城と戦略の全貌-〈下〉中部・東北編 学習研究社 1994年
15. 西ヶ谷恭弘 「戦国の城」-目で見える築城と戦略の全貌-総説編 学習研究社 1994年
16. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第124集 「笹間館跡発掘調査報告書」 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 昭和63年
17. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第203集 「猪川館跡発掘調査報告書」 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平成6年



第70图 大林城区画模式图

2 陶磁器について (第71図、第2表)

前項で記したとおり、大林城の外郭部分については数次の調査が実施されており、家臣団の屋敷地や城下町の様相の一部が判明している。これらのことから、大林城内郭については日常的に防衛態勢を整えた居住域と考えられてはいたが、これまで調査が行われなかったため推定の域を出ないものであった。また、これまでの外郭部分の調査においては中世の陶磁器はごく少量しか出土していない。

今次調査は大林城内郭のほんの一部分の調査ではあるが、出土した陶磁器は、近世の陶磁器類を若干含むものの、中世の陶磁器が主体をなし出土総数で543点を数える。その内訳は国産陶器230点(42.4%)、中国産磁器313点(57.6%)である。これらはほとんどが破片での出土でありそのまま個体数を表すものではないが、内郭と外郭の居住者の階層の違いを端的に表している。ここでは、出土状況から松本館の調査区の機能や時期について若干の考察を試みたい。

1) 出土状況と器種組成について

陶磁器の出土状況についてみると、調査区の中で出土したのはC・D・E・F区からであり大林城内郭にあたる区域である。その中でも出土はC区に集中しており、国産陶器では88.7%、中国産磁器では83.4%、陶磁器全体では85.6%を占める。それ以外の各区の出土状況は、D区で国産陶器が5.7%、中国産磁器が4.1%、E区では国産陶器が4.3%、中国産磁器が10.9%、F区では国産陶器が4.3%、中国産磁器が1.6%である。

出土した543点について器種ごとの組成をみると、供膳具が68.1%、供献具が16.8%、調理具が0.4%、貯蔵具が8.8%、喫茶具が5.2%、暖房具が0.2%、不明なものが0.6%である。供膳具が多数を占めるが様々な生活を窺わせる器種が出土している。以下にこれらの詳細についてみてみることにする。

供膳具と供献具についてみると、供膳具の皿は300点であり陶磁器類全体の55.3%を占めるが、その中で国産の瀬戸・美濃系の灰釉皿は65点の21.7%、中国産の青磁が31点の10.3%、白磁が98点の32.7%、染付が104点の34.7%の構成を示す。このように皿については中国製品に大きく依存していることが分かる。供膳具の碗についても同様で、57点出土している中で国産の瀬戸・美濃系の灰釉碗は1点のみであり、青磁碗が48点の84.2%とやはり中国製品に大きく依存している。また、供献具の盤・香炉・瓶子についても中国製品が83.3%を占める。

調理具・貯蔵具・暖房具についてみると、これらはすべて国産陶器で占められている。調理具の卸し皿は瀬戸・美濃製品であり、搦り鉢は北陸系のものと推定される。貯蔵具の甕・壺は93.8%を常滑の製品が占める。暖房具である火鉢は瓦質陶器で国産であるが産地は不明である。また、喫茶具についてみると、天目茶碗は24点88.9%が瀬戸・美濃の製品であり、中国製品は3点11.1%にすぎない。

このように器種によって国産・中国産に偏る傾向は、県内におけるこれまでの中世城館の調査とほぼ同じ傾向であり、陶磁器がその性質や価格、器種によって相互に補完し合い当時の生活を支えていた様相をよく表している。その中で本遺跡の特徴としては、清浄の象徴とされるかわらけの出土量がこれまでの中世城館調査にくらべて多いことが上げられる。

以上のことから、C区特にもC1平坦地には各器種が揃っており、日常的な居住域としての機能を果たしていたと考えることができる。中国製の大型の盤や香炉などからは、経済力とともに豊かな精神生活についても窺い知ることができるし、天目茶碗・天目台の出土により茶の湯を楽しんでいた様子も窺える。また、かわらけが多数出土していることから儀式や宴会が行われた晴れの日としての機能も併せもっていたことも推定できるであろう。

2) 松本館の時期について

前項において、松本館を含む大林城の最終縄張り形態は16世紀前半のものと考えられること、その終焉は1590年の奥州仕置きであることを述べたが、ここでは出土陶磁器から想定される松本館の活動最盛期について考えてみたい。

松本館にともなう陶磁器は、既述のように12世紀から16世紀後半に属するものが混在しているが、時期区分について以下に概略を記す。

<12世紀から14世紀>

12世紀の製品と考えられるのは白磁の玉縁口縁の碗である。白磁のもっとも優れた時期のものであり、戦国期においても唐物として評判の高かったものである。13世紀から14世紀にかけての製品と考えられるものには中国建窯系の天目茶碗(建盞)がある。これらはいずれも貴重品として価値の高い製品である。

14世紀代までさかのぼる製品と考えられるものには青磁盤、青磁碗、青磁皿、青白磁皿、青白磁梅瓶など供膳具や供献具が揃っている。国産では古瀬戸の瓶子1点があるのみで、あとはすべて中国産磁器である。

<15世紀>

この時期に属する陶磁器は、国産及び中国産とも充実するが特に中国産磁器が主体をなす。青磁盤、青磁碗、青磁皿、白磁皿、染付皿、天目茶碗があり、供膳具や供献具に加えて喫茶具が出現する。

国産陶器では供膳具の瀬戸・美濃灰釉皿、喫茶具である瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗及び天目台、及び瓦質陶器、かわらけがある。

供膳具、供献具及び喫茶具において組成がすべて出揃う時期である。

<16世紀>

この時期において貯蔵具が登場し陶磁器のすべての器種が出揃う。中国産磁器は供膳具が中

心となり青磁碗、青磁皿、白磁皿、染付皿があるが、新たに染付碗が登場するなど染付が主体となる時期である。国産陶器においては、瀬戸・美濃灰釉皿に加えて瀬戸・美濃灰釉碗が出現する。また、瀬戸・美濃鉄釉茶碗、貯蔵具としての常滑甕や壺、瓦質陶器、かわらけが充実する時期である。

以上のことをまとめると以下のようになる。

- a. 中国産磁器についてみれば14世紀から15世紀が主体となるが、染付は16世紀が充実期となること。
- b. 中国産磁器は生産時期と流通時期に時間差があると考えられることや、貴重品として伝世されること。
- c. 瀬戸・美濃灰釉陶器は15世紀末の製品からあるが、灰釉皿や碗、鉄釉茶碗の最盛期が16世紀中頃以降になること。

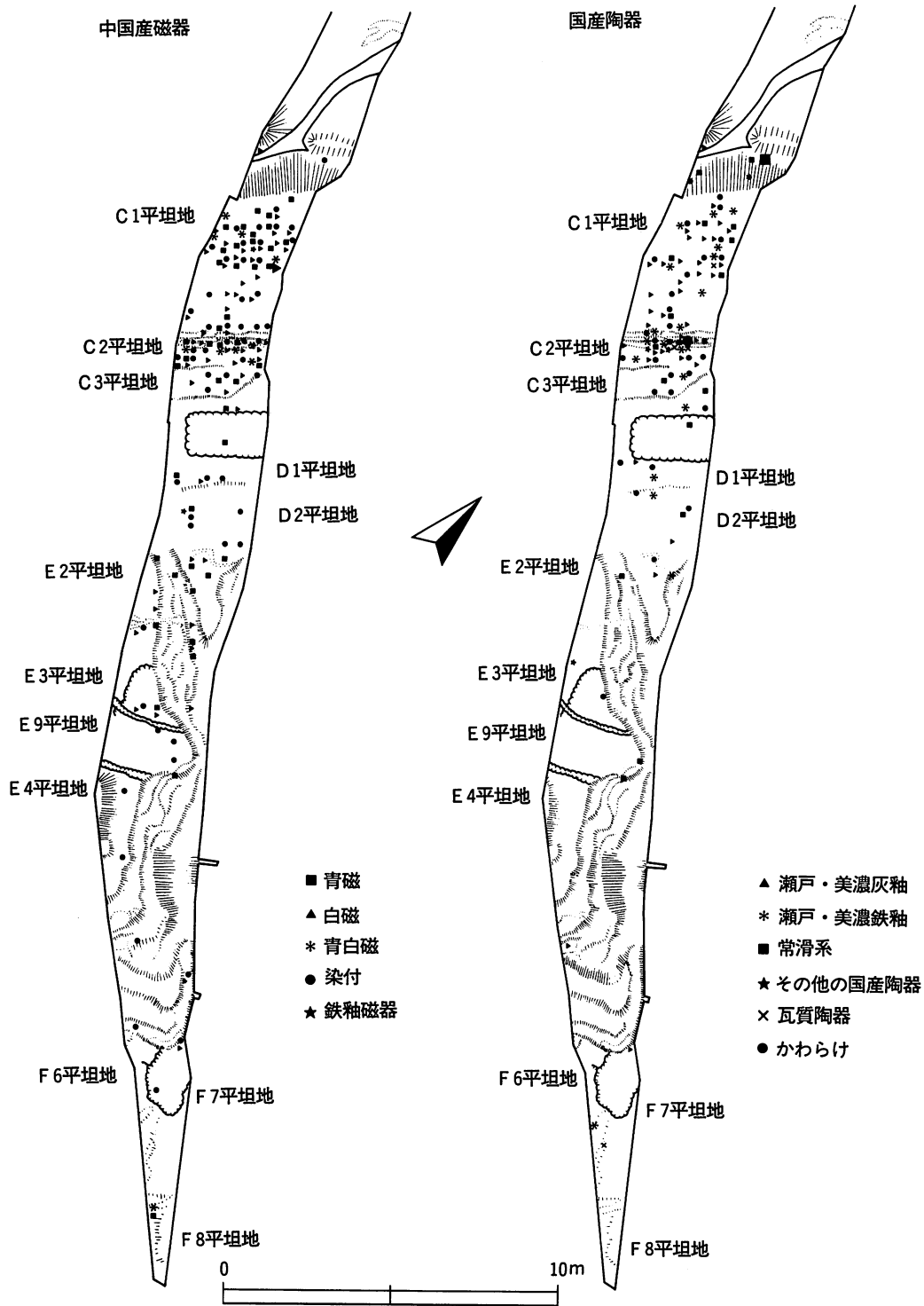
d. 16世紀初頭から中頃にかけて常滑甕や壺が出現し、陶磁器のすべての器種が出揃うこと。

松本館出土陶磁器から館の時期について考えるとき、構築時期については定かではないが、15世紀末以降館は機能していた可能性は十分に考えられる。しかし、活動の最盛期は陶磁器のすべての器種が揃う16世紀に入ってからであると考えておきたい。

先述したとおり、大林城の内郭のほんの一部の調査であるにも関わらず中世陶磁器は多量に出土している。このことは、縄張りの壮大さとともに城主の権勢をよく反映しているといえる。

	供 膳 具			供 献 具						調理具		貯蔵具	喫茶具		暖房具	不明	点数計	割合 (%)	
	碗	皿	坏	盤	香炉	瓶子	壺	水注	小皿	卸皿	搦鉢	壺・壺	碗	台	火鉢				
国産陶器	瀬戸・美濃灰釉	1	65							1							68	12.52	
	瀬戸・美濃鉄釉												24	1			25	4.60	
	常滑											45					45	8.29	
	信楽											1					1	0.18	
	瓦質陶器					2										1	2	5	0.92
	かわらけ			12						71								83	15.29
産地不明陶器											1	2					3	0.55	
中国産磁器	青磁	48	31	1	3	1											1	85	15.65
	青白磁		2				11											13	2.39
	白磁	2	98					1	1									102	18.78
	染付	6	104															110	20.26
	鉄釉												3					3	0.55
点数計	57	300	13	3	3	12	1	1	71	1	1	48	27	1	1	3	543	99.98	100
割合 (%)	10.50	55.25	2.39	0.55	0.55	2.21	0.18	0.18	13.08	0.18	0.18	8.84	4.97	0.18	0.18	0.55	99.97		
	68.14			16.76						0.37		8.84	5.16		0.18	0.55	100		

第2表 陶磁器の産地別、種類別、器種別一覧表



第71図 中世陶磁器出土分布図

VIII 付章 大林城と柏山氏の歴史

本 堂 寿 一

1 大林城跡と城主柏山氏の歴史的概要

立地と構造の歴史的概要

金ヶ崎町永栄から永沢にまたがる大林城跡はかつて柏山氏の本城であり、胆沢地方最大の城郭であった。小字名では西柏山、東柏山、松本館、下館、上宿、柳林を含み、胆沢川と永沢川に面する段丘から西の丘陵部全体にわたる。その形は南西から北西にくさび状であり、最長部約1,500m、最大幅約650mである。

大林城は『仙台領古城書立之覚』に大森城とあり、安永5年(1776)の胆沢郡永沢村と百岡村の『風土記御用書出』(『宮城県史』)では、柏山館、百岡館、舞鶴館などと紹介され、本丸は東西110間、南北230間、二の丸は東西110間、南北190間、三の丸は東西80間、南北119間と記録されている。

江戸時代は本丸と二の丸が永沢村分で、三の丸は百岡村分であった。百岡村の風土記には「往古ハ本丸二ノ丸共ニ当村分ニ而百岡館共相称哉 当村ハ右館三ノ丸ト申伝候」とあり、いつ二村に別れたか不明としている。また、三の丸は生城寺(曹洞宗永徳寺末。承応2年-1654開山)の境内であり、柏山氏が崇拝したという駒形社と、碑面に星を刻んだ柏山伊勢守の先祖の石碑とその墳墓があるとあり、駒形舞鶴館と紹介されている。よって三の丸は生城寺館と呼ばれてきた。その他、二の丸にも松本日向の石碑(元禄9年6月銘という)のある日向壇があり、松本館と呼ばれてきた。つまり現在、本丸が柏山館、二の丸が松本館、三ノ丸が生城寺館と呼ばれている所以である。

実は松本館は石川館・半入館とも呼ばれてきた。後述のように石川氏は柏山氏の譜代の家臣であったが、対して松本氏は代々日向を名のった会津葦名氏の家臣であった。具体的経緯は不明であるが、天正17年(1589)の伊達政宗との戦いで葦名氏は滅び、松本氏は伊達側について胆沢に派遣された(『水沢市史』)と考えられている。それは何年か不明であるが、『奥羽永慶軍記』によると、奥州仕置の天正18年に新領主木村伊勢守は代官として江刺岩谷堂城に溝口外記、柏山中務少輔明宗の家臣大内何某の水沢城に松田源太郎佐衛門を配置したが、柏山一揆によって殺されたとあり、こうした情勢の中で政宗が松本氏を大林城に配置したとは考えがたいことである。ところが翌年の奥州再仕置で蒲生氏郷は水沢・江刺・柏山の諸城を修築して政宗に引き渡した(『岩手県史』2)とされ、また、豊臣秀吉朱印状(『上杉家文書』)から上杉景勝は柏山に在陣し、その城普請を行っていたことが考えられている。さらに同年、大谷吉継は、伊達政宗が

水沢城の代官として白石宗実を派遣するということを承知し、江刺岩谷堂城の普請を堅固にすることを命じている。このように天正19年は旧葛西領が伊達領となった年であり、城割りを命ぜられた一方で領内の主要城館は豊臣勢によって修築された年であった。よって松本日向が柏山城の代官として配置されたとすれば、天正19年以後と考えられる。対して石川氏については半入屋敷といって胆沢川対岸に環濠屋敷が今も存在するが、一族の城内屋敷のあった可能性は高い。つまり松本館という名称は中世柏山時代の表現としては妥当ではない。

一方、近世寺院名からの生城寺館という名称も問題であるが、この部分を含めて柏山館（本丸）の東側は内郭部を囲む堀まで広大な面積を有し、数郭に分けられる地帯である。この全体を三の丸とするか、生城寺館範囲外については小字名から東柏山館と呼ぶべきか、工夫が必要である。各館の集合による城内とそれぞれの独立性は東北地方北部大型城館の特色でもあり、その点から館名は生かされるべきであるが、検討すべき課題である。

城館規模などに見た全盛時柏山氏の勢力

『風土記御用書出』は江戸時代の書上げ記録ではあるが、柏山氏と大林城について知れる重要な文献である。大林城の北東側の羽黒堂町という地名についても「葛西之御一族柏山伊勢守ト申御方御住居之節町ニ御座候由申伝候上宿ト申所ヨリ当郡長沢村入合之所ニ御座候当時ハ畑ニ罷成居候事」とあり、かつてこの一帯は城下町であったことを伝えている。こうした風土記に知れる伝承や今に残された小字名、そして周囲の地形から当時の城内、城外を推定してみると、本丸、二の丸、三の丸は内郭部であり、それを区画した堀を隔てた東側に外郭部が広がり、これら下館・上宿といった台地の断崖を切岸とした一帯が城内である。以上を総構えとし、城外は胆沢川と永沢川による沖積地帯であり、そこには北東側の羽黒堂町を代表に、東に柳林、南に反町、広町といった町場が形成され、それらを通うて城内に入る主要道の要所には関が置かれ、城内に対する前田があり、さらに広がる水田地帯には根古屋集落や民家、河川敷側には新開地が分布した様子を知ることができる。また、三の丸に駒形社、東端の飛鳥田に伊勢社と毘沙門堂、北東に羽黒社、北西に稻荷社と観音堂（千手観音堂は大永5年柏山伊勢守の再興という）を配したとあり、小字名では東柏山の南に斎林寺あり、城内はそれらによって鎮守される所であった。このように大林城跡とその周囲には中世の景観を復元できる要素が数多く残されており、大林城跡はその全体的視野の中に価値を見出し、保存されなければならない。

大林城は柏山氏の本城であり、その威勢は胆沢郡主と呼ばれたほどであるが、その力について数的に復元することは困難である。例えば、江戸時代初期（寛政後）の石高は伊達領全体で62万石の内、旧葛西領は約28万石強であり、そのうち胆沢は約47,000石、江刺約26,000石、磐井は約59,000石である。柏山氏が胆沢郡主級といっても約47,000石の勢力とするのは誤り

であるが、その程度の頂点に立った葛西氏の巨臣であったと評価できよう。江戸時代に入っての記録であるが、『葛西真記録』の「葛西御家臣衆座列」に

旗頭衆

薄衣甲斐守	薄衣城主	1500 騎大将	印赤筋
大原飛驒守	大原城主	1700 騎大将	印皆赤

御城後見番詰

柏山摂津守	居城	上胆沢百岡邑	300 人	諸士頭
江刺三河守	居城	岩谷堂	250 人	文士頭

とあるようにこれら四氏は天正 18 年(1590)の葛西氏滅亡時に豊臣軍に対して先陣をなした胆沢郡・江刺郡、磐井郡を代表した有力氏族であった。特に胆沢郡と江刺郡については柏山氏と江刺氏がそれぞれを代表していたことは明らかである。

胆沢郡の城館跡の分布は約 98 カ所(『岩手県中世城館跡分布調査報告書』1986)である。各所の分布密度に偏りはあるが、いずれも良好な水田地帯にあり、その地の開拓の古さと支配を伝える遺跡である。その最大の城館は大林城であり、胆沢川左岸と永沢川流域は柏山氏の本領域であったと想定できる。しかし大林城に次ぐ大型城館はその西約 3 km で、同じ胆沢川左岸の丘陵に立地する旧永徳寺村の細越城跡である。後述のようにこの細越城も柏山氏の城館であり、柏山氏は一系でなかった可能性もある。いずれにしても柏山氏の本拠地は上胆沢であった。

『葛西真記録』には「柏山平次郎 胆沢郡中畑城主・柏山九郎兵衛 同小山邑主・柏山伊勢同水沢城主」とある。また、『胆沢殿由来』(『南部叢書』)によると、天正のころの当主は柏山中務明宗であり、彼に弟二人あり、小山九郎明忠、折居宮内(下胆沢折居城主)、そして明宗には明助という嫡子がいた。また別書に伊勢守明好(吉)の時、嫡子左衛門明国はその身不足で家を継がず、次男中書明宗が継いだとある。そして明宗も死に、その子左衛門明助が幼少のために中書の弟小山九郎がしばらく家督となり、九郎の死後、九郎の弟宮内は折居・小山・中畑三ヶ所約 1 万石を支配し、折居城にいたという。したがって柏山氏の南の拠点は下胆沢の前沢・折居・小山であった。前沢には古くから勢力のある三田氏がいたが、明吉はそれを牽制するように明宗兄弟を配したのであった。上胆沢を拠点とした柏山氏にとって下胆沢の支配は重要であった。

その他、「仙台領古城書立之覚」によると、上衣川城(机地相模)、上麻生城(上麻生玄長入道)、須江城(須江清右衛門)、上姉体城(千田豊後)、下姉体城(大内源十郎)、中野城(千田右衛門)など柏山氏勢力下の城館があった。そしてこれら以外にも小規模な土豪の居館は胆沢平野に数多く点在していた。こうした中胆沢は柏山氏の最も安定した勢力圏であった。

一方、北上川沿いの右岸は北から三ヶ尻氏の丸子館、新渡戸氏の花館、小野寺氏の金ヶ崎城

(川崎城)、下河原氏を中心とした下河原館群(舟森館・南館・内館・御伊勢館・上館・石橋館・毘沙門館・東館・堀内館・要害館)などがあり、川東の江刺氏の息のかかった城館が並んでいた。中世は金ヶ崎の西根から北上市の相去にかけて川西も江刺郡であり、江刺氏や和賀氏との勢力の拮抗地帯であった。仙北小野寺氏の介在や南部氏の介入などあり、柏山氏の勢力圏で最も混乱を極めた地帯であった。

柏山氏のもう一つの拠点

大林城に継ぐ大型城館の細越城跡は金ヶ崎町字茶畑・参居館・寺窪地内にあり、五葉館・参居館・寺窪館の三郭からなり、約800m×約300mの広さを有する。しかし、永徳寺村『風土記御用書出』には「古館壹ツ 山居 一山居館 南北百五拾六間 東西四拾九間 右御城主并年号相不知申候当時畑罷成居候事」と紹介され、伝承が抹消された感を受ける。特に城内の寺窪は「寺蜘蛛」の転訛であり永徳寺村以前の旧村名である。この寺窪館の造りは細越城跡のなかで古い形式であり、細越城の長い歴史を伝える遺構である。また風土記によると、この寺窪にある熊野社は元享2年(1322)に葛西晴信(ママ)の勧請した村鎮守トアル。また参居館跡の北東隅に永昭寺という寺跡あり、風土記によると当山派修験の正壽院と寛永元年(1624)に別家となった羽黒派修験の月光院であった。柏山伊勢守の勧請ともいう正壽院の扁額は「寺窪山」であり、その由来に熊野社の蜘蛛塚に埋められた大蜘蛛を祈禱するのが勤めとあり、永享12年(1440)開院とある。

「柏山平左衛門先祖の事」(『水沢市史』2中世)によると、永承5年(1050)に源義家が安倍貞任を誅伐した後、平兼盛の一人亀千代に八幡八丁、塩竈八丁、上野八丁の24丁を与え、亀千代は寺蜘蛛村に在城し、胆沢殿と称されたとあり、そして兼盛の孫盛春は葛西清重の斡旋で源頼朝に随臣し、葛西氏から三つ柏の紋を許され、千葉左近明広と名乗って胆沢に赴任し、後、柏山と称したという。明広は上胆沢の大林の城を構え、譜代の家臣三田将監、蜂谷縫殿、大内備中、新井田土佐といった家臣も集まり、三田には下胆沢三千石で前沢、蜂谷は上胆沢三千石で水沢に置き、その後大内備中、新井田土佐が来たとある。この伝承からすれば柏山氏の寺蜘蛛村の在城とは古細越城であった可能性があり、大林城はその後の本城ということか。

永徳寺と柏山氏の関係

以上のように寺窪(寺蜘蛛)は初期柏山氏の所領であったと考えて良いであろう。この寺窪村が永徳寺村となるが、それは曹洞宗報恩山永徳寺が開山したという延文元年-1356年以降(「正法年譜住山記」-『水沢市史』2中世編によると開闢は貞治・応安-1367~1370年頃とある)でなければならない。

永徳寺とは細越城の南西約4kmの地で、胆沢川左岸で平野の切れる遠慮がちな地にある。し

かし、江刺郡黒石村正法寺の無底和尚を補佐したという道叟和尚（永和元年—1375年死亡）が開祖であり、本山総持寺直末として、最盛期の江戸時代には末寺408カ寺に及ぶという名刹である。ここには永禄3年(1560)には葛西晴信が父親信の菩提のために永徳寺村一村を寄進するという証文が残されており、葛西氏も帰依した寺であった。また『宝暦風土記』永徳寺村の条に、領主柏山伊勢守が山踏みして割付けしたとあり、柏山氏や葛西氏などの寄進による寺領は38,000刈と伝えている。以上の点から永徳寺の地も元来は柏山領であり、柏山氏は江刺氏や黒石氏など川東の豪族が帰依する正法寺に対して、胆沢の豪族たちとともに道叟和尚を川西に招来した可能性はある。しかし、永徳寺を葛西氏が采配するに至る過程や、それとその中に所在する細越城の関係などはほとんど不明である。

柏山氏と葛西氏が正法寺とどのような関わりを有したかについて「正法年譜住山記」から抜粋すると、応安元年(1379)に長坂殿(長坂千葉氏か)が「大柏山之法心坊作千疋の田地を正法寺に寄進」、同7年には「上伊沢大柏山之内貂塚法心坊住九百疋」を光清が寄進して伊豆守清貞(葛西氏か)が証判している。さらに康暦元年(1379)に長坂の大出尼が「柏山郷貂塚之村田千疋」を寄進し、永徳元年(1396)に葛西清康が「伊沢郡大柏山郷内山伏屋敷千疋」を永代寄進している。また柏山氏については伊沢郡之内之内榎山三千疋寄進」とあり、これと同時に前沢五郎兵衛が一千疋を寄進している。よって南北朝時代は柏山氏の本拠地は柏山郷または大柏山郷であり、そこには長坂氏や葛西氏の請所があり、また、そこには正法寺に帰属した貂塚法心坊とか山伏屋敷があったということである。これら大柏山郷の現在の範囲は不明であるが、住山記の天文4年(1536)条に「寺窪開基」とあり、これが貂塚法心坊や山伏屋敷に起因したとすれば、寺窪村(寺蜘蛛村)も大柏山郷の内ということである。

細越城を含めて寺窪村が永徳寺村となったのは寺領の拡大を物語るものである。しかし、細越城の参居館には曲折した巨大な堀が廻らされ、途中の経緯は不明だが、戦国時代後半までそうした土木工事を可能とした居住者の存在は確かである。また永徳寺裏手台地に通天館、または安倍館とあって、枡形は有するが、安倍宗任の居城と伝わる古い形式の城館跡があり、対して大林城の西側近くに八幡館とあって、八幡太郎源義家が陣屋を設けたという城館跡がある。これらは前九年合戦に溯るかは問題だが、この二つの存在も二つの地域を代表した存在かもしれない。つまり八幡館を含む大林城本丸・二の丸、そして小字の大林も江戸時代は永沢村であるが、それ以前は百岡村であったのであり、大柏山郷は百岡村と永徳寺村に分かれていたと想定できる。つまり大柏山郷は細越城と大林城を拠点とした二系の柏山氏の長い歴史があったということである。

本宗といっても入替わりや複数の系列を有するのは中世豪族の一般的在り方である。その転換や不都合は継続者によって消される性格のものである。たとえば柏山氏に数系あろうと、その

活躍を「伊勢守」の事蹟として伝わるのはその例である。細越城の歴史復元はその意味でも非常に困難である。

永徳寺と柏山氏の関係は信仰史の上からも重要な課題であるが、風土記には城外の西根、百岡、永沢らの社堂のほとんどは柏山伊勢守の勧請・普請によると伝えられている。胆沢八幡宮の修理もその例であるが、柏山氏の胆沢郡における歴史的活躍はこうした信仰関係にも知ることができる。

2. 史料に見た柏山の歴史

柏山氏の始まりと南北朝時代

『封内風土記』（『仙台叢書』）は大林城内生城寺境内（三の丸）の碑面に星を刻んだ柏山伊勢守の先祖の石碑は千葉一族が家紋とする月星の紋であり、よって柏山氏は千葉の分流としている。また前述の「柏山平左衛門先祖の事」（『水沢市史』）では千葉氏ではあるが葛西氏から三つ柏の紋を許された一族として紹介されている。

葛西領の初代葛西清重は文治5年（1189）の奥州攻めの功績によって陸奥国内御家人の統率と平泉郡内の治安維持の任務を与えられ、奥州総奉行と称された人物である。その時源頼朝から拝領された領地は『吾妻鏡』に「磐井・胆沢・牡鹿等郡以下数ヶ所」とある。この三郡以外について「余目記録」（『水沢市史』留守文書）などから本吉・気仙の二郡と黄海堡・興田堡の五郡二堡と考えられている。確かに戦国時代の葛西領地は胆沢・江刺・磐井・気仙・本吉・登米・牡鹿の葛西七郡と称されたように葛西領は長い年月の間に徐々に拡大したのであった。その葛西氏の勢力基盤は平泉を中心とした北上川中流域とその外港の役割を果たす牡鹿郡であったわけだが、中でも胆沢・江刺は平泉を支える領境の穀倉地帯であったに違いない。

『吾妻鏡』には、建長8年（1256）に奥大道（奥州街道）で夜盗強盗（悪党）が蜂起し、旅人を煩わしているということで、その路地の警護を地頭24人に命じたとある。これによって奥大道は北上盆地を北上川の東と西に沿って延びていたこと、その警護の葛西を名乗る一族や和賀を名乗る一族が当たり、道路沿いの地頭は幕府の指示に従っていたことを知ることができる。本来であればこの諸人乱行を取り締まるという職務は「平泉検非違使所」に任じられた葛西氏の役割であるが、それは清重一代で終り、道筋の各地頭が任務とする体制に移行していたのである。この段階で葛西氏に柏山・江刺氏が従属していたか不明であるが、含まれていたとしても幕府扱いの地頭でなかったということである。

柏山・江刺氏が北上川流域で活躍した確かな年代を知れるのは南北朝時代の『鬼柳文書』が最初である。他はいずれも後世作成された系図類から推定できるに過ぎない。系図類や伝記は

都合のよい付会と思われる部分もあるが、それなりにまとめ上げた歴史書でもあり、その点で参考とすべき文献である。

葛西領は千葉姓が最も多く、『岩手県史』に掲載されているように「千葉系図」に開祖頼胤の嫡子良胤は建久2年(1191)に胆沢郡百岡館から東山の長坂唐梅城に移住し、百岡は二男の百岡二郎胤広が継いだとされ、以下泰胤が大原、胤道が江刺豊田、正胤が馬籠、胤重が浜田、富胤が一関とそれぞれ分立したと伝えるものが多い。またこれらには頼胤を千葉常胤の子とするものもある。常胤は文治5年(1189)の奥州攻めの東海道の大將であり、最初に頼朝から論功行賞を受けた鎌倉御家人であるが、常胤の子に頼胤がいたか確かな証拠はない。

南部藩の松井道円著『吾妻むかし物語』(『南部叢書』)「胆沢殿の由来」によると、むかし胆沢郡の主柏山殿(千葉殿五男と伝う)は葛西七人衆であり、それは気仙殿、大原殿、本吉殿、薄衣殿、長部殿、江刺殿、柏山殿であり、柏山殿は上胆沢33郷、下胆沢24郷を有したという、上記系図との合成内容が記されている。以上のように葛西領における千葉氏の活躍は確かであり、柏山氏が千葉氏出身であったと考えることに矛盾はない。

『鬼柳文書』に知れる柏山氏の初出は康永元年(1342)三迫合戦を伝えた「石塔義房書状」である。これによって柏山氏や江刺氏は葛西氏を頭越しに奥州探題石塔義房から軍勢催促を受けていた様子を知ることができる。当時、葛西氏の本城は石巻日和山と考えられ、当主葛西清貞は南朝方であった。柏山氏と江刺氏は催促に応じたか不明であるが、当時は惣領の統制に逆らって反対の陣営に参加する一族も一般的であった。和賀一族も二派に別れ、須々孫氏が南朝方であり、文書を伝えた鬼柳氏は北朝方であった。

次に柏山氏と関係したであろう確かな文書は、上胆沢が幕府の直轄領となるということで、和賀領との分郡について鬼柳下総守に出された文和4年(1355)ごろの「大炊介経盛書状」(『鬼柳文書』)である。上胆沢のどこか不明であるが、内容からすれば、南朝方として敗北した柏山一族もいたということである。葛西氏は清貞以後北朝方に転じており、家臣も同様に動静を伺い、二派に別れ、憂き目に合う者もいたのである。前述の永徳寺の創建はそうした最中のことであり、細越城の寺窪館の存在や、百岡館と伝わる大林城の存在などは南北別々に行動をとった柏山氏に起源を考えることもできる。細越城と大林城の創建が南北朝時代まで溯るか否かは発掘調査によってより確証し得ないが、その可能性は以上の内容から高いと推定される。

「薄衣状」に知れる15世紀ごろの柏山氏

「余目記録」によると、奥州探題大崎氏に参礼した時の管轄下の大名の座席順は伊達・葛西・南部が同席、留守・白川・芦名・岩城等はその後列、桃生(山内須藤氏)・登米・深谷(長江氏)、相馬・田村・和賀・稗貫氏はその後列、その後に伊達・葛西の一族が並んだとある。これは大

崎満持が応永7年(1400)に奥州探題に任命されたころのことと推定され、柏山氏や江刺氏は葛西氏の一族としてその末尾であった。

以上のような探題大崎氏の公権も永享・嘉吉の乱を経て、幕府の弱体化とともに衰え、栗原・遠田といった領地境で葛西氏と軋轢を繰り返して、伊達氏の仲裁を招くに至った。そうした状況のなかで柏山氏の動静をも知れる文献が「薄衣状」(『岩手県中世文書』中巻)である。これは葛西家臣薄衣美濃入道経連が蓮阿弥陀仏を使者として伊達氏に援兵を請うた時の書状とされ、明応8年(1499)の書状の写しと考えられてきた。しかし『石巻市史』資料編二(1992)によって公方(奥州探題)大崎教兼の代の応仁2年(1468)から翌年にかけての戦乱のあらましであると訂正されている。原文か、転写本かの誤字多く、文飾誇張に過ぎて文意不明の点が多いので、引用の多くは大意に止められてきた。しかし内容は柏山氏のみならず、当時の北上川流域や沿岸諸豪族の在り方を極めて具体的に伝えたものであり、彼らは何を理由に戦っていたかを伝えた比類のない文献である。よってやや長文だが、この「薄衣入道言上候」に始まる内容を入道の立場で意釈を試みてみたい。(カッコは筆者)

「国中のことは固く探題の知する所である。であるから貴賤は協力し、僧侶も俗人も従わねばならない。いわんや私は卑しくも葛西の門流となって僅かに財産を相続している身であるが、今は隠居となり、一家の采配を捨て、万人に嘲り笑いを受けないように努めてきた。親子二代にわたって公方に奉公し、佐沼城攻略でも働き、いま御成敗の事(奥州探題の検断という意味か)をできるのもその功績のおかげである。[以上探題を支持すべき論理]

そもそも上形氏と富沢氏(葛西氏の重臣岩ヶ崎城主)の二人は身分を顧みず、二迫彦二郎を切腹させたのは出過ぎた間違いであった。それ以後公方は大変悩まれ、この不義の始末について度々聞かれた。怠っていたのではないが、この件は古川殿(大崎一族)の扱いで富沢河内守だけが赦免され、よって河内守は公方を守ることを誓った。このことを柏山伊予守重朝は妬み、金成氏や黒沢氏と計って河内守を殺害した。その次第は説明に及ばないが、私は、無念の公方に譴責され、10年(この年数は正しいか)にもなる。しかしこの事については江刺三河守と寺崎下野守が公方によく説明して下さり、漸く許された次第である。[以上事件の発端と弁明]

ところが、幾許もなく、岩出山の氏家三河入道と同安芸守は自分の城に拠って反乱を起こし、時々出撃しては神社仏寺いうに及ばず、放火を尽くし、凶悪に先頭となり、狼藉を専らとした。これを葛西氏が上方にも告げ、東西は乱れるばかりとなった。このような時、平塚久心もまた心変わりし、城に拠って公方に背いたのである。公方は闇夜の火が消え、波や流れに棹を失うように百々城を逃れ内崎城に入った。(中略)公方は石川越前禪門と中目禪門の二人を使者にして、江刺三河守と私に力を合わせてほしいと何度も救援を要請された。それを再三にわたって辞退したならば、勇士の道を失うことになるのでこれに応ずることとした。[以上戦いに加わっ

た弁明]

去年閏10月15日、江刺禪正大弼と私は同時に出陣し、翌月13日に平塚久心をまさに平伏させるという時、私の弟が謀反を起こし、逆らって登米の軍兵数百人を引率して長谷城に入り、親類や家臣は数ヶ所の楯や要害を捨て没落した。この事は驚くことではないが、取り分け父に従っていた本吉信濃守清継に所帯数ヶ所を掠め取られたことである。まずもって私はこの会稽の恥を晴らさねばならない。またこれに加えて去年12月8日、惣梁(葛西太守)の軍勢数万騎が私の城に押し寄せたのである。寒中ではあったが籠城し、一戦を遂げようとしたものの、大軍は猛然と切岸まで乗り付け、精兵は矢倉の楯も持ち堪えることもできず、門は破られ、筒木を引いて石弓を張ることもできず、城兵の混乱はこれ以上のことはなかった。[以上本吉信濃守への恨みと本主に攻撃されたこと]

すでに降伏かという時、米谷左馬助が申すには、悔しいが、腹を切るとは浅猿であり、屋形様(惣梁)が出向いているのであり、見参して討ち死にしようといつて、七八騎で門を押し開き、切って出た。(この下りの籠城戦は軍記物的であり、中略)よって惣梁の怒りはますます激しく、門戸を閉じてしまった。籠城戦は2月(12月か)9日となり、下平形氏の家来駆けつけたが、時移さず、柏山伊予守重朝は武を誇り、白髪に甲を載せてそれと戦った(中略)[以上薄衣城での激戦内容と後詰の状況]

細川三河守、摺沢摂津守禪門、横沢式部大輔、本吉松崎城(を攻撃の意か、次の内容にかかるか意味不明)。去る2日の明け方、伯父岩見之守を大将とする数百人が味方として入城したところ、本吉の手の小泉備前守と岩月式部少輔の手引きにより、数千人で館が攻撃された。その間、死者や手負いのもの数知れなかった。翌日早朝、本吉信濃守は登米と山内の軍勢を引率し、庄外の木戸を守り、海には数千の舟を置き、通路を遮断された。(中略)[以上本吉での戦乱の様子]

去る10日、敵側の大原伯耆守、その兄世田米伊豆守、鱒沢越前守の三人は500騎ばかりで峠(櫛松坂井毛峠)を越えてきた。村々は程を失い、後詰に私も総勢100騎ばかりで東山の熊田倉に押し寄せ、そこで狼煙をあげた。上折壁、下折壁、釘子の面々馳せ集まり、午の刻から酉の刻まで合戦して引き返したが、折壁将監らに攻撃された(中略)。[以上遠野寄りと東山奥部での激戦内容]

年内には余す日もなく、明年2月にもなれば、公方は自ら甲冑を着けて佐沼辺りに発向するという。その時は私も加賀野に陣を張り、旗を戦場に掲げたい。それに呼応して、江刺禪正大弼、糠部三千余騎、その他斯波・稗貫・遠野・和賀・須々孫の軍兵が胆沢大林に向って陣を並べ、加えて山北・由利・秋田の軍兵が降江(胆沢川の奥)に越して寺窪辺りに陣を取るならば、たとえ柏山伊予守は豪傑であり、射撃をよくするといつても、両方からの猛勢で押し寄せるならば自滅し、戦いの目的はたやすく果たすことができるであろう。上胆沢・下胆沢はいうに及

ばず、一揆まで味方とすることができるであろう。[以上柏山氏攻撃予定と戦乱集結に対する打開策]

公方の一門である一迫氏を栗原に一陣とし(『北上市史』の転写本にあり)、上方(上形氏か)・富沢がこれに属しても、こればかりでは力不足である。寺崎下野守は千厩辺りに出陣し、奥玉に詰め、東山に日夜放火している。浜口(本吉や気仙地方)要害、その他の城塁は破却に堪えないと思われる(攻撃でき兼ねるの意か)。摺沢城は大原肥前守が守り、高田峯岐守が馳せ加わってこれを警護している(味方の摺沢城は乗っ取られた意か)。奥玉と大原の兵は少しも来ない(『北上市史』の転写本にあり)。私は門崎城に拠り、松川の長坂城を攻撃するなど南北から後援している。こう申すのも返って猿猴月を取るとか螳螂の斧の例えの通りである。[各地の乱戦模様と自分の力不足の弁明]

しかしながら探題を救援することは、伊勢天照大神と八幡大菩薩の神力を合わせ、数多くの敵の首を刎ねることであり、命ある私の幸せである。今度、公方様が鉾楯を取られるとしても、これからは誰を崇め奉るべきであろうか。ただ伊達兵部少輔成宗(ママ。先代の可能性あり)に味方になっていただきたいのである。私一人の力では国のためにも民のためにも争いを防ぐことは無理である。詳細は使いの蓮阿弥陀仏に伝えてある。この書状は読み終わったら火に燃やすことをお願いしたい。恐々謹言。極月(12月の略称)13日。沙弥経連 薄衣美濃入道進上御奉行所」(以上 カッコは筆者)

以上、筆者の粗略な「薄衣状」の意訳であるが、この戦いの直接的発端は三の迫の地頭相互の私闘であり、その前提には大崎探題側が葛西側の佐沼城を攻めたことに理由があったようである。おそらく探題大崎教兼に反対する二迫氏の殺害がもととなり、富沢氏が大崎方となったことに腹をたてた柏山氏らが富沢氏を殺害し、その裁定をめぐって大崎氏と氏家氏は対立し、一大争乱となったのであろう。しかし大崎探題には諸氏を従わせる力量がなく、その無力のなかで一大争乱となったわけである。

混沌と入り乱れた地頭諸氏の行動は大崎探題の失墜した公権力や、大崎氏や葛西氏の領主権力に対する氏家、本吉、薄衣・柏山・江刺など国人とも呼ぶべき有力地頭の独自の行動、また大原氏のように二派に別れた行動などあり、極めて興味深い内容である。建て前は大義であっても富沢氏や薄衣入道は葛西領では劣勢であった。また、全体からすれば大崎氏と葛西氏の領境における宿命的な対立があり、伊達氏の介入を必然化していたということである。

大崎氏と葛西氏の家臣にとってその動静の見定めと身の振り方は浮沈に関わる問題であった。いずれの側に付くかという選択は、近隣との私闘をも覚悟しなければならない選択であり、日常の些細なことも戦いの振幅に結び付いたであろう。家督相続など上級領主の分裂は末端まで戦いを敷衍させるというメカニズムこそ中世であった。

また「薄衣状」では城館の活用状況も明解であり、応仁の戦乱が奥州にも戦国時代を到来させ、至る所に城館が構築されていた様子はよく伝えられている。後世の軍記物のような修飾も考えられるが、これほど当時の様子を知れる文献は他にない。

3. 戦国時代後半以降の柏山氏と大林城

「葛西奉賀帳」やその後の文献に知れる柏山氏

以上のように大崎氏に対立し、専横とも取れる柏山氏（柏山伊予守）の勢力は葛西方でも群を抜いていた。しかし、「薄衣状」によれば、出羽勢による大林城攻めの拠点の寺窪であり、大林に対する地域であったことを伝えている。地名からそれは細越城と考えられる。このように前節で述べた柏山氏二系のうち一系は大崎探題側を指示していた可能性とともに、探題側に属した不利は一方の柏山氏の交替させる要因になったのでは、などと想像するが確証はない。

伊予守系柏山氏については前葛西宗清の時（大永から天文の初め）の和歌山県熊野速玉神社の「葛西奉賀帳」（寄付芳名額。「平家奉賀帳」ともいう。『岩手県中世文書』）によると、柏山伊予守重勝の寄進が15貫文（その他高額寄進は本吉播磨守晴継12貫文と馬1疋。江刺平重治10貫文と馬1疋）と、葛西一族中で最高であった。よってこの段階では柏山氏は伊予守に統率されていた可能性が考えられる。

しかしながら、「葛西奉賀帳」でも葛西宗清の一族として名を連ねているように、柏山氏は葛西氏の傘下であり、完全に独立した存在ではなかった。つまり、柏山氏は、鎌倉以来の郡総領権を保ち続けた同じ流域の和賀氏、稗貫氏、阿曾沼氏と異なり、葛西領を分割管理した代官に根本を持つからである。したがって基本的には全盛期にあっても柏山氏は葛西家臣団に位置付き、軍役を課されていたのである。それでも柏山氏は千葉系とされる江刺氏、大原氏、薄衣氏、本吉氏、浜田氏などとともに独立性の強い豪族であり、さらには大崎氏との境界にあつて、その動静に日和見の富沢氏がおり、葛西氏はこれら家臣の反乱を押さえるために、その対策に苦慮し続けねばならなかった。

大林城柏山伊勢守明吉と重臣石川一族

大林城柏山氏の襲号は伊予守と伊勢守であった。『伊達正統世継考』によると、永正18年（1549）に伊達植宗が最上での天童合戦において柏山伊予守に出陣を求めており、その頃も伊予守は世襲されていた。ところが、文龜3年（1503）に水沢日高妙見社は柏山佐渡守から13貫の知行を宛てがわれており（『岩手県史』第2巻）、大林城以外にも有力な柏山一族がいたことを知れる。

天文（1531～1555）の頃、大林城の城主は柏山伊勢守明吉（明好）であった。この人物によって一族の統合化や家族支配が進んだ様子は後述のように葛西氏の介入や、重臣石川氏との関係などから知ることができる。柏山氏が伊勢守をもって象徴されるにはこの人物からである。

大林城柏山氏の重臣石川氏の起こりは不明であるが、石川氏に対する柏山伊勢守明吉と葛西大守からの知行宛行状などの書状を列挙すると、天文3年（1534）に南部氏との戦いの恩賞として明吉から石川越後守に胆沢郡下河原に3,000石と若柳に5,000石、西磐井郡日形村に4,000石、机嶋村に3,000石。天文8年（1539）の軍功として明吉から石川又太郎に胆沢郡柳田村2,000石と八幡村に3,000石。天文10年（1541）の軍功として葛西高信（晴胤）から石川丹波守に胆沢郡四牛村と新里村に8,000石。天文17年（1548）に登米での働きとして石川長九郎に胆沢郡下葉場村に3,000石。永禄6年（1563）には大守葛西高信から石川肥後守に柏山伊勢守に添え置いた働きとして本領の松川村に添えて胆沢郡下葉場村に30,000石。年号不明だが永禄の頃、柏山伊勢守明吉から石川彦次郎にこの度の無事の取扱の働きとして備州長光経太刀。さらに天正9年（1581）に大守葛西晴信から石川彦次郎にこの度の柏山兄弟の出入りに対する取扱の働きとして胆沢郡下葉場村に2,000石と下河原に3,000石。といった文書やその写しが伝えられている（『水沢市史』中世）。

以上の石川氏関係文書の中で、永禄6年（1563）の葛西高信書状は晴胤に改名以前であり、しかも晴胤は盛岡の『葛西家系図』によると、弘治元年（1555）11月13日、69歳の卒去とある（他例は天文年中）。そして晴胤の長男は親信であり、実子のない親信は弟晴信を永禄元年（1558）に嫡子としたとされている。よって永禄6年は晴信の代である。このようにその他関係文書も石数の揃いや地名の重複など、信憑性に検討の余地はある。しかし、石川氏は柏山氏からも葛西大守からも頼りにされた有力氏族であったことは確かである。『岩手県史』によると、中尊寺東館坊石川家は又太郎・丹波守を襲名襲号し、永正中（1504～1521）すでに地藏院の法印であり、又太郎・丹波守を襲名襲号し、半入館（胆沢川対岸の半入屋敷）主石川氏（彦次郎襲名）の嫡系であったという。したがって大林城二の丸跡が石川館とか半入館と伝承された由縁は、又太郎系か彦次郎系の城内屋敷であり、石川氏は城主側近の実務的家臣であったということである。

石川氏の実務的働きについては、又太郎系が地藏院の法印であり、また同じ一族の下姉体の羽黒派修験弥勒院快順が天文10年（1541）に柏山伊勢守明吉から胆沢郡四釜（塩竈）の28丁を寄付された（『岩手県史』）という点から、明吉は山伏信仰に深く帰依し、石川氏はその先達を代表していた可能性がある。そして、無事取扱の働きをしたという石川彦次郎宛ての明吉の一書は一族の対立を調停した感状でもあり、彦次郎系はそうした検断的任務を果たしていたと考えられる。その他、彦次郎（肥後守）は永禄末年か天正の初め、柏山伊勢守と和賀丹後守と

江刺氏の三者会談を江刺郡（現北上市）の国見峠で開くことの仲介役にも当たっている（『岩手県中世文書』中巻）。さらに天正9年の柏山兄弟の出入りに対する取扱の働きという彦次郎に対する葛西晴信書状も一族の争いに対する仲裁役を果たしたということである。この点で先の永禄6年（1563）の葛西高信書状も葛西晴信書状の写し誤りであった可能性があり、石川肥後守（彦次郎）は柏山伊勢守に添え置かれたという内容も不都合ではない。

以上のように天文から天正にかけて柏山一族には長い確執があり、葛西氏はその調停に石川氏を当てていた。こうした状況の始まりを伝えているのは天文11年（1542）と推定されている「葛西高信書状」（『岩手県中世文書』中巻「三田文書」）である。それは胆沢の者の争い、つまり柏山一族の争いについて長沢惣太郎という人物が葛西高信に訴えたため、高信は柏山氏譜代の蜂谷二郎左衛門（水沢）、三田主計（前沢）、大内彦三郎（姉体か）に対して、三人でよく相談して仕置するようにと命じたものである。前述のように高信は天文中に晴胤と改名したが、遠野「阿曾沼興敗記」（『遠野市史』）によると、天文22年（1553）に晴胤の子六郎信胤は主家を出奔し、桃生郡大森城に拠り、その時、柏山伊勢守は信胤を支援して晴胤に反抗したとある。そこで晴胤は大森城攻撃後、柏山氏を攻撃することとし、阿曾沼一族の鱒沢長門守をして遠野勢の出陣を要請したのであった。

葛西晴信は永禄3年（1560）に永徳寺に「寺窪村」一村を寄付したことは前述のとおりである。そこには大林城に次ぐ細越城という城館があり、柏山氏のもう一つの拠点であったと考えられる地である。しかしこの太守による寺窪村の寄進とは、寺窪村は葛西氏の直轄地となったいきさつがあったと考えねばならない。それは「阿曾沼興敗記」で、柏山伊勢守が信胤を支援して晴胤に反抗したとか、前沢町白山の「佐藤寛家系図」の「永徳寺村城主榎山伊勢守追罰の砌」（『水沢市史』中世）と伝承から推測して柏山伊勢守は葛西晴胤かが晴信に敗退したということである。したがって天文11年（1542）の柏山一族の争いとは大林城側と細越城側の争いであり、伊勢守が細越側を統合したのに対して葛西氏が介入し、その軋轢が天文22年の晴胤への反抗となり、そのため寺窪村は晴胤か晴信の代に没収されて永徳寺領となり、その後、石川氏の葛西氏と柏山氏の仲介で一応解決を見たという過程である。推測に推測を重ねた考察であるが、この間の事情は相当複雑であったに違いない。

柏山兄弟の争い

「正法寺譜住山記」の永禄10年（1567）3月20日条に「柏山殿三迫逃江刺殿本位也」とあり、柏山氏にこの時も争いがあり、「柏山殿」と呼ばれるほどの人物が三迫という江刺殿のもとに逃れたと解釈できる。「柏山殿」とは誰であるか不明であるが、後の経過からすれば、明吉の子息の柏山兄弟であり、その嫡子伊予守明国と弟の中務少輔明宗であり、逃げたのは明宗と考えら

れる。長年の紛争の末、小山九郎などに支援された明宗は大林に入城して家督を継ぐことになる。この兄弟争いの発端は不明であるが、経過については柏山氏譜代の重臣三田氏の伝えた「三田文書」や「正法寺譜住山記」に断片的に知ることができる。

葛西晴信から三田氏に宛てた文書に柏山兄弟の紛争を知れるのは三通ある。一通は元龜二年(1571)9月13日付の三田刑部少輔宛で、磐井郡の一揆鎮圧の軍功を褒め、「殊ニ柏山出入之儀之告来無心元候、依其以忠略、無事之取扱候由、彼是於晴信令喜悦候」と、軍功に対する恩賞の約束をしたものである。また一通は天正元年(1573)8月2日付の三田弾正少輔宛で「今度於伊沢軍勢頗令難儀之処、否其方馳来、無比類武剛、猶更速得勝利候事、偏感勇威者也」と、これに対する恩賞を約束したものである。そして残る一通は年号略だが、同じく天正元年と推定される卯月11日の大内丹後守と三田刑部少輔宛で「然者柏山兄弟之間之儀、于今相澄候由、時分柄と伝、内々此方より双方へ雖及異見度候、双方覚悟難斗候間、伊予中務存分之儀、兩人前々可有之候間、委可申越候」とある。

ところが柏山兄弟の争いはさらに続いた。前述の天正9年(1581)7月7日付の石川彦次郎への葛西晴信宛行状に「今度柏山兄弟出入有之処ニ、其方取扱候段、事しすまり候事、無比類候、依之為恩賞」とあるものの、同年と推定される7月29日付の小島山城守と松川常陸守への葛西晴信印判状には「柏山兄弟間柄無然、及一戦之処、寺崎勸応打死、弥以伊沢口取乱候処ニ、其方共横馬相入候故、双方引退候事不斜候」と、東磐井の地頭などの横やりに晴信は業を煮やして、兄弟の争いはすでに10数年となっていた。(以上の古文書は『岩手県中世文書』から引用)

「正法寺譜住山記」天正11年(1583)の条に、「三月十七日ヨリ伊沢乱入、柏山殿八月十六日大林ニ入ル」とあり、ようやく兄弟の争いに決着がつき、勝者の明宗は大林城に入城し、明国に代って城主になったと見れる。したがって明宗はそれまでどこを居城としていたか、また敗退した明国はその後どうなったか全く伝えられていない。明宗は伊予守を名乗って下胆沢といたという説もあるが、因みに永徳寺村の細越城の構造からすれば、主郭後背は折歪のある水堀であり、この巨大な工事は16世紀後半と推定される。明宗とは断定できないが、だれかが居城していた可能性はある。

柏山氏の家伝に、明国について「其身不足ノ人ナルニヨッテ家ヲ継ガズ」とあるが、以上の内容からすれば明国は父明吉(明好)引退時から天正11年まで本城大林城の城主であったことは明らかである。したがって明宗の入城で大林城から明国派は排除されたと推定されるが、それも不明である。しかし、明宗による三田氏に対する排斥はその肅正として考えることができる。

三田氏の排斥とその後の柏山氏

柏山氏の家伝(「柏山平左衛門先祖の事」『水沢市史』)に、大林城城主となった柏山中務少輔明

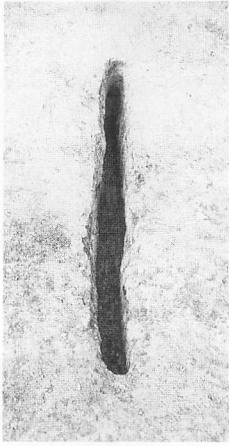
宗（中書明宗）は、前沢城主三田左衛門に謀反の心あるとみて、弟の小山九郎（明忠）と折居宮内（前沢折居城主）を派遣して三田の切腹を強要したとある。事の起りは鎮守駒ヶ岳から毎年重陽の節句にお駒おろしを祭礼としていた。この場所は恐らく大林城の三の丸の駒形社であったと思われるが、家中がすべて集まる行事であった。ところが三田左衛門一家は誰も来なかった。三田氏は柏山家譜代であり、しかも胆沢に肩を並べる者がいない大身であり、よって神事に出席しないのは逆臣を企ているという噂がたった。また当時、明宗は葛西氏と義絶状態にあったが、石巻に差し置いていた三田氏の嫡子が前沢にもどっていたり、葛西晴信の家来三田刑部少輔も前沢の左衛門方にたびたび訪れているとのことで、このままでは柏山家にさわりになるということであった。しかし、三田左衛門は異心のないことを主張して切腹を受け付けなかったため、九郎と宮内は300騎で攻めるとし、切腹するか、それとも戦うかと迫った。翌朝攻撃となり戦いが始まった。そのため永徳寺と正法寺が仲裁に入り、明宗に対して左衛門の逆心のないことを訴えた。両僧は明宗の承知を受けて前沢に向かって折衝したが、左衛門は妻子ともども自刃して果てたという。三男久三郎は生き延び、その後和賀氏家臣鬼柳氏に奉公し、「三田文書」を伝えたのであった。以上のように三田氏は明宗によって排斥された。

三田氏排斥事件は葛西晴信との対立や柏山兄弟による下胆沢の掌握などからして天正11年まもないころであったと考えられる。こうして安泰を得た明宗の率いる柏山氏であったが、天正18年（1590）の豊臣秀吉による小田原攻めには葛西氏と行動をとともにして参陣せず、ともに領主権は没収され、居城追放となった。この時、葛西勢は奥州仕置の豊臣勢を向え撃つこととなり、前述のように柏山掇津守胤道が250人の諸士頭として出陣した。城主明宗とその嫡子は後、出羽に亡命し、後に明助は南部利直に仕えて和賀郡岩崎城の城代（1,000石）となり、伊勢守を名乗った。したがって掇津守は『葛西真記録』に居城上胆沢百岡邑とあるが、大林城主の代理であった。恐らく城主明宗は大林城の守備にあたったのであろう。柏山氏逃亡直後の大林城には中央軍の木村伊勢守が進駐し、その家臣松田が水沢城に配置され、近辺の守備に当たった。しかし、柏山一族は進駐軍の帰還したその年の10月に一揆を起こし、松田を殺害した。大林城に誰が駐留したか不明であるが、それを追放して居城を取り返したに違いなく、翌年の奥州再仕置で再度追放されるまで束の間の本拠であった。

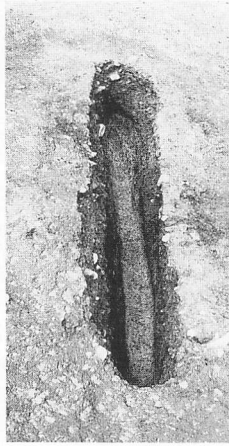
慶長5年（1600）に和賀忠親は岩崎一揆を起こすが、大林城（大森城）を出発した形跡があり、その頃はまだ城郭の形状を残していたと考えられる。しかし、寛文7年（1667）の東山長坂千葉一族の「千葉介平広胤書状」（『水沢市史』第2巻）には「百岡城へも忍び行き、一見候得は是も同じく荒野と成りて、本丸二三のわけもなし」とあり、その頃は往時の景観をほとんど失われていた。天正19年に中央軍によって大林城のどこが修理されたかなど、全く記録は残されていない。

以上

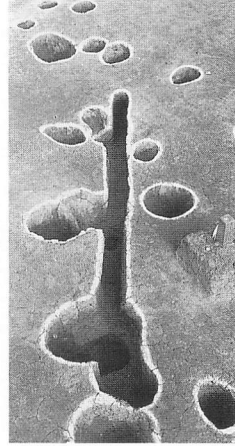
写 真 图 版



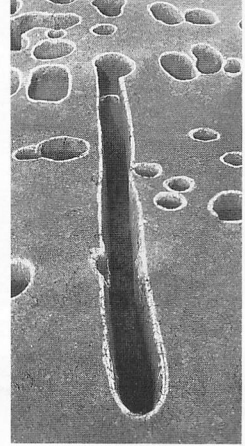
B1陥し穴 E→



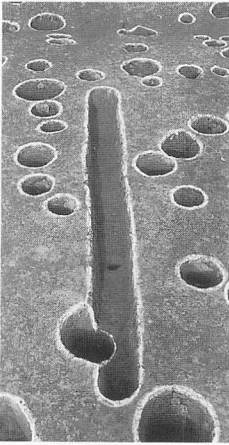
B2陥し穴 S→



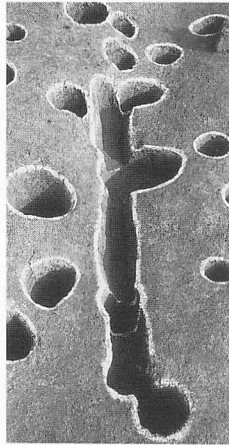
C1陥し穴 S→



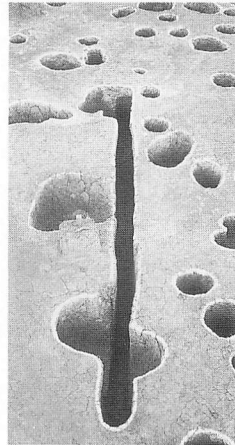
C2陥し穴 S→



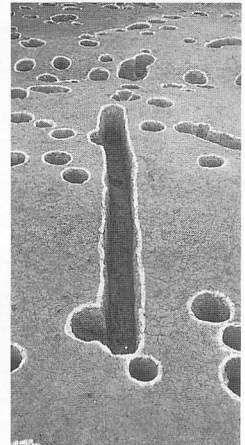
C3陥し穴 S→



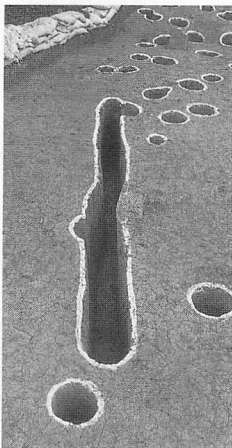
C4陥し穴 E→



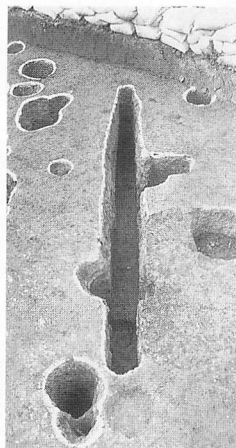
C5陥し穴 S→



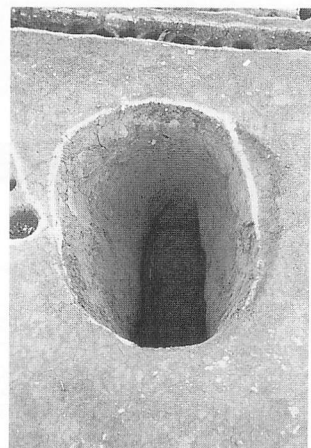
C6陥し穴 S→



C7陥し穴 S→

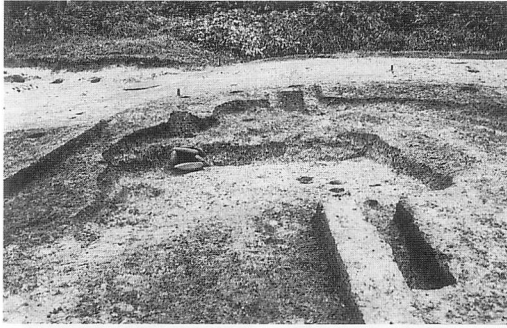


C8陥し穴 E→



C10陥し穴 S→

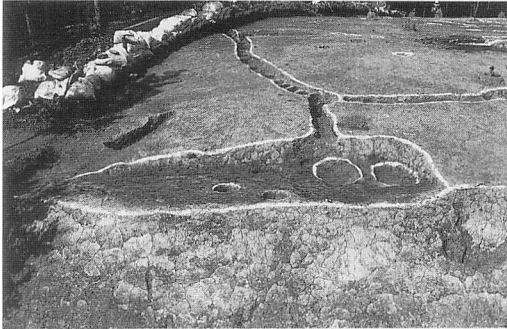
写真図版1 縄文時代の遺構



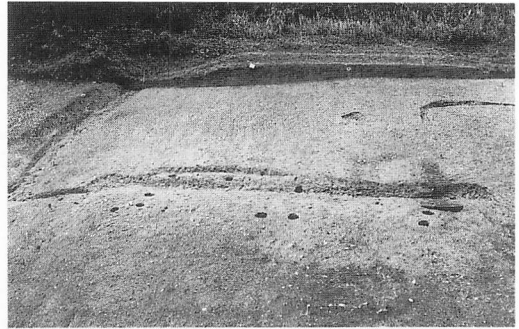
E 5 竪穴住居跡完掘 E →



E 5 竪穴住居跡カマド



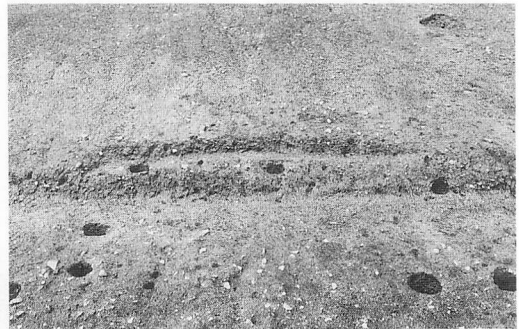
C 2 竪穴住居跡完掘 S → N



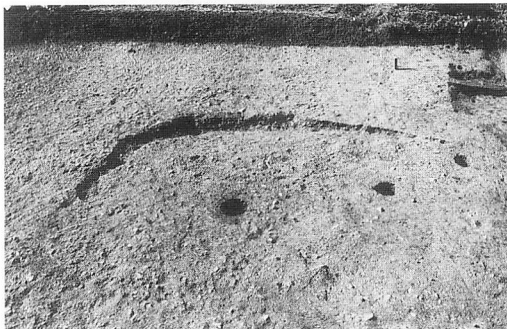
E 1・2 竪穴状遺構完掘 E →



E 4 竪穴状遺構完掘 E →



E 2 竪穴状遺構完掘 E →

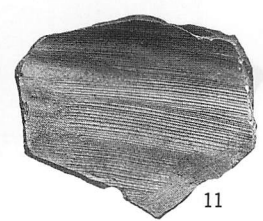
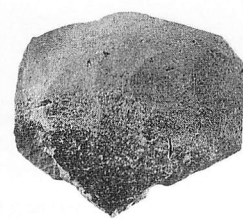
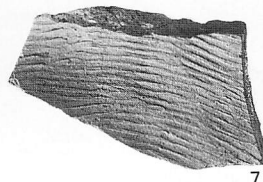
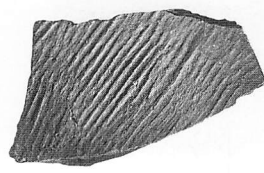
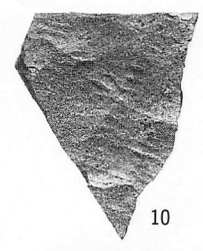
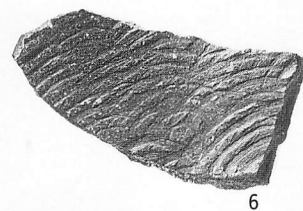
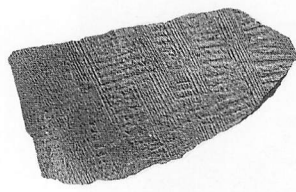
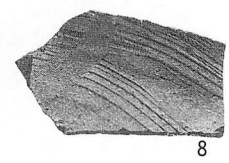
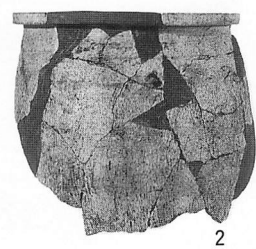
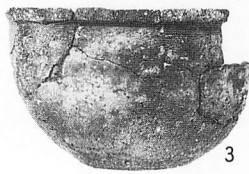
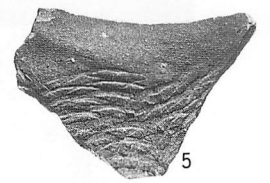
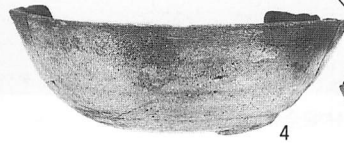
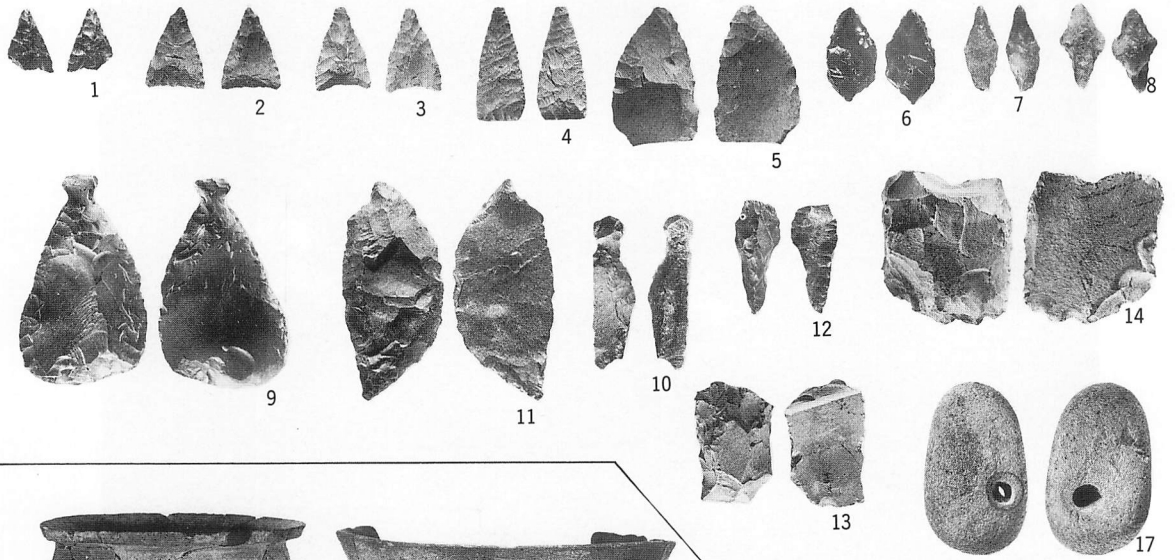


E 3 竪穴状遺構完掘 E →



D 5 土坑完掘 S →

写真図版 2 古代・古代～中世の遺構



写真図版3 縄文時代・古代の遺物



大林城全景（平成）



大林城全景（昭和30年以前）

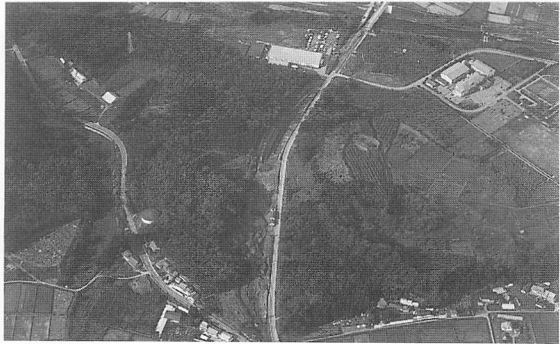
写真図版 4 航空写真(1) (遺跡全景)



大林城全景 (平成) S →



平成6年度調査終了全景 S →



大林城 (内郭) S →



平成7年度調査終了全景 E →

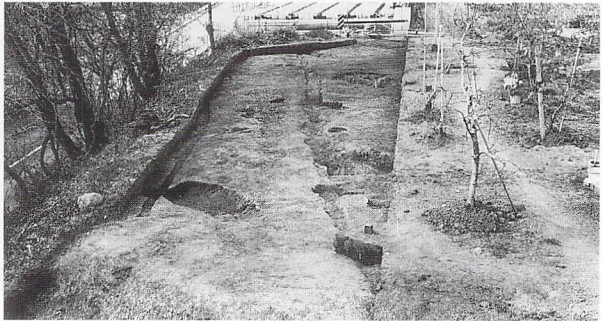
写真図版 5 航空写真(2) (調査区全景)



A2堀跡完掘 S→



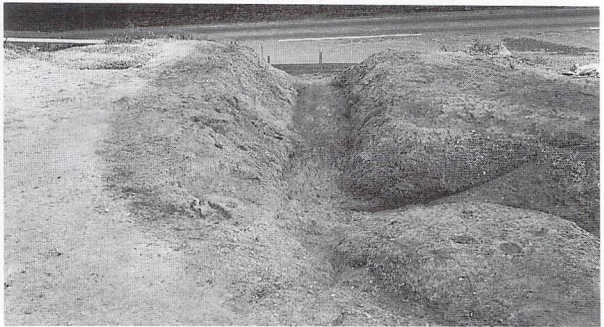
A1堀跡断面 W→



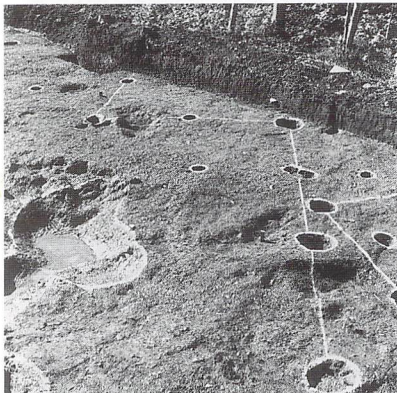
A区北側調査終了全景 SE→



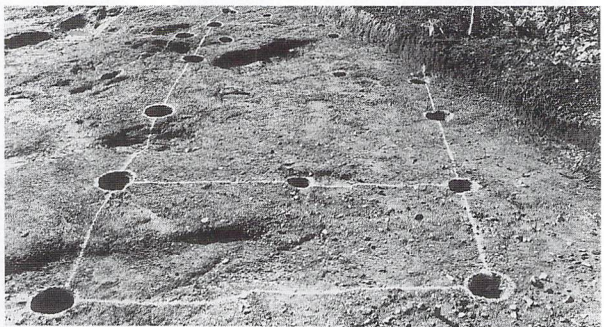
B区南側調査終了全景



B1堀跡完掘 W→



B1柱穴列 N→

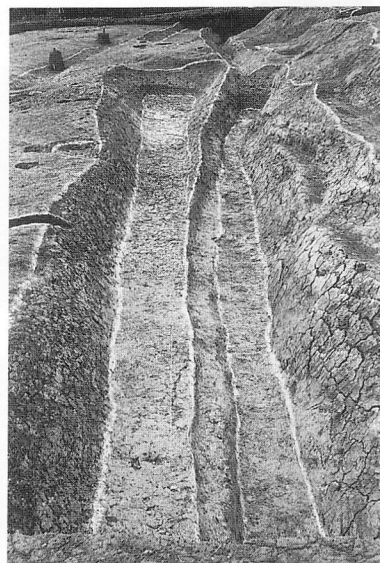


B1掘立柱建物跡完掘 N→

写真図版 6 中世の遺構 A・B区



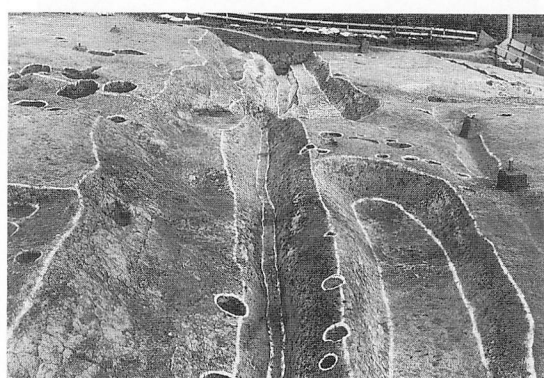
C区調査終了全景



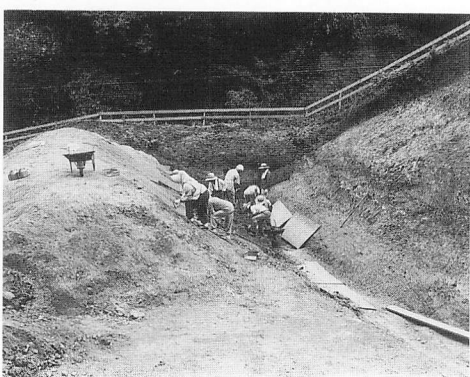
C2・3堀跡完掘 E→



C1堀跡・土塁完掘 W→



C2・3堀跡完掘 W→



C1堀跡作業風景



C1平坦地整地盛土断面

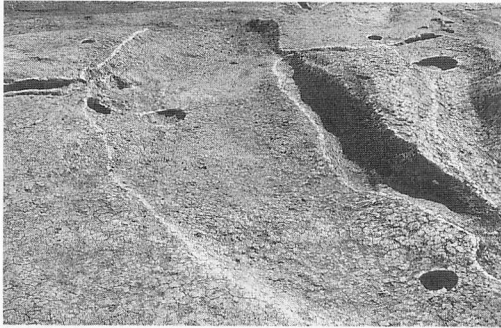
写真図版 7 中世の遺構C区(1)



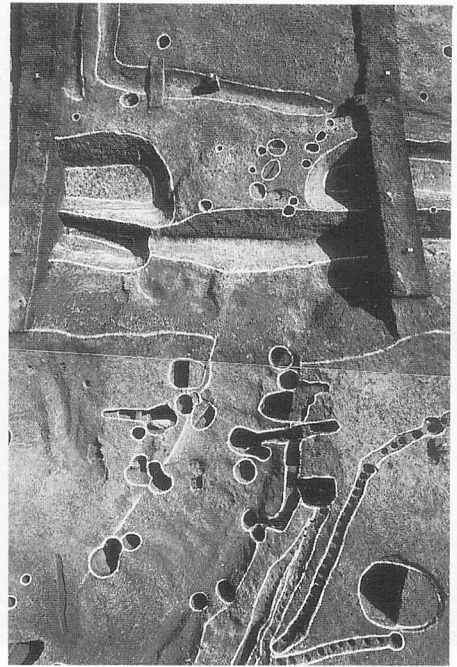
C区調査終了全景 S→



C1道路状遺構 S→



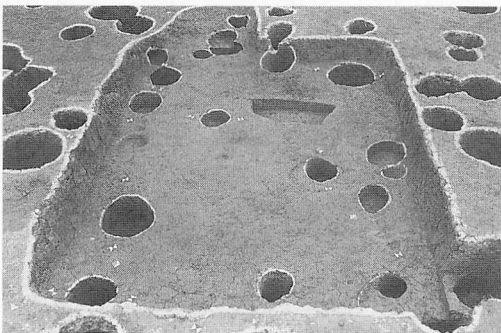
C2道路状遺構 N→



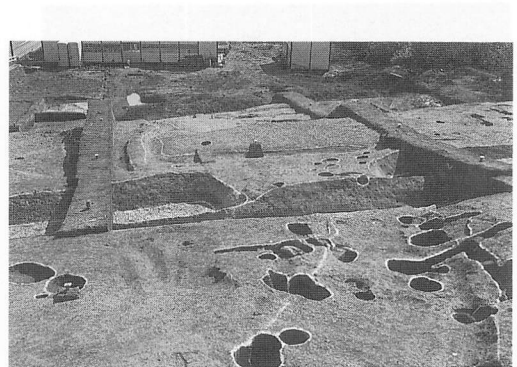
C1虎口



C1平坦地柱穴群 S→

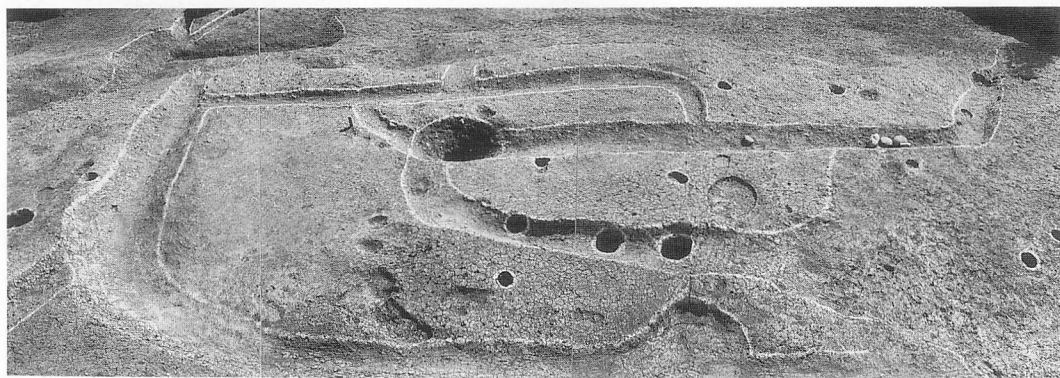


C1竪穴状遺構完掘 NW→

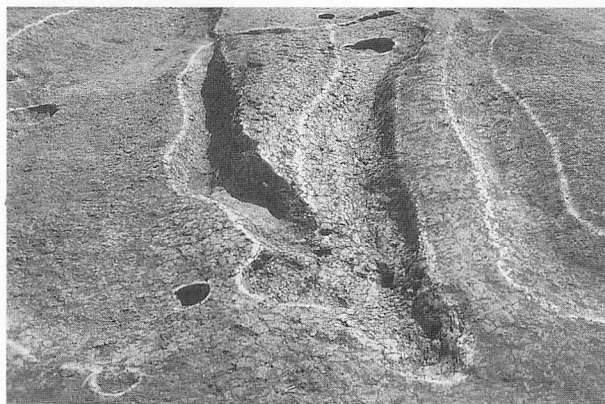


C1虎口完掘 N→

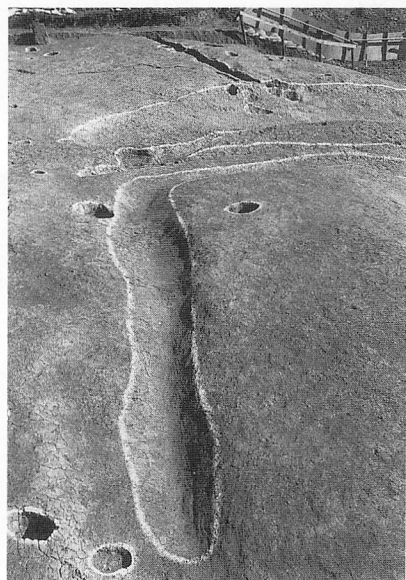
写真図版 8 中世の遺構C区(2)



C3平坦地溝跡群 (C5・6・7溝跡) N→



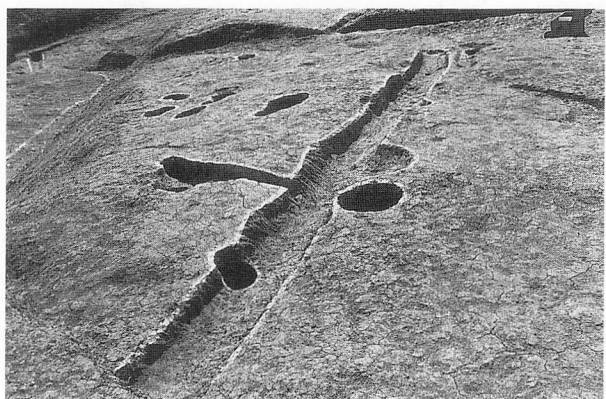
C2溝跡完掘 N→



C1溝跡完掘 W→



C8溝跡完掘 E→



C3溝跡完掘 E→

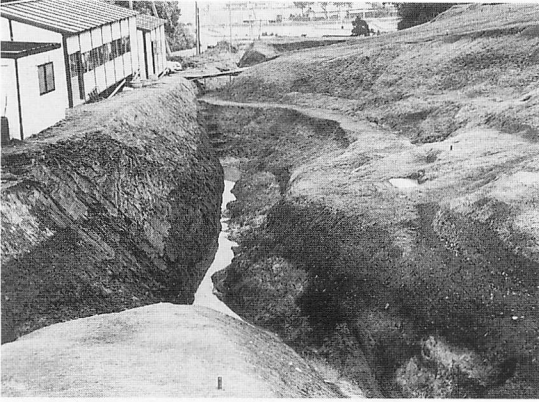
写真図版9 中世の遺構C区(3)



D区柱穴群 S→



D3土塁完掘 S→



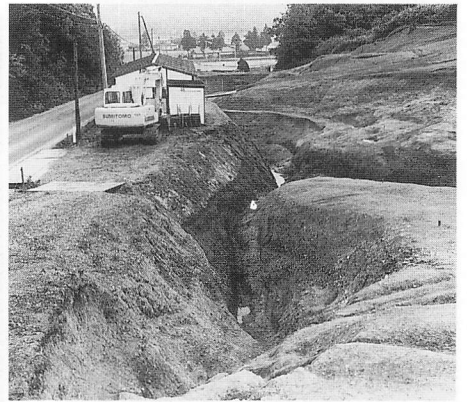
D1・5堀跡合流点 N→



D1堀跡完掘 N→



D区調査終了全景 S→



D5堀跡完掘 N→

写真図版10 中世の遺構D区(1)



D1平坦地柱穴群完掘 E →



D10・11・12溝跡完掘 N →



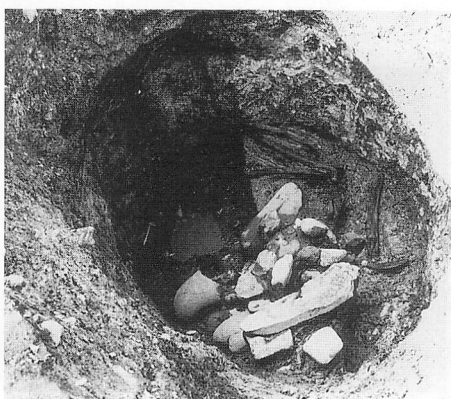
D1・15・16・31溝跡完掘 N →



D15・16・17溝跡完掘 N →

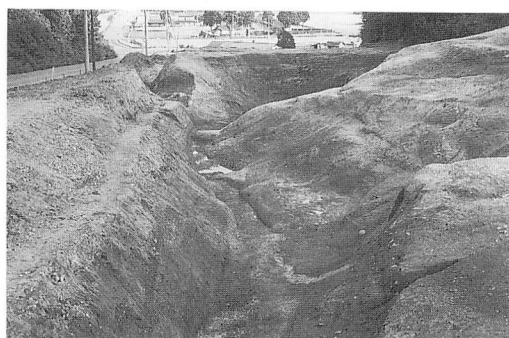


D14・20・24・26溝跡完掘 NE →

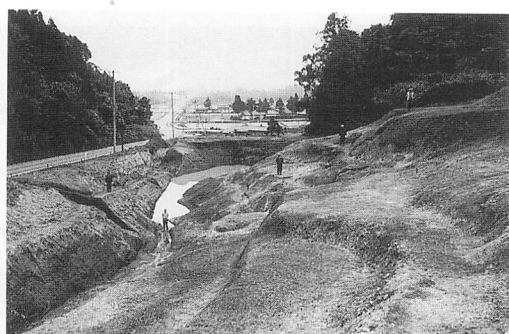


D2井戸遺物出土状況

写真図版11 中世の遺構D区(2)



E 6堀跡完掘 N→



E 区南側段築状況 N→



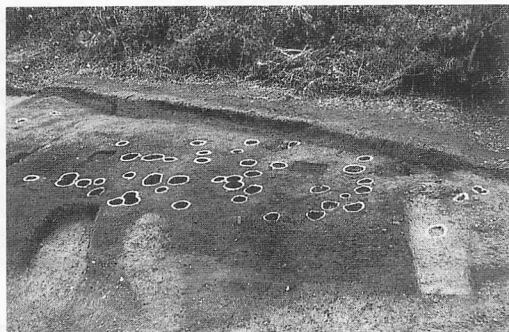
E 6堀跡 (水堀部分) N→



E 区南側段築状況 E→



E 区北側段築状況 N→



E 2平坦地柱穴群 E→

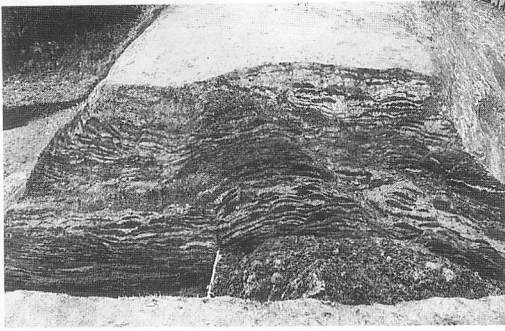


E 3平坦地柱穴群 S→



E 2平坦地柱穴群 S→

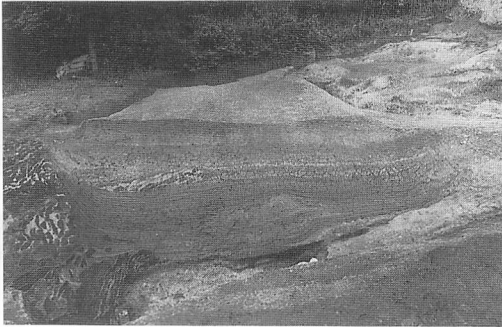
写真図版12 中世の遺構 E 区



E1土壘断面 E→



E1土壘完掘 S→



E1偽虎口断面 E→



E1偽虎口完掘 NE→



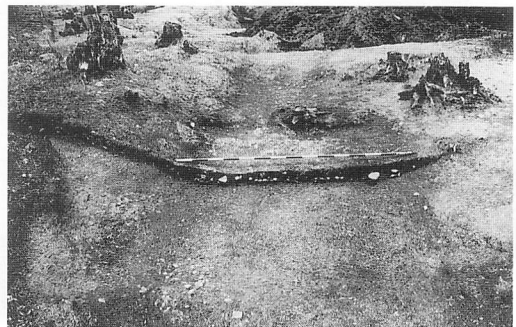
E2堀跡完掘 E→



E2堀跡(屈曲部)完掘 S→

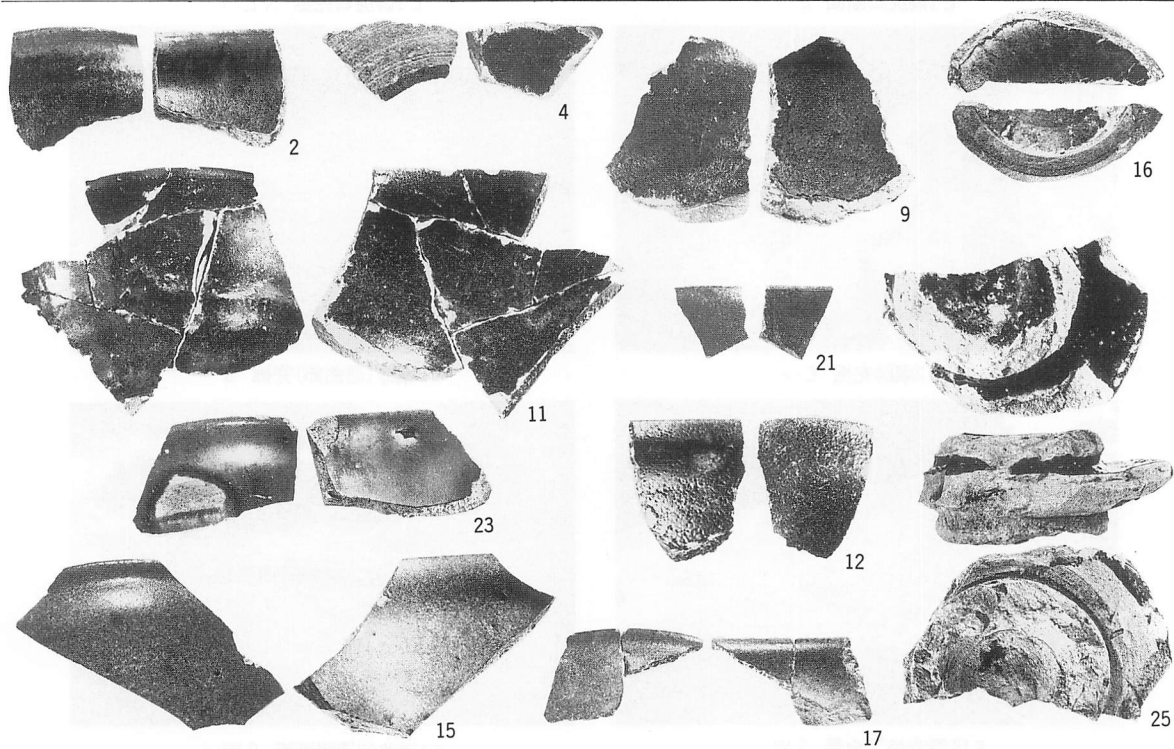
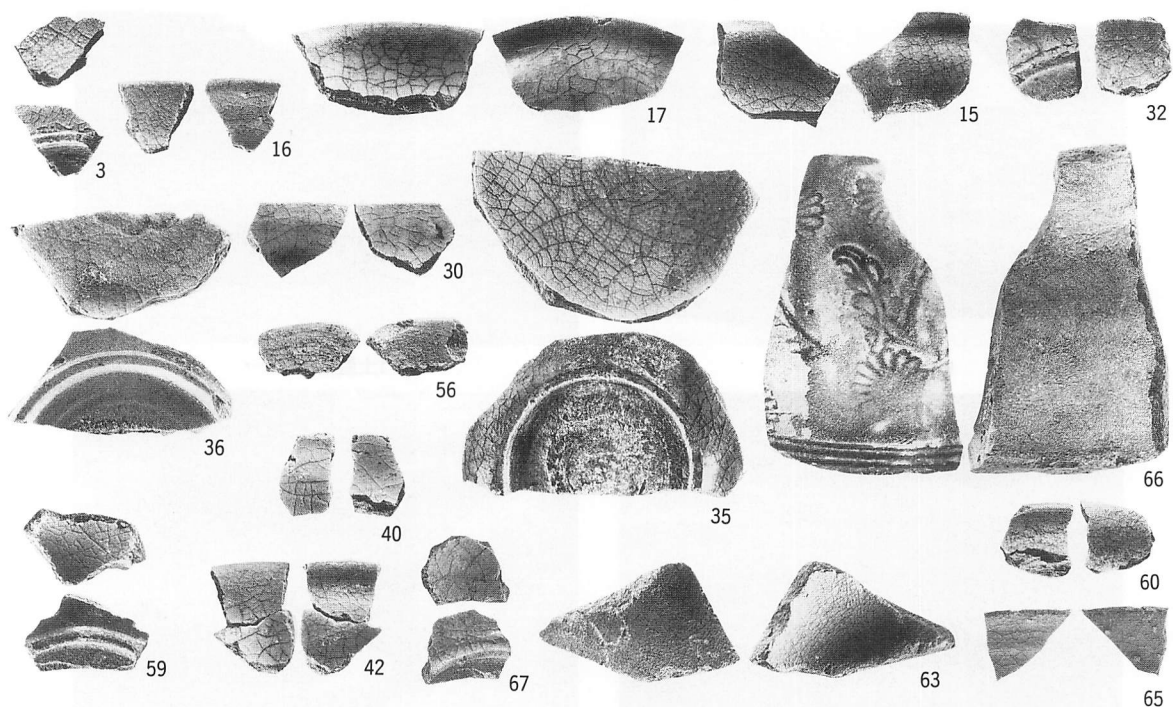


F区調査終了全景 SW→

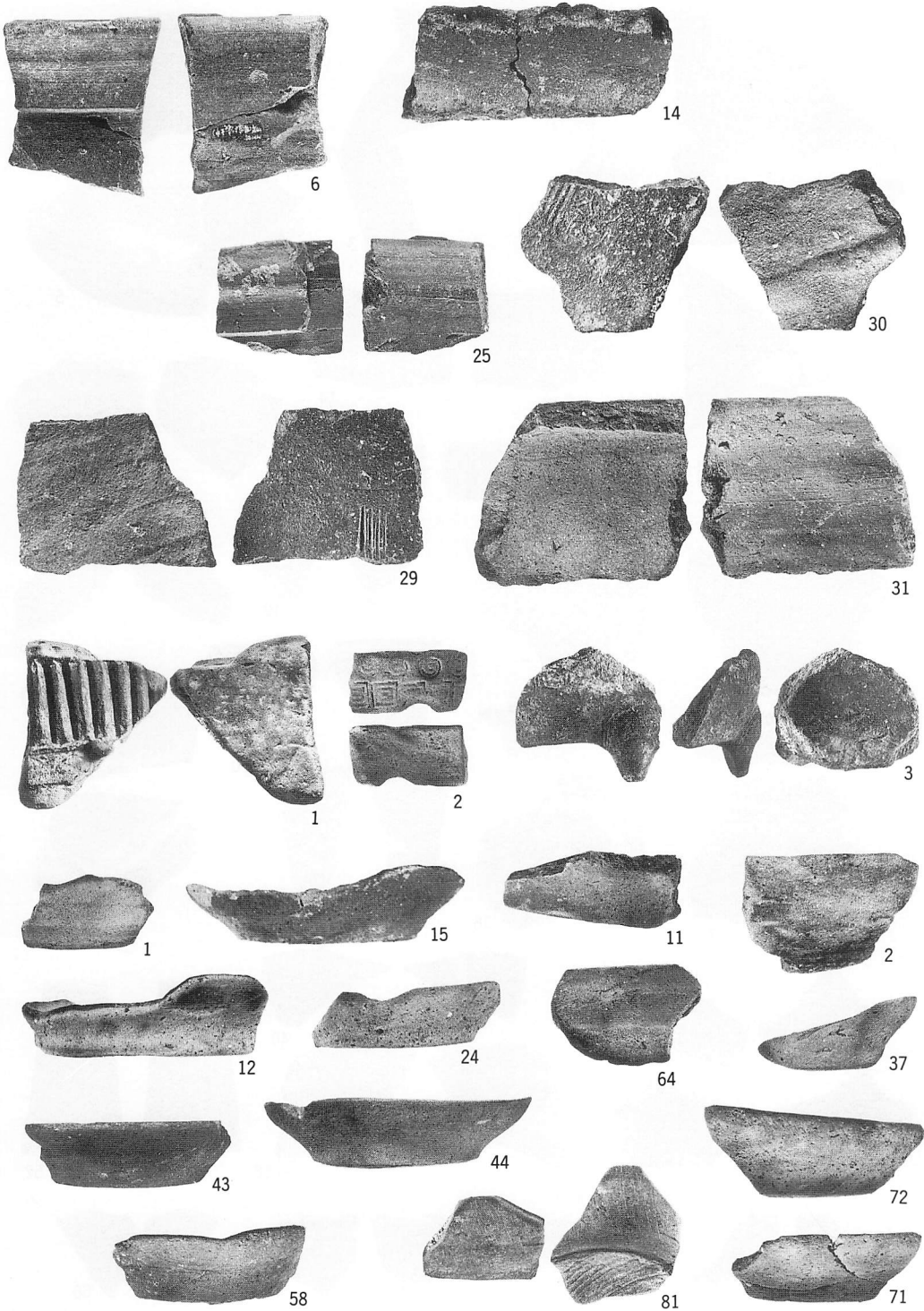


F1道路状遺構断面 SW→

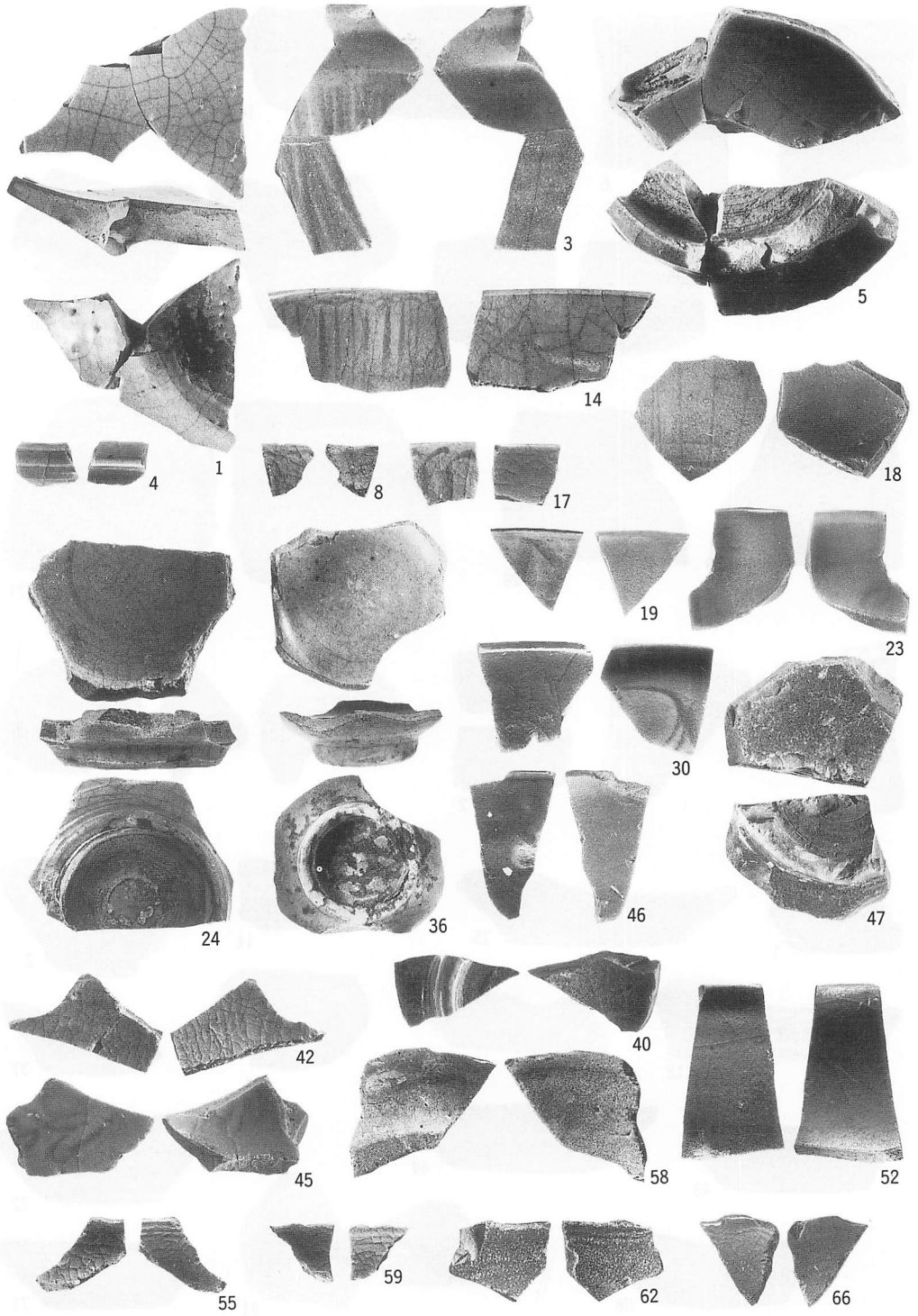
写真図版13 中世の遺構 E・F区



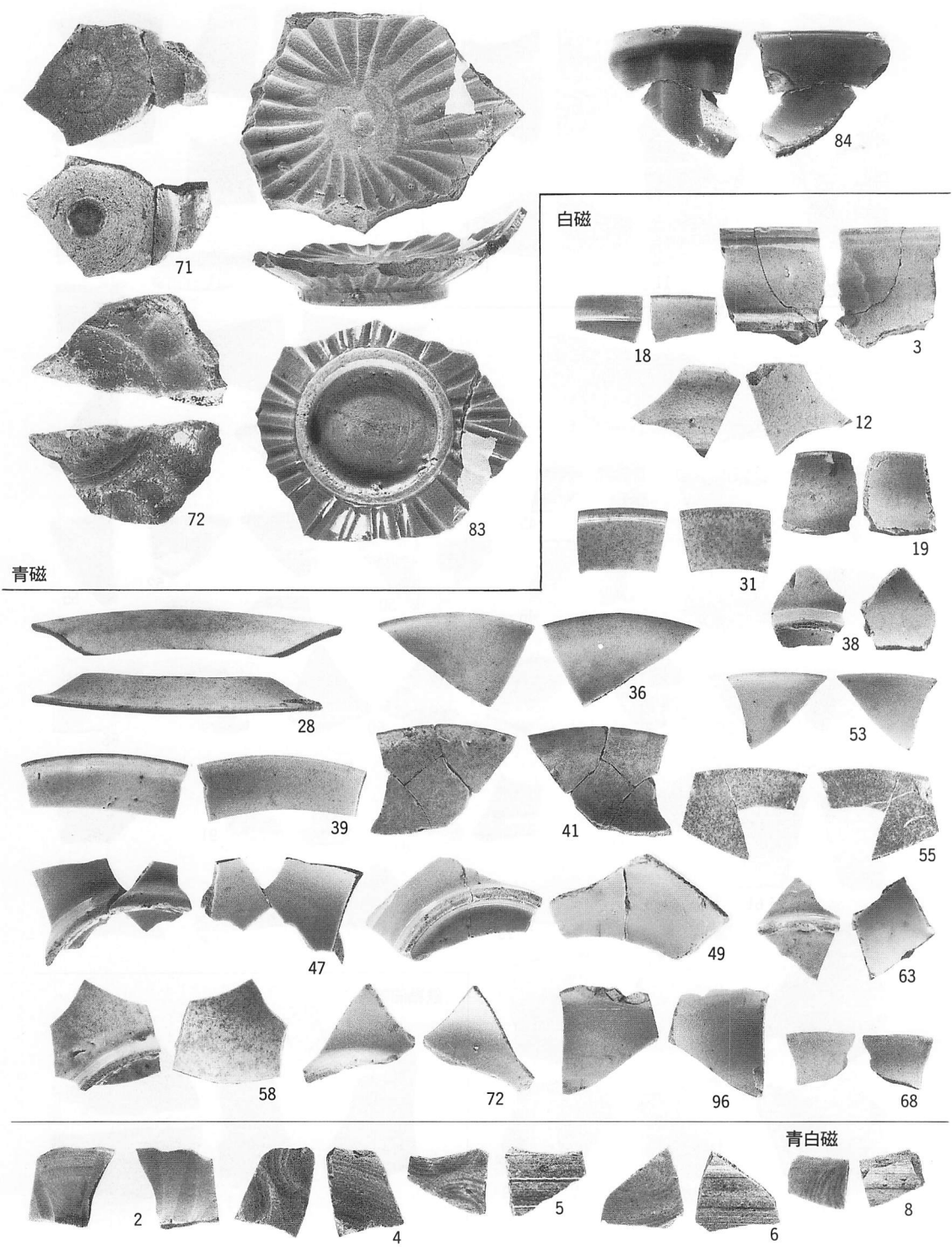
写真図版14 中世の遺物1 (瀬戸・美濃灰釉・鉄釉)



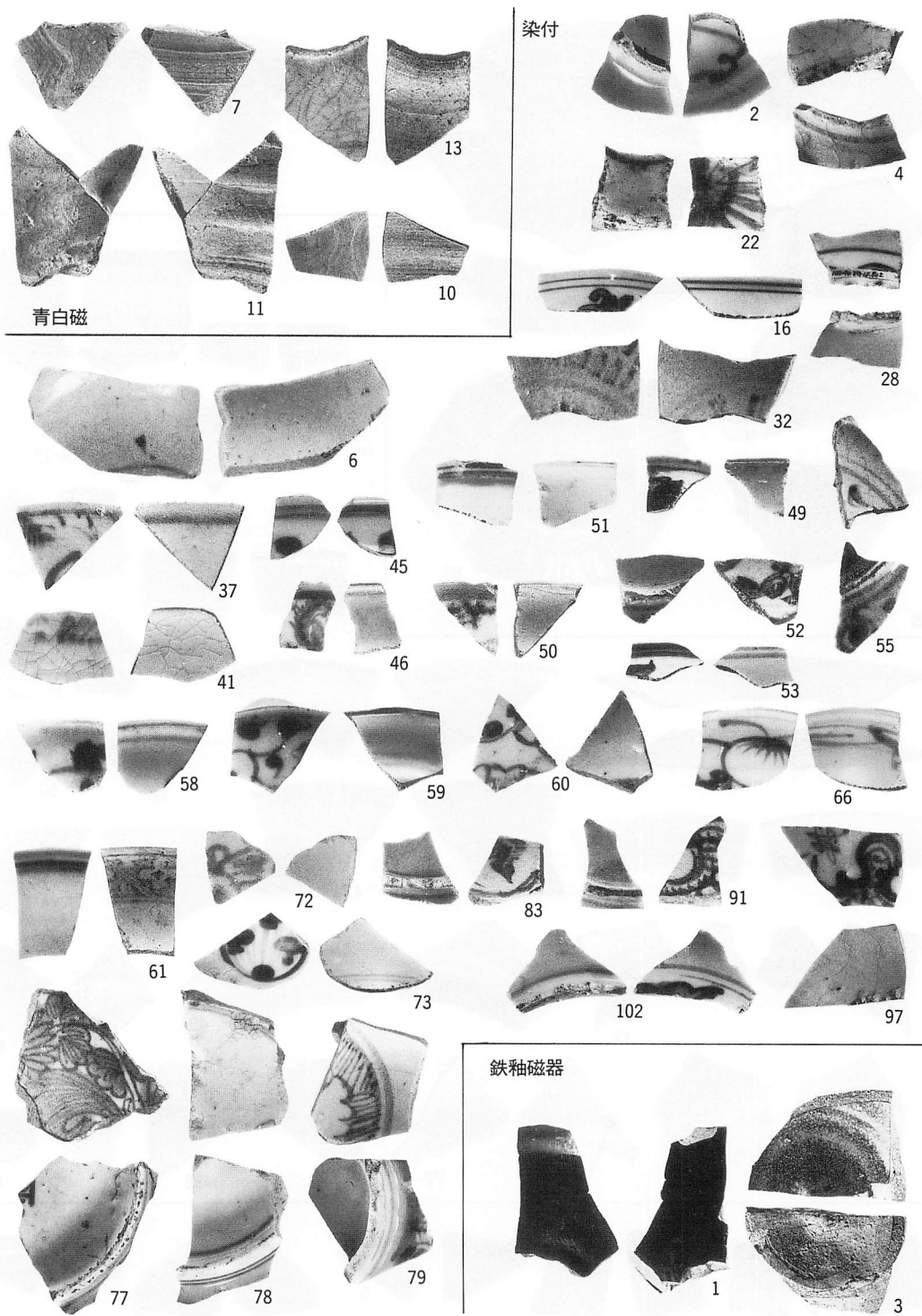
写真図版15 中世の遺物2 (常滑・瓦質・かわらけ)



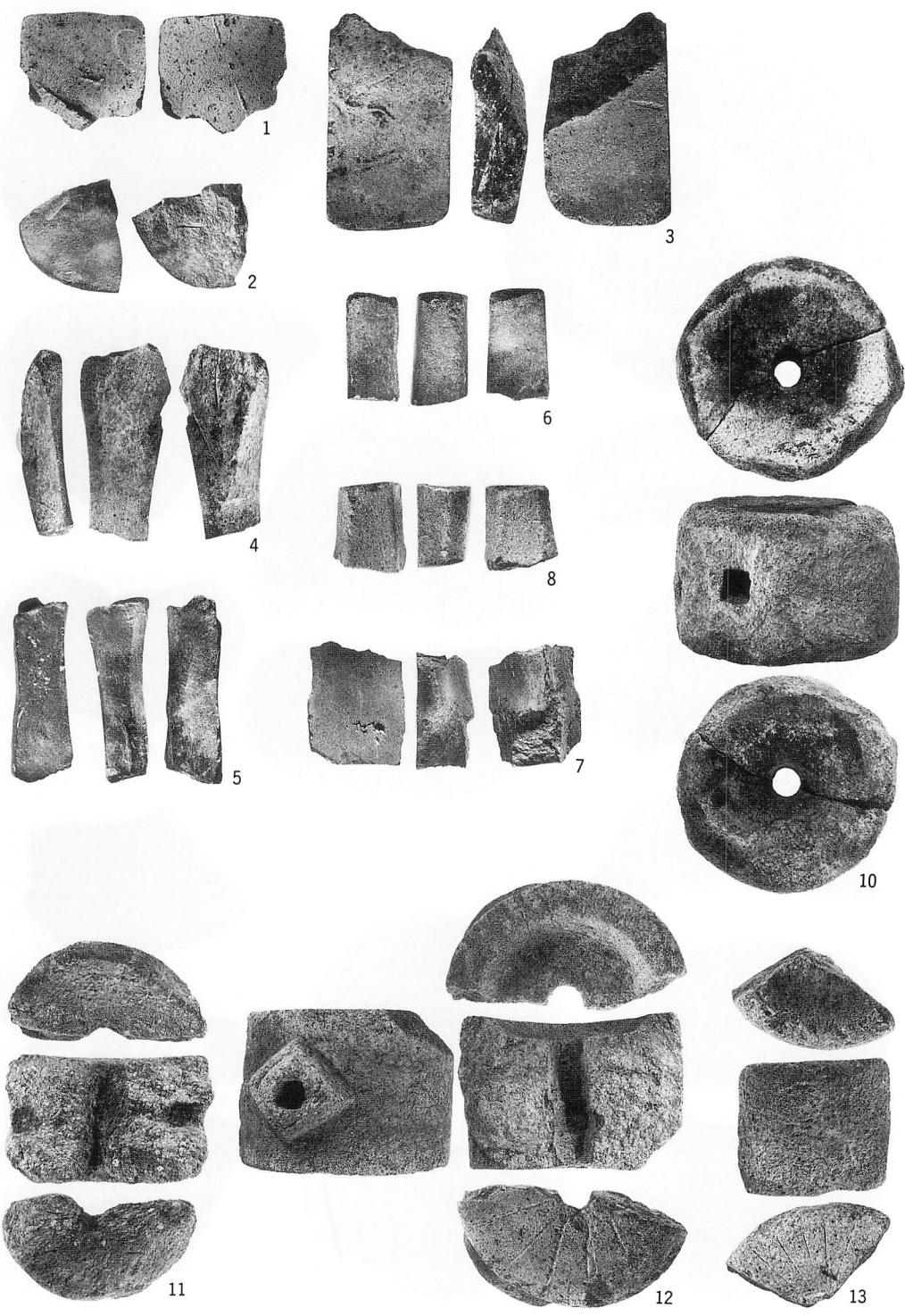
写真図版16 中世の遺物 3 (青磁)



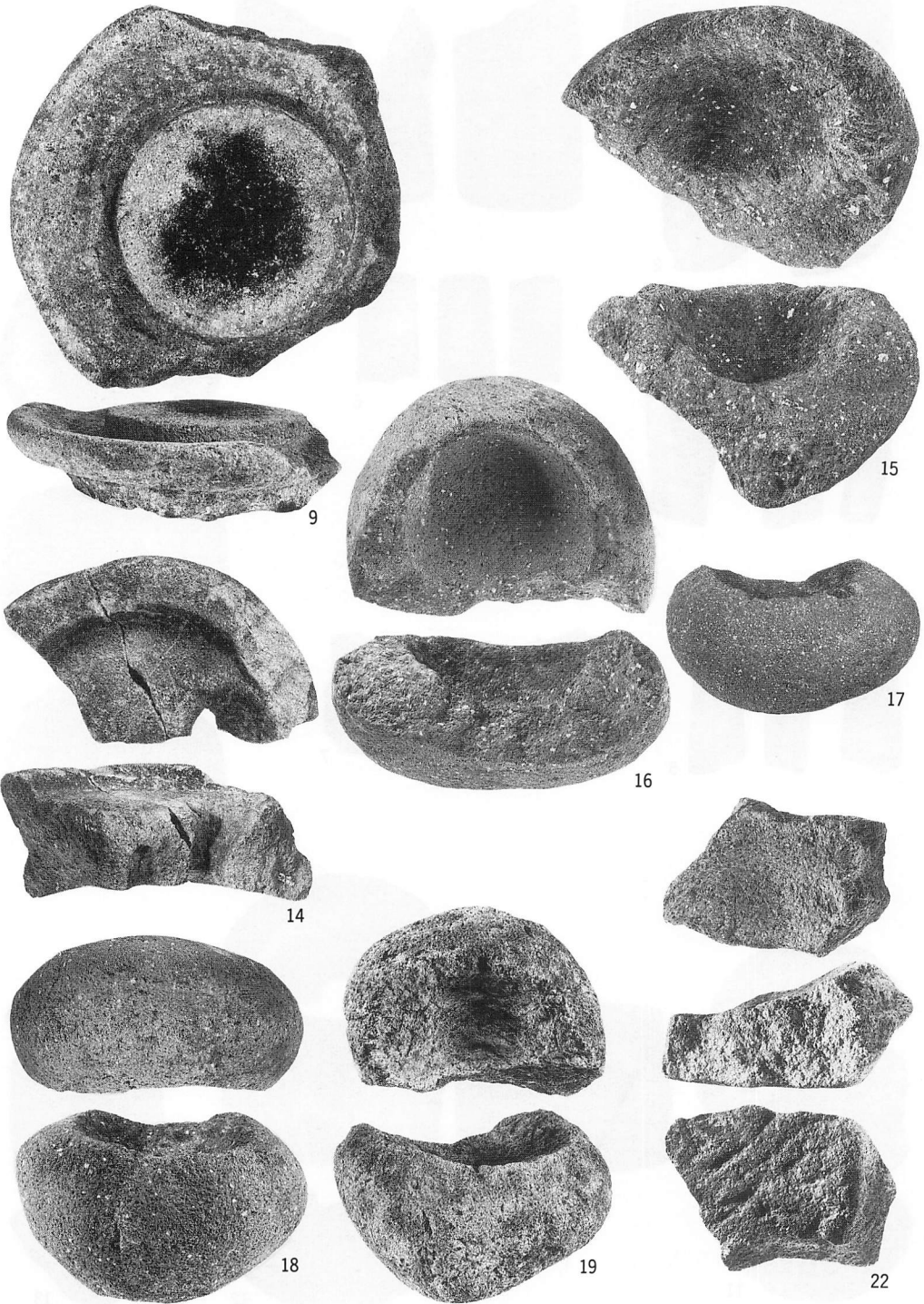
写真図版17 中世の遺物4 (青磁・白磁・青白磁)



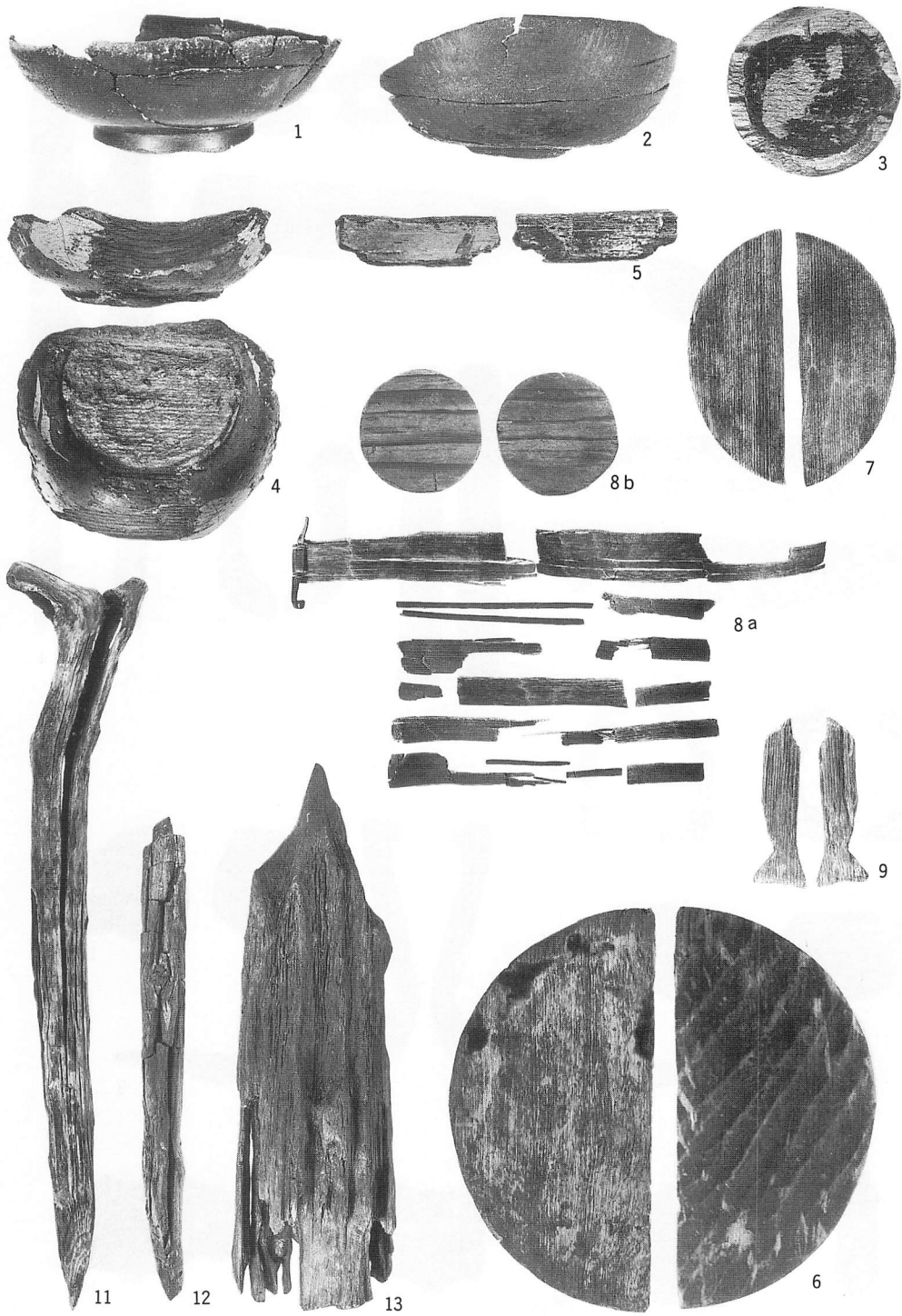
写真図版18 中世の遺物5 (青白磁・染付・鉄釉)



写真図版19 中世の遺物6 (石製品1)



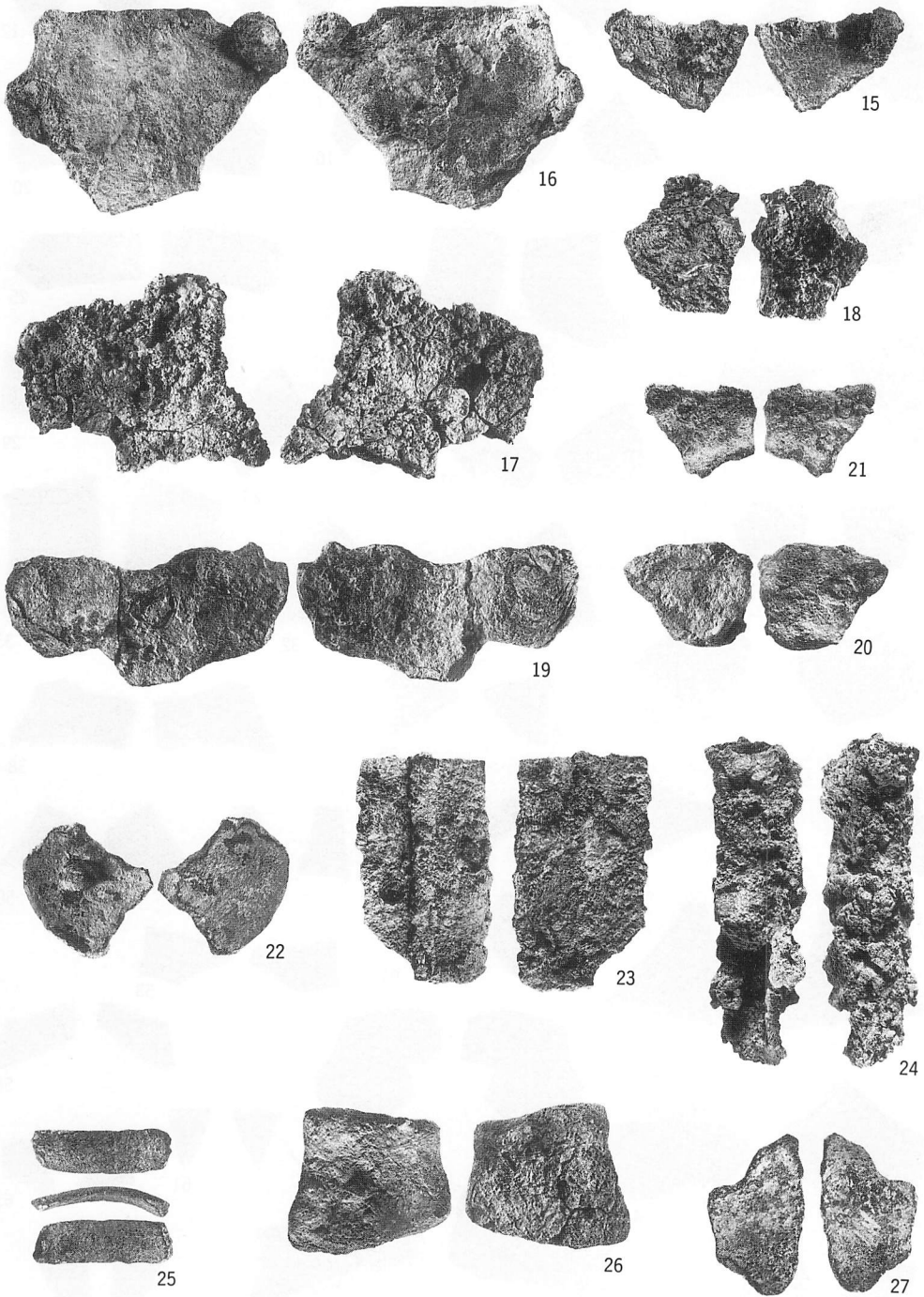
写真図版20 中世の遺物7 (石製品2)



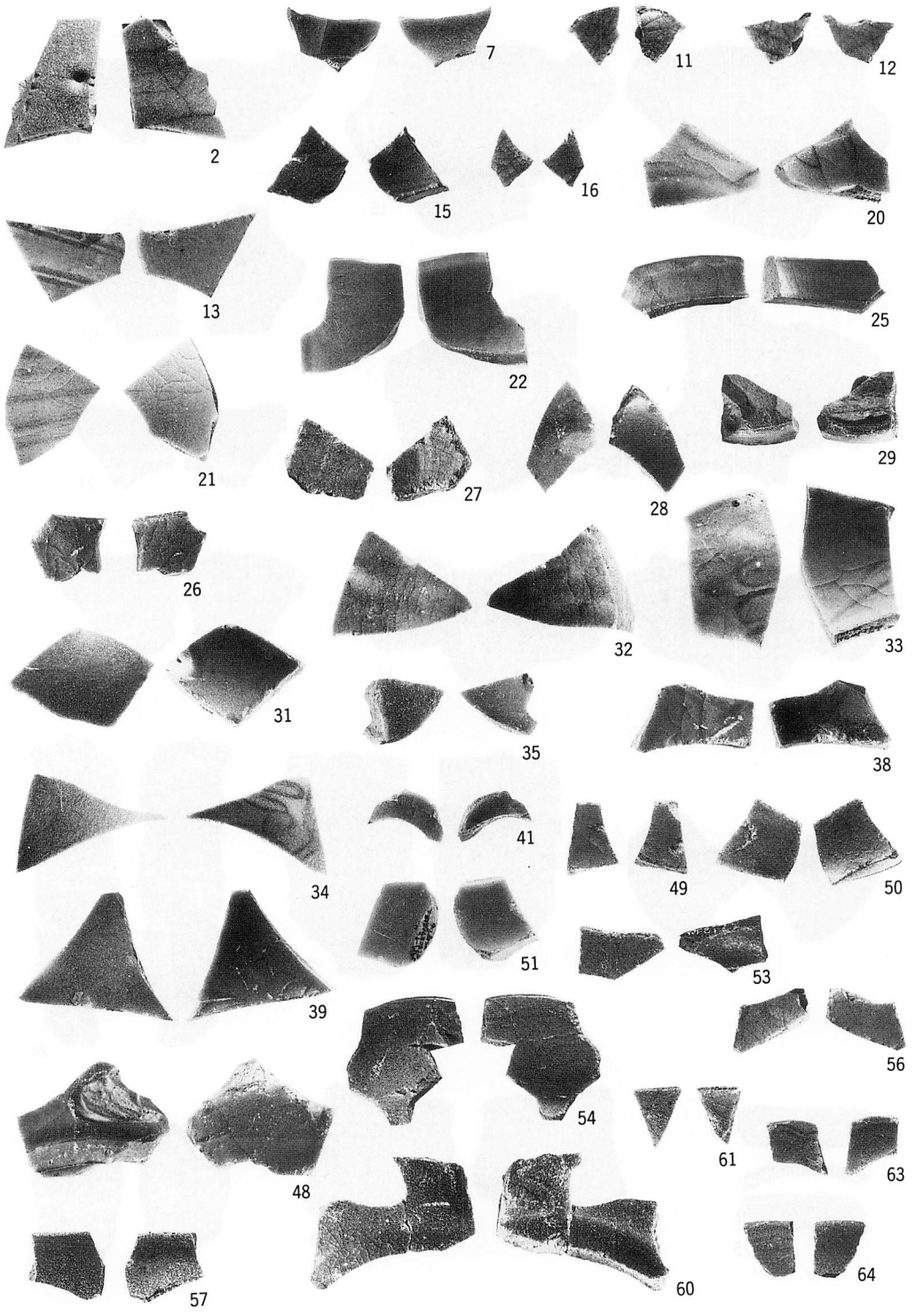
写真図版21 中世の遺物 8 (木製品)



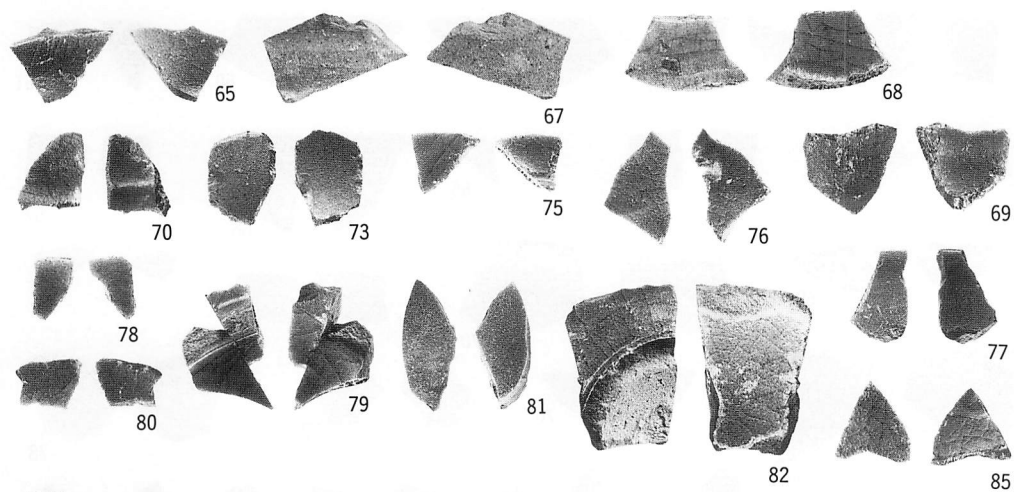
写真図版22 中世の遺物9 (金属製品1)



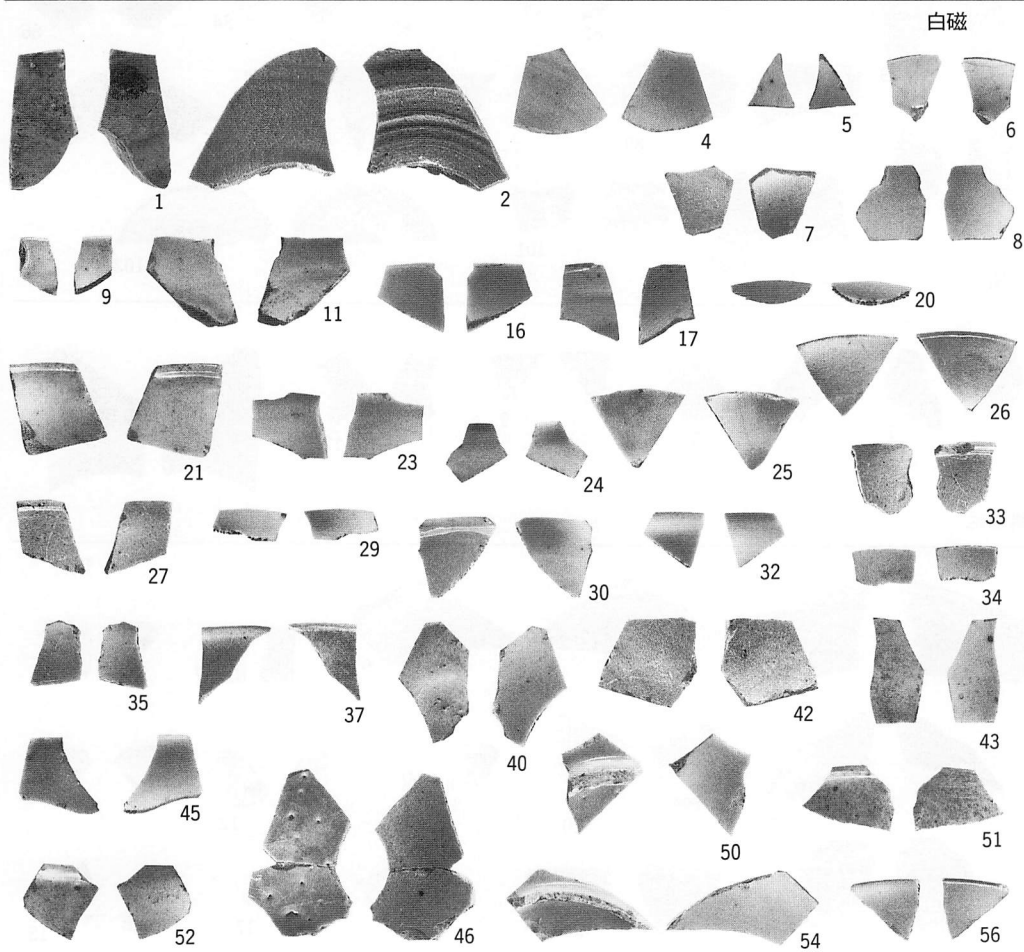
写真図版23 中世の遺物10 (金属製品 2)



写真図版24 中世の遺物11 (青磁)

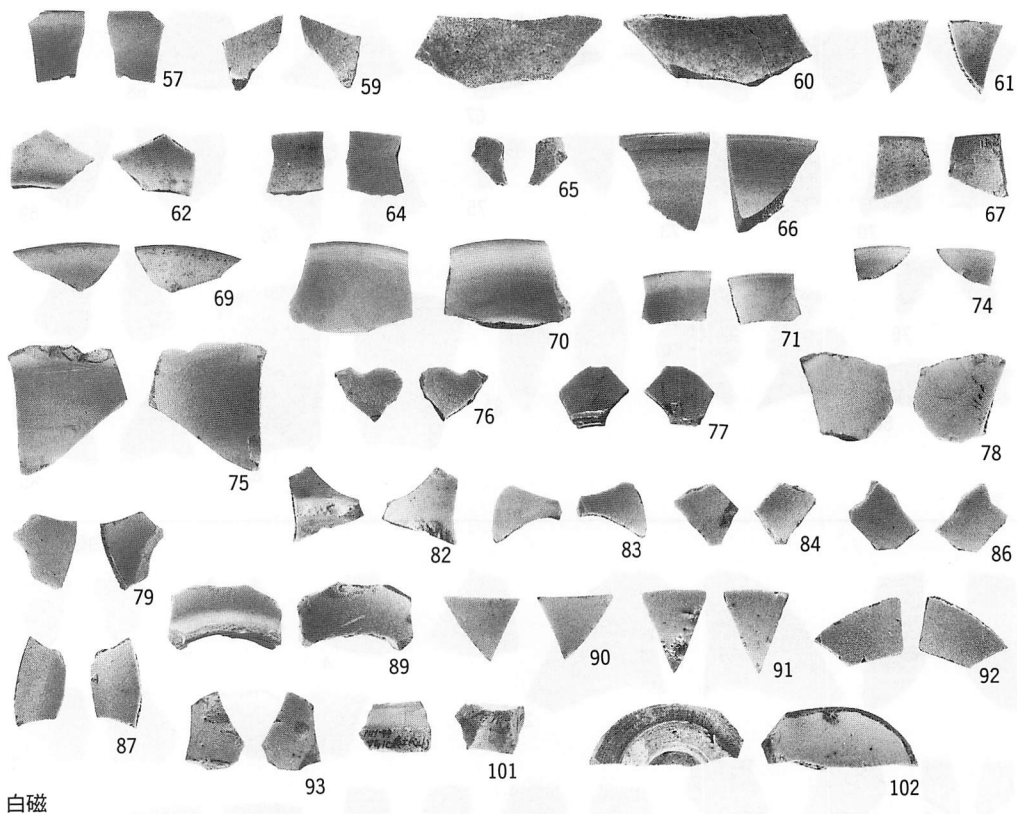


青磁



白磁

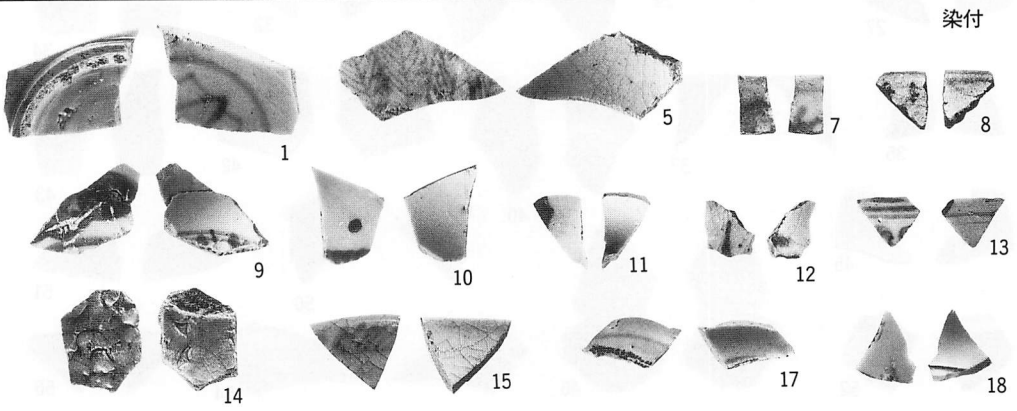
写真図版25 中世の遺物12 (青・白磁)



白磁

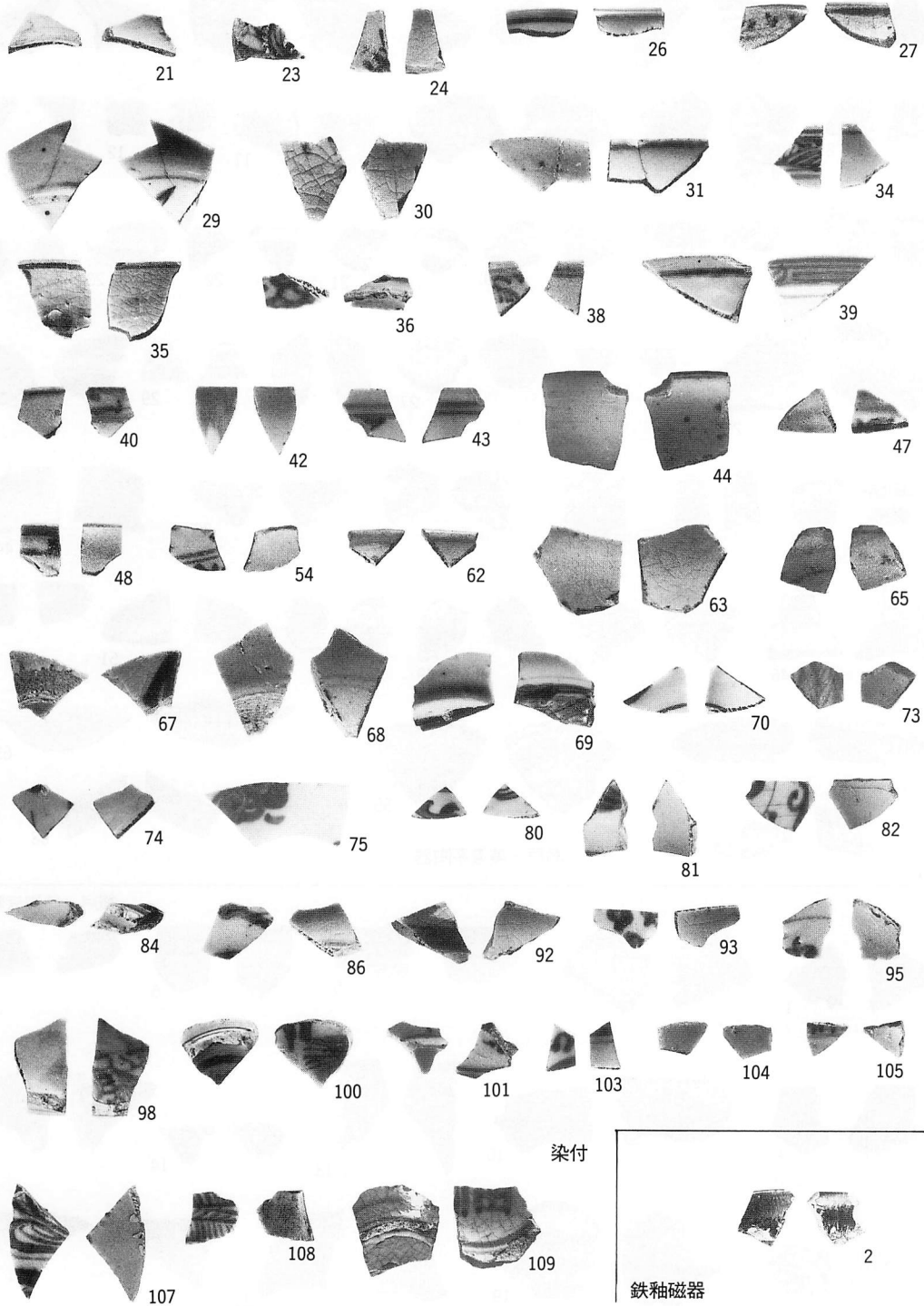


青白磁

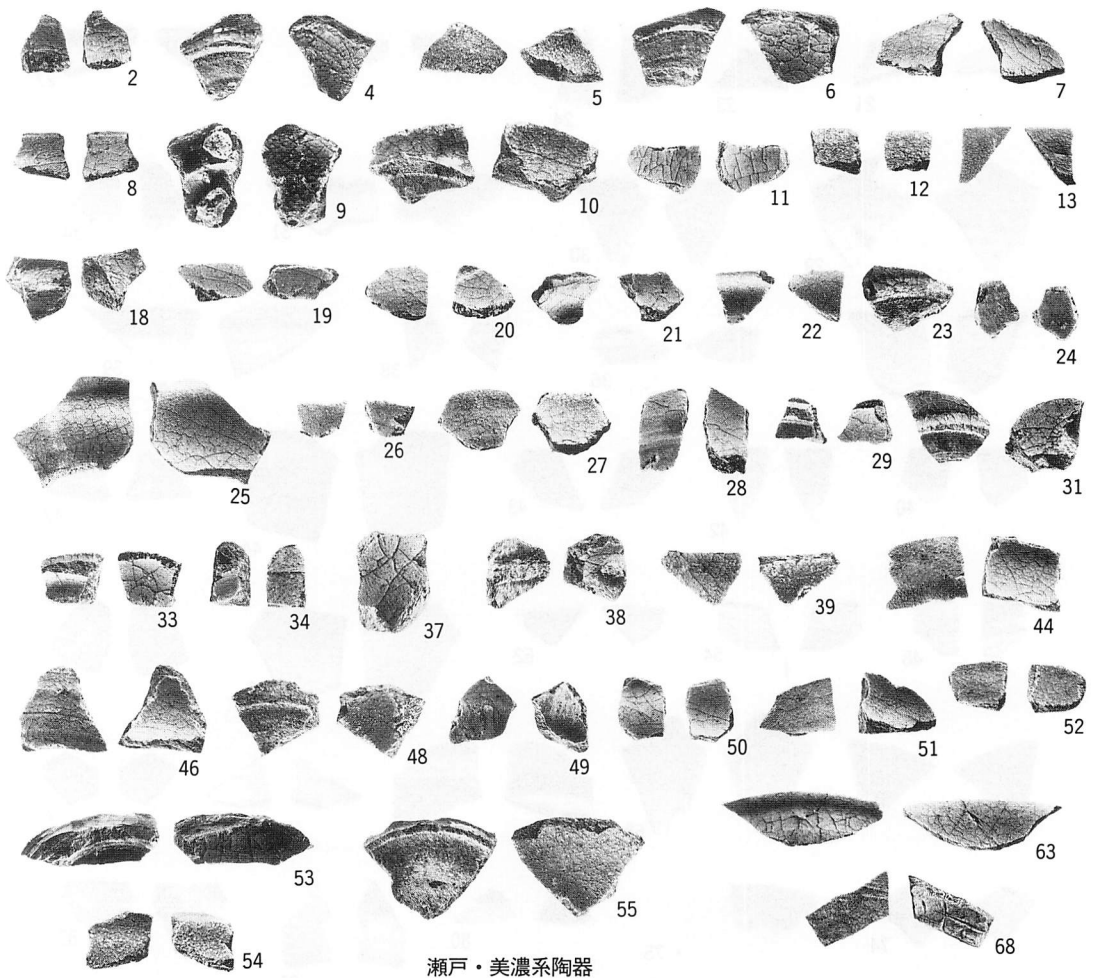


染付

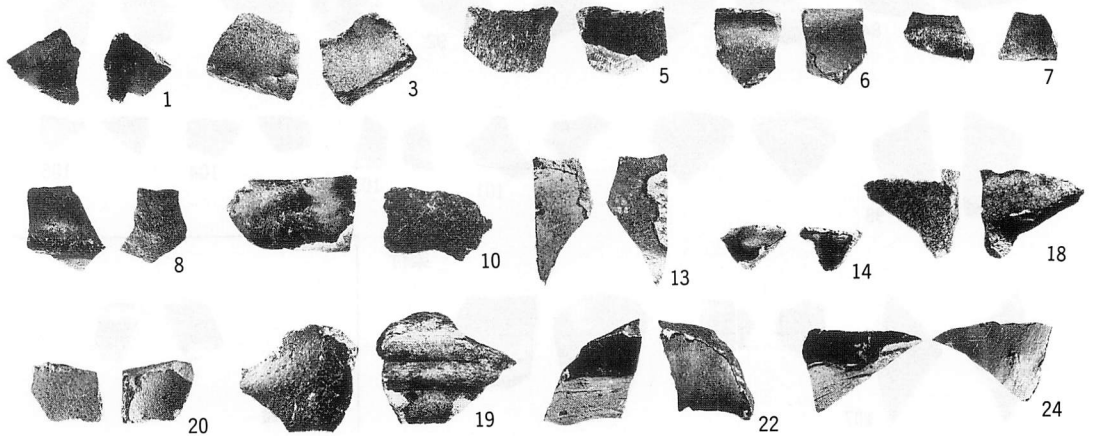
写真図版26 中世の遺物13 (白・青白磁・染付)



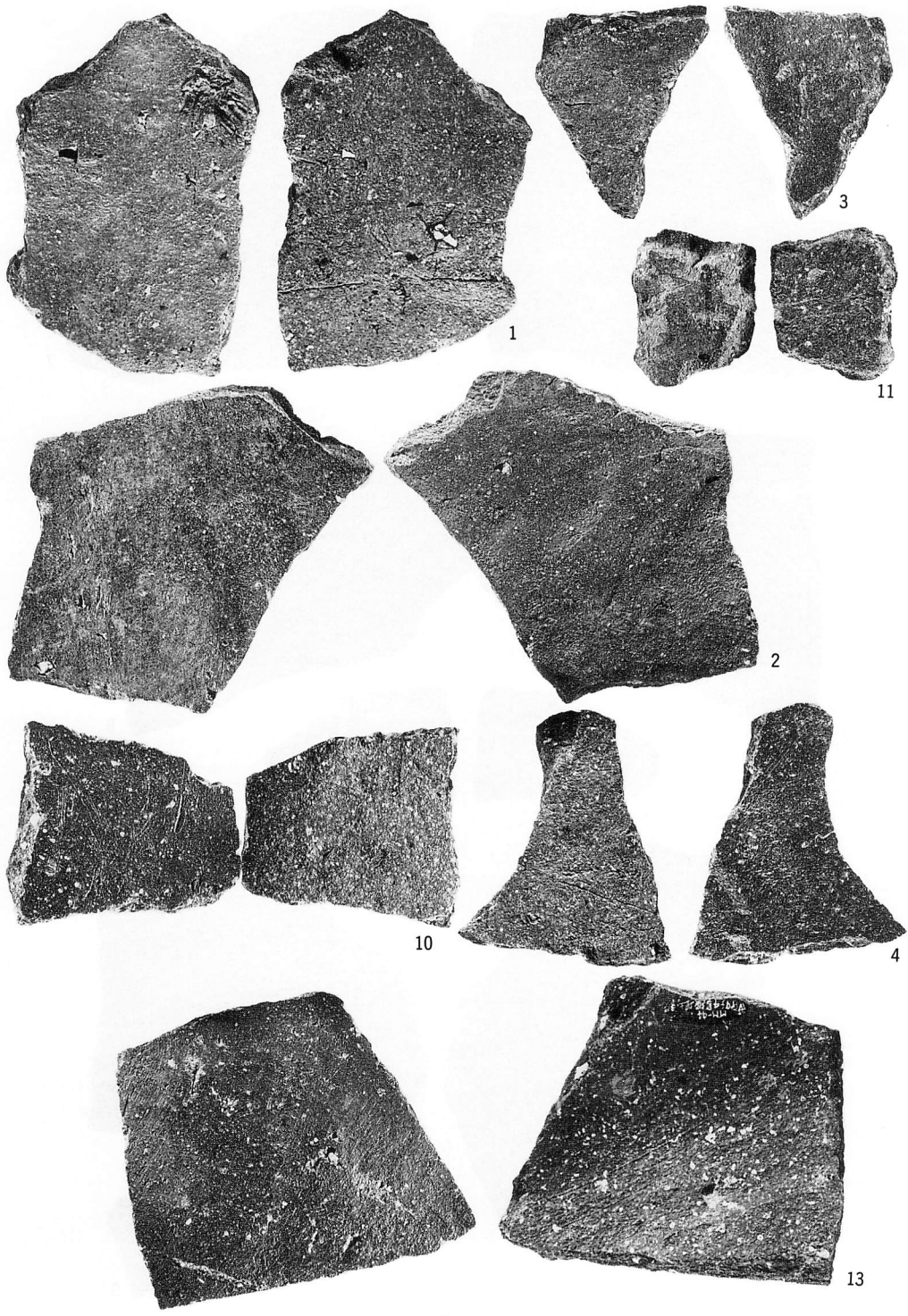
写真図版27 中世の遺物14 (染付・鉄釉磁器)



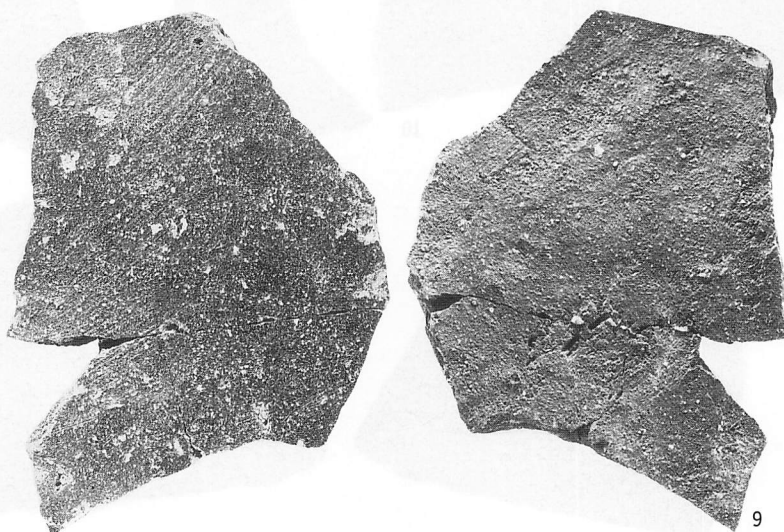
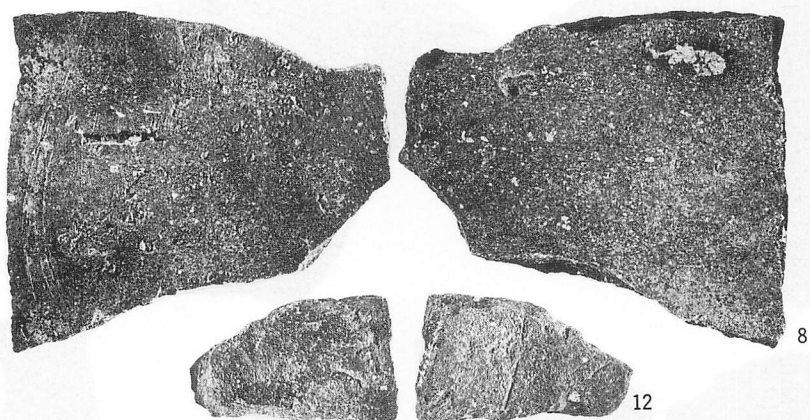
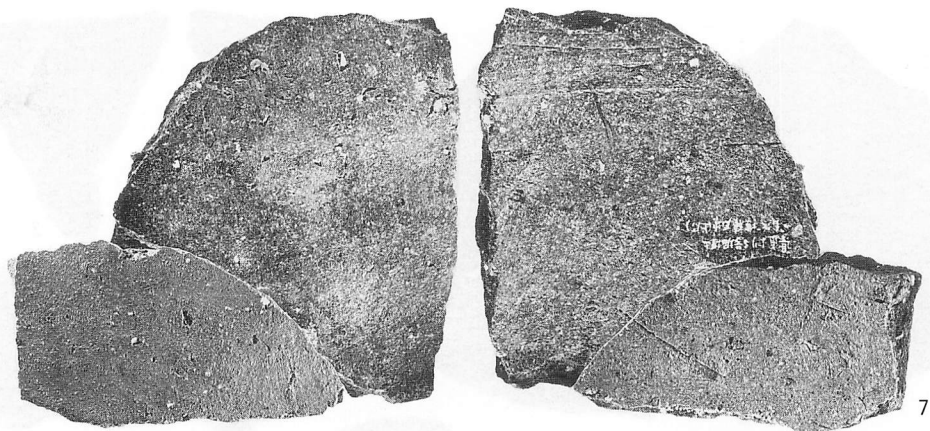
瀬戸・美濃鉄釉



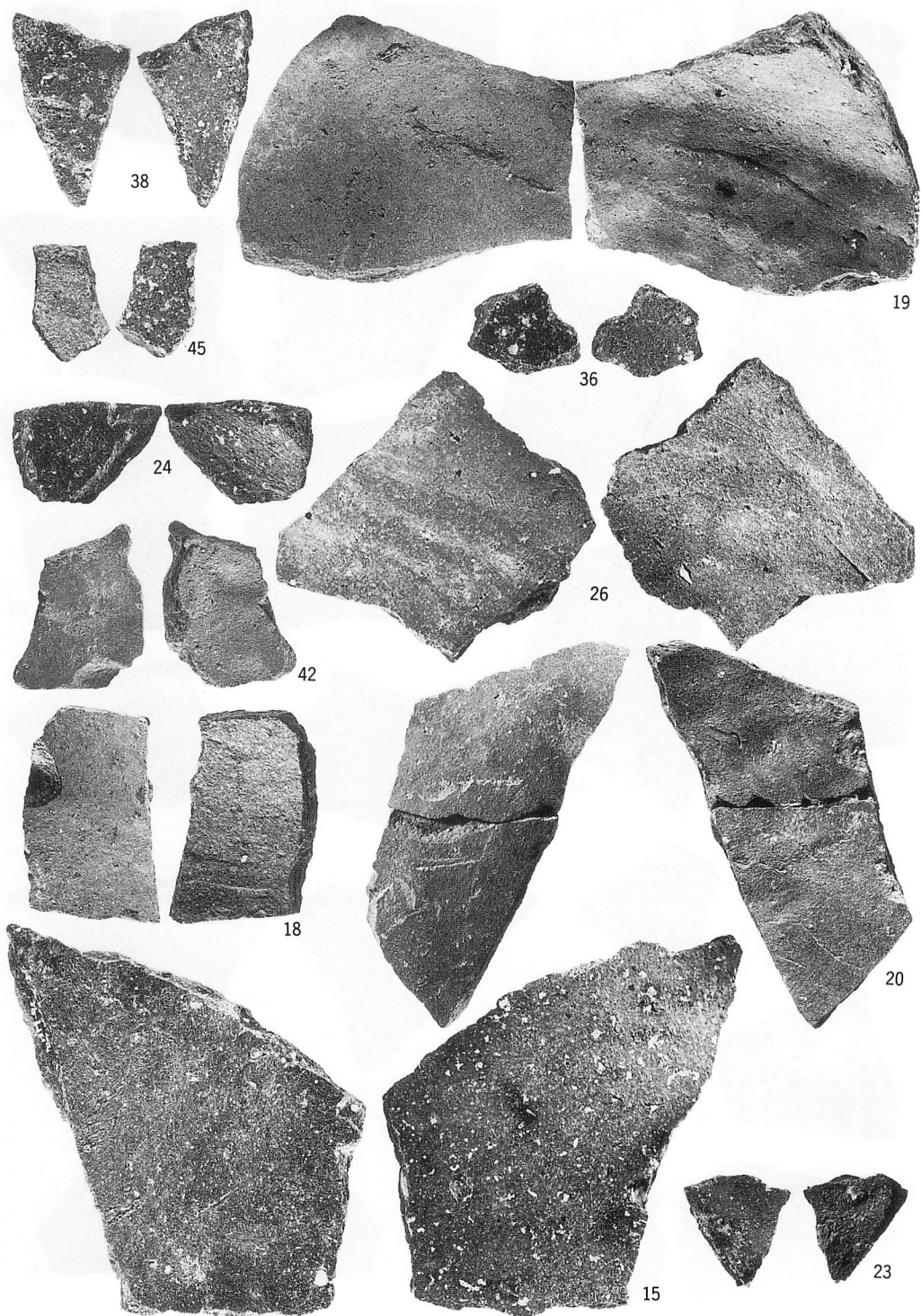
写真図版28 中世の遺物15 (瀬戸・美濃系陶器)



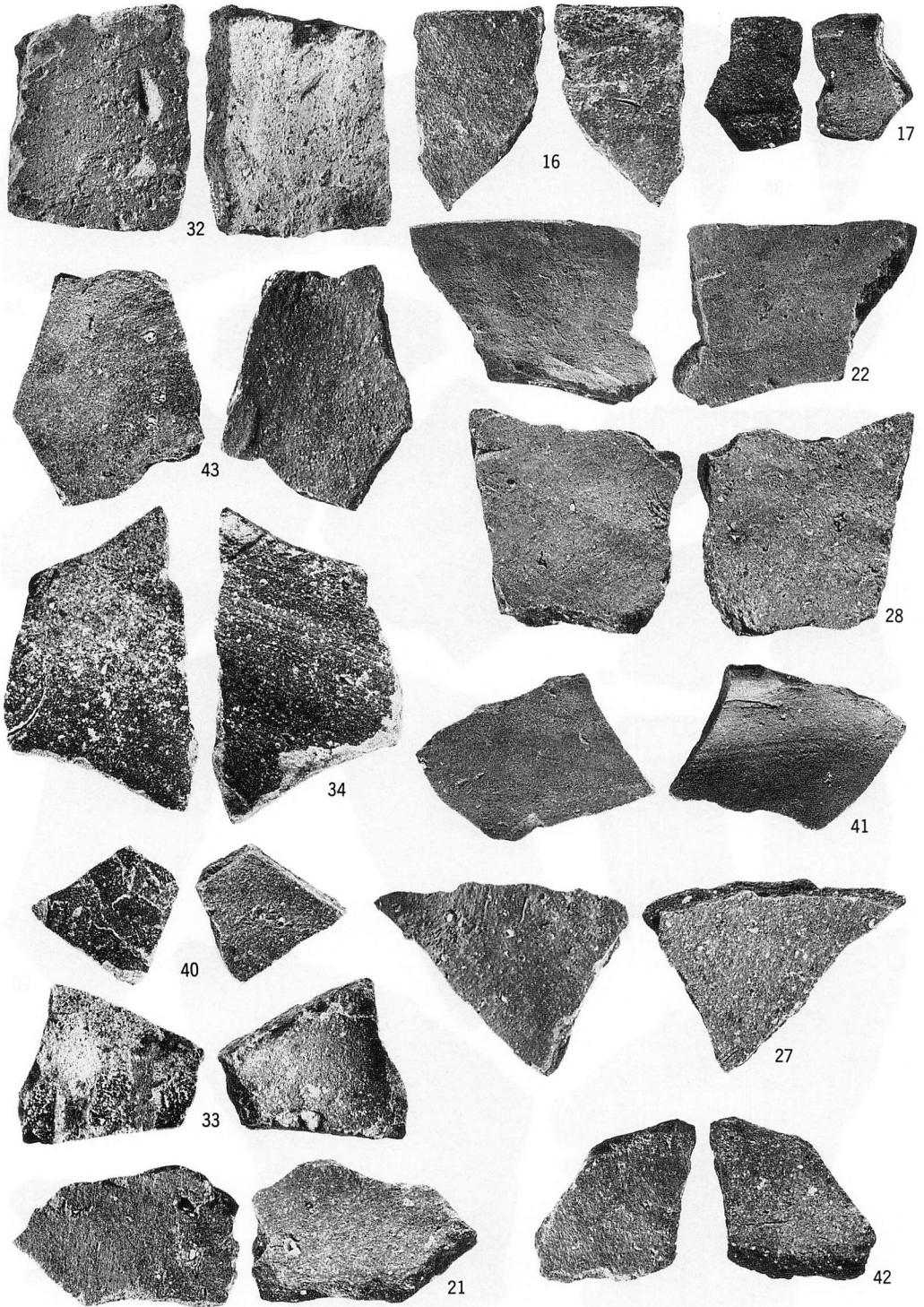
写真図版29 中世の遺物16 (常滑系)



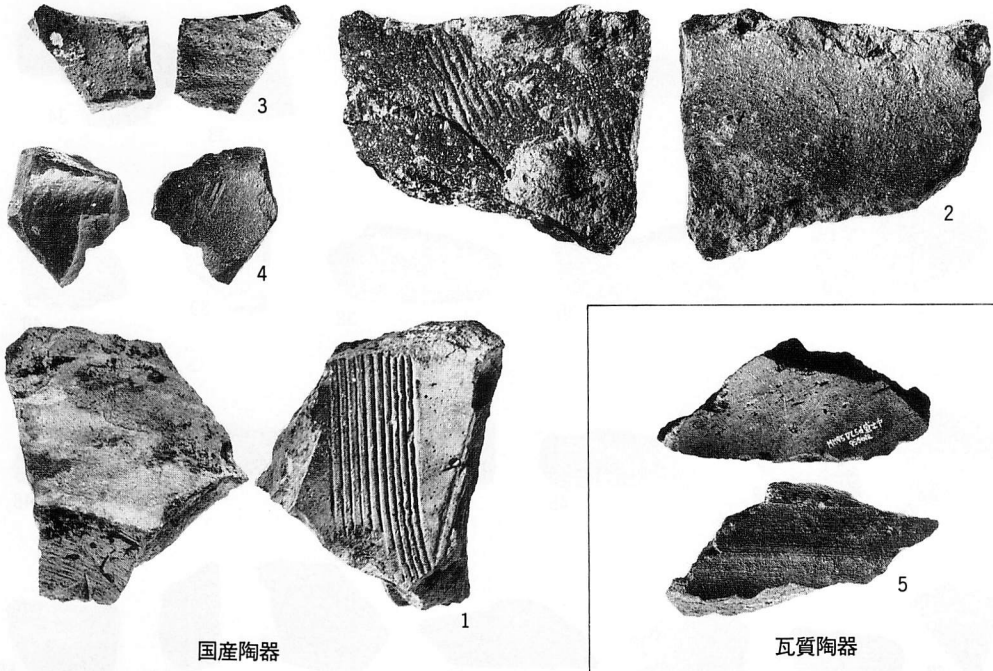
写真図版30 中世の遺物17 (常滑系)



写真図版31 中世の遺物18 (常滑系)

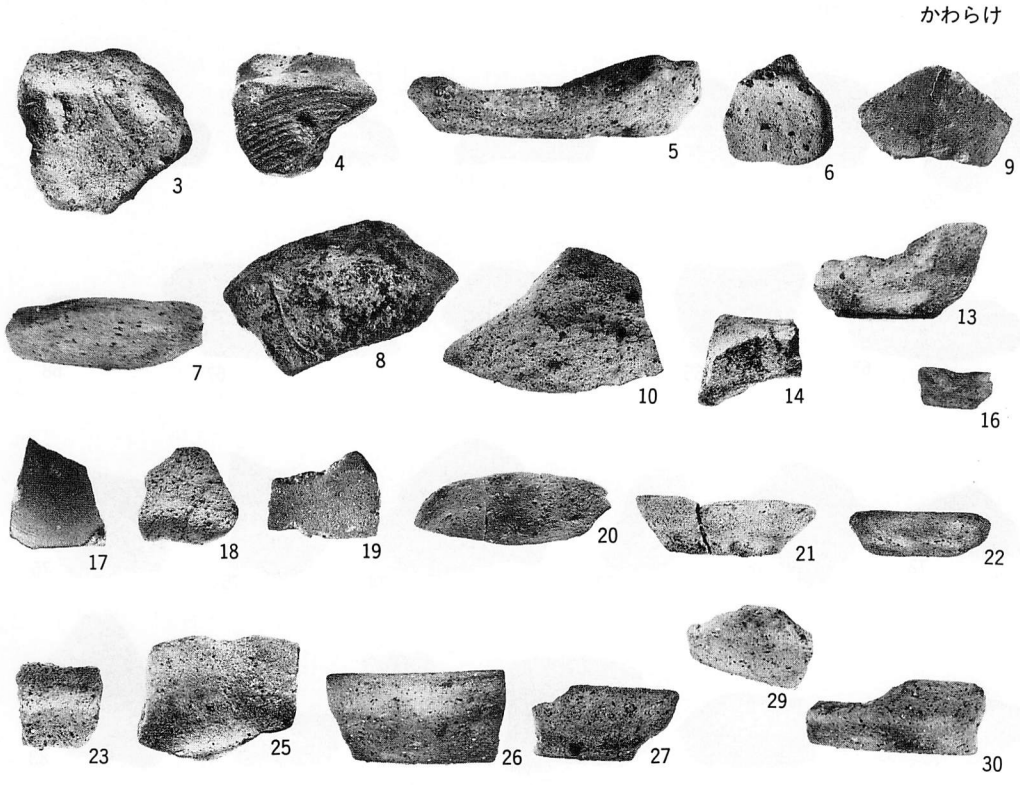


写真図版32 中世の遺物19 (常滑系)



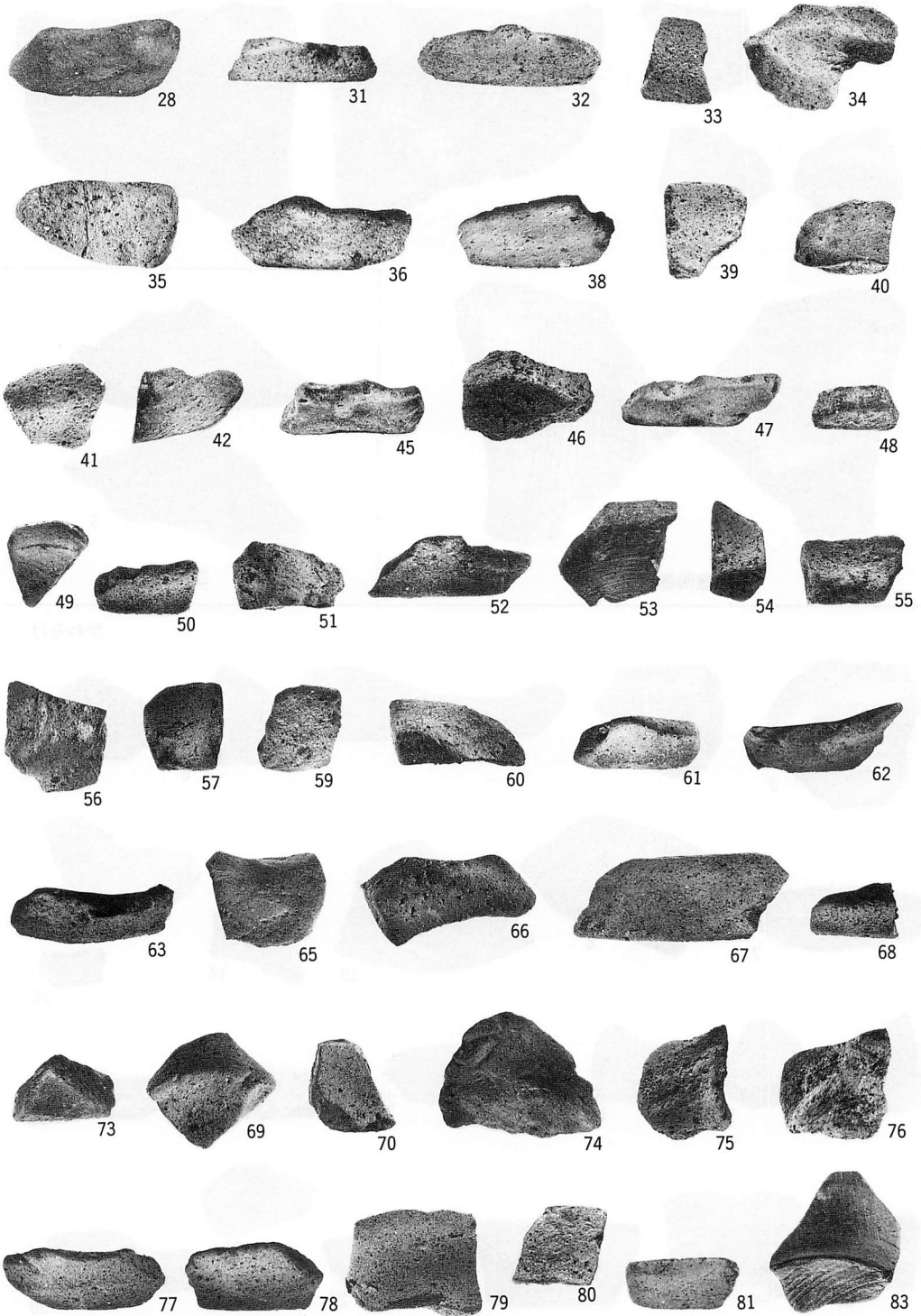
国産陶器

瓦質陶器



かわらけ

写真図版33 中世の遺物20 (国産陶器・瓦質陶器・かわらけ)



写真図版34 中世の遺物21 (かわらけ)

報告書抄録

ふりがな	まつもとたてあとはつくちようさほうこくしょ							
書名	松本館跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第256集							
編著者名	中村英俊、小山内 透							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 岩手県盛岡市下飯岡第11-185 ☎(019)638-9001・9002							
発行年月日	西暦1997年 月 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
松本館	岩手県胆沢郡金ヶ崎町永沢字松本館	03382		39度 10分 59秒	141度 05分 53秒	19930916~ 19931029 19940418~ 19941111 19950413~ 19951116	620 5,720 7,880	一般県道永沢 水沢線道路改 良工事に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
松本館	城館 集落 狩猟場	縄文時代	陥し穴	縄文土器・石器				
		平安時代	竪穴住居跡	土師器・須恵器				
		中世	平坦地(曲輪・腰曲輪・ 帯曲輪) 犬走り状平場 テラス状平場 切岸・土塁・虎口道路・ 階段状遺構・土橋・水 堀・空堀(箱・薬研) 掘立柱建物跡 竪穴状遺構 柱穴列・井戸跡・土坑・ 溝跡・柱穴	磁器類(青磁・白磁・ 染付) 陶器類(瀬戸、美濃系・ 常滑かわらけ・瓦器) 石製品(茶臼・石臼・ 石鉢) 金属器(小刀・釘・鉈) 木製品(漆器・形代・ 曲物)				

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 山 影 源 吉
副 所 長 鷹 羽 康 造

〔管理課〕

管 理 課 長 澤 田 寛
主 事 横 山 文 彦

主 任 千 葉 勝 彦

〔調査課〕

調 査 課 長 小 田 野 哲 憲
課 長 補 佐 高 橋 與 右 三 門
〃 工 藤 利 幸
主 任 文 化 財 員 中 川 重 紀
專 門 調 査 員 〃 佐 々 木 清 文
〃 〃 高 橋 義 介
〃 〃 酒 井 宗 孝
〃 〃 菊 池 人 見

文 化 財 員 羽 柴 直 人
專 門 調 査 員 〃 星 雅 之
〃 〃 高 木 晃
〃 〃 杉 沢 昭 太 郎
〃 〃 大 道 篤 史
〃 〃 溜 浩 二 郎
〃 〃 村 上 拓
〃 〃 中 村 直 美

文 化 財 員 小 山 内 透
專 門 調 査 員 〃 金 子 佐 知 子
〃 〃 松 本 建 速
〃 〃 菊 地 榮 尋
〃 〃 宮 本 節 子
〃 〃 下 田 隆 衛
〃 〃 濱 田 宏 彦
〃 〃 金 子 昭 彦
〃 〃 晴 山 雅 光
〃 〃 木 戸 口 俊 子
〃 〃 阿 部 勝 則

期 限 付 員 川 向 聖 子
專 門 職 員 〃 佐 藤 良 和
〃 〃 篠 根 敬 志
〃 〃 柴 田 慈 幸
〃 〃 鈴 木 浩 二
〃 〃 鈴 木 聡 央
〃 〃 高 橋 実 央
〃 〃 千 葉 和 弘
〃 〃 平 澤 里 香
〃 〃 山 口 俊 規
〃 〃 山 下 浩 幸

〔資料課〕

資 料 課 長 菊 池 強 一
文 化 財 員 伊 藤 拓

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 256 集

松本館跡発掘調査報告書

印刷 平成 9 年 3 月 21 日

発行 平成 9 年 3 月 31 日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020 岩手県盛岡市下飯岡 11-185

TEL (019) 638-9001

印刷 山口北州印刷株式会社

〒 020-01 盛岡市青山四丁目 10-5

TEL (019) 641-0585

© 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996